

英語 I			
教養科目/2単位/1年前期開講/スクーリング授業			
日 時	1日目 令和3年5月15日(土) 9:30~18:20 2日目 令和3年5月16日(日) 9:30~18:20 3日目 令和3年5月22日(土) 9:30~18:20 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年5月7日(金) 必着	該 当 時間割	B
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス (岡山県岡山市北区岩田町 2-5)		

■ 担当教員	平見 勇雄
■ 使用テキスト	テキスト：基礎英文法とリーディング演習 著 者：北山長貴/マーガレット山中/福井慶一郎 出 版 社：成美堂 出 版 年：2008年1月20日 I S B N：978-4-7919-4630-3
■ 参考テキスト	総合英語 able 第一学習社

講義概要・一般目標

主な内容は英文法の復習と語彙力の強化である。英文法は、英語での自己表現に最小限必要な文法事項を中心に、練習問題を解いたり、課題英作文や自由英作文に取り組んだりすることで、中学・高校とで習った文法の復習をしていく。また、学生同士のペアワークとして、コミュニケーション練習なども行う。語彙については、大学生の日常生活に結びついた身近な語を多く取り上げる。

到達目標

最低限の文法内容を知ることが到達目標とします。高校までの内容を再確認し、これを応用的に使えるように反復して学修し、社会人として恥ずかしくない英語の知識、教養として英語を習得することを目標とします。

評価方法

科目単位認定試験と授業中の発表を合わせて評価します。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

テキストの基本の問題だけは解いてきて下さい。スクーリングで初めて内容を復習するのではなく、事前に自分でやったことを再確認するためにスクーリングに来て下さい。わからないことがあれば授業で質問していただくことが一緒に受講している学生のためにもなります。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

スクーリング終了後は、もう一度習った内容を自分で解いてみることをお勧めします。そこで間違ったら内容を再度検討し、スクーリングで推薦した参考書等にあたって理解して下さい。あとは実践として、興味あるやさしい英書等を読まれることをお勧めします。

〔フィードバック〕

スクーリング最終時間で講義（授業）全体に対するフィードバックを行いません。

学 修 指 導

1 日 目	講義 1	日本語と違って名詞にはいくつかの種類があることを復習します。
	講義 2	日本人には難しい冠詞の基本を復習します。
	講義 3	翻訳の影響で日本語でも今では多く使われる代名詞ですが
	講義 4	この代名詞を講義 3 と 4 の 2 回に分けて総復習します。
	講義 5	基本的な時制の特徴について説明します。
2 日 目	講義 6	助動詞の基本を復習します。
	講義 7	講義 6 の助動詞ほどは頻繁に出てこないものを概観します。
	講義 8	能動態、受動態の復習をします。面白い例文もご紹介します。
	講義 9	不定詞の意味から解説し、同時に品詞についても考えます。
	講義 10	講義 9 をさらに深く学習します。
3 日 目	講義 11	比較級の総復習をします。
	講義 12	関係代名詞の基本を復習します。
	講義 13	関係副詞の復習をします。
	講義 14	仮定法の基本を復習します。
	講義 15	仮定法の応用をやります。
	講義 16	科目認定試験（上記から大切なポイントを選び試験します）

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

中学、高校を通して英語が苦手だった学生、および高校、大学で英語を勉強してからずいぶんと時間が経っている学生は中学の参考書（本屋に行って自分が使いやすいと思うもので結構です）を購入し、基本的な文法事項の予習（見直し）をやっていただきたいと思います。以下のその他を参照して下さい。2日目、3日目のことは初日に指示します。

〔準備するもの〕

辞書を持ってきて下さっても構いませんが、講義の間に使うことはありませんのでノートだけで結構です。あとは初日に下記の範囲のところの予習をやってきて下さい。

〔その他〕

名詞、冠詞、代名詞、時制のところを見てきておいて下さい。予習が出来るように教科書をお早めにご購入下さい。

英語Ⅱ

教養科目／2単位／1年後期開講／テキスト授業

■ 担当教員	平見 勇雄
■ 使用テキスト	テキスト：文法・単語で学ぶやさしいパラグラフ・リーディング 著者：ブライアン ポール/ケネスケンドリック/古川希久/信田勇 出版社：南雲堂 出版年：2007年1月24日 ISBN：978-4-523-17564-3 C0082
■ 参考テキスト	特に指定はありません

講義概要・一般目標

自宅で勉強するということは教科書が、学修者にやる気にさせる内容のものであること、あまり難しい内容だと途中で挫折するという恐れがあるため何とか読みこなせるものであること、さらに学修者によって実力はまちまちであるからある程度の実力の幅をカバーするものであることが望まれる。

このWhat a Storyはそういった課題を満たしてくれる教科書である。実力のない人でも辞書を丹念に引いて内容を取っていきこうとすれば何とか読んでいけるレベルの英文である。実力のある人なら収録した話をCDで聴いて、その内容を把握してから問題を解いてもいいし、シャドウイングをやるレベルとしてもちょうどいい程度の難易度である。執筆者は学修者がおもしろくてためになる教材ということで、意外性のある実話をもとに書き下ろしてある。したがって楽しみながら学修できます。

章は10章に分かれていて、半期分を念頭に作成されているので挫折するほどの量ではない。そういった意味でも実力のあまりない者でも何とかついてやっていけるだろうし、実力者も使いようによって平易なレベルと感じられない使い方ができるだろう。「不思議の国のアリス」「タイタニック号の沈没」や「トロイ遺跡を発掘したシュリーマン」の話からあまり知られてはいないが非常におもしろい話までトピックも多彩である。英語を学修すると同時に雑学としての教養の大切さに気付き、自然と英語以外の内容に興味を持つようになるだろう。

ごく標準的な英語学修、すなわち辞書でわからない単語を引き、文型を見抜き、それに沿って内容を把握して行くやり方を身につければ（あるいは再確認できれば）、自分で学修する習慣、どのように今後英語を勉強したらよいか、そのコツをつかむきっかけが与えられよう。それができれば基本としての英語の勉強方法がマスターできたと言ってよい。教科書を使う方法さえ間違えなければ実りある英語学修が自分で出来るので是非集中してやっていただきたい。

到達目標

長い間英語から離れていた人でも、辞書を引きながら、大体的内容がつかめる教科書を選んでいきます。したがって自宅学修するには最適の教材です。とにかく基本的な文法、単語を覚えていただいて、やさしい本なら取り組めるくらいの実力をつけるのが目標です。

評価方法

科目単位認定試験により評価します。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

・まずはわからない単語を辞書で引く癖をつけていただきたいと思います。(出来ればペーパーの辞書がよい。) その上で文型を考えながら前後の意味が通るように訳をしていって下さい。
最初は戸惑うかもしれませんが、根気よくやればやり方や文の形式が見えてきます。

- ・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

本書の最後のページにこの本の自習方法が掲載されている。ごく簡単に書いておくと、物語を通読し、声に出して読み、まずは前後関係からわからない語の意味を推測しながら読んでいく。大体の内容が把握できたら Practice の設問をやってみる。その次に文法、語法の練習問題を本文を見ないで解答を試みる。次に単語の問題についての注意があり、最後にヒアリングの力を高めようという人のためのアドバイスもあるので、教科書を買ったら、まずは掲載されている本書の自習法に目を通し学修を始めて欲しい。ただしやり方に疑問を持つ人はまず自分が一番やりやすいと思った方法を試してもよい。何より楽しみながら学修することが長続きの秘訣であるのでアドバイスは参考にしながらも、最終的には自分なりのアレンジも試してやってみたい。

〔テキストの解説と学修のポイント〕

CHAPTER 1 分詞や受身を復習します。分詞は英語の基本をマスターする上で大変重要な文法事項の一つです。これをマスターしないと文型が把握できないことも多く英語がある程度以上のレベルには達しません。分詞構文で難しいところもありますが是非この機会にこれまでの復習を兼ねて参考書等を丹念に見ながら勉強してみてください。

CHAPTER 2 慣用語法、派生語、略語などが出てきます。慣用表現は覚えていなければどうにもならないため、出来るだけ多く暗記するしかありません。また多く覚えると表現力も豊かになります。あと日本でもよく使われている略語を確認する機会でもあります。ここに出てきているものは常識の一つとして覚えておいて欲しいものばかりです。

CHAPTER 3 時制や疑問詞、of を使った表現等が出てきます。時制は新聞や口語では必ずしも日本の高校英語で習った通りのまま使われているわけではありません。しかしそういった正しい英語を身につけておくことは逆にきちんと勉強した人間だと海外の英語話者からは一目置かれる存在になります。参考書等で確認しながら正しい言い方を復習して下さい。

CHAPTER 4 前置詞が出てきます。前置詞は難しいと感じる人も多いと思います。大半は決まり文句のように慣用的に使われていますが一つが正解とは言えない場合もあります。ここでは基本だけマスターしましょう。

CHAPTER 5 it の用法、時制の一致が出てきます。CHAPTER 3 で申し上げたように時制の一致は実際の会話ではずいぶん乱れている一つです。It の用法は英語が必ず主語を必要とする言語の特徴が反映されたものです。そういったことを頭に置いて勉強して下さい。

CHAPTER 6 関係詞や with の付帯状況を表す言い方が出てきます。関係詞は英語の文型を把握するのに避けて通れない大切なところです。これまで英語が苦手で自信のなかった人はここがネックになっている人も多かったはずで、腰を落ち着けて取り組み、他の文法事項以上にマスターしていく心構えを忘れずに頑張ってください。やさしい参考書をまず読んでそしてトライしてみてください。

CHAPTER 7 比較や間接話法など、ここも苦手としている人も多いところです。しかしパターンを覚えれば難しくありません。何度も参考書で確認しながらマスターして欲しいものです。

CHAPTER 8 9 10 文法的なことにとらわれるのではなく、最後の3章は長文の内容がおおよそ把握できているかどうかといった物語の大意をつかむ点に焦点を置いて英文を読む楽しみを味わっていただきたいと思います。

情報処理

教養科目/2単位/1年前期開講/スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年6月6日(日) 9:30~18:20 2日目 令和3年6月12日(土) 9:30~18:20 3日目 令和3年6月13日(日) 9:30~18:20 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年5月28日(金) 必着	該 当 時間割	B
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス7号館(岡山県高梁市伊賀町8)		

■ 担当教員	今村 俊介
■ 使用テキスト	テキスト：『実践に役立つ情報処理 基礎から応用まで 2020年度版』 著 者：立田 ルミ(著), 今福 啓(著), 堀江 郁美(著) 出 版 社：日経BP 出 版 年：2020/3/19 I S B N：978-4822292416
■ 参考テキスト	適宜プリントを配布する

講義概要・一般目標

情報のデジタル化、コンピュータ開発の歴史、コンピューティングの要素と機構、ハードウェア、ソフトウェア、文書作成、プレゼンテーション、ネットワーク、情報検索、コンピュータによる問題解決、セキュリティ、情報モラル、情報システムの利用と社会問題などについて学習する。講義の内容に対応してパソコンを使用して適宜演習を行う。講義の最終回にテキスト内容に準じた筆記テストとExcelによる確認テスト(実技)を行い、全体のまとめとする。

到達目標

知識として、コンピュータの基礎概念(コンピュータの基本構成、論理回路、2進数・10進数の基数変換)とネットワークリテラシー(ネットワークの構成要素、暗号化理論、情報セキュリティ基本方針)を理解する。また、実技として基本アプリケーション(Word、/Excel/PowerPoint)の特徴を理解し、加えてWebページの作成と初歩のプログラミング作成を行う。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

専門学校でのコンピュータ・インストラクターの経験を生かして、現代社会に必要な情報処理能力の意義や意味、それを教育現場で実践できる方法を体感的に理解できるカリキュラム作成に留意した授業を行っている。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

テキストは一通り通読しておいて下さい。分からないところはそのまま構いません。
可能であれば、キーボード入力がスムーズにできるよう練習していただくと助かります。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

試験問題の解答を後日サイトに掲示しますので、確認の上、不明な点があれば質問の書き込みをお願いします。また、授業内容以外でも質問があれば受け付けますので積極的に活用をお願いします。

〔テキストの概要と学修のポイント〕

試験問題の解答を後日サイトに掲示しますので、確認の上、不明な点があれば質問の書き込みをお願いします。また、授業内容以外でも質問があれば受け付けますので積極的に活用をお願いします。

〔テキストの概要と学修のポイント〕

1 コンピュータサイエンスへのいざない

この章では、コンピュータの基礎概念を理解する。具体的には、ハードウェアとソフトウェアの区別、ソフトウェアの種類とその分類、情報システムとネットワークを概観する。

2 レポートを書く準備

この章では、文書・音声・画像情報の構成と処理の仕組みを理解する。また、今日における情報収集の方法の種類と効果的な設定や活用を考察する。

3 データ集計とグラフ作成

この章では、データ集計とその運用について理解する。Excel によるデータ集計とグラフ作成の基本を確認する。

4 データ分析と印刷

この章では、前章を受けてデータ分析の概念と仕組みを理解する。また、印刷する場合の注意点にも触れ、出力方法の最適化も確認する。

5 調査内容の発表

この章では、PowerPoint スライド作成の基礎を実技によって理解する。また、実際の発表方法のポイントについても確認する。

6 キャッシュフロー計算

7 制約のある問題の効率的な答えを求める

この2章を通して、Excel によるデータ分析の基礎を実技によって理解する。分析の結果をわかりやすくモデル化することのメリットについても説明を行う。

8 Web ページの作成

この章では、Web ページ作成の基礎を実技によって理解する。Web ページ記述言語とは何か、実際の作成を行う際に押さえておく留意点とは何かについても説明を行う。

9 初歩のプログラミング

この章では、前章の Web ページ作成から一歩進んで論理的な考え方をプログラミング作成によって確認する。

〔フィードバック〕

スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行ないます。

学修指導

1 日 目	講義 1 情報とは何か、コンピュータとは何かを理解する
	講義 2 コンピュータの歴史と情報処理の仕組みを理解する
	講義 3 文書作成の基本を理解する（講義と実技）
	講義 4 デジタル文書の特徴と活用方法を理解する（講義と実技）

	講義5 ポイントを絞った実用的な文書の作成（実技）
2 日 目	講義6 インターネットの歴史と基本的な仕組みを理解する
	講義7 ソーシャルネットワーキングサービスの現状を理解する
	講義8 データ分析とデータ処理の基本を理解する（講義と実技）
	講義9 実際のデータ処理に必要な機能を理解する（講義と実技）
	講義10 自動的なデータ処理を含む文書の作成（実技）
3 日 目	講義11 ネットセキュリティの考え方と対応を理解する
	講義12 問題解決のための ICT 技術の活用を理解する
	講義13 プレゼンテーションの基本を理解する
	講義14 課題作成を通して実際の発表の技法を理解する
	講義15 Web ページ作成とプログラミング初歩を通してコンピュータの論理を理解する
	講義16 科目単位認定試験（筆記と実技）

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

特に事前課題はありません。

教室の OS と Office は、Windows10、Office2016 です。

実技を行ないますので、Windows10 および Word2016・Excel2016・PowerPoint2016 の基本操作を理解して出席いただくと学習がスムーズに進むものと思います。

（授業内で基礎レクチャーは行いますので、その点は安心してご参加下さい）

〔準備するもの〕

テキスト、筆記用具以外は特にありません。

〔その他〕

作成したデータの持ち帰りを希望される方は、USB メモリをご持参下さい。

美術の見方

教養科目／2単位／1・2・3・4年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	前嶋 英輝
■ 使用テキスト	テキスト：芸術の意味 著者：ハーバート・リード 出版社：みすず書房 出版年：1990年（新装版） ISBN：978-4622001089
■ 参考テキスト	テキスト：絵画をいかに味わうか 著者：ヴィクトル・I・ストイキツァ 出版社：平凡社 出版年：2010年 ISBN：978-4582206371

講義概要・一般目標

美術作品の見方について考え、一人ひとりが美術の見方を身につけることを目的とする。美術作品の「見方」といっても2つの考え方がある。1つ目は、美術作品について客観的に知識として学修する見方であり、2つ目は、主観的に興味を持ち疑問を投げかけてみるような見方である。前者にはある程度の答えがあり、後者には答えは無い。ここでは、2つの見方を組み合わせて鑑賞を行い、美術の見方を考えることで、一人ひとりの見方を作り上げる。

「美術の見方は、人それぞれでよい」ということが、本講義の一つの結論である。そしてもう一つの結論が「人は見たいものしか見ていない」ということである。実際多くの人が美術に興味関心を持っている。関心を持っているというよりもその中で生活しているといった方が適切であろう。このことは美術という言葉の守備範囲を服飾や建築などを含むデザインや工芸に広げると一層分かりやすい。つまり美術の見方を身につけることは、個人が自分の生活のスタイルを作り上げることに等しい。美術をわかりたいと思う気持ちを持つことは、学修する能力を解放することにつながるのである。

テキストでは、著名な美術評論家の解説によって、芸術の定義から始まり、作品の意味や価値、制作意図を考察している。自分なりの疑問や意見を持つことで、「おもしろい」と感じられる「美術の見方」を身につける。

到達目標

美術作品の見方について、「知識に基づく見方」と「感性に基づく見方」の関係について自分なりの考えを持ち、「作品との対話」の意味を自らの言葉で説明できるようになる。そして自分はどうのような美術が好きなのかを意識して生活できるようになる。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

We b学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

「芸術の意味」は、1931年にロンドンで刊行されて以来、芸術に関わる者の必読書と言われてきた。ここでは、難解な点は素通りしてもよいので、完読してリードの芸術観を味わってみよう。

教科の特性として、テキストによる学修の他に美術館や博物館で本物を鑑賞して図録に目を通したり、インターネットを利用して上記の作品をカラー画像として確認したりすることを必要とする。添削課題としても、これらの作品に関する自分なりの意見を問う問題を準備するので、通信教育としての良い点を活かして学修を進めていただきたい。

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

本講義では、ハーバート・リードの美術の見方のポイントを追うことで、各自の「わかりたい」気持ちを刺激し、楽しんで学修を行っていただきたい。

まず全体をぱらぱらと眺めていただき、目次を眺めた後、初めから読み進める。そして、できれば赤青緑の3色ボールペンを持っていただき、「記憶すべき重要なポイント」「疑問や興味深い点」「好きな作品や言葉」などのように、自分のルールで本に線や○を書込みながら読み進めていただきたい。本は大切に扱うべきであるが、ここでは思いきって汚してみることに挑戦することで、深く読んだという充実感を味わっていただきたい。保存用にもう1冊買うことも可能である。

作品鑑賞として、書中の絵の枚数に限りがあるので、インターネット等によって芸術家たちの作品を見ることを課題の一つとする。テキストと離れて探す苦労があるかもしれないけれども、自分で検索して作品を鑑賞することは、美術館に足を運ぶことに似た経験を得ることにつながる。もちろん実物を見ることが重要であるが、ルーブル美術館のHPなどでは、バーチャルな鑑賞体験ができるような内容があり、あたかも美術館を歩いているような疑似体験ができる。また実際の美術館では近づけないほどのアップの画像を見ることもできる。この画像技術によって、ゴッホの絵の具の盛り上がりや色彩を詳細に観察できるのも新しい鑑賞の方法の一つである。他者の意見を聴くことも楽しい鑑賞につながるであろう。

〔テキストの解説と学修のポイント〕

I 芸術の意味の解説

「芸術とは心楽しい形式をつくる試みである」という芸術の定義に始まり、美感として「形、面、量塊」を知覚する形式上の諸関係の統一について解説し、美と芸術の違いについて述べている。

続いて、形態と表現、黄金分割、感情移入、抽象芸術、心理的な価値などについて解説し、芸術作品の諸要素、線、調子、色彩、形態、統一、構造などについて整理している。

II 美術史上の作品例

原始美術から近代に至る長い美術史の中から膨大な作品群を抽出し、本質的な解説によって、各時代が生み出した作品の意味と価値について解説を行っている。

芸術史を通じて二つの対照的な芸術の型として幾何学的な型と有機的な型を挙げている。また芸術と宗教、ヒューマニズム、国家、洋の東西などについて語り、ペルシャ、ビザンティン、ケルト、キリスト教芸術などに言及する。続いて素描芸術に始まって、リアリズムについて解説する。すなわち「外界が客観的に存在するという信念」として「文芸復興期の理想主義と今日の主知主義との間に、幻想とリアリズムの様々な表われかた」を示す。自然主義、バロックとロココの作品を引用しつつ、芸術と自然の関係について解説している。

ここで、コンスタブルの言葉を紹介している。「芸術には卓越性をめざす二つの仕方がある。一つは、人がすでに完成したものを注意深く応用することによって、その作品を模倣するか、あるいはさまざまな美を選択し結合する仕方であり、他の一つは、卓越性をその根源である自然の中に求める。(中略) 第一の方法による結果は、目がすでに馴れているものを繰り返すので、すぐ認められ、評価されることになるが、新しい道を行く芸術家は必然的に遅々として前進するほかはない。なぜなら常道から離れた芸術を正当に判断することのできる人も、独創的な研究を鑑賞する資格のある人もきわめて稀だからである。」

続いて、印象派の画家たちについて述べ、後期印象派、立体派、野獣派、表現主義、超現実主義、そして近代彫刻について例を引いている。ここではハップワースの言葉を引用している。「写實的に仕事をすることは生命と人間性と大地への愛を補ってくれる。抽象的に仕事をするとは、個性を解放し、知覚を鋭くしてくれるように思われる。したがって、人生を観察する時、人を深く感動させられるものはその全体であり、内的な意図なのである。構成分子はそれぞれの位置を占め、細部は統一を意味する。」

III 芸術作品を作る人の立場

リードは、トルストイやマティスの立場を辿ることによって、感情と理解について「芸術の真の機能は感情を表現し、理解を伝えることなのである」と述べている。

人と心の世界

教養科目／2単位／1・2・3・4年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	宇都宮 真輝
■ 使用テキスト	テキスト：はじめて学ぶ人の臨床心理学 著 者：杉原一昭（監修）、渡辺映子、勝倉孝治（編集） 出 版 社：中央法規出版 出 版 年：2003年4月 I S B N：978-4805823477
■ 参考テキスト	指定なし

講義概要・一般目標

人のこころの問題について学ぶために、臨床心理学の基礎的な内容について広く紹介する。まず、臨床心理学がどのように発展してきたか、その歴史と背景、そこから生みだされた主要な理論について学ぶ。さらに心理療法、パーソナリティ、心理アセスメント、カウンセリング、精神疾患の理解、臨床の現場などについても基礎的な内容を紹介する。また、人のこころの問題については、発達の視点からの理解もかかせない。発達の原理や個人差、乳幼児期の発達に重要な愛着の問題、発達段階やそれに対応した発達課題なども学び、人のこころの問題について総合的な理解を深めることがこの講義の目的である。

到達目標

人のこころの問題について、臨床心理学の知識を土台にし、考え理解する力を身につけることが、この講義のテーマである。
到達目標は、講義の中で臨床心理学の歴史、理論、こころの問題を援助する際に必要な基礎的知識を学び、それらを応用して総合的な人間理解ができるようになること、また実践に役立つ態度を身につけることである。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

- ・添削課題は、学修指導にそって学んでいただく中で特に理解してほしい、重要なものを取り上げるようにしています。分からないときは教科書にもう一度戻って、課題のある章を確認するようにしてください。
- ・添削課題は、解答が○×式のもの、記述式のもの、また文章でまとめるものに分かれています。特に文章形式のものは丸写しするのではなく、どこが重要箇所かを確認しながら、まとめてみてください。学修指導には、教科書で特に学んでいただきたいポイントが書かれています。そちらをまず読んでから教科書を読み進めていただく方が、理解を深めやすいと思います。
- ・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

1. 臨床心理学の歴史と発展

臨床心理学の歴史と発展について学ぶ。心理学は大きく分けると、科学的・客観的探究の立場をとる「実験心理学」と、こころの問題を抱えた人への援助を行う「臨床心理学」の2つに分けられる。ここ

ろの問題は、人類の歴史とともに存在してきたが、その理解の仕方は時代によって大きく異なる。ここでは、こころの問題への取り組みが、現在の臨床心理学の発展にどのようにつながってきたかを学習する（『はじめて学ぶ人の臨床心理学』2～7頁）。また、心理臨床家の立場からみた「正常」と「異常」についても考えてみよう（『はじめて学ぶ人の臨床心理学』8～10頁）。

2. 心理療法 ①精神分析

心理療法における三つの源流の一つである精神分析について学ぶ。フロイトが創始した精神分析の理論は、その後の心理療法の発展に多大な影響を与えた（『はじめて学ぶ人の臨床心理学』16～21頁）。フロイト最大の業績は「無意識の発見」であるといわれる。何らかの理由で抑さえ込まれた欲求や願望は、無意識の中に抑圧される。ここでは、精神分析の理論から見た、人の心の働きや構造、人が心理的な安定を保つために行う防衛的な対処法（防衛機制）、フロイト独自の人格発達論などを学ぶ（『はじめて学ぶ人の臨床心理学』25～29頁）。また精神分析療法の実践について、基礎的な知識を学習する（『はじめて学ぶ人の臨床心理学』29～31頁）。さらに人間に対し、より広い視点から理論を発展させたユングの分析心理学についても基礎的な内容を知っておこう（『はじめて学ぶ人の臨床心理学』33～37頁）。

3. 心理療法 ②行動療法・認知行動療法

行動療法や認知行動療法は、主に動物実験から得られた知識を基盤にして、人の行動や認知を変化させることを援助する心理療法の一つである。行動療法においては、古典的条件づけやオペラント条件付けなどの学習理論や、リラクゼーション技法などについて学ぶ。認知療法・認知行動療法については、代表的な研究者や共通する特徴的な考え方について学ぶ（『はじめて学ぶ人の臨床心理学』23～24頁、38～45頁）。

4. 心理療法 ③来談者中心療法（クライエント中心療法）

精神分析的な心理療法に対し、非指示的な新しい心理療法の考え方を明らかにしたのが、来談者中心療法（クライエント中心療法）を生み出したロジャーズである。ロジャーズは、現在の多くのカウンセリングに通じる、受容的で共感的なセラピストの態度条件について初めて具体的な内容を示した人物である（『はじめて学ぶ人の臨床心理学』22～23頁、46～47頁）。彼の示した6条件がセラピーにおいて存在し続けた場合、どのような変化が生じるかを示したのが7段階からなる過程尺度である。また、彼はパーソナリティについての自己理論も打ち出した（『はじめて学ぶ人の臨床心理学』47～49頁）。

5. 心理療法 ④その他の心理療法

子どもを対象にした心理療法の代表的なものである遊戯療法や、言葉を用いなくても行える芸術療法などについて学ぶ（『はじめて学ぶ人の臨床心理学』86～97頁）。なぜ「遊び（プレイ）」や「絵画」などを媒介にするのかについて考えてもらいたい。遊戯療法においては、プレイルームにおける制限の意味についても学ぼう。また、日本で創始された、森田療法や内観療法などについても、学んでおきたい（『はじめて学ぶ人の臨床心理学』69～79頁）。

6. パーソナリティ

パーソナリティ、一般的には性格といわれるものについて学ぶ。パーソナリティの捉え方には、大きく分けて2つあるが、まず類型論と特性論の違いについて学習する。また、性格形成に遺伝や環境がどのように影響するかについても学ぶ。さらに、精神疾患の一つの分類でもある、人格障害についても学ぼう（『はじめて学ぶ人の臨床心理学』110～117頁）。

7. 人と発達

臨床心理学における発達とは何かについて学ぶ。発達には、原理や順序、方向、連続性、個人差などがある。乳児期の発達はどのような順序で起こり、順序の乱れは何を意味するのかについて学ぼう。さらに、発達を規定する要因は遺伝か環境かについても学ぶ（『はじめて学ぶ人の臨床心理学』118～123頁）。また、人のこころの問題を考える際に、発達段階や発達課題と照らし合わせて対象を理解する視点は欠かせない。乳幼児期に欠かせない愛着の問題や認知の発達（ピアジェ）、心理社会的な視点からみた発達（エリクソン）についても学ぼう（『はじめて学ぶ人の臨床心理学』124～130頁）。

8. 心理アセスメント

人のこころの問題について臨床心理学的援助をする場合、心理アセスメントは欠かせないものである。

例えば人の問題行動について、どのようにその行動が現れるのか、それに対しどのような援助・治療が必要か、まず判断し決定する必要があるが、医療、司法、福祉、心理臨床などの各分野により問題の捉え方、アプローチの仕方に違いがある（『はじめて学ぶ人の臨床心理学』132～136頁）。ここでは、心理臨床における心理アセスメントの方法やそのプロセスについて学ぶ。

また、心理アセスメントの技法の一つであり、その人の能力や性格、発達の状態などの情報を得ることができる心理テストについても学ぶ。心理テストには、能力検査（発達検査、知能検査）、性格検査などの質問紙法、ロールシャッハなどに代表される投影法、精神作業検査法などがあるが、それぞれどのようなものか学ぼう。さらに、心理テストにおける信頼性と妥当性とは何かについても知っておこう。また、心理テストの効用と限界についても学んでおきたい（『はじめて学ぶ人の臨床心理学』137～146頁）。

9. カウンセリング

こころの問題を抱える人に対する臨床心理学的援助の一つに、カウンセリングや心理療法がある。ここでは、カウンセリングや心理療法における、治療構造の意味、見立てとは何か、またそのプロセスについて学ぶ（『はじめて学ぶ人の臨床心理学』148～170頁）。

10. 臨床心理学の研究法

心理学、臨床心理学における代表的な2つの研究法、質的研究法と量的研究法について学ぶ。研究、調査を行う際、どのようなデータを扱うか、データをどのように収集し処理するのかによって、選択する研究法は異なる。また、それぞれの研究法の長所と短所、留意点などについても学ぶ（『はじめて学ぶ人の臨床心理学』172～186頁）。

11. 発達障害

広汎性発達障害やADHDの症状や治療などについて学ぶ（『はじめて学ぶ人の臨床心理学』188～200頁）。各障害の特徴や合併症状についても学ぼう。また、精神障害の分類で一般によく用いられる、アメリカ精神医学会発行のDSM-4-TR（現在はDSM-5に改定）やWHO発行のICD-10についても知っておこう。

DSM-Vでは、広汎性発達障害（PDD）は、自閉症スペクトラム（ASD）に総称を変更され、自閉性障害とアスペルガー障害、特定不能の広汎性発達障害などが、自閉症スペクトラムとしてまとめられた。また内容的に異質であったレット障害はサブカテゴリーから外された（教科書ではサブカテゴリーに入っている）。医学的な診断基準と、障害に対する理解や援助は必ずしもイコールというわけではないが、最新情報は常に気にかけておいてほしい。

12. こころの病

ここでは、虐待やひきこもり、いくつかの精神障害（うつ病、統合失調症、摂食障害、PTSDなど）について学ぶ。まず、虐待にはどのような種類があり、原因となる背景は何か、引きこもりにもつながるスチューデント・アパシーとは何かなど知っておこう（『はじめて学ぶ人の臨床心理学』201～209頁）。次に、うつ病、統合失調症、摂食障害、PTSDなどについて、原因となる背景や症状の理解、治療や対応の仕方などについて学ぶ（『はじめて学ぶ人の臨床心理学』209～228頁）。いずれも子どもに関わる職種や援助職に関わる人たちが、知っておくと役立つ概念だと考えられるので、ぜひ学んでもらいたい。

DSM-5では、精神障害の診断名が変わったものもある（例えば、神経性無食欲症／拒食症が「神経性やせ症」に、「神経性過食症／過食症」の排出型が「神経性過食症」、そして「神経性過食症／過食症」の非排出型と「むちゃ食い障害」が「過食性障害」と分けられ、診断基準も若干変更になった）。しかし、ここでは病気の概念や原因などを理解することが主旨のため詳しくは述べない。詳しく知りたい場合は、DSMなどをあたり知識を深めてほしい。

13. 臨床心理学の現場

臨床心理学の現場は多岐にわたり、活動する分野により対象となる人や関わり方、仕事の内容も変化する。ここでは、学校や福祉、地域臨床などの現場で心理職がどのように活動しているかを学ぶ。またその活動内容を知ることで援助を受ける際や協働する立場に立った際にも役立つ内容が学べるだろう（『はじめて学ぶ人の臨床心理学』230～263頁）。

哲学

教養科目/2単位/1・2・3・4年前期開講/テキスト授業

■ 担当教員	山本 敦之
■ 使用テキスト	〔自作テキストを使用〕
■ 参考テキスト	指定なし

講義概要・一般目標

注目した何人かの「哲学者」の言説をたどりつつ、その背景に目を配ることで、哲学というジャンルが誕生し展開してゆくさまを見てゆく。おもに古代地中海世界と西欧世界が中心である。知恵＝ソフィアと対比的なものとして生まれた哲学＝愛知＝フィロソフィアが三分類される理論的・実践的知識体系となり、やがて近代以降、専門分科の独立により、最終的に固有の領域を持った専門的学問としての「哲学」の誕生にいたる。このことにより、哲学のみならず学問全般の由来について理解を深める。

到達目標

哲学とは何かということについて歴史的に理解する。その際、西洋文明の哲学的古典の重要な概念についての知識を獲得する。そして、哲学が営まれた社会や制度を知ることで、歴史的地理的教養を深める。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

- ・これまでなじみのない数多くの人物が登場しますが、教科書本文も参考にしつつ、参考文献やネットも活用してください。そうすることでなじみのなかった人物に親しみが持てるようになり、話の流れにもついてゆきやすくなります。
- ・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

第1章 「哲学」という言葉のルーツをさかのぼり、紀元前5世紀のギリシャの PHILOSOPHIA に至る。その上で哲学という営みの起源を求めてミレトスのタレスやアナクシマンドロスにさかのぼる。また宇宙創世神話と「哲学」の共通点、相違点を考察する。

第2章 古代における文明の成立と発展の類型を知った上で、広義の「哲学」をギリシャ、インド、中国で考えてみる。その上で古代ギリシャ世界の歴史的背景を概観し、「哲学誕生」の環境を考える。古代地中海周辺の地図を座右に読んで欲しい。また、ギリシャにおける初期の「哲学者」の言説を読む。

第3章 古代ギリシャ世界「哲学」史で画期となったパルメニデスを中心に初期「哲学者」を紹介する。彼の言説は極めて難解であるが、その擁護者であるエレアのゼノンの言説を通じて理解を深める。さらにエレア派の挑戦から生まれた新種の自然哲学や、ギリシャ「数学」を紹介する。

第4章 ソフィストとソクラテスの関係について説明する。また現代において常識的なソフィスト像とソクラテス像はプラトンに由来することを論じる。

第5章 プラトンの著作から『ソクラテスの弁明』、『パイドン』、『国家』の「さわり」を読む。またこれを通じて、元来不可知論と結びついていた「哲学」が、理論的学問としての「哲学」に姿を変えた次第を理解する。

第6章 アリストテレスの生涯、学問体系、論理学、自然学の概説。また形而上学におけるイデア論批判に関する解説の紹介。

第7章 引き続き、アリストテレスの著作群の「さわり」を読む。動物、天体、魂を対象とした自然学、実践に関わる倫理学のものである。そのうえで彼の全体系の基礎となる枠組みについてまとめてみる。

第8章 ヘレニズム期の状況を理解したうえで、この時期に登場した哲学三派の概略を見る。またその後、ユダヤ教やキリスト教と哲学との交錯を一瞥し、プロティノスのプラトン主義的体系の概略を把握する。

第9章 西欧文明の立ち上がりとしての「カロリングルネサンス」について説明し、その後数百年の間に登場したヨハネス・スコトゥス、カンタベリーのアンセルムス、アベラルドゥスについて解説する。

第10章 西欧中世における大学を拠点とした神学と哲学の関係を解説する。14世紀にはウィリアム・オッカムが出て、神学と哲学の分離、信仰と理性の分離が見えてくる。

第11章 近代哲学の元祖であるデカルトは近代数学、近代自然学の元祖の一人でもある。彼の活躍した時代背景、業績を紹介する。特に「私は考える、ゆえに私は存在する」という命題を原理として、神の存在証明をおこない、それにもとづく数学、数学的自然学の基礎づけが中心となる。

第12章 いわゆる「科学革命」について簡略に説明し、その後の「哲学」をロックやヒュームといったイギリス古典経験論に焦点を合わせて解説する。人文・社会諸科学の生誕をもたらす萌芽がそこに認められる。またロック、バークリ、ヒュームの認識論を概説する。

第13章 19世紀末、科学的心理学が制度的に確立されたことが「哲学」に大きな変容をもたらした。伝統的哲学は姿を変えて、哲学固有の領域についての専門的学問が生まれることになった。現象学と分析哲学である。それらの誕生の事情を解説する。

第14章 チャールズ・ダーウィンのもたらした「革命」の内実を解説する。「進化論」のみで有名であるが、進化の考えは彼の独創ではなく、「自然選択による種の起源」というのが彼の独創的なところである。進化論確立以降も植物、動物について膨大な量の研究をおこない、心理学などにも重要な貢献をなした。

第15章 ガリレオ、デカルト、ニュートンらによって新しい自然哲学が形成され、これが近代科学の出発点と考えられる。ところがその延長線上に成立した量子力学により、近代科学が前提していた枠組みが破壊されるに至った。量子力学がもたらした反常識的世界観を紹介する。

分からない言葉や画像情報はネットなどで検索したり辞書事典類で調べて下さい。各章ごとに設定された課題は、理解を助けるために活用してください（これらについては提出の必要はありません）。

芸術概論

教養科目／2単位／1・2・3・4年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	前嶋 英輝
■ 使用テキスト	テキスト：増補新装 カラー版 西洋美術史 著 者：高階秀爾 監修 出 版 社：美術出版社 出 版 年：2002年 I S B N：978-4568400649
■ 参考テキスト	テキスト：アートとは何か 芸術の存在論と目的論 著 者：アーサー・C・ダントー 出 版 社：人文書院 出 版 年：2018年 I S B N：978-4409100400

講義概要・一般目標

西洋の芸術作品や文化を比較しながら、広く芸術の意味について考察する。具体的な例を挙げながら、自分なりの芸術作品に対する理解を深めていく。

本講義では、長い美術の歴史を概観しながら学修する。「モノの見方」は「考え方」に直結しており、現代に生きる我々が芸術をみる技術を獲得することは、生活や学修に対する個々の態度を決定していくことになる。したがって本講義の目的は、テキストと向き合うことで自分の鑑賞力を高めることである。それは芸術を深く楽しむ力を身につけることである。

芸術は、「わからない」と感じる人が多いが、このテキストによって知的な解釈を追体験し、知的に「わかること」を経験する。また読み進めるなかで自分なりの疑問や意見を持つことを経験する。具体的には、各章を読んで理解し、添削課題の設問を解きつつ、自分なりのテーマを選んで意見を述べることを行う。参考テキストをヒントにすることも一つの方法である。

到達目標

美術史や美術様式について整理して概観できるようになったうえで、芸術鑑賞をすることの意味について自分の言葉で説明できるようになる。また自分の好きな芸術作品について、具体的な例を挙げて論述できるようになる。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

We b学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

教科の特性として、テキストによる学修の他に美術館や博物館で本物を鑑賞して図録に目を通したり、インターネットを利用して上記の作品をカラー画像として確認したりすることを必要とする。西洋美術を概観し、自分との関わりを考えながら鑑賞することを薦める。

添削課題としても、本文中の作品に関する内容を確認し、自分なりの意見を問う問題を準備するので、通信教育としての良い点を活かして学修を進めていただきたい。

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

『西洋美術史』をテキストとして、「芸術のみかた」を学修する。あえて西洋美術に焦点を当てる理由は、芸術は「わからない」と感じる人が多いため、できるだけ見たことのある内容から考えるためである。「わからない」と感じる瞬間は「わかりたい」時でもある。過去の歴史的な作品群について参考テキストやインターネットを通じて、日々の暮らしの中で興味を持って関わっていただきたい。特にルネサンスを中心にその前後をたどっていく過程で系統的に美術作品に触れることは重要である。

〔学修方法〕

1. テキスト全体をめぐって大まかに内容を掴む。(5分以内)
2. 好きな時代を選ぶ。
テキストの目次を見るか本文をめぐってみて自分の好きな時代を選び、まず一つの節(5ページ程度)を読破する。(15分以内)
3. 関連する章を読む。
関連する章(15ページ程度)を読破する。ここから3色ボールペン(赤青緑)を持って読むことを勧める。「記憶すべき重要なポイント」「疑問や興味深い点」「好きな作品や言葉」などのように、自分のルールで本文に線や○を書きながら読み進める。本は大切に扱うべきであるが、学修テキストとして使い込んだ実感を持つことが大切である。また読んでないところが一目で分かる。加えて色別の付箋を併用するとよい。テキストとして使い込んだら、保存用にもう1冊買うことも価値がある。
4. はじめにを読む
テキストの目的や全体像を掴む。
5. 添削課題を一読する。
6. 残りを最初から通読する。(3を繰り返してもよい)
7. 添削課題に取り組む。
8. 試験準備
基本的には、添削課題の問題から合格点分が出題されるが、自分なりの「芸術観」を記述できるように、最初に興味を持った章を中心に自分の意見を書いてみる。

当然のことながら、本物に触れることは最大の学びです。美術館や演奏会(ライブ)にも足を運んでください。できる限り質問にも答えたいと考えておりますので、興味を持って楽しく読破してください。

〔テキスト解説と学修のポイント〕

はじめに

「ヴァレリーの指摘をまつまでもなく・・・」と始まっているのは、歴史が小説と違い事実で構成されていることを示している。しかし、一方でヴァレリーは「精神の自由」について深く考察した人である。美術史を学び歴史上の事実を点でつなぎながら図柄を描き出すことができる。

第一章 原始美術と古代オリエント美術

先史時代の美術から始まり、メソポタミア、エジプトの美術について概観している。ラスコーやアルタミラの洞窟絵画の歪曲技法から古代オリエントに至る技法の変化が興味深い。

この章では、プリミティヴアートの鑑賞を通して、見ることと造形することの意味を学修する。

第二章 ギリシア美術とローマ美術

クレタ美術に起源を持つギリシア美術の造形的な発展を辿り、エトルリア美術からローマ美術への変遷を概観して、西洋美術の成り立ちを確認することができる。

この章では、ギリシア・ローマ人の理想的な自然主義について学修する。

第三章 中世Ⅰ

初期キリスト教美術・ビザンティン美術・初期中世美術。キリスト教徒の地下墓地であるカタコンベの美術から始まって、教会建築やモザイク装飾の歴史について説明している。

この章では、初期キリスト教美術を中心に偶像崇拜をめぐる問題と美術の関係について学修する。

第四章 中世Ⅱ

ロマネスク美術・ゴシック美術を概観している。修道院と美術の関係を眺めながら、重厚なロマネスク教会からゴシックの大聖堂の時代に至る建築と様式の変化を辿る。

この章では、形式の変化が様式を生み出す動きについて学修する。

第五章 イタリア初期ルネサンス美術・15世紀の北方美術

ドナテロやマザッチオによって開かれた初期ルネサンスについて、写実的彫刻や遠近法の成立した多くのフレスコ絵画について概観し、ネーデルランド絵画との関係について解説してある。

この章では、初期ルネサンスの科学的な視点について学修する。

第六章 イタリア盛期ルネサンス美術・マニエリスム・北方ルネサンス美術

ルネサンス三代巨匠の活躍を中心に紹介があり、マニエリスムや北方への影響について丁寧な記述がある。

この章では、科学的な美の考察と自然らしさとは何かを学修する。

第七章 バロック美術・ロココ美術

17世紀の美術全体について概観している。盛期ルネサンス後の美の規範の変化をベルニーニやリュウベンスに代表される文化として捉え、ロココ芸術の要素について紹介している。

この章では、肖像画などを鑑賞し、美の基準と人間の生活の関係について学修する。

第八章 近代Ⅰ

近代に入り美術の規範が大きく変化した新古典主義・ロマン主義・写実主義をそれぞれの必然性を解明しながら画壇の登場を含め紹介している。

この章では、ヨーロッパ各国の近代化の特徴を比較しながら美術における主義について学修する。

第九章 近代Ⅱ

印象主義・象徴主義・後期印象主義という極めて認知度の高いジャンルを取り上げ、現代美術の起源となる作家たちの活動を丁寧に追っている。

この章では、美術における「見る」ことの意味について学修します。

第十章 現代Ⅰ

世紀末から20世紀美術を概観する。アールヌーボーは日本の美術をも取り込んで生活様式として発展する。キュビズム、構成主義、ダダやシュールレアリスムについて紹介している。

この章では、抽象と感情移入について考察し人間の想像力について学修する。

第十一章 現代Ⅱ

抽象表現主義の波とポストモダンについて紹介しながら、ポップ・アートに代表されるような現代美術の幕開けを例示してみせる。

この章では、表現世界の拡大について学修する。

第十二章 現代Ⅲ

観念性を重視したコンセプチュアル・アートを紹介し、メディアを活用した芸術の可能性について展開を示す。

この章では、美術とメッセージの関係性について学修する。

日本国憲法

教養科目／2単位／1・2・3・4年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	生駒 俊英
■ 使用テキスト	テキスト：ワンステップ憲法 著者：森口佳樹ほか 出版社：嵯峨野書院 出版年：2018年 ISBN：978-4-7823-0546-1
■ 参考テキスト	テキスト：ポケット六法 令和2年版 著者：佐伯 仁志、大村 敦志 編集 出版社：有斐閣

講義概要・一般目標

法の精神、憲法の内容について学んだ後、国民主権、平和主義、基本的人権の尊重を中心に、条文の背景にある目的を理解できるように講義を進めたい。本講義では、我々が生活していく中でどのように憲法と関わっているのかを想定しながら、現代社会における法の生きた現実の機能を学ぶ。そして、憲法の中心的役割とされる、我々国民の権利と自由を守る基本的概念を理解してもらいたい。

到達目標

憲法を身近なものに感じてもらい、自分たちの生活とどのように関わってくるかを理解できるようになることを第一の目標としたい。

その上で、法的なものの考え方ができるようになり、様々な社会的出来事に対して、自らの考えを論理的に説明できるようになることを最終的な目標とした。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

・基本は、六法を準備して、教科書を何度も読むことに尽きる。教科書を読む上では、条文が記載されている場合には、面倒くさげらずに、必ず六法の該当条文を開くことが大事である。

また、わからない用語等が出てきた場合には、法律用語辞典等で調べ、意味が分からないまま、先に進まないようにすることが大事である。

・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

1. 第1章 憲法総説

はじめに、憲法の内容と意義・歴史について理解する。その上で、人権等に関する基本的な事柄を勉強する。

■学修のポイント

憲法の意味を理解した上で、今後学習していく現憲法がどのような性質を有しているかを明らかにする。

■学修のポイント

現在の憲法へと至った経緯、過去の反省を踏まえて現在の憲法があることを理解する。

2. 第2章 国民主権

憲法の三大原理の一つである国民主権には、二つの要素が含まれている。

■学修のポイント

国民主権の内容である二つの側面について理解する。

3. 第3章 天皇

憲法の条文は、第一条から天皇について規定されている。特に、天皇の公的行為（象徴としての行為）については、国事行為、私的行為以外の行為を指す概念として考えられている。

■学修のポイント

天皇の国事行為については、憲法の条文を見て確認しておく。

公的行為（象徴としての行為）については、しっかりと理解しておく。

4. 第4章 平和主義

世界にも類をみないと称される平和主義憲法について理解する。特に憲法前文及び憲法9条の規定について触れた上で、憲法9条と自衛隊、日米安全保障条約との関係について見ていく。

■学修のポイント

憲法9条について様々な解釈があることを理解する。

5. 第5章～第13章

立憲的意味の憲法において最も重要なのが、国民の権利・自由を守ることにある。そこで、本章では人権について見て行く。人権と一言と言っても、権利の束のようなものであり、大きくは6つに分類される。大きな分類を見た上で、個々の条文について学習していく。

■学修のポイント

人権の享有主体として、日本国民があげられる。その他、天皇、法人等が享有主体として国民とどのような相違があるかについて整理する。

■学修のポイント

憲法の人権規定を私人間に適用できるか否かについては、大きく三つの説が主張されており、それぞれの説の違いについて理解する。

■学修のポイント

憲法13条の幸福追求権を根拠として主張される、新しい人権について理解する。

■学修のポイント

法の下での平等との関係で民法900条4号ただし書きについては、平成25年に最高裁判所の新判断が出ているので要チェック！

■学修のポイント

信教の自由における政教分離原則について、国家が行ってはいけない（禁止される）宗教行為とは何かを裁判例から理解する。

■学修のポイント

表現の自由は、自由権の中でも最も重要な権利であるとされ、内容も多岐にわたる。

■学修のポイント

職業選択の自由（憲22条）を制限する規制は、消極的規制と積極的規制とに区別される。それぞれどのような内容の規制か裁判例（テキスト110頁）にも触れつつ理解しておく。

■学修のポイント

身体的自由権については、被疑者の権利と被告人の権利に区別し、各条文を見ながら理解する。

■学修のポイント

社会権では、生存権の法的性格に関して、大きく三つの説が提示されている。それぞれの違いを明確にしつつ理解する必要がある。

■学修のポイント

参政権については、選挙制度の基本原則の一つである平等選挙について、議員定数不均衡問題が存在する。どのような問題なのか理解する。

6. 第14章 国会

憲法は、大きく「人権」と「統治機構」に分類されるが、「統治機構」の中の一つである国会について勉強していく。日頃から新聞を読み、現在の日本の政治システムにも関心を持ちながら勉強を進めて欲しい。

7. 第15章 内閣

第14章の国会と同様、日頃から新聞を読み、現在の日本の政治システムにも関心を持ちながら勉強を進めて欲しい。

8. 第16章 裁判所

裁判所については、その組織体系もさることながら、違憲立法審査権や司法権の限界についても注意しておきたい。

9. 第17章～第18章

財政のところでは、様々な言葉が出てくるので、しっかり言葉の定義を整理して理解する必要がある。地方自治に関しては、まず初めに「住民自治」、「団体自治」とは何かについて理解する必要がある。そのうえで、地方公共団体の権限について見ていく。

国際社会学

教養科目／2 単位／1・2・3・4 年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	大下 朋子
■ 使用テキスト	テキスト：やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ よくわかる国際社会学 第2版 著 者：樽本 英樹 出 版 社：ミネルヴァ書房 I S B N：9784623075911
■ 参考テキスト	指定なし

講義概要・一般目標

グローバル化が進み、地球はますます緊密に結び付けられてきている。だが、これまでの地球上の人間社会は、たった一つの世界を単位として動いているというより、むしろ国家を中心とした多数の「国民社会」単位に分断されて動いてきた。

「国民社会」という考え方が成立したのは、18 世紀末のフランス革命のときが初めてであったと言われている。それ以降の 200 年以上のあいだ、各国はより豊かな生活の実現を目標に掲げ、個々人は一つの「国民」として団結して競い合ってきた。これを「近代国民国家の時代」とも言う。個々人の力と技の結晶であるはずのスポーツが、「国民」と「国民」との競争として喩えられるオリンピックのようなイベントが盛んになったのも近代である。

だが、こうした「国民社会」単位で社会の発展を目指す時代は、国境を超えた人・物・金・情報の交流の拡大とともに終わりに近づき、かわって国境を超えた社会現象に注目する必要が高まってきた。そこで、1970 年代に新たに登場した学問が「国際社会学」である。

「国際社会学」という言葉には、二つの意味が含まれている。

第一に「国民社会」の視点ではなく、「国際社会」の視点から社会現象を捉えるという意味である。世界の政治、経済、文化の構造的な変化を、「日本人」あるいは「日本社会」の問題にとどめず、例えば「東アジア」もしくは「グローバル」な「国際社会・学」の問題として捉え直してみれば、問題の構図は大きく変化する。

第二に「国際」的な現象について、政府の外交政策や企業利益の観点からではなく、国境を超えた民間人同士の「民際交流」に焦点を合わせ、「社会学」の視点から分析するという意味である。多国籍企業の進出が社会に与える影響、外国人増加がもたらす社会変化、民族アイデンティティの変容・・・今まで知りえなかった人々どうしの出会いは、新たな紛争や差別、コミュニケーション上の問題を生み出す。「国際・社会学」はこうした問題に注目する。

本講義では、以上のような国際社会学の視点に沿って、その理論的な視点を習得することを目指す。また、最新の国際問題や、身近な国境を超える社会現象についての基礎知識と洞察力を高めることを狙いとしている。

到達目標

1. 国際社会学の理論的な視点を習得し、テキストに出てくる専門用語を理解できるようになる。
2. 最新の国際問題や、国境を超える社会現象に関する基礎知識を身につける。
3. グローバル化、国際化の時代の課題を捉え、それに関する問題についての洞察力を深める。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

- ・テキストを丁寧に読み込んでください。添削課題は全てテキストの内容から出題します。特に、各単元の重要語句である太字部分及び左右見開きに解説が加えられている用語について、出題される可能性が高いので、定義や用法などについて、使いこなせるように理解を深めておいてください。
- ・また、自分の考えを論述させる問題も出題しますので、テキストに挙げられた参考文献をどれか一つでも読み、関心を深めておくとい良いでしょう。
- ・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

I. 国際社会学の問題と基礎概念

1980年代から90年代にかけて急速に発展してきた「国際社会学」だが、どのような時代背景の中で発展してきたのかを考察する。国際社会学の「国際」は多義的であり、大きく分類すると「インターナショナル」「トランスナショナル」「グローバル」「国家間比較」という4つに分類される。これらをキーワードに国際社会学の問題と基礎概念について理解する。

II. 国際人口移動の加速化と多様性

国境を越える人口移動は、現代に始まったわけではない。現在の意味とは異なったものの、古代から国と国との境は存在し、人々はそれを越えて移動した。しかし、国際的に人口移動が本格化したのは、労働市場が国際化してからである。第2次大戦以前と第2次大戦以降の人口移動や、難民・高度技能移民・ディアスポラなどを事例に、現代起こっている「国際人口移動」とその多様性について理解を深める。

III. 多文化社会への発展と反動

移民やマイノリティをホスト社会に統合するため初めて登場した社会科学的観念は、「同化」である。20世紀初頭社会学の一派であるシカゴ学派が定式化し「同化理論」と呼ばれる。しかし、国際人口移動が活発になり、社会が多様なエスニック文化で彩られるようになると、「同化主義」から「多文化主義」に基づく多文化社会の方が規範的に望ましいとされ、政治プログラム化されるようになってきた。こうした議論を踏まえた上で、多文化社会への発展とその反動について議論する。

IV. 国境を越える集団と制度

グローバルな問題が噴出し、国家や国際機関だけでは解決しきれなくなっている中、新たな政治アクターとして「国際NGO」が注目されてきている。また、経済的な統合と発展を目指すEU、NAFTA、ASEANなどの超国家地域統合なども上からのグローバル化の一種である。ここでは、これらの国境を越える新たな集団と制度について理解を深める。その上で、文化帝国主義論、カルチュラル・スタディーズ、ランドスケープ論など、メディアを介して文化が国境を越えていく「文化的グローバル化」についても学び、理解を深める。

V. グローバル社会の諸相

「帝国」から「国民国家」への移行、「ボートピープル」などの国際移民に対する体制の変化など、日本社会と移民の関わりについて歴史的にその変遷を学ぶ。また、韓国、アメリカ合衆国、カナダ、オーストラリア、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、オランダにおける移民問題について考察を深める。

VI. 国際社会学の新たな展開へ

21 世紀における国際社会学のトピックとして、第 1 に考えられるのは、人の流れをめぐる問いである。人の流れを自由化するべきか、規制するべきか。すべての社会はこの 2 つの選択肢の間で揺れ動いている。ここでは、まずその受け入れ国による受け入れ体制の相違について学ぶ。第 2 に考えられるのは、格差をめぐる問いである。国際移民はグローバル化とそれに伴う国際的競争に基づいてホスト社会に流入していく。この意味では競争が移民の必要性を生み出しているのだが、過度の競争は移民の周辺化を促進する可能性がある。多民族共生を目指して、格差を緩和し、移民に関する平等をいかに実現するのか。これらの問題について考察する。

多文化理解

教養科目／2単位／1・2・3・4年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	高橋 睦子
■ 使用テキスト	テキスト：世界で生きる力 自分を本当にグローバル化する4つのステップ 著 者：マーク・ガーゾン 出 版 社：英治出版 出 版 年：2010 I S B N：978-4-86276-090-6 C0034
■ 参考テキスト	テキスト：多文化共生 - 人が変わる、社会を変える 著 者：松尾 慎（編著） 出 版 社：凡人社 出 版 年：2018 I S B N：978-4-89358-952-1 C3081

講義概要・一般目標

教育の現場や福祉介護の現場においても、多文化主義時代に適応したコミュニケーション能力が求められている。この講義では、多様な文化の競合と共生について考察し、グローバル化の深化の中で文化的多様性を社会的公正と差異の承認のもとで実現するための教養と思考力の修得を目的としている。

テキストはマーク・ガーゾンの『世界で生きる力 (Global Citizens)』である。人は「法的には国家の民」であると同時に、日常生活においては「地球の民」である。ガーゾンは、「狭くて排他的なアイデンティティ」は、「異なる国家、異なる種族や氏族、異なる信仰や思想」を産み出し、異なる他者への承認を妨げ排除し、紛争やテロを引き起こしていると考えている。この講義では、旧来の文化的な境界線を克服するための「最新の世界観」を探求する。

到達目標

世界の多様な社会や文化に見られる生活様式や思考様式を理解し、他者との建設的な文化共生の在り方を教育や福祉の現場と関連づけて具体的に考察できる。

評価方法

科目単位認定試験により評価

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

- ・テキストを精読することが学修の出発点です。平易な文章で書かれ、多くの具体例が示されています。添削問題では、テキストを片手に持って、出題されている箇所に付箋を付け確認しつつ課題に取り組んでください。科目単位認定試験問題の大半は、添削問題の中から出題されます。
- ・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

第1章 直視する力 Opening Our Eyes

この章のポイント

この章では、「市民」シティズンの概念が複数のレベルに分かれていることを学ぶ。ある宇宙飛行士の体験が引き合いに出される。「最初の1日か2日、私たちはみな自分の国だけを指さしていた。3日目か

4日目になると自分の大陸を指さしていた。そして5日目には、ただ地球だけを認識していた」。いわゆる「世界視線」の獲得である。視線が「地球化」するにともなって、市民意識＝シティズンシップもレベルアップする。著者はそれを5段階に分けている。真のグローバル・シティズンになること（自分自身をグローバル化すること）は、「外的」な作業（ネット等を通じて世界で起こっている多くの情報を入力すること）だけでなく、「内的」な作業でもあると述べられている。「直視する力」とは、既存の境界線にとらわれず、世界について自身の意識を高める「内的」作業である。

第2章 学ぶ力 Opening Our Mind

この章のポイント

この章では、異文化にどう反応すべきかを学ぶ。「偏った心では決して全体像をとらえることができず、結果として生じる行動が現実と合うことはない」というドライ・ラマ14世の言葉から、先入観や偏見を捨てることの重要性が述べられる。自国の文化や習慣のみが正しいという偏見は、「体系的な学び」を阻害する。「自分にかかわる以外の部分について体系的に学ぶことができなかつた人々ばかりでは、地球全体を統括していくことはできない」。境界線を越えなければならない。ここでは、5種類の境界線が示される。それらは人類のほとんどに刷り込まれている。私やあなたも例外ではない。それゆえに「越境的学習能力」が求められる。「多様な人々が、人類の直面する複雑な問題に対して心を開くと、まずプライドが身をひそめる。次に、謙虚さが現れる。そして最後に、運が良ければ、お互いから学び始める」のである。

第3章 連帯する力 Opening Our Hearts

この章のポイント

ただ単にコミュニケーションをとるだけではなく、心の底からつながり合うこと。それは、「複数の個人またはグループがより効果的に協働できるよう、間に横たわる溝に信頼という橋を架けること」である。つながり合うことは、本書では「連帯」と訳されているが、そこに政治的意味はない。「信頼という橋を架ける」ために、それに必要な能力をみがぐために、筆者は6つの方法を提示している。この章で学習するポイントはそこにある。「断絶の下に隠れた、深い連帯感」を呼び起こし、「断絶を回避し、深くルーツへと手を伸ばすのだ」。すると「尊敬」がうまれる。「連帯には、必ず尊敬が伴う。世界を股にかけて活動する有能な外交官や企業幹部は、文化的差異を乗り越えて人々を尊敬する術を学んでいる」と述べられている。

第4章 助けあう力 Opening Our Hands

この章のポイント

ジオ・パートナーシップ。聞きなれない言葉だ。本書では「地球規模の連携」と訳されている。大抵の場合、富める者は貧しい者に手を差し伸べる。お金を与える。しかし本章では、「貧しい者は、富める者に何を与えられるのか？」が問われる。救済ではなく、協働が問われる。①貧困の削減、②環境の保全、③紛争の抑止、テロとの闘い、④水不足の解決、⑤国際機関の強化、⑥教育機会の拡大、⑦世界的伝染病の撲滅、⑧自然災害の防止、これらのどれをとっても、「協働」なしには解決不可能である。学習のポイントは、まずそれらの問題を直視し、いかなる解決法があるのかを考えてみることである。テキストでは、「人類が境界線を越えて効果的に協働できるか否か」がすべてであると記されている。「医療、飢餓、栄養不良、戦争」といった生死にかかわる問題に取り組む場合、ジオ・パートナーシップは「道徳的に」欠かせないのである。

まとめ 世界で生きる力を身につける20の方法 20 Ways To Raise Our Global Intelligence

このポイント

まとめの扉には、「問題を生み出したときと同じ意識レベルでは、その問題を解決することはできない」（アインシュタイン）という有名な言葉が置かれている。そして「グローバル・インテリジェンス」（＝GI）を向上させるための20の方法が示されている。「グローバル・インテリジェンス」は意識すらされない場合もある。この講義の履修者は、「グローバル・インテリジェンス」を向上させる方法についてどのように意識し修得しているかを自ら再確認することが期待される。

生命と環境

教養科目／2単位／1・2・3・4年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	鳥居 恭治
■ 使用テキスト	テキスト：自分を知るいのちの科学 改訂版 著者：伊藤明夫 出版社：培風館 出版年：2016年3月 ISBN：978-4-563-07819-5
■ 参考テキスト	指定なし

講義概要

人間は自然の一部であり、植物や動物ともお互いに支え合って生きている。人間は自分たちの都合のよいように無機物、植物、人間以外の動物を利用することはできない。したがって、秩序ある自然環境で人間の生命は維持される。現在、人間を取り巻く環境は科学技術の発達の影響で大きく変化している。その変化によって自然環境の秩序が破壊され、人間にもその影響が深刻である。この講義では、生命の基礎、統合された生命、現代社会での生命に関する問題を学修する。次に、環境変化が自然の秩序を壊している具体的事例をあげて、生命に及ぼす影響を理解し、その影響を防ぐ方法を学修する。

到達目標

本書を通して「生命の基礎として、分子や細胞の活動のようす」、「細胞の集合体としての個体レベルの高度な、統合された生命現象のしくみ」、「いのちに関連した社会的な問題（ガン・iPS細胞など）」の3分野を学修する。それによって、人間のいのちも含めてあらゆる生命現象を環境という広い範囲で理解し、実際の生活に生かせることを到達目標とする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

1. 添削課題出題の意図及び課題の進め方
添削課題は、各章の要点となることを問題として出題している。テキストは生命の基礎からはじまり、ヒトの生命現象とは何か、ガン iPS 細胞などの最新の課題を取り入れたコラムもあり、楽しい読み物として読める。学修の方法としては、一読した後、各章を丁寧に読みながら要点、重要語句を整理することを勧める。その学習後、添削課題に臨むと理解が深まる。
2. 添削課題をまとめるにあたっての留意点
課題をもらって「問題を見ながら答えが書いてあるページを探す」という方法は、理解も深まらず記憶にも残らない。概略も掴めていないので、配点の多い記述問題（レポート）の部分が解けない。過去の解答を読むと、長文が書いてあっても的はずれの箇所を基に記述してあったり、完全に自分の意見であったりする場合が多いので減点となっている。
記述問題の配点は大きいので必ずテキストの要旨を基に自分の言葉で簡潔にまとめること。
3. 効果的な学修の方法
「学問に王道なし」 一読し概略を掴み、その後計画的に1章ずつ要点を整理する。

4. フィードバックについて

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学習のポイント〕

第1章 生命とその起源

生物と無生物の違いについて、「外界との区別をする境界をもっている」、「自己増殖能」、「物質代謝能」を備えているのが生物である。最初の生命が化学進化により誕生し、長い時間を経て約 200 万年前にヒトの祖先が誕生したことを学修する。

第2章 生命の最小単位である細胞

生命の最小単位である細胞、遺伝子を構成するタンパク質・糖質・脂質、それらの物質の代謝について学修する。細胞は最小の独立国であり、人間の世界とよく似ている。細胞は細胞膜により外界から区別されており、生体膜で囲まれたオルガネラとして核、ミトコンドリア、小胞体、ゴルジ装着が、生体膜で囲まれていないオルガネラとしてリボソーム、細胞骨格、サイトソルなどがあることを学修する。

第3章 生命を演ずる分子たち

生体内で働いている分子として、タンパク質、糖質、脂質、核酸、ビタミン、無機質があることを学修する。タンパク質は、アミノ酸が数十個から数千個、鎖状につながったもので、タンパク質の役割は生命の活動の担い手として多岐にわたっており、糖質のもっとも大きな役割は、生体内で分解されてエネルギー源になることであり、中性脂肪もエネルギー源として代謝されることを学修する。

第4章 生命の設計図である遺伝子とその働き

遺伝情報が DNA から DNA へ、DNA から RNA へ、RNA からタンパク質へと流れていく。突然変異と修復についても学修する。必要なときに必要な遺伝子が必要なだけ働くように調節され、細胞や臓器の種類により違った形や働きをしたり、外界からの刺激に適切に対応したりしていることを学修する。

第5章 生命活動の基礎であるエネルギーとその代謝

同化や異化の過程で物質が変化することは「代謝」といわれ、酵素が化学反応を速めている。グルコース、脂肪酸、アミノ酸の各代謝を学修した後、代謝調節の例も学修する。代謝系は細胞のニーズに応じてその働きが調節され、また、長い代謝系のはじめの段階で制御することにより、代謝反応全体が無駄のないようにしていることを学修する。

第6章 生殖と発生

卵子と精子による受精、誕生についてヒトの例で学修する。次に細胞の分化により、外胚葉、中胚葉、内胚葉のそれぞれの胚葉から限られた臓器ができることを学修する。三つの胚葉に分化すると限られた臓器や組織の細胞にしかたないことを学修する。

第7章 人の遺伝と遺伝病

遺伝をめぐる身近な問題、近親婚と劣勢遺伝、肥満と遺伝、体質と遺伝について学修する。肥満は遺伝3割、生活習慣7割ともいわれていることを学修する。知能や性格、さらに、分裂病、躁うつ病などの精神疾患、その他多くの病気において、遺伝的要因と環境的要因の両方が関わっていると考えられていることを学修する。

第8章 老化と寿命

老化について、「プログラム説」と「エラー蓄積説」についての学修をして、脳の老化を学修する。知的活動のうち、記憶力は年齢とともに低下するが、総合的判断力は長く持続し、双方とも年齢とともに個人差が大きくなることを学修する。

第9章 ホルモンの働き

ホルモンの種類と働き，化学的性質，作用様式，ホルモンによる調節の例を学修する。私たちの体内の恒常性は，ホルモンと自律神経との協調作用により維持されていることを学修する。

第10章 免疫のしくみ

免疫という現象は，一般に私たちが微生物やウイルスから自分の身を守るための感染防御として考えられているが，それだけではなく，アレルギー，エイズ，がん，臓器移植における拒絶反応，自己免疫疾患なども免疫と直接関連している現象であることを学ぶ。抗体が関与する免疫，細胞性免疫，病気に関連した免疫について学修し，特にエイズについても学修する。

第11章 神経と脳の働き

神経伝達の経路，神経細胞と神経伝達，脳の働きを学修する。脳は多数の神経細胞で構成され，それらが複雑に接続され，さまざまな情報や知的な活動を行っていることを学修する。脊椎動物の脳はどの動物でも基本的な構造はとても似ており，いずれも脳幹，小脳，大脳からなりたっていることを学修する。

第12章 病気との闘い

ガンについて，種類の推移，特徴，ガン遺伝子とガン抑制遺伝子，発ガン物質を学修する。また，ウイルスによる病気について学修する。ガンは，1980年頃，脳血管疾患を抜いてトップに立ち，以後年々増加して今や死亡原因の3分の1に達しており，近年，新聞紙等をにぎわしているのはウイルス疾患であることを学修する。

第13章 遺伝子組み換え技術とその応用

遺伝子組み換えやクローン技術などの新技術がこれまでの技術に加わり，バイオテクノロジーが貢献する分野が，農業や食品の分野だけでなく，医療，エネルギー，環境等の広い分野に広がり，とくに，遺伝子組み換え技術は新しいバイオテクノロジーの基本的な技術として広く応用されていることを学修する。遺伝子組み換えについての基礎知識を学び，遺伝子組み換え技術の応用や遺伝子組み換え作物とその安全性を学修する。

第14章 先端医療と生命倫理

生殖医療，臓器移植，再生医療等の急速な展開は，どこまで人間の倫理に反せずに可能であるか，どこからは踏み込んではいけない領域なのかの難しい問題をもたらしていることを学修する。遺伝子診断，生殖医療と出生の操作，臓器移植と脳死，終末医療と死の選択，再生医療など最先端の医療について学修した後，倫理の面からこれらのテーマについて学修する。

第15章 地球環境と生命

人類が誕生して，人間の文明の発展は人間中心の発展であり，人類が発展するには自然破壊を繰り返して行ってきた。一度破壊された自然は元の状態に戻ることはたいへん難しく長時間かかると予想される。生命に大きな影響を及ぼしているのは，地球温暖化，酸性雨，森林減少，砂漠化，オゾン層破壊，熱帯雨林破壊，水不足，環境化学物質等であることを学修する。一方，現在の世界の人口は70億人であるが，まだ爆発的に増加し続けている。他の生物と人間が生き延びるにはこのような環境問題にどのように対処する必要があるかを検討し，人類が他の生物と共存して生命を維持できる方法について学修する。

人類生態学

教養科目/2単位/1・2・3・4年前期開講/テキスト授業

■ 担当教員	末吉 秀二
■ 使用テキスト	テキスト：人類生態学 第2版 著者：大塚柳太郎他 出版社：東京大学出版会 出版年：2012年 ISBN：978-4-13-052301-1
■ 参考テキスト	テキスト：成長の限界 著者：メドウズ他 出版社：ダイヤモンド社 テキスト：地球人口100億の世紀 著者：大塚柳太郎他 出版社：ウェッジ社

講義概要・一般目標

人類生態学は、個体群レベルで人間の生存をとらえ、その生業・食物・人口学的側面に関する包括的な研究から、ヒトの環境への適応を明らかにする学問分野と定義される。本講義は、①生態系のなかの人間、②人間の生存と健康、③人口からみた人間、④環境問題と人間の大テーマをブレイクダウンして詳しく説明する。また、人間の活動に起因する今日の環境問題や人口問題の本質について理解を深める。

到達目標

今日の環境問題や人口問題を個体群レベルから理解できるようになる。またそれらの問題は、とくに私たち先進国の人びとのライフスタイル（例えば、大量生産・大量消費・大量廃棄）に大きく影響されている。問題解決にあたって最も重要な、ひとりひとりの当事者意識を育むことができるようになる。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

- ・上記の[テキスト解説と学修のポイント]を参考にして、テキストを読み進めてください。その際、科目認定試験のためにも専門用語はなるべく暗記するように心がけてください。添削課題は、使用テキストをしっかりと理解していれば回答できます。
- ・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

[テキスト解説と学修のポイント]

第1章 生態系の構造と機能、生態系におけるヒトの特殊性、バイオームの多様性とそのダイナミズムから、ヒト(人間)の生存と適応をイメージする。

第2章 人類が誕生して以来長期にわたる進化の過程において、ヒトは賢さというユニークな特徴を持つに至った。その賢さは変動する環境とどのような関係をもって獲得されたかを理解する。

- 第3章 人間は農耕と家畜飼育を発明し、地球上に拡散して多様な生存パターンをもつようになった。その過程が適応に深くかかわることを理解する。
- 第4章 人間の適応のユニークさを特徴づける社会の側面（家族、コミュニティ、社会組織、生業）が人間の生存に深く結びつくことを理解する。
- 第5章 人類進化の視点を踏まえながら、主要な環境因子（日照、気温・湿度、高度）へのヒトの適応と、さまざまなバイオームにすむヒトの身体的特徴を理解する。さらに、加齢とともに変化する身体特性が、遺伝的な要因だけでなく環境要因にも強く影響されることを理解する。
- 第6章 人間が環境にはたらきかける行動と関連するエネルギー収支、環境の周期性への対応、行動（活動）の効率にみられる性差・年齢差や個人差を理解する。
- 第7章 食物や栄養素の取得そして栄養状態はヒトの生存の基本である。それと密接に結びつく健康状態について、ヒトがもつ生物学的な特性とともに文化や社会の特性によって修飾されることを理解する。
- 第8章 病気は環境要因と人間のライフスタイルに関係することを、感染症や生活習慣病から理解する。
- 第9章 人間は時間的にも空間的にも多様な適応をはたしてきた。人間の人口特性は、地球上の地域あるいは集団ごとに多様であり、また時代とともに大きく変化してきたことを理解する。
- 第10章 人口指標をとおして個体群レベルの適応を理解する。
- 第11章 現代社会が直面する「人口問題」、すなわち人間の「生き方」に深く関係する現在の人口特性を理解する。
- 第12章 自然生態系の変化に直結するエネルギーと資源の利用、その歴史的な変化と多様化から環境問題の基本を理解する。
- 第13章 エネルギーと資源の利用および利用された資源の廃棄から、人びとのライフスタイルがもつ問題点、先進国と途上国との関係や環境思想の変遷を理解する。
- 第14章 人為的な環境劣化による健康影響がもっとも明白な化学物質から、具体的な環境と健康との関連を理解する。将来の人間の生存との関係でもっとも危惧されている地球問題を、酸性雨やオゾン層の破壊、熱帯林の減少や砂漠化、地球温暖化など直接的な原因から理解する。またその根底にある途上国の貧困や南北問題をはじめとする人間の「生き方」を考察する。

生涯スポーツ論

教養科目/2単位/1・2・3・4年前期開講/テキスト授業

■ 担当教員	久保園 明美
■ 使用テキスト	テキスト：生涯スポーツの理論と実際 改訂版 著者：日下裕弘 他著 出版社：大修館書店 出版年：2015年（第2刷 2015年9月1日） ISBN：978-4469266986
■ 参考テキスト	テキスト：小学校学修指導要領解説 体育編 著者：文部科学省 出版社：東洋館出版社 テキスト：幼稚園教育要領 平成20年3月告示 著者：文部科学省 出版社：教育出版

講義概要・一般目標

日本の体育・スポーツ行政は、文部科学省が管轄している。

平成9年に保健体育審議会がまとめた答申「ライフステージ別の生涯スポーツ」には、21世紀のわが国の生涯スポーツの基本的な考え方、指針、方策が示されている。その中には、生涯スポーツをエリックソンのライフサイクル論や一般的な発育発達論及びその他の健康・スポーツ科学などを総合的に考慮し、人生を大きく4つに分け、それぞれのスポーツライフのあり方が提示されている。さらに、そうした個人のスポーツライフを生涯にわたるスポーツ課題に結びつけ、それを家庭・学校・地域・民間・企業・行政が一体となって組織的に支援していくことの重要性が指摘されている。

本講義では、生涯スポーツの意義を学ぶことを通じて実践していく必要性を学修していく。

到達目標

到達目標としては、生涯にわたってスポーツに親しむ意義や、身体的・情緒的・精神的・社会的などのプラスの効果について理解を深める

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

- ① 日本レクリエーション協会公認「レクリエーション・コーディネーター」「福祉レクリエーション・ワーカー」として子供から高齢者・障害児（者）までレクリエーション活動の指導、普及を行う。
- ② 岡山県レクリエーション協会、岡山市レクリエーション協会の委員として地域のレクリエーション活動を支援し、生涯スポーツの普及を行う。また、指導者養成講習会の講師として活動を行う。
- ③ 日本スポーツ協会（旧：日本体育協会）の公認指導者として、地域のスポーツ少年団や成人の団体において球技の指導を行う。

◎ 上記の実務経験などを基に、子供から高齢者、障害児（者）における生涯スポーツの意義や重要性をテキストに沿って学生等に理解させたい。

学修の進め方

〔添削課題の進め方と留意点〕

テキストは第1章から第5章までとなっています。このテキストを熟読し、その上で照らし合わせながら進めて下さい。問題はすべての章から出題されていますので、問題文がどの章の内容になっているかを考えながら進めると効果的です。

また、論述問題では字数に気をつけながら要約して述べるよう注意して下さい。

〔フィードバック〕

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

第1章

① 総論 生涯スポーツの理念と構図

「生涯」「スポーツ」という概念は、人間の生（生命）・生活・人生（生涯）をより豊かにするための身体活動や運動を総称したものである。そこには遊び、スポーツ、余暇活動、健康運動といったさまざまな身体活動が含まれることから、ここでは理念とE・H・エリクソンのライフサイクル論（アイデンティティ論）について学ぶ。

② 総論 ライフステージ別生涯スポーツの実現方策

幼児期から成人（老年）後期までの各ライフステージにおける発育発達と遊びやスポーツのかかわりを学ぶ。あわせて、我が国のスポーツ施策「スポーツ基本法」「スポーツ基本計画」、中央教育審議会「子どもの体力向上のための総合的な方策について」（答申）、オリンピック、パラリンピック、スポーツ庁についても学修する。

第2章

① 子どもと遊び

昔の子どもと現代の子ども環境について、比較しながら親のかかわり方や遊びの変化を基に、現在の教育事情や家庭生活の問題点を学ぶ。

② 子どもと遊戯スポーツ

ここでは、子どものスポーツについて、大人の論理で行われる業績主義的な競争や勝利者や効率だけが価値をもち、称えられることに警鐘を鳴らしている。そして大人の支援、共援による「有能感」を育てることの重要性について学ぶ。

③ 遊びの諸理論

ここでは、遊びについてのさまざまな理論や分類についてふれる。また、安全、安心を保障された時空間で遊ぶ子どもの状態について学ぶ。

④ 乳幼児期の運動教育

ここでは、豊かな生（ライフ）をめざす生涯スポーツにとって、乳幼児期の運動遊びは基底的な重要性をもつ、ということを経に、運動自体がもつ楽しさ、喜びによる人間としての成長の意義を学ぶ。また、スポーツ少年団の事例から、学童期における運動の功罪についてふれる。

⑤ 子どもと「遊び」、「遊戯スポーツ」の実際

ここでは、遊びの中でも自然遊び・外遊び・季節の遊び・伝承遊びについてふれ、日本ならではの特色を学ぶ。また、現代社会の中で、遊ばない・遊べない子どもの増加において、大人による「しかけ」づくりの必要性を学ぶ。

第3章

① 青年とスポーツ・スポーツの本質

ここでは、青年期に行われるスポーツの効果について学ぶ。身体的・心理的・社会的成長に寄与し、自分の可能性をとことん追求できるのが青年期の特徴である。また、スポーツの本質要素として「遊び」「競争」「全身的な運動」「組織性」にふれると共に、「フロー理論」や「フェアプレイ精神」といったスポーツ文化についても学修する。

② 障害者とスポーツ

ここでは、障害者スポーツの意義についてふれ、ノーマライゼーション（ノーマライゼーション）の思想のもと、人間にとってスポーツとは何か、人間にとって目標や夢をもち、それに向かって努力することの大切さ、また充実した生の重要さを学ぶ。

③ 青年の「スポーツ」の実際

ここでは、生涯にわたってスポーツを愛し、実践し続け、その豊富な体験から自らのスポーツ・アイデンティティを築きあげた人物の中で、野球界の飛田穂洲氏とイチロー氏にふれる。

第4章

① 成人と「地域スポーツ」

ここでは、成人期として、自分のライフスタイルをできるだけ活動的にする主体的・継続的な健康スポーツ（体力づくり）ファミリースポーツ・交流スポーツを推奨していることにふれる。また、地域（コミュニティ）スポーツの年代ごとの特徴と「総合型地域スポーツクラブ」について学修する。

② 成人と「レジャー・スポーツ」の実際

ここでは、レジャー・スポーツについて諸外国の先進事例を学ぶ。ヨーロッパでは、生活における労働（学業）とレジャーの位置づけが社会システムとして制度化されており、スポーツクラブも100年以上古い歴史と伝統を有している。日本の現状と課題新しいスポーツ価値について学修する。

第5章 高齢者と「生きがい（健康・楽しみ・仲間）スポーツ」

高齢期の運動・スポーツの基本は「無理なく、規則正しく、そして楽しく」である。自分にあった軽めの、楽しい運動・スポーツを継続して行うことが大切である。この章では、「仲間と楽しみながら、気楽に」健康スポーツに親しむことの重要性について学修する。

生涯スポーツ実習

教養科目／1単位／1・2・3・4年前期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年5月29日(土) 9:30～18:20 2日目 令和3年5月30日(日) 9:30～18:20 3日目 令和3年6月5日(土) 9:30～18:20	該 当 時間割	B
	〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年5月21日(金) 必着		
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス第1体育館または第2体育館 (岡山県高梁市伊賀町8) 一高梁キャンパス校舎・敷地配置図参照一		

■ 担当教員	久保園 明美／高田 康史
■ 使用テキスト	スクーリング時に資料を配布
■ 参考テキスト	テキスト：小学校学習指導要領解説 体育編 著 者：文部科学省 出 版 社：東洋館出版社
	テキスト：幼稚園教育要領 解説 著 者：文部科学省 出 版 社：フレーベル館
	テキスト：保育所保育指針 解説 著 者：厚生労働省 出 版 社：フレーベル館

講義概要・一般目標

余暇時間の増加に対応すべく、スポーツを有効に活用して、生活の質を向上させる事のできる能力を身につけることを目的とする。体力を維持増進するための方法を含め、生涯にわたってのスポーツを楽しむことができる、基礎的スキルと態度を学ぶ。

到達目標

到達目標としては、生涯にわたるスポーツ活動を営むために、多様な種類のスポーツ活動を実施して体力を高めるとともに、実施法についても十分に理解することとする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

これまでのスポーツ経験を振り返っておきつつ、生涯を通じてスポーツに親しむために取り組みたいスポーツ競技・種目について考えておくこと。また、スクーリングにおいてはスポーツ実習となるので、日頃より運動の習慣をもっておくなどして、体力・運動能力の維持・向上を図っておくこと。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

スクーリング終了後においても、日常生活のなかでスポーツに親しむ習慣を身につけ、体力・運動能力だけでなく、生活の質(QOL)の維持・向上を図る。

〔フィードバック〕

スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行いません。

学修指導

1 日 目	講義 1 オリエンテーション及びチームわけ等 準備運動の実施法を理解する
	講義 2 体ほぐしの運動
	講義 3 体力を高める運動
	講義 4 高梁ウォーキング
	講義 5 選択スポーツ（バスケ、フリスビー、竹馬、一輪車など）
2 日 目	講義 6 生涯スポーツとは
	講義 7 バドミントン 基礎
	講義 8 バドミントン 応用
	講義 9 ソフトバレーボール 基礎
	講義 10 ソフトバレーボール リーグ戦
3 日 目	講義 11 ニュースポーツに触れよう①
	講義 12 ニュースポーツに触れよう②
	講義 13 ニュースポーツに触れよう③
	講義 14 ニュースポーツに触れよう④
	講義 15 講義 総括
	講義 16 科目単位認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

体調を整えておいてください。

〔準備するもの〕

運動のできる服装（着替えも含む）、体育館シューズ、タオルなど

*晴天時 屋外での活動を行う場合があるので外用運動靴の用意をしてください。

〔その他〕

適宜水分補給ができるようにしておいてください。

身体を使って実際に運動をするので、ストレッチや柔軟体操を事前におこなっておいてください。

対人関係論

教養科目／2単位／1年前期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年7月17日(土) 9:30~16:40 2日目 令和3年7月18日(日) 9:30~16:40 3日目 令和3年7月24日(土) 9:30~16:40 4日目 令和3年7月25日(日) 9:30~16:40	該 当 時 間 割	D
	〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年7月9日(金) 必着		
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10号館(岡山県高梁市伊賀町8)		

■ 担当教員	栗田 喜勝
■ 使用テキスト	テキスト：指定しない(スクーリング時に資料を配布)
■ 参考テキスト	テキスト：「ワークショップ人間関係の心理学」 著 者：藤本忠明他編 出 版 社：ナカニシヤ出版(書店販売・注文可)

講義概要・一般目標

心理学は一般的に「行動の科学」として認知されているが、その研究アプローチは多岐にわたる。中でも個人心理学は、環境との相互作用を行う個体(個人)に注目して知覚や感情、思考などについて科学的に究明してきたが、社会心理学は、個人と他者との相互作用の観点から、社会の中の個人の行動を科学的に理解しようとする学問体系であるといえる。そこで本講では、個人、集団に影響を及ぼす種々の心理的要因について具体的に取り上げ考察する。

到達目標

「社会における人と人との相互作用」と「社会的適応」をテーマとして、人々の具体的な日常生活場面における対人行動の特徴を理解することにより、よりよい人間関係のあり方について考察を深めることができるようになる。

評価方法

科目単位認定試験と授業中の発表を合わせて評価します。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

障がい児施設・児童養護施設において主任児童指導員・副園長として児童・保護者の人間関係改善、社会的適応援助に従事した。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

本授業では、対人関係について心理学的考察を行うが、夫婦、家族、親子、子ども同士の間関係等をテーマとした新聞記事や小説、TVドラマ等を視聴し、対人関係における言葉の影響力や人の感情の動き等について考えてみてほしい。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

スクーリングにおける学びをより確かなものにするためには、スクーリング時に配布した資料に再度

目を通すとともに、紹介した文献や図書等を通じて補完学修・発展学修に主体的に取り組む必要があります。特に本授業は人間関係の改善に資するための学びを目指すものでもあるので、各自の日常の人間関係の具体的な状況や課題について学ぶ姿勢が大切です。

〔フィードバック〕

スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行いません。

学 修 指 導

1 日 目	講義 1 心理学における対人関係の位置づけ
	講義 2 社会心理学の研究対象としての対人関係
	講義 3 社会的認知のメカニズムについて
	講義 4 社会的相互作用について
2 日 目	講義 5 社会的欲求と適応行動について
	講義 6 対人関係とストレスについて
	講義 7 対人関係とフラストレーションについて
	講義 8 対人関係と対人認知
3 日 目	講義 9 印象形成について
	講義 10 対人関係と感情
	講義 11 社会的態度と行動について
	講義 12 社会的態度とステレオタイプ
4 日 目	講義 13 社会的態度と偏見
	講義 14 社会的態度変容について
	講義 15 講義のまとめ
	科目単位認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

特になし

〔準備するもの〕

筆記用具（講義資料は当日配布します）

〔その他〕

特になし

社会福祉

専門教育科目／2単位／1年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	中野 明子
■ 使用テキスト	テキスト：社会福祉 新基本保育シリーズ④ 著者：松原 康雄・坪 洋一・金子 充編 出版社：中央法規 出版年：2019年2月 ISBN：978-4-8058-5784-7
■ 参考テキスト	テキスト：社会福祉小六法（最新版） 著者：ミネルヴァ書房編集部 出版社：ミネルヴァ書房

講義概要・一般目標

社会福祉は、生活課題を抱えた人々への様々な支援を内容としている。生活課題には、児童虐待などの児童問題、貧困、障害児・者問題、高齢者問題などがある。それらに対する支援には、社会福祉制度、政策、法律、福祉サービス、相談援助活動などがある。さらに年金や医療などの社会保障制度やボランティア活動などを含めて社会福祉と呼ぶ場合もある（広義の社会福祉）。ノーマライゼーションの実現や人権の保障に向けて、人々がより良く生きるために、どのような支援が必要とされ、実施されているのかを学ぶ。

到達目標

この講義では、以下のことを到達目標とする。

- 1 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。
- 2 社会福祉の制度や実施体制について理解する。
- 3 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する
- 4 社会福祉の動向と課題について理解する

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施する。

学修の進め方

この手引きの講義概要や目標を確認し、『学修の手引き』の〔テキストの概要と学修のポイント〕を参考に、教科書の各講義の内容を掴みましょう。分からない言葉や項目は調べてみましょう。学修ノートを用意してメモしておけば、添削課題でも役に立ちます。添削課題で出題されている内容も教科書で確認しながら学習を進めて下さい。以上のような学習を繰り返しおこない、単位認定試験を受けて下さい。フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントをつけて返します。

学修指導

第1講 社会福祉の理念と歴史の変遷

ここでは社会福祉の輪郭を掴むために、社会福祉とは何か、どのような理念があり、どのような歴史があるのかを説明している。

第2講 子ども家庭支援と社会福祉

保育者が家庭を支援することの重要性について学び、実際の仕事を通して、子ども家庭福祉について理解できるよう説明されている。

第3講 社会福祉の制度と法体系

本講では、社会福祉の法制度の体系を整理し、法律名をあげそれぞれの内容を説明している。具体的には、社会福祉法(1951)、民生委員法(1948)、身体障害者福祉法(1949)、知的障害者福祉法(1960)精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(1950)、発達障害者支援法(2004)、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(2005)などについてである。最後に法制度を活用した事例を紹介している。

第4講 社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等

本講では、社会福祉の行政機関である福祉事務所、児童相談所、身体障害者厚生相談所、知的障害者更生相談所など各種相談所について説明している。また、福祉財政の状況にもふれ、社会福祉サービスの費用負担の方法や利用方法についても説明している。社会福祉施設の種類やその機能についても述べている。

第5講 社会福祉の専門職

保育士が家庭支援をするにあたり、保育士以外の、様々な社会福祉の専門職との連携を必要とする場合がある。本講では、社会福祉の資格の定義や役割・機能等を、根拠となる法律から理解する。さらに児童福祉施設に配置される専門職およびその他の専門職との連携・協働の意味について学び、地域における他職種および地域住民との連携・協働についても理解できるよう説明している。

第6講 社会保障および関連制度の概要

本講では、日本の社会保障制度の概要について述べている。具体的には、労働保険(雇用保険制度および労働者災害補償保険制度)、公的年金制度、医療保険制度のほか、介護保険制度などの社会福祉制度などもあげ、説明している。

第7講 相談援助の理論

本講では、相談援助の理論について、その成り立ちや理論の発展過程について学ぶ。保育所や社会福祉施設における相談についても解説している。

第8講 相談援助の意義と機能

2001(平成13)年改正の児童福祉法により、保育士は国家資格となった。その際、児童福祉法18条の4において、保育士は、「児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者」と定義された。これはこれまでの子どもの養護に加えて、保育士にも相談援助の役割が課せられたことを意味している。本講では、ソーシャルワーク(相談援助)の基本事項について説明し、ソーシャルワークの視点や原則についても述べている。

第9講 相談援助の対象と過程

本講でも相談援助(ソーシャルワーク)について述べており、子ども、保護者、地域に応じた関わり方について説明し、相談援助過程について解説している。

第10講 相談援助の方法と技術

相談援助の方法と技術の全体像と相談援助の視点について述べている。つづいて、相談援助における援助関係の形成や人と環境との関わり、環境や社会資源への働きかけにおいて必要な方法や技術についても説明している。

第11講 社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ

2000(平成12)年の「社会福祉法」の改正により、福祉サービスは、これまで行政の判断で決めていた「措置制度」ではなく、利用者が自らサービスを選択し、事業者との対等な関係を前提にして契約を結ぶ「利用契約制度」によって提供されることになった。対等な関係を可能にするためには、福祉サービスに関して知識や情報の乏しい利用者や判断能力に不安のある利用者に対して保護する策が必要とな

る。教科書では、成年後見制度、日常自立支援事業、苦情解決制度などをあげて説明している。

第12講 少子高齢化社会における子育て支援

今日の少子高齢化は、社会の存続が危ぶまれるほど深刻な問題である。教科書では、その現状にふれた後、少子化の原因（未婚化・晩婚化、既婚夫婦の出生数の低下）について述べ、エンゼルプラン（1994）をはじめとする国の少子化対策の展開について説明している。

第13講 共生社会の実現と障害者施策

2006(平成18)年、国連により「障害者権利条約」が採択され、障害のある人とない人の共生社会の実現が目指されている。本講では、WHOの障害の概念について解説し、それによって障害のとらえ方を学び、さらに日本の障害者の現状や障害者の権利条約を踏まえた障害者施策について理解できるよう解説している。

第14講 在宅福祉・地域福祉の推進

人間関係が希薄になっている現代、一人暮らしの高齢者、ひとり親家庭など近隣相互の関わり合いを大切に、「共に生きる地域づくり」を目指すことが求められている。2000(平成12)年の社会福祉法に、「地域福祉の推進」が謳われ、具体的に行うために、同法107条には「市町村地域福祉計画」が、同法108条には「都道府県地域福祉支援計画」の策定について規定されている。教科書では、市町村地域福祉計画の内容や地域福祉の実際の内容について紹介している。

また2015(平成27)年の「子ども・子育て支援新制度」においても「地域の子ども・子育て支援の充実」が求められ、地域における子育て家庭の支援のために、保育士をはじめとする専門職と地域住民とのつながり、関係機関同士の連携が必要であることも述べられている。

第15講 諸外国の社会福祉の動向

福祉国家の考え方について説明し、福祉先進国における社会福祉の歴史と動向についても紹介している。

地域福祉論

専門教育科目／2単位／2年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	黒宮 亜希子
■ 使用テキスト	テキスト：新版 よくわかる地域福祉 (やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ) 著者：上野谷加代子ほか(編著) 出版社：ミネルヴァ書房 出版年：2019年 ISBN：4623085929 (9784623085927)
■ 参考テキスト	指定なし

講義概要・一般目標

地域福祉の歴史的展開および現在の地域福祉活動・事業の内容とその主体，それらを支える関連法制度・政策を中心に学ぶ。

地域福祉を社会福祉の一分野として捉えるのではなく，福祉サービス利用者の地域における自立生活を支援するための理念・技術について深く理解することが求められる。

さらには，地域福祉の具体的な推進方法や，地域福祉の推進主体である人材や集団・組織，それぞれの役割などについても理解することを目標とする。

到達目標

到達目標として5つを挙げる。

- ①地域福祉に関する基礎的な概念・用語の理解
- ②地域福祉に関する基本的な政策・法令の理解
- ③地域福祉に関わる人々や団体・組織の役割を知る
- ④地域福祉に関する実践例の理解
- ⑤地域福祉に関する近年の動向を知る(子ども・災害分野)

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

障がい者施設等での実務経験を活かした，地域における幅広い地域福祉実践について。

学修の進め方

・社会福祉領域の中でも，特に「地域福祉」に関する基本的な用語を基に出題している。

添削課題は，基本的に各単元において重要な語句である太字部分及び左右見開きに解説が加えられている用語を元に出題している。難解な用語は重要語句の前後の文章を読み込むことで理解が深まるであろう。

・学修の流れとしては，①テキストを章ごとに読み込み全体を理解する，②添削課題を読み，どの章のどの単元から出題されているかを確認する，③添削課題の問いに対し，テキストを確認しながら用語や文章を記入する，以上3ステップで学修を進められたい。

・フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを残します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

I 地域福祉とは

本章では、地域福祉とは何か、また地域福祉の機能（働き）とは何かを、各市町村（松江市・西宮市・宝塚市・名張市）の実践例を通して理解する。

II 地域福祉の理念と概念

本章では、以下の2つの項目を中心に学ぶ。①地域福祉の理念（考え方、目標など）、②地域福祉を構成する基礎的な概念の理解（社会的包摂、ボランティアリズム、協働・パートナーシップ、エンパワメント等）。

III 地域福祉の発展

本章では、イギリス、アメリカ、北欧、日本における地域福祉の基礎的な歴史について学ぶ。日本については戦前、戦後、1990年以降に分けてそれぞれ学習を進める。

IV 地域福祉の政策展開

本章では、地域福祉の政策的な展開の流れを学ぶ。「地域特性に応じた地域福祉の展開」、「地域生活移行」、「共生型サービス」、「権利擁護」らがキーワードである。

V 地域福祉の推進方法

本章の目的は、地域福祉を推進するための方法論の理解である。

その中でも、「ニーズキャッチ」、「アセスメント・プランニング」、「ソーシャルサポートネットワーク」、「組織化」、「多職種連携」、「福祉教育」らが主なキーワードである。

VI 地域福祉の推進主体 ①地域福祉を推進する人々

本章は、地域福祉に関わる「人材」について学ぶことを目的とする。

地域福祉推進の主体となる、「コミュニティソーシャルワーカー（CSW）」、「ボランティアコーディネーター」、「地域住民・ボランティア」、「民生委員・児童委員」ら、それぞれの役割と活動の実際について学ぶ。

VII 地域福祉の推進主体 ②地域福祉を推進する団体/組織

本章では、地域福祉の推進主体となる団体や組織の役割について学ぶ。

具体的には、「社会福祉協議会」、「町内会・自治会」、「社会福祉施設」、「ボランティア・NPO」らを中心に学ぶ。

VIII 子どもと地域福祉

本章では、子どもと地域福祉の関わりについて学習を深める。キーワードは、「子育て支援」、「子どもの居場所」、「貧困と子ども」らである。

IX 災害と地域福祉

本章では、近年各地に頻発する災害とその支援方法について学ぶ。特に、災害支援のプロセスと支援方法、災害ボランティアらを学習の中心とする。

X 地域福祉計画と実際

本章では「地域福祉計画」について学ぶ。地域福祉推進のためには、住民らの主体的な関わりや活動の積み重ねが重要である。そのためになぜ地域福祉計画が必要なのか、どのように計画を策定するのか、方法論・計画プロセスも併せて学ぶ。

XI 地域福祉と評価方法

本章では、地域福祉分野における「評価」について基礎的な学習を進める。なぜ今、評価が必要なのか、背景を理解した上で、複数の評価方法について学ぶ。

ボランティアコーディネーター論

専門教育科目／2単位／2年後期開講／テキスト授業

■ 担当教員	米良 重徳
■ 使用テキスト	テキスト：学生のためのボランティア論 著 者：岡本榮一 他編 出 版 社：社会福祉法人大阪ボランティア協会出版部
■ 参考テキスト	テキスト：ボランティアマネジメント 自発的行動の組織化戦略 著 者：桜井政成 著 出 版 社：ミネルヴァ書房

講義概要

大きく3つのセッションに分けて学習をする。第1セッションはいわゆる導入部分にあたるが、ボランティア総論的な部分である。ボランティアとは何か、人はなぜボランティア活動に魅せられるのかが問われる。第2セッションは具体的なボランティア活動の社会的な意義について学ぶ。具体的な生活の場面でボランティア活動がどのように有効的に機能するのか幾つか事例を紹介しながら学びを深めていく。第3セッションが本講義の結論的部分でもあり、メインの内容となる。ボランティア活動を効果的に進めていくにはボランティアコーディネーターの存在が不可欠である。ボランティアコーディネーターはどのようにコーディネーションを行っていくのかまたボランティアコーディネーターを擁するボランティアセンターの機能はどのようなものであるかについて学びを進めていく。

到達目標

本講義の到達目標はまずボランティアの存在意義を知るようになることである。社会のニーズが多様化していく中でまちづくりはこうした社会的課題を1つ1つ解決していくことから始まるが、今や行政だけではもう十分なまちづくりはできにくく、住民の主体的な関わり即ちボランティア的な働きが不可欠である。そのことに思いが至ることがまず第1歩である。次にこのボランティア活動を効果的に進めるためにボランティアコーディネーターの存在が必要であることに気づいて、そのボランティアコーディネーターの支えになったり、自らボランティアコーディネーターとして働くような動機づけがなされれば、本講義の最終到達目標が達成されることになる。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

教員生活に入る前、財団法人神戸 YMCA, 財団法人岡山 YMCA にて 33 年間の実務経験が有り、これらの知見を踏まえ、ボランティア活動全般に関する内容を体系的に学修できるよう添削課題を作成しました。

学修の進め方

3問の添削課題に沿って、学びを進めて下さい。各問のポイントについて説明します。

1. 第1問について

ご自身の基本的な考え方を問う問題です。従って必ずしも正解があるとは限りません。いろんな考え方があっても確認できればと思います。学びのスタートです。

2. 第2問について
指定テキスト「学生のためのボランティア論」の始めから順番に問題を設定しています。従ってテキストをよく読んで、正解を探して下さい。
3. 第3問について
総合的に考えて、答を文章にまとめて下さい。
4. フィードバック
フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学習のポイント〕

第1章 ボランティア=自ら選択するもう一つの生き方

自ら課題を選択するもう一つの生き方、それがボランティアの特徴です。それは「おもしろそうだ」とか「おかしいぞ」といった気づきから始まります。最近は活動の多様化が進んでいます。ボランティアリズムは、このような多様なボランティア活動を支える理念であり理想なのです。あなたと一緒に、この不思議な魅力をもつボランティア活動の「窓」を開けてみませんか。

第2章 その時そこにボランティアがいた

歴史の中に出現するボランティアとはどんな人たちなのでしょう。またどんな役割を果たしていたのでしょうか。そして私たちに何を教えてくれるのでしょうか。

第3章 ヒトはなぜボランティアをするのか

「他人の役に立ちたい」気持ちと、「自分が得たい」気持ち。どちらもあるのが人間ではないでしょうか。タダで働くヒトの心を分析すると、いろいろなことが見えてきます。

第4章 「公共」は、誰が担うのか

暮らしやすい世の中は、お役所が作るものと思いませんか。それは、一見気楽に見えて、実は自由や創造性に欠ける社会かもしれません。本当に暮らしやすいのではない社会かもしれません。公共は、誰が創っていくのでしょうか。

第5章 ボランティア活動が生み出す新しい価値

ひとりひとりの、小さいけれど自発的な意思がネットワークされ、それがさざ波となり、やがて大きなムーブメントになり、1つの価値を生み出す、という現象が情報ネットワークの世界で生まれています。価値は、権威をもつ人、ヒエラルキーのトップにいる人だけが生み出すものではなくったのです。マイクロソフト帝国に勝る価値を生み出したのは誰でしょうか。

第6章 地域の課題を発見してみる

まちを歩いてみましょう。気になること、困ったことはありませんか。わたしたちのまちのくらしにはいくつもの課題があることが分かります。そうした課題の解決を図るのはそこに住むわたしたち自身です。

第7章 市民の視点から解決を探る

いろいろな事例を紹介します。子どもの学びと成長の場は「学校」だけですか。大学生の力を地域に還元してみましょう。高齢期の「食」の問題から地域の人たちの協働空間づくりを考えました。理想の老人ホームがないなら自分たちで作ってみました。

第8章 ボランティアは「教育」にどうかかわるか

ボランティア活動が教育の現場でも見られるようになりました。教育の手段としてボランティア活動が活用されるようになりました。また、地域のボランティアが学校の中で活動するケースが増えてきました。さらに生涯学習の一環としてのボランティア活動が認知されるようになりました。

第9章 新たな自治の創造

最近「まちづくり」という言葉がよく使われるようになりました。私たちのまちは私たち自身の

手で創るという考え方が広がっているからです。ボランティア活動は「まちづくり」そのものです。

第10章 足元から地球へ

環境破壊や貧困，紛争が有限の地球を危険な状態に貶めています。地球を守るためにまずは自分自身を変えそして地域を変えそして自分の国を変えることで世界が変わることになります。ひとりが変われば，世界が変わるという信念を持って行動する市民パワーが求められています。

第11章 ボランティアマネジメント

ボランティアがしっかりとした成果を出すためにはボランティアコーディネーターの存在が不可欠です。ボランティアは自発性に基づいて活動するためとかく摩擦を起こしがちです。ボランティアマネジメントに長けたコーディネーターの差配が必要な理由がここに 있습니다。

第12章 インタメディアリとしてのボランティアセンター

最近 NPO 運動を推進するために中間支援組織の存在がクローズアップされています。ここで言うインタメディアリです。行政や企業その他 NPO 同士のネットワークの核となる存在です。まさしくコーディネーション機能がその中核にあります。ボランティア活動を円滑に進めるためにボランティアセンターがその役割を担います。

保育の計画と評価／保育課程論

専門教育科目／2単位／3年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	秀 真一郎
■ 使用テキスト	テキスト：最新保育講座5 保育課程・教育課程総論 著 者：柴崎正行・戸田雅美・増田まゆみ 編 出 版 社：ミネルバ書房 出 版 年：2010年 I S B N：978-4-623-05733-7
■ 参考テキスト	指定なし

講義概要・一般目標

保育を行う上で大切なことは、いかに子ども達の成長発達を理解し、理解した上で適切な内容を提示するかになる。そのためにも保育の計画を立案することは内容を考慮することと同様に重要なことといえる。計画を立てることで、子どもの成長に対する短・中・長期的見通しのもと、より効果的な内容の提示が可能となる。保育における計画・実践・省察・評価・改善の過程を理解し、保育の内容と質の向上を目指す計画の立案についての理解を深める。

到達目標

保育課程の編成に伴う基本的な理論と技法を理解することを目的とする。保育における計画、実践、省察・評価、改善の過程について、全体構造とそれぞれの役割とその関係性について理解することを目指す。子どもにとって大切な遊びを中心とした保育カリキュラムについて、理論的な理解と子どもの発達を見通した保育のあり方、長期・短期の指導計画の意味とその実質的内容など、保育環境の構成にも考慮することで理解する。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

- ・ポイントとしては、各章における「ねらい」とは何かを念頭に置きながら、テキストをよう見込んでください。特に、保育において大切な「計画とは何か」について深い理解と広い見解を持つことを意識してください。自らの保育観を表現する上で大切な学びとなります。
- ・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

第1章 保育の基本と計画

この章のポイント

保育の基本的な考え方は、子どもたちの主体性を大事にして生活や遊びを展開していくことです。この基本的考えを基に、一人ひとりの発達に合った保育を考えていかななくてはなりません。保育の基本的な考え方について確認し、計画のあり方や保育を展開するための見通しの持ち方などについて考えます。

第2章 指導計画の種類と役割

この章のポイント

より子どもの姿に即した具体的、実践的な計画の立案は、保育を行う上で大切となります。指導計画には様々な種類があり、その特徴も違います。よりよい保育へつなげるために、指導計画について考えます。

第3章 保育における計画の考え方 —0、1、2歳児を中心に—

この章のポイント

0、1、2歳児の保育は、優しく愛情深い大人との継続的なかかわりによる人への基本的信頼感によって形成されます。また、一人ひとりの子どもの実態に即して保育が展開できるよう、個別的な計画の作成が必要です。0、1、2歳児の保育における計画について考えます。

第4章 保育における計画の考え方 —3、4、5歳児を中心に—

この章のポイント

0、1、2歳児の保育とは切り離れた、3、4、5歳児の保育はありません。しかし、0、1、2歳児とは少し違った発達の姿が見られることも理解しなければなりません。子どもたちが生き生きとした遊びや生活を展開できるよう、計画にも工夫が必要です。以上のことを踏まえ、3、4、5歳児の保育における計画について考えます。

第5章 小学校における計画との関係

この章のポイント

子ども達には、小学生になることへのよろこびと期待があります。小学校との連携・交流活動は、このようなよろこびと期待をより確かなものへと変えていきます。小学校における計画と保育における計画との関連を捉え、さらには入学前後の「接続期」のあり方について考えます。

第6章 保育における計画の変遷

この章のポイント

現在の保育の計画の考え方と内容は、これまでの保育の計画のそれと比較することを通して、初めて明確に認識し理解できます。計画の歴史を振り返りながら、現在における計画の意味を考えます。

第7章 日案から週案の作成 —4歳児の場合—

この章のポイント

実際に保育者が子どもの姿をどのように捉え、指導計画を作成しているかに焦点を当てています。実際の週日案を例に挙げ、作成のプロセスと長期指導計画の活用方法について考えます。

第8章 日案から週案の作成 —3歳児の場合—

この章のポイント

生活の中で保育者の援助を必要とする時期から徐々に移行するのが3歳児です。その一方で、まだまだ大人に甘える姿が見られるのもこの時期です。安定した生活の中で見せる成長と、一人ひとりの発達を踏まえた計画の作成について考えます。

第9章 教育課程の見直し

この章の内容には、本講義では特に触れません。

第10章 保育課程の見直し

この章のポイント

保育課程とは保育所保育全体を統括するものであり、保育の基本となるものです。多様な保育が1つの保育所で実践されている現在、保育課程においてもそのすべてが射程に収められている必要があります。保育課程の見直しにおいて、計画作成の一つとなるウェブ方式を通して計画作成方法について考えます。

第11章 0、1歳児の指導計画の実際

この章のポイント

0、1歳児は一人ひとりの発達段階や個人差が大変大きいです。そのため、指導計画の作成もさることながら、個人記録が大変重要になっていきます。0、1歳児の記録から、指導計画作成の実際を見ていき、考えます。

第12章 2歳児の指導計画の実際

この章のポイント

できることへの自信と思い通りにならない葛藤を経験する2歳児は、達成感や満足感からくる意欲の育みが必要です。また、子ども間のかかわりから言葉の成長とトラブルを経験します。集団における成長を意識した保育について考えます。

第13章 3歳児の指導計画の実際

この章のポイント

個と集団の両方が生活の中で混在する時期です。どちらか一方に集中することなく、個を見ながらの集団と集団を見ながらの個を意識した計画が必要です。実践の一例を見ながら、計画作成の材料と捉えることで保育実践に活かされる指導計画を考えます。

第14章 4歳児の指導計画の実際

この章のポイント

生活の自立と自立が生み出すゆとりを感じる時期です。また、友だちとのかかわりがより密になることから、我慢・自己主張などの自分の心の葛藤から学ぶ社会性を意識しなければなりません。より安定した自立を目指した指導計画の作成について考えます。

第15章 5歳児の指導計画の実際

この章のポイント

最上年齢となるこの時期、心と体の成長に安定が見受けられます。安定が見られるからこそ、様々なことにおいて定着と挑戦が必要となり、定着と挑戦がさらなる成長を促します。生活を充実したものとなるような指導計画について考えます。

子育て支援論

専門教育科目／2単位／1年後期開講／テキスト授業

■ 担当教員	栗田 喜勝
■ 使用テキスト	テキスト：子育て・子育て支援学（2014年増刷版） 著者：寺見陽子 編著 出版社：保育出版社 出版年：2014年増刷（初版2011年） 販売所：教育情報出版直販のみ（TEL06-6658-8741） ISBN：978-4-938795-93-1
■ 参考テキスト	テキスト：実践子ども家庭福祉論 著者：栗田喜勝 他編著 出版社：中央法規出版（書店販売・注文可）

講義概要・一般目標

今日の子どもを取り巻く生活環境の大きな変容の中で、家庭や地域における子育て力の低下により生じている様々な子育て問題について学ぶとともに、各種の制度・政策による子育て支援プランについて概説し、子育て支援の役割を担う援助者に求められる専門性について考察する。本講を受講することにより、家庭や地域社会における子どもの育ちの保障、次世代育成支援や子ども家庭福祉の現状や課題について学ぶとともに、各種児童福祉施設や機関における子育て支援の実際や専門職の役割についても学ぶことができる。

到達目標

家庭や地域社会における子どもの育ちの保障をテーマとして、次世代育成支援や子ども家庭福祉の現状や課題について学ぶことにより、各種児童福祉施設や機関における子育て支援を担う保育者の専門性について理解することができる。

評価方法

開講期の途中(中間期)に添削課題による中間評価を行い、一定の学修成果の認められる者(添削課題の正答率が50%以上)に対して期末の科目単位認定試験を行い評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

障がい児施設・児童養護施設の主任児童指導員・副園長として児童の発達支援と保護者に対する子育て支援を実践した。

学修の進め方

〔添削課題出題の意図及び課題の進め方(学び方)について〕

本科目の添削課題については、専門知識修得状況確認のための①正誤解答式課題、②用語補充式課題、ならびに思考力・考察力確認のための③論述式課題の三部からなっており、多面的に学修内容の理解度を確認できるように構成されています。したがって、課題に取り組むためには、使用テキストの各章を熟読して、学びのキーワードとその意味について理解するとともに、章のテーマ・主題について考察を深めることが求められます。

〔フィードバック〕

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを記載し返却します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

第1章 子育て・子育ての原風景

この章では、子どもが育つ、子どもを育てるということについて、産育習俗やさまざまな国や民族の子育ての基底に流れる子育て観、子ども観、家族観を比較概観し、その原点を考える。

具体的な学修内容としては、①日本における子育ての習俗と歴史、②日本の子育て・子育てにみられる親子関係と家族観、③さまざまな民族の子育て・子育て、④習俗・歴史にみる子育て・子育ての基本について学ぶ。

第2章 現代社会の子育て・子育て

ここでは現代社会における近代化、都市化の進行は、社会・経済の構造、人々の生活意識や価値観を変化させてきた。この章ではそうした変化が子どもの育ちや保護者の子育てにどのような影響をもたらしたかについて考察する。

学修内容としては、①心理的危機を生み出した生活環境・人間関係の変化、②グローバル化がもたらした社会構造の変化、③家庭・地域の教育力の低下とその背景、④子育ての変容と子育て不安、⑤少子化対策と子育て支援施策等について学ぶ。

第3章 子育て支援の基本

この章では、保護者の子育て支援の基本は、健全に育つ子ども権利を前提として、保護者の生活支援、子育てと仕事の両立支援、適切な親子関係の形成、家族や地域の教育力の向上、子育て環境やネットワークづくりの必要性について学ぶ。

学修内容については、①子どもの人権と福祉、②少子化と女性をめぐる社会システムの改革、③男女共同参画とワーク・ライフ・バランス、④子育てと仕事の両立と子育て不安の解消、⑤養育力の向上と家庭・地域の教育力の再生について学ぶ。

第4章 保護者支援の視点と展開

保護者支援の視点として、保護者の生活状況や意識、子育てニーズを把握し、気持ちを受容したかわりとともに、そのストレスを軽減する支援、養育性を高める支援、就労と子育てを両立させる支援、子育て生活への経済的支援、不適切な養育への支援などについて考察する。

具体的には、①保護者支援の意義、②保護者の育児不安とストレス軽減への支援、③保護者のアイデンティティと養育性の獲得支援について、④保護者の就労と子育ての両立支援、⑤保護者の生活支援、⑥不適切な養育への対応と地域連携について学ぶ。

第5章 乳幼児期・学童期の子どもを支援する視点と展開

子どもの育ちは、子どもが環境と自発的にかかわり、関係づくりをしていく過程で促される。子どもの生活環境づくり、仲間とのかかわり、保護者や他の大人による子どもの気持ちや育ちを見通したかわりや援助の必要性について学ぶ。

学修内容としては、①子どもの発達と育ちをみる臨床心理学的視点と援助の意義、②乳幼児期の子どもの発達と親子関係、③学童期の子どもの発達と親子関係、④乳幼児期・学童期の子どもの養育・教育と大人の役割、⑤子どもの人権とその擁護について学ぶ。

第6章 課題を抱えた子どもとその保護者の支援

子どもは、必ずしも順調とはいえない育ちを見せる場合もある。そのようなとき、保護者の悩みは大きくなる。育ちに課題や障がいを抱えた子どもへの対応と、その保護者の心理を理解した適切な支援のあり方を学ぶ。

学修内容については、①子どもの発達しょうがいの理解、②発達の課題や障がいのある子どもの保護者の心理と理解、③療育と特別支援、④専門機関との連携、⑤多様なインフォーマルサポートとその視点等について学ぶ。

第7章 家族へ支援

家族は、情緒的絆で結ばれた第一次集団であり、生活における情緒的安定と経済的基盤をつくり、子どもという次世代の育成を行う場である。子どもが育つ場として、また、保護者が親として生きる場として、そのあり方について考察する。

学修内容については、①家族の定義、②現代の家族の変容と課題、③家庭支援と家族援助の基本、④父親参加とファミリーサポート、⑤ひとり親家庭の支援等について学ぶ。

第8章 次世代育成支援の視点と展開

子育て支援は、子育て中の保護者とその子どもへの支援とともに、将来、母親や父親になる若者（中高生や大学生）への支援も重要な課題である。子育てを終えた人や祖父母世代など多世代の人々が地域でサポートする体制づくりの重要性について学ぶ。

具体的には、①若者支援に求められるもの、②多様な世代の子育て支援、③行政・企業・関係機関との連携について学ぶ。

第9章 子育て支援の実践に生かす諸理論と視点

子育て支援は、専門的な方法によらないインフォーマルなサポートが功を奏することも少なくない。しかし、支援の意義や効果を確かめたり、支援方法の妥当性を検討するためには、ある程度見通しを持ったあり方を考えておく必要がある。カウンセリングやソーシャルワークなどの子育て支援に関連する領域の知見を学び、子育て支援に生かす方法を考える。

内容としては、①ソーシャルサポートとしての子育て支援、②子育て支援に生かすカウンセリング基礎技術と心理療法、③子どもの発達とアセスメント、④対人援助技術とコミュニケーションスキル、⑤ソーシャルワークとケアマネジメント等について学ぶ。

第10章 支援システムの構築とネットワークづくり

子育て支援は、専門機関では計画的な支援が実施されるが、一般的には、緩やかな計画か、ノン・プログラムで、出会いや交流を目指した支援が多い。この章では、支援計画を構築する方法について、事例を通して具体的に学ぶ。

学修内容としては、①育児・保育におけるニーズの把握、②支援計画とプログラムの作成、③インターベンションとエヴァリュエーション、④地域資源の活用と専門機関との連携について学ぶ。

第11章 子育て支援の実際

これまでの子育て支援の基本と実際について、さまざまな機関や施設などで行われている子育ての実際を具体的に理解する。

具体的には、児童館、保健センター、保育所、幼稚園、放課後子ども教室(学童保育)、療育センター、子育て支援センター、大学等における子育て支援について学ぶ。

第12章 子育て支援における専門性

子育て支援は、「支援する－される」関係ではなく、ともに育ち合う関係づくりが重要である。また、人の心にかかわる対人援助活動であり、支援にかかわる人の、人間を尊重し、真摯に向き合う姿勢や豊かな人間性が求められることを学ぶ。

学修内容としては、①豊かな人間性と支援者の資質、②自己洞察と自己決定、③受容と共感、④プライバシーの保護と守秘義務、⑤実践と理論の統合等について学ぶ。

子ども文化論

専門教育科目／2単位／2年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	白神 幹夫
■ 使用テキスト	テキスト：消費社会と子どもの文化 改訂版子ども社会シリーズ6 著 者：永井 聖二、加藤 理 出 版 社：学文社 出 版 年：2015年 I S B N：978-4-7620-2543-3
■ 参考テキスト	テキスト：児童文化〔第2版〕 著 者：原 昌、片岡 輝 出 版 社：建帛社

講義概要・一般目標

今の子どもたちの考え方や態度、行動に不安とまどいを感じ、ときにはうろたえてさえいます。子どもの態度や言動が大人の理解をはるかに超え、そのために子どもを理解できず、確信を持って対処できないのです。かつてとは異なり子どもたちは、学校・家庭・地域を越えたところからの影響を強く受けるようになっていきます。

本講義ではアニメ、絵本、雑誌、おもちゃ、子供服などをはじめとする様々な子ども文化は、情報化社会や消費社会を推進する一翼を担いながら、子どもたちの日常生活の隅々にまで浸透しているその現状をふまえ、子どもを取り巻く様々な文化的環境について学び、子どもの発達に深く関わる「子ども文化」の機能について、また「子ども文化」の持つ教育機能の多面性についても理解を深めたい。あわせて、消費社会と子どもの文化の視点から子どもの問題への関心を深め子どもという存在と子どもたちの現状についても理解を深めていきたい。

到達目標

将来学校現場で児童を指導して行くにあたり、「子ども理解」は大変重要な要素である。過去及び現在の子どもの文化的な環境と子ども文化の機能について理解し、小学校教員採用試験に対応できるレベルに到達するとともに学校において実際の各教科領域の指導また一社会人としての子どもたちへの接し方の一助として生かせることを到達目標とする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

○ 添削課題に目を通し、正誤問題・選択問題、次いで空所補充問題にテキスト該当箇所を見つけ、解答しましょう。その際、用語に注意し正しく理解していくことが大切です。論述問題は自分の言葉で解答していくことが求められますが、解答の根拠はテキストから読み取って下さい。

○ 全問にしっかり向き合ってください。添削課題は当科目のエッセンスです。自力でテキストを学習し身につけていく際の指標にしていただければと思います。

○ 添削課題の提出、回答が返ったら必ず添削課題の解答解説を参考にして問題を見直し、添削課題の内容はしっかり理解して全問正答できる力を身につけて下さい。そうすれば科目単位認定試験に自信を持ってのぞむことができます。

- こつこつ学ぶ座学が多いですが、座学はやればやるほど成績は上がります。また、添削課題やテストをやりぬくことで、覚え間違い、勘違い等 独学で陥りやすい知識や考え方の訂正ができます。のぞましい教師像やのぞましい児童像におもいをいただき、当通信教育を通じて、夢を実現していただきたい。
- フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学 修 指 導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

第1章 消費社会と子どもの文化

子ども観について

第2章 「児童文化」の誕生と子どもの文化

「児童文化」が生まれた社会的な背景について、おもに教育との関連を中心に確認し、子ども文化のなかで、「児童文化」はどのような位置にあり、どのような特質を持って子どもたちをとりまいているのかを確認する。

第3章 モダニズムと子ども用品の誕生

子ども用品が誕生した社会的な背景について確認する。

第4章 子どもの文化とメディアミックス

情報伝達方法の変化とメディアミックス戦略とその問題点について理解する。

第5章 子どもの読み物と絵本の誕生

子どもたちに向けて出版された読み物と絵本がどのような動向の中から生まれ、どのように発展していったのかを確認する。

第6章 子ども雑誌の世界

子ども雑誌というメディア、いくつかの特色からとらえ直し、その輪郭を明らかにする。同時に子ども文化における位置づけ。

第7章 アニメと子ども

アニメーション番組の現状と課題について知る

第8章 子どもの音楽文化

「子どもの音楽文化」について、その意義と伝承のしくみ、現代社会における課題を考える。

第9章 子どもとメディア

子どものメディア利用に対しての大人たちの対応のスタンスをとらえる。メディア利用に生じている課題を明らかにし、教育や子育ての実践場面での必要な関わりについて理解する。

第10章 子どもとテレビゲーム

子どもへのテレビゲームの影響と有効利用について知る。

第11章 子どもとインターネット・ケータイ

子どもを取り巻くインターネットや携帯電話といった現代社会における新しいメディアと子どもの関係について考察する。

第12章 消費社会の進展と子どもの変容

子どもたちの間に見られる変化の個々の要因を、「消費社会」の進展という視点から読みとる。

第13章 消費社会の中の子どもと子どもの文化

消費社会を生きる子どもたちのさまざまな現象と問題を課題として考える。

子ども家庭福祉/児童家庭福祉

専門教育科目/2単位/1年後期開講/テキスト授業

■ 担当教員	栗田 喜勝
■ 使用テキスト	テキスト：子ども家庭福祉論 シリーズ・福祉を知る3 2版 著者：山縣 文治 出版社：ミネルヴァ書房 出版年：2018年3月
■ 参考テキスト	テキスト：社会福祉小六法 2017[平成29年版] 著者：ミネルヴァ書房編集部 出版社：ミネルヴァ書房

講義概要・一般目標

講義概要としては、子育て家庭に対する支援の意義や支援体制、支援のあり方、現状などを理解する。保育士の専門性を活かした支援のあり方や、保護者との連携・協力の必要性、子育てやその支援を通して保護者や地域がエンパワーメントすることの大切さを知る。保育士に求められる基本的態度や保育士の倫理、援助スキルを理解する。また、地域の社会資源を知り、その連携や協働の必要性を理解する。また、1990年代以降、社会環境は激しく変化し、少子高齢社会も進行している。子ども及びその家族の生活は大きな影響を受け、子どもにふさわしい生活が見えにくくなっている。貧困、虐待、障害、非行、子育て不安など、現実には起こっている子どもや家族の生活問題（福祉問題）の現状及びその対応策を学ぶとともに、子どもにふさわしい生活（ウエルビーイング）とはどのような生活か、それを実現するために、私たちは、子どもにかかわる専門職として何ができるかということを考えたい。

到達目標

この講義は以下のことを到達目標とする。

- 1 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
- 2 子ども人権擁護について理解する。
- 3 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
- 4 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。
- 5 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。

評価方法

科目単位認定試験により評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施する。

担当する授業科目に関連した実務経験

障がい児施設・児童養護施設の児童指導員として児童の発達支援および保護者に対する子育て支援を実践した。このような経験を踏まえ、保育者の専門性を活かした子育て家庭に対する支援の実践について実践例を交えた授業を行い、履修学生の理解を深めさせる。

学修の進め方

- 1 まず、テキスト『子ども家庭福祉論』を『学修の手引き』及び『社会福祉小六法』と照らし合わせながら、関心を持った箇所、気になった箇所に目印をつけたり、要点をノートに書き取ったり等、理解しながら読む。
- 2 テキストの理解できなかった箇所を再度読み、自分で調べてみる。該当する法律と参照したり、テ

キストの章末に記載されている参考文献等を読んで調べる。インターネットを利用すると手軽に調べやすいが、インターネットの情報には、注意をすることが必要である。

- 3 調べた結果を整理して、納得できなければメモをしておき、科目担当教員に質問をする。
- 4 添削課題は、自分の学びと理解度の程度を確かめるためのステップである。これだけの内容を知っておれば、科目認定試験に合格するという類のものではなく、通信教育での自分の学びの程度を知る一つの手がかりだと考えればよい。学ぶ内容の範囲は広く、深いので、添削課題に内容の全てを網羅することは出来ない。添削課題がそれまでの自分の学びでは理解できなければ、テキスト、参考文献等で調べて学び、解答するとよい。
- 5 添削課題によって、自分の理解の程度が確認できたら、テキスト、添削課題解答解説を手がかりにして、さらに学びを発展させる。添削課題に関連する内容だけではなく、自分が重要だと考える内容についても学習する。
- 6 単位認定試験を受験し、自分の学びの程度を確認する。
- 7 フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを記載し返却します。

学修指導

テキストの学修のポイントを以下に示す。

第Ⅰ部 子ども家庭福祉とは何かを知る

第1章 少子高齢社会と子ども家庭福祉問題

学修のポイント

- 少子高齢社会の中で子どものおかれている現状を理解する。
- 子どもの育つ環境や家庭の生活問題について認識する。
- なぜ子どもの生活問題が起こるのかを考える。

第2章 子ども家庭福祉の基本的考え方

学修のポイント

- 児童福祉と子ども家庭福祉の違いを理解する。
- 基本的枠組みを構成する4つの基本要素を理解する。
- 社会情勢によって変化する子ども家庭福祉の基本理念とウェルビーイングについて理解する

第3章 子どもという存在と子ども家庭福祉

学修のポイント

- 「子ども」と「保護者」、その関係について理解する。
- 児童観の変遷について理解する。
- 「人権」と「権利」について理解する。
- 児童の権利について理解する。

第4章 子ども家庭福祉の展開

学修のポイント

- 子ども家庭福祉は社会福祉の一分野である。社会福祉の始まりの様子（原初状態）、及び、4つの福祉の形態を理解する。
- わが国の子ども家庭福祉の発展過程を社会状況と関連させて理解する。
- 産業革命期のイギリスの救貧法、新救貧法、バーナードホームの処遇と子ども観、入所生活とホスピタリズム等を理解する。

第5章 子ども家庭福祉の制度

学修のポイント

- 子どもの福祉にかかわる主な法律の概要を学ぶ。
- 子ども福祉を实践する機関や施設の機能と役割について理解する。
- 子ども福祉を实践するための財政を学ぶ。

第Ⅱ部 子ども家庭福祉の実際

第6章 子ども家庭福祉の援助

学修のポイント

- 相談を受ける者（援助者）としての基本的な心がまえを学ぶ。
- 保育士の倫理綱領とその子ども観を学ぶ。

○社会福祉援助は、基本的な援助プロセスに従って行なうので、そのプロセスを理解する。

○子ども家庭福祉は多くの職種によって支えられていることを理解する。

第7章 母子保健・子どもの健全育成と子ども家庭福祉

学修のポイント

○母子保健とは、妊娠期から幼児期の子どもと母の心身の健康を支援する施策であることを理解する。

○子どもや家庭を取り巻く環境の変化に伴い、施策の目的や内容、対象が大きく変わっている。その変化の過程を学ぶ。

○「健やか親子21（第2次）」を理解する。

○子どもの健全育成とは、一般の子どもたちに対する施策である。主な健全育成施策を整理する。

第8章 地域子育て支援と子ども家庭福祉

学修のポイント

○子ども及び家族の福祉は、社会状況との関連によって変化するという視点をもって学ぶ。

○地域子育て支援の取り組みと経過、その内容について理解する。

第9章 就学前の拠点型保育・教育と子ども家庭福祉

学修のポイント

○就学前の子ども及び家族の福祉は、社会状況との関連によって変化するという視点をもって学ぶ。

○保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園を中心にその変化や現状を理解する。

○サービスメニュー（社会制度）は大人社会の要請にそって多様になっているが、それが子どもの福祉にとって適切なのかどうかを常に意識しておく。

第Ⅲ部 さまざまな状況にある子どもを支える子ども家庭福祉

第10章 社会的養護と子ども家庭福祉

学修のポイント

○社会的養護問題とは何かを理解する。

○社会的養護問題は子どもの生存権にかかわることを認識する。

○社会的養護のあり方を考える。

第11章 虐待を受けている子どもと子ども家庭福祉

学修のポイント

○子ども虐待（保護者及び施設職員等による虐待）の実態を把握する。

○子ども虐待への対応を学ぶ。

第12章 情緒障児・少年非行と子ども家庭福祉

学修のポイント

○情緒障害、発達障害、知的障害の定義と対処方法の違いを理解する。

○非行少年の対応に対する児童福祉法、少年法の取り扱い及びその関係について理解する。

第13章 子どもの貧困・ひとり親家庭と子ども家庭福祉

学修のポイント

○子どもの貧困の現状を知り、支援策について学ぶ。

○ひとり親家庭の現状を知り、支援策について学ぶ。

第14章 障害のある子どもと子ども家庭福祉

学修のポイント

○障がいのとらえ方（国際生活機能分類）について理解する。

○障がいのある子どもとその家族の現状と福祉施策、その内容を理解する。

終章 子ども家庭福祉サービスの動向と展望

学修のポイント

○社会状況の変化とともに変容する社会福祉、子ども家庭福祉施策を、その時代の国民生活を支える制度として理解する。

○基礎構造改革の意義を、第4章を振り返りながら理解する。

○子ども家庭福祉の課題について整理しておく。

相談援助の理論と方法 I

専門教育科目 / 2 単位 / 3 年前期開講 / テキスト授業

■ 担当教員	中野 明子
■ 使用テキスト	テキスト：「相談援助の理論と方法 I 第3版」 著者：社会福祉士養成講座編集委員会 出版社：中央法規 出版年：2017年 ISBN：978-4-8058-5103-6
■ 参考テキスト	テキスト：「相談援助の基盤と専門職」 著者：社会福祉士養成講座編集委員会編 出版社：中央法規 出版年：2011年 ISBN：978-4-8058-3253-0

講義概要・一般目標

この授業科目は「相談援助の理論と方法」の I と II を通して、ソーシャルワーク（社会福祉援助技術）の基本的な知識を習得することを目的とする。I では、相談援助とは何かを概観し、ソーシャルワークの構造や機能、相談援助における援助関係、相談援助の展開過程を主に学ぶ。これらの学修を通して、ソーシャルワークが個人や家族、集団、地域社会などへの幅広い援助方法であることを理解してほしい。また、ソーシャルワーク独自の援助を展開することを理解してほしい。

到達目標

この科目では、社会福祉の援助技術であるソーシャルワークの基本的な知識を得ることができる。保育士が子育て家庭の様々な問題の解決を支援するためには、ソーシャルワークの知識は極めて大切である。受講生が、ソーシャルワーカーにとって必要な価値や知識、技術を身につけることが目標である。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web 学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

- ・ソーシャルワークという援助技術は、カウンセリングだけでは対応しきれない生活問題に対して、具体的な援助を行う方法です。それは環境調整や地域における社会資源を活用するような方法です。カウンセリングと同様に、保育士や教員にとって非常に大切な援助方法となりますので、この際によく勉強してみてください。
- ・添削課題は、テキストに沿って作成してありますので、それほど迷うことなく、解答を見出すことができると思います。
- ・課題に該当する箇所だけでなく、関連する領域についても読み進んでいけば、理解は一層深まります。ぜひソーシャルワークの理論と方法について正しく学んでください。
- ・単位認定試験の問題は、添削課題から 8 割は出す予定です。添削課題をしっかりと学べば、必ず単位の取得につながります。
- ・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

この科目のテキストは、科目「相談援助の理解と方法Ⅱ」と共通です。この科目ではテキストの第1章から第5章までを使用します。

第1章 相談援助とは

社会福祉分野の援助方法・援助活動をソーシャルワークと言い、その援助者をソーシャルワーカーと言う。この章ではソーシャルワークがどのような職場で、どのような援助を実践しているのかを学ぶ。ソーシャルワークにおける相談援助の全体像を把握することになる。

具体的には、①ソーシャルワーカーの具体的な事例、②仕事からとらえたソーシャルワークの定義と枠組み、③ソーシャルワークを構成する要素、④ソーシャルワークの職場、⑤ソーシャルワーカーが所属する組織について学ぶ。

第2章 相談援助の構造と機能

社会福祉の援助技術であるソーシャルワークは、カウンセリングのような人の心理や行動に焦点を当てた援助とは異なり、環境と人との関わりの中で問題を把握しようとする。そのサービスなどの援助は、援助の利用者自身だけでなく、その環境にも向けられる。さらにその両者の関わり方自体にも向けられる。ソーシャルワークという援助がどのような枠組みをもち、どのような働きかけをするものなのかを学ぶ。

具体的には、①ソーシャルワークの構造、②ソーシャルワークにおけるニーズ、③ソーシャルワークの機能について学ぶ。人と環境の捉え方や援助を必要とする人のニーズ、サービスとしての社会資源などの基本的な考え方を学び、ソーシャルワーカーの役割について学ぶことになる。

第3章 人と環境の交互作用

ソーシャルワークは「人とその環境」の交互作用に視点をあてて対象を把握し、援助を展開しようとする。「人」と「環境」を全体として見ようとする視点を持っている。ここでは、環境の意味や人と環境をシステムとして捉える考え方を学ぶ。

具体的には、一般システム理論の考え方を理解し、システム理論によるソーシャルワークの方法を学ぶ。

第5章 相談援助の展開過程Ⅰ

相談援助の展開過程には一連の流れがあり、この章では援助活動を実践するまでの過程について学ぶ。援助は問題の把握から始まり、情報収集や関係形成、見立てなどを行い、得られた情報から問題のアセスメントを行う。アセスメントという理解や評価をもとに援助計画を立てていくことになる。この援助計画という援助目標の設定と援助方法の決定によって、具体的な援助活動が実践される。この章では、ニーズキャッチからプランニングまでを学ぶ。

具体的には、①相談援助の展開過程の流れ、②ケース発見、③受理面接（インテーク）、④問題把握からニーズ確定まで、⑤ニーズ確定から事前評価（アセスメント）まで、⑥事前評価（アセスメント）から支援標的・目標設定まで、⑦支援標的・目標設定から支援の計画（プランニング）まで、⑧支援の計画（プランニング）から支援の実施まで、について学ぶ。

相談援助の理論と方法Ⅱ

専門教育科目／2単位／3年後期開講／テキスト授業

■ 担当教員	中野 明子
■ 使用テキスト	テキスト：「相談援助の理論と方法Ⅰ 第3版」 著者：社会福祉士養成講座編集委員会 出版社：中央法規 出版年：2017年 ISBN：978-4-8058-5103-6
■ 参考テキスト	テキスト：「相談援助の基盤と専門職」 著者：社会福祉士養成講座編集委員会編 出版社：中央法規 出版年：2011年 ISBN：978-4-8058-3253-0

講義概要・一般目標

「相談援助の理論と方法」Ⅱでは、Ⅰで学んだ知識を基盤に、アウトリーチや援助契約、ソーシャルワークのアセスメント、介入技術、ソーシャルワーク面接の方法、記録などについて学ぶ。これらの学修を通して、利用者の支援や援助に必要な様々な社会資源を知り、エンパワーメントやネットワークによる援助、ソーシャルアクションなどについても理解してほしい。また、学生は自ら社会福祉現場での具体的な事例を読むことによって、ソーシャルワークの実際を理解してほしい。

到達目標

この科目では、「相談援助の理論と方法Ⅰ」に引き続き、ソーシャルワークの基本的かつ実践的な知識を得ることができる。保育現場等での援助者として必要な倫理観や援助観などの価値観、援助に必要な様々な理論、援助のプロセス、身につけるべき援助方法などについて学ぶことができる。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

- ・ソーシャルワークという援助技術は、カウンセリングだけでは対応しきれない生活問題に対して、具体的な援助を行う方法です。それは環境調整や地域における社会資源を活用するような方法です。カウンセリングと同様に、保育士や教員にとって非常に大切な援助方法となりますので、この際によく勉強してみてください。
添削課題は、テキストに沿って作成してありますので、それほど迷うことなく、解答を見出すことができると思います。
課題に該当する箇所だけでなく、関連する領域についても読み進んでいけば、理解は一層深まります。ぜひソーシャルワークの理論と方法について正しく学んでください。
単位認定試験の問題は、添削課題から8割は出す予定です。添削課題をしっかりと学べば、必ず単位の取得につながります。
- ・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

この科目のテキストは、科目「相談援助の理解と方法Ⅰ」と共通です。この科目ではテキストの第6章から第12章までを使用します。

第6章 相談援助の展開過程Ⅱ

この章では、相談援助過程の後半として、実際の援助活動（インターベンション）を通して利用者にはどのような変化が起きているのかを把握し、必要なら再度アセスメントをし直し、援助が効果をあげ、終結するならその効果測定を行い、援助の終結を決定する、このような援助の展開過程を理解する。また、終結後のアフターケアの必要性や今後の予防的対応についても学ぶ。

具体的には、①経過観察（モニタリング）、②再アセスメントと支援の強化、③支援の終結と効果測定、評価、アフターケア、④予防的対応とサービス開発について学ぶ。

第7章 相談援助のためのアウトリーチの技術

ソーシャルワークでは、問題を抱えながらも援助を求めない人たちをも援助対象と考えている。それらの人たちには、援助者側からの積極的な働きかけが必要になる。その方法がアウトリーチと呼ばれる。援助の手を差し伸べるという意味であり、家庭訪問などの活動がそれにあたる。ここではアウトリーチの意義や方法について学ぶ。

具体的には、①アウトリーチの意義と目的、②アウトリーチの方法と留意点について学ぶ。

第8章 相談援助のための契約と技術

実際の援助は、援助者と利用者が援助のための契約を結ぶことによって援助関係や援助活動が始まる。援助は、援助者と利用者が一定の目的や期間を設けて行う契約関係である。この章では、契約の目的や契約における合意の意義などについて学ぶ。

具体的には、①契約の意義と目的、②契約の方法と留意点について学ぶ。

第9章 相談援助のためのアセスメントの技術

アセスメントと呼ばれる利用者の問題把握や診断には、本人との面接や関係者からの情報収集、状況の調査などを通して得られた情報を意味づけ、問題点を明確にしていくことが大切である。ここでは、アセスメントの考え方や必要なツール、情報の整理などについて学ぶ。

具体的には、①ソーシャルワークにおけるアセスメントの特性、援助的関係、面接、②アセスメントで得るべき情報16項目と視覚化できるアセスメントツール、③アセスメント面接で得た情報の使い方について学ぶ。

第11章 相談援助のための経過観察（モニタリング）、再アセスメント、効果測定、評価の技術

一般にアセスメントを事前評価と呼び、モニタリングを中間評価、そして援助の終結に向けた評価を事後評価と呼ぶ。ここでは、モニタリングの効果測定や手続き、終結のための効果測定などについて学ぶ。

具体的には、①経過観察（モニタリング）、②再アセスメント、③効果測定、④評価とサービス開発について学ぶ。

第12章 相談援助のための面接の技術

相談援助を展開するためには、利用者本人との面接は極めて重要である。この面接を通して関係形成し、利用者のモチベーションを高め、利用者の不安を軽減し、有効な援助を提供していく。ここでは、面接の展開や援助者のスタンス、コミュニケーション技術などについて学ぶ。

具体的には、①相談援助における面接の目的、②相談援助における面接の展開、③面接において用いる技術とコミュニケーション、④相談援助における面接の形態について学ぶ。

子ども家庭支援論

専門教育科目／2単位／3年後期開講／テキスト授業

■ 担当教員	中野 明子
■ 使用テキスト	テキスト： 保育・教育ネオシリーズ 子ども家庭福祉の新展開 第2版 著 者： 才村純・加藤博仁編著 出 版 社： 同文書院 出 版 年： 2019年 I S B N： 978-4-8103-1486-1
■ 参考テキスト	テキスト：「学び、考え、実践力をつける家庭支援論」 著 者： 木村志保・津田尚子編著 出 版 社： 保育出版社 出 版 年： 2016年 I S B N： 978-4-905493-10-5

講義概要・一般目標

家族の主要な役割は子育てであるが、今日ではその子育て、子育てを難しくする状況が出現している。多様な家族形態ばかり、コミュニケーションを低下させる環境、家族の孤立傾向、子どもの集団不適応、いじめ、虐待、貧困、外国籍の家族などである。子どもとその家族、家庭への支援のためには、家族福祉の構造や家族支援の体制、事業、サービスなどを把握することからはじめ、具体的にどのような支援方法があるのかを理解し、保育士としての具体的な相談援助活動の展開を知ることが大切である。ここではソーシャルワークやカウンセリングの援助技術が用いられる。子どもに関わる問題の解決にはその家族、家庭に対する支援が必要である。その支援は内面のみならず関係性や環境をも支援対象としたものになる。

到達目標

この科目の学修によって、今日の我が国における子どもとその家族、家庭に関わる問題状況を把握し、家庭福祉に関わる法制度や家庭支援事業、サービスを理解することができる。その上で、子どもと家族、家庭に対する相談援助や保育相談支援のあり方を、ソーシャルワークやカウンセリングの方法論を活用した具体的な方法として身につけることができる。子どもや子育てに関わる問題を広く、深くアセスメントでき、面接を通して具体的な支援活動を展開できる保育士になることが目標である。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

・この教科では、子どもとその家族、家庭に対する家族福祉の構造を学んだ上で、家族、家庭への援助方法を学んでいきます。今日の我が国では様々な子育て支援に関わる法制度や事業、サービスが展開されていますので、まずはそこから理解してもらい、その上で具体的な援助技術である子育て家庭への相談援助、保育相談支援を理解していきます。後半は具体的な家庭支援の方法や保護者面接について学んでいきます。子どもや子育てに関わる問題を解消・解決するためには、家族や家庭の問題を解消すること、保護者への支援を通して解決することになります。保育士や教員にとって、子ども本人への援助や教育と同時に、その保護者への支援が重要とされるのはそのためです。

添削課題には、どこを調べれば良いかが明示されています。迷うことなく課題の解答を得ることができると思います。ぜひ該当箇所だけでなく、その他の領域についても読み進めてほしいと思います。

単位認定試験は、この添削課題から 8 割が出される予定です。添削課題をしっかりと学べば、単位取得は容易です。

・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学 修 指 導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

第 1 章 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的展望

- (1) 子ども家庭福祉とは何か
- (2) 子ども家庭福祉の歴史的展開
- (3) これからの保育士に求められるもの

第 2 章 子ども家庭福祉制度とその運用

- (1) 子ども家庭福祉に関する法律
- (2) 子ども家庭福祉制度の体系
- (3) 子ども家庭福祉の財源
- (4) 子ども家庭福祉の計画と進展

第 3 章 子ども家庭福祉の現状と課題

- (1) 子ども家庭福祉の現状と課題
- (2) 健全育成
- (3) 母子保健
- (4) 保育
- (5) 子ども・子育て支援
- (6) 子どもの育ち・子育てへの経済的支援
- (7) 社会的養護
- (8) 障害とハンディキャップ
- (9) 非行・情緒障害
- (10) 一人親家庭
- (11) 子どもの貧困と家族への支援

第 4 章 子どもの権利擁護

- (1) 子どもの最善の利益の保障
- (2) 子ども虐待への対応

第 5 章 子ども家庭福祉の動向と展望

- (1) 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進
- (2) 地域における連携・協働とネットワーク
- (3) 諸外国の動向

第 6 章 子育て家庭に対する支援と連携

- (1) 子育て家庭に対する支援の体制
- (2) 保育と子育て支援の実際
- (3) 地域の子育て家庭への支援
- (4) 多様な支援の展開と関係機関との連携

第 7 章 子ども家庭支援の方法

- (1) 子ども家庭支援の意義と必要性
- (2) 子ども家庭支援の目的と機能
- (3) 保育士の子育て支援
- (4) ソーシャルワークとカウンセリングの方法
- (5) 保育士に求められる基本姿勢
- (6) 保育士の資質向上
- (7) 家庭の状況に応じた支援
- (8) 地域との連携・協力

心理学概論Ⅰ／心理学Ⅰ

専門教育科目／2単位／1年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	土居 正人
■ 使用テキスト	テキスト：心理学・入門 心理学はこんなに面白い 著者：サトウタツヤ・渡邊芳之 著 出版社：有斐閣アルマ 出版年：2019 ISBN：978-4-641-22138-3
■ 参考テキスト	テキスト：心理学 著者：無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治 著 出版社：有斐閣 出版年：2004年 ISBN：4-641-05369-3

講義概要・一般目標

心理学Ⅰおよび心理学Ⅱをとおして、心理学全般について解説する予定です。したがって、心理学Ⅰでは、特に心理学でも最も基礎的なこと、つまり、心理学とはどのような学問か、心理学の課題、心理学の研究法、心理学の生物学的基礎、行動の動機付け、感覚・知覚 学習、記憶、知能、人格等について解説します。

心理学というと、「読心術」のようなものを学ぶ学問だと考えている人もいますが、この科目にそのようなことを期待するとがっかりします。心理学は、「人間の行動について科学的に研究する学問」です。なお心理学で言う「行動」とは、歩くとか、話をするなどの外から観察可能な表に現れる行動だけをさすのではなく、思考、感情それに生理的反応（精神的な理由による発汗、心拍の変化など）を含めたものを意味します。

それから心理学の定義にある「科学的に研究する」ということについてですが、「科学的に研究する」というと、一般的には、自然科学などにみる厳密な実証的研究方法を指すことが多いと思いますが、心理学では、研究対象が、どうしても客観的な形で捉えにくいけど、人間の行動を理解するうえで非常に重要な「行動の質的な側面」を研究しなければならないことも、しばしばあります（たとえば感情の動きなどのような）。したがって、心理学の研究では自然科学的な厳密な研究手法だけでは対応できないところもあります。

そのようなことから心理学特有の研究手法もとられますが、心理学で用いられる主な研究手法を具体的に述べると、自然観察、実験、アンケート、面接法、心理検査法などです。これらの研究手法の他に、臨床心理学などでは、症例研究（一人の事例について詳細に検討するもの）という方法がとられます。

これから心理学を学ぶにあたって、まずは、上に述べたことをしっかり把握してください。心理学は人の行動を研究対象とするだけに研究テーマは無限にありますし、また身近な私たちの行動を研究対象とする学問だけに非常に興味を持てる学問です。

それでは、じっくり心理学について勉強し、心理学とはどのような学問なのかを具体的に理解してください。

到達目標

心理学は、人間行動の理解を目指し、人間の行動を科学的に研究する学問です。そのために心理学では、どのような側面から、どのような研究方法をもってアプローチしているのか、そして現在どのような研究領域が展開しているのか、その概略を体系的に理解することを目指します。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

これまでに私は心理臨床現場における臨床経験（児童精神科、小中高校のスクールカウンセリング、大学学生相談、適応指導教室、児童相談所の夜間・休日相談）を積ませていただいたことから、臨床心理学全般の実務経験を有していると考えています。また、心理学部心理学科（通学生）の授業科目では、「心理検査実習」、「臨床の倫理」、「心理学理論と心理的支援」、大学院では「臨床心理学研究法特論」、「投影法特論」など、臨床的な講義を担当してきました。それ以外にも、「学習心理学」や「人格心理学」、「心理学実験実習」、「心理統計」、「社会と統計」、大学院では「心理統計法特論」などの基礎的な分野も担当してきました。

これらの知見を踏まえて、心理学全般に関する内容を体系的に学修できるよう課題を作成しました。

学修の進め方

・添削課題出題の意図、及び課題の進め方

心理学は日常にも応用できる学問です。自分の日々の生活を思い浮かべながら、学修を進めていくことをお勧めします。なお、解答解説には日常で、どのように使われているかについても解説しています。皆さんも、「この法則は日常ではどのようにして使えるだろうか」と考えながら読み進めていってほしいと思います。

課題について、教科書を読みながら必要な個所を埋めていきましょう。ただ埋めるだけでなく、理解しながら課題に取り組んでもらいたいと思います。

・添削課題をまとめるにあたっての留意点

心理学の中でも重要な所を重点に問題を作成しました。必要な個所は覚える必要がありますが、それ以外のところにもとても役に立つ知識でありますので、ぜひ覚えていってほしいと思います。認定試験の際には、課題と同じ個所が出てくるとは限りません（違う所も出します）。教科書内を幅広く覚えていくよう心がけましょう。

・効果的な学修の流れ

添削課題の部分しか、知らないということにならないように、まずは教科書を全て読んでから、問題を解くことが大切です。そうすることによって、どこにどのようなことが書いてあるかを理解して進めていくことで、全体像が理解しやすくなります。

・フィードバックについて

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

はじめに

心理学Ⅰでは、テキストの第1章から第4章までの内容について学修することにします。

この授業で使用するテキストは、その章立ての順序が、一般的な心理学のテキストの章立てと多少異なっております。つまり、一般的には、基礎心理学（たとえば知覚心理学など）の解説が、最初の章で取り上げられるのが通常ですが、本テキストでは、第1章で臨床心理学の解説から始まっています。その理由は、テキストの「はじめに」のところに述べてあります。つまり従来の心理学のテキストの章立てでは、心理学に対する学修者の興味を失うような内容から始まる章立てになっているので、学修者が興味を持つような内容から順に章立てをしたと記してあります。したがって、著者の意図を尊重して、この授業では本書のテキストの章立てにしたがって学修を進めていくことにします。

序章 心理学のテーマは無限（心理学とは何か？）

序章のポイント

「心理学とは人の行動について、科学的に研究する学問である」ということを講義概要のところで述べましたが、この序章では具体的に、心理学が研究の対象とするいろいろな行動の例を挙げてあります。実にさまざまな行動が心理学の研究テーマとなり得ることをこれらの例から見て分かります。要するに人間の行っていること、考えていること、感じていることなど人間のとる行動なら何でも研究対象になり得るということです。この序章であげてあるこれらさまざまな行動の例について目を通しながら、講義概要のところで述べた心理学で用いられる研究法も参照にしながら、これらの行動について、どの研究方法を用いることができそうか、そうしたことも考えながらこの章を読んでみてください。

第1章 悩みを抱える人を助ける（臨床心理学）

第1章のポイント

臨床心理学とは、「不健全な行動に関わる諸問題について研究する心理学の学問・実践分野」です。臨床心理学の分野が、どのような歴史的背景をもって展開してきたのか、また、臨床心理学は、どのような問題に、どのように取り組んでいるのか、また臨床心理学の活動分野として、どのような分野があるのか、また不健全な行動の査定に用いる心理検査法にどのようなものがあるのか、さらに不健全な行動への支援、治療などの介入法にどのようなものがあるのかなどのが具体的に紹介されています。そして、これら心理検査法の開発や介入法を提唱した人についても解説してあります。

ただ、臨床心理で用いる心理査定法として、この章では主に心理検査法がとりあげられています。心理的査定法としては、心理検査法のほかに面接法、行動観察法などがあります。これら面接法と行動観察法については、この章ではあまり触れていませんので、これらの内容については他の参考書などで調べてみてください。

この章のポイントにある解説内容とテキストの内容から臨床心理学とは、どのようなことについて研究・実践を行う分野なのかを具体的に理解しましょう。

特にこの章にある精神分析、行動療法、認知行動療法それに人間性心理学は、臨床心理学の基盤となる理論と治療技法となるものです。よく理解しましょう。また集団を治療対象とする家族療法、集団療法についても理解してください。

第2章 性格は変えられるか（性格と個人差の心理学）

この章のポイント

人は、おかれている環境や状況の違いにもかかわらず、比較的、一貫してその人らしい行動傾向がみられます。そこで、なぜ環境や状況のいかにかわらず、比較的に一貫した行動を人はとるのかという問題に取り組むことは、人の行動を研究する心理学においては重要な研究テーマの一つだと言えます。これらの問題に取り組む心理学の分野を「性格心理学」といいますが、性格心理学では、人が比較的に一貫した行動をとるのは、人には「性格」というものが備わっており、それが各人のそれぞれの行動の一貫性と各個人間に見る個人差のある行動をもたらしているのだという捉え方をし、そしてこの性格というものが、どのようなものを追求し、解明しようとしているのが性格心理学の分野の主要な研究テーマと言えます。

この章では、性格心理学について、その歴史的背景や、性格というものを、どのように考え、どのようにとらえようとしているのか、また性格を形成する要因をどのように考えるのか、それからどのような出来事が、性格の変容をきたすのかといった問題などが解説されています。

第3章 身近な人や社会との関係（社会的行動の心理学）

この章のポイント

人が2人以上いる状況の中でとる行動を「社会的行動」といいます。私たちは、ほとんど毎日、誰か人のいる状況で生活しています。その意味では、私たちのとる行動のほとんどは社会的行動といえましょう。そのような意味では、人間の行動について研究する心理学にあっては、この社会的行動についての研究もきわめて重要な研究分野の1つと言ってもよいでしょう。この社会的行動を主に研究テーマとしている心理学の研究分野を「社会心理学」といいます。社会心理学の分野で主に行われている主要な研究テーマは、人と人がいかに結びつき、どのように影響しあい、そこにどのような社会的行動がみられるのかといった問題についてです。具体的には、他者に対する印象形成の問題や対人関係にかかわる諸問題や集団行動について、それからコミュニケーション行動について、それにコミュニケーションの歪んだ形態と言える流言飛語の問題などがとり上げられています。

す。

社会心理学は、日常の私たちの身近な行動を取り上げる学問分野だけに、現実的な問題が論じられる面白い心理学の分野です。

第4章 人が生まれてから死ぬまで（発達心理学）

この章のポイント

この章では発達と行動の問題を取り上げています。周知のごとく、人は、出生後、時間の経緯によって、さまざまな行動の変化をしめします。そして、この時間の経緯によって見られる行動の変化は、主として生物学的な成熟によるところとさまざまな経験とによって生じるものですが、これを発達といいます。この発達という現象との関連で人の行動を研究する心理学の分野が「発達心理学」です。

この章では、「発達心理学」について、学修していきますが、「発達心理学」の歴史は、児童期の諸心理的な問題に関する研究に始まりますが、今日では、発達心理学の研究分野は広がりを見せ、発達心理学の捉え方も変化し、今日では「生涯発達心理学」という名称に変わってきています。発達心理学の主要なテーマの1つは、人間の発達というのは、生まれつきによるものなのか、それとも育ち、つまり環境的な要因によるのかということが、児童を対象とするころの心理学のおもなテーマでした。素質論的（遺伝重視）な立場には、ゴールトンらがいます。ゴールトンは、ダーウィンのいともでもあり、彼自身精神的な能力の測定法を考えたり、さまざまな貢献をした人です。そして、発達の研究とかがわって生得説に近い立場を取った人に有名なゲゼルがいます。彼は成熟説といわれる考え方を実験的に実証し、成熟を待たないと訓練だけでは発達上の習得は難しいことをしめしました。

一方環境説の立場を取る考え方は、行動主義心理学といわれるものです。これの筆頭にたつ人はワトソンです。テキストに出てくるゴールトンにしろ、ワトソンにしろ心理学の歴史上有名な人たちですので名前とともに、どのような貢献をした人たちか覚えておきましょう。

環境も遺伝も大事だとするのがシュテルンで、これを輻輳説といいます。そのほかジェンセンの環境閾値説があります。今日では発達には、遺伝的要因と環境の相互作用説の考え方が主流となっています。さらに、発達について、優れた研究をし、優れた事実を発見したり、発達理論を提唱した人たちに、ピアジェ（認知発達理論）、ヴィゴツキー（社会文化的アプローチ）、エリクソン（心理社会的発達理論）などがいます。この人たちの提唱した理論や研究は興味あるものです。

以上、発達心理学に関する考え方、発達心理学へ大きく貢献した人たちなど、概略をみてきましたが、それに続いて、テキストでは実際に乳児期より、老年期における各発達段階でどのような能力を、またどのような行動特徴をみるのか、といったことが具体的に述べられています。それらの内容についてもよく学修してください。

ピアジェは特に発達心理学への非常な貢献をした1人で、子どものものの見方、考え方、捉え方など認知発達のあり方を明らかにした研究で非常に有名です。その内容は興味あるものであり、子どもの考え方を理解するうえで大事なものです。

心理学概論Ⅱ／心理学Ⅱ

専門教育科目／2単位／1年後期開講／テキスト授業

■ 担当教員	土居 正人
■ 使用テキスト	テキスト：心理学・入門 心理学はこんなに面白い 著者：サトウタツヤ・渡邊芳之 著 出版社：有斐閣アルマ 出版年：2019 ISBN：978-4-641-22138-3
■ 参考テキスト	テキスト：心理学 著者：無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治 出版社：有斐閣 出版年：2004年 ISBN：4-641-05369-3

講義概要・一般目標

心理学Ⅰでは、心理学の定義、臨床心理学、性格心理学、社会的行動、それに発達心理学について学修してきたが、心理学Ⅱでは、テキストの第5章で取り上げられている心理学的アセスメント（査定）について、続いて第6章では、私たちは、環境をどのように捉えるのかといった問題について、第7章で行動と学習の問題について、第8章では心理学の歴史について、そして最後の第9章で心理学は、どのような展開を今後見せようとしているのか、その未来について学修していくことになる。

到達目標

心理学Ⅰに続き、心理学Ⅱでも、心理学の主要な研究分野にどのようなものがあるのか、その基本的な事についての理解を目指す。具体的内容としては、心理的機能の測定法、環境知覚と行動との関係、行動形成における学習の原理、それに心理学の今後の動向について理解する。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

これまでに私は心理臨床現場における臨床経験（児童精神科、小中高校のスクールカウンセリング、大学学生相談、適応指導教室、児童相談所の夜間・休日相談）を積み重ねていただいたことから、臨床心理学全般の実務経験を有していると考えています。また、心理学部心理学科（通学生）の授業科目では、「心理検査実習」、「臨床の倫理」、「心理学理論と心理的支援」、大学院では「臨床心理学研究法特論」、「投影法特論」など、臨床的な講義を担当してきました。それ以外にも、「学習心理学」や「人格心理学」、「心理学実験実習」、「心理統計」、「社会と統計」、大学院では「心理統計法特論」などの基礎的な分野も担当してきました。

これらの知見を踏まえて、心理学全般に関する内容を体系的に学修できるよう課題を作成しました。

学修の進め方

・添削課題出題の意図、及び課題の進め方

心理学は日常にも応用できる学問です。自分の日々の生活を思い浮かべながら、学修を進めていくことをお勧めします。なお、解答解説には日常で、どのように使われているかについても解説しています。

皆さんも、「この法則は日常ではどのようにして使えるだろうか」と考えながら読み進めていってほしいと思います。

課題について、教科書を読みながら必要な個所を埋めていきましょう。ただ埋めるだけでなく、理解しながら課題に取り組んでもらいたいと思います。

・添削課題をまとめるにあたっての留意点

心理学の中でも重要な所を重点に問題を作成しました。必要な個所は覚える必要がありますが、それ以外のところにもとても役に立つ知識でありますので、ぜひ覚えていってほしいと思います。認定試験の際には、課題と同じ個所が出てくるとは限りません(違う所も出します)。教科書内を幅広く覚えていくよう心がけましょう。

・効果的な学修の流れ

添削課題の部分しか、知らないということにならないように、まずは教科書を全て読んでから、問題を解くことが大切です。そうすることによって、どこにどのようなことが書いてあるかを理解して進めていくことで、全体像が理解しやすくなります。

・フィードバックについて

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学 修 指 導

[テキスト解説と学修のポイント]

第5章 心を測る(心理学的アセスメント)

この章のポイント

心理学Ⅰの講義概要でも述べたように、心理学では、思考の働きや、感情の動き、あるいは知的能力などをといた具体的な実態として捉えにくいものを研究対象とします。

そうした実態として、つかみにくい「心の働き」を出来るだけ科学的に、かつ具体的な形でとらえる方法、つまり「心の測定法」の開発も心理学の大事な研究テーマです。

そうした測定法には、今日、知能検査、性格検査、その他いろいろなものが開発されてきています。これらの測定法については、先にテキストの第1章の臨床心理学のところでも簡単に触れられていますが、この章で、特にそうした心理学的な測定法(心理検査法)について解説してあります。こころの測定法(心理検査)として、特に代表的なものに知能検査や性格検査がありますが、他にどのような測定法があるか、これらが展開してきた歴史的背景やそれぞれの測定法における考え方、それに心理学的アセスメントをめぐる問題点などについても触れてあります。

心理テストを絶対視したり、あるいは逆に軽視したりするようなこともよく見られますが、心理検査法を巡ってのさまざまな問題についての的確に理解しましょう。また臨床心理学の発展と心理検査の展開との関連性も深いものがあります。そのことについても考えてみましょう。

第6章 世界をどうとらえるか(知覚, 記憶, 認知)

この章のポイント

私たちの行動は、おかれている環境に大きく影響されます。勿論、それは客観的な環境の影響を受けるところもありますが、私たちの行動に強く影響する環境とは、自分が置かれている環境を、それぞれ自分なりに捉えた主観的な環境の影響を強く受けます。

たとえば私たちが外界を客観的に捉えてない身近な一つの例として錯視がありますが、それをうまく応用して人の行動をコントロールしようとする試みとしては、交通標識などがあります。一般にどのように環境を受け取るのか、その受け取り方について研究する事は私たちの行動を理解するうえでとても大事な問題です。環境をどう捉えるのかという心理学のテーマは、感覚, 知覚, 記憶, 認知などの研究分野で主に検討されています。

私たちが、置かれている環境を捉えるには、まずは外界刺激を感覚器官で捉え、それらが何であるかを過去の記憶などともすり合わせながら捉える知覚、またそれは同時に、自分なり解釈や意味づけなどをする認知など一連のものによっています。

この章では、これらの問題が解説されています。つまり環境を捉えることにかかわる重要な要因となる感覚, 知覚, 記憶, 認知などが、それぞれ、どのようなものなのか、またこれらは、どのよ

うに関係しあっているのかといったことが解説されています。

第7章 あなたは、なぜそのように行動するのか、(行動と学習の心理学)

この章のポイント

私たちは、生まれた直後は、泣くこと、寝ること、お乳を飲むこと、排便排尿、その他は反射と言われるようなほんのわずかな行動レパートリーしか持っていません。

ところが3歳ほどにもなると、いろいろな行動を身につけています。つまり成長するにつれ、その行動レパートリーは非常に多くなります。では、どのようにして、こうしたさまざまな行動レパートリーを身につけていくのかというと、そのほとんどのものは「練習と経験」によってです。この「練習と経験」によって新しい行動を身につけたり、それまでの行動を変容することを心理学では「学習」と言います。つまり私どものほとんどの行動は、この学習によっています。したがって、人間の行動を研究する心理学では、学習により、人がどのようにして、いろいろな行動を身につけるのか、あるいは、行動の変容が生じるのか、ということについての研究も非常に大事です。このような学習と行動との関係を研究する心理学の分野を「学習心理学」といいます。そこで、この章では、学習心理学について学ぶことにします。特に、オペラント条件付けとレスポナント条件付けについてよく理解しましょう。私たちの行動を理解するのに大事な内容です。なお発達心理学の内容等とも関連させながら読んでみて下さい。

第8章 心は、どう探求されてきたか (心理学の歴史)

この章のポイント

心理学は、人間の行動について、科学的に研究する学問であり、そのために主にどのような研究分野があり、それぞれにどのような研究テーマで、どのような問題にどのように取り組んでいるのか、心理学の全般的な内容をこれまでに学修してきました。

こうした心理学の全般的な内容を一通り学んだところで、この章では、心理学の歴史について学ぶこととなります。テキストにもありますように、現状をよく理解するためには、その過去を知ることは非常に大事なことです。心理学に関しても先人たちが、どのように取り組んできたのか、そして、それが今日の心理学の展開にどのようにつながるのか学びましょう。

心理学は、もともと哲学の一分野として始まった学問です。したがって、たとえば、「魂というものが存在するか」といったようなことを机上で論じ合うというような形而上学的な学問でした。しかし、その後、心理学は、こうした形而上学的な学問から、科学としての心理学を目指すこととなります。しかし、実態として捉えにくい「心の動き」を研究対象とする心理学では、如何にして科学としての心理学を構築するかということこそが、心理学の歴史であるともいえます。したがって、この章では、心理学が哲学から科学としての心理学をめざして、先人たちが、どのような方法でもって、どのような研究テーマを取りあげながら、またどのような考え方のもとに、どのような貢献し、今日の心理学の構築に至っているのかということ、この章では学修してください。

第9章 データから心をさぐる (心理学の研究法)

この章のポイント

この最後の章では、心理学の研究法について学びます。この本で述べられてきたことは、全て心理学の研究法に基づいて得られた知識です。研究とは、それまで明らかにされていない事実を実験や調査によって発見し、それを他者にも分かるように示すことを言います。同じ方法を行えば、同じような結果になることが求められます。心理学者は、事実を明らかにし、他者に伝えるために観察、実験調査などの方法を駆使してデータを取り、それを分析しますが、その際にデータを得るために用いる方法や、データを分析する方法のことを「研究法」と言います。研究によって発見されたことが事実と認められるためには、その研究がきちんとした研究法にのっとって行わなければなりません。ここでは、心理学の研究法の基礎について述べるとともに、研究法をめぐる最近の問題についても考えてみたいと思います。

子どもの心理発達

専門教育科目/2単位/1年後期開講/テキスト授業

■ 担当教員	森井 康幸
■ 使用テキスト	テキスト：発達心理学（新・プリマーズ・保育・心理） 著者：無藤 隆 他著 出版社：ミネルヴァ書房 出版年：2010 ISBN：9784623058990
■ 参考テキスト	テキスト：よくわかる発達心理学 第2版 著者：無藤 隆他編 出版社：ミネルヴァ書房 出版年：2009 ISBN：978-4623053797

講義概要・一般目標

胎児期から児童期に至る人間の行動や心的機能の発生、発達、成熟過程等の変化について学修する。特に、どのような生得的な資質・仕組みが、どのように生育環境と関係しながら発達的变化をもたらすのかに注目してほしい。また、人間のもつ諸機能の発達を相互関連的に理解し、それぞれの発達段階における発達の遅れやつまずきなどの問題についても学修する。

到達目標

ヒト発達の特殊性や共通性を知るとともに、発達心理学の幅広い知識を身につけ、発達の相互関連性について理解することを到達目標とする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

- ・ 学修指導には、教科書で学んでいただきたいポイントを記載しています。そちらを確認しながら教科書を読み進めていってください。
- ・ 教科書だけでは理解できないところは、参考テキストをはじめ、他の発達心理学の本で自主的に学習してください。
- ・ 添削課題は、学修指導にそって学んでいただく中で特に理解してほしい、重要なものを取り上げるようにしています。分からないときは教科書にもう一度戻って、課題のある章を確認するようにしてください。添削後に送付されてくる課題解説も参考にしてください。
- ・ フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

今回テキストとして用いるものは、あくまでも基本的なことを、簡潔にわかりやすく記述してある書籍である。その意味では、内容に深まりがなく、逆にわかりにくい面もあると思われる。参考テキスト・参考文献などにも積極的に触れて理解を深めてほしい。

1. 発達心理学を学ぶ意味

この章のポイント

- ・ 発達心理学は子どもから大人・高齢者への時間的変化を扱う。
- ・ 情緒・社会性・知性などの側面の発達は関連しつつ、独自に成り立つ。

- ・発達の知見は保育や福祉に対して望まれる条件や原則を示唆する。

2. 発達心理学の基本的理解

この章のポイント

- ・発達の定義、発達段階の区分と各段階における特徴を理解する。
発達段階の区分については、テキストに記載されているものの他に、いろいろな区分が存在する。他の文献に当たって調べてみよう。
- ・発達を規定する要因について心理学者の理論や歴史的経緯を理解する。
特に、遺伝と環境の相互作用を重視する考え方の一つである環境閾値説についての理解を深めよう。
- ・それぞれの発達段階における発達課題の内容について理解する。
発達課題は、その人間が所属している社会が求める課題であるため、育つ文化・環境が異なれば異なるものも多く、絶対的なものではないことを理解しよう。

3. 人・ものとの出会い

この章のポイント

- ・生後間もない赤ちゃんでもできることがたくさんあることを知る。
最近の研究によれば、人の赤ちゃんは以前考えられていたほど未熟で無力な状態で誕生するのではなく、胎児の段階から様々な能力を獲得しており、また、誕生直後からいろいろな能力を発揮していることがわかってきた。どのような能力が示されるのか調べてみよう。
- ・赤ちゃんが自分で動けるようになるまでの過程を理解する。
赤ちゃんの体型の特徴や発達の方向性なども考えながら、運動の発達について考えてみよう。
- ・発達するなかで消失したり衰退する能力を知りその意味を考える。
赤ちゃんは様々な環境に適応できるように多くの能力をもって誕生し、必要なものを伸ばすために、不必要な能力を消失させているのかもしれない。

4. 愛着形成と家族の移行

この章のポイント

- ・親になることは夫婦にどのような変化をもたらすのか。
親となる自分を意識することで、夫は父親として、妻は母親としてどのような心理的变化が生じるのか調べてみよう。
- ・子どもと養育者の関係性に影響を及ぼす要因とは何か。
子どもと養育者との情動体験の交流を通して、愛着関係が発達してくる。愛着について深く調べてみよう。
- ・子どもと養育者の健やかな関係性を育むために必要な環境とは。
子育て期における家族の問題について理解するとともに、家族とそれを取り巻く環境との関係のあり方について考えてみよう。

5. 遊びと認知発達

この章のポイント

- ・発達の視点から子どもにとっての遊びの意味を考える。
乳幼児期においては「遊ぶことは学ぶこと」であり、発達に伴ってどのように遊びが変わるのかを理解しよう。
- ・子どもの遊びに見られるさまざまな認知能力について理解する。
特に、ふり遊びとごっこ遊びの認知能力との関係について理解しよう。
認知発達をふまえた子どもへのかかわり方を考える。

6. ことばとコミュニケーションの発達

この章のポイント

- ・ことばが出てくる前のコミュニケーションとはどのようなものか。
共同注意の研究や指さしの産出と理解などについて調べてみよう。
- ・子どものことばを育む親の役割について考える。
三項関係とは何か、9ヶ月革命とはどのようなものかについての理解を深めるとともに、親（大人）の初語への対応の仕方について調べてみよう。
- ・子どものことばを育む保育者の役割について考える。
ことばはコミュニケーションの中で生まれ、コミュニケーションの中で豊かに育っていくことを理解しよう。

7. 自己と情動の発達

この章のポイント

- ・情動の3つの側面（内的情感・表出行動・神経システム）について知る。
- ・生後6ヶ月から1歳頃の基本的情動と情動的自己との関係をとらえる。
- ・3歳から5歳頃の自己意識的情動と人格的自己との関係をとらえる。

8. 人の心の理解と仲間関係の発達

この章のポイント

- ・ふり遊び・ごっこ遊びにかかわる力にはどのようなものがあるか。
表象, 象徴機能について理解するとともに, ふり遊びやごっこ遊びがいかに高度な知的能力を要するかについて考えてみよう。
- ・幼児期における人の心の理解はどのように発達するのか。
心の理論とはなにか理解するとともに, 誤った信念課題により何がわかるのか調べてみよう。人とかかわる力を育てるにはどのようなかわりが必要か。

9. 道徳性と向社会的行動の発達

この章のポイント

- ・道徳性の発達に関する様々な理論の特徴を理解する。
- ・思いやりの感情・認知・行動の発達について考える。
- ・自他を大切にすることを育むにはどうしたらよいか考える。

10. 学級での育ち

この章のポイント

- ・小学校への移行によって子どもが経験する変化を理解する。
- ・学級での子どもの様々な側面の育ちを理解する。
- ・学習や人間関係で生じうるつまずきと教師の対応を考える。

11. アイデンティティの形成に向けて

この章のポイント

- ・思春期・青年期の発達の特徴を理解する。
思春期に出現する第二次性徴に代表される著しい身体の変化がもたらす心理的影響を調べてみよう。
青年にとっての友人関係のあり方や影響力・重要性について考えてみよう。
- ・アイデンティティの形成過程を理解する。
アイデンティティ・自我同一性の概念を理解し, 青年期における同一性達成の意味を進路選択の問題と関連づけて考えてみよう。
- ・発達の視点から見た進路選択, 職業選択の意味を考える。
社会の変化と職業選択を先送りする若者の生き方について考えてみよう。

12. 発達の診断と発達障害の理解

この章のポイント

- ・発達診断の考え方と発達検査・知能検査の方法を学ぶ。
発達検査・知能検査の種類と特徴を理解しよう。
- ・発達障害の概念およびタイプとその特徴について学ぶ。
生得的な中枢神経系の機能障害に起因すると考えられる広汎性発達障害, 学習障害, 注意欠陥多動性障害に焦点を当て, その特徴についてより詳しく調べてみよう。
- ・発達障害のある幼児の療育・支援の考え方と方法を学ぶ。
様々な療育・支援アプローチの理解とともに, 二次障害の予防の観点からの取り組みについて調べてみよう。

家族心理学

専門教育科目／2 単位／4 年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	栗田 喜勝
■ 使用テキスト	テキスト：「家族心理学への招待」改訂 2 版 著 者：柏木恵子・大野祥子・平山順子著 出 版 社：ミネルヴァ書房 出 版 年：2013 年 I S B N：978-4-623-05447-3
■ 参考テキスト	テキスト：「よくわかる家族心理学」 著 者：柏木恵子編著 出 版 社：ミネルヴァ書房 出 版 年：2010 年 I S B N：978-4-623-05577-7

講義概要・一般目標

近年、家族の危機や家族の養育力の低下などが指摘されている。実際、晩婚化や非婚化、離婚の増大、少子化、育児不安、児童虐待などの現象が顕著になっている。このような現象を家族の崩壊ととらえ、健全な形に戻すべきだと考えるのか、それとも新たな家族の在り方への移行期ととらえ、今後の家族や家庭の在り方を模索していくべきなのか、様々な議論がある。少なくとも社会状況が家族や家庭に影響を与え、それが家族や家庭の変化を促していることを認識する必要がある。ここでは、今日の家族や家庭が社会からどのような影響を受け、その変化がどのような意味を持っているのか、そしてそれは家族関係や家族成員にどのような影響を与えていくのか理解していくことになる。保育士や幼稚園・小学校教諭は、児童を理解することと同時に、その家族や家庭について理解を深めることが重要である。

到達目標

この科目の学修によって、家族が社会からどのような影響を受けているのか、家族にはどのような変化が起きているのか、それはどのような意味をもつのかなどを理解していくことができる。また、家族の構造や機能、家族関係などについて理解を深めることができる。さらに、その知識は、自分の生い立ちや家族関係についての視点を刺激し、より内省を深めることにもつながる。家族や家庭に関わる知識を持つことや自分の生育歴を振り返ることは、子どもに関わる専門職にとっての価値観、知識、技術を身につけることにもなるのである。

評価方法

科目単位認定試験により評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web 学修支援システムを使用して実施する。

学修の進め方

このテキストは、根拠あるデータに丁寧な解説が加わり、わかりやすいテキストとなっているので、興味を持って読み進めてほしい。テキストの 3 人の著者は、家族心理学領域の著名な学者であり、その論理も説得力がある。掲載されたデータは多少古いものもあるが、そこはインターネットや新聞、ニュースなどの最新の情報から、補ってほしい。社会状況は日々変化していくものであり、家族や家庭はその影響を受けていくものである。しかし、このテキストで示された家族や家庭に関する見解や理念は長く通用するものであると考えられる。

添削課題は、テキストにそって作成されているので、じっくり読んでいけば迷うことはないと思う。ただ、読者は添削課題の箇所ばかりでなく、その他の箇所も読み、家族心理学という領域の理解を一層深めてほしいと思う。

単位認定試験は、この添削課題から 8 割が出される予定である。添削課題をしっかりと学び、興味ある

他の節を熟読すれば、単位取得は容易である。

- ・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

第1章 家族とは何か

1. 現代日本の家族
2. 家族の起源と発達
3. 家族の成立
4. 日本の近代家族
5. 多様な家族

(この章では、人間にとって家族がどのような必要があって形成され、それがどのような意義を持つのか、そして今日の家族の様々な現象を理解する)

第2章 恋愛・結婚・夫婦

6. 恋愛・パートナー選択
7. 結婚の意味と価値
8. 結婚
9. 家族生活を営むということ
10. 家計と夫・妻の心理
11. 子育て期の多重役割
12. 夫婦のコミュニケーション
13. 定年後の夫婦

(この章では、恋愛から結婚、そして夫婦というプロセスを理解することになり、さらに家庭生活、夫婦関係のあり方などについて理解する)

第3章 子ども・親子の関係

14. 人類の親子
15. 子どもの価値
16. 人口革命
17. 「つくる」時代の親と子
18. 子育て不安
19. 育児期家族にとっての夫・父親
20. 家庭内暴力
21. 母親の就労と親子の絆
22. 父親と母親
23. 親としての発達
24. いろいろな養育のかたち
25. 中年期の親と青年の子ども
26. 老年期の親と中年期の子ども

(この章では、親子のあり方、子どもを持つことの意義、家族に起こる問題、親の役割、家族関係の発達などについて理解する)

第4章 「家族」再考

27. 家族をとりまく物的環境
28. 家族を支える制度・政策
29. 今、あらためて「家族」とは何か
30. 家族の発達

(この章では、今日の社会環境を概観し、家族はどうあるべきなのかを考察していく)

コミュニティ心理学

専門教育科目／2単位／4年後期開講／テキスト授業

■ 担当教員	土居 正人
■ 使用テキスト	テキスト：やわらかアカデミズム・(わかる) シリーズ よくわかるコミュニティ心理学〔第3版〕 著 者：植村勝彦 他編集 出 版 社：ミネルヴァ書房
■ 参考テキスト	テキスト：臨床・コミュニティ心理学 臨床心理学的地域援助の基礎知識 著 者：山本和郎 他著 出 版 社：ミネルヴァ書房 出 版 年：1995年 I S B N：978-4623025398

講義概要・一般目標

地域生活者の心理学的問題に関する援助は、スクールカウンセラー派遣制度のように、学校など特定のコミュニティに心理専門職が出向く形での援助が増加しつつある。このような支援形態のもとでは、外部に所属する心理専門職とコミュニティに所属する人々との関係のあり方や、コミュニティの特徴、あるいは支援のためのリソースにも十分配慮し、コミュニティをエンパワーメントする役割を果たす介入などが必要となる。こうした実践的かつ複雑な支援に必要な知識と技法を、コミュニティ心理学の視点から検討してゆく。

到達目標

1. コミュニティ心理学の研究内容や理論的背景、研究法を理解する。
2. コミュニティへの臨床心理学的地域支援の実際や介入法を、様々な領域を例として学ぶことで、コミュニティ感覚をもった心理・発達・教育領域の専門家としての資質を高める。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

これまでに私は心理臨床現場における臨床経験（児童精神科、小中高校のスクールカウンセリング、大学学生相談、適応指導教室、児童相談所の夜間・休日相談）を積み重ねていただいたことから、臨床心理学全般の実務経験を有していると考えています。

コミュニティの視点からクライアントを支援できるよう課題を作成しています。

学修の進め方

・添削課題出題の意図、及び課題の進め方

- 公認心理師には、①支援を要する者の心理状態の観察、その他の分析
②支援を要する者に対する相談及び助言、指導、その他の援助
③支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助
④心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供の4つの専門性が求められています。

公認心理師は、アセスメント（査定）や面接だけでなく、クライアントを地域で支えられるように活

動していく必要があります。そのために外に出向き、様々な人と話し合い連携を作っていくことが求められます。そのような時に、どのようにして地域とかかわっていくか、どのようにクライアントを支援するかに関する内容を中心に出题しました。

ただ課題を解くのではなく、人が危機に陥るとどのようなになるのか、そのような時どのようなアプローチがあるか、そのような人の気持ちになりながら読み進めていくことが大切だと思います。

- ・添削課題をまとめるにあたっての留意点

地域における支援に重点を当てて課題を作成しています。必要な個所は覚える必要がありますが、それ以外のところにもとても役に立つ知識でありますので、ぜひ覚えていってほしいと思います。認定試験の際には、課題と同じ個所が出てくるとは限りません（違う所も出します）。教科書内を幅広く覚えていくよう心がけましょう。

- ・効果的な学修の流れ

添削課題の部分しか、知らないということにならないように、まずは教科書を全て読んでから、問題を解くことが大切です。そうすることによって、どこにどのようなことが書いてあるかを理解して進めていくことで、全体像が理解しやすくなります。

- ・フィードバックについて

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学 修 指 導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

第1章 コミュニティ心理学とは何か

コミュニティ心理学の概念・定義、理念・価値および役割について学びます。

第2章 基本的発想

コミュニティ心理学における基本的な発想やスタンスについて、コミュニティ心理学のキーワードを紹介しながら解説します。

第3章 歴史的背景

コミュニティ心理学の起源と学問的発展について、欧米の動きと日本の動きを踏まえて解説します。

第4章 背景となる理論

コミュニティ心理学の学問的・研究的背景となる諸理論について学びます。

第5章 介入・援助とその評価

コミュニティの様々な問題に対する介入や援助の代表的な手法について、介入・援助効果の評価手段を踏まえて解説します。

第6章 家庭・地域における実践

家庭や地域におけるコミュニティ心理学的実践の実際を学びます。

第7章 学校・教育の場における実践

学校や教育の場におけるコミュニティ心理学的実践の実際を学びます。

第8章 産業・職場における実践

産業領域や職場におけるコミュニティ心理学的実践の実際を学びます。

第9章 医療・保健・福祉の場における実践

医療・保健・福祉領域におけるコミュニティ心理学的実践の実際を学びます。

第10章 多文化コミュニティを支える実践

留学生，外国人労働者，帰国子女や海外居住者が構成する異文化コミュニティを支援するコミュニティ心理学的実践の実際を学びます。

第11章 インターネット・コミュニティを支える実践

新たなコミュニティであるインターネット・コミュニティを利用したコミュニティ心理学的実践として，メール相談やオンライン・グループ活動の実際を学びます。

障害者・障害児心理学／障害児・者の心理学

専門教育科目／2単位／3年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	藤原 直子
■ 使用テキスト	テキスト：障害児者の理解と教育・支援 著者：橋本創一・菅野敦・林安紀子・大伴潔・小林徹・渡邊貴裕・霜田浩信・ 武田鉄郎・千賀愛・池田一成 出版社：金子書房 出版年：2012年4月 ISBN：978-4-7608-2639-1
■ 参考テキスト	指定なし

講義概要・一般目標

障害児者の教育支援、発達支援、福祉支援のあり方は、刻々と変化している。保育・学校教育現場においても、かつての「障害児のための特別な場における教育」から「通常学級や支援学級などの場にかかわらず援助ニーズがある子どもにはそこに応える教育」へと移り変わり、定着しつつある。地域社会においても、世界的なノーマライゼーションの機運が浸透し、すべての障害者への「合理的配慮」をおこなわなければならない、物理的・人的なバリアフリーにとどまらず、積極的に障害者の教育や社会参加などに向けた取り組みを具現化して示すよう求められている。

本講義では、さまざまな障害について、その特性や制約の種類、年齢や領域に応じた教育支援や福祉援助の方法について理解を深め、個々の立場にたった支援を実践するための基盤作りとして以下の内容を中心に学修する。

まず、「乳幼児から成人までの支援システム」として、療育・教育支援・福祉支援のシステムや具体的な支援方法を学ぶ。

次に、「さまざまな制約への理解と支援」として、各障害やその特性・制約に応じた理解と支援の詳細を学び、実際に支援者としてどのようなことができるのかを考える。

そして、「教育や援助のためのアラカルト」として、さまざまな教育や福祉現場において共通に求められる理解や支援方法、支援のあり方について考える。

到達目標

本講義の到達目標は、さまざまな障害のある子どもや人に対する知識・理解を深め、支援者や専門家として具体的な支援を行うための基盤を作ることである。

特に、特別支援教育や障害児保育、障害者福祉の実践者・支援者となることを目指し、さまざまな障害について、その特性や制約、年齢や領域に応じた教育・福祉支援の方法を具体的に学修する。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

まずは、テキストを熟読してください。読みながら、特に関心をもった障害や身近なテーマについては、参考になる書籍や新聞記事・ニュースなども読んで、最新の情報に触れていくとよいです。障害児者に対する福祉・教育的支援、発達障害に関する医学的知見や社会の動向等は年々進歩し、新しい法律も次々に施行されています。このテキストが出版された後の情報も習得しておきましょう。

添削課題は、全てテキストの中から出題しています。テキストを読めば必ず回答できます。

記述問題も、テキストの内容から回答できますが、テキストの文章をそのまま書く必要はありません。自分で文章を組み立て、わかりやすくまとめてください。定義に関する問題もありますので、それぞれの障害特性をしっかりと覚えておくといいです。

フィードバックとして、提出された課題および記述にコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

本講義は、「障害児者の理解と教育・支援」をテキストとして使用し、テキストの章立てにしたがって学修を進めていきます。

第Ⅰ部 乳幼児から成人のベーシック支援システム

障害児者の支援は、乳幼児期（障害の種類によっては新生児）から始まり、学童期、青年期、成人期、老年期・・・と生涯にわたり、その人の発達やライフサイクルとともに続いていきます。近年は、教育・福祉の両面において、法整備とともに多くのシステムが構築され、それぞれの発達段階やライフサイクルにおける支援も多様化してきています。

テキストでは、「乳幼児の療育・保育」、「学校における特別支援教育・インクルーシブ教育」、「卒業後の障害者福祉サービス」の3段階が、それぞれ詳細に紹介してあります。関連する法律・法規の内容、行政や自治体が行っている支援内容やシステム、就学から就労までの段階や手続き、そしてそれぞれに携わる支援者の役割についても解説があります。どの領域・段階であっても、どの立場であっても、より適切な支援ができるよう、さまざまなシステムを十分理解してください。自らが尽力して支援を行うことだけでなく、障害児者のニーズを把握し、より適切な場所や方法で支援を受けることができるよう働きかけることも、支援者の重要な役割です。そのために、自分が携わっている領域だけでなく、広く学びましょう。

また、第4章では、障害児者理解と支援のための基本的な考え方として、「支援のプロセス」「アセスメント」「発達段階」「保護者支援」といった内容が説明してあります。これらも、障害児者を理解し支援するには欠かせない理論や考え方です。全ての障害に共通する内容ですので、第Ⅱ部から各障害について学ぶ前に必ず読み、理解を深めておきましょう。

第Ⅱ部 さまざまな制約への理解&支援スแพック

第Ⅱ部は、様々な「障害」について、それぞれの障害特性、特性から生じる制約、それらに対する支援方法が詳細に説明されています。保育・教育・福祉の各領域において関わることの多い主な障害が取り上げられていますので、ひとつひとつ丁寧に読み進めて理解していきましょう。

各章は、その多くが1. 障害とは、2. 特性と症状、3. 療育・教育・進路、4. 理解と支援、5. 初めて出会う人へ、という5項目で構成され、大変わかりやすい解説となっています。障害の種類が多く、全てを理解して覚えるのは容易ではありませんが、さまざまな障害について把握しておくことは社会生活においても有意義なことです。時間をかけて学修を進めてください。

また、障害種別に解説されてはいますが、全ての障害に共通する内容もあれば、同じ障害名であっても個々に異なる部分もあります。基本的には、テキストに書いてある内容を念頭に入れたうえで、個々に対するアセスメントを十分に行い、個人の特性を理解する必要があります。その人のもつ長所・短所を理解して生かしていく支援を考えていきましょう。

【注意事項】

第12章「社会性に関する制約と支援」では、「広汎性発達障害」と書いてありますが、診断基準となっている精神障害の診断と統計マニュアル（DSM）の改訂により、現在は「広汎性発達障害」「高機能自閉症・アスペルガー症候群」を含めて、「自閉症スペクトラム障害」あるいは「自閉スペクトラム症」と記載されることが多くなっています。今後、世界保健機構（WHO）の国際疾病分類（ICD）も同様に改訂され、日本語版が発刊される予定です。

第Ⅲ部 教育&援助のためのアラカルト

第Ⅲ部では、近年注目されている新たなトピック、教育・支援の準備段階として行うことや基本理念、第Ⅱ部では紹介されなかった重症心身障害者への支援などについて解説されています。

第14章「脳科学と教育支援」は、特に発達障害臨床の領域で注目されています。心身の発達段階と併せて、脳の機能や発生・発達について学んでおくことは、障害児者の支援プロセスを考える際にも有用なものです。

さらに、第15～20章では、実際に保育・教育の場において支援するにあたって必要な考え方や方法が解説され、事前のアセスメントから、指導計画・支援計画の立案・実施まで、段階的に必要なことが具体的に紹介してあります。実際に保育あるいは教育現場において発達障害児者に関わっている方は、その対象児者を想定しながら読み進めていくと、実際に何が必要で何をしていけばよいのかが理解しやすいでしょう。

第21～23章では、重症心身障害者、ダウン症、トゥレット障害などについて解説されています。特別支援学校や障害児支援施設以外の保育・教育場面に関わることは少ないかもしれませんが、基本的な特性や支援方法は学んでおきましょう。

テキストで紹介されているどの障害についても、本書の他に数多くの書籍やDVDが発行されています。テレビ、雑誌、インターネット等における情報も多々あります。世論や社会の状況に応じて刻々と変化していく内容もありますので、自分が関わりのある分野・対象だけでなく、教育・福祉・医療・心理・司法・産業といったさまざまな分野で情報を収集していくことをお勧めします。

カウンセリング

専門教育科目／2単位／4年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	土居 正人
■ 使用テキスト	テキスト：新版 カウンセリング心理学 -カウンセラーの専門性と責任性- 著 者：渡辺三枝子 出 版 社：ナカニシヤ出版 出 版 年：1984年 I S B N：4-88848-712-X (9784888487122)
■ 参考テキスト	テキスト：臨床心理学 著 者：丹野義彦著 出 版 社：有斐閣 出 版 年：2015年 I S B N：978-4641053793
	テキスト：“マイクロカウンセリング”学ぶ - 使う - 教える”技法の統合：その理論と実際 著 者：アレン・E・アイビー著 出 版 社：川島書店 出 版 年：1985年 I S B N：978-4761003296

講義概要

臨床心理学的支援法としてのカウンセリングについて、その背景理論やカウンセリングの実際を学ぶ。はじめにカウンセリング心理学の歴史的背景や経過を概観し、現代日本におけるカウンセリング実践の諸課題を解説する。次に一般的なカウンセリングプロセスと、カウンセリングにおいて重視すべき初回面接、および見立てについて詳しく解説する。さらに個別カウンセリング以外の心理援助技法についても解説する。講義中に何度かカウンセリング事例も扱うが、学科の特徴を考慮し発達期(乳幼児～青年期)の子どもに関する親面接事例や遊戯面接等を導入する。

到達目標

1. カウンセリングの基本的考え方とその必要性に関する歴史的経緯を理解する
2. 初回面接から見立て、継続面接へと続くカウンセリングのプロセスについて、望ましい変化を理解する
3. カウンセラーの態度と心構え、倫理観を身につける

評価方法

科目単位認定試験により評価

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

これまでに私は心理臨床現場における臨床経験(児童精神科、小中高校のスクールカウンセリング、大学学生相談、適応指導教室、児童相談所の夜間・休日相談)を積ませていただいたことから、臨床心理学全般の実務経験を有していると考えています。

これらの経験から、カウンセリングにおいてクライアントを支援する視点に立って考えることを大切にしており、そのように学修が進められるような課題構成にしています。ただ、丸暗記をするだけでは

なく、実際場面をイメージしながら課題に取り組んでみてください。

学修の進め方

・添削課題出題の意図、及び課題の進め方

カウンセリング場面では、実際に困っているクライアントが問題ごとを抱えて来所します。何もできなければ、カウンセリングをする意味はありません。「ただ聞く」のではなく、そのクライアントが自分の力でもう一度立ち上がることができるように援助するように、「聴く」ことが大切です。カウンセラー側が何を重点的に聞くのかによって、面接の流れは変わってきます。このように、カウンセリングでは一つ一つの技法が重要であることから、マイクロカウンセリングや様々な面接技法を出題しています。

課題をただ解くのではなく、実際に面接場面や日常の友達と話をしている場面を想像しながら、学修を進めていってほしいと思います。

・添削課題をまとめるにあたっての留意点

カウンセリングの中でも、マイクロカウンセリングや面接技法に重点を置いています。必要な個所は覚える必要がありますが、それ以外のところにもとても役に立つ知識でありますので、ぜひ覚えていってほしいと思います。認定試験の際には、課題と同じ個所が出てくるとは限りません（違う所も出します）。教科書内を幅広く覚えていくよう心がけましょう。

・効果的な学修の流れ

添削課題の部分しか、知らないということにならないように、まずは教科書を全て読んでから、問題を解くことが大切です。そうすることによって、どこにどのようなことが書いてあるかを理解して進めていくことで、全体像が理解しやすくなります。

・フィードバックについて

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

第1章 カウンセラーとカウンセリング

まずはじめに、カウンセリングとは何なのか？ 心理療法や相談活動との異同を検討していく。その上で、カウンセリング活動の理論的基盤となるカウンセリング心理学について、日本と欧米との事情の違いを明確にして概説していく。

第2章 カウンセリング心理学の発達史

専門職による現代的なカウンセリングが求められるようになった歴史的経緯を説明し、カウンセリング心理学が学問として成立した背景を理解する。さらにカウンセリング心理学が現代までにたどった発達史を、その紆余曲折も含めて理解することで、カウンセリング活動の必要性と課題を理解する。

第3章 カウンセリング心理学の独自性

カウンセリングは専門性による独自の活動として展開してきたが、現在でも類似、混同されやすい活動や概念が存在する。これらとの区別について解説しカウンセリングの独自性を理解する。

第4章 多様化するカウンセラーの機能と働き方

カウンセラーが具体的にどのような役割を負うのか、カウンセリングにおいておこなうこととはなにかについて学ぶ。さらに、現代の複雑な課題を解決するためにカウンセラーの機能と働き方は多様化している。これについてコンサルタントとしてのカウンセラーのあり方を中心に解説する。

第5章 カウンセラーに必要な基本的態度と能力

カウンセリングを実施する具体的な手法はいくつか存在する。しかしながら、どの手法にも共通するカウンセラーの基本的態度や求められる能力が存在する。これらが十分身につけ発揮出来ることが専門職としてのカウンセラーには必要である。

第6章 プロセスとしてのカウンセリング

カウンセリングは1回の助言的面接で終わることもあるが、何度かカウンセリングを実施しクライアントの解決に至るのが一般的である。この解決に至る道筋にはある程度一般化可能なプロセスが存在する。これを概観しカウンセリングでなにおこなわれどのような変化が求められるかについての見通しをつける。

第7章 カウンセラーと倫理

カウンセリングは、クライアントの極めて個人的な情報を扱う行為であり、対人的関係性を深めていく行為でもある。したがって高度な倫理観とそれを守る強い信念が求められる。カウンセラーが専門性のある職業として成立する前提条件でもあるカウンセリングにおける倫理の基本について学ぶ。

保育の心理学

専門教育科目／2単位／2年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	森井 康幸
■ 使用テキスト	テキスト：新 保育ライブラリ 子どもを知る 保育の心理学 I 著 者：無藤 隆 他著 出 版 社：北大路書房 出 版 年：2011 I S B N：476282738X (9784762827389)
■ 参考テキスト	テキスト：新 基本保育シリーズ8 保育の心理学 編 集：杉村 伸一郎・山名 裕子 出 版 社：中央法規 出 版 年：2019 I S B N：978-4-8058-5788-5

講義概要・一般目標

保育実践においては、対象となる子どもの心身の発達過程についての理解は必須である。乳幼児期の心理発達理論を中心に、発達と環境の関係、子どもの心身諸機能の発達の相互関連性、学びの特性等について概説する。

到達目標

子どもの生得的な素晴らしい能力とその発達過程を理解し、子供に対する興味・関心を高め、より多面的に理解しようとする心構えと基礎的知識を得ることを到達目標とする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

- ・学修指導には、教科書で学んでいただきたいポイント・キーワードを記載しています。そちらを確認しながら教科書を読み進めていってください。
- ・添削課題は、学修指導にそって学んでいただく中で特に理解してほしい、重要なものを取り上げるようにしています。分からないときは教科書にもう一度戻って、課題のある章を確認するようにしてください。添削後に送付されてくる課題解説も参考にしてください。
- ・保育士養成のための他の教科の内容とも関連づけながら、学習するようにしてください。フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

第1章 人としての発達を考える

この章のポイント

ここでは人間発達の考え方の基本を理解することが求められる。ヒトとして生まれた赤ちゃんが親(養育者)との相互作用の中で関係をはぐくみ、その安定した関係の中で同世代の子どもとのつきあい・遊びがはじまり、しだいに仲間関係に重点が移り、親と距離をとりはじめ、自立していく。同時に、このような人間関係のありかたは社会・文化的な影響・制限の中で進

展していくことになる。このような関係と子どもの発達を理解することの意義を、節ごとに次のようなキー・ワード（括弧内の用語）を参考にしながら学んでほしい。

ただし、第1章はこのテキストの内容全体を概括した内容となっているので、最も理解が困難な章でもある。細かいことは、2章以降に触れられているので、該当する章、あるいは全体を学んだ後に、再度熟読し、内容の確認をすることが重要である。

- ・人との関係の中で育つ（養育者、愛着、仲間、疎外、反抗期）
- ・社会・文化の中で育つ（社会文化的活動、文化的人工物、制度の制約）
- ・子どもの発達を理解することの意義（方向性）

第2章 家族生活の中で育つ

この章のポイント

誕生後の生活は家族との関係の中でスタートする。乳児は初めて目にする世界とどのように関わり、また認識を広げていくのか、自己意識を発達させていくのかについて理解する。

- ・人とモノからなる世界との出会い（胎児期、乳児の知覚能力、社会的存在）
- ・コミュニケーションの広がり－情動から言葉へ（情動表出、情動調律、共同注意、愛着）
- ・自分に気づきこだわりをもつ（自他の分化、自分意識）
- ・育児・乳児保育をめぐる問題（出生率、子育て支援）

第3章 近隣社会への広がりの中で育つ

この章のポイント

子どもは生活の場を家庭から近隣社会へと広げ、自分自身の興味・関心も同年代の子どもへと向かい、集団の中に身を置くようになっていく。ここでは、日々の生活や遊びを通して得られる認知発達・言語発達の側面と、集団の中で生じるつまずきや発達について理解してほしい。

- ・遊びから知的好奇心へ（認知発達、素朴物理学・素朴心理学・素朴生物学、言語発達）
- ・大人から仲間へのまなざし（他者への共感、思いやり、いざこざ）
- ・集団の中で自分を知る（性役割、自己主張、自己抑制）
- ・集団保育をめぐるつまずき（気になる子、気になる親）

第4章 学校生活の中で育つ －知的学び

この章のポイント

小学校に入る前から子どもは遊びや日々の生活の中で非常に多くのことを学んでいる。幼児期の学びは自発的で自分のペースで進んでいたといえるかもしれない。しかし、小学校に入ってから学び、学校生活が始まってから求められる学びは大きく変化する。この変化を念頭に置いて、学校生活の中での学びの問題について理解を深めてほしい。

- ・日常的概念から科学的概念へ（知識の構築、素朴理論、既有知識）
- ・リテラシーの世界の広がり（読み書きの発達、モニタリング、一次的事物、二次的事物）
- ・学びと評価－教師の関わり（評価と意欲、有能感、自律性、評価の観点の多様性）
- ・学びをめぐるつまずき（小学校生活への適応、9歳の壁）

第5章 学校生活のなかで育つ －自分と出会う

この章のポイント

学校生活は知的な学びに大きな変化をもたらすだけでなく、人間関係の面でも大きな変化をもたらす。友だちづきあいのあり方の変化や思いやりの気持ちの発達などとともに、いじめなど人間関係を巡るトラブルやつまずきも現れてくる。このような問題に、どのような支援なり手だてが有効なのか考えてみよう。

- ・友だち関係から親友関係へ（大事な人、ギャング・グループ、チャム・グループ、ピア・グループ）
- ・人として教師から学ぶ（リーダーシップのスタイル、教師期待効果）
- ・関わりのなかで自分をのばす（共感性、視点取得能力）
- ・人間関係をめぐるつまずき（いじめ、不登校、発達障害）

第8章 発達を明らかにする

この章のポイント

人の発達や変化をとらえるにはどのような方法があるのか、発達を支援するための基礎となる発達理解の方法にはどのようなものがあるのか、さらには発達の理論と保育実践の関係はどうなっているのか、発達支援の実際はどのようなものかなどについての理解を深める。

- ・発達研究の方法（横断的研究法，縦断的研究法，時代差研究法）
- ・発達理論と保育実践研究（成熟主義，行動主義，モンテッソーリ，構成主義，社会的構成主義）
- ・発達支援の実際（アセスメント，支援計画）

子ども家庭支援の心理学

専門教育科目／2 単位／2 年後期開講／テキスト授業

■ 担当教員	森井 康幸
■ 使用テキスト	テキスト：子ども家庭支援の心理学 編 集：白川佳子・福丸由佳 出 版 社：中央法規 出 版 年：2019 I S B N：978-4-8058-5789-2
■ 参考テキスト	テキスト：新 保育ライブラリ 子どもを知る 保育の心理学 I 著 者：無藤 隆 他著 出 版 社：北大路書房 出 版 年：2011 I S B N：978-4-762827389

講義概要・一般目標

保育の心理学の学びをさらに深化させ、生涯発達心理学理論を中心に、発達のプロセスの概要を理解するとともに、初期経験の重要性、発達課題などについて学習する。それらとの関連の中で、家族関係、子育て家庭の課題、子どもの心の健康について学ぶ。

到達目標

生涯発達に関する心理学理論を中核にして、家族相互の関わりの中で、親と子どもがともに発達していく視点を習得する。そのためのキーとなる事項が、初期経験の重要性、愛着の形成、子育てと親としての育ち、多様な家庭の理解などであり、子どもと家族・家庭を相互関連的に包括的に捉えられるようになることが到達目標である。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

- ・学修指導には、教科書で学んでいただきたいポイント・キーワードを記載しています。そちらを確認しながら教科書を読み進めていってください。
- ・添削課題は、別途お知らせする『学修指導』にそって学んでいただく中で特に理解してほしい、重要なものを取り上げるようにしています。分からないときは教科書にもう一度戻って、課題のある章を確認するようにしてください。添削後に送付されてくる課題解説も参考にしてください。
- ・「保育の心理学」のテキストである上記参考テキストの該当箇所も参考にし、理解を深めてください。また、保育士養成のための他の教科の内容とも関連づけながら、学習するようにしてください。
- ・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔学修のポイント〕

1. 生涯発達 (第1講～第6講)

第1講 乳児期の発達

生後2歳頃までの初期発達の特徴について、運動発達、言葉の発達、アタッチメントを中心に学ぶ。保育所におけるアタッチメントの重要性にも目を向けること。

キーワード：原始反射、指さし、三項関係、共同注意、語彙爆発、アタッチメント

*参考テキストの第2章も参考にしてください。

第2講 幼児期の発達

幼児期全体の発達の特徴を、認知・言語・社会性・自我の発達から理解し、初期経験の重要性を学ぶと同時に、「発達」についての基本的理解を深める。また、遊びと発達の関係についてのとらえ方も理解すること。

キーワード：ピアジェの認知発達段階、直感的思考（直観的思考）、心の理論、自己調整機能（自己制御機能）、初期経験、臨界期、レジリエンス

*参考テキストの第3章も参考にしてください。

第3講 学童期の発達

小学校入学以降の学童期の特徴について、認知・社会性・自己概念の観点から理解し、保幼小接続などの問題など教育問題とともに支援法について考える。

キーワード：具体的操作期、形式的操作期、保存性、一次のことばと二次のことば、コールバーク、道徳性の発達、小1プロブレム、中1ギャップ、思春期

*参考テキストの第4章・5章も参考にしてください。

第4講 青年期の発達

青の身体・認知・対人関係の発達、この時期の臨床的課題について学ぶ。

キーワード：エリクソンの心理社会的理論、自我同一性（アイデンティティ）、アイデンティティ地位、ギャング・グループ、チャムグループ、ピアグループ、非行、抑うつ

*参考テキストの第6章も参考にしてください。

第5講 成人期・中年期の発達

職に就き、家庭を築き、社会のメンバーとしての責任を担うようになる成人期から中年期の種々の発達の課題について学ぶ。

キーワード：エリクソン、親密性、世代性、レヴィンソン、スーパー、キャリア、中年期危機

第6講 高齢期の発達

生涯発達の観点から高齢期を捉え直し、かかわり方や支援について考える。高齢者の世代間交流の意義についても考えてみよう。

キーワード：ライフサイクル、バルデスの生涯発達理論、超高齢社会、共生社会

*第5講、第6講については、参考テキストの第7章も合わせて読んでおいてください。

第6講まで終了後に、第1章を見直すとわかりやすくなると思います。

2. 家族・家庭の理解（第7講～第9講）

第7講 家族・家庭の意義と機能

家族・家庭の概念や意義、機能について、時代の変化とともに理解し、家庭への向き合い方を考える。特に近年の個人を中心とする「関係」としての家族の考え方への変化について理解しよう。

キーワード：家族と家庭、結婚と離婚、合計特殊出生率、家族機能の外部化、家族の個人化

第8講 家族関係・親子関係の理解

家族の基本的理解の枠組みとして、家族ライフサイクル論と家族システム論を理解し、親子関係支援技法を学ぶ。家族ライフサイクルのとらえ方については、多様な生き方を反映させるような複数のモデルの必要性を認識するとともに、特にシステム論的なとらえ方、多方向で相互的な関係の理解を深めよう。

キーワード：家族ライフサイクル論、家族システム論、ボウルビィ、愛着理論、エインスワース、アタッチメント、プレイセラピー、ペアレントトレーニング、家族療法

第9講 子育ての経験と親としての育ち

子どもを持つこと、妊娠中や産後の心理状態、子育てをめぐる社会状況とその支援について学ぶ。保育園は、保護者と連携して子どもの育ちを支援するだけでなく、保護者の子育て力を高めていくことが課せられていること、そしてその支援方法についても理解する。

キーワード：「親」になること、母性神話、産後うつ、親としての育ち、ソーシャルネットワーク、成人期のアイデンティティ発達、子育て支援

3. 子育て家庭に関する現状と課題（第10講～第13講）

第10講 子育てを取り巻く社会状況

出産・子育てをめぐる社会状況を中心に、子育て支援の制度・状況を理解する。要保護児童への支援だけでなく、その親への支援の重要性にも目を向けること。

キーワード：晩婚化・非婚化、子育て支援、要保護児童、児童福祉施設

第11講 ライフコースと仕事・子育て

ライフコースの考え方を理解するとともに、その視点から子育て期の親や子どもに影響するさまざまな人々を理解し、子育て支援について考える。

キーワード：ライフサイクル、ライフコース、性役割分業、ダブルケア

第12講 多様な家庭とその理解

近年ますます多様化する家庭のありよう・家族関係の現状と課題を概観し、具体的支援のあり方について学ぶ。親の離婚や再婚が子どもに与える影響についても考えよう。

キーワード：少子化社会、きょうだい関係、社会的養護、里親への支援、子どもの貧困、親の離婚・再婚

第13講 特別な配慮を要する家庭

養育者のメンタルヘルス、子どもの障がい、不適切な養育などの問題を取り上げ、それらへの対応を考えるとともに、保育者自身への影響についても理解する。

キーワード：メンタルヘルス、うつ症状、ネグレクト、虐待、いい子、不適切な養育（マルトリートメント）、トラウマ、逆境的小児体験、共感疲弊

4. 子どもの精神保健とその課題（第14講・第15講）

第14講 子どもの生活・生育環境とその影響

子どもの発達に大きく影響する環境の問題について理解するとともに、特殊な環境で育つときの課題について学ぶ。

キーワード：母体環境、愛着形成、ソーシャルメディア、ひとり親家庭、虐待家庭、施設での生活、世代間連鎖

第15講 子どものこころの健康にかかわる問題

日常生活の中で見られるこころの健康を崩している時のサインと行動の問題についての理解と対応を学ぶ。

キーワード：睡眠障がい、排泄障がい、食行動異常、チック、吃音、場面緘黙、自律神経失調症、発達障がい、感覚異常

*参考テキストの第8章3節も参考にしてください。

子どもの理解と援助

専門教育科目／1単位／2年後期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年10月16日(土) 9:30~16:40 2日目 令和3年10月17日(日) 9:30~16:40	該 当 時間割	A
	[スクーリング受講中止届の提出について] 令和3年10月8日(金) 必着		
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス(岡山県岡山市北区岩田町2-5)		

■ 担当教員	森井 康幸
■ 使用テキスト	テキスト：新 保育ライブラリ 子どもを知る 保育の心理学Ⅱ 著 者：清水 益治 他著 出 版 社：北大路書房 出 版 年：2011年 I S B N：4762827436 (9784762827433)
■ 参考テキスト	テキスト：新 基本保育シリーズ10 子ども理解と援助 編 集：清水 益治・森 俊之 出 版 社：中央法規 出 版 年：2019年 I S B N：4805857900

講義概要・一般目標

子どもの実態に応じた心身の発達と子どもへの関わりについての理解を深めるとともに、日常生活や遊び中での子ども理解の視点や具体的方法、さらには子どもの発達援助の基本について、事例の検討を行いながら学習する。

到達目標

子どもを理解するための多様な視点と実際の関わり方の基本を理解するとともに、学んだ知識をもとに様々な現実的な問題への対応について自分で考えることができるようになることが到達目標である。

評価方法

スクーリング中に行う数回のミニ・レポートと参加態度(積極性)により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

学修の進め方

[スクーリングまでの事前学修事項]

『保育の心理学Ⅰ』の特に第1章から第3章を中心に、子どもの心身の発達についての復習をしてください。『保育の心理学Ⅱ』の第1章～第5章については精読、6章～8章は少なくとも目を通しておいてください。また、理想の保育環境についても考えておいてください。

[スクーリング中の学修活動]

一部テキストの概説も交えますが、基本的には小グループでの意見交換を中心に行います。自分の考えを発表すること、他のメンバーの発言を聞くことをとおして、多様な視点に気づくことと自分なりの保育士像を考えることを目指します。DVD映像等の視聴もあります。

準備物は、テキストの他、保育指針等があれば十分です。

[スクーリング終了後の学修事項]

スクーリングで学んだことを、他の学科目、例えば『乳児保育』や『障害児保育』、『保育内容』などの学修内容と関連づけるよう試みてください。また、日ごろから、多様なものの見方ができるように意識してください。

[フィードバック]

スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行いません。

学 修 指 導

1 日 目	講義1	オリエンテーション、および、保育実践現場の概要を把握する。 (映像で学ぶ保育指針)
	講義2	発達をとらえる枠組みと、個人差の把握方法について理解する。 (1章・2章を中心に)
	講義3	共感的理解と子どもと関わりについて考える。 (3章を中心に)
	講義4	保育者と子どもの関係 (3章に関連して)
2 日 目	講義5	遊びの変化に見る子どもの発達、発達に伴ういざこざの意味・対処法を考える。 (3章・4章・5章・6章・9章を中心に)
	講義6	子ども理解の方法と自主性を伸ばす保育について考える。 (3章・4章・5章・6章・12章に関連して)
	講義7	子ども理解と発達援助について考える。 (8章・11章を中心に)
	講義8	まとめ・多様な視点の重要性 科目認定試験 最終レポート

スクーリング事前課題・準備物等

[事前課題]

テキストの1, 2, 3, 4, 5, 8, 11章を精読しておくこと。

[準備するもの]

テキスト、保育所保育指針（または保育所保育指針解説）

[その他]

基本的に演習なので、質疑、発表等には積極的に参加すること。

臨床心理学概論／臨床心理学

専門教育科目／2単位／3年後期開講／テキスト授業

■ 担当教員	土居 正人
■ 使用テキスト	テキスト：臨床心理学概説 著者：田中 富士夫著 出版社：北樹出版 出版年：1988年 ISBN：4-89384-551-9 (9784893845511)
■ 参考テキスト	テキスト：臨床心理学 著者：丹野義彦著 出版社：有斐閣 出版年：2015年 ISBN：978-4641053793

講義概要・一般目標

臨床心理学とは、人間の心理・行動面の諸障害についての診断、治療、それに予防法にかかわる研究と実践の分野である。したがって、この授業では主として心理的な諸障害にどのようなものがあるのか、その原因としてはどのようなことが関係するのかといったことの解説とその障害に関する診断や心理判定の方法として用いられる心理面接、行動観察、心理検査法について解説する。さらに諸障害に対してどのような心理的治療や対処法が用いられるのか、それとともに今日の主要な心理療法について解説する。さらには不適応行動や種々の障害に対する予防法、ないしは心身のより健康の増進を図るための臨床心理学的な諸活動等について今日どのような手法がとられているのかを紹介する。

テキストにある章立てに沿った形で、第1部から第6部までの内容を学修することになるが、特に臨床心理学についての基本的な内容を中心に学修を進める。つまり、臨床心理学の定義、臨床心理学の歴史的背景、臨床心理学の理論モデル、それから臨床心理的査定法の主たる手法である面接法、行動観察法、心理検査法について学修していく。続いて心理療法についての代表的な治療理論とその実践技法（精神分析療法、行動療法、来談者中心療法、その他）、臨床心理学における研究法、そして臨床心理学の活動分野とその内容には、どのようなものがあるのか、それら臨床活動を巡る諸問題と留意点、最後の第6部で心理臨床家の現状と課題について学修していく。

到達目標

臨床心理学は、心理・社会的に不健康な状態にある人について研究・介入する心理学の分野である。したがって本講では、人間の不健全な状態には、どのようなものがあるのか、またその診断法、対処法、それに予防法などの基本的知識を体系的に習得することを到達目標とする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

これまでに私は心理臨床現場における臨床経験（児童精神科、小中高校のスクールカウンセリング、大学学生相談、適応指導教室、児童相談所の夜間・休日相談）を積ませていただいたことから、臨床心理学全般の実務経験を有していると考えています。また、心理学部心理学科（通学生）の授業科目では、「心理検査実習」、「臨床の倫理」、「心理学理論と心理的支援」、大学院では「臨床心理学研究法特論」、「投影法特論」など、臨床的な講義を担当してきました。

これらの経験から、臨床心理学全般を理解できるように課題を作成しています。ただ丸暗記をするのではなく、どのような意味を持って書かれているのかを一つ一つ吟味しながら解いていきましょう。

学修の進め方

・添削課題出題の意図、及び課題の進め方

人の心はどのような時に病んでしまうのか、どのような心の病・障害があるのかについて理解してもらいたいと思います。臨床心理学では精神障害だけでなく、不適応や問題行動まで含みます。そのような時、セラピストは何の理論で介入するのか、どのように介入するのかを学んでほしいと思います。

課題は幅広い範囲から出題されますが、とても興味深い学問であると思いますので、学修しやすいと思います。ただ読むだけでなく、覚えるように読んでいきましょう。

・添削課題をまとめるにあたっての留意点

臨床心理学の中でも、心理療法・心理検査について重点を置きました。心理検査はどのように作られているのか、心理療法はどのように介入するのかについても述べています。必要な個所は覚える必要がありますが、それ以外のところにもとても役に立つ知識でありますので、ぜひ覚えていってほしいと思います。認定試験の際には、課題と同じ個所が出てくるとは限りません（違う所も出します）。教科書内を幅広く覚えていくよう心がけましょう。

・効果的な学修の流れ

添削課題の部分しか、知らないということにならないように、まずは教科書を全て読んでから、問題を解くことが大切です。そうすることによって、どこにどのようなことが書いてあるかを理解して進めていくことで、全体像が理解しやすくなります。

・フィードバックについて

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

第1部 臨床心理学の基礎（序章，1章，2章）

第1部のポイント

第1部は、序章と第1章，2章からなるが、臨床心理学とは、どのような心理学の学問分野なのか、またどのような実践活動の分野なのかということについて理解をすること。そのためには、序章にある臨床心理学の定義をしっかりと理解すると同時に、サンドバーグらのいうSCAパターンをしっかりと読むこと。第1章には、臨床心理学の展開に重要な貢献をした代表的な研究者とその業績がのべられている。それに続いて臨床心理学が時代とともに、どのような動きをしていったのか、その変化について述べられているが、特にフロイト、ゴールトン、ウイットマーそれにビネー等の功績を理解する。そして最後にわが国の臨床心理学を巡っての解説がなされているが、大まかにその動きに目を通すこと。第2章では、臨床心理学における重要な用語の概念の解説と臨床心理学の理論モデルの解説がなされている。特に第2章は、これからの学修にとって基盤をなすものなのでしっかりと読んで欲しい。

第2部 人格と行動の理解（3章，4章，5章，6章）

第2部のポイント

第2部は、第3，4，5，6章からなっているが、この第2部からは、臨床心理学の具体的な内容についての解説がなされている。心理・社会的な苦しみを抱えた人（クライアント）の問題を解決するには、次のような一連の作業が必要になる。1. まず最初にクライアントの抱えている問題が、どのようなものであり、どのようなことに原因しているのかを捉える。2. それに基づいて問題の解決法には、どのように介入をするのがよいか方針をたてる。3. そして実際にその介入法を実践し、その結果を確認するという一連の作業である。これらの作業に用いる主な手法として面接法、行動観察法、心理検査がある。第2部では、これらの各手法について解説されている。つまりこの2部の第3章では面接法について、第4章では、行動観察法について、それに第5章では心理検査について、そして第6章では、上記の各手法によって得られたクライアントについての情報のまとめ方が

解説されているが、これらの各手法は、臨床心理学において、きわめて重要な基礎的なものであるので、そのことを十分に認識して第2部の内容を学修して欲しい。

第3部（第7章，8章，9章，）問題行動への介入方法（個人心理療法）

第3部のポイント

第2部で述べたような手法でもって、問題に苦しんでいる人の問題がどのようなことであり、それがどのような原因によっているのかが理解できたら、次にその問題にどのように対応するのか介入方針をたて、これを実践することになるということを述べたが、この第3部では、その介入手法として用いられるきわめて代表的な心理療法の諸技法が解説されているが、この第3部では、治療者とクライアントが、一対一の形で向かい合う個人心理療法についての代表的な4つの心理療法が解説されている。つまり第7章では精神分析療法について、第8章で行動療法について、第9章で来談者中心療法について、そして第10章で遊戯療法について、それぞれ解説がなされている。これらの理論的考え方、それに実際の技法等を概略つかむようにすること。内容的にはやや難しいところもあるが、これらの各心理療法については、他にも多くの解説書があるので、それらも参考にすること。

第4部 介入活動の展開（個人を超えて）

第4部のポイント

第4部でも同じくクライアントの問題を解決するための介入技法について解説されているが、4部で解説されている内容は、第3部で述べたような治療者とクライアントが一対一の形で向かい合う心理療法の形態とは異なり、グループで行われる心理療法の諸技法について解説されている。つまり11章では、家族を治療対象とする家族療法について、第12章では治療形態が集団でなされる集団療法について、また、第13章では、地域の中で人と環境へ働きかける地域臨床について解説されている。

第5部（第14，15，16章）臨床心理学の研究

第5部のポイント

第5部では臨床心理学における研究をめぐっての諸問題について解説されている。つまり、第14章では、臨床心理学の研究領域には、どのようなものがあるのか、学会および学会誌の紹介がなされている。また第15章，16章にわたって、臨床心理学の研究にかかわる諸問題が解説されているが、これらの内容の多くは、臨床心理学の研究にのみ該当するものではなく、他の心理学の分野においても同様に共通する問題でもある。ただし、臨床心理学特有の留意すべき問題もある。それらのことを考えながら読んでほしい。第5部は、内容がかなり多岐にわたっているので、ここで、それらそれぞれについて解説をすることは紙面の都合もあり難しいが、この第5部の内容にも一通り目を通して欲しい。ともかく、きわめていろいろなことを配慮しなければならないこと、また研究すべきさまざまな課題があることを理解して欲しい。

第6部 援助職としての心理臨床家（第17章，18章，19章）

第6部のポイント

第6部では、心理臨床家が、今日実際にいろいろな実践活動をしているが、そのことを巡っての現状と課題について、さまざまな解説がなされている。まず第17章では、心理臨床家の教育と訓練について、第18章では、心理臨床家の実践活動をめぐって、どのような構え、姿勢が必要か、そして第19章では、心理臨床家の倫理的問題が取り上げられている。この第6部の内容は、特に臨床心理士になることを目指さなくとも、実際に臨床心理的な活動をしている方は多いのではないかと思う。そうしたことを考えると、この第6部にある内容は、いろいろと参考になることも多いと思われるので、せっかく臨床心理学について勉強するこの機会を利用してよく理解して欲しい。

社会的養護 I / 社会的養護

専門教育科目 / 2 単位 / 3 年前期開講 / テキスト授業

■ 担当教員	栗田 喜勝
■ 使用テキスト	テキスト：新プリマーズ社会的養護（第4版） 著者：小池由佳 他編著 出版社：ミネルヴァ書房（書店販売・注文可） 出版年：2016年 ISBN：978-4-623-07656-7
■ 参考テキスト	テキスト：実践から学ぶ社会的養護 著者：中山正雄 編著 出版社：保育出版社 販売所：教育情報出版直販のみ（TEL06-6658-8741）

講義概要・一般目標

講義概要としては、現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解するとともに、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本、制度と実施体制、対象・形態・専門職、現状と課題等について学ぶ。

児童養護は児童本来の家庭における養護と児童福祉施設や機関などによる社会的養護の連携協力によって初めて全うされる。このことを踏まえて、社会的養護の中でも特に児童福祉施設による児童養護の考え方及びその現状を詳細に学ぶとともに、養護上の基本原理とその実践について考察する。本講を受講することにより、児童の社会的養護における自立支援の実践について学び、家庭養護との対比の中で里親養護や施設養護における児童の権利保障や最善の利益について、その理念と実践を学ぶことができる。

到達目標

1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。
2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。
3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。
4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。
5. 社会的養護の現状と課題について理解する。

評価方法

開講期の途中(中間期)に添削課題による中間評価を行い、一定の学修成果の認められる者(添削課題の正答率が50%以上)に対して期末の科目単位認定試験を行い評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

児童養護施設の児童指導員・副園長として児童養護の実践に従事した。このような経験を踏まえ、今日の社会的養護の意義や体制等を学ぶとともに社会的養護実践現場の実際についても論じ、履修学生の理解を深めさせる。

学修の進め方

〔添削課題出題の意図及び課題の進め方(学び方)について〕

本科目の添削課題については、専門知識修得状況確認のための①正誤解答式課題、②用語補充式課題、

ならびに思考力・考察力確認のための③論述式課題の三部からなっており、多面的に学修内容の理解度を確認できるように構成されています。したがって、課題に取り組むためには、使用テキストの各章を熟読して、学びのキーワードとその意味について理解するとともに、章のテーマ・主題について考察を深めることが求められます。

〔フィードバック〕

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを記載し返却します。

学 修 指 導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

第1章 社会的養護とは何か

(1) 社会的養護とそれに関連する言葉について理解する。①養育，保育，養護，ケアの違いについて，②社会的養護の範囲について，(2) 社会的養護の基本原則について理解する。①児童家庭福祉の理念と社会的養護の関連について，②個別援助(ケースワーク)，社会生活支援，自立援助，自己決定，家族支援，グループワークの活用，社会化・地域化等の原則について，(3) 児童養護の問題と政策の特徴について学ぶ。

第2章 現代社会に暮らす子どもと家庭

(1) 現代の日本社会の特徴の理解，①物質的に豊かな社会，②少子高齢社会，(2) 子どもと家族の置かれた現状の理解，①核家族，②地域との希薄なつながり，(3) 子どもを生み育てることの意味や理想と現実の狭間で葛藤する家族について学ぶ。

第3章 子ども権利

(1) 人権としての子どもの権利について，(2) 児童の権利に関する条約の理解，(3) 子どもの権利のとらえ方，(4) 社会的養護を必要とする子どもたちの権利，(5) 子どもの権利を保障する取り組みについて学ぶ。

第4章 子どもの養護の歴史

(1) 子どもの養護の歴史的背景，(2) 今日の子どもの養護の展開，(3) 現代の子どもの養護に求められる発想の転換等について考察する。

第5章 社会的養護の体系

(1) 社会的養護の体系について，①家庭養護と社会的養護，②家庭的養護と施設養護，③利用型養護と入所型養護等について，(2) 社会的養護体系の課題について考察する。

第6章 社会的養護の制度

(1) 社会的養護の制度，(2) 社会的養護の相談機関，(3) 家庭的養護事業，(4) 施設養護事業等について学ぶ。

第7章 施設養護の特質

(1) 施設養護の役割と機能について，(2) 家庭養護との比較を通じたメリット・デメリットについて考察する。

第8章 施設養護の基本原則

施設養護の場における基本的な養護の理念について，個別援助と集団援助の視点から①人間尊重，②子どもの人権保障，③子どもの成長発達援助，④親子関係の尊重と調整，⑤集団生活における相互援助力の活用等について考察する。

第9章 施設養護の実践(1) 日常生活および自立支援

各種児童福祉施設における生活保障，発達保障の機能と役割について学ぶとともに，日常生活支援，自立支援の実践と課題について考察する。

第10章 施設養護の実際(2) 治療的・支援的援助

各種児童福祉施設における養護のうち、特に治療的・支援的援助を要する子ども達への養護について、ニーズの背景、特性、専門的援助の実際等について学ぶ。

第11章 施設養護の実際(3) 親子・地域との関係調整

施設養護における親子関係調整の必要性や、地域との連携について学ぶ。また、家族支援の視点と実際地域支援の必要性と実際について理解する。

第12章 社会的養護とソーシャルワーク

(1) 社会的養護におけるソーシャルワークについて、(2) ソーシャルワークの多様性とすすめ方、(3) 児童自立支援計画とソーシャルワーク、(4) ファミリーソーシャルワークの意義等について学ぶ。

第13章 児童福祉施設の運営管理

施設設立の理念と運営、人的管理・物的管理の実際と課題、児童福祉施設の設置及び運営に関する基準の意義と課題、職員の勤務形態と施設運営、措置費制度の特徴と運用、苦情解決のための取り組みの重要性等について学ぶ。

第14章 児童家庭福祉の援助者としての資質・倫理

児童家庭福祉に従事する援助者に求められる資質と自己向上のために取り組むべき課題と目標について理解する。

第15章 社会的養護のあるべき姿について

施設内における子どもの人権侵害防止への取り組みについて理解し、子ども達にとって家庭に代わる安心・安全・楽しい生活環境の提供への取り組みの重要性について学ぶ。

社会的養護Ⅱ／社会的養護内容

専門教育科目／1単位／3年後期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年11月20日(土) 9:30~16:40 2日目 令和3年11月21日(日) 9:30~16:40	該 当 時 間 割	A
	[スクーリング受講中止届の提出について] 令和3年11月12日(金) 必着		
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス(岡山県岡山市北区岩田町2-5)		

■ 担当教員	栗田 喜勝
■ 使用テキスト	テキスト：指定なし(スクーリング時に資料配付)
■ 参考テキスト	テキスト：実践から学ぶ社会的養護内容 著 者：中山正夫編著 出 版 社：保育出版社 販 売 所：教育情報出版直販のみ(Tel.06-6658-8741)

講義概要・一般目標

講義概要としては、社会的養護の基礎的内容について理解するとともに、施設養護及び家庭養護の実際、計画・記録・自己評価の実際、相談援助の方法・技術とその実践、子ども虐待防止と家庭支援、今後の課題と将来展望について学ぶ。

また、特に施設養護の具体的内容としては、養護内容の実践の場である児童福祉施設のうち、特に居住型施設を中心に、児童養護の体系や各種児童福祉施設の概要、施設生活の内容、各種専門職の役割等について、文献資料ならびにビデオ・DVD等を通じて学ぶ。また、アドミッションケア、インケア、リービングケア、アフターケアの各段階での養護内容の実践についても事例を通じて学ぶ。本講を受講することにより、各種児童福祉施設における子どもたちの日常生活養護の実際を理解し、施設養護における子どもの心身の成長発達援助の方法を学ぶことができる。また、施設の児童指導員・保育士等、いわゆる児童ケアワーカーに必要な専門知識、技術、倫理等を学ぶことができる。

到達目標

1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的内容について具体的に理解する。
2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。
3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。
4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。
5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。

評価方法

スクーリング授業終了後に行う科目単位認定試験により評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

児童養護施設の主任児童指導員・副園長として児童養護の実践に従事した。このような経験を踏まえ、施設養護・家庭養護の実践例を交えた授業を通じて施設養護及び家庭養護の実際、相談援助の方法や技術を学ばせ、養護実践力を育む。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

「社会的養護内容」は「社会的養護」と同様に保育士資格取得のための必修科目ですが、この演習では特に各種児童福祉施設や里親養護等における具体的な養護の内容について学修しますので、「社会的養護」で用いるテキストや参考書等を活用して、特に保育所以外の各種児童福祉施設（児童養護施設、情緒障害児短期治療施設、知的障害児施設等）の概要について事前に予習しておくことを希望します。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

スクーリングにおける学びをより確かなものにするためには、スクーリング時に配布した資料に再度目を通すとともに、紹介した文献や図書等を通じて補完学修・発展学修に主体的に取り組む必要があります。特に社会的養護内容については、制度・政策的な取り組み内容が大きく影響を与えるため、関係法の改正や各地方自治体の独自の取り組み等にも関心を持ち、養護現場のより具体的な状況や課題について学ぶ姿勢が大切です。

〔フィードバック〕

スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行いません。

学修指導

1 日 目	講義1 社会的養護の内容と特質
	講義2 社会的養護の実際（1）施設養護の生活特性及び実際
	講義3 社会的養護の実際（2）家庭養護の生活特性及び実際
	講義4 社会的養護の実際（3）視聴覚教材を用いた施設養護の理解
2 日 目	講義5 社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価
	講義6 社会的養護に関わる専門的技術
	講義7 今後の課題と展望
	講義8 科目認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

特になし

〔準備するもの〕

筆記用具（講義資料は当日配布します）

〔その他〕

特になし

保育原理 I

専門教育科目 / 2 単位 / 1 年前期開講 / テキスト授業

■ 担当教員	秀 真一郎
■ 使用テキスト	テキスト：最新保育講座1 保育原理 [第3版] 著 者：森上史朗・小林紀子・若月芳浩 編 出 版 社：ミネルバ書房 出 版 年：2015 年 4 月 I S B N：978-4-623-07351-1
■ 参考テキスト	テキスト：保育原理 [第7版] 著 者：待井和江 編 出 版 社：ミネルバ書房 出 版 年：2009 年 3 月 I S B N：9784623053094

講義概要・一般目標

保育の基礎を構築することから、自らの保育観、子ども観、保育士観、保護者観が磨かれていく。そのためにも、概念・理念を知ることから始まり、歴史的思想を理解することで、今の保育思想を次になぐものへ変える力をつける。さらに、保育現場において求められているものを知り、理解することで家族援助や子育て支援の重要性を理解する。子ども達と関わる上で必要な実践的知識を理解し、自ら応用する力を身に付けるため、毎回の講義の中で自らの保育に対する基礎作りを求める。

到達目標

保育に携わる上で基礎概念となる保育の原理を理解すると共に、より柔軟な保育理念を身に付けるための考察力を培うことを目的とする。保育における歴史や思想を知ること、現在の保育に至る流れをより深く理解してほしい。さらに、乳幼児期の子どもにおける発達を考察し、保育内容を考慮した上での計画の意義・重要性を知ってほしい。保育者とは？この疑問に対して、自らの答えを見つけ出してほしい。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

- ・ポイントとしては、各章における「ねらい」とは何かを念頭に置きながら、テキストを読み込むことです。特に保育の基礎となる内容を全般的に学ぶ科目ということを意識してください。
- ・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

第1章 保育とは何か

この章のポイント

乳幼児を対象とした教育には「保育」ということばを使った方が学校教育とは違った特質をよく表すことができるといわれています。学校教育とは違う「保育」ということの本質はどのようなのか考えます。

第2章 保育の基盤としての子ども観

この章のポイント

「子どもってこういうもの」という考えや見方は「子ども観」と呼ばれています。自身の持つ「子ども観」がどういうものかを自覚し、「子ども観」からくる保育者像や保育観について考えます。

第3章 子ども理解から出発する保育

この章のポイント

保育という営みは、「子どもをどう理解するか」というところから始まっています。個々に応じた援助を行うことを通して、表面的には見えない子どもの内面を理解することこそ、保育の本質といえます。子どもたちの姿や行為と保育のかかわりについて考えます。

第4章 子どもが育つ環境の理解

この章のポイント

環境を通して行う保育に必要な「望ましい環境」とはどのようなものなのでしょうか。子どもが自発的にかかわり、自らが育つ力を発揮する環境について考えます。

第5章 保育内容・方法の原理

この章のポイント

保育そのものを成り立たせている保育内容や方法の原理を学びます。具体的な事例を通して、子どものための保育内容や方法について考えます。

第6章 保育の計画と実践の原理

この章のポイント

保育における計画とは、子ども理解に基づきながら、柔軟に計画を考えていく必要があります。「保育実践に生きる計画」「保育者の専門性向上に繋がる計画」という視点から考えます。

第7章 健康・安全と障がいのある子どもへの対応

この章のポイント

近年、社会の様子とそこに暮らす家族が変化してきています。それに伴い、子どもの抱える状況も変化し、多様化してきています。基本的な障がいの理解と対応について考えることを目的に、健康・安全・多様な子どもへの対応や理解について考えます。

第8章 保育の歴史に何を学ぶか

この章のポイント

現在の保育とは、これまでの保育の歴史がたどった形跡の上に成り立っています。保育の先覚者たちの道のりを振り返ると共に、自身の子ども観に通じる理論と哲学を考えます。

第9章 保育者に求められるもの

この章のポイント

保育者とは、ただ単に毎日子どもたちと遊ぶことを求められているのでしょうか。「保育のプロ」としての保育者とはどのような仕事なのかを理解する必要があります。また、子どもたちを取り巻く近年の環境の変化に対して、求められている役割とは何なのか考えます。

第10章 家族援助と子育て支援

この章のポイント

子どもを理解し健やかな成長を支える上で、保護者との信頼関係はとても大切なものです。子育てを取り巻く社会的な変化を理解した上で、保育者として現在の子育て支援や家族援助において、どのような役割が期待されているかを考えます。

第11章 保育の評価と苦情処理及び保育者の研修

この章のポイント

より高い保育を日々目指す上で、保育に対する評価は欠かせないものとなっています。さらに、多様なニーズにこたえる上でも、苦情解決は保育者に要求される資質となってきています。保育の

あらゆる場面での目的，内容，方法，そして課題における保育者としての資質向上について考えます。

第12章 保育の現状と課題

この章のポイント

子育てを取り巻く状況は，時代や社会の大きな変化に準ずるように変容してきました。それに伴い，保育に求められるものも変化してきています。子どものよりよい生活や発達を理解するため，現在抱えている保育の現状と課題を考えます。

保育原理Ⅱ

専門教育科目／2単位／1年後期開講／テキスト授業

■ 担当教員	秀 真一郎
■ 使用テキスト	テキスト：最新保育講座2 保育者論 [第2版] 著 者：汐見稔幸・大豆生田啓友 編 出 版 社：ミネルバ書房 出 版 年：2016年3月 I S B N：9784623076383
■ 参考テキスト	テキスト：改訂 保育者論 [第3版] 著 者：民秋言 編 出 版 社：建帛社 出 版 年：2015年 I S B N：978-4-7679-5031-0

講義概要・一般目標

保育園・幼稚園における保育者の役目や求められているものをしっかり理解することが大切となる。そのためにも理論に基づいた保育者の専門性に関する知識・基礎を理解する必要がある。そうすることで、個性のある魅力ある保育者、自分が保育者としてできることを自ら見つけだすことができるようになる。ただ単なる知識の詰め込みではなく、自らが考える講義となるよう、子ども・保護者・社会にとっての保育者とは何かという投げかけに対する答えを見つけ出すことを求める。

到達目標

現在保育現場において求められているものは多様化し、細分化されてきている。当然、保育者自身に求められるものも変わってきている。今保育者として求められているものとは何か？子どもたちにとっての保育者とは？保護者にとっての保育者とは？そのような疑問に対する答えを、役割と論理・制度的位置づけ・専門性などの面から自ら見つけだすことのできる考察力と保育者観を身につけてほしい。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

・ポイントとしては、各章における「ねらい」とは何かを念頭に置きながら、テキストを読み込んでください。特に「保育者とは」という保育者のあり方やその役割について、持つべき倫理観や専門性の理解から自身の中で築いていってください。

・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

第1章 「保育者になる」ということ

この章のポイント

保育者とはどのような職業だと考えますか。自身の「保育者になろう」と考えた動機を再確認することで、自らが目指す保育者像が浮かび上がってきます。「保育者になるということ」がどうということなのかを考えます。

第2章 保育者の一日 ―具体的な仕事の流れに見える保育者のまなざし―

この章のポイント

保育者の役割を理解する上で、保育者の一日を知るところは最も大切な要因です。子どもたちが健やかに、思う存分成長するために、保育者の一日を具体例を基に考えます。

第3章 子どもの思いや育ちを理解する仕事

この章のポイント

子どもの活動や言動には、必ずその子自身の思いが備わっています。自発的な行動を促すためには、子ども一人ひとりの思いや育ちを理解することから始めなければなりません。子どもの思いや育ちを理解することとはどういうことなのかを考えます。

第4章 子どもと一緒に心と体を動かす仕事

この章のポイント

子どもたちと寄り添う保育者がよい保育者とされています。子どもたちは成長・発達する中で、様々な場面において心を動かし、体を動かします。子どもと寄り添うとは、まさに子どもと一緒に心と体を動かすということとなるでしょう。ここでは事例を基にいかにして心と体を動かすかについて考えます。

第5章 豊かな文化や自然との出会いをつなぐ仕事

この章のポイント

子どもたちの成長・発達に“経験”は欠かせないものです。保育の場でどのような経験をするかは、保育者の導きの元に成り立っているといえます。子どもたちと文化や自然の出会いをいかに繋ぐかを考えます。

第6章 保護者や家庭と一緒に歩む仕事

この章のポイント

子どもたちが育つ中で、保護者や家庭との連携は欠かせないものです。保護者だけが、保育者だけが、子どもを育てるのではありません。子どもの最善の成長において、保護者や家庭との繋がりをその取り組みなどについて考えます。

第7章 学び合う保育者 ―保育の場における保育者の成長と同僚関係―

この章のポイント

現状に止まらず、自身を成長させていく必要がある点では、保育者も同じです。保育の専門性や自身の保育を振り返る「省察」はなくてはならないものです。「振り返り（省察）」と「語り合い（対話）」の見出す、その先の成長について考えます。

第8章 保育者の専門性って何だろう ―まとめにかえて―

この章のポイント

「保育のプロ」として子どもたちとのかかわりに従事する保育者。保育者とは、まさに保育の専門性を持った人とされています。しかし、実際に保育者の専門性とはどういったものなのでしょう。ここでは、引き出しの多さと臨機応変性、かかわりの適切性の二側面から、保育者の専門性について考えます。

保育原理Ⅲ

専門教育科目／2単位／2年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	秀 真一郎
■ 使用テキスト	テキスト：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉 著 者：文部科学省・厚生労働省・内閣府 出 版 社：チャイルド本社 出 版 年：2017年 I S B N：978-4-8054-0258-0
■ 参考テキスト	特に指定なし

講義概要・一般目標

保育所保育指針を熟読し、しっかりと理解することがこの講義の内容すべてとなる。日本における保育の中心となす保育所保育指針の理解、さらにはその理解をベースとし、今後の保育観を作り上げる内容となる。保育の現場では、同じ日・同じ瞬間は二度とない。その状況に対応するためには、いかに保育者としての基盤を作り上げているかが鍵となる、そのためにも保育者としての基盤・基礎知識となる保育所保育指針は必要不可欠な内容となることを理解して臨んでほしい。

到達目標

保育所における保育の基盤となる保育所保育指針は、とても重要であり十分に理解されるべきものである。日々の保育の基盤となり、子どもの成長発達に対する指針という意味においても大切なものである。この講義を通して保育所保育指針における総則を含めた全5章を深く理解することで、保育現場の現状を知ることができる。また、保育制度の現状を学ぶことで、保育者としての役割や求め荒れている者を理解することができる。このように、現代の保育課題に対しての知識を高めることを求める。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

学修の進め方

- ・ポイントとしては、保育における「保育所保育指針」の位置付けについて念頭に置きながら、テキストを読み込んでください。保育における基盤となる内容となることを意識し、実際の保育にとって重要な基礎を積み上げていることを自覚してください。
- ・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

第1章 総則

この章のポイント

保育指針の基本的考え方を示されています。ここでは保育所保育指針の全体像を捉え、内容における最低基準としての規範性を考えます。

さらには、保育所保育における基本原則や養護に関する基本的事項、保育の計画及び評価といった保育を行う上での基本的内容について考えます。また、幼児教育を行う施設として共有すべき事

項について知り、就学時における目指す子どもの姿とその基本的理念について考えます。

第2章 保育の内容

この章のポイント

保育を行う上で、子どもの発達の特性とその道筋（発達段階）の十分な理解は必要不可欠なものです。一人ひとりの発達過程に応じて見通しを持った保育を行うためにも、子どもの発達について考えます。

保育の内容を充実させることで、子ども自身の自発的活動や乳幼児期にふさわしい経験を提示することができます。養護と教育におけるねらい及び内容を理解し、保育の内容を構成する基盤を考えます。

第3章 健康及び安全

この章のポイント

健康及び安全があってこそ、子どもの健やかな成長発達が保たれます。また、集団生活が営まれる保育所において、集団の健康と安全も考慮されるべき点であります。環境のもたらす影響について十分に考慮し、子どもたちの健康及び安全、さらには食育のもたらすものは何か考えます。

第4章 子育て支援

この章のポイント

子育て支援は、もはや保育者として従事する役割の一端となっています。すべての子どもの健やかな育ちの視野に入れ、保育所の特性を生かし、専門知識と技術を持つ集団として、保護者や地域社会の子育てに関する支援について考える。

第5章 職員の資質向上

この章のポイント

専門性を有する人材の集まりとして保育所が存在します。保育所保育において質の高い保育を展開するためには、一人ひとりの保育士の資質向上が不可欠です。保育ニーズの多様化に対応すべく、いかにして保育所保育に携わる職員の資質向上に努めるべきかについて考える。

子どもの保健

専門教育科目／2単位／1年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	西田 啓子
■ 使用テキスト	テキスト：「子どもの保健」 改訂第3版 著者：渡辺 博 編著 出版社：中山書店 出版年：2017年 I S B N：9784521744872
■ 参考テキスト	こどもの保健 第5版 巷野悟郎 編 診断と治療社

講義概要・一般目標

子どもの保健とは、子どもたちの日常生活の中から生まれ、実践されるものであり、心と身体の健康を維持し、増進することを目的とした積極的な実践活動である。この科目では、保育現場という、養護と教育を同時に行う場での健康と保健の意義を踏まえた上で、子どもの身体発育、生理、運動・精神機能の発達、さらには心身の問題だけではなく、栄養・生活リズム・母子関係・環境・社会制度についても学修する。また、子どもの病気の特徴や罹りやすい疾患、子どもの事故予防や遺伝についても学修し、理解を深める。成長発達が著しい乳幼児期における、病気の意味や家族の関わり方について学び、保育現場と家庭との連携について考察する。

到達目標

- ①子どもの各発達段階における身体的発達と生理的な身体機能について理解する。
- ②子どもの病気や症状の特徴と予防について理解する。
- ③子どもの精神発達について理解する。
- ④事故防止と安全対策、生活環境について理解する。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

病院施設内での看護経験、および、産前産後の妊産婦指導、保育所や子育て支援スペースにおける実施指導の実務経験があり実際の、子育て状況や子どもの健康などの現状について詳しく講義を進めています。

学修の進め方

第1章 子どもの保健を学ぶ

1. 子どもの保健とは
2. 子どもの保健を学ぶ意義と目的
3. 日本の子どもの保健水準
4. 子どもの保健に関する法律と制度・施策

*この章では、健康とは何か、健康を保つ保健とは何かを考える。日本における子どもの保健水準を知り、整備された法的環境との関連を学ぶ。

第2章 身体の成長

1. 子供の成長と発達、2. 体重、3. 身長、4. 頭囲、5. 胸囲、6. 肥満と痩せの評価
7. スキャモンの発達曲線

*この章では、子どもの身体発育や生理機能、運動機能、精神機能の発達と保健を理解する。その発育、発達過程は個人差があるとともに、それぞれの子どもの生活背景を知る手がかりともなる。

第3章 子どもの発達

1. 子どもの発達とは何かを学ぶ。
2. 乳幼児期各期の運動、精神発達を学ぶ。
3. 運動発達・精神発達の評価方法について理解する。
4. 子どもの生理機能の発達について理解する。

*この章では、子どもの正常な運動・精神発達と生理機能の発達を理解する。

第4章 子どもの栄養

1. 子どもの栄養の特徴を理解する。
2. 乳児にとっての母乳栄養の意味や、長所、短所を理解する。
3. 粉乳による栄養の長所、短所を理解する。
4. 混合栄養とは何か。混合栄養についての注意点を理解する。
5. 離乳食の開始から進め方、作り方などを理解する。
6. 幼児木の食事の特徴や注意点を理解する。
7. 間食の必要性と与え方

*この章では、成長期の乳幼児にとっての食事の重要性と、発達過程における食事内容の変化や対応を学修する。

第5章 生活と健康

1. 体温、2. 冷暖房、3. 水分補給、4. 便・おむつ、5. 睡眠・夜泣き、6. 日光浴・外気浴
7. 入浴、8. 歯磨き、9. 遊び、10. 外出

*この章では、子どもの生理的機能と、生活環境との関連性を理解する。日常生活すべてが子どもの健康状態に関係することを学び、保育現場における日常生活リズムの重要性を確認する。

第6章 子どもの事故とその予防

1. 子どもの事故の特徴、2. 窒息、3. 誤飲、4. 転倒・転落、5. 溺水、6. 熱傷（やけど）
7. 事故と予防、8. 救急処置

*この章では、それぞれの年齢に特徴的な事故原因を知り、発達段階に応じた事故予防を考える。また、様々な事故発生時の迅速かつ適切な救急処置を学修する。

第7章 遺伝と健康

1. 遺伝、2. タンパク質、3. 遺伝子、4. 染色体、5. 優性遺伝と劣性遺伝、6. 遺伝病
7. 遺伝子病、8. 染色体異常、9. 出生前診断、10. 遺伝子診断と遺伝カウンセリング

*この章では、遺伝について理解し、遺伝に関する病気を知り、出生前診断の意義について理解を深め、考察する。

第8章 子どもの症候

1. 発熱、2. 食欲、3. きげん、4. 嘔吐、5. 下痢、6. 脱水、7. 咳、8. 鼻汁とくしゃみ
9. けいれん

*この章では、病気として発病する前に現れる様々な症状を理解する。子どもが発病する前に呈するあらゆる症状について理解し、症状に対する注意、観察、対処法を学修する。

第10章 予防接種

1. ワクチンについて
2. ワクチンの種類

第11章 免疫・アレルギーと健康

免疫とアレルギーについての理解と、主なアレルギー疾患について

第14章 地域とのかかわり

地域で行われている母子保健対策や健診、保健センターの機能などについて学ぶ

〔フィードバック〕

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

この科目「子どもの保健」のテキストは、科目「子どもの保健ⅠA。ⅠB」と共通です。この科目では**テキストの第1章～第14章**を使用します。

この科目では乳幼児の発育や生理など基本的な内容と共に疾患についても広く学修します。子どもとかわっていくうえで、健康保持や事故予防につながる基礎的な知識になると思います。テキストをしっかりと読み込んで学修していきましょう。

子どもの健康と安全

専門教育科目／1単位／2年前期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年6月19日(土) 9:30~16:40 2日目 令和3年6月20日(日) 9:30~16:40	該 当 時間割	A
	[スクーリング受講中止届の提出について] 令和3年6月11日(金) 必着		
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス(岡山県岡山市北区岩田町2-5)		

■ 担当教員	西田 啓子
■ 使用テキスト	テキスト:「これだけはおさえたい! 保育者のための子どもの保健」 著 者:鈴木美枝子[編著] 内山有子・田中和香菜・両角理恵[著] 出 版 社:創成社 出 版 年:2019年10月 I S B N:9784794480927
■ 参考テキスト	子どもの保健演習ノート 診断と治療社

講義概要・一般目標

「子どもの健康と安全」では、演習形式を用いて学修する。「子どもの保健Ⅰ」では子どもの健康の保持増進、心身の発育・発達、子ども達の安全で健やかな生活についての理論を学んだ。それらの知識を実際の保育現場で実践できることを目標とし、演習を重ね習得する。具体的には、子どもに関わる際の“抱っこ”“おむつ替え”“沐浴”などの一般的な養護技術や、子どもの発育・発達の評価、子どもの健康状態の観察方法、病気やけがの救急時の看護、保育現場における保健活動および事故予防、危機管理の方法について学修する。さらに、広く子どもの保健を考えるうえで、心の健康と問題の対応法についても深く学び、「心と体」という広い視点を持って「子どもの保健」を捉えていく。また、保護者に向けて子どもの保健的な知識と技術を伝えていくことや、保護者の精神的サポートの役割も求められている。これらの事も演習を通し習得していく。そして、地域における保健活動と保育現場の関連性を学び、関係諸機関との連携方法を学修する。

到達目標

「子どもの健康と安全」では、子ども理解をより深め、保育現場で実践できる保健に関する実際的な知識及び基礎的技術の習得を目標とする。

- ①子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を理解する。
- ②子どもの健康及び日常生活と安全に係る実際的な技術を習得する。
- ③子どもの疾病とその予防及び適切な対応を習得する。
- ④救急時の対応や事故防止、安全管理の方法を習得する。
- ⑤現代社会における心の健康問題や地域保健活動等を理解する。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

病院施設内での看護経験、および、産前産後の妊産婦指導、保育所や子育て支援スペースにおける実施指導の実務経験があり実際の、子育て状況や子どもの健康などの現状について詳しく講義を進めていきます。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

「保育所保育指針」の「第1章 総則」、「第2章 子どもの発達」、「第3章 保育の内容」、「第5章 健康及び安全」を熟読し、「子どもの保健Ⅰ」で学修した内容を復習しておくこと。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

「子どもの保健Ⅰ」（講義）と「子どもの保健Ⅱ」（演習）を統合させ、保育現場における生命の保持、健康、安全等の保健活動についての保育所実習の課題目標をあげ、それをレポートできる。

〔フィードバック〕

スクーリング最終時間で講義（授業）全体に対するフィードバックを行いません。

【テキスト内容と学修のポイント】

第1章 子どもの心と体の健康と保健の意義

この章では、健康についての概念や保健活動の意義と目的を理解する。社会における現代の子どもの現状や地域社会の中での子どもを取り巻く問題について学修する。

第2章 子どもの発育・発達の観察と評価

計測方法 1) 体重 2) 身長 3) 胸囲 4) 頭囲 5) 座高

発育の評価 1) 乳幼児身体発育値 2) 肥満度と身体体重曲線 3) カウプ指数

発達の評価 1) 知能検査 2) 発達検査

*この章では、定期的に行われる子どもの測定方法について、体重、身長、胸囲、頭囲の計測がスムーズに行われるよう乳児・幼児の計測法を修得する。計測を嫌がる子供たちもいるため、様々なケースを想定して実習を行う。また、その測定値を基に評価する方法や、それを、保護者に伝える方法等についても修得する。

第3章 子どもの心と体の健康状態の把握

この章では、生命保持と情緒安定を図る日常的な養護こそ、大変重要であることを学ぶ。発育に応じた適切なだっこや、おむつなどの養護技術を的確に行うことが子どもたちに安心感を与え、信頼関係を築くために重要である学修する。養護と教育を一体化させた質の高い保育をするための方法を学ぶ。

第4章 子どもの病気の予防と適切な異対応

1. 子どものかかりやすい感染症。予防と対策

2. その他の子どもの病気

3. 先天異常

1) 子どもの健康状態を把握するポイント

2) バイタルサインの測定方法…体温、脈拍、呼吸の測定方法

3) 保育現場における適切な対応と応急処置。

第5章 保育における保健

1. 職員の健康管理

2. 気を付けたい体や心の不調

3. これからの「子どもの保健」と保育

この章では、保育現場での保健活動の年間計画、保護者に対して健康教育や支援について学ぶ。また、各関係機関との連携について学修する。子どもたちの健康と安全を守るために保育者として何ができるのか、ということを中心に念頭におき実践できるようにする。

学 修 指 導

1 日 目	講義1 モデル人形を用いた演習で、実際に子どもと接する心構えを認識できる。子どもの発育発達の観察と評価(身体計測方法、発育評価、発達の評価)を行う。
	講義2 子どもの健康観察と健康管理(日常の保育における健康観察、健康診断、子どもの健康情報の管理と利用方法)
	講義3 子どもの体調不良などへの対応、保育における応急手当、一次救命処置法。
	講義4 「子どもの保健」演習用DVD
2 日 目	講義5(技術演習)子どもの養育と教育 ①観察 ②沐浴、衣服の着脱とオムツの当て方。
	講義6(技術演習) ③身体計測と評価 ④バイタルサイン測定 ⑤乳幼児の抱き方と哺乳
	講義7 望ましい保育環境と安全対策、健康づくり(年間計画、関係機関等との連携)
	講義8 学修のふり返し。 科目単位認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

- 1) 学習の手引き「子どもの保健(2019年度～2020年度入学生科目)」または、「子どもの保健ⅠA(2012年度～2018年度入学生科目)」,「子どもの保健ⅠB(2012～2018入学生科目)」の講義概要や学習指導内容を参考に、テキスト「これだけはおさえたい!保育者のための子どもの保健」等で小児の保健について予習しておいてください。
- 2) 可能であれば自分の母子健康手帳等により、予防接種歴や感染症の既往歴を記入し当日持参してください。

〔準備するもの〕

- 1) 指定のテキスト「これだけはおさえたい!保育者のための子どもの保健Ⅱ」または「これだけはおさえたい!保育者のための子どもの保健」を持参して下さい。
- 2) 2日目の乳児沐浴の実習時には、「エプロン」を持参してください。
- 3) 髪の毛が長い方は、髪を束ねるゴムを二本ご持参ください。

〔その他〕

- 1) 1日目と2日目の午後は講義および演習を行います。2日目の午前中は実習をしますので、動きやすい服装・靴を着用してください。
- 2) 講義用の資料は、当日配付します。

子どもの食と栄養 I

専門教育科目 / 1 単位 / 2 年前期開講 / テキスト授業

■ 担当教員	産本 敦子
■ 使用テキスト	テキスト：子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養 著者：堤ちはる、土井正子 編著 出版社：萌文書林 出版年：2020 年 ISBN：9784-89347-1543
■ 参考テキスト	指定なし

講義概要・一般目標

健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的な知識（栄養素の種類とはたらき、消化、吸収、代謝、排泄など）を身につける。また、栄養のバランスのとれた食事をするために食品の基礎知識、食品の組み合わせ方を学ぶ。さらに、子どもの健康と食生活の現状と課題を把握し、発育・発達と食生活の関連について理解する。

到達目標

- ① 子どもの食と栄養を学ぶ目的を知る。
- ② 現在の子どもの食生活の現状と課題を把握する。
- ③ 栄養素および食品の基礎知識を身につける。
- ④ 子どもの発育・発達と食生活について学ぶ。

評価方法

科目単位認定試験により評価

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web 学修支援システムを使用して実施する。

学修の進め方

- ・テキストを一通り学修した上で、添削課題に取り組んでください。添削問題はテキストの内容に合わせて作成していますので、復習、再確認しながら解答していけば、理解が深まると思います。
- ・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

第1章 子どもの健康と食生活の意義

子どもの食と栄養を学ぶ目的を理解し、食生活の現状を知り、課題を考える。

1. 子どもの食と栄養を学ぶ目的
2. 子どもの心身の健康と食生活
 - (1) 日本人の健康問題
 - (2) 日本人の食生活上の問題
 - (3) 日本型食生活 (PFC バランス)
 - (4) 子どもの発達と食生活
 - (5) 世界の食生活 (不足と過剰)
3. 子どもの食生活の現状と課題

- (1) 生活習慣の乱れ
- (2) 小児期の肥満と思春期のやせ

第2章 子どもの発育発達と食生活

子どもの発育・発達の過程を理解し、各時期に応じた栄養、食生活を考える。

1. 子どもの身体発育・精神・運動機能発達と栄養、食生活
 - (1) 子どもの発育の特徴（発育の5原則）
 - (2) 身体発育（乳幼児発育曲線）
 - (3) 脳神経・免疫機能の発達
 - (4) 精神・運動機能の発達
 - (5) 発育と栄養状態の評価
2. 食べる機能・消化吸収機能の発達と栄養・食生活
 - (1) 摂食・嚥下機能の発達
 - (2) 消化・吸収・排泄機能の発達

第3章 栄養に関する基本的知識

栄養に関する基本的な知識を身につけ、日本人の食事摂取基準をもとに献立を立て、食事バランスガイドを活用し、栄養バランスのよい食事ができるようにする。

1. 栄養素・栄養生理・代謝に関する基本的知識
 - (1) 食品の分類
 - (2) 栄養、栄養素の種類と機能
 - (3) エネルギー
2. 日本人の食事摂取基準の意義とその活用
 - (1) 日本人の食事摂取基準
3. 献立作成・調理の基本
 - (1) 献立作成
 - (2) 調理
 - (3) 食品の購入と選択（食品表示）

第4章 妊娠期（胎児期）の食生活

妊娠期の特徴を理解し、栄養・食生活を考える。

1. 妊娠のメカニズム
2. 妊娠期・授乳期の栄養・食生活
 - (1) 妊産婦のための食生活指針
 - (2) 妊娠期・授乳期の食事摂取基準
3. 妊娠期にみられるトラブルと栄養・食生活
 - (1) つわり
 - (2) 鉄欠乏性貧血
 - (3) やせと肥満
 - (4) 妊娠高血圧症候群
 - (5) 妊娠糖尿病

第5章 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活

乳児期の特徴を理解し、乳汁栄養と離乳食について学ぶ。

1. 乳児期の特徴と食生活
2. 乳児期の食事摂取基準
3. 乳汁栄養
 - (1) 母乳栄養
 - (2) 人工栄養
 - (3) 混合栄養
4. 離乳の意義と実践
 - (1) 離乳の必要性
 - (2) 離乳食の進め方

- (3) 離乳食、ベビーフード
- 5. 乳児期の食生活の問題と対応

第6章 幼児期の心身発達と食生活

幼児期の特徴を理解し、食生活、課題への対応を考える。

- 1. 乳児期の心身の特徴
- 2. 乳児期の食生活の特徴
 - (1) 乳児期の食事摂取基準
 - (2) 間食
 - (3) お弁当
- 3. 幼児期の食生活の問題と対応

第7章 学童期・思春期の心身の発達と食生活

学童期・思春期の特徴を理解し、食生活、課題への対応を考える。

- 1. 学童期および思春期の特徴と食生活
 - (1) 学童期および思春期の食生活指針
 - (2) 学童期および思春期の食生活の問題と対応

第8章 生涯発達と食生活

成人期、高齢期の食生活の問題を理解し、対応を考える。

- 1. 成人期の食生活の問題と対応
- 2. 高齢期の食生活の問題と対応

子どもの食と栄養Ⅱ

専門教育科目／1単位／2年後期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年10月30日(土) 9:30~16:40 2日目 令和3年10月31日(日) 9:30~16:40	該 当 時 間 割	A
	[スクーリング受講中止届の提出について] 令和3年10月22日(金) 必着		
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス(岡山県岡山市北区岩田町2-5)		

■ 担当教員	産本 敦子
■ 使用テキスト	テキスト：子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養 著 者：堤ちはる、土井正子 編著 出 版 社：萌文書林 出 版 年：2020年 I S B N：9784-89347-1543
■ 参考テキスト	指定なし

講義概要・一般目標

子どもの健康と食生活の意義を理解するとともに、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について考える。子どもの成長段階に応じた栄養の重要性と食生活について学ぶ。保育における食育の意義・目的、基本的考え方、内容等について理解し、子どもたちに食を通しての健康づくり、人間関係、マナー等とともに、食に対する興味を持たせ、食育を実践していく力を身につける。また、特別な配慮を要する子ども(体調不良、疾病、障がい、アレルギー等)の食と栄養について理解し、対応について考える。

到達目標

- ① 各時期の栄養・食生活の特徴を知る。
- ② 食育の必要性を理解し、実践方法を考える。
- ③ 家庭や児童福祉施設における食生活について学ぶ。
- ④ 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解し、対応を学ぶ。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施する。

学修の進め方

[スクーリングまでの事前学修事項]

子どもの食と栄養Ⅰの内容について、テキストに再度目を通し、復習しておきましょう。また、子どもの食と栄養Ⅰでの学びを基に、子どもの成長発達に応じた食育のあり方を自分なりに考えておきましょう。

[スクーリング終了後の学修事項]

食生活の基礎が形作られる小児期、保育士として子どもの状況に応じた食生活の支援ができるようにしておきましょう。

[フィードバック]

スクーリング最終時限で講義(授業)全体に対するフィードバックを行いません。

〔テキストの概要と学修のポイント〕

第9章 食育の基本と内容

子どもの食育の重要性を理解し、食育活動について考える。

1. 食育の必要性
 - (1) 子どもを取り巻く食環境の変化
 - (2) 子どもの食生活の変化
 - (3) 発育・発達に応じた食べる力
 - (4) 食育基本法
2. 就学前の子どもに対する食育
 - (1) 保育所における食育
 - (2) 幼稚園における食育
 - (3) 認定こども園における食育
3. 食育の内容と計画および評価
 - (1) 楽しく食べる子どもに一保育所における食育に関する指針
 - (2) 食育の内容
 - (3) 食育の計画
 - (3) 食育の実践
 - (4) 食育の評価
4. 食育のための環境づくり
5. 地域・職員の連携
6. 保護者への支援

第10章 家庭や児童福祉施設における食事と栄養

家庭や児童福祉施設での食事と栄養の現状と課題を知り、望ましい食生活を考える。

1. 家庭における食事と栄養
2. 児童福祉施設における食事と栄養
 - (1) 児童福祉施設の種類と特徴
 - (2) 児童福祉施設給食の基本方針
 - (3) 保育所給食
 - (4) 児童養護施設の給食と食生活の自立支援
 - (5) 行事食

第11章 疾病および体調不良の子どもへの対応

子どもの疾病の特徴について理解し、疾病や症状に応じた対応ができるようにする。

1. 子どもの疾病の特徴
2. 小児に多い疾病・症状と食生活
3. 食事療法
 - (1) 先天性代謝異常症
 - (2) 小児生活習慣病
 - (3) 小児腎臓病
 - (4) 小児糖尿病

第12章 食物アレルギーのある子どもへの対応

食物アレルギーについて詳しく学ぶ。保育所などでの給食では、子どもにより原因となる食材が異なるため、安全な食事の提供と対応を考える。

1. 食物アレルギー
 - (1) 食物アレルギーとは
 - (2) 食物アレルギーの原因物質
 - (3) 食物アレルギーによりひき起こされる症状
 - (4) アナフィラキシーショック、食物依存性運動誘発性アナフィラキシー
2. 食物アレルギーの治療と対応
 - (5) 除去食物および含有加工食品と代替品
 - (6) 保育所、幼稚園および学校での対応

第13章 障がいのある子どもへの対応

障がいの種類と食生活の特徴を理解し、障がいに応じた対応ができるようにする。

1. 障がいの特徴
2. 摂食・嚥下機能障がい児の食生活
 - (1) 摂食、嚥下機能障害

- (2) 摂食・嚥下機能障がい児の食事
- (3) 食事介助
- (4) 摂食機能訓練
- (5) 経口摂取ができない障がい児の栄養管理

学 修 指 導

1 日 目	講義1 子どもの食と栄養を学ぶ目的 栄養素の基礎知識
	講義2 子どもの食生活の現状と課題 ①
	講義3 子どもの食生活の現状と課題 ②
	講義4 子どもの発育・発達と食生活
2 日 目	講義5 食育
	講義6 家庭や児童福祉施設における食事と栄養
	講義7 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ① 疾病および体調不良、食物アレルギーのある子どもへの対応
	講義8 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ② 障がいのある子どもへの対応

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

- ・子どもの食と栄養Ⅰの内容（テキスト 第1章～第8章）について復習しておくこと
- ・テキストに目を通しておくこと

〔準備するもの〕

- ・テキスト

〔その他〕

特になし

乳児保育 I

専門教育科目 / 2 単位 / 2 年前期開講 / テキスト授業

■ 担当教員	加藤 寿美子
■ 使用テキスト	テキスト：やさしい「乳児保育」 著 者：神蔵 幸子・金 允貞 編著 出 版 社：(株)青踏社 出 版 年：2019 年 3 月 23 日
■ 参考テキスト	「保育所保育指針解説書」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

講義概要・一般目標

わずか半世紀前までは、出生直後の子どもはまだ目も見えず耳も聞こえない状態であると思われていた。そして、この無能な状態の子どもだから大人が世話をしなければ生きていけないとの説明がされていた。しかし、その後の様々な研究により、出生時にはすでに五感の発達が進んでいること、また、自ら移動したりすることはできなくとも、泣く微笑むなどの行為が周りの人に働きかける大きな力となり、子どもと大人の相互の関わりとしての生活が展開していることも理解されるようになってきた。

子どもが保育所、幼稚園などで保育者と出会うのは、出生からいくらかの年月を経てからのことであるが、どの子どもも、それまでの発達の過程をたどり、それぞれの個人差を含みながらではあるが、月齢、年齢相応の段階に進んでいるのである。子どもの発達に寄り添う保育者は、子どもの発達の過程を十分理解し、育ちゆく子どもの姿に関心を寄せ、そこにふさわしい関わり方のできる人であってほしい。そのような保育者と子どもとの相互の関わりこそが「乳児保育」である。その中で学びを深めることを重点的目標にしています。

到達目標

子どもの発達理解・子どもや保護者への援助のあり方、子どもの生命の尊さ、命を育むことの意義を学び温かな人間性と諸科学の理論に裏づけられた保育実践力を身につけることを到達目標とする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web 学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

岡山市立鹿田保育所・社会福祉法人双葉会ひかり保育園に25年間勤務し、その内2年間園長を経験。その後、順正短期大学へ常勤として15年間勤務。岡山県知事より岡山県保育所巡回指導員として任命され5年間指導を行い、現在吉備国際大学非常勤として勤務。乳幼児保育に関わってきた実務経験を活かし、実践的な内容を反映する添削課題を作成し対応する。

学修の進め方

- まず教科書の熟読をしてください。
- 新聞テレビ等常に新しい情報を得てください。
- フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

- 第1章 乳児保育とは
 - 1 乳児保育の位置付け
 - 2 乳児保育(0歳児保育)の変遷
 - 3 乳児保育の現状
 - 4 乳児保育の様々な場
- 第2章 保育園における乳児保育
 - 1 1日の流れ
 - 2 保育の内容
- 第3章 満1歳未満児の保育
 - 1 出生のころ
 - 2 生後およそ1カ月から6カ月未満のころ
 - 3 おおむね6カ月から1歳児未満のころ
- 第4章 満1歳児以上3歳未満児—1歳児の保育—
 - 1 発育・発達の特徴
 - 2 1歳半の発達の質的転換期
 - 3 生活の援助
 - 4 遊びの援助・環境の工夫
- 第5章 満1歳以上3歳未満児—2歳児の保育—
 - 1 運動機能
 - 2 認識機能
 - 3 生活や遊びの援助
- 第6章 乳児保育の環境
 - 1 保育における環境
 - 2 基本的な環境～子どもが落ち着いて過ごせる環境をつくるために～
 - 3 「保育所保育指針」に見る保育の環境
- 第7章 乳児保育における保健活動
 - 1 健康状態の把握
 - 2 乳児に多い症状
 - 3 乳児期の病気と対策
 - 4 薬について
 - 5 事故防止と安全対策
- 第8章 保育の計画
 - 1 保育の計画とは
 - 2 保育の計画
 - 3 指導計画の作成
 - 4 保育士の自己評価～反省的実践者になるために～
- 第9章 乳児保育と連携
 - 1 保育所における連携
 - 2 保護者との連携
 - 3 地域との連携
- 第10章 保育所における子育て支援
 - 1 子育てをめぐる親の意識と状況
 - 2 保育所保育指針に見る子育て支援
 - 3 子育て・子育て支援のために
- 第11章 乳児保育の未来
 - 1 乳児保育の使命—子どもの健全な発達の保障—
 - 2 乳児保育における戦後の歩み
 - 3 乳児保育の未来

乳児保育Ⅱ

専門教育科目／1単位／2年後期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年11月6日(土) 9:30~16:40 2日目 令和3年11月7日(日) 9:30~16:40	該 当 時 間 割	A
	〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年10月29日(金) 必着		
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス(岡山県岡山市北区岩田町2-5)		

■ 担当教員	加藤 寿美子
■ 使用テキスト	テキスト：保育とカリキュラム(11月号) 出版社：ひかりのくに出版
■ 参考テキスト	「保育所保育指針解説書」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

講義概要・一般目標

1. 3歳未満児の発育・発達のプロセスや特性を踏まえた援助や関わりの方針について理解する。
 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。
 3. 乳児保育における配慮の実践について、具体的に理解する。
 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。
- ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭に置いた保育を示す。

到達目標

1. 乳児保育の基本
2. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実践
3. 乳児保育における配慮の実践
4. 乳児保育における計画の実践

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

岡山市立鹿田保育所・社会福祉法人双葉会ひかり保育園に25年間勤務し、その内2年間園長を経験。その後、順正短期大学へ常勤として15年間勤務。岡山県知事より岡山県保育所巡回指導員として任命され5年間指導を行い、現在吉備国際大学非常勤として勤務。乳幼児保育に関わってきた実務経験を活かし、実践的な内容を反映する講義を行う。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

保育実習(乳児保育)に向けて指導案を立案するに当たり、保育指針を良く理解する。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

子どもの姿(発達)をよく見、何に興味・関心を持っているか又発達に合った遊びを考える

〔フィードバック〕

スクーリング最終時間で講義（授業）全体に対するフィードバックを行いません。

学修指導

1 日 目	講義 1. 保育指針の理解・保育園における乳児保育の1日の流れ保育の内容
	講義 2. 0歳児のこども一人ひとりの姿のとらえ方・養護的ねらい・教育的ねらい
	講義 3. 0歳児の指導案の立案(乳児が落ち着いて過ごせる保育の環境)
	講義 4. 1歳児のこども一人ひとりの姿のとらえ方・養護的ねらい・教育的ねらい
2 日 目	講義 5. 1歳児の指導案をグループで話し合い立案・ふれあい遊び等
	講義 6. 2歳児のこども一人ひとりの姿のとらえ方・養護的ねらい・教育的ねらい
	講義 7. 2歳児の指導案を立案（安全保育）
	講義 8. 乳児保育の部分指導案を立案 科目単位認定試験(8講義のあと試験をする)

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

0・1・2歳児の11月のあそびについて

〔準備するもの〕

・『月刊 保育とカリキュラム 2021年11月号』 ひかりのくに出版（10月2日発売）
※当日、スクーリング会場にて、紀伊國屋書店が販売します。

・保育指針

〔その他〕

特になし

乳児保育Ⅲ

専門教育科目／1単位／3年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	加藤 寿美子
■ 使用テキスト	テキスト： 乳児の生活と保育《第3版》 著 者： 松本園子 出 版 社： ななみ書房 出 版 年： 2019年4月1日
■ 参考テキスト	「保育所保育指針解説書」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

講義概要・一般目標

日本の風土や子育て文化、これまでの研究の成果を踏まえ、乳児が育つ過程で保育者の豊かな人間性、緻密な観察力と想像力、そして不断の努力に支えられた確かな判断力で一人ひとりの乳児に向き合い、乳児との相互作用の中で営まれていることをまず学び、乳児が育つ姿の裏側にある育ちを支える保育者のありようを学ぶ。乳児理解にとどまらず、乳児を育てている家庭との相互理解や連携を取りながら実践者として働く力、自分の実践を内省する力、そして自分自身を育てる力が備わること。

到達目標

保育者として職務に就いた時には、社会の動きを視野に入れて乳児期にある一人の人間の尊厳を守り育むことに喜びを見出し、責務とともに誇りをもって生きること、自分自身をみかくことを到達目標とする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

岡山市立鹿田保育所・社会福祉法人双葉会ひかり保育園に25年間勤務し、その内2年間園長を経験。その後、順正短期大学へ常勤として15年間勤務。岡山県知事より岡山県保育所巡回指導員として任命され5年間指導を行い、現在吉備国際大学非常勤として勤務。乳幼児保育に関わってきた実務経験を活かし、実践的な内容を反映する添削課題を作成し対応する。

学修の進め方

- 教科書の熟読
- 地域の情報を得ること
- フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

第1章 乳児保育の意義・目的と役割

1. 「乳児保育」とはなにか
2. 乳児保育の歴史
3. 乳児保育の役割と機能—養護と教育の一体

第2章 乳児保育の現状と課題

1. 子どもと家庭を取り巻く状況
2. 乳児保育の現状
3. 乳児保育需要と待機児童

第3章 乳児保育の実際

1. 保育所における乳児保育
2. 乳児院における乳児保育
3. 家庭保育における乳児保育

第4章 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育

1. 3歳未満児の生活と環境
2. 3歳未満児の遊びと環境
3. 3歳以上児の保育に移行する時期の保育
4. 3歳未満児の発育・発達をふまえた援助や関わり
5. 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育における配慮

第5章 乳児保育における計画・記録・評価

1. 生活リズムと保育園の日課
2. 記録・保育日誌・家庭との連絡
3. 全体的な計画と指導計画の作成

第6章 乳児保育における連携・協働

1. 職員間の連携・協働
2. 保護者との連携・協働
3. 自治体や地域の関係機関との連携・協働

第7章 身体機能の発達と保育

1. 身体を動かす
2. 手を使う

第8章 基本的な生活習慣獲得と保育

1. 食べる
2. 排泄する
3. 眠る

第9章 対人関係の発達と保育

1. ことばで人とつながる
2. 人とかかわる

障害児保育 I

専門教育科目 / 1 単位 / 1 年後期開講 / スクーリング授業

日 時	1 日目 令和 3 年 10 月 23 日 (土) 9:30~16:40 2 日目 令和 3 年 10 月 24 日 (日) 9:30~16:40	該 当 時 間 割	A
	[スクーリング受講中止届の提出について] 令和 3 年 10 月 15 日 (金) 必着		
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス (岡山県岡山市北区岩田町 2-5)		

■ 担 当 教 員	池本 貞子
■ 使用テキスト	[スクーリング時に資料を配付]
■ 参考テキスト	指定なし

講義概要・一般目標

最近では、さまざまな障害を抱える子どもたちが、幼稚園や保育所において地域の子どもたちと一緒に生活をする「統合保育」が進んでいる。地域の中できれいに生活することは、専門機関による療育・訓練とは違った意味で障害の改善につながることは明らかであり、その支援が「保育」の任務でもある。また、障害を持つ子どもたちとともに保育を受けることが、障害を持たない子どもたちの発達にも大きな影響を与えている。

本講義はスクーリング科目でもあり、次の4つの項目を中心に考えている。

1. 障害児の概念と障害児保育の歴史について理解する。
2. 心身の発達と障害の関係について理解する。
3. 「統合保育」の仕組みと内容について理解する。
4. 障害児保育に関わる上で理解をしておく必要性のある基本的な訓練・指導法について実践的に学ぶ。

到達目標

1. 1980年に世界保健機関は国際障害者分類 (ICIDH) を示したが、2001年に生活機能分類 (ICF) に改正し障害児 (者) の概念は大きく変化した。その改正点について理解する。
2. 心身の発達と障害の関係について、特に脳の発達を阻害する要因が働くと種々の障害が生じることを理解する。
3. さまざまな障害児保育の形態があるが、そのメリットとデメリットについて理解する。
4. 障害児保育に関わる上で必要な基本的な訓練・指導法について理解する。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

学修の進め方

[スクーリングまでの事前学修事項]

1970年代以降、障害児保育は急激に進み、障害のある子どもたちが育つ場も拡大している。その背景として、障害児・者を巡る考え方の変化が考えられる。スクーリングまでに障害児保育や障害児教育の実践についての図書を一読しておくことを進める。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

障害児保育の入り口として、障害児保育の考え方、発達と障害、子ども理解を中心に障害全般にわたる基礎・基本の知識に重点を置いた。理解したことを踏まえ、実際の保育現場で実践できるような支援方法について考える。

〔フィードバック〕

スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行ないます。

〔学修のポイント〕

1. 障害とは

1981年以降、法の改正を始め障害者施策等によって、障害者を取り巻く環境は大きく変化してきている。「障害」の概念について考える

2. 障害児保育とは

障害児保育とは就学前の障害乳幼児のための保育のことをいうが、これには障害児だけの集団を対象とするものと障害児と健常児を合わせた集団を対象とする2つの形態がある。

現在では、後者の障害を持つ子どもと、そうでない子どもと一緒に生活をしていく中で、生きる力を獲得していくことの重要性を学ぶ保育における統合が進行している。

ここでは、ノーマライゼーションの理念が目指す、障害児保育の入り口として、障害児保育とは何かについて考える。

3. 障害児保育の歴史と理念

保育所における障害児保育事業が試行的に開始されたのは、1974年度からである。1974年以前を萌芽期の障害児保育とし、これ以降を発展・充実期の障害児保育とし、1990年代以降は社会福祉制度の改革が行われていく。

ここでは、それぞれの時期における障害児保育の歴史的変遷について概観する。

4. 発達と障害

発達には、方向性・順序性・連続性とリズム・個人差などの法則があり、発達を促す要因として遺伝と環境、成熟と学習の相互作用による。脳の発達が完成していない乳幼児にとって、その発達を阻害する要因が働くと種々の障害が生じることを理解する。

5. 障害児理解の方法と心構え

ノーマライゼーションの考え方、生涯発達の視点から障害児理解の意味を考えるとともに、理解に役立つ技法について基本的な①親からの聞き取り②観察③検査について理解する

6. インテグレーションからインクルージョンへの流れ

障害のある子どもに対する保育の目標やその保育の形態について取り上げる。また、統合保育を実施する上で、特別な保育ニーズの把握、障害の特性、保育者と保護者の連携などを通じての具体的な援助の在り方について、保育者の視点から検討する。

7. 障害の理解と保育における発達の支援

①肢体不自由・視覚障害・聴覚障害児の理解と支援

肢体不自由など身体障害児に対する幼稚園・保育所の役割と園生活への支援について考える。

②知的障害児の理解と支援

知的遅れのある子どもの特徴的行動に対する配慮事項など問題への対処について考える。

③発達障害児理解と支援

行動と情動の調整が困難な子どもに対する保育は現代的な課題である。ここでは、軽度発達障害児と気になる子どもも含め、その特性と保育者としての関わり方を考える。

8. 障害児保育に関わる基本的な訓練・指導法

障害児保育に関わる上で理解しておきたい基本的な訓練・指導法について、医療的機能訓練・心理行動的アプローチ・教育的アプローチの面から実践的に学ぶ。

学 修 指 導

1 日 目	講義 1	障害の構造的理解 —ICIDH から ICF へ—
	講義 2	障害児保育の概念と歴史
	講義 3	発達と障害
	講義 4	脳の発達と条件
2 日 目	講義 5	障害児理解の方法と心構え —ノーマライゼーションの考え方—
	講義 6	統合保育 —視聴覚教材を用いて—
	講義 7	障害の理解と発達支援 —発達障害を中心に—
	講義 8	保育計画と基本的な訓練・指導法 科目認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

事前に課題は求めないが、日頃から障害児を含む子どもに関する新聞、雑誌、ニュースなどに関心を持って視聴することを希望している。

〔準備するもの〕

講義資料はこちらで準備します。

〔担当教員より〕

保育現場から落ち着かない子ども、集中できない子ども、なかなか指示が通らない子どもなど、いわゆる「気になる子ども」の存在が囁かれはじめて久しい。現在では発達障害という診断名もよく耳にするようになった。これらの子どもたちへの対応のまず一步は、障害を理解することからである。本講義では障害全般について基礎・基本の知識を踏まえ実践の場へつなげられるように障害を理解することから始めたい。

障害児保育Ⅱ

専門教育科目／1単位／2年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	池本 貞子
■ 使用テキスト	テキスト：幼稚園・保育所の先生のための障害児保育テキスト 新訂版 著者：若井淳二 他著 出版社：教育出版 出版年：2011 ISBN：978-4316803470
■ 参考テキスト	指定なし

講義概要・一般目標

近年、障害児（者）に対する関心、理解は高まりつつある。保育所・幼稚園においても同様であり、ノーマライゼーションの観点から統合保育を掲げて、障害児を受け入れているところも年々増加している。

2012年12月に成立した障害者自立支援法の一部改正にともない、児童福祉法も改正され、障害のある子どもに対する支援の強化が打ち出された。児童福祉分野においても障害児への正しい理解は不可欠となり、福祉の専門家である保育士の適切な関わりが重要となる。また、障害児を地域社会の中で育てていくにあたり、保護者・家族へのサポートだけにとどまらず、地域における医療・福祉・教育等の関係機関、施設などとの連携体制を整えていくことも重要な課題となっている。

そこで、本講義では、現在の障害児における保育の形態、受け入れの現状から障害児保育の意義や問題点を考える。また、障害児を抱える保護者への支援、地域社会における関係機関等、社会資源との連携の必要性和保育士の役割を知る。障害別の特性、原因などを正しく理解した上で、保育現場で想定される問題にどのような関わりが必要となるかなどについて学修する。

到達目標

1. 障害児における保育の形態、受け入れの現状から意義や課題を理解する。
2. 障害児を抱える保護者への支援、地域社会における関係機関等、社会資源との連携の必要性について学ぶとともに保育士の役割を理解する。
3. 障害別の特性、原因などを理解した上で、それぞれの障害特性に応じた保育のあり方について考える。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

- ・学修のポイントとしては「障害とは何か」について基本的な知識を学び、障害児保育の意義と保育者としての支援に重点を置きながら、障害児・保護者そして保育者に対して共感的な視点から理解を深めるようにテキストを精読してください。
- ・添削課題はテキストに添って重要な点を取り上げています。
- ・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

序章

障害者に対する一般社会の関心と理解は、ノーマライゼーションの精神から以前に比べ改善されてきている。しかし、依然表面的な理解、固定的な見方、偏見があるのも実際である。この章では、統合教育のめざす「障害児も健常児も共に育つ」という視点から、保育士が障害児に対し正しい知識をもち、より適切な関わりをする必要があるということを学ぶ意義を確認する。

第1章 障害の理解

「障害」という言葉は、さまざまな場面において多様な解釈をされている。WHOにおいても、障害者に対する正しい理解のために「国際障害分類（ICIDH）」から「国際生活機能分類（ICF）」へと変化してきている。ICFでは、障害を不全、不利といったマイナス的な捕らえ方をせず、活動、参加というプラスの方向で捕らえるようになっている。この章では、ノーマライゼーションの観点から、「障害とは何か」を正しく理解し、保育者として、彼らを取り巻く人々に対し正しく理解を進める視点を学ぶ。

第2章 障害児の保育の形態

障害児に対する保育形態は、厚生労働省所属の機関と、文部科学省の所属の機関とに分けられる。1970年ころから、保育所・幼稚園における障害のある乳幼児の受け入れが始められてきた。その後も、受け入れの園の数は徐々に増えている。これに対し、特別な指導ができる特別支援学校幼稚部も現存する。この章では、障害児に対する保育形態である、分離保育、統合保育、交流保育のそれぞれの意義と問題点について学び、幼稚園・保育所における障害児に対する保育の意味、また健常児にとっての統合保育の意味を学ぶ。

第3章 障害幼児の受け入れ

障害児を幼稚園・保育園へ受け入れる場合、単に場所の共有にとどまらず、統合保育の目的を明確にさせる必要がある。担任保育士の見解により保育が左右されるのではなく、受け入れる園全体で体制を整え、指導・支援していかなければならない。この章では、障害児を園へ受け入れるにあたり、施設、設備の工夫にとどまらず、園全体の体制として、準備・配慮が必要であるか、また障害幼児を知るためにどのような方法があるかを学ぶ。

第4章 家庭への子育て支援

子どもに障害があると知り、その事実を受け入れていくことには長い時間がかかると予測される。また、受容の段階により親の感情はさまざまであり、時に攻撃的になったり、依存的になったりすることがある。しかし、親の気持ちに寄り添い、親に対しても適切な支援を行うためには、保育者自身も障害について正しい理解をもっておかなければならない。この章では、親の障害受容のプロセスを知り、その時期に応じた親への関わりを学ぶ。また、保護者同士の結びつきとして、健常児の保護者との結びつき、あるいは障害者の親同士の結びつきの意味とその必要性について学ぶ。

第5章 関係機関、施設との連携

「早期発見、早期療育」が必要と言われているが、障害があるとわかった子どもに対し適切な関わりを行っていくためには各専門機関との連携が不可欠となってくる。連携を行ううえでそれぞれの役割を明確にし互いに必要な情報を共有していくことが大切となってくる。この章では、連携の必要性を学び、専門機関としてどのような機関があるのか、障害によってどのような専門機関が必要であるのかを知る。また、関係機関と連携し、共通理解を図るにおいて守るべきこと、保護者への配慮等について学ぶ。

第6章 就学と特別支援教育

学校現場において、2000年以降「特殊教育（障害児教育）」という用語から「特別支援教育」へと変化してきた。つまり、障害種別、程度に応じて取り組んできた教育から、子どもの1人1人のニーズをとらえて行う教育的支援という考え方に変化している。将来、就学年齢に達する子どもに対し、保育者として彼らに対し正しい情報を提供していく必要が出てくる。この章では、現在の学校教育の体制を理解した上で、分離教育、統合教育の問題点を知る。また、彼らが適切な教育を受

けることができるよう就学の手続き、相談機関等についても学修する。

第7章 視覚障害児の保育の実際

視覚障害の種類として、視力障害、視野障害、光覚障害（明順応障害、暗順応障害）、色覚障害、眼球運動の障害などがある。この章では、視覚障害の種類、特性を正しく理解し、保育現場での課題と適切な指導、援助をする上でどのような配慮が必要であるかを学ぶ。また、健常児や他の保護者へ対する理解についても学ぶ。

第8章 聴覚障害児の保育の実際

聴覚障害の種類として、音の刺激が空気の振動、膜の振動、骨の振動によって伝わっている部分の障害である伝音性難聴、音を感じ取る部分の障害である感音性難聴、それら2つが混じっている混合性難聴がある。この章では、聴覚障害の原因と種類、それぞれの特性を正しく理解する。またそれぞれの特性に応じ、保育現場においての課題と適切な指導、援助方法を学び、健常児や他の保護者へ対する理解についても学ぶ。

第9章 肢体不自由児の保育の実際

肢体不自由の主な種類として、脳性まひ、二分脊椎、筋ジストロフィー、先天性四肢障害などがある。これらは、何らかの原因により、筋肉、骨、神経などが損傷し身体の運動機能が永続的に低下したり、動かなくなったりしている障害である。また、知的障害や言語障害などを同時に伴っている場合が少なくない。この章では、肢体不自由の種類と原因を正しく理解し、各障害部位により保育者としてどのような指導・支援が必要であるかを学ぶ。また、健常児や他の保護者へ対する理解についても学ぶ。

第10章 知的障害児の保育の実際

知的障害の原因別分類として、病的な要因はなく、脳の障害のない生理的原因（生理型）、何らかの病的な要因による脳の障害である病理的原因（病理型）、子どもが育つ環境が影響する心理・社会的要因（心理・社会型）があるとされている。この章では、知的障害の原因と種類、それぞれの特性を正しく理解する。またそれぞれの特性に応じ、保育現場においての課題と適切な指導、援助方法を具体的な事例から学び、健常児や他の保護者へ対する理解についても学ぶ。

第11章 言語障害児の保育の実際

言語障害は、明らかに他の障害が原因となっているもの、不良な環境が原因となっているもの、その他のことが原因となっているものに分類される。言語は主にコミュニケーションの手段として使われることから、他児との対人関係にも影響されると考えられる。この章では、言語障害の原因と種類、それぞれの特性を正しく理解する。またそれぞれの特性に応じ、保育現場においてどのような問題が発生すると考えられるか、あるいはどのような対応が望ましいかなど適切な指導、援助方法を学び、健常児や他の保護者へ対する理解についても学ぶ。

第12章 広汎性発達障害（自閉症）、学習障害、注意欠陥／多動性障害とは

広汎性発達障害（PDD）には、自閉性障害、レット障害、小児期崩壊性障害、アスペルガー障害、特定不能の広汎性発達障害があるとされている（精神疾患の診断・統計マニュアル）。また、広汎性発達障害（自閉症）、学習障害、注意欠陥／多動性障害は、重なる部分が多いとされている。この章では、広汎性発達障害（自閉症）、学習障害、注意欠陥／多動性障害の具体的な特性を正しく理解する。またそれぞれの特性に応じ、保育現場においてどのような工夫をすることで幼児の不安を軽減し理解を進めることができるか、適切な指導、援助方法はどのようなものかを学ぶとともに、健常児や他の保護者へ対する理解についても学ぶ。

障害児保育Ⅲ

専門教育科目／1単位／2年後期開講／テキスト授業

■ 担当教員	池本 貞子
■ 使用テキスト	テキスト：新保育ライブラリ 障害児保育[新版] 著者：渡部信一・本郷一夫・無藤隆 編著 出版社：北大路書房 出版年：2014年3月20日 ISBN：978-4-7628-2836-2
	テキスト：幼稚園・保育所の先生のための障害児保育テキスト 新訂版 著者：岩井淳二他 出版社：教育出版 出版年：2011年10月5日 ISBN：978-4-316-80347-0

講義概要・一般目標

現在、さまざまな障害をもつ子どもたちが幼稚園や保育所において地域の子どもたちとともに生活をする統合保育が進んでいる。地域の中で生活することは、専門機関による療育・訓練とは違った意味で障害の改善に繋がることは明らかであり、その支援こそが保育の任務である。また、障害をもたない子どもにたちにとっても共に保育を受けることが発達に大きく影響していることは周知のとおりである。

本講義では、子どもの発達の視点から統合保育に焦点をあて、保育所、幼稚園における統合保育の意義と目的、保育士の果たすべき役割について再確認する。また今日の子育て事情を反映して、保護者支援が重要な課題となっていることから、保育士としての支援のあり方を考える。保護者・家族を支援するために必要な社会資源、関係機関との連携・協働について理解する。さらに障害児を取り巻く医療・福祉・保健機関との連携と障害児保育からの出口である就学支援について学修する。

到達目標

1. 「統合保育」の意義と仕組みについて再確認する。
2. 障害をもつ子どもの保護者に対する保育者としての支援のあり方を考える。
3. 児童相談所や発達支援センターなど障害児保育に関する関係機関との連携について理解する。
4. 障害児保育からの出口である就学支援と特別支援教育について考える。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

- ・ここでは、テキストではなく参考テキストとして2冊を挙げているがそれ以外の参考文献および資料等からも広く知識を求めて欲しい。障害児保育の学修のまとめとして、障害の理解、保育士としての支援、関係機関との連携、障害児保育からの出口である就学支援と特別支援教育について考える。
- ・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔参考テキストの概要と学修のポイント〕

1. 障害とは

1970年代に入りノーマライゼーションの考え方が取り入れられるようになり、1980年WHOが障害について「国際障害分類」を提案した。徐々にその考え方が広がり、現在の「統合保育」という形として取り入れられてきた。さらに2001年には改訂された国際生活機能分類出された。障害児保育の入り口として、障害児保育とは何かについて考える。

2. 障害児保育の形態とその対象

障害児保育とは就学前の障害乳幼児のための保育のことをいうが、これには障害児だけの集団を対象とするもの、障害児と健常児を合わせた集団を対象とするもの、両者の中間としての形態がある。それぞれの意義と問題点について考え、幼稚園・保育所における障害児に対する保育の意味また健常児にとっての統合保育の意味を再確認する。

3. 障害幼児の受け入れ

障害児を幼稚園・保育所に受け入れる場合、単に場所の共有にとどまらず、統合保育の目的を明確にする必要がある。障害児を受け入れるにあたり、保育ニーズの把握、保育者間の連携、障害の特性、保護者との連携など具体的な援助の在り方について考える。

4. 障害のある子どもの保護者への支援

障害のある子どもを持つ保護者と関わる際に、理解しておかなければならないことの1つに「障害受容」がある。親の障害受容のプロセスを知り、その時期に応じた関わりを学ぶ。2006年からスタートした認定こども園は、保護者支援や地域の子育て支援を本質的な役割として担っている。このように変化する保護者支援枠組みにあわせながら、障害のある子どもの保護者への支援について考える。

5. 関係機関との連携・共働

障害のあるとわかった子どもに対し適切な関わりを行っていくためには、各専門機関との連携が不可欠である。連携をおこなう上で、そのためのネットワークと保育者の役割が重要となる。

連携の必要性、どのような専門機関と連携するか等について知る。また、連携・協働を図るうえで守るべき点、保護者への配慮事項について考える。

6. 障害について理解を深める

視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、知的障害、言語障害、広汎性発達障害などの障害の特性について正しく理解し、保育現場で適切な指導、援助方法を考える。

7. 就学と特別支援教育

学校現場において、2000年以降「特殊教育」から「特別支援教育」へと大きく変換された。これは障害種別、程度に応じて取り組んできた教育から、子ども一人ひとりのニーズを捉えて行う教育的支援という考え方に変化している。小・中学校の通常の学級における指導だけでは、十分な教育効果を期待することが困難な児童生徒に対し、きめ細かな教育を行うために用意されたのが特別支援教育である。幼稚園・保育所から小学校・特別支援学校へスムーズな移行ができるよう就学の手続き、相談機関等についても考える。

保育内容指導（健康）／保育内容（健康）

専門教育科目／1 単位／2 年前期開講／テキスト授業※

■ 担当教員	中尾 道子
■ 使用テキスト	テキスト：演習保育内容 健康—基礎的事項の理解と指導法— 著 者：河邊貴子 著 出 版 社：建帛社 出 版 年：2019 年 I S B N：978-4-7679-5099-0
■ 参考テキスト	テキスト：幼稚園教育要領解説—平成 30 年 3 月 著 者：文部科学省 著 出 版 社：フレーベル館 出 版 年：2018 I S B N：978-4577814475
	テキスト：保育所保育指針解説書—平成 30 年 3 月 著 者：厚生労働省 著 出 版 社：フレーベル館 出 版 年：2018 I S B N：978-4577814482

○2019（平成 31）年度以降の入学生

この科目はテキスト科目ですが、対象者の方へは講義内容を補うスクーリングを実施します。

日 時	令和 3 年 8 月 28 日（土）10：10～11：10
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス短大 3 号館保育演習室（岡山県高梁市伊賀町 8）
■ 事前提出物	課題内容については『添削課題集』に掲載しています。
■ 提出期限	令和 3 年 7 月 23 日（金）大学必着
■ 使用テキスト	「幼稚園教育要領解説（平成 30 年 3 月）」 文部科学省ホームページよりダウンロードができます。

講義概要・一般目標

生涯にわたる心身の健康の基礎を培う重要な幼児期における、運動、生活習慣は、体格、運動能力の発達はもとより、心身の病気に対する抵抗力などの防衛体力、さらには、安全という視点からも大きな影響を及ぼす。こうした健康という保育内容の歴史的・概括的枠組みから、その具体的留意点までを理解することを目的とする。

到達目標

理論的前提を理解するとともに、保育現場での運動指導の計画策定、指導案の作成ができるようになることを到達目標とする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー（学生の問い合わせ・相談に応じる時間）

Web 学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

本講義は、「健康」領域に関わる保育内容の理論を学習することを目的としており、基本的にはテキスト及び幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書を中心に学習を進めればその内容を理解することができるよう添削課題を作成している。適宜質問等があれば web 学習支援システムにて質問を募集している。また、フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

第1章 健康とは何か

幼稚園、保育所、認定こども園等の幼児教育・保育施設の果たすべき役割から、保育は社会の変化にどのように対応すべきか、子どもの健康で安全な生活を保障するためにはどうしたらよいか学ぶ。

第2章 子どもの身体の発育・発達

乳幼児の体の発育・発達の特徴からいくつかの視点に着目し、具体的な支援について考え、乳幼児の体の発育・発達を支援していくためにはどのような配慮が必要か学ぶ。

第3章 乳幼児期の運動

十分な栄養と休息に加え、保育者の適切な働きかけに支えられて運動発達が促されていく。また、幼児期に獲得していく動きを「体のバランスをとる動き」「体を移動する動き」「用具などを操作する動き」の3つのカテゴリーに分類し整理していく。

第4章 乳幼児期の安全教育とけがの予防

子どもと保育者の双方にとってけが・事故の事態をできる限り未然に防ぐために、必要な知識の蓄積や更新、実習やボランティア活動等を通じた実践力の向上が重要である。園における事故の3つのリスク「子どもの持つリスク」「保育者の持つリスク」「施設・設備の持つリスク」をコントロールすることを考えていく。

第5章 乳幼児期の生活習慣の形成

基本的な生活習慣の形成には家庭での関わりが大事だけでなく、保護者と協力して健康的な生活リズムを子どもの生活に定着させるために、保育者の役割も大きくなっている。3歳未満児と3歳以上児に分けて生活習慣の形成と環境について学ぶ。

第6章 乳幼児期の遊びと運動

幼児期の教育が遊びを通して行われるものであることから、保育者の運動指導（援助）も遊びを通して行うことが必要となる。遊びとしての運動指導の条件について考え、内発的動機づけと子どもの有能感について学ぶ。

第7章 乳幼児期の生活と食

乳幼児期は生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要な時期であり、この時期に適切な食習慣を獲得することは心豊かな生活を送る上で極めて重要である。保育者は保育時間内に豊かな食の実践を展開することはもとより、家庭の食に対する意識を高めるために、家庭や地域社会とどのように連携を深めていけばよいか考えていく。

第8章 領域「健康」の理解と指導法

幼児教育の基本と「健康」領域の考え方を学ぶにあたり、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂（定）に示されたものを知り、領域「健康」のねらいおよび内容を整理していく。

第9章 領域「健康」をめぐる現代的問題

現代的問題として「家庭との連携と子育て支援」「健康と小学校学習指導要領との関連」「健康の指導における保育者の役割」を挙げて、子どもに関わる場面から、どのような役割を果たしていけばよいか考えていく。

第10章 指導案作成から保育へ

テキストでの学びを保育現場で活かすために、実際の現場で行われている、指導計画や教材研究・評価などについて学ぶ。実際に指導案を作成し、模擬保育をしていくための基礎となる学びを行う。

※○2019（平成31）年度以降の入学生

講義内容を補うスクーリングの詳細については、『添削課題集』の「テキスト科目における指導案の作成及び模擬授業等のスクーリング実施について」をご確認ください。

保育内容指導（人間関係）／保育内容（人間関係）

専門教育科目／1単位／2年後期開講／スクーリング授業

広島	日 時	1日目 令和3年11月6日（土）9:00～16:10 2日目 令和3年11月7日（日）9:00～16:10 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年10月29日（金）必着	該 当 時間割	C
	会 場	広島アニマルケア専門学校／並木学院高等学校（広島県広島市中区小町）		
岡山	日 時	1日目 令和4年1月22日（土）9:30～16:40 2日目 令和4年1月23日（日）9:30～16:40 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和4年1月14日（金）必着	該 当 時間割	A
	会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス（岡山県岡山市北区岩田町 2-5）		

■ 担当教員	藤井 伊津子
■ 使用テキスト	テキスト：『幼稚園教育要領解説』 著 者：文部科学省 出 版 社：フレーベル館 出 版 年：2018年 I S B N：978-4-577-81447-5 <hr/> テキスト：『保育所保育指針解説』 著 者：厚生労働省 出 版 社：フレーベル館 出 版 年：2018年 I S B N：978-4-577-81448-2
■ 参考テキスト	テキスト：『幼保連携型認定こども園・保育要領解説（最新版）』 著 者：内閣府 文部科学省 厚生労働省 出 版 社：フレーベル館 実践記録 DVD「主体的な遊びで育つ子ども あそんでぼくらは人間になる」

講義概要・一般目標

1. 保育所保育指針・幼稚園教育要領の保育内容「領域（人間関係）」について解説書を読み合ったりディスカッションしたりすることから理解する。
2. 保育の実践例に触れながら、情報機器及び教材の活用、話し合いやロールプレイングを通して、乳幼児が人と関わる力をいかに身につけていくかを探る。
3. 実践記録を見たり、テキストを読み合ったりしながら、領域「人間関係」と保育実践との関係について考察する。
4. 話し合いや触れ合い遊びを体験しつつ教材研究を行い、乳幼児期の発達に寄り添った関わり方を学ぶとともに指導案の作成と模擬保育を行う。

到達目標

幼児が他の人々と親しみ、支え合って生活できるようになるために、保育に求められることは何かを理解する。

そのためには保育内容の領域「人間関係」について理解すると共に、乳幼児との応答関係が形成されるための、保育者の関わり方や環境作りの重要性について理解する。そして、乳幼児が人と関わる力を身につけていくための現代的課題についても理解する。

評価方法

定期試験（50%）、課題提出と発表および授業への参加態度（50%）により評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

保育現場での勤務経験をもつ教員が、その経験を活かし保育内容について保育者としての専門性を追求する。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

乳幼児はどのような環境で育っているのか、関心を持ちましょう。親子の様子、子どもに関わる商品などから自分の子どもの頃の環境とも比較してみたりして、子ども理解を深めるよう努めましょう。

また、幼稚園教育要領や保育所保育指針及び認定こども園教育・保育要領をよみ、領域「人間関係」について概要をつかんでおきましょう。

乳幼児に伝えたい「わらべうた」をレポートし、スクーリング初日に、提出していただきます。

2日目に発表し合い、体験します。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

授業で修得した知識・専門的視点などの学修内容をより実用的で確実なものにしていくためにも常に前向きに学修する姿勢を持ち続けることが必要です。

日常生活においても子どもや子どもを取り巻く環境に関心を持って、子どもの育ちについていつも考えること、メモを取ることを心がけ、「人とかかわる力」について課題をもつようにしましょう。

また、スクーリング中に紹介した絵本やわらべうたなどをはじめ、いろいろ遊びを自分のものにしていきましょう

〔テキストの概要と学修のポイント〕

授業にあたって保育者は、先ず人間形成の基礎づくりをしている乳幼児のモデルであることを意識して、スクーリングという限られた時間の中で、学生同士がお互いにかかわり合い、学び合うことを大切にしていきたいと考えます。

テキストを読み合いながら、話し合いや触れ合い遊びを体験していく中で、乳幼児期の発達に添ったかかわり方や、人とかかわる力を育む保育について学ぶ。そして、学生自身が他者とのかかわりを通して自己をみつめ、保育者に求められる人とかかわる力についての自己の課題をつかんでいただきたい。

なお、スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対する、フィードバックを行ないます。

学修指導

1. 保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領における保育内容の領域「人間関係」について概観し、保育所保育指針を中心にグループで話し合いやまとめ作業・発表を行い、領域「人間関係」について理解を深める。
2. 養護と教育に関わる保育の内容が関連性をもつこと、5つの領域が生活や遊びを通して総合的に展開されることを理解するとともに、領域「人間関係」の視点を深める。
3. 自己紹介やグループ活動をはじめ参加型の授業なので、幼児にみられ、感じられているという意識を持って、授業に取り組むことにより、保育者として子どものモデルとなるあり様を考えたり試したりする。
4. 人とかかわる力がどのように育つのかを資料や絵本または、自分の生活体験などから考察し、乳幼児が人とかかわる力をどのようにして獲得していくのか、考察する。
5. 学生が事前にレポートした「わらべうた」を発表し合うことをとおして、わらべうたや伝承遊びの楽しさを体験しながら、乳幼児期になぜそうした遊びを体験することが重要であるかを知る。そして、遊びをとおして乳幼児が人とかかわる力を身につけていくためには、保育者としてどのような配慮が必要かを考察する。

1 日 目	講義 1 : 1. 保育内容人間関係とは 2. 幼稚園教育要領・保育所保育指針にみる領域「人間関係」
	講義 2 : 3. 領域「人間関係」の「ねらい・内容」と10の姿（情報機器及び教材の活用） 4. 乳幼児期の人と関わる力が育つ道筋と保育方法（ディスカッションと発表）
	講義 3 : 5. 幼児期前期の人と関わる力が育つ道筋と保育方法（ディスカッションと発表） 6. 幼児期後期の人と関わる力が育つ道筋と保育方法（ディスカッションと発表）
	講義 4 : 7. 保育実践記録から探る主体的な遊び（ディスカッション） 8. 保育実践記録から探る信頼関係の形成（ディスカッション）
2 日 目	講義 5 : 9. 保育実践記録から探る道徳性・規範意識の芽生え（ディスカッション） 10. わらべうたのカー-わらべ歌の心地よさと触れ合いの広がり-
	講義 6 : 11. 昔話にみる生きるカー-昔話の分析- 12. 伝承遊びを通して生まれる人と繋がるカー-体験を思い出し伝える力にする-
	講義 7 : 13. 保育における年中行事の意義-子どもの成長と伝承文化における体験-(教材研究) 14. 人と関わる力を育むための保育における指導案の作成と模擬保育
	講義 8 : 15. 人と関わる力の育成に向けて保育に求められる課題 科目認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

- ① 「わらべうた」を1曲紹介していただきますので、覚えてきてください。
* 「保育指導法・言葉」を履修している人はテキストにいくらか載っていますので、参考にしてください。
- ② その紹介していただく「わらべうた」を、A4用紙（縦置き・横書き）1枚に解説してください。
* そのまま印刷しますので、濃く書き、余白を縦・横 2.5センチずつとってください。

〔準備するもの〕

- ① 『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』
- ② ②事前課題（A4、1枚）

〔その他〕

- * 1日目に自己紹介をしていただきます。一人約2分と予定しています。内容は自由です。
- * 2日目に「わらべうた」の紹介をしあいます。動きを伴うものがあると思われるので、軽く動くことのできる服装で参加してください。

保育内容指導（環境）／保育内容（環境）

専門教育科目／1 単位／2 年後期開講／テキスト授業※

■ 担当教員	藤井伊津子
■ 使用テキスト	テキスト:「保育内容 環境」(第3版) 著 者:榎沢良彦、入江礼子 編著 出 版 社:建帛社 出 版 年:2018 年 ISBN:978-4-7679-5082-2
■ 参考テキスト	テキスト:①保育内容「環境」 著 者:高橋貴志、目良秋子編著 出 版 社:建帛社 ②幼稚園教育要領解説(最新版) ③保育所保育指針解説書(最新版)

○2019(平成31)年度以降の入学生

この科目はテキスト科目ですが、対象者の方へは講義内容を補うスクーリングを実施します。

日 時	令和3年12月19日(日) 16:40~17:40
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10号館(岡山県高梁市伊賀町8)
■ 事前提出物	課題内容については『添削課題集』に掲載しています。
■ 提出期限	令和3年11月19日(金) 大学必着
■ 使用テキスト	「幼稚園教育要領解説(平成30年3月)」 文部科学省ホームページよりダウンロードができます。

講義概要・一般目標

幼児教育の基本理念は、幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とすると教育基本法の改正の下で学校教育法の改定でも生かされました。幼児期における「環境」の持つ意味は、幼児期の発達特性である一人一人の心情や意欲・態度を生かす重要な教育的鍵概念なのです。

幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域(環境)の「ねらい及び内容」について背景となる身近な環境とのかかわりと関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を構想する基本を身につけるのが一般目標です。

これまでの幼稚園教育要領・保育所指針において、従来から大切にしてきた「環境を通して行う教育」は今回の改訂(2017)においても再確認されました。すなわち領域「環境」の環境要素を活かした保育・指導の役割やあり方も重要な幼児教育を支える鍵概念であることに基本的な変更はなく、幼稚園教育要領ではじめて、「見方・考え方」という文言が使われ、より大切な視点が示されたといえます。

特に保育内容「環境」の教科では、子どもたちの身の回りの動植物、水や木、気象現象などの自然事象、紙やプラスチック、遊具や用具などのものとのかかわり、人の生活や生活に関係する施設・設備、各種の行事や情報、数量や図形、文字など思考力の広範な活動を想定して「ねらいと内容」が設けられており、本科目を通して、幼児の姿と「環境」要素を活かした保育・指導のあり方を把握し、幼児教育の基本とノウハウを修得し、次のより実践的な「保育指導法(環境)」へと進む土台となる幼児教育に必要な考え方を身に付けることが期待されます。

到達目標

幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域(環境)の「ねらい及び内容」の意義を理解するために具体的には次の項目を修得していることが到達目標です。

1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本を踏まえ、領域(環境)の「ねらい及び内容」並びに全体構造を理解している。

2) 領域(環境)の「ねらい及び内容」を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意

点を理解している。

3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。

4) 領域（環境）において経験し身に付けていく内容や小学校の教科等との関連を理解している。

保育内容の5領域の一つである「環境」領域において、「環境」要素を活かした保育・指導の役割やあり方の基礎を学び、求められる総合的幼児教育における「環境」（人的環境・物的環境・自然環境・社会環境）にかかわる指導の意義をはじめその手法を学ぶ。特に幼児の環境を通じた原体験が幼児一人一人の人格形成の基盤づくりの重要な段階であることを理解し、また幼児一人一人の主体性を尊重し、「環境」にかかわり、「環境」をいつくしむ心を通じて身体・社会性・感情・知的発達をうながすための環境構成と指導計画づくりのできる知識を修得し、次の「保育指導法（環境）」へと発展できる基盤となる知識と幼児教育に必要な考え方を身につけることを目標とします。

評価方法

科目単位認定試験により評価する。

オフィスアワー（学生の問い合わせ・相談に応じる時間）

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

本科目は担当経験があり、学生たちと学外での自然観察や文化財探索、植物栽培などを通して、保育と身の回りの環境との関わりについて、共に考えてきました。

通信教育課程においてもその経験を活かして、子どもと身近な環境との関わるについて、特に自然環境と保育実践について、一緒に考えていきたいと思えます。

学修の進め方

1. 「保育内容（環境）」における領域（環境）の意義と役割についての基礎理論の理解

「保育内容（環境）」の理論的基礎を修得し、次の「保育指導法（環境）」（実技・実践）へと発展させるための土台作りとなります。なお領域（環境）の教育要領の内容は今回の改訂(2017)においても、「幼児教育は環境を通して行う教育」と再確認され、前回と大幅な変更はありませんが、改めて領域（環境）の幼児教育における意義と役割についての基礎を理解することが大切になります。

2. テキスト（教科書）の活用の仕方

本教科では、テキストを中心に「保育内容（環境）」の各事項についての基礎理論を学び、同時に提示されている参考テキストを参照しながら幼児教育における領域「環境」の考え方および指導に関する理解を深めることが必要です。

3. 「マイノート」の作成の重要性

テキストは、「保育内容（環境）」の基礎理論を「幼稚園教育要領・保育所保育指針」の内容に従い解説されています。各項目において重要課題とその説明・例示・順次整理されて提示されています。テキストを単に読むのみではなく、自ら整理し直した「マイノート」を作成し、理解を深めることを薦めます。

4. 理解の確認としての科目認定試験について

添削課題の得点が50点以上の無い場合、「科目認定試験」の受験はできません。目的意識を持って課題に取り組んで下さい。テキストを中心に一部参考テキストからも出題される添削課題を中心に認定試験においても再確認が必要です。

問題の形式は、正誤・選択問題、空所補充問題、論述問題等で構成されています。特にテキストの内容を良く理解して空所補充問題に取り組んで下さい。論述問題は200～250字程度に簡潔に論述できる練習も必要です。また少数ですが選択問題を含め無回答の受講生がありますが、課題に対しては意欲を示し必ず解答しましょう。

5. 課題レポートに対するフィードバックについて

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。それを参考に再確認を

して理解を深めてください。また添削課題についても同様の対処をし、再確認をして下さい。

学 修 指 導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

シラバスを中心に以下の項目により学習が進められます。テキストでは内容をより詳細に説明するために、項目が複数の章にまたがり説明されている場合があります。(テキストおよび参考書参照)に注意して、語彙より「内容の理解」を優先して学習を進めてください。

1：領域「環境」の意味 (*テキスト第1章及び関係する全章 参照)

ここでは、領域「環境」の意味を子どもにとっての身近な環境としてかかわりで育まれるもの、そして環境に接すること意義と役割についての基本を理解し、他の領域との関係や小学校教育の前段階としての教育との位置づけが示され、小学校との連携、接続のあり方と推進のポイントについても学習する。

1)子どもにとっての身近な環境とは

・子どもの生活の中にあるもの ・子どもが興味・関心を抱けるもの ・子どもがかかわることができるもの

2)領域「環境」において育むもの

・生きる力の基礎 ・領域「環境」のねらい

3)生活の中で様々な環境と出会うことの大切さ

・子どもたちの経験の偏り ・生活の中で環境と出会うこと ・様々な環境と出会うこと

4)領域「環境」と他の領域との関係

・領域の考え方 ・内容から見る領域の関係性

5)小学校教育との関連性

2：子どもたちの育ちにかかわる現代の生活環境とその課題 (*テキスト第2章 参照)

ここでは、現代の生活環境の変化が、子どもたちの育ちに影響を及ぼしている問題を織り上げ、子どもたちのより良い育ちを保障するために、保育者自身が実践者であり、生活実践を通して考え続ける続けることが何よりも大切なことを学習する。

1)生活環境と子どもの育ち

・生活環境と子どもの育ち ・保育の「環境」を構想するために

2)物とのかかわりに関する問題

・物とは何か ・かつての生活文化と物・大人・子どもとの関係

・技術革新と消費化・省力化がもたらされる物・大人・子ども ・「もったいない」が教えること

3)生き物とのかかわりに関する問題

・生きるということ ・生き物を飼うということ ・生き物と子どものかかわりを構想する

4)自然とのかかわりに関する問題

・人間の生活と自然 ・自然保護運動と人間の生活 ・自然とかかわるとということ

5)社会事象とのかかわりに関する問題

・大人とのかかわり、子どものまなざし ・子どもの興味・関心を知るとということ

・子どもの理解のためにできること

6)情報・メディアとのかかわり

・子どもが子どもでなくなる時代 ・メディアが生成するバーチャル体験

・メディアが操作する子どもの興味・関心

7)地域社会・文化とのかかわりに関する問題

・かつての地域社会・文化と子ども ・「地域社会」が消滅した「地域」

・「地域社会」の起点としての保育所・幼稚園など

3：環境への興味とのかかわり方の発達 (*テキスト 第3章参照)

ここでは、乳幼児期の子どもへの環境とのかかわり方と発達との関連についての基礎を中心に学び、乳幼児期前半と後半における環境とのかかわりの相違点についても学習する。

- 1)乳幼児期における環境へのかかわり
 - ・環境へかかわる力をもって生まれてくる子ども ・探索活動のはじまり
- 2)幼児期前半における環境へのかかわり
 - ・イメージ遊びの展開と物へのかかわりの広がり ・環境へのかかわりと自我の育ち
- 3)幼児期後半における環境へのかかわり
- 4)発達をささえるもの

4：子どもの活動を引き出す保育環境（*テキスト 第4章参照）

ここでは、どのような環境が、子どもの育ちにつながる意味のある環境となるのか。その保育環境の条件を中心に考え方について学習する。

- 1)保育環境とは
- 2)子どもにとっての園環境
- 3)環境としての空間
- 4)環境としての時間
- 5)環境としての雰囲気

5：物とのかかわりにおける子どもの育ち（*テキスト 第5章参照）

ここでは、子どもたちの物とのかかわりの中で、特に素材と使用される道具について保育者は使い方や技術的な研究も行い、子どもたちが創造的に自分たちの生活に取り込み遊びに生かしていこうとする姿を援助する大切さについて学習する。（*活動例の指導留意点にも着目）

- 1)こどもにとっての物
- 2)日常生活での活動例

6：生き物とのかかわりにおける子どもの育ち（テキスト 第6章参照）

ここでは、子どもが生き物と出会い、何を感じ、子どもと生き物との豊かなかかわりを支えている保育者や保護者、地域社会の在り方について学習する。

- 1)子どもにとっての生き物
- 2)生き物とかかわる子どもたちの姿
- 3)豊かな生き物とのかかわりを支える環境や援助
- 4)生き物と出会うために

7：自然・季節とのかかわりにおける子どもたちの育ち（*テキスト 第7章参照）

ここでは、身近な環境である植物とのふれあい活動の基礎を学び、園内園外な植物を把握しておき、幼児に適切に触れる機会を作ること通して興味・関心を持たせるポイントおよび活動事例について指導に当たる際の配慮点などについて学習する。

- 1)子どもにとっての自然・季節
- 2)日常生活での活動例
- 3)自然・季節とのかかわりの意義と保育者の援助

8：地域社会・施設とのかかわりにおける子供たちの育ち（*テキスト 第8章参照）

ここでは、子どもも大人も日常生活の営みは、地域社会の中で行われており、保育者として地域社会をどう捉え、どうかかわっているかを考え、子どもの指導に生かすことを学習する。（*活動例の指導留意点にも着目）

- 1)子どもにとっての知己社会・施設
- 2)地域社会とのかかわりの活動例
- 3)施設とのかかわりの活動例

9：情報環境・文化財とのかかわりにおける子どもの育ち（*テキスト 第9章参照）

ここでは、子どもたちの周辺には情報が氾濫し、家庭・地域社会の教育力が弱まり、子どもたちの育ちに影響を及ぼしている現在、保育者の援助、指導の視点が重要になる。これらにかかわる様々な状況を想定して子どもの育ちに役立つ活動例について学習する。

- 1)子どもにとっての情報環境と文化財
- 2)情報環境・文化財にかかわる活動例
- 3)保育者の援助・指導の視点

10：数量・図形への興味と認識の育ち（*テキスト 第10章参照）

ここでは、子どもは身近な人やものとのかかわりの中で、数量や図形にいろいろな場面で出会い、それらに親しんでいくが、保育者はいかにして子どもの生活の中で必要感に基づく体験から数量や図形に対する興味や関心、感覚を養うことができるようにするかを学習する。

- 1)子どもにとっての数量・図形との出会い
- 2)日常生活での活動例

3)数量・図形への興味・関心を引き出す保育者の援助

11：文字・標識への興味と認識の育ち（*テキスト 第11章参照）

ここでは、子どもたちを取り巻く環境には様々な文字や記号が豊富に存在する環境であり、これらに対し子どもたちがどのように認識していくのか、その際の指導上の留意点について学習する。
（*指導上の留意点と反省にも注目）

- 1)子どもにとっての文字・標識環境
- 2)日常生活での活動例
- 3)文字・標識の指導上の一般的な留意点

12：子どもの環境へのかかわりを促す保育者の役割（*テキスト 第12章参照）

ここでは、領域「環境」の核である「身近な様々な環境に好奇心や探求心をもってかかわり、それらを取り入れようとする力を養い、思考力の芽生えを培う」ための指導者の役割の大切さを学習する。

- 1)様々な環境の特性・影響を理解する
- 2)かかわりたくなる環境を構成する
- 3)長期的な見通しの中で環境を考える
- 4)人的環境としての友達を生かす
- 5)人的環境としての保育者が存在する

13：模擬保育（※スクーリングで実施予定です。）

14：添削課題および定期試験

添削課題はテキストを中心に、参考テキスト（幼稚園教育要領解説（最新版）、保育所保育指針解説（最新版））からも一部出題されます。模範解答を参考に再確認をして無解答が無いように各項目についてポイントとなる点を整理して臨みましょう。

※○2019（平成31）年度以降の入学生

講義内容を補うスクーリングの詳細については、『添削課題集』の「テキスト科目における指導案の作成及び模擬授業等のスクーリング実施について」をご確認ください。

保育内容指導（言葉）／保育内容（言葉）

専門教育科目／1 単位／2 年後期開講／テキスト授業※

■ 担当教員	小坂田 佐弓
■ 使用テキスト	テキスト：保育内容・言葉（第2版） 著者：阿部明子 編著 他 出版社：建帛社 出版年：1999年7月 ISBN：978-4-7679-3144-9 C3037
■ 参考テキスト	テキスト：新保育内容シリーズ（新訂）「子どもと言葉」 著者：岡田明 編 出版社：萌文書林 出版年：2008年 ISBN：978-4-89347-067-6

○2019（平成31）年度以降の入学生

この科目はテキスト科目ですが、対象者の方へは講義内容を補うスクーリングを実施します。

日 時	令和3年12月19日（日）14：20～15：20
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10号館（岡山県高梁市伊賀町8）
■ 事前提出物	課題内容については『添削課題集』に掲載しています。
■ 提出期限	令和3年11月19日（金）大学必着
■ 使用テキスト	「幼稚園教育要領解説（平成30年3月）」 文部科学省ホームページよりダウンロードができます。

講義概要・一般目標

保育者は、子どもに日常生活の中で言葉への関心や興味を持たせ、喜んで話したり聞いたりする態度や、言葉に対する感覚を獲得させなければならない。そのために保育者はどのように援助し、環境を整えればよいのかを理解する必要がある。

言葉は人間の持つ最も基本的な能力の一つであり、人類の重要なコミュニケーションの手段でもある。ここでは、まず幼稚園教育要領の「言葉」の領域の概念を理解する。

次に、言葉の機能を学び、子どもが発達段階において言葉をどのように獲得していくのかについて学習する。そして、幼稚園教育における言葉の教育のねらいを理解し、生活体験を通しての言葉の教育の重要性について考察する。

その上で、子どもが「言葉を聞くこと」「言葉で表現すること」「言葉で考えること」ができる力を育てるために、保育者がどのように援助すべきかを考察する。

さらに、ひととのかかわりや文化財とのかかわりの中で、子どもの言葉が発達することを学び、言葉と環境について理解を深める。

最後に、言語の障害や母親指導など、言葉の周辺の問題もとり上げ、言葉から国語教育への展望を考察する。

到達目標

- (1)幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「言葉」のねらいおよび内容について把握する。
- (2)人間としての発達の視点から幅広く言葉の問題をとらえ、子どもの言葉の獲得と発達について理解する。
- (3)子どもの言葉の獲得における保育者の援助・指導のあり方と、言葉の発達に即した環境構成のあり方について理解を深める。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

1. 添削課題提出の意図及び課題の進め方
「保育内容(言葉)」では、子どもの言葉の獲得における保育者の援助・指導・環境構成のあり方を学ぶことを目的としています。領域「言葉」のねらい及び内容と、子どもの言葉の発達を十分に理解しながら学修を進めてください。
2. 添削課題をまとめるにあたっての留意点
問題はテキストに非常に忠実に作成してありますので、テキストを丁寧に読むことを心掛けてください。
3. フィードバックについて
フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

第1章 言葉の領域

昭和39年に告示された幼稚園教育要領が、平成元年に改善され、従来「言語」とっていた領域は、「言葉」の領域になった。そして、言語の伝達の機能や児童文化財を与えていくことが主なねらいや内容となっていたものが、言葉の獲得に関する領域となり、より人間としての発達の視点から、幅広く言葉の問題を捉えていく内容が示された。

従って、表記も「言語」から「言葉」へ変わったと同時に、その内容も、乳幼児がいかに主体的に環境とかかわり、そこでの生活体験を通して言葉を自分のものとしていくのか、また、いかに言葉を使って自分の気持ちや考えを表現していくのかに、主眼が置かれるようになった。

つまり、「言葉」の領域は、子どもが日常生活の中で育つ姿をしっかりと把握し、保育者が環境を整えて、言葉の獲得を援助する立場から示してあるということを理解する。

第2章 子どもにとっての言葉

子どもの言葉は、言葉だけで発達するのではなく、総合的な子どもの発達の中で発達していくものである。そして、子どもはあらゆる生活体験を通して、主体的に言葉を学んでいく。

ここでは、まず最も基本的だと考えられる言葉の機能について学修する。

次に、言葉の獲得や成長は、どのようなメカニズムを前提条件として可能になり、また言葉の成長は、子どもの行動にどのような特質をもたらしていくのかという観点から、段階にわけて、子どもの言葉の発達について学修する。

その上で、幼稚園教育における言葉の教育のねらいを学び、これが子どもの心情や意欲、態度を中心に全体的に捉えておかなければならないものであることを理解する。

また、乳幼児が、言葉をその音声とともに概念を築き、ニュアンスを理解していくのには、ひとつの言葉について、数えきれないほどの語りかけと実際の体験の結びつきが積み重ねられなければならないことを考察する。

第3章 子どもの生活と言葉の指導

言葉を「聞く」ことと、話したりする「表現する」こととは、表裏一体のものであり、「聞く」力を育てることは、「表現する」力も育てていく。保育者と子どもの一人ひとりの間に安定した人間関係が成立すると、これら二つの活動も相互に活発化される。子どもの「言葉を聞く」力を育てるためには、保育者や親など、おとなが子どもにとってよい聞き手でなければならない。つまり、保育者と子どもが互いによく「聞き合う」ことが、子どもの言葉を育てていくことを学修する。

子どもの「言葉で表現する」力を育てるためには、保育者は子どもができるだけ自然に自由に表現できるように配慮すること、子どもが言葉というものを意識化していくことができるように、共に考えていくことが大事であることを理解する。

子どもの「言葉で考える」力を育てる時の出発点は、子どもの言葉や行動を、その裏にある子どもの思考過程を予測して見とっていくことであり、その見とりに基づいた援助のあり方を考察する。

第4章 言葉と環境

子どもは、家族や社会生活の中で出会うさまざまな他のおとな、あるいは子ども同士といった、「ひと」とのかかわりの中で、「ひと」の発声や動作を模倣し、興味や関心に刺激を受けながら、言葉を習得していく。

子どもが言葉を覚え、正しく話すことができるようになるためには、子どもを取り巻いている言語的・非言語的環境が十分整っていなければならない。これらの環境を整え、自らも言語環境とし

て重要な役割を果たすのが保育者であり、保育者はその役割を自覚して保育に当たるべきであることを理解する。

また、子どもは文化財とかかわる中で、さまざまな感動体験と出会い、言葉に対する刺激を受けて、豊かな言葉を獲得していく。ここでは、言葉と特にかかわりが深い文化財として、見たり聞いたり読んだりするもの、遊びの内容が文化財となるもの、視聴覚機器を使用したもの、について学修する。

第5章 言葉の周辺

言語に障害があると、日常生活に支障をきたし、人との対応にも不応状態を示すことが多く見られる。また、子どもに障害があると思われる場合、ことに母親にも心理的な不安定が生じがちである。保育者は、子どもの発達についてよく理解し、母親を支えるとともに、問題解決に向けてよき援助をする必要がある。

ここでは、言葉の障害について一応の状況を知り、保育の場での問題と対応の仕方について学修する。

また、小学校教育において、国語学習は教科のひとつであるが、そこで培う言葉の力によって全ての教科の学習が行われるので、学習生活の基底を作ることになる。どの教科も言葉による思考・認識力を育てていく部分があり、常に国語学習をふまえているともいえる。保育で、絵本や紙芝居、お話などの受容的な楽しみ方や態度が育っていると、こうした学習に適應する力につながる。

国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度へとつながっていく指導について考察する。

※○2019（平成31）年度以降の入学生

講義内容を補うスクーリングの詳細については、『添削課題集』の「テキスト科目における指導案の作成及び模擬授業等のスクーリング実施について」をご確認ください。

保育内容指導（表現）／保育内容（表現）

専門教育科目／1 単位／2 年後期開講／スクーリング授業

日 時	1 日目 令和 3 年 12 月 4 日（土） 9:30～16:40 2 日目 令和 3 年 12 月 5 日（日） 9:30～16:40 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和 3 年 11 月 26 日（金） 必着	該 当 時 間 割	A
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス短大 12 号館（岡山 県高梁市伊賀町 8）		

■ 担 当 教 員	佐藤 尚宏／上田 豊
■ 使用テキスト	<p>（佐藤 尚宏） テキスト：保育をひらく造形表現 著 者：槇 英子 出 版 社：萌文書林 出 版 年：2018 年 I S B N：978-4-89347-295-3</p> <p>（上田 豊） テキスト：歌う、弾く、表現する保育者になろう 編 著：全国大学音楽教育学会中四国地区学会 出 版 社：音楽之友社 出 版 年：2019 年 I S B N：978-4-276-31274-6</p>
■ 参考テキスト	<p>テキスト：幼稚園教育要領解説—平成 30 年 3 月 著 者：文部科学省 著 出 版 社：フレーベル館 出 版 年：2018 I S B N：978-4577814475</p> <p>テキスト：保育所保育指針解説書—平成 30 年 3 月 著 者：厚生労働省 出 版 社：フレーベル館 出 版 年：2018 I S B N：978-4577814482</p>

講 義 概 要 ・ 一 般 目 標

「子どもの表現活動の理解および造形・音楽表現の技法と技術」「実際の保育現場において適切な援助および指導ができる能力」の習得を行うために、教材研究、情報機器及び教材の活用、指導案作成、模擬保育を実施する。

到 達 目 標

「子どもの表現活動の理解および造形・音楽表現の技法と技術」をテーマとする。
前半の音楽表現では、音・音楽を用いた表現の方法を学習した上で、実際に作品作りを行い表現力を養う。後半の造形表現では「子ども参加の空間デザイン」をテーマに、壁面空間づくりのグループ製作の模擬保育を通して保育内容の指導に必要な力を養う。

評価方法

(上田 豊)

課題作品(意図、創造力、表現力、完成度など) 50%、作品発表(発想力、表現力など) 30%、取組姿勢(課題学習への取り組み、仲間との協同学習など) 20%

(佐藤 尚宏)

模擬保育におけるアイデアスケッチの発想とねらい(20%)、活動計画の的確さ(20%)、演習における指導と援助(20%)、レポート(20%)、および授業に取り組む姿勢(創意工夫と試行錯誤、準備・かたづけ)(20%)によって評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

(佐藤尚宏)

美術系進学予備校においてデッサン、色彩構成・表現、立体構成・表現、構想表現などの15年間の指導経験を生かして、幅広い造形分野・素材処理への的確な指導を行っている。

学修の進め方

[スクーリングまでの事前学修事項]

(上田 豊)

「音楽表現」では、音を感じる力が重要となります。自分の体が発する音、生活の音、自然の音などに耳を傾け、楽しむこと。また、ドラマやアニメーションでは、どのような場面にどのような音があるのかなど、物語と音の関係を楽しみながら、音・音楽に対する想像力を高めるようにしてください。

(佐藤 尚宏)

保育指導法(表現)が履修できていない人は、テキスト5章 造形表現指導の実際(p83~124)の内容を理解した上で臨んで下さい。どのような指導形態があるのか、保育士や教師の役割として直接的な援助と間接的な援助の要点、模擬保育の要点について事前学修が必要です。

★図画工作・造形表現活動の科目の全体像と各科目間の関係★

基礎技能(図画工作) S

主に幼児期から小学校低学年を想定。全ての科目の基盤となる内容。

保育者・教員として必要な子どもの造形表現活動への理解・共感する心や姿勢など、最も基本的な本質と子どもにとっての意味・意義を体感的に学修する。

基礎技能Ⅱ(図画工作) S

主に幼児期から小学校全般を想定。模擬保育・模擬授業に関係する内容。

理解・共感する心や姿勢を基にし、保育者・教員としてどのように授業づくりをすればいいのかについて、教材研究の要点や、表現の基本技能について学修する。

子どもの図画工作 T

テキストは幼児教育だが、小学校全般に通用する。全ての科目の基盤となる内容。

造形表現活動の意義、表現を育む姿勢、造形を楽しむ題材、子どもの発達段階などについて、理論的側面や様々な事例から学修する。

保育指導法(表現) T

テキストは幼児教育だが、小学校全般に通用する。模擬保育・模擬授業の基盤となる内容。

実際の指導を考えるにあたっての役割や指導形態、援助について学修する。これらの内容は小学校においても図画工作科に関しては基盤となる内容であるにもかかわらず、小学校向けの学修では見落とされがちな重要な内容を取り扱っている。

保育内容指導（表現）／保育内容（表現）S、2日目

幼児期～小学校低学年を想定。グループ製作による授業づくりの演習。

子ども参加の空間デザインをテーマに壁面づくりの模擬保育（模擬授業）を行う。

初等教科教育法（図画工作）

学習指導要領と実際の授業づくりの要点について学修する。

また授業づくりでは基礎技能Ⅱ（図画工作）での教材研究の学修をベースに、各自に実際に取り組んでもらい授業のアイデアについて考察する。

子ども発達教育演習Ⅰ・Ⅱ

それまでの学修を総合し、造形表現活動をどのように実践するのかについて、自らの興味・関心からテーマをしばり、「文献調査」「実践報告」「教材製作」の3種類の研究方法で研究を進める予定。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

（上田 豊）

学習した内容を深めるためには、日々、新鮮な気持ちを忘れずに、身の回りの音・音楽に耳を傾け、発見し、自身の感性を高め、表現力を磨いてください。

（佐藤 尚宏）

模擬保育を行うことで自分に足りない視点や行動など「身につけたい実践力」が見えてくると思います。頭でわかるだけでなく行動パターンとして定着させるためには、ふだんの生活の中で繰り返し意識し行動する必要があります。

〔フィードバック〕

スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行いません。

学 修 指 導

1 日 目 （ 上 田 ）	第1回	身体と音楽
	第2回	身の回りのものと音楽
	第3回	楽器と音楽
	第4回	子どもと一緒にできる音遊び
2 日 目 （ 佐 藤 ）	第5回	講義，6章 3-(2)壁面空間－子ども参加の空間デザイン
	第6回	模擬保育準備
	第7回	模擬保育「壁面づくりのグループ製作活動」
	第8回	模擬保育「壁面づくりのグループ製作活動」
	定期試験（2日目模擬保育のレポート作成）	

スクーリング事前課題・準備物等

・1日目（担当：上田 豊）

〔事前課題〕 テキスト『歌う、弾く、表現する保育者になろう』の第3章表現を読んで、内容を理解し、活動をイメージできるようにしておくこと。

〔準備するもの〕 テキスト、ノート、身の回りにある廃材（新聞紙、ストロー、ビニール袋、牛乳パック、空き箱、空き缶、輪ゴムなど）、セロテープ、ホッチキス、ハサミ、のりなど、できる範囲で。

〔その他〕 特にありません。

・2日目(担当:佐藤 尚宏)

[事前課題]

当日は壁面空間づくりの造形表現活動を「子ども参加の空間デザイン」をテーマに、先生役・園児役に分かれたグループによる模擬保育を行いますので、以下の事前学習を必ず行うこと。

- 《予習》 参考テキスト「保育をひらく造形表現」第6章の3. 環境を豊かにする (p155~165) 通読の上、「子ども参加の空間デザイン」の意義について考察する。
- 《提出物》 模擬保育で製作する「壁面空間づくり」のテーマと活動内容のアイデアスケッチ(完成図の簡単な下絵、A4サイズ1~2点)にまとめて提出すること。
※内容は参考テキスト p158~165 で子ども参加型の物に準じます。
※壁面のテーマやデザインは環境作りとしてふさわしいアイデアを考えて下さい。
※実施内容はグループで話し合いの上、最終決定してもらいます。
- 《準備物》 汚れても気にならない服装、もしくはエプロンや作業着
壁面飾りに使う特別な材料は各自で持参してください。
※一般的な工作に使う材料はある程度用意しています。
※材料を確認したい時は sato-t@kiui.ac.jp までご連絡ください。
- 《その他》 2日目の教室にはポットと電子レンジがあります。

保育内容指導（保育内容総論）／保育内容（保育内容総論）

専門教育科目／1単位／2年前期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年7月24日（土）9:30～16:40 2日目 令和3年7月25日（日）9:30～16:40	該 当 時間割	A
	〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年7月16日（金）必着		
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス（岡山県岡山市北区岩田町2-5）		

■ 担当教員	秀 真一郎
■ 使用テキスト	スクーリング時に資料を配付する
■ 参考テキスト	テキスト：MINERVA 保育実践学講座4 保育内容総論 編 者：田中亨胤・名須川知子 出 版 社：ミネルヴァ書房 出 版 年：2006年 I S B N：978-4623046003
	テキスト：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉 著 者：文部科学省・厚生労働省・内閣府 出 版 社：チャイルド本社 出 版 年：2017年 I S B N：978-4-8054-0258-0

講義概要・一般目標

保育内容において様々な知識・経験を積む中で、その総合的理解を求める内容となる。そのためにも子どもの発達段階をしっかりと理解することにまず第一の視点を置く。理解した発達段階に子どもたちを当てはめるのではなく、目の前の子どもたちがどの発達段階にあり、専門的知識をいかにして実際の保育現場に盛り込んでいくのか、発達段階にあった計画とはどのようなものなのか、などのより実践的内容を認識し、得た知識を活かす方法を学んでいく。

到達目標

保育内容を総合的に学び、保育現場において展開される園生活や保育者の位置づけを考える。乳幼児期における1年の違いをしっかりと理解し、発達基準として子どもの成長を理解することに努めることを望む。また、子どもたちの中にある“生きる力”をいかに引き出すか、環境を通じた保育において遊びとはどうあるべきかを考えてほしい。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

本講義において最も重要となる点は、子どもの発達段階の理解と保育の関係です。したがって、スクーリングまでに保育所保育指針を熟読し、発達段階の理解と五領域におけるそれぞれのねらいと内容を関連付けて理解しておいてください。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

スクーリングで得た知識は単なる知識ではありません。さらに知識を知識としておいておくだけでもいけません。実際の子どもの関わりに活かされることが大切です。柔軟的関わりが求められる保育において、その柔軟性を生み出すものこそ知識的な発達段階と五領域の理解です。スクーリング後に今一度保育所保育指針を見返し、自身の理解度を再確認してください。

〔フィードバック〕

スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行いません。

学 修 指 導

1 日 目	講義 1 乳児・低年齢児の園生活と保育内容
	講義 2 保育の一日と内容
	講義 3 3歳児の園生活と保育内容
	講義 4 4歳児の園生活と保育内容
2 日 目	講義 5 5歳児の園生活と保育内容
	講義 6 発達段階における年齢差
	講義 7 園生活から学ぶ生きる力
	講義 8 環境とかがわる遊びの生活
	科目認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

新『保育所保育指針』（平成29年3月告示）に目をとおしておくこと。特に「第2章 保育の内容」は、しっかりと理解しておくこと。

〔準備するもの〕

特にはないが、筆記用具など必要最低限の準備は整えておくこと。

〔その他〕

特になし

基礎技能（音楽A）

専門教育科目／1単位／1年後期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年10月9日（土）9:30～16:40 2日目 令和3年10月10日（日）9:30～16:40 【スクーリング受講中止届の提出について】 令和3年10月1日（金）必着	該 当 時 間 割	A
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス短大 12号館（岡山県高梁市伊賀町8）		

■ 担当教員	上田 豊／他
■ 使用テキスト	テキスト：歌う、弾く、表現する保育者になろう 著 者：全国大学音楽教育学会中四国地区学会 著 出 版 社：音楽之友社 出 版 年：2006年 I S B N：9784276312746 <hr/> テキスト：明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌 唱歌・童謡 140年のあゆみ 著 者：全国大学音楽教育学会 編著 出 版 社：音楽之友社 出 版 年：2013年 I S B N：9784276590250
■ 参考テキスト	テキスト：幼児音楽教育ハンドブック 著 者：全国大学音楽教育学会 編 出 版 社：音楽之友社 （初版発行のため、書店での購入を推奨します）

講義概要・一般目標

保育者の奏でる音や音楽は子どもを育む環境となる。子どもたちに伝えたい歌を正確に、そして歌に込められているメッセージを表情豊かに伝えることができるように歌唱法を学ぶ。さらに効果的な伴奏ができるよう、ピアノの基本的な奏法を修得する。ピアノのための練習曲や、子どもの歌を教材として、旋律の歌わせ方、基本的な和声進行、リズムの効果などを理解しながら、より豊かな歌心を引き出せる演奏を目指す。弾き歌いの技術も修得する。また、子どもが楽しく音楽活動を展開できるように、簡易楽器の取り扱い方も学ぶ。歌は、旋律と伴奏で完結している。伴奏は、歌の内容（情景や心の動きなど）の表現を担っている。従って、伴奏はその歌に相応しい伴奏を持っている。ところが、実際には、子どもの歌集には多くの簡易伴奏の版が出回っており、その歌本来の姿が感じ取れなくなっている。本講座では、この問題解決のために、オリジナル版を使用して、作者の音楽意図を感じ取ることにしている。

学修は、先ず原理を学び、次に演習・実習へと進むのが原則である。従って、基礎技能の（音楽A）と基礎技能（音楽B）は学修順序から理論と実践の関係で構成している。しかし、通信教育という形態では、演習関係科目はテキスト授業よりスクーリング授業の方が学修効果はより高くなる。そこで、実際の授業では、基礎技能（音楽A）で保育や幼・小学校教育現場で歌われる歌唱教材により、歌唱表現法、表現や歌唱指導に効果的な伴奏法、そしてそのための基礎となるピアノの基本奏法など音楽表現のための基礎技能の習得を目指す。

到達目標

歌唱表現の基礎となる、呼吸法、発声法、ソルフェージュカを修得し、子どもの歌が素歌で歌える。ピアノ演奏の基本である、5指を中心にした曲の演奏ができ、また、主要三和音（I、IV、V）のカデンツァが正しい運指で弾ける。簡易楽器の演奏と取り扱いができる。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

学修の進め方

スクーリング科目の学修内容は、各スクーリングに先立って配付する『スクーリングのしおりによってお知らせします。テキストの指定がある科目については、テキストを通読するなどして事前学修を進め、科目に対する理解を深めておいてください。

音楽関係科目は、次の通り配置されています。

- 1年次 前期 子どもの音楽
後期 基礎技能(音楽A)
- 2年次 前期 基礎技能(音楽B)
後期 基礎技能Ⅱ
- 3年次 前期 子ども発達教育演習Ⅰ
後期 初等科教育法(音楽)
子ども発達教育演習Ⅱ

上記科目は、音楽そのものの理解と音楽教育に係るものの二つに分類出来ます。前者は、音楽の知識技能の習得のためのもの、後者は音楽教育の実践に必要なものです。前者には、基礎技能(音楽A・B)、基礎技能Ⅱが、後者には残りの四科目が該当します。

講義概要と到達目標を読むと分かりますが、音楽は、専門性の高い科目なので、音楽の学習に当たっては、まず専門用語の理解と音楽表現のための技能の習得が前提となります。それらの最も基礎的な学びは基礎技能(音楽A)です。それが前提となって、基礎技能(音楽B)、基礎技能Ⅱの学びが可能となります。

それらを踏まえて、音楽教育系科目である、子どもの音楽、初等教科教育法(音楽)の学びへと進むことが望ましいと言えます。そして、最後に最も専門性の高い子ども発達教育演習へと学びを進めてください。

最初にテキスト『歌う、弾く、表現する保育者になろう』の第4章楽典を読んで、音楽用語を習得してください。そのためには音名、音程の習得が前提となります。音程が分かると音階の構造、主音の違いを示す調性が分かってきます。

歌を歌うには音感が欠かせません。そのためには第1章第2部ソルフェージュの練習を行ってください。2の練習問題のステップ1から同10までを繰り返し練習してください。

学修指導

〔スクーリング事前学修について〕

スクーリングでは、音楽の基礎技能であるソルフェージュ、歌唱表現法、ピアノの基本奏法、弾き歌い、コードネームによる和音伴奏法など、技能の取得を図ります。そのための準備として、以下の項目につき予習しておくことが望ましいです。

- ・テキスト「歌う、弾く、表現する保育者になろう」の第1章歌唱第1部声楽(p.6~18)、第2部ソルフェージュ(p.19~30)をよく読んでおくこと。
- ・第4部いろいろな歌(P.34~66)について、知っている歌があれば自分で歌っておくこと。
- ・第2章器楽は、はじめから4動きを伴う曲にチャレンジまで(p.68~90)をひと通り読んで、簡単な曲については各自でピアノやキーボードでさらしておくこと。
- p.140 両手のカデンツのC-F-G-G7-C、F-Bb-C-C7-F、G-C-D-D7-Gの三つを弾けるようにしておくこと。左手だけでもよい。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

学習した内容、ソルフェージュ、カデンツ奏、歌唱表現を反復練習すること。演奏技術は、練習を怠

ると直ぐに元に戻ります。演習科目は、できることが第1の目的なので、日々心がけて実施してください。また、楽典は、楽譜を通しての音楽理解に不可欠なので、こちらも復習を怠らないこと。

①テキスト『歌う、弾く、表現する保育者になろう』

第1章

第1部声楽 ⑦あなたらしさを表現する歌のワンポイントレッスン1・2

第2部ソルフェージュ

第4部いろいろな歌

第2章 器楽 ①はじめてのピアノ、②弾き歌いにチャレンジ、③両手伴奏にチャレンジ

第4章 楽典、資料の両手のカデンツ (P140)

②参考テキスト『小学校教員養成課程用 新・音楽科教育法』

Ⅳ 実技練習 1 発声法、2 ソルフェージュ、3 やさしい伴奏法

Ⅴ 小学校「唱歌」歌唱教材

これは参考テキストですが、予習しておくことを薦めます。

弾き歌いは、大変難しい音楽活動です。そのためには歌と伴奏のどちらも暗譜しておくことが理想ですが、多くの歌を暗譜することは大変なので、先ず歌詞を覚えておくことを薦めます。

〔テキストの概要と学修のポイント〕

第1章 歌唱

第1部 声楽

この部のポイント：声とは何か。声の発達を知り、声から歌唱表現の方法を取得する。

大人は、話し声や歌を聴いた時、「話している、歌っている」と認識することができます。それは、声や歌に対する概念が形成されているからです。しかし、一度も聴いたことがない音に対しては、「あれ、なんだろう」とその音源をイメージすることができません。人は、命を授かって以来、多くの初めて聞く音に接し、音に対するイメージを蓄積していきます。

乳幼児期は、色々な音に対する初めての出会いを最も多く持つ時期といえます。ここでは、音の中でも最も身近な「声」について考え、そして「歌う」ということへと発展し、さらに歌う「表現」について考察していきます。

第2部 ソルフェージュ

この部のポイント：既存の曲を窓口に、音符の種類、音程・リズム等を系統的に学び視唱力をつけること。

ソルフェージュとは、音楽の基礎技能である音程やリズムの読譜、視唱練習を意味するフランス語で、語学における読み書きのようなものです。この能力は、音感を養うために必要不可欠なものです。ここでは、代表的な課題を10項目取り上げ、それらをステップ学修の形で示しています。各ステップは、練習1～3で構成され、練習1ではよく知られた既存の曲で課題を消化し、練習2では練習1をベースに作られた曲で練習し、練習3で新曲に取り組み、ここでの課題を達成するという構成をとっています。

第3部 二部合唱の作り方（省略）

第4部 いろいろな歌

この部のポイント：前半は合唱に取り組みソルフェージュ力を高め、後半では歌を通して一年間の保育の流れを掴む。

ここは、保育者養成のための歌唱教材の楽譜集です。前半は、「見上げてごらん夜の星を」「さんぽ」など学修者が歌う楽しさ、合唱の楽しさを体験するための曲を取り上げています。後半は、入園から卒園まで保育現場の1年間の季節・行事の流れに沿って、「きょうからお友だち」「思い出のアルバム」などの子どもの歌を取り上げています。

弾き歌いのために、後半の季節・行事の歌の歌詞を覚えてください。

第2章 器楽

この章のポイント：コードネームを使って、弾き歌いや動きの音楽の基礎力を習得する。

子どもの歌は、「わらべうた」のように無伴奏で歌われるのが本来の姿でしょう。しかし、現代では、ほとんどの子どもの歌に魅力的な伴奏が付けられています。そして、歌いながら自分で伴奏をする「弾き歌い」はとても難しい演奏活動です。そして、保育者には、この「弾き歌い」の能力が求められています。

ここでは、コードネームを用いた簡単な伴奏による弾き歌いの方法について、ステップを踏んで学んでいきます。また、保育の色々な場面で展開できるように、動きを伴う曲（歩く、走る、スキップ、ころがる、まわる等）についても学びます。

第4章 楽典

この章のポイント：音楽を視覚的にあらわした楽譜の読譜力を高める基礎となる、楽典（楽譜のきまり事）の基本を学ぶ。

文字は、音を視覚的に表したものです。私たちは、一定の規則に従って仮名や漢字を組み合わせ、句や文を作ります。一定の規則は文法と呼ばれます。音楽の場合もこれとよく似ています。音楽の場合、音楽を構成している音を、一定の規則に従って視覚的に表します。これを楽譜といいます。また、一定の規則を楽典といいます。

ここでは、まずブルグミュラー25の練習曲の第14番《スティリアの女》の初めの6小節を例に、楽典の基本的な20事項を把握し、その後それらを窓口に必要な事項をより詳しく学ぶよう工夫されています。

〔フィードバック〕

スクーリング科目なので、フィードバックは、主にスクーリング時に口頭で行います。内容は、弾き歌いに必要な歌唱法と鍵盤楽器の基礎知識・技能、また、必要となる楽典の理解などについて、必要に応じて理解度調査を実施し、その結果の分析を基に、受講生が自己の学習状況を把握して、学習に取り組めるようにすることを念頭に行います。

学修指導

1 日 目	講義1 音とは何か。音楽の素材である音について、心理的、物理的の二側面から学ぶ。
	講義2 音程を知り、音階の構造を把握し、調性（長調・短調、移調）を理解する。
	講義3 ソルフェージュ。音程、リズムを正しく歌う。
	講義4 コードネームによりハ長調、ト長調、ヘ長調のカデンツを鍵盤上で弾く。
2 日 目	講義5 呼吸法、発声法、歌唱法。子どもの歌を無伴奏で歌う（素歌）力をつける。
	講義6 歌唱表現法。表現に係る要素、声の響きと表現。
	講義7 弾き歌い1。オリジナル伴奏やカデンツによる伴奏法。
	講義8 弾き歌い練習。 科目単位認定試験 カデンツと課題曲の弾き歌い。及び筆記。

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

- ・テキスト「歌う、弾く、表現する保育者になろう」の第1章歌唱第1部声楽（p.6～18）、第2部ソルフェージュ（p.19～30）をよく読んでおくこと。また、第4部いろいろな歌（p.34～66）について、知っている歌があれば自分で歌っておくこと。
- ・第2章 器楽は、はじめから4動きを伴う曲にチャレンジまで（p.68～90）をひと通り読んで、簡単な曲については各自でピアノやキーボードでさらっておくこと。また、p.140 両手のカデンツのC-F-G-G7-C、F-B \flat -C-C7-F、G-C-D-D7-Gの三つを弾けるようにしておくこと。左手だけでもよい。尚、上記三つのカデンツは受講日の最初に習得の有無を一人ひとり確認させていただきます。結果は、授業への取り組み態度として評価（20%程度）します。

(重要)

弾き歌いを単位認定試験の一つとして実施するので、年度当初に配付している「弾き歌い 20」を参考に、春夏秋冬の各グループから3曲、計12曲を自分の進度を考慮して選び、十分な練習を積んで参加すること（選曲は参考曲以外の曲も自由です）。伴奏は、『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌』（少し難しい）以外の、簡易なものでも全く差し支えありません。その場合、楽譜は各自で準備すること。尚、スクーリング授業内では、弾き歌いの練習時間があまり取れません。

弾き歌い成功のポイントは、歌詞をおぼえていることです。よく練習して授業に臨んでください。また、この他上記三つのカデンツを暗譜で弾けることも単位認定の条件としています。

弾き歌いの授業（音楽Aの一部）は、一つの教室に電子ピアノが32台あり、学生はヘッドホーンを使って練習しながら、レッスンを受けます。そのレッスンを通して、各自が選曲した12曲の弾き歌いについて、合否の判定を行います。そして、12曲すべて合格すると、それが単位認定実技試験の受験資格となります。単位認定実技試験は、一人ひとりグランドピアノで行います。

単位認定実技試験では、合格した12曲から4曲を受験生が申告し、その4曲について、合否の評価を受けます。その4曲も、試験時間が不足する（失敗により一人の時間が長くなる場合など）、受験者数などにより、さらに少なくなる場合も想定されます。その場合は、その4曲からこちらが指定した曲を弾くというケースもあります。

[準備するもの]

- ・テキスト『歌う、弾く、表現する保育者になろう』
- ・プリント：基礎技能（音楽A）弾き歌い参考曲20
- ・音楽用5線のノート（B5版 12段のものが廉価で使いやすい）

[その他]

スクーリングは音楽系科目に関する疑問等には絶好のチャンスなので、基礎技能（音楽A）の内容にこだわらず、テキスト科目に関する質問にも答えられればと考えています。自己学習が能率良く進むように、音楽の基礎知識・技能、その他音楽全般に関する質問事項を用意してきて欲しいと考えています。

基礎技能（音楽B）

専門教育科目／1単位／2年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	上田 豊
■ 使用テキスト	テキスト：歌う，弾く，表現する保育者になろう 著者：全国大学音楽教育学会中四国地区学会 著 出版社：音楽之友社 出版年：2006年 ISBN：9784276312746
■ 参考テキスト	テキスト：幼児音楽教育ハンドブック 著者：全国大学音楽教育学会 編 出版社：音楽之友社 (初版発行のため、書店での購入を推薦します)

講義概要・一般目標

基礎技能（音楽A）で培ったソルフェージュ力、ピアノ演奏力、歌唱力をさらに高め、現場で必須となる弾き歌いのレパートリーを広げていく。子どもの生活や遊びから音楽表現へと結びつくよう、子どもの目線から捉えられる自然の様子や四季の移り変わり、周りの生き物、食べ物、友達との遊び、行事など、子どもの生活を歌っている歌を題材に取り上げる。そして、歌詞を考察することにより、表現遊びや劇遊びへの発展の可能性等も探る。

到達目標

音楽Aで習得した呼吸法、発声法、ソルフェージュ力を生かした豊かな歌唱表現ができる。また、読譜や演奏に欠かせない楽典を学び、音楽の理論的な力が修得できている。
カデンツがコードネームを使って表せ、簡単な伴奏付ができる。移調理論を理解し、簡単な移調ができる。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

- ・ここは、基礎技能（音楽A）の応用編になりますので、学習の進め方は基本的に（音楽A）と同じです。（音楽A）はスクーリングなので、実施に歌う、弾く、弾き歌を行います。が、（音楽B）はその理論的理解となっています。（音楽A）と（音楽B）は、車の両輪の関係にあり、両方が揃って一つの学力となります。
- ・フィードバックは、テキスト科目なので、文書で行います。具体的には、必要に応じて質問を受け、適切に学習が進むように助言をします。そして、提出された解答を採点して、理解の進捗、偏り、誤解などについて、科目の目的に沿った理解ができているかを簡潔に提示します。また、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

第1章 歌唱

第1部 声楽

この部のポイント：声とは何か。声の発達を知り、声から歌唱表現の方法を取得する。

大人は、話し声や歌を聴いた時、「話している、歌っている」と認識することができます。それは、声や歌に対する概念が形成されているからです。しかし、一度も聴いたことがない音に対しては、「あれ、なんだろう」とその音源をイメージすることができません。人は、命を授かって以来、多くの初めて聞く音に接し、音に対するイメージを蓄積していきます。

乳幼児期は、色々な音に対する初めての出会いを最も多く持つ時期といえます。ここでは、音の中でも最も身近な「声」について考え、そして「歌う」ということへと発展し、さらに歌う「表現」について考察していきます。

第2部 ソルフェージュ

この部のポイント：既存の曲を窓口に、音符の種類、音程・リズム等を系統的に学び視唱力をつけること。

ソルフェージュとは、音楽の基礎技能である音程やリズムの読譜、視唱練習を意味するフランス語で、語学における読み書きのようなものです。この能力は、音感を養うために必要不可欠なものです。ここでは、代表的な課題を10項目取り上げ、それらをステップ学修の形で示しています。各ステップは、練習1～3で構成され、練習1ではよく知られた既存の曲で課題を消化し、練習2では練習1をベースに作られた曲で練習し、練習3で新曲に取り組み、ここでの課題を達成するという構成をとっています。

第3部 2部合唱の作り方

この部のポイント：長音階を基にして、3度または6度の音程を使ってハーモニーを作る。

いろいろな曲を合唱できると、歌うことがとても楽しくなります。自分の好きな曲を自分で合唱編曲できたら、どんなに素敵でしょう。ここでは、簡単なマニュアルを使った2部合唱編曲法を紹介します。

第4部 いろいろな歌

この部のポイント：前半は合唱に取り組みソルフェージュ力を高め、後半では歌を通して一年間の保育の流れを掴む。

ここは、保育者養成のための歌唱教材の楽譜集です。前半は、「見上げてごらん夜の星を」「さんぽ」など学修者が歌う楽しさ、合唱の楽しさを体験するための曲を取り上げています。後半は、入園から卒園まで保育現場の1年間の季節・行事の流れに沿って、「きょうからお友だち」「思い出のアルバム」などの子どもの歌を取り上げています。収録曲は、見上げてごらん夜の星を（永六輔作詞・いずみたく作曲）他26曲。

第2章 器楽

この章のポイント：コードネームを使って、弾き歌いや動きの音楽の基礎力を習得する。

子どもの歌は、「わらべうた」のように無伴奏で歌われるのが本来の姿でしょう。しかし、現代では、ほとんどの子どもの歌に魅力的な伴奏が付けられています。そして、歌いながら自分で伴奏する「弾き歌い」はとても難しい演奏活動です。そして、保育者には、この「弾き歌い」の能力が求められています。

ここでは、コードネームを用いた簡単な伴奏で弾き歌いの方法について、ステップを踏んで学びます。また、保育の色々な場面で展開できるように、動きを伴う曲（歩く、走る、スキップ、ころがる、まわる等）についても学びます。

第3章 表現

この章のポイント：違う音を聴きながら自分の音を歌う合唱は、高いソルフェージュ力を必要とし、また歌った後の達成感も高い。身近な曲を2部合唱に編曲する方法を学ぶ。

ここでは、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることを実践できる力を養成すること」を目標に、生活の中から表現のヒントを見つけ、それらを窓口にして表現活動に取り組みめるような指導法を試みています。そして、それらの活動を通して、わらべうたへ、さらに音楽作品へと表現活動が広がるように配慮しています。

第4章 楽典

この章のポイント：音楽を視覚的にあらわした楽譜の読譜力を高める基礎となる、楽典（楽譜のきまり事）の基本を学ぶ。

文字は、音を視覚的に表したものです。私たちは、一定の規則に従って仮名や漢字を組み合わせ、句や文を作ります。一定の規則は文法と呼ばれます。音楽の場合もこれとよく似ています。音楽の場合、音楽を構成している音を、一定の規則に従って視覚的に表します。これを楽譜といいます。また、一定の規則を楽典といいます。

ここでは、まずブルグミュラー25の練習曲の第14番《スティリアの女》の初めの6小節を例に、楽典の基本的な20事項を把握し、その後それらを窓口に必要な事項をより詳しく学ぶよう工夫されています。

参考テキスト解説『幼児音楽教育ハンドブック』

本書は、保育士、幼・小学校教員養成の音楽教育で、活用できるコンパクトな音楽事典として作られたもの。従って、内容は音楽に関する項目（日本音楽から西洋音楽までの基礎知識、音楽理論、楽典、楽器、演奏法など）に加えて、幼児および音楽教育に関する事項（「表現」などの指導法、教育法、遊び、心理、歴史）を取り上げている。自己学修で、よくわからない用語に出くわした場合などに役立つ一冊です。

基礎技能（図画工作）

専門教育科目／1単位／1年前期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年7月10日（土）9:30～16:40 2日目 令和3年7月11日（日）9:30～16:40	該 当 時間割	A
	〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年7月2日（金）必着		
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス短大12号館（岡山県高梁市伊賀町8）		

■ 担当教員	佐藤 尚宏
■ 使用テキスト	新テキスト：保育をひらく造形表現 著 者：槇 英子 出 版 社：萌文書林 出 版 年：2018年 I S B N：978-4-89347-295-3
■ 参考テキスト	スクーリング時に紹介

講義概要・一般目標

主に幼児期から小学校低学年を想定し、保育の内容と造形表現の意味・意義を理解し、子どもの生活と遊びを豊かにするために必要な造形言語と造形表現の知識や技術を実践的に習得する。また、保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。

子どもの造形活動を援助・指導するために必要な基礎的な力として、以下の3点がある。

- 1) 子どもにとっての造形表現の意味・意義を深く実感する共感力
- 2) 保育者自身の基本的な造形言語と技能の力
- 3) 技法・素材・活動の特質や意義を理解した上で活動計画に十分配慮する計画力

この授業では演習による課題製作を通して、子どもの造形活動を援助・指導するために必要な基礎的な以下の3つの力のうち、特に1) 2) を養うことをめざす。

到達目標

主に幼児期から小学校低学年を想定し、子どもの気持ちや育ちに共感できる姿勢や技能を習得する。

「1) 子どもにとっての造形表現の意味・意義を深く実感する共感力」については、子どもが造形表現活動を通してどのような喜びや面白さを感じるのかを具体的な課題製作を通して体験的に実感し、造形表現の意味・意義や表現を育む人としての姿勢を身につけることを目標とする。

「2) 保育者自身の基本的な造形言語と技能の力」については、手の働きと製作の関係、造形言語（色やかたち）の基本訓練、様々な技法・材料・道具の使い方について、課題製作を通して体験的に学び習得することを目標とする。

さらに子どもたちと楽しむ教材づくりを通して、総合的な構想力の習得を目指す。

評価方法

課題作品（素材特性の理解と活用，技術と技能，作品の完成度など）レポートなど 70%
取組姿勢（課題を楽しむ姿勢や積極性、準備と片付け、） 30%

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

美術系進学予備校での15年間にわたる指導経験を生かし、幅広く専門性の高い造形分野の課題から子どもの教育に必要な課題を選び出し体験的に学修できるカリキュラム構成を行っている。また、幼稚園・保育園・こども園での美術指導や、シュタイナー土曜クラスにおける17年にわたり小学生の美術指導の経験を生かし、子どもの発達段階に照らした課題や、子どもへの見守り方やかわり方についても配慮した指導を行っている。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

学修を深めたい人は、6章「保育をひらく造形カタログ」も事前に目を通し、わからない事や質問などを用意してスクーリング時に質問して下さい。(任意)

〔スクーリング終了後の学修事項〕

スクーリングで学修した造形表現活動の内容から、その特徴とそれらが子どもたちにどのような育ちを促すか、さらにどのような援助・指導が可能であるかについて身につけるためには、日頃からいろいろな機会を活かして子どもの姿〈言動〉や制作物を通して表面的な行為の奥の情動や背景を推し量る努力と経験を積み重ねましょう。

〔フィードバック〕

作品鑑賞時にフィードバックを行います。

★図画工作・造形表現活動の科目の全体像と各科目間の関係★

基礎技能 (図画工作) S

主に幼児期から小学校低学年を想定。全ての科目の基盤となる内容。

保育者・教員として必要な子どもの造形表現活動への理解・共感する心や姿勢など、最も基本的な本質と子どもにとっての意味・意義を体感的に学修する。

基礎技能Ⅱ (図画工作) S

主に幼児期から小学校全般を想定。模擬保育・模擬授業に関係する内容。

理解・共感する心や姿勢を基にし、保育者・教員としてどのように授業づくりをすればいいのかについて、教材研究の要点や、表現の基本技能について学修する。

子どもの図画工作 T

テキストは幼児教育だが、小学校全般に通用する。全ての科目の基盤となる内容。

造形表現活動の意義、表現を育む姿勢、造形を楽しむ題材、子どもの発達段階などについて、理論的側面や様々な事例から学修する。

保育指導法 (表現) T

テキストは幼児教育だが、小学校全般に通用する。模擬保育・模擬授業の基盤となる内容。

実際の指導を考えるにあたっての役割や指導形態、援助について学修する。これらの内容は小学校においても図画工作科に関しては基盤となる内容であるにもかかわらず、小学校向けの学修では見落とされがちな重要な内容を取り扱っている。

保育内容指導 (表現) / 保育内容 (表現) S、2日目

幼児期～小学校低学年を想定。グループ制作による授業づくりの演習。

子ども参加の空間デザインをテーマに壁面づくりの模擬保育 (模擬授業) を行う。

初等教科教育法 (図画工作)

学習指導要領と実際の授業づくりの要点について学修する。

また授業づくりでは基礎技能Ⅱ (図画工作) での教材研究の学修をベースに、各自に実際に取り組んでもらい授業のアイデアについて考察する。

子ども発達教育演習Ⅰ・Ⅱ

それまでの学修を総合し、造形表現活動をどのように実践するのかについて、自らの興味・関心からテーマをしばり、「文献調査」「実践報告」「教材製作」の3種類の研究方法で研究を進める予定。

学修指導

1 日 目	1 造形表現の本質①触覚と痕跡－粘土あそび（土粘土） ●実技「泥の感触を楽しみ、痕跡をのこす－粘土あそび」
	2 造形表現の本質②触覚と色彩－絵の具あそび（ゆび絵の具） ●実技「色彩の変化を感じて思いのまま描く－フィンガーペインティング」
	3 造形表現の本質③動きの痕跡と色彩－線描あそび（クレヨン、ブロッククレヨン） ●実技「気持ちのままに動く－クレヨンのお散歩」
	4 造形表現の本質④空間と構造－構成あそび（積木、砂、型、その他） ●実技「立体・空間－思いのままにつくって壊す」
2 日 目	5 造形表現の本質⑤（色彩と感情） ●実技「ぬらし絵－色彩にひたり感情を働かせる」
	6 保育者・教師として－技能と造形言語①手（指・手のひら）の働き ●実技「形で表す－粘土のメタモルフォーゼ」
	7 保育者・教師として－技能と造形言語③紙の加工と形態 ●実技「様々な加工と昆虫づくり」
	8 保育者・教師として－技能と造形言語④紙の加工と形態 ●実技「動物づくり」

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

●レポート課題

テキスト2章 表現を育む人になる を通読し、p15の内容を要約して持参すること。

〔準備するもの〕

汚れの気にならない服装、もしくは作業用エプロンなどを用意すること。

〔その他〕

準備室にポットがありお湯が使えます。電子レンジも使えます。

基礎技能（小児体育）

専門教育科目／1 単位／1 年後期開講／テキスト授業

■ 担当教員	中尾 道子
■ 使用テキスト	テキスト：保育と幼児期の運動あそび（第2版） 著者：岩崎洋子編 出版社：萌文書林 出版年：2018年 ISBN：978-4-89347-274-8
■ 参考テキスト	テキスト：小学校学習指導要領解説 体育編 著者：文部科学省 出版社：東洋館出版社 テキスト：幼稚園教育要領 平成29年告示 著者：文部科学省 出版社：東山書房

講義概要・一般目標

児童の体力・運動能力は総じて低下の傾向を示しているといわれている。こうした現状の原因として、幼児期・児童期における運動遊びの減少が指摘されている。そこで、体力・運動能力の基礎を培う幼児期・児童期の運動の質的向上をテーマとし、子どもの発達段階に即した運動遊びを理解することを目的とし、多くの運動遊びをテキストを通じて学び、その実施法と指導のポイントを学修する。

到達目標

到達目標としては、幼児期・児童期の発達の特性を踏まえた運動指導ができるようになることを目標とする。また、安全に実施できるための配慮や応急手当等の知識の獲得や、指導計画の立案ができるようになることも目標とする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します

学修の進め方

本講義は、幼児期・児童期の運動及び発達に関する理論を学習することを目的としており、基本的にはテキスト及び小学校学習指導要領体育編を中心に学習を進めればその内容を理解することができるよう添削課題を作成している。適宜質問等があればweb学修支援システムにて質問を募集している。また、フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

PART1

第1章 運動はなぜ幼児に大切（必要）か

なぜ幼児期に運動が必要なのかを、運動能力低下という現代的な問題や、健康的な視点と運動能力検査の結果から解析し、現代の子どもが抱えている課題に関して運動することにより、身体、動き、心、社会性、知的な発達にどのように関わっているかを学ぶ。

第2章 遊びと運動

幼児の運動とは、生活そのものであることを知った上で、生活そのものの運動と遊びの中の運動に分けて学ぶ。

第3章 運動指導のポイント

幼児を対象とした運動指導のポイントとして、運動内容および、方法を知り、運動の量と室、安全、援助等に関する視点から具体的に学ぶ。

第4章 運動にかかわる現代的課題

幼児の運動指導において現代社会の課題となっていることを学ぶ。

PART2

これまでの幼児の対象とした運動あそびを＜運動編＞として、運動指導においては扱われていないが、生活における運動を促進させるあそびを＜その他＞としてカテゴリー分けして学び、各年齢に適した運動指導計画の立案に資する遊びの内容を学ぶ。

基礎技能Ⅱ（音楽）

専門教育科目／1単位／2年後期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年11月27日（土）9:30～16:40 2日目 令和3年11月28日（日）9:30～16:40 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年11月19日（金）必着	該 当 時 間 割	A
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10号館（岡山県高梁市伊賀町8）		

■ 担当教員	上田 豊
■ 使用テキスト	テキスト：歌う，弾く，表現する保育者になろう 保育士・幼稚園教諭養成テキスト 著 者：全国大学音楽教育学会中四国地区学会 著 出 版 社：音楽之友社 出 版 年：2006年 I S B N：9784276312746
■ 参考テキスト	テキスト：三訂版 小学校音楽科の学習指導—生成の原理による授業デザイン— 著 者：小島律子（監修） 出 版 社：廣済堂あかつき 出 版 年：2018年5月9日 第1刷 I S B N：978-4-908255-74-8 （初版発行のため、書店での購入を推薦します）

講義概要・一般目標

既成曲の演奏だけでなく、コードネームによる伴奏や、子どもの声域に合わせるために必要な移調奏を学ぶ。その発展応用としてさまざまな音楽活動における音楽の使い方なども含む。音楽を介して様々な子どもに対応できるように、即興的な伴奏の仕方や合奏のアレンジの実践例を検討する。このように楽譜だけにとらわれない幅広い音楽活動を展開できる力を身に付け、子どもの自由な音楽表現を認められる保育士・教員としての力量を育てていきたい。

到達目標

音楽A・Bで修得した音楽の基礎技能・知識とコードネームによるカデンツの演奏力を高め、簡単な即興演奏や色々な子どもの歌の伴奏付ができる。また、簡単な器楽合奏のアレンジ、ミニオペレッタの創作ができる。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

学修の進め方

スクーリング科目の学修内容は、各スクーリングに先立って配付する『スクーリングのしおり』によってお知らせします。テキストの指定がある科目については、テキストを通読するなどして事前学修を進め、科目に対する理解を深めておいてください。

音楽関係科目は、次の通り配置されています。

- 1年次 前期 子どもの音楽
- 後期 基礎技能（音楽A）

- 2 年次 前期 基礎技能（音楽 B）
後期 基礎技能 II
- 3 年次 前期 子ども発達教育演習 I
後期 初等科教育法（音楽）
子ども発達教育演習 II

上記科目は、音楽そのものの理解と音楽教育にかかるものの二つに分類出来ます。前者は、音楽の知識技能の習得のためのもの、後者は音楽教育の実践に必要なものです。前者には、基礎技能（音楽 A・B）、基礎技能 II が、後者には残りの四科目が該当します。

講義概要と到達目標を読むと分かりますが、音楽は、専門性の高い科目なので、音楽の学習に当たっては、まず専門用語の理解と音楽表現のための技能の習得が前提となります。それらの最も基礎的な学びは基礎技能（音楽 A）です。それが前提となって、基礎技能（音楽 B）、基礎技能 II の学びが可能となります。

それらを踏まえて、音楽教育系科目である、子どもの音楽、初等教科教育法（音楽）の学びへと進むことが望ましいと言えます。そして、最後に最も専門性の高い子ども発達教育演習へと学びを進めてください。

学 修 指 導

スクーリングでは、伴奏付けを中心に学習しますので、テキスト『歌う、弾く、表現する保育者になろう』の 117 頁の英語音名の知識、123 頁（4）和音の習得、そしてカデンツ（終止形）を暗譜で弾けること、そして、それらが和音記号（I、IV、V）とコードネームで理解できていることが欠かせません。以上を学んでから、第 2 章器楽へ進み、旋律へのピアノによる伴奏付けを練習してください。

〔スクーリング事前学修について〕

スクーリングでは、基礎技能（音楽 A）の応用編として、コードネームによる伴奏法（ハ長調及びシャープ・フラット各三つの調）、移調法、即興演奏などの音楽技能の習得を目指す。そのための準備として、以下の項目について事前学修を進めておくこと。

- ・テキスト p. 123（4）和音を読んで、種類、転回形、カデンツ、コードネーム法を理解しておくこと。
- ・同 p. 140 両手のカデンツの C-F-G-G7-C、F-B \flat -C-C7-F、G-C-D-D7-G の三つを弾けるようにしておくこと。

左手だけでもよい。

- ・同 pp. 69～77 はじめてのピアノ及び弾き歌いにチャレンジを練習しておくこと。
- ・『三訂版 小学校音楽科の学習指導—生成の原理による授業デザイナー—』これは参考テキストですが、予習しておくことを薦めます。特に唱歌は、各学年 4 曲、合計 24 曲の歌詞を覚えておくことを薦めます。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

伴奏の二つの形、旋律個々の音に和音をつけるものと旋律のまとまりに和音をつけるものを理解し、習得した伴奏形、和音選択を繰り返し復習すること。そして、カデンツは確実に暗譜で弾けるようにしてください。伴奏は、即興的にできることが、真の応用力となります。

〔テキストの概要と学修のポイント〕

テキスト『歌う、弾く、表現する保育者になろう』

第 1 章 第 1 部声楽 ⑦あなたらしさを表現する歌のワンポイントレッスン 1・2

第 2 部ソルフェージュ

第 4 部いろいろな歌

第 2 章 器楽 ①はじめてのピアノ、②弾き歌いにチャレンジ、③両手伴奏にチャレンジ

第 4 章 楽典 資料の両手のカデンツ（P140）。特に楽典の音階と調性、形式及び 7 つの調のカデンツ

第 1 章 歌唱

第 1 部 声楽

この部のポイント：声とは何か。声の発達を知り、声から歌唱表現の方法を取得する。

大人は、話し声や歌を聴いた時、「話している、歌っている」と認識することができます。それは、声や歌に対する概念が形成されているからです。しかし、一度も聴いたことがない音に対しては、「あれ、なんだろう」とその音源をイメージすることができません。人は、命を授かって以来、多くの初めて聞く音に接し、音に対するイメージを蓄積していきます。

乳幼児期は、色々な音に対する初めての出会いを最も多く持つ時期といえます。ここでは、音の中でも最も身近な「声」について考え、そして「歌う」ということへと発展し、さらに歌う「表現」について考察していきます。

第2部 ソルフェージュ

この部のポイント：既存の曲を窓口に、音符の種類、音程・リズム等を系統的に学び視唱力をつけること。

ソルフェージュとは、音楽の基礎技能である音程やリズムの読譜、視唱練習を意味するフランス語で、語学における読み書きのようなものです。この能力は、音感を養うために必要不可欠なものです。ここでは、代表的な課題を10項目取り上げ、それらをステップ学修の形で示しています。各ステップは、練習1～3で構成され、練習1ではよく知られた既存の曲で課題を消化し、練習2では練習1をベースに作られた曲で練習し、練習3で新曲に取り組み、ここでの課題を達成するという構成をとっています。

第4部 いろいろな歌

この部のポイント：既存の曲を窓口に、音符の種類、音程・リズム等を系統的に学び視唱力をつける。

ここは、保育者養成のための歌唱教材の楽譜集です。前半は、「見上げてごらん夜の星を」「さんぽ」など学修者が歌う楽しさ、合唱の楽しさを体験するための曲を取り上げています。後半は、入園から卒園まで保育現場の1年間の季節・行事の流れに沿って、「きょうからお友だち」「思い出のアルバム」などの子どもの歌を取り上げています。

第2章 器楽

この章のポイント：コードネームを使って、弾き歌いや動きの音楽の基礎力を習得する。

子どもの歌は、「わらべうた」のように無伴奏で歌われるのが本来の姿でしょう。しかし、現代では、ほとんどの子どもの歌に魅力的な伴奏が付けられています。そして、歌いながら自分で伴奏をする「弾き歌い」はとても難しい演奏活動です。そして、保育者には、この「弾き歌い」の能力が求められています。

ここでは、コードネームを用いた簡単な伴奏による弾き歌いの方法について、ステップを踏んで学んでいきます。また、保育の色々な場面で展開できるように、動きを伴う曲（歩く、走る、スキップ、ころがる、まわる等）についても学びます。

第4章 楽典

この章のポイント：音楽を視覚的にあらわした楽譜の読譜力を高める基礎となる、楽典（楽譜のきまり事）の基本を学ぶ。

文字は、音を視覚的に表したものです。私たちは、一定の規則に従って仮名や漢字を組み合わせ、句や文を作ります。一定の規則は文法と呼ばれます。音楽の場合もこれとよく似ています。音楽の場合、音楽を構成している音を、一定の規則に従って視覚的に表します。これを楽譜といいますが、また、一定の規則を楽典といいますが。

ここでは、まずブルグミュラー25の練習曲の第14番《スティリアの女》の初めの6小節を例に、楽典の基本的な20事項を把握し、その後それらを窓口に必要な事項をより詳しく学ぶよう工夫されています。

参考テキスト解説『三訂版 小学校音楽科の学習指導—生成の原理による授業デザイン—』

第4章 歌唱共通教材の研究

ここでは、歌唱教材と鑑賞教材を紹介している。歌唱教材では、学校における音楽教育の中心をなす小学校「唱歌」共通教材を提示している。伴奏は、比較的簡単な楽譜が紹介されている。小学校「唱歌」共通教材は、各学年4曲、合計24曲である。

参考テキスト解説『幼児音楽教育ハンドブック』

本書は、保育士、幼・小学校教員養成の音楽教育で、活用できるコンパクトな音楽事典として作られたもの。従って、内容は音楽に関する項目（日本音楽から西洋音楽までの基礎知識、音楽理論、

楽典、楽器、演奏法など)に加えて、幼児および音楽教育に関する事項(「表現」などの指導法、教育法、遊び、心理、歴史)を取り上げている。自己学修で、よくわからない用語に出くわした場合などに役立つ一冊である。

〔フィードバック〕

スクーリング科目なので、フィードバックは、主にスクーリング時に口頭で行います。内容は、伴奏法に必要な和声法とコードネームの理解、伴奏の役割などについて、必要に応じて理解度調査を実施し、その結果の分析を基に、受講生が自己の学習状況を把握して、学習に取り組めるようにすることを念頭に行います。

学 修 指 導

1 日 目	講義1 コードネームによる八長調、ト長調、ハ長調のカデンツを鍵盤で弾く。
	講義2 いろいろな曲の伴奏分析。
	講義3 一つの旋律に複数の伴奏をつける。
	講義4 移調奏。スリーコードの簡単な曲を移調する。
2 日 目	講義5 即興伴奏法。始めて見た旋律にコードネームを使って伴奏付けをする。
	講義6 簡単な編曲。既存の曲に、簡易打楽器を入れる。
	講義7 お話に、既存の曲を使った音楽劇の創作。
	講義8 まとめ。即興伴奏の練習。 科目単位認定試験 新曲旋律に伴奏をつけて演奏する。筆記。

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

- ・テキストp.123 (4) 和音を読んで、種類、転回形、カデンツ、コードネーム法を理解しておくこと。その後、「基礎知識・技能理解度」に取り組んで、分からないところがあれば、再度上記を読みながら、理解を深めてください。
- ・同 p.140 両手のカデンツのC-F-G-G7-C、F-B \flat -C-C7-F、G-C-D-D7-Gの三つを弾けるようにしておくこと。左手だけでもよい。
- ・同 pp.69~77 はじめてのピアノ及び引き歌いにチャレンジを練習しておくこと。

〔準備するもの〕

- ・テキスト『歌う、弾く、表現する保育者になろう』
- ・音楽用5線のノート(B5版 12段のものが廉価で使いやすい)

3. その他

基礎技能Ⅱ(音楽)のスクーリングでは、テキスト科目に関する内容にも触れたいと考えています。自己学習が能率良く進むように、音楽の基礎知識・技能、その他音楽全般に関する質問事項を用意してきて欲しいと考えています。

基礎技能Ⅱ（図画工作）

専門教育科目／1単位／1年後期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年10月2日（土）9:30～16:40 2日目 令和3年10月3日（日）9:30～16:40	該 当 時 間 割	A
	〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年9月24日（金）必着		
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 12号館（岡山県高梁市伊賀町8）		

■ 担当教員	佐藤 尚宏
■ 使用テキスト	新テキスト：保育をひらく造形表現 著 者：槇 英子 出 版 社：萌文書林 出 版 年：2018年 I S B N：978-4-89347-295-3
■ 参考テキスト	スクーリング時に紹介

講義概要・一般目標

主に幼児期から小学生を想定し、特に授業づくりのための教材研究と表現技能を実践的に習得する。

子どもの造形活動を援助・指導するために必要な基礎的な力として、以下の3点がある。

- 1) 子どもにとっての造形表現の意味・意義を深く実感する共感力
- 2) 保育者自身の基本的な造形言語と技能の力
- 3) 技法・素材・活動の特質や意義を理解した上で活動計画に十分配慮する計画力

この授業では演習による課題製作を通して、これらの基礎的な力の中でも特に2) 3) を養うことをめざす。

到達目標

主に幼児期から小学生を想定し、授業づくりに必要な技能を習得する。

「2) 保育者自身の基本的な造形言語の理解と技法・技能を習熟すること」については、造形言語（色やかたち）の基本や、描画の指導ポイントなどを体験的に学び習得することを目標とする。

「3) 技法・素材・活動の特質や意義を理解した上で活動計画に十分配慮すること」については、技法の特徴によって子どもたちの体験の質がどう変わるのか？について具体的な課題製作から体験的に実感し、その体験をより豊かにするための授業づくりにどのような工夫ができるのかについて考える方法を習得する。

評価方法

課題作品（素材特性の理解と活用，技術と技能，作品の完成度など）70%

取組姿勢（課題を楽しむ姿勢や積極性、準備と片付け）レポートなど30%

オフィスアワー（学生の問い合わせ・相談に応じる時間）

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

美術系進学予備校での15年間にわたる指導経験を生かし、幅広く専門性の高い造形分野の課題から子どもの教育に必要な課題を選び出し体験的に学修できるカリキュラム構成を行っている。また、幼稚園・保育園・こども園での美術指導や、シュタイナー土曜クラスにおける17年にわたり小学生の美術指導の経験を生かし、子どもの発達段階に照らした課題や、子どもへの見守り方やかわり方についても配慮した指導を行っている。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

特になし

〔スクーリング終了後の学修事項〕

スクーリングで学修した造形表現活動の内容から、その特徴とそれらが子どもたちにどのような育ちを促すか、さらにどのような援助・指導が可能であるかについて身につけるためには、日頃からいろいろな機会を活かして子どもの姿〈言動〉や制作物を通して表面的な行為の奥の情動や背景を推し量る努力と経験を積み重ねましょう。

またクロッキーなどで培う描写力は一朝一夕には身につけません。スクーリング内容をきっかけに、日々の実践を積み重ねましょう。

〔フィードバック〕

スクーリングでは鑑賞や合評の時間を設け、作品に対するフィードバックを行いません。

★図画工作・造形表現活動の科目の全体像と各科目間の関係★

基礎技能（図画工作）S

主に幼児期から小学校低学年を想定。全ての科目の基盤となる内容。

保育者・教員として必要な子どもの造形表現活動への理解・共感する心や姿勢など、最も基本的な本質と子どもにとっての意味・意義を体感的に学修する。

基礎技能Ⅱ（図画工作）S

主に幼児期から小学校全般を想定。模擬保育・模擬授業に関係する内容。

理解・共感する心や姿勢を基にし、保育者・教員としてどのように授業づくりをすればいいのかについて、教材研究の要点や、表現の基本技能について学修する。

子どもの図画工作 T

テキストは幼児教育だが、小学校全般に通用する。全ての科目の基盤となる内容。

造形表現活動の意義、表現を育む姿勢、造形を楽しむ題材、子どもの発達段階などについて、理論的側面や様々な事例から学修する。

保育指導法（表現）T

テキストは幼児教育だが、小学校全般に通用する。模擬保育・模擬授業の基盤となる内容。

実際の指導を考えるにあたっての役割や指導形態、援助について学修する。これらの内容は小学校においても図画工作科に関しては基盤となる内容であるにもかかわらず、小学校向けの学修では見落とされがちな重要な内容を取り扱っている。

保育内容指導（表現）／保育内容（表現）S、2日目

幼児期～小学校低学年を想定。グループ製作による授業づくりの演習。

子ども参加の空間デザインをテーマに壁面づくりの模擬保育（模擬授業）を行う。

初等教科教育法（図画工作）

学習指導要領と実際の授業づくりの要点について学修する。

また授業づくりでは基礎技能Ⅱ（図画工作）での教材研究の学修をベースに、各自に実際に取り組んでもらい授業のアイデアについて考察する。

子ども発達教育演習Ⅰ・Ⅱ

それまでの学修を総合し、造形表現活動をどのように実践するのかについて、自らの興味・関心からテーマをしぼり、「文献調査」「実践報告」「教材製作」の3種類の研究方法で研究を進める予定。

学修指導

実際の授業づくりでは「何をするか」よりも「どのようにするか」が重要です。特に図画工作の場合は教材研究を的確に行い「どのようにするか」について、題材の魅力を感じ取り、技術・技能のポイントを掴む必要があります。

1日目の教材研究は幼児から小学生を想定した代表的な技法を体験し指導のポイントを考えます。

1日目の造形言語では造形表現に必要な基礎的な技能を学修します。

2日目は小学校中～高学年を想定した造形表現について学修します。

1 日 目	1 教材研究① 「デカルコマニー」《絵の具、画用紙》
	2 教材研究② 「折り染」《カラーインク、和紙》
	3 教材研究③ 「スクラッチ」《クレパス・クレヨン、ケント紙》
	4 教材研究④ 「フロッタージュ」「ステンシル」《蜜蝋クレヨン、和紙》《版画絵の具》
2 日 目	5 造形言語① 「線描で表す」《面相筆、墨》
	6 造形言語② 「配置構成で表す〈春夏秋冬〉」《ドットシール、色紙、配色》
	7 造形言語③ 「混色の基本と水彩表現〈味覚〉」《絵の具、紙》
	8 描写の基礎 「人物クロッキー」《鉛筆、コピー用紙》

スクーリング事前課題・準備物等

[準備するもの]

- ・汚れても気にならない服装、もしくはエプロンや作業着
- ・筆記用具（画材・材料はこちらで用意しています。）
- ・必要な人はハンドケア用品。（頻繁に手を洗う可能性が大。）

保育実習指導 I A

専門教育科目 / 1 単位 / 3 年前期開講 / スクーリング授業

日 時	1 日目 令和 3 年 5 月 23 日 (日) 9:30~16:40 2 日目 令和 3 年 5 月 29 日 (土) 9:30~16:40 [スクーリング受講中止届の提出について] 令和 3 年 5 月 14 日 (金) 必着	該 当 時間割	A
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10 号館 (岡山県高梁市伊賀町 8)		
日 時	[保育実習事後指導スクーリング] 令和 4 年 1 月 30 日 (日) 13:00~14:30	該 当 時間割	
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス (岡山県岡山市北区岩田町 2-5)		

■ 担当教員	秀 真一郎 / 藤井 伊津子		
■ 使用テキスト	テキスト：保育所実習の手引 / 保育実習日誌 著 者：岡山県保育士養成協議会 保育実習委員会 出 版 年：2021 年 ※「保育所実習の手引」「保育実習日誌」は 実習指導 I A のスクーリング時に配布します		
■ 参考テキスト	テキスト：『保育所保育指針』（平成 29 年告示） 著 者：厚生労働省 出 版 年：2017 年		
	テキスト：『保育者への扉』（第 2 版） 著 者：澤津まり子・木暮朋佳・芝崎美和・田中卓也 編 出 版 年：2016 年		

講義概要・一般目標

保育士養成課程において修得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うことを目的とする。そのためにも、保育所実習の意義・目的・内容についての理解を深め、各自の実習目的・課題を明確にする。そして、実習記録や指導案の書き方を学び、具体的な実習準備を行う。保育者としての職業倫理、特に個人のプライバシーの保護と守秘義務、子どもの人権の尊重について理解し、実習後は、実習総括・評価を行い、新たな学修目標を明確にする。

到達目標

1. 保育所実習の意義・目的について理解できている。
 2. 保育所実習の内容を理解し、自らの課題を明確に持つことができている。
 3. 保育所における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について保育者としての職業倫理が理解できている。
- 実習記録の方法が理解できており、指導案についての基本的な知識が習得できている。
 実習の事後指導を通して、保育所実習の I A の総括と自己評価ができ、新たな課題や自己目標を持つことができた。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web 学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

〔準備するもの〕

「保育実習マニュアル」、「保育所保育指針解説書」、『保育所実習の手引』
実習日誌添付用写真（横：3cm,縦：4cm）・2枚・白黒でもカラーでも可
（後日郵送等の提出でも可）

〔その他〕

「保育実習指導Ⅱ」では、お一人ずつ5歳児を対象にした製作活動の模擬保育を実施していただく予定です。テーマは、「水遊びに使うおもちゃを作ろう」です。今から準備しておいてください。

保育実習事後指導スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

「保育実習報告書」をパソコンで作成し、期限までに提出すること。

報告書の作成は「保育実習（保育所・施設）報告書の作成について」を参考にすること。実習はⅠA、ⅠB、Ⅱ、Ⅲの4種類があるので、一人3枚の報告書を作成することになる。たとえ同じ保育所でⅠAとⅡの実習を行った場合でも、2種類の報告書を作成することになる。

（1）様式設定

- ① 用紙のサイズは、A4、横書き。各報告書は1枚（1ページ）にする。
- ② 余白は、上下左右3cmで設定する。
- ③ 文字数・行数は、40字×40行で設定する。
- ④ 文字の大きさと字体は、タイトルと氏名：フォント14、MSゴシック、本文：フォント10.5、MS明朝で作成する。

（2）タイトルと氏名（MSゴシック、フォント14）

- ① 1行目タイトル（保育所名か施設名と保育実習の区分）
例「社会福祉法人〇〇会△△園での実習を終えて（保育実習Ⅲ）」
- ② 2行目をフォント10.5あける。
- ③ 3行目に学科名、学籍番号氏名を書く。

（3）本文（MS明朝、フォント10.5）

次の3つの項目について記述する。

（各項目における文字数の規定はしないが、バランスよくまとめる。）

1. 実習の内容と体験

具体的にどのような実習をおこない、どのような体験をしたか記述する。

2. 実習課題の達成度

事前に立てた課題（「実習にむけて」（実習計画書）に書いた実習課題）が達成できたかどうか。実習中に課題を変更したり新たな課題がでた場合、その理由や達成度はどうだったか記述する。

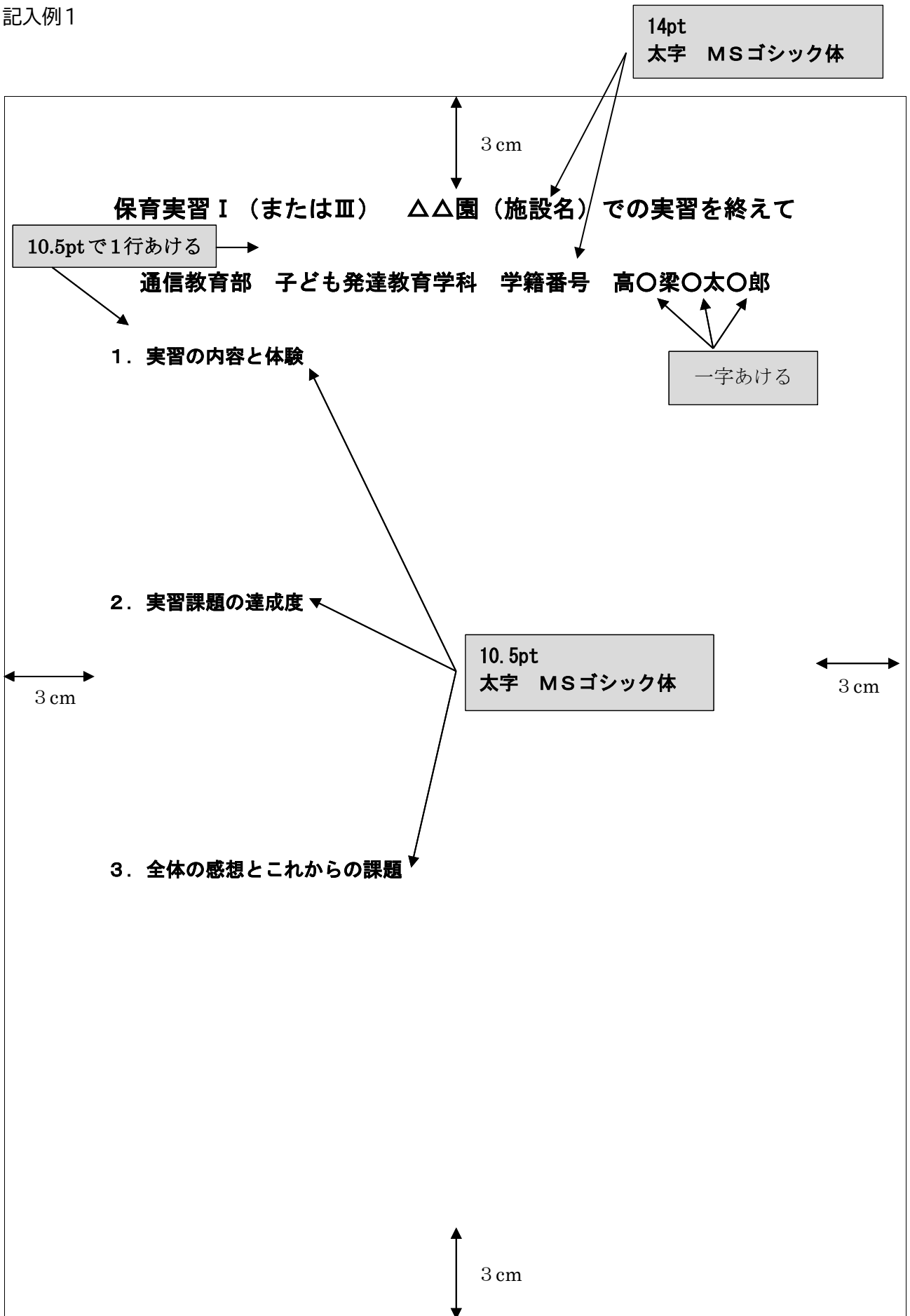
3. 全体の感想とこれからの課題

実習全体を通して何を感じ学んだか、これからの自己課題などについて記述する。

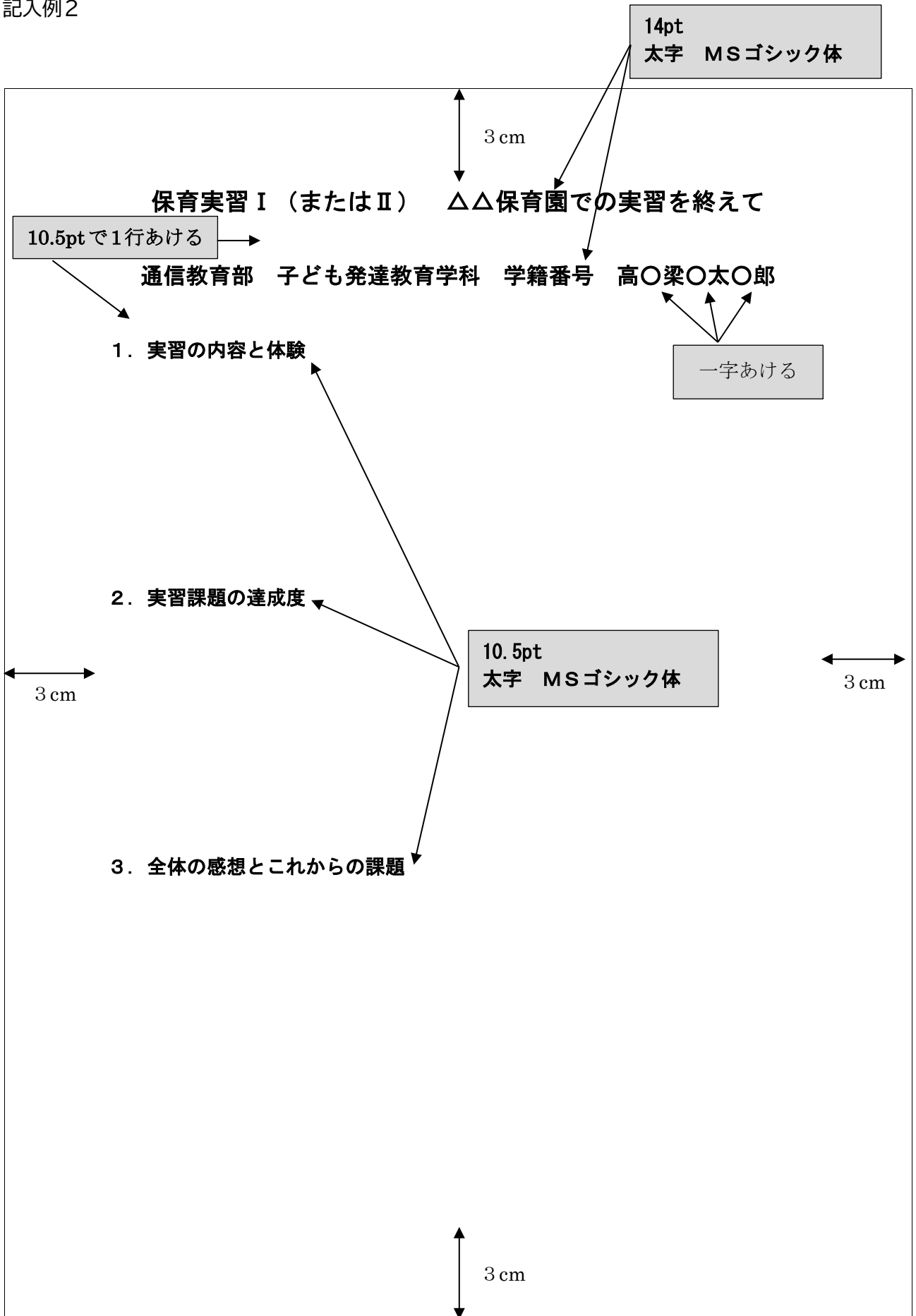
（4）実習はⅠA、ⅠB、Ⅱ、Ⅲの4種類あるので、一人3種類の報告書を作成することになる。同じ保育所や施設で実習した場合、2つに分けて報告書は作成する。たとえば、同じ保育所にⅠAとⅡとして実習した場合、ⅠAとⅡの2種類の実習報告書を作成することになる。施設の場合も同様で、ⅠBとⅢが同じ施設であっても、2種類の報告書を作成する。

（5）提出締切・提出先（スクーリング参加の有無にかかわらず、全員提出すること。）

・提出締切：令和4年1月25日（火）通信教育事務課必着



*本文は、MS 明朝、フォント 10.5 pt



*本文は、MS 明朝、フォント 10.5 pt

〔準備するもの〕

各実習の実習日誌等、実習のふりかえりに必要な資料。
筆記用具

〔その他〕

特になし

保育実習指導 I B

専門教育科目 / 1 単位 / 3 年後期開講 / スクーリング授業

日 時	1 日目 令和 3 年 9 月 25 日 (土) 9:30~16:40 2 日目 令和 3 年 9 月 26 日 (日) 9:30~16:40 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和 3 年 9 月 17 日 (金) 必着	該 当 時間割	A
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス (岡山県岡山市北区岩田町 2-5)		
日 時	[保育実習事後指導スクーリング] 令和 4 年 1 月 30 日 (日) 14:40~16:10	該 当 時間割	
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス (岡山県岡山市北区岩田町 2-5)		

■ 担当教員	中野 明子 / 藤井 伊津子		
■ 使用テキスト	テキスト：より深く理解できる 施設実習—施設種別の計画と記録の書き方— 著 者：松本 峰雄他 出 版 社：萌文書林 出 版 年：2020 年 I S B N：9784-89347-2212		
	テキスト：施設実習の手引 著 者：岡山県保育士養成協議会 出 版 年：2019 年 ※「施設実習の手引」はスクーリング授業時に配布します		
■ 参考テキスト	テキスト：「子どもが語る施設の暮らし」 著 者：子どもが語る施設の暮らし編集委員会編 出 版 社：明石書店 出 版 年：1999 年 I S B N：4-7503-1196-0		

講義概要・一般目標

福祉施設実習の意義や目的を理解する。さらに実習施設の種類や概要、各施設の役割や機能、養護内容などを学ぶ。またそれぞれの施設の現状についてもふれる。施設を利用する児童や大人がかかえる問題や障害について学び、利用者の背景にある問題（児童虐待や児童養護、障害児・者問題など）についても理解する。実際の実習において実習生が施設職員から学んでほしいこと（保育者の役割、職員の職種や役割など）や実習生が施設利用児・者の日常生活から学んでほしいこと（利用者の思いや心理状態や健康状態、家族との関係、人間関係など）についてもふれる。

到達目標

1. 保育実習 I B が対象とする福祉施設について理解し、その福祉施設で実習することの意義と目的が理解できている。
2. 保育実習 I B の実習内容が理解できており、自らの課題が明確になっている。
3. 実習先施設における利用児・者への理解が深まり、保育士としての職業倫理の重要性や職務内容が理解できている。
4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容が理解できている。
5. 実習後の指導を通して、実習の総括ができてり、自己課題が明確になっている。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web 学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

実習の手引き書やテキストを参考にして実習への準備をおこなうと共に、実習先の施設種別や個々の実習先について調べ、レポートを作成し（A4用紙3～5枚程度）、理解を深めること。

なお、スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対する、フィードバックを行ないます。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

非常に多くのことを学ぶので、学んだ内容を復習すること。また実習までの間に必要な知識は自分で調べておき、実習には万全な体制で臨むようにする。施設との連絡を行い、オリエンテーションや実習期間、必要な準備に怠りがないように気を付ける。

学修指導

1 日 目	1. 保育実習IBの目的と心構え・・・・・・・・・・・・・・・・・・（担当：中野）
	2. 実習施設の役割と機能・・・・・・・・・・・・・・・・・・（担当：中野）
	3. 施設利用児・者の理解と支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・（担当：中野）
	4. 実習計画書の作成・自己評価について・・・・・・・・・・・・・・・・・・（担当：中野）
2 日 目	5. 個別支援計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・（担当：中野）
	6. 障害理解と療育・・・・・・・・・・・・・・・・・・（担当：藤井）
	7. 実習記録の書き方・・・・・・・・・・・・・・・・・・（担当：藤井）
	8. 施設提出書類の作成と確認・・・・・・・・・・・・・・・・・・（担当：藤井）
	9. 実習の終了の仕方・・・・・・・・・・・・・・・・・・（担当：藤井）
	10. 実習に向けての最終確認・・・・・・・・・・・・・・・・・・（担当：藤井）
	11. 科目単位認定試験・・・・・・・・・・・・・・・・・・（担当：藤井）

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

レポートを作成し、スクーリング当日に持参して下さい。

授業ではその情報を元に、実習の目標設定や実習計画の立案を行います。

- 内容：①「実習先の施設種別について」（児童養護施設とは？児童発達支援センターとは？など）
②「個々の実習先について」（〇〇園について、など）

①②両方の内容を、テキストなどを参考にまとめて下さい。

様式：・A4用紙 縦置き 3～5枚

・横書き

・表紙をつけて、上記の①②のタイトル、学科、学籍番号、氏名を入れて下さい。

・できればパソコンで作成して下さい。

・参考資料やホームページも明記してください。

〔準備するもの〕

・作成したレポート・筆記用具

・「施設実習の手引」「施設実習日誌」『より深く理解できる 施設実習—施設種別の計画と記録の書き方—』萌文書林 2015年 を持参すること。

・証明書用写真（タテ4cm×ヨコ3cm）2枚

保育実習提出書類に貼付するものですので必ず持参すること（白黒でもカラーでも可）。

※2日目の藤井の担当時間に提出ください。当日までに提出済みの人は、不要です。

〔その他〕特になし。

保育実習事後指導スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

「保育実習報告書」をパソコンで作成し、期限までに提出すること。

報告書の作成は「保育実習（保育所・施設）報告書の作成について」を参考にすること。実習はⅠA、ⅠB、Ⅱ、Ⅲの4種類があるので、一人3枚の報告書を作成することになる。たとえ同じ保育所でⅠAとⅡの実習を行った場合でも、2種類の報告書を作成することになる。

（1）様式設定

- ① 用紙のサイズは、A4、横書き。各報告書は1枚（1ページ）にする。
- ② 余白は、上下左右3cmで設定する。
- ③ 文字数・行数は、40字×40行で設定する。
- ④ 文字の大きさと字体は、タイトルと氏名：フォント14、MSゴシック、本文：フォント10.5、MS明朝で作成する。

（2）タイトルと氏名（MSゴシック、フォント14）

- ① 1行目タイトル（保育所名か施設名と保育実習の区分）
例「社会福祉法人〇〇会△△園での実習を終えて（保育実習Ⅲ）」
- ② 2行目をフォント10.5あける。
- ③ 3行目に学科名、学籍番号氏名を書く。

（3）本文（MS明朝、フォント10.5）

次の3つの項目について記述する。

（各項目における文字数の規定はしないが、バランスよくまとめる。）

1. 実習の内容と体験

具体的にどのような実習をおこない、どのような体験をしたか記述する。

2. 実習課題の達成度

事前に立てた課題（「実習にむけて」（実習計画書）に書いた実習課題）が達成できたかどうか。実習中に課題を変更したり新たな課題がでた場合、その理由や達成度はどうだったか記述する。

3. 全体の感想とこれからの課題

実習全体を通して何を感じ学んだか、これからの自己課題などについて記述する。

（4）実習はⅠA、ⅠB、Ⅱ、Ⅲの4種類あるので、一人3種類の報告書を作成することになる。同じ保育所や施設で実習した場合、2つに分けて報告書は作成する。たとえば、同じ保育所にⅠAとⅡとして実習した場合、ⅠAとⅡの2種類の実習報告書を作成することになる。施設の場合も同様で、ⅠBとⅢが同じ施設であっても、2種類の報告書を作成する。

（5）提出締切・提出先（スクーリング参加の有無にかかわらず、全員提出すること。）

・提出締切：令和4年1月25日（火）通信教育事務課必着

〔準備するもの〕

各実習の実習日誌等、実習のふりかえりに必要な資料。

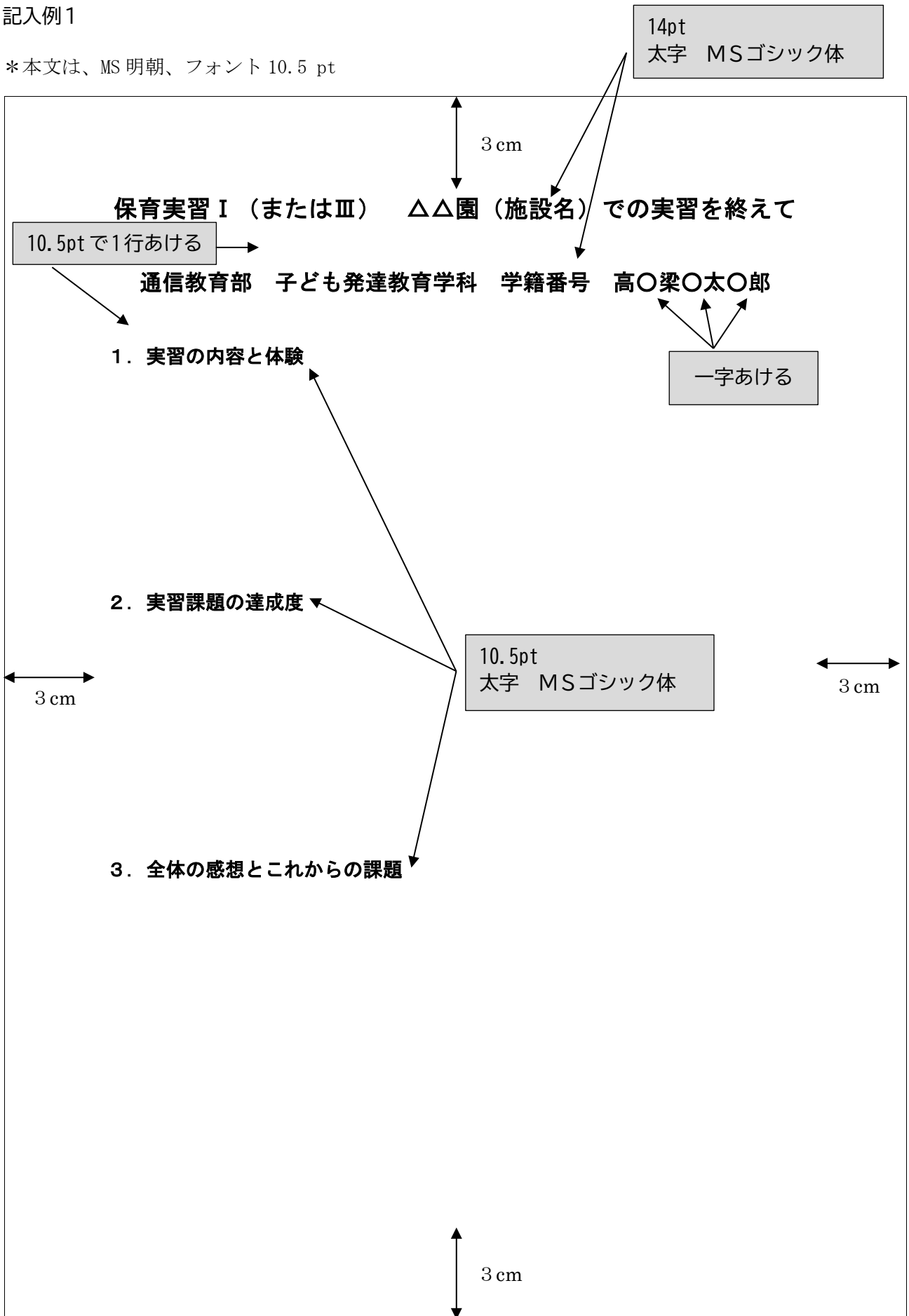
筆記用具

〔その他〕

特になし

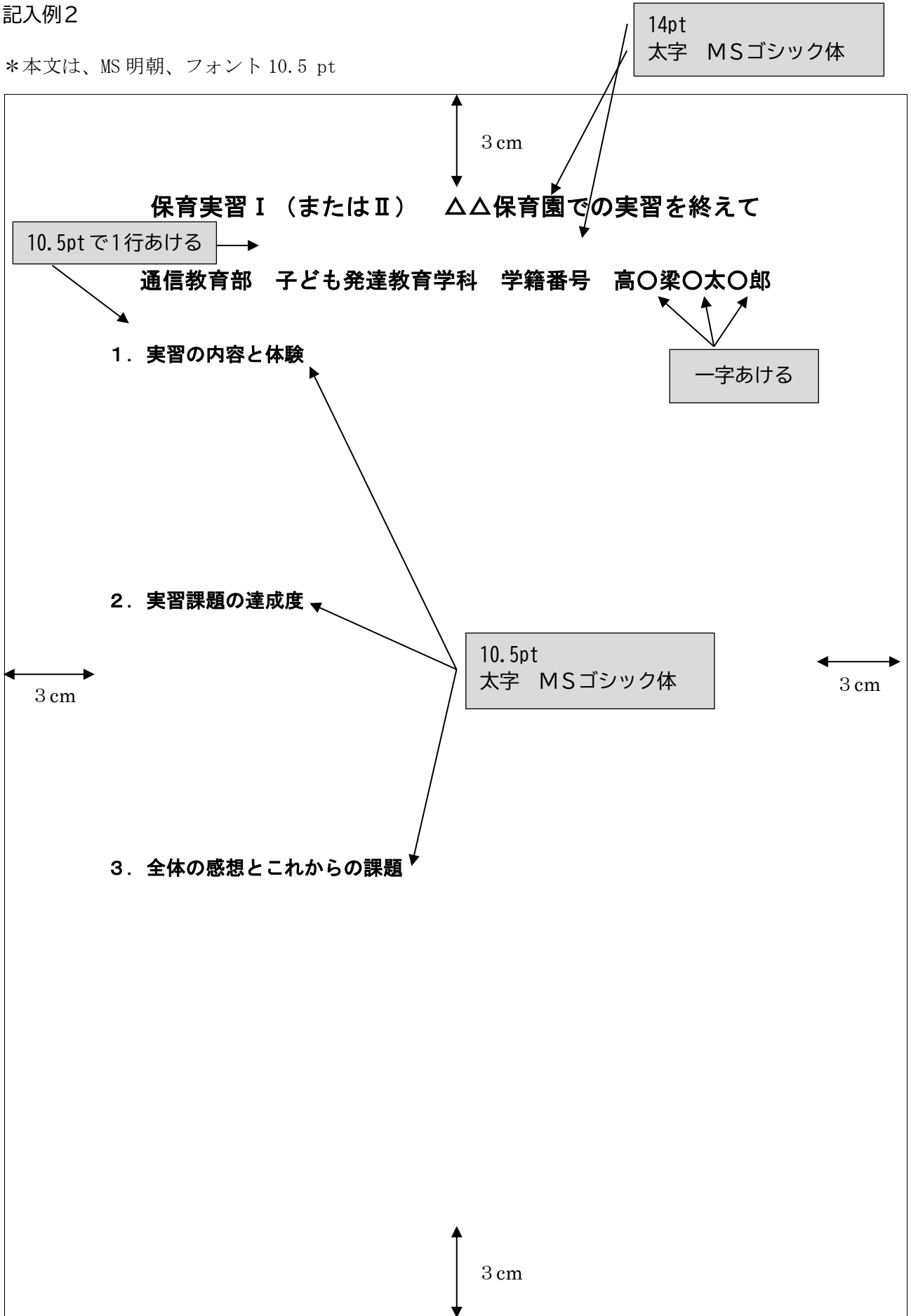
記入例1

*本文は、MS 明朝、フォント 10.5 pt



記入例2

*本文は、MS 明朝、フォント 10.5 pt



保育実習指導Ⅱ

専門教育科目／1単位／3年前期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年5月30日(日) 9:30～16:40 2日目 令和3年6月5日(土) 9:30～16:40 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年5月21日(金) 必着	該 当 時 間 割	A
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10号館(岡山県高梁市伊賀町8)		
日 時	[保育実習事後指導スクーリング] 令和4年1月30日(日) 13:00～14:30	該 当 時 間 割	
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス(岡山県岡山市北区岩田町2-5)		

■ 担当教員	秀 真一郎／藤井 伊津子		
■ 使用テキスト	テキスト：保育所実習の手引／保育実習日誌 著 者：岡山県保育士養成協議会 保育実習委員会 出 版 年：2021年 ※「保育所実習の手引」「保育実習日誌」は 実習指導ⅠAのスクーリング時に配布します		
■ 参考テキスト	テキスト：『保育所保育指針』（平成29年告示） 著 者：厚生労働省 出 版 年：2017年 テキスト：『保育者への扉』（第2版） 著 者：澤津まり子・木暮朋佳・芝崎美和・田中卓也 編 出 版 年：2016年		

講義概要・一般目標

保育所の保育内容の各領域とその全体を実践に照らして理解し、新保育所保育指針、「全体的な計画」のもと指導計画の体系と立案の方法などを実践に即して理解する。そのために、総合的に実践する応用能力を養い、子どもの集団を全体的にとらえる視点と、ひとりひとりの子どもの発達の方角付けを具体的に学修する。実際に自身が行う部分・全日などの指導実習の際に考慮しなければならない点や、子どもの発達成長に合った内容を立案する重要性について深く理解する。実習後においては、反省をもとにさらなる自己の課題追求を行う。

到達目標

1. 保育所の保育内容と各領域とのつながりが理解できている。
2. 保育実習Ⅱの実施にあたって、指導案を立案することができている。
3. 立案した指導案について実践の準備ができた。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解できた。
5. 実習の事後指導を通して、保育実習Ⅱの総括と自己評価を行い、自己課題を明確にすることができた。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

担当者2名共に保育所での勤務経験があり、その経験を活かし実習が充実したものになるよう実習先と連携しながら指導を行う。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

保育実習マニュアル、実習の手引き書を参考にして実習への準備をおこなうこと。また、実習先へ送付する書類を準備し学校に提出すること。

なお、スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対する、フィードバックを行いません。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

実習に向けて、実習日誌の記入や整理、実習計画、保育教材の作成、指導案の立案等行い実習に備えること。また、実習終了後は反省会に出席し実習の振り返りを行うと共に他の実習生と情報を共有し、今後の課題をつかむこと。

学修指導

1 日 目	講義1：保育実習Ⅱの内容と準備・実習の記録・・・・・・・・・・ 担当：秀・藤井
	講義2：保育における指導計画の作成・・・・・・・・・・ 担当：秀・藤井
	講義3：各自の指導計画の発表と評価・・・・・・・・・・ 担当：秀・藤井
	講義4：模擬保育に向けて・・・・・・・・・・ 担当：秀・藤井
2 日 目	講義5：模擬保育・・・・・・・・・・ 担当：秀・藤井
	講義6：模擬保育・・・・・・・・・・ 担当：秀・藤井
	講義7：模擬保育の診断・・・・・・・・・・ 担当：秀・藤井
	講義8：実習に向けての自己課題／科目単位認定試験・・・・・・・・ 担当：秀・藤井

※ なお、実習終了後に事後指導を行うので、出席すること。

事後指導においては、実習報告とディスカッション、自己評価等を通して、実習の総括と課題の明確化を図る。

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

①保育所実習日誌の記入できるところ（ファイル表紙、学内オリエンテーション、自己課題）を記入しておくこと。

※ファイルは、「保育実習指導ⅠA」スクーリング時にお配りします。

※自己課題は、手書きでもワープロでもよい。用紙はA4用紙、横書きのこと。

内容：1)実習Ⅱにおいて自分が学びたいと思うこと。

その課題を達成するための手立て。

2)1)の課題を達成するために、また、充実した実習になるために心がけたいこと。

②3歳未満児を対象に、自分の行く保育園をイメージしながら「絵本」と「手遊び」の部分指導案を作成のこと。

③「水遊びに使うおもちゃを作り」をテーマに模擬保育に向けた指導案を作成のこと。

※「保育実習指導Ⅱ」では、5歳児を対象にした模擬保育を計画しています。受講生を2グループに分けて、1人ずつ保育者役になり（約45分）模擬保育をしていただきます。

〔準備するもの〕

- ① 保育所実習日誌、② 保育所実習の手引、③ 保育所保育指針、④ 動きやすく、汚れてもよい服装、⑤ 出来れば名札（実習中にエプロンにつけるフェルトなどで作ったもの。）
※アンパンマンなどアニメのキャラクター等のものでなく、オリジナルなものを作製のこと。
※ひらかなのフルネームで。

〔その他〕

特になし。

保育実習事後指導スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

「保育実習報告書」をパソコンで作成し、期限までに提出すること。

報告書の作成は「保育実習（保育所・施設）報告書の作成について」を参考にすること。実習はⅠA、ⅠB、Ⅱ、Ⅲの4種類があるので、一人3枚の報告書を作成することになる。たとえ同じ保育所でⅠAとⅡの実習を行った場合でも、2種類の報告書を作成することになる。

(1) 様式設定

- ① 用紙のサイズは、A4、横書き。各報告書は1枚（1ページ）にする。
- ② 余白は、上下左右3cmで設定する。
- ③ 文字数・行数は、40字×40行で設定する。
- ④ 文字の大きさと字体は、タイトルと氏名：フォント14、MSゴシック、本文：フォント10.5、MS明朝で作成する。

(2) タイトルと氏名（MSゴシック、フォント14）

- ① 1行目タイトル（保育所名か施設名と保育実習の区分）
例「社会福祉法人〇〇会△△園での実習を終えて（保育実習Ⅲ）」
- ② 2行目をフォント10.5あける。
- ③ 3行目に学科名、学籍番号氏名を書く。

(3) 本文（MS明朝、フォント10.5）

次の3つの項目について記述する。

（各項目における文字数の規定はしないが、バランスよくまとめる。）

1. 実習の内容と体験

具体的にどのような実習をおこない、どのような体験をしたか記述する。

2. 実習課題の達成度

事前に立てた課題（「実習にむけて」（実習計画書）に書いた実習課題）が達成できたかどうか。実習中に課題を変更したり新たな課題がでた場合、その理由や達成度はどうだったか記述する。

3. 全体の感想とこれからの課題

実習全体を通して何を感じ学んだか、これからの自己課題などについて記述する。

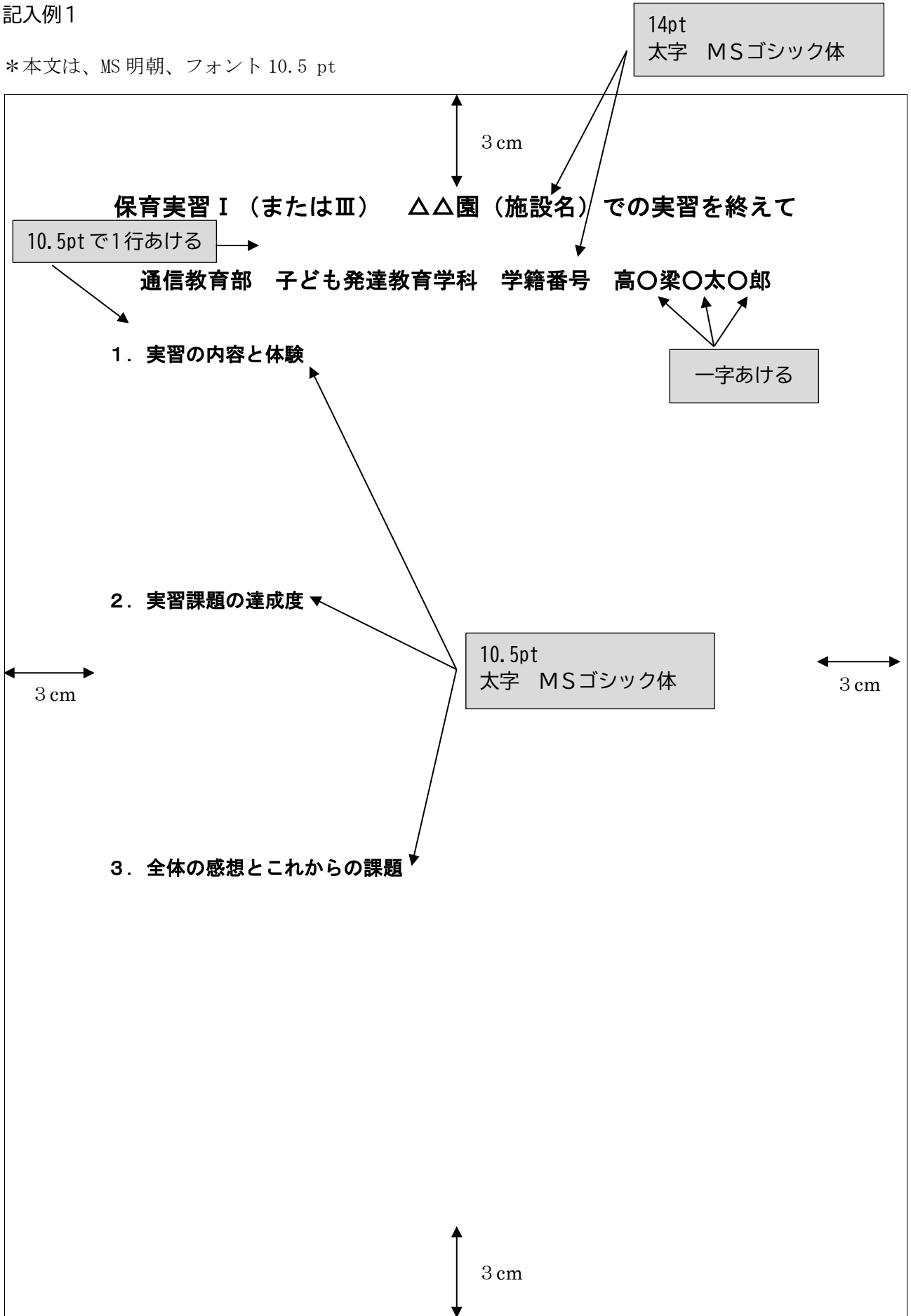
(4) 実習はⅠA、ⅠB、Ⅱ、Ⅲの4種類あるので、一人3種類の報告書を作成することになる。同じ保育所や施設で実習した場合、2つに分けて報告書は作成する。たとえば、同じ保育所にⅠAとⅡとして実習した場合、ⅠAとⅡの2種類の実習報告書を作成することになる。施設の場合も同様で、ⅠBとⅢが同じ施設であっても、2種類の報告書を作成する。

(5) 提出締切・提出先（スクーリング参加の有無にかかわらず、全員提出すること。）

・提出締切：令和4年1月25日（火）通信教育事務課必着

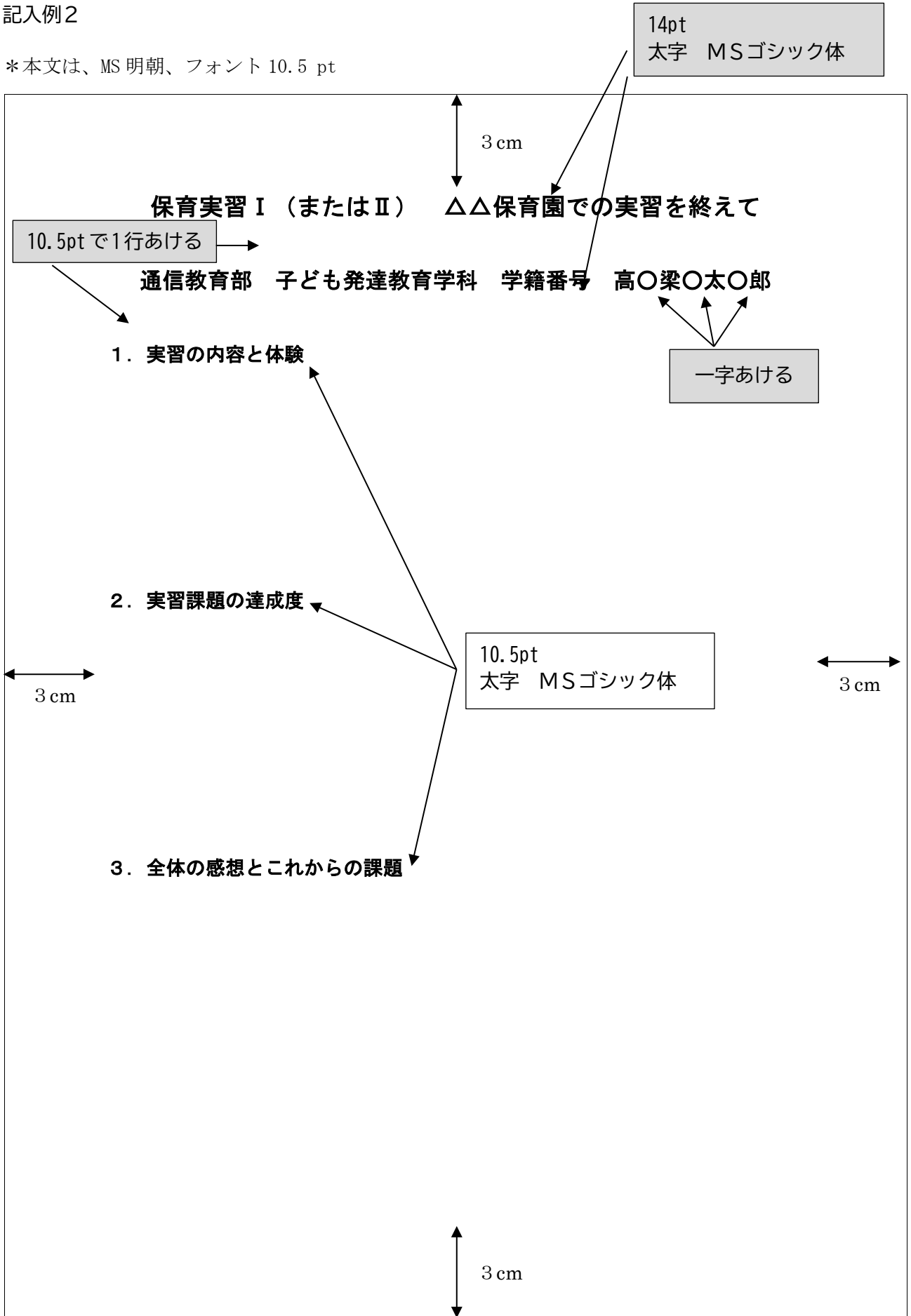
記入例1

*本文は、MS 明朝、フォント 10.5 pt



記入例2

*本文は、MS 明朝、フォント 10.5 pt



〔準備するもの〕

各実習の実習日誌等、実習のふりかえりに必要な資料。
筆記用具

〔その他〕

特になし

保育実習指導Ⅲ

専門教育科目／1単位／4年前期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年5月15日(土) 9:30～16:40 2日目 令和3年5月16日(日) 9:30～16:40 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年5月7日(金) 必着	該 当 時間割	A
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス(岡山県岡山市北区岩田町2-5)		
日 時	[保育実習事後指導スクーリング] 令和4年1月30日(日) 14:40～16:10	該 当 時間割	
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス(岡山県岡山市北区岩田町2-5)		

■ 担当教員	中野 明子／藤井 伊津子		
■ 使用テキスト	テキスト：より深く理解できる 施設実習—施設種別の計画と記録の書き方— 著 者：松本 峰雄他 出 版 社：萌文書林 出 版 年：2020年 I S B N：9784-89347-2212		
	テキスト：施設実習の手引 著 者：岡山県保育士養成協議会 出 版 年：2019年 ※「施設実習の手引」はスクーリング授業時に配布します		
■ 参考テキスト	テキスト：子どもが語る施設の暮らし 著 者：子どもが語る施設の暮らし編集委員会編 出 版 社：明石書店 出 版 年：1999年 I S B N：4-7503-1196-0		

講義概要・一般目標

利用児・者の発達段階・生活課題・ニーズ、生育歴、入所経緯、障害等の理解ができるよう学修をすすめ、それらの情報をもとに個別的な支援計画の立案や実践、評価ができるようにする。そこから利用児・者の個々のニーズや課題に対応するサービスや社会資源を明らかにし、それらの連携によるソーシャルサポートシステムについても学修する。保育実習Ⅲは保育実習Ⅰを深め、総仕上げの意味を持つことから、福祉の現場に触れることで福祉観や援助観を深めていけるよう、ノーマライゼーションなどの理念の再考や利用児・者の人権尊重、守秘義務などの福祉倫理の重要性についても学び、今後の課題(福祉の現場および実習生個人の課題)を見い出していけるよう指導したい。

到達目標

1. 保育実習Ⅲの意義と目的が理解できている。
2. 実習先の利用児・者に対する支援計画を立案することができた。
3. 実習施設の利用児・者のニーズや課題への理解を深め、サービスや社会資源について課題を持つことができた。
4. 実習先施設における保育士の専門性と職業倫理について理解を深めることができた。
5. 保育実習Ⅲを終えた後の指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題を持つことができた。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

実習の手引き書やテキストを参考にして実習への準備をおこなうと共に、実習先の施設種別や個々の実習先について調べ、レポートを作成し(A4用紙3~5枚程度)、理解を深めること。

また、実習先へ送付する書類を準備し学校に提出すること。

なお、スクーリング最終時限で講義(授業)全体に対する、フィードバックを行いません。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

実習に向けて、実習日誌の記入や整理、実習計画の作成、指導案の立案等行い実習に備えること。特に、保育実習Ⅰの反省を生かし、自己学習を十分すること。

また、実習終了後は反省会に出席し実習の振り返りを行うと共に他の実習生と情報を共有し、今後の課題をつかむこと。

学修指導

1 日 目	1. 保育実習Ⅲの目的と心構え・・・・・・・・・・・・・・・・・・(担当：中野)
	2. 実習施設の役割と機能・・・・・・・・・・・・・・・・・・(担当：中野)
	3. 施設利用児・者の理解と支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・(担当：中野)
	4. 実習計画書の作成・自己評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・(担当：中野)
	5. 個別支援計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・(担当：中野)
2 日 目	6. 障害理解と療育・・・・・・・・・・・・・・・・・・(担当：藤井)
	7. 実習記録の書き方・・・・・・・・・・・・・・・・・・(担当：藤井)
	8. 施設提出書類の作成と確認・・・・・・・・・・・・・・・・・・(担当：藤井)
	9. 実習の終了のあり方・・・・・・・・・・・・・・・・・・(担当：藤井)
	10. 実習に向けての最終確認・・・・・・・・・・・・・・・・・・(担当：藤井)
	11. 科目単位認定試験・・・・・・・・・・・・・・・・・・(担当：藤井)

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

レポートを作成し、スクーリング当日に持参して下さい。

授業ではその情報を元に、実習の目標設定や実習計画の立案を行います。

内容：①「実習先の施設種別について」(児童養護施設とは？児童発達支援センターとは？ など)
②「個々の実習先について」(〇〇園について、など)

①②両方の内容を、テキストなどを参考にまとめて下さい。

様式：・A4用紙 縦置き 3~5枚

・横書き

・表紙をつけて、上記の①②のタイトル、学科、学籍番号、氏名を入れて下さい。

・できればパソコンで作成して下さい。

〔準備するもの〕

- ・ 作成したレポート
- ・ テキスト 松本峰雄他『より深く理解できる 施設実習—施設種別の計画と記録の書き方—』
萌文書林 2015年
- ・ 「施設実習の手引」, 「施設実習日誌」
- ・ 筆記用具

〔その他〕 特になし。

保育実習事後指導スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

「保育実習報告書」をパソコンで作成し、期限までに提出すること。

報告書の作成は「保育実習（保育所・施設）報告書の作成について」を参考にすること。実習はⅠA、ⅠB、Ⅱ、Ⅲの4種類があるので、一人3枚の報告書を作成することになる。たとえ同じ保育所でⅠAとⅡの実習を行った場合でも、2種類の報告書を作成することになる。

(1) 様式設定

- ① 用紙のサイズは、A4、横書き。各報告書は1枚（1ページ）にする。
- ② 余白は、上下左右3cmで設定する。
- ③ 文字数・行数は、40字×40行で設定する。
- ④ 文字の大きさと字体は、タイトルと氏名：フォント14、MSゴシック、本文：フォント10.5、MS明朝で作成する。

(2) タイトルと氏名（MSゴシック、フォント14）

- ① 1行目タイトル（保育所名か施設名と保育実習の区分）
例「社会福祉法人〇〇会△△園での実習を終えて（保育実習Ⅲ）」
- ② 2行目をフォント10.5あける。
- ③ 3行目に学科名、学籍番号氏名を書く。

(3) 本文（MS明朝、フォント10.5）

次の3つの項目について記述する。

（各項目における文字数の規定はしないが、バランスよくまとめる。）

1. 実習の内容と体験

具体的にどのような実習をおこない、どのような体験をしたか記述する。

2. 実習課題の達成度

事前に立てた課題（「実習にむけて」（実習計画書）に書いた実習課題）が達成できたかどうか。実習中に課題を変更したり新たな課題がでた場合、その理由や達成度はどうだったか記述する。

3. 全体の感想とこれからの課題

実習全体を通して何を感じ学んだか、これからの自己課題などについて記述する。

(4) 実習はⅠA、ⅠB、Ⅱ、Ⅲの4種類あるので、一人3種類の報告書を作成することになる。同じ保育所や施設で実習した場合、2つに分けて報告書は作成する。たとえば、同じ保育所にⅠAとⅡとして実習した場合、ⅠAとⅡの2種類の実習報告書を作成することになる。施設の場合も同様で、ⅠBとⅢが同じ施設であっても、2種類の報告書を作成する。

(5) 提出締切・提出先（スクーリング参加の有無にかかわらず、全員提出すること。）

- ・ 提出締切：令和4年1月25（火）通信教育事務課必着

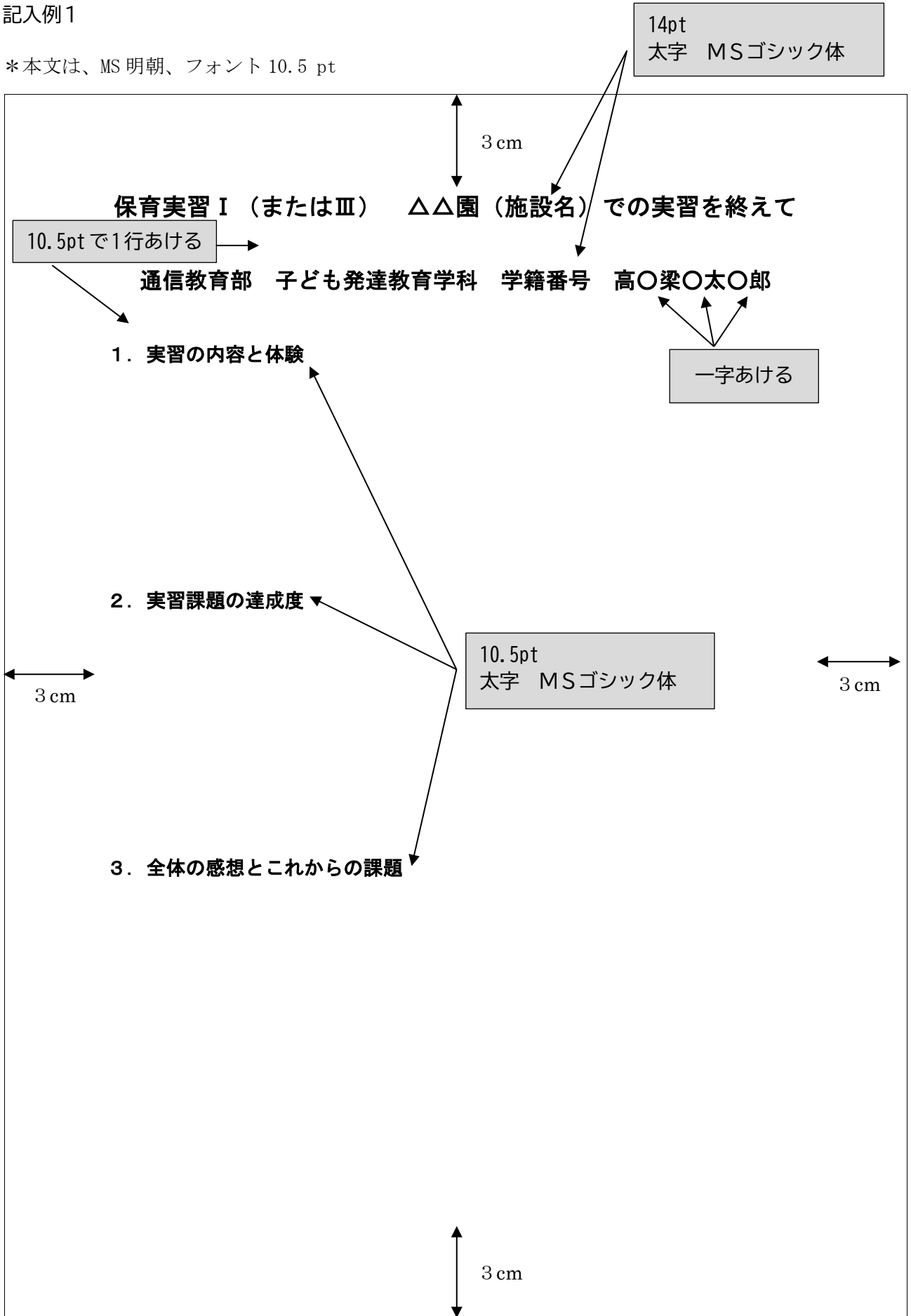
〔準備するもの〕

各実習の実習日誌等、実習のふりかえりに必要な資料。
筆記用具

〔その他〕 特になし

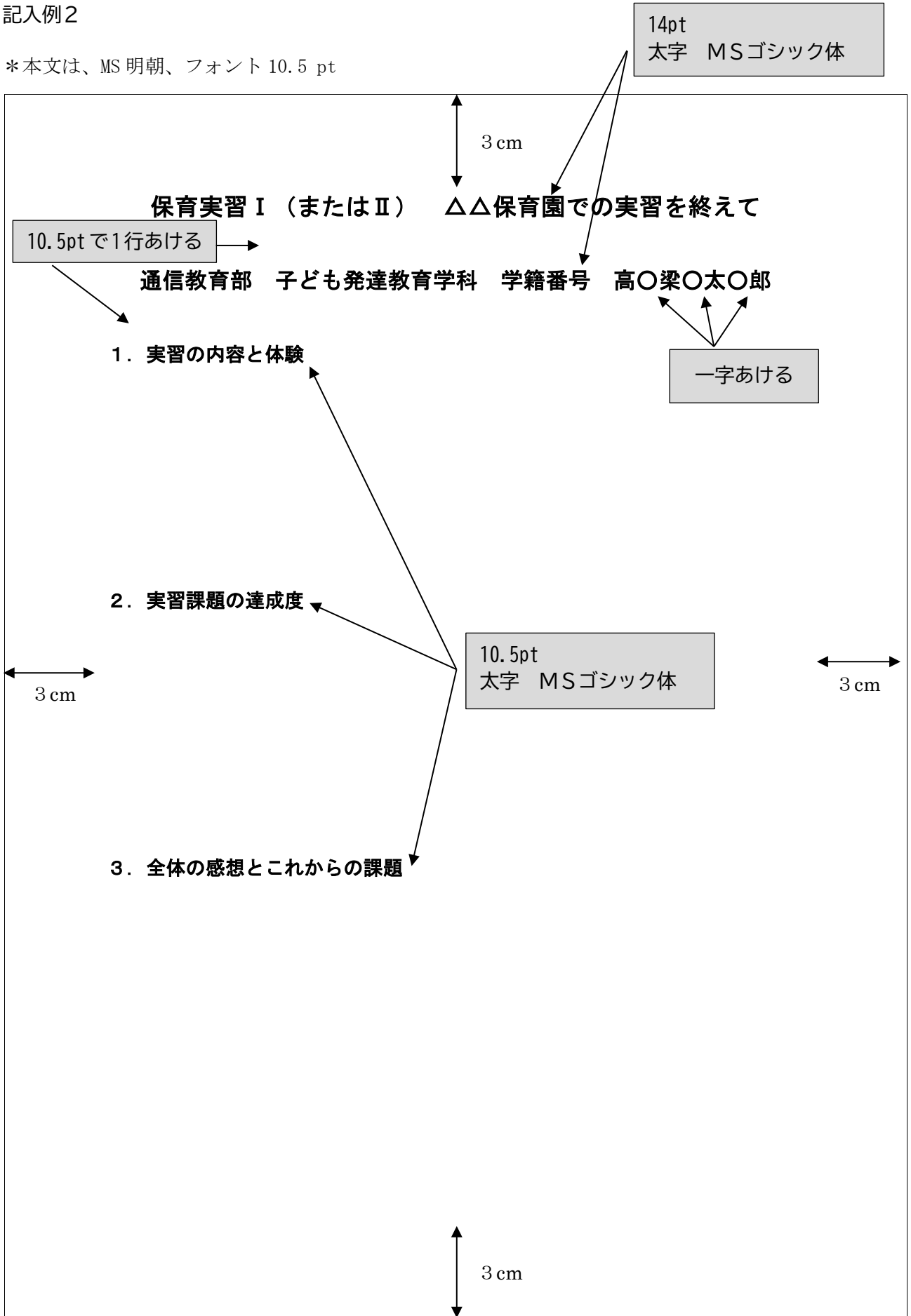
記入例1

*本文は、MS 明朝、フォント 10.5 pt



記入例2

*本文は、MS 明朝、フォント 10.5 pt



保育実習 I A

専門教育科目 / 2 単位 / 3 年通年開講 / 実習

■ 担当教員	秀 真一郎 / 藤井伊津子
■ 使用テキスト	テキスト：保育所実習の手引 / 保育実習日誌 著 者：岡山県保育士養成協議会 保育実習委員会 出版年：2021 年 ※「保育所実習の手引」「保育実習日誌」は 実習指導 I A のスクーリング時に配布します
■ 参考テキスト	テキスト：『保育所保育指針』（平成 29 年告示） 著 者：厚生労働省 出版年：2017 年 テキスト：『保育者への扉』（第 2 版） 著 者：澤津まり子・木暮朋佳・芝崎美和・田中卓也 編 出版年：2016 年

講義概要・一般目標

保育現場において、今までに得た知識や技術が、いかに子ども達へと実践され、機能しているかを体験する。また、実際に子どもと触れ合うことにより、より深く子どもの姿を理解、子どもと保育士との関わりを様々な視点から考察する。保育所における実際の保育士の役割を正しく理解し、保育所・家庭・地域社会の関係性の中における保育士の役割を考察する。今までに得た知識を知識として留めておくのではなく、いかに実践で役立たせるかという視点で取り組むことを求める。

到達目標

1. 保育所の役割や機能を理解することができた。
2. 観察や子どものかかわりを通して、子どもへの理解を深めることができた。
3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解することができた。
4. 保育の計画、観察、記録、自己評価について具体的に理解できている。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について体験的に学ぶことができています。

評価方法

実習先からの評価(60%)を基に巡回指導・実習日誌等(40%)から、総合的に評価する。

担当する授業科目に関連した実務経験

保育現場での勤務経験を活かし、実習先と連携して実習指導を行う。

学修の進め方

〔保育実習の事前学修事項〕

本学の「保育実習マニュアル」、岡山県保育士養成協議会作成の「保育所実習の手引」を熟読し、それらを基に学習や準備を進める。

事前に行う「保育実習指導 I A」に出席すること。

実習先の情報を入手するとともに、1ヶ月～2週間前くらいに、実習先保育所に事前の訪問を行い、実習についての事前打ち合わせ等を行い、実習に向けての準備を行う。

〔保育実習中の学修事項〕

健康管理に充分気をつけ、定められた実習時間に従い、実習先保育所において保育を学ぶ。

< 保育実習 I A における学修内容 >

1. 保育所の役割と機能
(1) 保育所の生活と一日の流れ (2) 保育所保育指針の理解と保育の展開
2. 子ども理解
(1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助やかかわり
3. 保育内容・保育環境
(1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全
4. 保育の計画、観察、記録
(1) 「全体的な計画」と指導計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価
5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理
(1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理

〔保育実習終了後の学修事項〕

実習を振り返り保育実習Ⅱに向けての課題を明確にする。

保育実習Ⅱを履修しない者は、実習先への提出物・礼状を送付する。

年度末に開講する「保育実習事後指導」に向けてレポートを作成するとともに出席する。

学 修 指 導

学修指導については、実習期間中に行われる「実習巡回指導」や、また実習終了後に行う「実習事後指導」などで各自指導を行う。

保育実習 I B

専門教育科目 / 2 単位 / 3 年通年開講 / 実習

■ 担当教員	中野 明子 / 藤井 伊津子
■ 使用テキスト	テキスト：より深く理解できる 施設実習—施設種別の計画と記録の書き方— 著 者：松本 峰雄他 出 版 社：萌文書林 出 版 年：2020 年 I S B N：9784-89347-2212
	テキスト：施設実習の手引 著 者：岡山県保育士養成協議会 出 版 年：2019 年 ※「施設実習の手引」は実習指導のスクーリング時に配布します
■ 参考テキスト	テキスト：「子どもが語る施設の暮らし」 著 者：子どもが語る施設の暮らし編集委員会編 出 版 社：明石書店 出 版 年：1999 年 I S B N：4-7503-1196-0

講義概要・一般目標

児童福祉施設等の生活や一日の流れを理解する。利用児・者の多面的理解（発達段階・生活課題・ニーズなどの把握）に努め、さらに集団生活ならではの場面に注目し、個々の状態に応じた援助やかかわりができるようにする。また記録にも反映させる。各施設の目標に沿った養護活動の実際を経験し、子どもの心身の状態に応じた対応や生活環境を守ることを学ぶ。その中から保育士としての職務内容、役割分担や連携についての理解を深める。また、施設の役割や機能、目標が実際にどのように反映され、展開されているかを学ぶ。

到達目標

1. 児童福祉施設等の役割や機能を体験を通して理解できている。
2. 観察やかかわりを通して、実習先施設の利用児・者への理解を深めることができた。
3. 実習先の養護内容や生活環境への理解ができ、課題をもつことができています。
4. 支援計画を理解するとともに、記録に基づく省察を行い、Ⅲに向け課題を持つことができています。
5. 施設保育士としての役割と職業倫理について理解を深めることができた。

評価方法

実習先からの評価(60%)を基に巡回指導・実習日誌等(40%)から、総合的に評価する。

学修の進め方

〔保育実習の事前学修事項〕

実習の手引き書やテキストを参考に実習先の施設種別や個々の実習先について調べ、レポートを作成し（A4 用紙 3～5 枚程度）、保育実習指導 I B のスクーリングに臨む。スクーリングで学んだこと（実習計画書の作成、記録の書き方、個別支援計画等々）を繰り返し復習しておく。施設の事前訪問においても、施設説明や実習の心構え、注意すべきことなどよく確認しておく。

〔保育実習中の学修事項〕

事前に設定した実習課題を念頭に日々の目標を立て、実習日誌に記入する。施設の日課を経験しながら、施設の養護内容、保育士としての業務の実際を理解する。実習半ばにおいて実習日誌にある「実習前半を終えて」の用紙を記入し、実習課題の進捗状況を振り返り中間反省会に臨む（実習先によって

やり方は様々であると思われる)。課題を見直し、実習後半に向けて見通しを立て理解を深める。

〔保育実習終了後の学修事項〕

施設にお礼状を忘れずに書く。実習を振り返り、「実習報告書」を作成する。課題の達成度やこれからの課題等について、別途案内する書式に従って記入し実習の事後指導に臨む。

学 修 指 導

学修指導については、実習期間中に行われる「実習巡回指導」や、また実習終了後に行う「実習事後指導」などで各自指導を行う。

保育実習Ⅱ

専門教育科目／2単位／3年通年開講／実習

■ 担当教員	秀 真一郎／藤井伊津子
■ 使用テキスト	テキスト：保育所実習の手引／保育実習日誌 著 者：岡山県保育士養成協議会 保育実習委員会 出 版 年：2021年 ※「保育所実習の手引」「保育実習日誌」は 実習指導ⅠAのスクーリング時に配布します
■ 参考テキスト	テキスト：『保育所保育指針解説書』 著 者：厚生労働省 出 版 年：2018年 テキスト：『明日の保育・教育にいかす 子ども文化』 著 者：田中卓也・藤井伊津子・橋爪けい子・小島千恵子 編 出 版 年：2015年

講義概要・一般目標

保育実習Ⅰで得た保育現場での知識や経験を理解し、それらを基に自らの特色を生かした保育とは何かということ、自ら構築していく。その上でも、指導案は勿論のこと日々の保育の中でも“保育の特性”を理解し、掘り取っていく。保育現場を実際に触れ、実践において必要な日々の心構え、子どもと関わる上で重要となる保育理論、そして体調管理の重要性を体験的に理解する。そして、保育実践におけるニーズに対しての理解・対応について考え、毎日の保育場面から、自己の持つ知識・経験・技術における課題を明確にし、自己解決力を身に付ける。

到達目標

1. 保育所の役割機能について、具体的な実践を通して理解を深めることができた。
2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深めることができた。
3. 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解することができる。
4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について保育及び子育て支援について総合的に理解することができる。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解することができる。
6. 実習における自己の課題を明確化することができる。

評価方法

実習先からの評価(60%)を基に巡回指導・実習日誌等(40%)から、総合的に評価する。

担当する授業科目に関連した実務経験

保育現場での勤務経験を活かし、実習先と連携して実習指導を行う

学修の進め方

〔保育実習の事前学修事項〕

本学の「保育実習マニュアル」、岡山県保育士養成協議会作成の「保育所実習の手引」を熟読し、それらを基に学習や準備を進める。

事前に行う「保育実習指導Ⅱ」に出席すること。

実習Ⅰとは異なる保育所で実習する場合や、期間において実習する場合には、実習先の情報を入手するとともに、改めて1ヶ月～2週間前くらいに、実習先保育所に事前の訪問を行い、実習についての事前打ち合わせ等を行い、実習に向けての準備を行う。

〔保育実習中の学修事項〕

健康管理に充分気をつけ、定められた実習時間に従い、実習先保育所において保育を学ぶ。

<保育実習Ⅱにおける学修内容>

1. 保育所の役割や機能の具体的展開
(1) 養護と教育が一体となって行われる保育 (2) 保育所の社会的役割と責任
2. 観察に基づく保育理解
(1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育士等の動きや実践の観察 (3) 保育所の生活の流れや展開の把握
3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
(1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 (3) 地域社会との連携・協働
4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価
(1) 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価
5. 保育士の業務と職業倫理 (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理
6. 自己の課題の明確化

〔保育実習終了後の学修事項〕

実習を振り返り自己課題を明確にする。

実習先への提出物・礼状を送付する。

年度末に開講する「保育実習事後指導」に向けてレポートを作成するとともに出席する。

学 修 指 導

学修指導については、実習期間中に行われる「実習巡回指導」や、また実習終了後に行う「実習事後指導」などで各自指導を行う。

保育実習Ⅲ

専門教育科目／2 単位／4 年通年開講／実習

■ 担当教員	中野 明子／藤井 伊津子
■ 使用テキスト	テキスト：より深く理解できる 施設実習―施設種別の計画と記録の書き方― 著 者：松本峰雄 他 出 版 社：萌文書林 出 版 年：2020 年 I S B N：9784-89347-2212
	テキスト：岡山県保育士養成協議会編「施設実習の手引」 出 版 年：2019 年 ※「施設実習の手引」は実習指導のスクーリング時に配布します
■ 参考テキスト	テキスト：子どもが語る施設の暮らし 著 者：子どもが語る施設の暮らし編集委員会編 出 版 社：明石書店 出 版 年：1999 年 I S B N：4-7503-1196-0

講義概要・一般目標

利用児・者の特性（発達段階・生活課題・ニーズ、生育暦、入所経緯、障害）を把握した上で課題を考察し、個別の支援計画を立案し、実践できるようにする。また、利用児・者と信頼関係を深める態度を身につけ、さらに彼らの権利擁護を進める取り組みを学ぶ。そのためにも異なるニーズをもつ利用児・者に対応するサービスやサポート体制（保護者支援、家庭支援など）についても具体的に学ぶ。施設の機能や役割を深く理解し、保育士の多様な業務を理解する中で、職業倫理を守ることの大切さを学ぶ。また職員間や他職種との連携についても学ぶ。

到達目標

1. 実習先の利用児・者の特性を把握し、個別計画を立案することができた。
2. 利用児・者と積極的にかかわり、信頼関係を形成することができた。
3. 児童福祉施設等の役割や機能について体験を通して理解を深めることができた。
4. 実習体験を通して、職業倫理、職員の連携について学び、課題の明確化ができています。
5. 施設保育士としての自己課題を明確にすることができた。

評価方法

実習先からの評価(60%)を基に巡回指導・実習日誌等(40%)から、総合的に評価する。

学修の進め方

〔保育実習の事前学修事項〕

実習の手引き書やテキストを参考に実習先の施設種別や個々の実習先について調べ、レポートを作成し（A4 用紙 3～5 枚程度）、保育実習指導Ⅲのスクーリングに臨む。スクーリングの内容をよく理解し、実習日誌の記入や整理、実習計画の作成、指導案の立案等が行えるよう自己学習を十分にすること。

〔保育実習中の学修事項〕

保育実習Ⅰの学びをふまえ、さらに利用児・者の理解に努め、個別的な支援計画の立案や実践、評価の経験ができるようにする。他職種との連携の重要性を学び、専門職としての倫理観、福祉観など実際の場面に結びつけて考察できるように努める。

〔保育実習終了後の学修事項〕

施設にお礼状を忘れずに書く。保育実習Ⅰと同様に「実習報告書」を作成する。課題の達成度やこれからの課題等について、書式に従って記入し事後指導に臨む。事後指導（反省会）では、実習の振り返りを行うと共に他の実習生と情報を共有し、今後の課題についても話し合う。

学 修 指 導

学修指導については、実習期間中に行われる「実習巡回指導」や、また実習終了後に行う「実習事後指導」などで各自指導を行う。

子育て支援

専門教育科目／1単位／3年後期開講／スクーリング授業

岡山	日 時	1日目 令和3年11月13日(土) 9:30~16:40 2日目 令和3年11月14日(日) 9:30~16:40 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年11月5日(金) 必着	該 当 時間割	A
	会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス(岡山県岡山市北区岩田町2-5)		
広島	日 時	1日目 令和3年11月27日(土) 9:00~16:10 2日目 令和3年11月28日(日) 9:00~16:10 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年11月19日(金) 必着	該 当 時間割	C
	会 場	広島アニマルケア専門学校／並木学院高等学校(広島県広島市中区小町)		

■ 担当教員	中野 明子
■ 使用テキスト	毎回の授業ごとに、講義やワークに必要なレジュメを配布する。
■ 参考テキスト	テキスト:「保育相談支援」 著 者: 柏女霊峰・橋本真紀編著 出 版 社: ミネルヴァ書房 出 版 年: 2011年 I S B N: 978-4-623-05975-1
	テキスト:「相談援助、保育相談支援」 著 者: 笠師千恵・小橋明子 出 版 社: 中山書店 出 版 年: 2014年 I S B N: 978-4-521-73956-4

講義概要・一般目標

この授業では、保護者支援の方法について学ぶ。保育現場での保護者の抱える問題について理解し、対人援助技術であるカウンセリングやソーシャルワークの方法を学ぶ。援助者としてのコミュニケーション能力を身につけることが肝要である。面接を通して共感的かつ客観的に理解すること、信頼関係を通してクライアントを支持しながら問題解決に導いていくプロセスを知ることが大切である。事例解釈やグループワーク、エクササイズ、ロールプレイなどを用いて、対人援助技術を身につけていく。

到達目標

この科目では、子育て、子育て支援としてのカウンセリングとソーシャルワークの基礎知識を理解し、援助のための基本姿勢や実践方法を養うことができる。到達目標は、保護者面接に必要な価値観や知識、技術を身につけることである。スクーリングでは、講義の他に事例研究やエクササイズ、ロールプレイなどを用意している。体験を通して学ぶこと、身につけることを重視している。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

参考テキストのような保育相談支援に関わる文献を読んでおくと、スクーリングでの体験がより一層自分のものになります。ぜひ何か読んでください。この授業では特に親面接について学ぶことが多くありますので、親の抱える問題やどのような相談援助が望ましいのか考えてみてください。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

スクーリングでは体験学習が多くなりますので、もう一度体験した内容や気づいたこと、指摘されたことをふりかえり、再検討してみてください。このことが自分の援助能力を高めることに貢献します。

〔学修のポイント〕

スクーリングでは以下のようなテーマについて学修する予定です。

1. 「保育相談支援」とは
2. 子どもと家庭の課題と問題
3. ソーシャルワークの援助
4. カウンセリングの援助
5. 保護者相談の方法
6. 施設における保護者への支援
7. 子どもの不適応行動
8. 育児不安の心理
9. 良好な面接と不適切な面接
10. 親面接の事例（情報の収集と問題の理解）
11. 親面接の事例（援助者の姿勢とスキル）
12. 親面接の事例（難しい保護者への対応）
13. 相談のロールプレイ（自分の傾向や課題を理解する）
14. 相談のロールプレイ（クライアントを理解する）
15. 相談のロールプレイ（援助者としてのスキルを練習する）
16. 科目単位認定試験

〔フィードバック〕

スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行いません。

学修指導

1 日 目	講義 1 保育相談支援とは
	講義 2 保育相談支援の事例研究
	講義 3 育児不安の心理
	講義 4 子どもの不適応行動の理解
2 日 目	講義 5 援助者による対応の比較研究
	講義 6 親面接の方法
	講義 7 親面接の事例研究
	講義 8 相談ロールプレイ 科目単位認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

保育相談支援とはどのようなことなのか、事前学修をしてきてください。

〔準備するもの〕

動きやすい服装で参加してください。

〔その他〕 特になし。

子どもの国語

専門教育科目／2単位／2年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	雲津 英子
■ 使用テキスト	テキスト：スキルアップ！日本語力 大学生のための日本語練習帳 著者：名古屋大学日本語研究会 GK7 著 出版社：東京書籍 出版年：2009年（2018年第13刷） ISBN：978-4-487-80364-4
■ 参考テキスト	テキスト：書写指導の手引き 著者：関岡松籟 出版社：木耳社 出版年：2012年 ISBN：978-4-8393-2149-9

講義概要・一般目標

敬語・文法・漢字・文章表現など、国語の基礎的知識を身に付けるとともに、伝統的な言語文化であることわざ・慣用句などを学び、伝統的な言語文化について理解を深める。さらに、このような日本語力の獲得によって、子どもへの言葉かけ、あるいは保護者との話し方など、会話(コミュニケーション)能力の育成を図る。また、書写に関する理解を深め、幼稚園および小学校教員として必要な国語の基礎的知識を身に付ける。

到達目標

- 教師を目指す者として、敬語・文法・漢字・文章表現など、国語の基礎的知識を習得するとともに、子ども・保護者などの他者に対して正しく美しい会話表現ができる基礎的技能を身に付ける。
- 教師を目指す者として、文字を書くことの重要性に気付き、正しい筆順で字形の整った美しい文字を書くことができる。

評価方法

科目単位認定試験により評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施する。

担当する授業科目に関連した実務経験

この科目は、高等学校において進路指導助手としての実務経験を持つ教員が、小論文指導（表記法、文章表現等の指導）の経験を活かし、幼稚園・小学校教員に役立つ添削課題を出題する。

学修の進め方

- ・ テキスト『スキルアップ！日本語力 大学生のための日本語練習帳』の章立てにしたがって学修を進めていく。テキストにある「資料 重要語句の確認」(第1回～第13回)もあわせて学修してほしい。各回の練習問題・応用問題の解答・解説は、Web学修支援システムを確認する。さらに、学修内容に沿って『書写指導の手引き』を参照し、添削課題及び科目単位認定試験には、『書写指導の手引き』の内容も理解して臨んでほしい。
- ・ 提出された課題レポートにコメントし、フィードバックする。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

本講義は、『スキルアップ！日本語力 大学生のための日本語練習帳』をテキストとして使用し、テキストの章立てにしたがって学修を進めていく。なお、添削課題及び科目単位認定試験には、テキスト『書写指導の手引き』の内容も理解して臨んでほしい。

■テキスト『スキルアップ！日本語力 大学生のための日本語練習帳』

※各回の練習問題・応用問題の解答・解説は、Web学修支援システムを確認すること。

第0回 はじめに

第1章 敬語

- 第1回 敬語の種類と使い分け（資料：第13回 敬語・文法 もあわせて学修すること）
- 第2回 注意すべき敬語
- 第3回 配慮を示す言葉

第2章 文法

- 第4回 品詞・活用の種類（資料：第8回 形容詞，第9回 副詞 もあわせて学修すること）
- 第5回 ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉
（資料：第13回 敬語・文法 もあわせて学修すること）
- 第6回 文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文
- 第7回 接続語・指示語と文章

第3章 語彙・言葉の意味

- 第8回 類義語・対義語（資料：第7回 対義語 もあわせて学修すること）
- 第9回 動詞の自他・視点
- 第10回 文体、話し言葉・書き言葉
- 第11回 コロケーション（資料：第10回 慣用句，第11回 ことわざ もあわせて学修すること）

第4章 漢字・表記

- 第12回 部首・音訓・熟語
（資料：第1回 漢字を書く，第2回 漢字を書く<同音異字>，
第3回 漢字を書く<同訓異字>，第4回 漢字を読む，
第12回 四字熟語 もあわせて学修すること）
- 第13回 仮名遣い・送り仮名
（資料：第5回 漢字の送りがな，第6回 表記 もあわせて学修すること）

第5章 総合問題

- 第14回 総合問題

資料 重要語句の確認

- 第1回 漢字を書く
- 第2回 漢字を書く <同音異字>
- 第3回 漢字を書く <同訓異字>
- 第4回 漢字を読む
- 第5回 漢字の送りがな
- 第6回 表記
- 第7回 対義語
- 第8回 形容詞
- 第9回 副詞
- 第10回 慣用句

- 第11回 ことわざ
- 第12回 四字熟語
- 第13回 敬語・文法

■テキスト『書写指導の手引き』

1. 文字の生いたち
漢字の生いたちとひらがな
2. 書写の用具について
硬筆書写の用具について
毛筆書写の用具，文房四宝について
3. 姿勢・執筆について
正しい姿勢と用具の持ち方
4. 漢字の字形の整え方
点画の名称とポイント
結構法と結体法
字形の整え方の基本
相譲避法と照応法
5. 筆順の指導
筆順の指導について
筆順の手びき
6. かな文字について
かなの歴史
ひらがなの指導
カタカナについて
カタカナの指導
7. 行書について
行書の特徴
行書によく調和するひらがなの書き方

付・教育漢字筆順一覧

子どもの社会

専門教育科目／2単位／2年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	白神 幹夫
■ 使用テキスト	テキスト：テキスト初等社会科 著者：佐藤浩樹 原口美貴子 菊地達夫 山口幸男 出版社：学文社 出版年：2019年 ISBN：978-4-7620-2914-1
■ 参考テキスト	テキスト：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編 著者：文部科学省 出版社：日本文教出版 ISBN：978-4-536-59009-9

講義概要・一般目標

小学校社会科の授業が自ら計画でき、児童を指導できるだけの力が必要となる。そのため社会科の授業構成に伴う基礎的理論や指導方法・指導技術などについて学ぶとともに、平成29年7月に告示された「小学校学習指導要領」および「小学校学習指導要領解説 社会編」についても取り扱う。

本講義では、小学校社会科教育の意義や課題、歴史、目標、学力、内容と方法、学習指導に至るまで原則的なことから、基礎的・教養的なものを整理し、小学校社会科の授業づくりの具体的な方法、学習指導ができる実践的能力を養う第一歩としたい。

到達目標

将来学校現場において社会科の授業が実践できる人材育成を目指し、小学校教員に必要な社会科の授業における基礎的知識及び実践的指導力を身につけ小学校教員採用試験に対応できるレベルをその到達目標とする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

○ 添削課題に目を通し、正誤問題・選択問題、次いで空所補充問題にテキスト該当箇所を見つけ、解答しましょう。その際、用語に注意し正しく理解していくことが大切です。論述問題は自分の言葉で解答していくことが求められますが、解答の根拠はテキストから読み取って下さい。

○ 全問にしっかり向き合ってください。添削課題は当科目のエッセンスです。自力でテキストを学習し身につけていく際の指標にしていいただければと思います。

○ 添削課題の提出、回答が返ったら必ず添削課題の解答解説を参考にして問題を見直し、添削課題の内容はしっかり理解して全問正答できる力を身につけて下さい。そうすれば科目単位認定試験に自信を持ってのぞむことができます。

○ のぞましい教師像やのぞましい児童像におもいをいただき、当通信教育を通じて将来の夢の実現につなげていただければ幸いです。こつこつ学ぶ座学が多いですが、座学はやればやるほど成績は上がります。また、添削課題やテストをやりぬくことで、覚え間違い、勘違い等 独学で陥りやすい知識や考え方の訂正ができます。困難はあると思いますがやりぬいてください。

○ フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

第1章 社会科の本質

- 第1節 社会科（小学校）の歴史
1947年5月発行の学習指導要領社会科編Ⅰに始まる社会科変遷の歴史を解説し、平成29年版の新しい指導要領の指示について目標・内容・方法の意味をとらえる。
- 第2節 社会科の本質・目標
学校教育において「社会」を学習する根拠、教科設定の根拠に触れ、社会科が目指す究極的目標について考える。
- 第3節 社会科の内容構成
小学校社会科のカリキュラム構成原理について、同心円の拡大主義に基づく地理的、歴史的、公民的内容で構成することを基本とし、現代的な諸課題に対応する内容を取り入れて構成されていることを学ぶ。

第2章 社会科の内容

- 第1節 地域学習・郷土学習
身近な地域の教育的価値、教材としての郷土の重要性を態度目標から考える。
- 第2節 地理的学習
社会的事象の地理的な見方・考え方、特色、中学校との接続等
- 第3節 歴史的学習
時間意識の涵養と変化への認識、歴史的学習の意義を考える。
- 第4節 公民的学習
各学年での公民的学習、未来を形作る「公民的資質の基礎を養う」ことに迫る。

第3章 社会科の学習指導論

- 第1節 社会科の学習過程
問題解決学習や発見学習等社会科の学習指導論にふれ学習過程の実際を「導入」「展開」「終末」の場面から考える。
- 第2節 社会科の学習形態と学習活動
様々な学習形態と学習活動に触れ、目標に即した学習活動の工夫を可能にする。
- 第3節 社会科におけるICTの活用
さまざまなICT機器の存在とコミュニケーション手段としての活用法を考える。
- 第4節 社会科の評価
評価方法の変化と評価手法、評価の実際、課題について知る。

第4章 社会科授業づくりと実践

- 第1節 社会科授業づくりと学習指導案の作成
目標設定、学習内容の検討、児童の実態把握、授業の組み立て等事例を元に考える。
- 第2節 中学年の社会科授業実践
観察・調査活動の事例を元に考える。
- 第3節 高学年の社会科授業実践
体験活動の重視、説明したり議論したりする活動の重視、学習経験を生かした歴史の授業実践に学ぶ。
- 第4節 社会科教育と道徳教育—郷土愛を例に—
「郷土の伝統・文化」に関する事例を取り上げ社会科と道徳科の比較、適切な指導のあり方について考える。
- 第5節 社会科と「社会に開かれた教育課程」
コミュニティスクールを基盤に小・中一貫して取り組む防災授業の事例やESD教育の視点から学ぶ

子どもの算数

専門教育科目/2単位/2年後期開講/スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年9月25日(土) 9:30~18:20 2日目 令和3年9月26日(日) 9:30~18:20 3日目 令和3年10月2日(土) 9:30~18:20 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年9月17日(金) 必着	該 当 時間割	B
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス(岡山県岡山市北区岩田町2-5)		

■ 担当教員	鳥居 恭治
■ 使用テキスト	テキスト：小学校学習指導要領(平成29年度告示)解説 算数編 著 者：文部科学省 出 版 社：日本文教出版 出 版 年：平成30年2月 テキスト：算数の基本問題 小学5年 著 者：日能研 出 版 社：みくに出版
■ 参考テキスト	指定なし

講義概要・一般目標

本講義では、算数の基礎的・基本的内容である加法、減法、乗法、除法、小数、分数、比と比例、量と測定、図形等について学習します。次に、自分で考えたり説明したりすることを学修します。また、算数の問題を解決するに当たっては、数学的な考えを基にして問題解決の方法を考察します。

本講義では具体的には、第1章 総説、第2章 算数科の目標及び内容、第3章 各学年の目標及び内容、第4章 指導計画の作成と内容の取扱いについて考察します。また、算数の基本問題小学5年の問題にも取り組みます。

算数の教案作りと模擬授業及び情報機器の活動を行います。

到達目標

- ①「数」について理解する。
- ②たし算とはどのような演算か、引き算とは、かけ算とは、わり算とは、演算そのものの意味が十分に理解する。
- ③小数、分数の意味を理解する。
- ④図形の意味が理解する。
- ⑤文字のもつよさを理解する。
- ⑥帰納的な考え方、類推的な考え方、演繹的な考え方などについて理解する。
- ⑦算数の授業作りについて理解する。

評価方法

模擬授業への取り組み方と科目単位認定試験により評価をする。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

小学校での算数科の全学年の指導経験(30年)あり。教材作りや指導案作成、模擬授業を行うことに活かす。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

使用テキスト「小学校学習指導要領(平成 29 年度告示)解説 算数編」を下記の「学修指導」に従って学習してください。なお、スクーリング最終時限で講義(授業)全体に対する、フィードバックを行ないます。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

スクーリングでは、実践的指導力養成のために実践的な課題解決を学修しますので、ここでの学修を生かして、教科書の問題等に適用してください。

学修指導

スクーリング科目の学修内容は、各スクーリングに先立って配付する『スクーリングのしおり』によってお知らせします。テキストの指定がある科目については、テキストを通読するなどして事前学修を進め、科目に対する理解を深めておいてください。

〔テキストの概要と学修のポイント〕

第1章 総説

今回の学習指導要領改訂の基本方針と、育成を目指す資質・能力について、授業改善の取り組み、カリキュラム・マネジメントの推進などについて。算数科の目標の3つの柱や5つの内容構成、数学的活動についてまとめています。

第2章 算数科の目標及び内容

算数科の教科目標と学年ごとの目標についての解説がある。次に「A 数と計算」「B 図形」「C 測定(下学年)」「C 変化と関係(上学年)」「D データの活用」の5つの領域ごとのねらいや主な内容について解説されている。また、今回「算数的活動」から名称変更した「数学的活動」のねらいや内容について解説されている。

第3章 各学年の目標及び内容

ここでは、各学年の目標と身に付ける資質・能力とその解説を3つ目標ごとに解説している。その学年での4つの領域での具体的な内容とその具体的な指導方法について解説している。各学年で30ページの記述があり、ここが学習のメインとなる。

第4章 指導計画の作成と内容の取扱い

ここでは、「指導計画作成上の配慮事項」「内容の取扱いについての配慮事項」「数学的活動の指導に当たっての配慮事項」の3つについて趣旨と説明が書かれている。

〔スクーリングの計画と学修のポイント〕

1 日 目	講義 1 総説
	講義 2 算数科の目標及び内容(1)
	講義 3 算数科の目標及び内容(2)
	講義 4 数学的活動について
	講義 5 1, 2 学年の目標及び内容
2 日 目	講義 6 3, 4 学年の目標及び内容
	講義 7 5, 6 学年の目標及び内容
	講義 8 学習指導案の作成
	講義 9 板書について
	講義 10 学習指導案の作成 2

3 日 目	講義 11 学習指導と評価
	講義 12 授業及び反省・評価 1
	講義 13 授業及び反省・評価 2
	講義 14 授業及び反省・評価 3
	講義 15 授業及び反省・評価 4
	講義 16 科目単位認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

- (1) 「科目単位認定試験」には、テキストの内容が含まれますので、よく勉強しておくこと。
- (2) 「学修の手引き」に述べているように、班による模擬授業を行います。

〔準備するもの〕

テキスト、筆記用具、ものさし（できれば 30cm 以上もの）、三角定規、コンパス、分度器、ハサミ、のり、ノート、

〔その他〕

マグネット（班での模擬授業で模造紙等を黒板に貼るために使用します。第 1 日目に指示します。）

子どもの理科

専門教育科目／2単位／2年前期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年6月6日(日) 9:30~18:20	該 当 時間割	B
	2日目 令和3年6月12日(土) 9:30~18:20		
	3日目 令和3年6月13日(日) 9:30~18:20		
	〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年5月28日(金) 必着		
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 14号館(岡山県高梁市伊賀町8)		

■ 担当教員	川上 はる江
■ 使用テキスト	テキスト：小学校学習指導要領解説 理科編 著 者：文部科学省 出 版 社：東洋館出版社 出 版 年：2017年7月 I S B N：978-4-477-01949-9
	テキスト：新しい理科 3年 出 版 社：東京書籍 I S B N：978-4-487-10553-3
	テキスト：新しい理科 4年 出 版 社：東京書籍 I S B N：978-4-487-10554-0
	テキスト：新しい理科 5年 出 版 社：東京書籍 I S B N：978-4-487-10555-7
	テキスト：新しい理科 6年 出 版 社：東京書籍 I S B N：978-4-487-10556-4
■ 参考テキスト	テキスト：幼稚園教育要領解説 著 者：文部科学省 出 版 社：東洋館出版社 出 版 年：2018年3月 I S B N：978-4-577-81447-5

講義概要・一般目標

子どもの周りにある身近なテーマを取り入れ、「子どもに分かりやすく自然の不思議を教えることができるようにすること」を目標としている。内容を4つの分野(物理、化学、生物、地学)で整理して、各分野の全体像を理解できるようにする。特に、発達段階に応じて身に付けなくてはならない問題解決能力を意識しながらグループで観察・実験を行う。演習を通して観察・実験技能を身に付ける。

幼稚園教諭を目指している人にとっては、自然への働きかけの仕方、自然を題材にしたものづくりの基礎となる内容であり、自然の捉え方、科学的な見方、考え方について理解する上で有効である。

到達目標

小学校理科の内容(物質、エネルギー、生命、地球)の各分野を系統的に構築し、基本的な知識を学修する。また、演習として実験・観察を取り入れた学修を行うことにより、自然の不思議さ、面白さを改めて実感できる。幼稚園教諭を目指す人たちにとっては、環境という視点で自然を学ぶことや科学的な見方、考え方を理解することができる。

評価方法

科目単位認定試験，実験・観察レポートにより評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施する。

担当する授業科目に関連した実務経験

小学校教員，幼稚園園長としての実務経験をもっており，具体的な実験，観察，環境構成の仕方を講義に含む。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

テキストである小学校学修指導要領解説理科編，及び理科の教科書を一読し，それぞれの学年での内容と理科の目標の関連を学修しておく。そして，身の回りの自然現象を意識して観察しておく面白い。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

出題された採用試験の最近の問題に挑戦して，内容を学習指導要領，小学校教科書等で学修する。幼稚園における，自然への働きかけの仕方，ものづくりの題材を考えるなど，実践事例集などを使用して実践的な学修をする。

〔フィードバック〕

スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行なう。

〔テキストの概要と学修のポイント〕

第1章 理科の目標及び内容

理科の目標である「自然に親しみ，見通しをもって観察，実験などを行い，問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに，自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り，科学的な見方や考え方を養う。」が原点であることを，演習を通して学修する。

第2章 エネルギー

ゴムの働き，光の性質，磁石の性質，電気の働き，振りの運動，てこの規則性などについて学修する。特に，電気については重要なテーマであり，回路，直列つなぎ，並列つなぎ，電磁石，電流計などについて学修する。

第3章 粒子

空気の圧縮，水の三態変化，物の溶け方，水溶液の性質などについて学修する。特に，水は，温度によって液体，気体，または固体に状態が変化し，水が氷になると体積が増えることを学ぶ。さらに，水溶液の性質として酸性，アルカリ性，中性があり，水溶液には気体が溶けているものがあり，水溶液には金属を変化させるものがあることを学修する。

第4章 生命

昆虫の体のつくり，植物の体のつくり，人の体のつくりと働き，植物の発芽，成長及び結実，動物の誕生，植物の養分と水の通り道などについて学修する。特に，植物の体のつくり，成長の様子，光合成，生命の連続性などを学修する。さらに，人の主な臓器として，肺，胃，小腸，大腸，肝臓，腎臓，心臓のそれぞれの関係づけをして総合的な理解を図ることを学修する。

第5章 地球

天気の様子，月の形と動き，星の動き，流水の働き，天気の変化，土地のつくりと変化，太陽の位置などについて学修する。特に，生活との関連として天気の変化や土地のつくりと関係づけられる長雨や集中豪雨がもたらす自然災害を学ぶ。さらに，月や星のそれぞれの動きを観察して天体の

美しさを感じ取る体験の充実を図ることを学ぶ。

以上のようにテキストに記載されている内容を「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」の分野に分けて学年の枠を超えて学修する。取り上げる自然事象は、幼児教育の分野で扱う物づくりの素材となるものも多い。演習が多いので講義を通して、自然の不思議と感動が多く、改めて自然の素晴らしさを実感できる。

テキストを4学年分（3～6年）購入すると4000円ほどかかるが価値は十分ある。写真も多く、科学読み物としても楽しいものである。ただし、経済的に苦しい場合は幼稚園を希望している人は、3、4年分、小学校を希望している人は5、6年分の2冊だけでもよい。

学修指導

1 日 目	講義 1	幼児教育における自然環境の役割, 小学校理科の目標及び内容について学修
	講義 2	自然事象の不思議から課題の引き出し方 問題解決の能力とは。
	講義 3	物の燃え方 (実験演習を含む)
	講義 4	電気の働き (実験演習を含む)
	講義 5	ふりこのきまり (実験演習を含む)
2 日 目	講義 6	単元計画の書き方 (小), 環境構成の仕方 (保・幼)
	講義 7	魚の誕生 (実験演習を含む)
	講義 8	単元計画の作成 (小) 自然遊び活動計画作成 (保・幼)
	講義 9	閉じ込めた空気と水 (実験演習を含む)
	講義 10	ものの溶け方 (実験演習を含む)
3 日 目	講義 11	大地のつくり (実験演習を含む)
	講義 12	単元計画の作成 (小) 自然遊び活動計画作成 (保・幼)
	講義 13	単元計画の作成 (小) 自然遊び活動計画作成 (保・幼)
	講義 14	本時案作成 (小) 活動計画作成 (保・幼)
	講義 15	今までの講義の総括
	講義 16	科目認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

「子どもの理科」では、実験や観察、科学遊びを通して子どもに養うべき「科学的な見方、考え方」を理解できるようにします。講義予定にあげている単元の内容を教科書で確認しておいてください。

エネルギー分野

- 1) てこ, 振り子 てこのつり合いの規則性, 振り子の運動
- 2) 電気 電気の通り道, 電気の働き (乾電池の数とつなぎ方), 電流の働き (電磁石)

物質分野

- 1) 物の溶け方, 水溶液 溶ける量の限度, 水溶液の性質 (酸性, アルカリ性, 中性)
- 2) 物の燃え方 燃焼の仕組み

生命分野

- 1) 動物 昆虫, 小さな生物, めだか

地球分野

- 1) 土地のつくりと変化

[準備するもの]

小学校希望

- ・新しい理科（教科書 3～6年）東京書籍 教科書は他出版社のものでもよい
- ・文部科学省著，小学校学習指導要領解説理科編，東洋館出版社，111円(2018)，

幼保希望

- ・新しい理科（教科書3～4年のみでもよい）・幼稚園教育要領 フレーベル館

※教科書は必ず購入してください。教科書取扱い書店が決まっていますのでご注意ください。

※実験を行いますので，汚れてもよい動きやすい服装で来てください。

子どもの生活

専門教育科目／2単位／2年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	鳥居 恭治
■ 使用テキスト	テキスト：生活科で子どもは何を学ぶか 著者：須本良夫 出版社：東洋館出版社 出版年：平成30年3月 ISBN：978-4-491-03503-1
	テキスト：小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 生活編 著者：文部科学省 出版社：東洋館出版社 出版年：平成30年2月
■ 参考テキスト	テキスト：小学校学習指導要領（平成29年度告示） 著者：文部科学省 出版社：東洋館出版社 出版年：平成30年2月

講義概要・一般目標

「生活科」は、児童の直接的、具体的な活動や体験を通して、児童に自分自身と身近な人々、社会や自然の特徴やよさ、それらのかかわりに関心をもたせ、自分自身や自分の生活について考えさせ、また、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせて、自立への基礎を養うことを目標とする教科である。

本講義では、①これまでに明らかになった生活科の課題、②「学習指導要領」の内容、③児童の学習の仕方を尊重した、児童を中心とする学習支援の意義やそれを実践するために必要な具体的な教育方法及び教育指導計画などについて学ぶ。

到達目標

この講義は以下を到達目標とする。

- 1 学習指導要領に示された「生活科」の内容が理解できる。
- 2 児童を自立した生活者となるように方向付ける目標の意義が理解できる。
- 3 具体的な活動や体験を通じて学ぶことの意味が理解できる。
- 4 一人一人の児童の学習と学習方法を理解し、児童の学習の質を高め、科学的な思考に発展させる方法についての手がかりが得られる。

評価方法

科目単位認定試験により評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施する。

学修の進め方

- 1 まず、テキスト『小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 生活編』に目を通す。
- 2 次に、テキスト『生活科で子どもは何を学ぶか』を読む。関心をもった箇所、気になった箇所に目印をつけたり、要点をノートに書き取ったりなどし、理解しながら読む。
- 3 使用テキストの目印をつけた箇所を再度読み、納得できなければ自分で調べる。テキストの章末に記載されている参考文献を読む。インターネットを利用すると、手軽で調べやすいが、インターネットの情報には、注意が必要である。

- 4 調べた結果を整理して、納得できなければメモをしておき、質問をする。
- 5 科目「子どもの生活」に対する自分の学びと理解度を添削課題で確かめる。添削課題は、これだけを知っておれば、「子どもの生活」の内容を全て学んだという類のものではない。自分の学びの程度を知る手がかりである。添削課題がそれまでの自分の学びでは理解できず、解答することが出来なければ、テキスト、参考文献等で調べてさらに学び、解答するとよい。
- 6 添削課題によって、自分の学びの理解の程度が確認して、さらに、学びを深めるとよい。添削課題に関連する内容だけではなく、自分が重要だと考えることに内容についても学習する。
- 7 単位認定試験を受験して、自分の学びの程度を確認する。
- 8 フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返す。

学修指導

生活科は、子どもが、自分の身近な具体的な体験を通じて、ものの見方、考え方、問題解決の仕方を学ぶための教科である。教科目標である自立及び生きる力は、子どもが学びの中から自ら身に付けるものである。ルソーやパスタロッチの流れを汲む児童中心主義、デューイの流れをくむ経験主義の思想や教育方法が基本にあり、子どもの心理的な発達、身体的な発達理論も取り入れられている。受講生が学ぶ教育学や心理学、社会学及び自然科学などの知識と重ね合わせながら、この教科を学んでほしい。

使用テキストのポイントを以下に示す。

第1章 生活科教育のこれまでとこれから

この章では、平成29年3月の改訂の要点を通して、改訂の主旨を理解するとともに、生活科誕生の経緯を学ぶ。

第2章 生活科の目標と気付き

この章では、生活科の目標と内容について学ぶ。そして、子どもの気付きの質の高まりについて学ぶ。

第3章 低学年の児童の実態

この章では、小学校入学前の幼稚園や保育所・認定こども園における幼児の実態や、小学校における低学年の児童の活動の特徴や学びの様子から、幼児期から児童期への接続を図る役割をもつ生活科が目指す資質・能力の育成を学ぶ。

第4章 生活科におけるカリキュラム・マネジメント

この章では、カリキュラム・マネジメントとは何か。そして、それをどのように生活科で活用するのかを学ぶ。

第5章 子どもの成長を引き出す評価

この章では、生活科の評価について知り、どのように評価すればいいのかを学ぶ。

第6章 アリの目と鳥の目で往復で広がる世界の育成を目指した授業

この章では、3年生以降で学ぶ社会科で重視される空間認識について、「たんけん」を軸として資質・能力の育成を考えた単元モデルを学ぶ。

第7章 抽象と具体の往復で深化する気付きの変化を目指す授業

この章では、動くおもちゃ作りの単元を通して、振り返りの場、交流の場、表現する場を位置づけた実践から授業計画作りを学ぶ。

第8章 地域の中で自分の存在を見つめる授業

この章では、地域と自分との関わりや将来の社会への関わりへつながる気付きや資質・能力の育成を考えた実践について学ぶ。

第9章 小さな主権者の育成を目指す授業実践

この章では、主体的な市民の育成につながる気付きや資質・能力の育成を考えた実践について学ぶ。

第10章 問題の発見は活動を繰り返すことから生まれるといった授業

この章では、年間の活動計画や単元計画の中で、繰り返し行われる活動を整理することで一人一人の問題の解決が、発見や気づき、友だちとの交流によって関連付けられたり深化したりするという意識に基づいた実践について学ぶ。

第11章 大切なことは生活科の遊びから学んだといえる授業

この章では、第2学年の「おもちゃ作り」の単元で、因果関係に着目する見方・考え方を育む実践について学ぶ。

第12章 低学年なりの表現を生かす生活科

この章では、3年生以降の教科の学習や、将来の生き方につながる気づきや資質・能力の育成を考えた授業について学ぶ。

第13章 低学年だからこそp4c

この章では、p4cとは何か。そして、p4cを活用した授業作りについて学ぶ。

子どもの音楽

専門教育科目／2単位／1年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	上田 豊
■ 使用テキスト	テキスト：実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現 著 者：石井玲子 編著 出 版 社：保育出版社 出 版 年：2009 I S B N：978-4-938795-78-8
■ 参考テキスト	テキスト：新訂 幼児音楽教育ハンドブック 著 者：全国大学音楽教育学会 編 出 版 社：音楽之友社 出 版 年：2012 I S B N：978-4-276-00183-1

講義概要・一般目標

子どもにとって音楽は、大人とは違った意味を持っている。歌は上手に歌うことではなく、歌うことが遊びそのものであり、また遊びの一部であったりする。

子どもの音楽表現は、子どもが自分の身体を通して周りの世界をつかんでいく過程において芽生えてくる。音楽表現をするには様々な能力が必要であるため、音楽との関わりは子どもの成長にとって大変大きな役割を果たす。そこで、保育者として音の性質や音楽の要素について理解を深め、それが子どもの遊びの中でどのように展開されていくのか、その遊びがどのように音楽的能力を育てていくのかを学び、子どもの発達に合った活動を学ぶ。

到達目標

子どもの音楽的発達を理解し、遊びを通じた音楽活動ができている。子どもの音楽の原点でもあるわらべうたの音楽構造がわかる。オルフ・メソッド、コダーイ・メソッド等子どもの音楽指導法について理解している。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

音楽関係科目は、次の通り配置されています。

- 1年次 前期 子どもの音楽
- 後期 基礎技能（音楽A）
- 2年次 前期 基礎技能（音楽B）
- 後期 基礎技能Ⅱ
- 3年次 前期 子ども発達教育演習Ⅰ
- 後期 初等科教育法（音楽）
- 子ども発達教育演習Ⅱ

上記科目は、音楽そのものの理解と音楽教育にかかるものの二つに分類出来ます。前者は、音楽の知識技能の習得のためのもの、後者は音楽教育の実践に必要なものです。前者には、基礎技能（音楽A・B）、基礎技能Ⅱが、後者には残りの四科目が該当します。

講義概要と到達目標を読むと分かりますが、音楽は、専門性の高い科目なので、学習に当たっては、まず専門用語の理解と音楽表現のための基礎技能の習得が前提となります。それらの最も基礎的な学びは基礎技能（音楽 A）です。それが前提となって、基礎技能（音楽 B）、基礎技能Ⅱの学びが可能となります。

それらを踏まえて、音楽教育系科目である、子どもの音楽、初等教科教育法（音楽）へと進むことが望ましいと言えます。そして、最後に最も専門性の高い子ども発達教育演習へと進んでください。

子どもの音楽では、子どもの音楽的発達の理解（テキスト『実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現』1章「子どもの発達と音楽表現」）が大切です。理由は、教材選び、指導方法などは、発達の理解があって可能となるからです。幼稚園教育は、幼稚園教育要領を踏まえて行われるので、そこも押さえておくことです。中でも領域「表現」の理解は欠かせません。また、保育所保育指針も同様です。

なお、フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

テキスト『実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現』は、対面式の授業での使用を念頭に作られています。そのため、「討論する」「実践する」などの課題が設けられています。そして、音楽系科目では、「歌える」「弾ける」のように、実践できることが目標となります。それを敢えてテキスト科目の教科書に採用したのは、ここでの学びが机上ではあるものの、音楽表現の様々な疑似体験を少しでも生きた学びにしたという考えからです。

テキストは、序章と14の章で構成されています。それらは、内容から大きく三つに分けられます。

序章 表現とは何か？

I部 子どもたちの生き生きとした表現を引き出すためにはどうすればよいか？

II部 それらを実践するために、保育者に必要な表現力を身につけよう！

さらに、本書は、各章のねらいを簡潔に記しています。学習では、各章を構成する節を詳細に学ぶこととなります。それらを順に追っていけば、保育現場における実践課題について、「何故」するのか、「何を」するのか、そして、「どのように」するのか理解でき、実践できるようになります。

以下に、学習の流れを掴むために、各章の概要を記します（本書の記述から）。

序章：「表現」って何だろう？ p.12～

この章では、人間にとって表現するとは何かを考え、総合的な視点で表現活動を捉えることの重要性を学びます。そして、幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「表現」についても考えます。

I部 子どもの表現を受け止め、育てよう

1章：子どもの発達と音楽表現 p.24～

この章では、乳幼児期の発達と、身体全体を使った表現について学び、その中から音楽的表現の始まりを見ていきます。

2章：生活や遊びの中での音楽表現 p.36～

この章では、毎日の生活や遊びの中に見られる子どもたちの音楽表現について、具体的な事例を基に学びます。そして、保育の中で子どもたちの表現を受け止め、育てていくために、保育者は何をすべきかを考えていきます。

3章：うたうことを中心とした表現活動①－わらべうた遊び－ p.48～

この章では、昔からうたい継がれてきた「わらべうた」について学び、保育における「わらべうた」遊びの意義を考えます。また、（わらべうたが）子どもの自発的な表現活動にどのように活かされているのか学んでいきます。

4章：うたうことを中心とした表現活動②－子どもの歌唱－ p.58～

この章では、うたう活動を中心とした子どもの表現活動について学びます。どのようにすれば、子どもたちから、「うたいたい」「遊びたい」という欲求が生まれ、自由な表現ができるようになるかを考えていきます。

5章：「コダーイの音楽教育」から学ぶ p.72～

この章では、「わらべうた」による歌唱教育の重要性に着目したコダーイの音楽教育について学びます。この音楽教育の特徴を理解することは、保育現場でうたうことを中心とした表現活動を行う際に、役立つでしょう。

6章：楽器遊びを中心とした表現活動①－楽器を奏でる－ p.84～

この章では、子どもたちが楽しみながら楽器遊びを行うために、保育者は何をすべきかについて考えます。保育現場で、楽器遊びや合奏をどのように展開していけばよいか、さまざまな角度から学んでいきます。

7章：楽器遊びを中心とした表現活動②－手作り楽器で遊ぶ－ p.96～

この章では、楽器を実際に作って遊ぶことを目的としています。身の回りのものを使って楽器を作る楽しさ、また、その楽器で遊ぶ楽しさを感じ、子どもたちの表現活動に生かす方法を学びます。

8章：「オルフの音楽教育」から学ぶ p.106～

この章では、オルフの音楽教育について学びます。オルフは、即興的に表現することから子どもが音楽が始まると考え、即興表現を重視しました。オルフ楽器や、即興表現を引き出す方法を知ることは、保育現場での楽器遊びやリズム遊び、即興表現に役立つことでしょう。

9章：「ダルクローズの音楽教育」から学ぶ p.118～

この章では、ダルクローズのリトミックについて学びます。リトミックでは、音楽を自由に表現できる身体を作り、身体で豊かな音楽表現ができることを目指します。保育現場において、子どもたちの自由な表現活動を援助するために、リトミックの理念を理解しましょう。

10章：聴く活動 p.130～

この章では、子どもがよい音楽に接することが、いかに重要かを学びます。素晴らしい音楽を聴く体験によって、子どもたちに「うたいたい」「楽器を鳴らした」という気持ちが沸いてきます。普段は気にしていなかった何気ない生活の音や、自然の音を主体的に聴いてみることで、音楽の聴き方も変わってきます。

11章：創造的音楽づくり p.142～

この章では、創造的音楽づくりについて学びます。子ども自身が音を追求し、音楽を作り出し、表現する活動を「創造的音楽づくり」と呼びます。子ども自身が発見し、自己表現することの大切さを学び、保育現場での音楽表現活動に生かしましょう。

Ⅱ部 保育者としての表現力を身につけよう

12章：声や歌で表現する p.154～

この章では、子どもたちの前で表情豊にうたうことができるようになるために、声や歌唱法について学びます。保育者として感性を磨き、表現力を身につけることは、子どもたちの自発的な表現を促すことにつながります。

13章：ピアノで表現する p.166～

この章では、ピアノを通して自分を表現する力を身につけるためにはどうすればよいかを考え、保育現場で子どもたちの歌の伴奏をする時や、弾き歌いをする時に気をつけるべきことについて学びます。

14章：子どもの活動に合わせて即興演奏をする p.178～

この章では、保育者として、子どものさまざまな活動に合わせて即興的にピアノを弾き、うたうことについて考えます。さらに、子どもの歌のメロディに伴奏をつける方法について学びます。

資料 幼稚園教育要領 p.190～

〔参考テキストの解説〕

『幼児音楽教育ハンドブック』

本書は、保育士、幼・小学校教員養成の音楽教育で、活用できるコンパクトな音楽事典として作られたもの。従って、内容は音楽に関する項目（日本音楽から西洋音楽までの基礎知識、音楽理論、楽典、楽器、演奏法など）に加えて、幼児および音楽教育に関する事項（「表現」などの指導法、教育法、遊び、心理、歴史）を取り上げている。自己学習で、よくわからない用語に出くわした場合などに役立つ一冊である。

子どもの図画工作

専門教育科目／2単位／1年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	佐藤 尚宏
■ 使用テキスト	テキスト：保育をひらく造形表現 著者：槇 英子 出版社：萌文書林 出版年：2018年 ISBN：978-4-89347-295-3
■ 参考テキスト	なし

講義概要・一般目標

子どもたちは遊びを通して自分をたしかめ、想像力を耕し世界を理解していきます。幼児期に開花する造形的な想像力は遊ぶ力の豊かさそのもので、造形表現は子どもの根源的な力を育みます。この授業では子どもの造形表現について「何を」「なぜ」「どのように」行われるのか、その意味や意義、役割などについて学修し、現場において実践していくべき方向を考えます。

到達目標

「子どもの造形活動の援助」をテーマとして、造形表現の意義、表現が育むこと、造形の素材や技法、子どもの造形表現の発達段階、造形活動の適切な援助と指導などについて理解する事を目標とする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

- ・添削課題ではできるかぎり網羅的かつ重要ポイントを抜き出して出題しています。テキストを一通り学修した上で、習得度を確認しながらいいねいに取り組んで下さい。テキストを一通り学修する方法は、内容の要約を強くお勧めします。漫然と読み流すのではなく、内容を読みくだけき骨子をまとめることでより深い理解につながるからです。
- ・論述問題では漠然とした感想や考えを書くのではなく「設問で問われていること」について、ひとつひとつ対応させて簡潔に答えるように気を付けてください。問われていることに対して答えていない解答では文章量が多くても点数につながりません。
- ・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

テキストの概要は以下のようになっています。

添削課題では主に1章から4章から出題しています。論述問題では6章を参照します。

*5章については保育指導法（表現）にて別途学修します。

*5章6章については、保育内容指導（表現）、保育内容（表現）にて模擬保育により学修します。

1章 造形表現の意義

この章で示される造形表現の「意味」「意義」「遊びとの関係」の3点は、今後子どもの造形表現を考える上で基盤となる重要な内容です。特に丁寧に読み込んで、十分な理解と内容の定着が必要です。

2章 表現を育む人になる

まず、p15 を読み込んで、子どもの「表現を育む人」になるためにどのような構え（心と身体の在り方）が必要かを理解してください。次に、そのような構えを身につけるためのレッスンとして紹介されている具体的な 26 種類の題材・活動については、1) 文章からその意味・意義を理解する。2) 実際に体験して感覚を掴む。という両面からの学修が不可欠です。できるかぎり自分で実際に制作体験をしてください。

注) P17、p20、p25 スクラッチとにじみ絵は、基礎技能と基礎技能Ⅱのスクーリングで体験してもらう予定です。

3章 造形を楽しむための造形

この章では「幅広い造形の言葉の獲得に役立つ造形活動」が紹介されています。2章（構え）ではなく、造形表現の言葉として知識や技能を獲得するためのレッスンです。造形表現に苦手意識のある人は特にそうですがそうでない人も、情操（価値あるものに向かう感情）を感じながら「うまく」ではなく「自由に」表現する力の獲得を目指して、できるだけ実際に体験してみましょう。

注) p37 下は基礎技能Ⅱのスクーリングで体験してもらう予定です。

4章 子どもの造形表現の発達

子どもたちの発達段階や個人差にあわせた援助・指導を考えるためには、この章を丁寧に学修して内容の理解と定着をする事が必要です。1. 造形表現の発達論について P70 下の具表 4-2 で全体像を掴んだ上で読み込んでいくとわかりやすいかもしれません。2. 子どもの描画の特徴とその背景については、具体的な事例写真の図版から特徴を理解してください。3. 4. は実際に子どもたちとかわるシーンを想像しながら、どのような子どもにどう関わるのが適切かという問題意識を持って読み込んでいきましょう。

5章 造形表現指導の実際

この章では実際に子どもたちの保育・指導をどのように行うかという実践的な内容について学修します。1. 指導のねらい、2. 保育者の役割、3. 指導形態、で基本的な概念を学修した上で、4. 間接的な援助、5. 直接的な援助、では保育者の具体的な役割（行為）について示されています。自分がやるとしたら？という姿勢でひとつひとつシミュレーションしながら読み込んでいきましょう。6. は総合的な実践学習としての模擬保育の仕方を理解してください。実際の保育・指導をよりよくする時に重要なポイントとなるのが、7. 表現の動機と意欲、8. 表現の個人差と読み取り、です。どのような工夫や働きかけが必要かを丁寧に学修してください。

6章 保育をひらく造形カタログ

造形的な活動や教材のプログラム集です。どのような題材・課題があるか一通り目を通しておきましょう。また実際の保育の現場で題材・課題を考える時に役立ててください。

7章 創造的な生活を楽しむ

つくり出し表現する楽しさが保育の枠を超えて地域に広がっている姿を紹介します。社会の一部としての保育について考えてみましょう。

子どもの家庭

専門教育科目／2単位／2年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	幸坂 寛子／中野 明子（オムニバス）
■ 使用テキスト	テキスト：小学校家庭科概論 生活の学びを深めるために 著 者：加地芳子・大塚真理子 出 版 社：ミネルヴァ書房 出 版 年：2011 I S B N：978-4-623-05994-2
■ 参考テキスト	小学校学習指導要領解説 家庭編／文部科学省／東洋館出版社

講義概要・一般目標

家庭科教育は、快適な家庭生活を営むために達成しなければならない生活課題を達成するための能力を学校教育の中で育成するための重要な担い手である。生活課題の内容や解決手段が複雑化・多様化する中で、自分の意思と判断力に基づいた行動ができる実践力を持った生活主体者を育成することが家庭科に課せられた役割である。

また、家庭生活を中心とした人間生活の自然科学的・社会的認識や生活技術の修得とともに、生活課題を解決するいわゆる問題解決能力の習得をめざし、体験的な学修を通して生活を想像発展させることが重要課題として挙げられる。

そのため、この講座では、子どもたちが生活者として自立する上で必要な生活技術と知識について、家族・家庭生活、食生活、衣生活、住生活、消費生活・環境の各分野の内容について理解を深める。また、子どもを取り巻く社会の変化に対応した共に生きる地域づくりについて考えるとともに、生活の質の向上をめざし、子どもたちの生活者としての自立能力を育てるために、楽しみながらおこなうことのできる実践的体験学修のあり方について学ぶ。

調理や被服製作など実技指導に必要な基礎技術については、実践課題及び報告レポートの提出により技術の修得および向上に努めることが望ましい。

到達目標

- ・子どもたちが生活者として自立する上で必要な、「家庭生活と家族」「食生活」「衣生活」「住生活」「消費生活と環境」の各分野の内容を理解することができる。
- ・子どもたちを取り巻く社会の変化に対応した“共に生きる地域づくり”の必要性についての認識を深めることができる。
- ・小学校家庭科を指導する上で必要な、調理や被服製作などの基礎的な生活技術を身に付け、自己の家庭生活に役立てることができる。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

(幸坂 寛子)

子どもたちが“やった！できた！”“もっと出来るようになりたい！”と思える様な授業をするための教材研究として最も大切なことは、教師が家庭科を楽しむ気持ちを持つことである。子どもたちにやる気を起こさせ、技能をしっかりと身に付けさせるための手立てを考えるためには、教師自らが実践し、さまざまなポイントに気付くことが何より大切である。

家庭科は日々の生活の中で必要な“よりよく生きるための力”を学ぶ教科であり、指導する者も毎日の生活そのものが教材研究であるという視点で、生活を豊かにする力を身に付けていただきたい。そのため、第3章、4章、6章の調理や被服製作など実技指導に必要な基礎技術については、実践課題及び報告レポートの提出により、技術の修得および向上に努めていただきたい。

(中野 明子)

家庭科教育の意義や目標を確認し、教科書の各章を読んで下さい。「学修の手引き」の〔テキストの概要と学修のポイント〕を参考に、全体の内容を掴みましょう。分からない言葉や項目は調べてみましょう。学修ノートを用意してメモしておけば、添削課題でも役に立ちます。添削課題で出題されている内容も教科書で確認しながら学習を進めて下さい。添削課題の発展問題については、積極的に参考文献や資料にあたり生活の問題についての理解を深めて下さい。以上のような学習を繰り返しおこない、単位認定試験を受けて下さい。

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントをつけて返します。

学 修 指 導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

第1章 小学校家庭科について

近年、家庭教育力の低下が問題視されており、その中で学校教育における家庭科教育の存在意義は大きい。学校教育における家庭科とはどのような特質を持った教科であるか、家庭科教育の意義や教育的特質を踏まえ、小学校家庭科の必要性を理解するとともに、学修する意義について理解し、小学校家庭科において児童に何を学ばせるのか、何を身に付けさせるのかを考えてほしい。

学習指導要領の改訂による内容や取り扱いの変更を理解し「生きる力」を育てる家庭科教育の在り方を模索してほしい。

第2章 家庭生活と家族

「家族と家庭生活」を取り巻く現状を、次の3つの側面から説明している。(1)少子高齢化、(2)ワークライフバランス(男女が共に仕事と生活(家事・子育て)のより良いバランスを考える必要性)、(3)子どもの生活課題、である。

また、現代社会において家族本来の機能が失われている傾向があり、もう一度家族の機能や役割を捉え直し、近隣相互の関わり合いを大切に、「共に生きる地域づくり」を目指すことの重要性についてもふれている。

第3章 日常の食事と調理の基礎

我が国の食生活は豊かになり、核家族や夫婦共働き家庭の増加などの家族形態の変化とともに、今、子どもたちを取り巻く食生活が大きく変化してきている。子どもの食生活の実態や食環境を理解し、子どもたち一人一人が自分の食生活を自己管理し、健康を保持し、さらには日本の食文化の継承の担い手となることの意義について考察してほしい。

学習指導要領の改訂により、中学校で扱っていた五大栄養素を小学校で扱うことになった。食事に含まれる栄養素が身体の成長や活動の源になることを理解し、五大栄養素の体内での働きと多く含む食品についての理解を深める必要がある。

栄養バランスのよい食事のための食品の組み合わせについて、食品の中に含まれる栄養素の体内での働きにより3つのグループに分けられることを理解し、食品を分類できることが大切である。小学校学習指導要領では栄養を考えた食事について、1食分の献立を考えることが示されているため、実際に栄養のバランス、彩り、味のバランスにも配慮した献立を考えてほしい。また、食事の生理的機能だけでなく精神的機能、文化的機能についての認識を深めてほしい。食事に対する感謝の気持ち、食事を大切にする意識を高めることの大切さを認識するためにもぜひ、自分自身の食生活を見直してほしい。

小学校学習指導要領に示されている米飯、味噌汁、ゆで物もしくは炒め物について実際の調理を行い、実践報告レポートとして提出する。その際、米飯は炊飯器を用いず、なべ炊きとすること、味噌汁の出しは煮干を使用すること、調理に用いる食品については生の魚や肉を扱わないことなど、学習指導要領の解説に明記された内容を配慮することが望ましい。

第4章 快適な衣服と住まい（1）衣生活

新学習指導要領では衣生活を住生活と結びつけて考えるよう改訂された。このことは人間を取巻く環境を快適に整えることの重要性に他ならない。身体に最も近い環境である衣服を快適に、よりよくしようと工夫する能力、実践的態度が大切である。「なぜ着るのか」を中心に「どう着るのか」を衣服の機能をふまえて考え、機能に応じた着用とマナーについて理解する。また、手入れに関しては、洗濯やしみ抜きなどの被服管理についての基本的な知識と技術を修得してほしい。

第5章 快適な衣服と住まい（2）住生活

日本の住宅事情は量的な面では大幅に改善されたが、高齢者向きに整備された住宅が少ないなどの課題もある。ここでは、小学校家庭科における、整理・整頓や清掃、季節の変化に合わせた快適なすまい方の学習を通して、児童が小学生の段階から住生活について関心を持ち、工夫する能力を育てることの必要性を述べている。

第6章 快適な衣服と住まい（3）製作

小学校学習指導要領に示されている縫い方の基礎技術を修得する。特に手縫いとしてなみ縫い、本返し縫い、半返し縫い、かがり縫いの正しい方法についての理解をしておくことが大切である。またミシン縫いに関してミシンの取扱方法、直線縫い、返し縫の方法を理解する必要がある。針と糸の関係、上糸と下糸の調節、縫いはじめや縫い終わり、角の縫い方など、直線縫いをするうえで必要な基本的技術を正しく理解し修得してほしい。

身の回りの生活に役立つ布を用いたものに関心を持ち、布を用いて作品製作に取り組んでほしい。そのため、基礎的な布の種類や特徴についての知識を理解しておくことも大切である。作品について、使用目的やそれともなう製作計画、製作手順、完成した作品の写真等を添付した実践報告レポートを提出する。

家庭において“縫って物を作る”ことが少なくなってきた今日、生活技能を修得するとともに手づくりのあたたかさや作り上げた時の達成感を、子どもたちにもぜひ感じてほしいものである。

第7章 消費生活と環境

暮らしの経済を考え、環境に配慮した生活をするために留意すべきことが述べられている。まず消費者教育について、次の4つの項目をあげて解説している。(1) ものや金銭の使い方における基本的な事項、(2) 買い物の際の留意点 (3) 契約取引における留意点 (4) 消費者の権利と責任を守る仕組み、などである。つづいて、環境教育については、国が2000年に施行した「循環型社会形成推進基本法」の目標に「循環型社会の構築」があげられていること、その目標の達成のために、国は、ゴミ問題や環境負荷を軽減するための「5R」(①発生抑制 ②再使用 ③再生利用 ④熱回収 ⑤適正処分)の取り組みを推進していることが述べられている。また、温暖化や化学物質問題などの地球環境問題について理解する必要性についてもふれている。さらに環境に配慮した身近な取り組みとして、①衣食住の工夫、②食品ロス、③消費者に求められる環境保護行動、⑤チャレンジ25キャンペーンなどの項目をあげ、説明している。

子どもの体育

専門教育科目／2単位／2年前期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年5月8日(土) 9:30~18:20 2日目 令和3年5月9日(日) 9:30~18:20 3日目 令和3年5月23日(日) 9:30~18:20 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年4月30日(金) 必着	該 当 時 間 割	B
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス第1体育館または第2体育館 (岡山県高梁市伊賀町8) 一高梁キャンパス校舎・敷地配置図参照一		

■ 担当教員	久保園 明美／高田 康史
■ 使用テキスト	スクーリング時に資料を配布
■ 参考テキスト	テキスト：小学校学習指導要領解説 体育編 著 者：文部科学省 出 版 社：東洋館出版社 テキスト：幼稚園教育要領 平成29年告示 著 者：文部科学省 出 版 社：東山書房

講義概要・一般目標

本講義では、体育科の目的・目標を歴史的変遷から概観し、現在求められている体力・運動能力、および健康観を理解することから、実際の授業で取り扱われる内容とその教授法、保健領域への取り扱い、評価の問題についての理解を目的とする。

到達目標

到達目標としては、子どもの体や運動に関する発達についての理解から、小学校や幼稚園などの教育現場で円滑に体育科の授業および運動指導が実施できるように、年間指導計画、単元指導計画の立案や、学習指導案の作成法を学修し、実践的な能力を育成することを目標とする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

子どもの体や運動の発達に関する基礎的な知識について事前に学習しておくとともに、幼児期～児童期に行われている現行の体育・スポーツ指導についての問題点等を明らかにしておく。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

体力・運動能力の育成は現在の子どもにとっては改善すべき重要な課題であることをスクーリングにおいて改めて認識した上で、教育実習等において年齢や発達に応じた運動指導ができるように指導計画の立案を繰り返し行う。

〔フィードバック〕

スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行いません。

学 修 指 導

1 日 目	講義 1 オリエンテーション及び準備体操・ストレッチ法
	講義 2 体を使った運動遊び おにごっこ
	講義 3 用具を使った運動遊び① フープ、新聞紙、短縄
	講義 4 用具を使った運動遊び② バランスボール、ペダロ
	講義 5 用具を使った運動遊び③ 竹馬・一輪車、ドッチビー
2 日 目	講義 6 伝承遊び・ごっこ遊び
	講義 7 集団のできる運動遊び（ながなわ）
	講義 8 幼児のダンス・体操
	講義 9 指導案作成
	講義 10 模擬指導
3 日 目	講義 11 体育科での発達段階に応じた指導のポイント① 低学年の体育指導
	講義 12 体育科での発達段階に応じた指導のポイント② 中学年の体育指導
	講義 13 体育科での発達段階に応じた指導のポイント③ 高学年の体育指導
	講義 14 指導計画の策定および評価
	講義 15 総括
	講義 16 科目単位認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

子どもの発達と運動について勉強しておいて下さい。

講義に加えて、実技も実施するので、体調を整えて受講して下さい。

〔準備するもの〕

運動のできる服装、体育館シューズ、タオルなど、着替え等

* 晴天時、屋外での活動を行う場合があるので外用運動靴の用意をしてください。

* バスタオル・フェイスタオルを講義・実技で使用します。

〔その他〕

適宜、水分補給ができるように各自準備しておいてください。

子どもの英語

専門教育科目／2 単位／2 年後期開講／スクーリング授業

日 時	1 日目 令和 3 年 12 月 4 日 (土) 9:30～18:20	該 当 時間割	B
	2 日目 令和 3 年 12 月 11 日 (土) 9:30～18:20		
	3 日目 令和 3 年 12 月 12 日 (日) 9:30～18:20		
	〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和 3 年 11 月 26 日 (金) 必着		
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス (岡山県岡山市北区岩田町 2-5)		

■ 担当教員	池上 真由美
■ 使用テキスト	テキスト：小学校英語はじめる教科書 著 者：吉田研作（監修）、小川隆夫、東仁美 出 版 社：mpi 出 版 年：2018 年 I S B N：9784896437430 (旧 ISBN：978-4-89643-584-9)
	テキスト：小学校学習指導要領解説 外国語活動編 外国語編 新版 著 者：文部科学省 出 版 年：2018 年 (文部科学省ホームページよりダウンロード可)
■ 参考テキスト	テキスト：「Let' s Try! 1、2 指導編」「We Can! 1、2 指導編」 著 者：文部科学省 出 版 年：2018 年
	テキスト：小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ 著 者：酒井英樹・滝沢雄一・亘理陽一 出 版 社：三省堂 出 版 年：2017 年 I S B N：978-4-385-36138-3

講義概要・一般目標

英語の言語的な特徴や第二言語としての習得のメカニズムを理解し、発達段階に応じた効果的な学習方法について理解を深める。

到達目標

テーマ：小学校外国語科内容論

到達目標：小学校で英語を教えるために必要な基礎的な知識を理解する。

評価方法

授業態度及び科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web 学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

担当者は、公立小学校において、13 年間の教職経験がある。その指導経験を生かして、各講義において、実践的な演習やグループワークを行い、実際の授業で活用できる英語運用力を養う。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

お知り合いに子どもの英語の指導に携わっている人がいれば聞いてみてください。知り合いなどがいらっしゃらない場合は、インターネットなどで子どもの英語について把握しておいてください。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

自分なりに子どもの英語に触れる機会を捜してみてください。インターネットなどで情報を仕入れたり、テレビの教育番組の子どもの英語を視聴したり、地域の小学校のオープンスクールなどで実際の外国語活動や英語の授業を参観したりして、学修を深めることをお勧めします。

〔フィードバック〕

スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行いません。

学修指導

1 日 目	講義 1 オリエンテーション、小学校英語教育の変遷
	講義 2 第二言語習得理論と語用論
	講義 3 英語の音声
	講義 4 発音と綴りの関係
	講義 5 英語の文構造・文法
2 日 目	講義 6 英語の語彙
	講義 7 児童文学（絵本）
	講義 8 児童文学（子ども向けの歌や詩）
	講義 9 異文化理解
	講義 10 英語の書き方
3 日 目	講義 11 英語コミュニケーション（聞くこと）
	講義 12 英語コミュニケーション（読むこと）
	講義 13 英語コミュニケーション（話すこと）
	講義 14 英語コミュニケーション（書くこと）
	講義 15 英語コミュニケーション（領域統合型の言語活動）
	講義 16 1日目から3日目までの講義の内容を試験で問います。 科目単位認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

小学校では、新学習指導要領が令和2年度から全面実施となりました。文部科学省のホームページには、新学習指導要領や新学習指導要領解説などの資料が数多く掲載されています。また、書店の教育コーナーにも、小学校外国語活動や小学校英語に関する本や資料がたくさん並んでいます。目を通していただければ、スクーリングでの講義の理解が進むと思います。

また、移行期に各学校に配付された、「Let's Try! 1,2」と「We Can 1, 2」の指導編に目を通し、各学年の指導内容を把握しておく、講義の中で行われる演習における理解が深まります。

〔準備するもの〕

- ・使用テキスト「小学校英語はじめる教科書」「小学校学習指導要領解説（外国語），（外国語活動）」
- ・ノート・筆記用具・USB など

〔その他〕

最終日（3日目）には、英語の活動（アクティビティ）を中心に模擬授業をしていただき、学修を深めていきます。文部科学省や教育委員会などのホームページで小学校外国語活動・外国語の授業について把握しておいてください。また、お知り合いに小学校の先生や小学校外国語活動・外国語に携わっている方がおられれば、どのような授業が行われているのかを聞いておいてください。模擬授業の参考になると思います。

保育指導法（健康）

専門教育科目／2 単位／2 年前期開講／テキスト授業※

■ 担当教員	中尾 道子
■ 使用テキスト	テキスト：事例で学ぶ保育内容 領域 健康〔新訂版〕 著 者：無藤隆 監修 倉持清美 編者代表 出 版 社：萌文書林 出 版 年：2018 I S B N：978-4-89347-256-4
■ 参考テキスト	テキスト：幼稚園教育要領解説―平成 30 年 3 月 著 者：文部科学省 著 出 版 社：フレーベル館 出 版 年：2018 I S B N：978-4577814475
	テキスト：保育所保育指針解説書―平成 30 年 3 月 著 者：厚生労働省 著 出 版 社：フレーベル館 出 版 年：2018 I S B N：978-4577814482

○2019（平成 31）年度以降の入学生

この科目はテキスト科目ですが、対象者の方へは講義内容を補うスクーリングを実施します。

日 時	令和 3 年 8 月 28 日（土） 11：20～12：20
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス短大 3 号館保育演習室（岡山県高梁市伊賀町 8）
■ 事前提出物	課題内容については『添削課題集』に掲載しています。
■ 提出期限	令和 3 年 7 月 23 日（金） 大学必着
■ 使用テキスト	「幼稚園教育要領解説（平成 30 年 3 月）」 文部科学省ホームページよりダウンロードができます。

講義概要・一般目標

児童期の体力・運動能力は総じて低下の傾向にあると言われている。これは児童期の体力・運動能力の基礎となる幼児期の運動機会の減少が理由の 1 つと考えられる。そこで、本講義は、幼稚園教諭を志望する者を対象とし、生涯を通じて健康で安全な生活を営む基盤としての幼児期の健康への配慮について理解することを目的とする。また、幼稚園において運動指導及び運動関連の行事運営を実践するため、発達段階の理解や発達に応じた運動指導の重要性及び方法について理解することを目的とする。

到達目標

理論的前提の理解はもとより、教育現場（幼稚園）での運動指導の計画の策定、指導案の作成、指導技術の習得を到達目標とする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー（学生の問い合わせ・相談に応じる時間）

Web 学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

本講義は、「健康」領域に関わる保育内容の理論を学習することを目的としており、基本的にはテキスト及び幼稚園教育要領、保育所保育指針を中心に学習を進めればその内容を理解することができるよう添削課題を作成している。適宜質問等があれば web 学習支援システムにて質問を募集している。また、フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

第1章 幼児教育の基本

この章では、「環境を通しての保育」の捉え方を知り、遊びを通しての学びとは何か考え、幼児教育の基本を学ぶ。

第2章 子どもの育ちと領域「健康」

この章では、乳幼児期を通して子どもの運動機能や身体の発達の姿を概観する。そして、心と体の健康は相互に密接な関連があることを学ぶ。

第3章 子どもの「健康」をめぐる現状と課題

この章では、子どもの運動能力低下の背景や原因を検証することによって、幼児期に育てるべき運動能力とは何か、大人とは異なる子どもの発達特性とは何かを明らかにしていく。そして、幼児期に必要な身体活動は運動遊びであり、大人のスポーツとは異なるということ学ぶ。

第4章 子どもの健康と遊び

この章では、子どもの心と体の発達を促す実践を知るとともに、子どもの多様な動きを引き出すための、保育者の関わり方や教材研究の重要性、場所の使い方など、具体的な環境の構成について学ぶ。

第5章 園生活と生活習慣

この章では、子どもたちが園生活のなかで生活習慣を身につけるためには、保育者としてどのような援助が必要になるのか、事例を通して生活習慣を育むことについて学ぶ。

第6章 子どもの健康と安全教育

この章では、子どももやがて成長し、大人の庇護から旅立ち、健康で安全な生活を自ら送るために、幼児期にどのような健康で安全に関する基礎的な力を育むべきかについて学ぶ。

第7章 幼児教育の現代的課題と領域「健康」

この章では、その後の人生にとってきわめて重要である、体の諸機能の発達や安全で健康な生活を送るための習慣形成に対し、子どもを取り巻く諸問題を取り上げ、今後、保育ではどのような点を重視しなければならないか学ぶ。

※〇2019（平成31）年度以降の入学生

講義内容を補うスクーリングの詳細については、『添削課題集』の「テキスト科目における指導案の作成及び模擬授業等のスクーリング実施について」をご確認ください。

保育指導法（人間関係）

専門教育科目／2単位／3年前期開講／テキスト授業※

■ 担当教員	藤井 伊津子
■ 使用テキスト	テキスト：最新保育講座8『保育内容「人間関係」』 著者：森上史朗・小林紀子・渡辺英則 出版社：ミネルヴァ書房 発行年：2016年 ISBN：978-4-623-05498-5
■ 参考テキスト	「幼稚園教育要領解説」 「保育所保育指針解説書」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

○2019（平成31）年度以降の入学生

この科目はテキスト科目ですが、対象者の方へは講義内容を補うスクーリングを実施します。

日 時	令和3年8月28日（土）15：30～16：30
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス短大3号館保育演習室（岡山県高梁市伊賀町8）
■ 事前提出物	課題内容については『添削課題集』に掲載しています。
■ 提出期限	令和3年7月23日（金）大学必着
■ 使用テキスト	「幼稚園教育要領解説（平成30年3月）」 文部科学省ホームページよりダウンロードができます。

講義概要・一般目標

この教科では、人間にとっての人間関係の意義や子どもを取り巻く環境について、学生自身の人間関係や生育環境を振り返りながら、学修を進めてほしい。とりわけ乳幼児期に、子どもが大人や同胞との人間関係を通して、心身共に成長・発達していくことを理解することが重要である。また、子どもの人間関係に見合った遊び支援や教育指導、仲間との関係形成、あるいは不適応行動に対する援助のあり方について、実践的な事例などを通して考察することも重要である。

到達目標

この教科では、子どもの人間関係のあり方について理解し、子どもが様々な人間関係を通して成長していくことを学べる。子どもの人間関係上のトラブルやそこから起こる様々な問題への支援のあり方を学ぶことができる。人間関係の重要性について認識し、望ましい人間関係の形成について考察することが目標である。

オフィスアワー（学生の問い合わせ・相談に応じる時間）

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

- ・テキスト『保育内容「人間関係」』を基本的な文献として、子どもの人間関係のあり方や人間関係の発達について、事例なども通して具体的に学んでほしい。また、『幼稚園教育要領解説』には、教員としての倫理や幼児教育の考え方、方法などが述べられているので、じっくりと読み進め、自らを振り返り、より望ましい教員になるための糧にしていきたい。
- ・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

第1章 保育の基本と人とのかかわり

この章では、生きる力の原点としての人間関係について、幼稚園教育要領と保育所保育指針における保育の基本的な考え方を、事例を通して具体的に理解する。

具体的には、①「生きる力」の原点としての人間関係、②人とのかかわりの基礎を育てるとは、③幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育の基本、④教育要領・保育指針のしくみ、について学ぶ。

第2章 乳幼児期における人とのかかわりの発達

この章では、誕生から6歳頃までの人とのかかわりの発達について、それぞれの時期の特徴とその筋道について、理解を深める。

具体的には、①0歳代の人とのかかわり、②1歳代～2歳代の人とのかかわり、③3歳以降の人とのかかわり、について学ぶ。

第3章 遊びのなかで育つ人とのかかわり

この章では、学生の実習記録の中から、幼稚園や保育所での遊びの中で、子どもたちが「人とのかかわり」をどのように深め、広げていこうとしているのかを理解する。

具体的には、①人とのかかわりと遊び、②遊びのなかでの人とのかかわり、について学ぶ。

第4章 人とのかかわりを育てる保育の実践

この章では、保育の現場で実際に起こったエピソードを中心に、子どもが変わっていくとはどのようなことかを考えていく。

具体的には、①人とかかわれない、かかわらない子どもたち、②人とかかわる力が育っていくプロセスとは、③ロールプレイを通して保護者への対応を考える、④子どもの気持ちに向き合うとは、⑤子どもたちの関係を育てる保育とは、⑥事例を通して学ぶこと、について学ぶ。

第5章 人とのかかわりを育てる保育者の役割

この章では、人とのかかわりを育てる保育者の役割について考える。一つ目は、保育者自身の生き方や人とのかかわり方、人間関係のあり方が、子どもの人間関係にどのように影響を及ぼしているのかについて探る。二つ目は、子どもの人間関係を育む保育者の役割について、具体的に考えていく。具体的には、①さまざまな職業の人とかわる保育者、②ともに生活するモデルとしての役割、③対話者としての役割、④理解し、援助する者としての役割、⑤人間関係をどのように記録するか、について学ぶ。

第6章 人とのかかわりが難しい子どもへの支援

この章では、人とかわることに難しさを感じる子どもへの支援について考えていく。

具体的には、①園で初めて体験する、②さまざまな「人とのかかわりが難しい子」への支援、③園生活に馴染めなかったM子の育ちを追って、④悩む親を支える、⑤気になるときが保育を見直すとき、⑥さまざまな連携、について学ぶ。

第7章 家庭、地域の生活と人とのかかわり

この章では、子どもの成長にとって家庭や地域の人間関係も大切であることを理解する。

具体的には、①園における生活と人とのかかわり、②家庭における生活と人とのかかわり、③地域における生活と人とのかかわり、について学ぶ。

※O2019（平成31）年度以降の入学生

講義内容を補うスクーリングの詳細については、『添削課題集』の「テキスト科目における指導案の作成及び模擬授業等のスクーリング実施について」をご確認ください。

保育指導法（環境）

専門教育科目／2 単位／3 年後期開講／テキスト授業※

■ 担当教員	藤井 伊津子
■ 使用テキスト	テキスト：新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 環境 著 者：無藤 隆監修 福元真由美編集代表 出 版 社：萌文書林 出 版 年：2019 年(新訂版第3刷発行) I S B N：978-4-89347-258-8
■ 参考テキスト	テキスト：①保育・幼児教育シリーズ 環境の指導法 著 者： 若月芳宏編著 出 版 社： 玉川大学出版部
	テキスト：②幼稚園教育要領解説(最新版)
	テキスト：③保育所保育指針解説書(最新版)

○2019（平成 31）年度以降の入学生

この科目はテキスト科目ですが、対象者の方へは講義内容を補うスクーリングを実施します。

日 時	令和 3 年 12 月 19 日（日） 17：50～18：50
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10 号館（岡山県高梁市伊賀町 8）
■ 事前提出物	課題内容については『添削課題集』に掲載しています。
■ 提出期限	令和 3 年 11 月 19 日（金） 大学必着
■ 使用テキスト	「幼稚園教育要領解説（平成 30 年 3 月）」 文部科学省ホームページよりダウンロードができます。

講義概要・一般目標

幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領（新改訂）に「環境を通して行う教育」と再確認された領域「環境」の「ねらい及び内容」について背景となる環境の専門分野と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて実践的な指導方法の基本を身に付けることです。

保育指導法（環境）では、幼児期における環境（自然環境・物的環境・人的環境・社会環境）に主体的にかかわることにより感性を豊かにし、人間として生きる力の基礎となる心情、意欲、態度などを身に付けていく意義を学習し、保育指導法（環境）の指導に保育者として必要な知識・技能を修得することを目標とする。加えて保育計画、指導計画（短期・長期）における環境構成のあり方を実践事例から学び、保育環境の中で保育者が果たすべき役割など、実践的な保育指導のできる能力を修得します。

幼稚園教育要領・保育所保育指針には、「環境」は子どもたちの身の回りの動植物、水や木、気象現象など、自然事象、紙やプラスチック遊具や用具などの人工素材、ヒトの生活や、生活に関係ある施設・設備、各種の行事や情報、数量や図形、文字など広範な活動を想定して、具体的な指導方法の「ねらいと内容」が設けられ、その保育と幼児の支援・指導することの意義が示されている。

本教科では領域「環境」の指導事例を学び、実践的指導方法を修得することが目標です。なお、本テキストによる講義では、「学修指導」に示す項目について多くの専門家による「環境」の具体的な指導・支援の実践事例が示されており、これらについて良く考察し、保育環境の場で保育者が果たすべき役割の修得をすることが期待されます。

到達目標

幼児の発達や学びの過程を知り、保育における環境とのかかわりを通して具体的な指導場面を想定し、以下に示す領域（環境）の実践的な指導法を修得することが到達目標です。

- 1) 幼児の認識や思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
- 2) 領域（環境）の特性や幼児の体験との関連を考慮し情報機器及び教材の活用法を理解している。

- 3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案の作成をすることができる。
- 4) 模擬保育を想定して、保育を構想し、保育を改善する視点を身に付けている。
- 5) 領域（環境）の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育指導の向上に取り組むことができる。

評価方法

科目単位認定試験により評価する。

オフィスアワー（学生の問い合わせ・相談に応じる時間）

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

本科目は担当経験があり、学生たちと学外での自然観察や文化財探索、植物栽培などを通して、保育と身の回りの環境との関わりについて、共に考えてきました。

通信教育課程においてもその経験を活かして、子どもと身近な環境との関わるについて、特に自然環境と保育実践について、一緒に考えていきたいと思えます。

学修の進め方

1. 「保育指導法（環境）」において、領域（環境）の指導法の実技・実践について学ぶ
「保育内容（環境）」において学修した理論を発展させ、領域「環境」の指導法の具体的な実技・実践について学びます。
2. テキスト（教科書）の活用の仕方
本教科では、「保育指導法（環境）」（実技・実践編）のテキスト（教科書）を中心に、「保育内容（環境）」で学んだ理論を基礎に、提示されている参考テキストの具体的事例も参照し、「環境を通して行う教育」の具体的な領域「環境」のあり方を学修し、幼児教育における領域「環境」の指導法のさらなる充実を図って下さい。
3. 「マイノート」の作成の重要性
「保育指導法（環境）」（実技・実践編）のテキストを中心に提示されている重要課題とその説明・例示・順次各項目について整理し、単に読むのみでなく図示化も含め、「マイノート」を作成し、幼児期における「環境を通して行う境域」の実技・実践の理解を深めることを薦めます。
4. 幼児教育の分野における特別用語の理解
「保育指導法（環境）」（実技・実践編）のテキストの中には、他の分野では使わない幼児教育の説明に必要な特別の用語がしばしば使用されています。それらの用語にも着目して説明の理解を深めるためにも、「マイノート」に記載して確認をするようにしましょう。
5. 理解の確認としての科目単位認定試験について
・添削課題は、50点以上の得点がない場合、「科目単位認定試験」の受験はできません。目的意識を持って課題に取り組んで下さい。添削問題の形式は、正誤・選択問題、空所補充問題、論述問題等です。テキストについては説明文の内容理解を優先し、空所補充問題に臨み、論述問題では文字数制限（200～250字程度）の解答に注意して下さい。また少数ですが選択問題を含め無回答の受講生もあります。課題に対しては意欲を示し、必ず解答しましょう。
6. 課題レポートに対するフィードバックについて
フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。参考にして下さい。また添削課題についても模範解答を参考に再確認をして下さい。

学修指導

〔テキストの概要と学習のポイント〕

シラバスを中心に以下の項目により学習が進められますが、テキストでは内容をより詳細に説明するために、項目が複数の章にまたがり説明されている場合があります。（テキスト参照）に注意し、関連項目を確認して学習を進めてください。

1：幼児教育の基本（テキスト 第1章参照）（*テキスト第1章、参考テキスト 参照）

ここでは、幼児期にふさわしい教育の中核をなす「環境通しての保育」は身近な環境に能動的にかかわり、遊びを通しての資質・能力を育む。それが幼児教育の終わりまでに育てほしい姿に着目し、領域「環境」の幼児教育における位置づけと小学校以降に成長できる指導ポイントの基本を学習する。（*なお、できれば参考書も参照しながら、各項目の内容把握をしてください。）

- 1) 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における幼児教育の捉え方とは
 - ・幼児教育の根幹 ・育みたい資質・能力 ・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
 - ・「資質・能力」を育む3つの学び
- 2) これからの0～2歳児の保育
 - ・非認知と認知能力 ・養護と教育の一体性 ・0～2歳児保育における「視点」から領域へ
 - ・「視点」と「領域」
- 3) 幼児教育の自的と領域
 - ・幼児期にふさわしく教育するとは ・小学校以上の教育の基盤として
 - ・家庭や地域の教育とのつながりのなかで ・子どもの発達を促すとは
 - ・保育内容がもつ意味
- 4) 環境を通しての教育
 - ・環境に置かれたものと出会う ・園という場が探索の場となる ・保育者が支える
 - ・子ども同士の関係のなかから始まる ・子どもが活動を進め組織し計画する
- 5) 幼児教育の基本
 - ・幼児期にふさわしい生活の展開 ・遊びを通しての総合的な指導/
 - ・一人一人の発達の特性に応じた指導 ・計画的な環境の構成
- 6) 保育者のさまざまな役割
 - ・用意し、見守り、支える ・指導し、助言し、共に行う ・共感し、受け止め、探り出す
 - ・あこがれのモデルとなる ・園のチームとして動く
- 7) 保育内容の5領域における「環境」
 - ・「環境」のねらい ・「環境」の内容 ・「環境」とほかの領域との関係
- 8) この章で学んだことのまとめ

2：乳幼児の育ちと領域「環境(事例考察) (テキスト 第2章参照)

ここでは、子どもにとっての環境の意味について、具体的事例を踏まえ、「乳幼児期の発達における環境とのかかわり」「乳幼児と環境とのかかわりを支える人」の視点から考える指導のポイントを学習する。

- 1) 乳幼児にとっての環境
 - ・子どもを取り巻く環境 ・発達における環境のふたつの側面 ・子どもと環境との関わり
- 2) 乳幼児期の発達と環境との関わり
 - ・子どもの発達と環境との関わり ・乳幼児と自然との関わり ・乳幼児と「もの」との関わり
- 3) 乳幼児と環境との関わりを支える「人」
- 4) 本章で学んだことのまとめ

3：乳児、1～2歳児の世界と環境(事例考察)(テキスト 第3章参照)

ここでは、3歳までの心身の発達の著しい時期における人やものなどの環境との出会い、興味をもってかかわる姿に、事例をもとに子どもにふさわしい環境の構成とそれにかかわる保育者の役割に視点をおいた指導のポイントを学習する。

- 1) さまざまな環境との出会い
 - ・まわりの環境との応答 ・乳児、1～2歳児の保育に求められる環境
- 2) 身近な環境に親しむ
 - ・ものに対する情緒的な関わり ・人的環境としての他者の存在 ・散歩で出会う環境
- 3) 自然と触れ合って生活する・遊ぶ
 - ・自然との身体的な響き合い ・自然の事象に対する気づき ・季節を感じる生活
- 4) ものや道具に触れて生活する・遊ぶ。
 - ・身のまわりのものや道具を用いる ・共同の遊具で遊ぶ
- 5) 言葉・ものの形や性質などに対する感覚を育む
 - ・言葉を楽しむ ・ものの形、大きさや量、性質などを楽しむ
- 6) 本章で学んだことのまとめ

4: 自然に親しみ、植物や生き物に触れる(事例考察)(テキスト 第4章参照)

ここでは、子どもたちが自然の中で体験し、学ぶ姿を知り、体験を深める保育者のかかわり、自然をいかした環境構成についてかける指導のポイントを学習する。

- 1) 自然の美しさや大きさ、不思議さに触れる
 - ・自然に出会う
 - ・自然を体感できる環境構成
- 2) 自然を取り入れて遊ぶ
 - ・身近な自然素材を使う
 - ・生き物との生活が遊びにつながる
- 3) 季節の変化に気づく
 - ・季節を感じるきっかけ
 - ・季節を生かす保育
- 4) 植物を育てる
 - ・園内の植物を保育に取り入れる
 - ・自分たちで植物を育てる
- 5) 生き物に親しみ、命を大切にする
 - ・生き物との安心した関わりから
 - ・生き物と生活する工夫と配慮
- 6) 本章で学んだことのまとめ

5: ものや道具にかかわって遊ぶ(事例考察)(テキスト 第5章参照)

ここでは、子どもがものや道具との出会いにかかわり発達に必要な経験をえるために試行錯誤を繰り返して、技能を身につけ、育っていく姿の意味を事例を通して捉え指導のポイントを学習する。

- 1) 遊具を使って遊ぶ
 - ・保育者とともに遊ぶ
 - ・目的に合わせて選ぶ
- 2) 身近なものを使い、工夫する
 - ・繰り返すなかで身につける
 - ・身近な材料を工夫して使う
- 3) ものの性質や仕組みに気づく
 - ・発見を続ける、繰り返す
 - ・仲間と気づきを共有する。
- 4) 身近なものを大切に、公共心を育む
 - ・トラブルから学ぶ
 - ・生活の場を整える
- 5) 発達に応じたものや道具
 - ・発達に応じた遊具と環境構成
 - ・作って遊ぶための道具
- 6) 本章で学んだことのまとめ

6: 文字や標識、数量や図形に関心をもつ(事例考察)(テキスト 第6章参照)

ここでは、子どもたちの日常生活における文字や数量や図形などに会う中で、必要感に基づく体験から興味や関心、感覚を養うことを重視し、これらについては体験を伴わない知識のみの教え込みに陥らない捉え方による指導のポイントを学習する。

- 1) 文字に親しむ
 - ・マークシールをきっかけに
 - ・絵本の読み聞かせを通して
 - ・文字遊びを通して
- 2) 標識に触れる
 - ・部屋の看板作りを通して
 - ・街づくりを通して交通標識の必要性に気づく
 - ・当番表を活用して
 - ・実際の交通標識に気づく
- 3) 数や数字に親しむ
 - ・時計を活用して
 - ・遊具の数をかぞえる
 - ・店屋さんごっこの経験から
- 4) 量をはかる、比べる
 - ・高さの感覚を養う
 - ・量をはかる
 - ・人数を比べる
- 5) さまざまな図形に触れる
 - ・影絵でものの形に気づく
 - ・積み木の形状に気づく
 - ・折り紙で図形を認識する
- 6) 本章で学んだことのまとめ

7: 遊びや生活の情報に興味をもち、地域に親しむ(事例考察)(テキスト 第7章参照)

ここでは、子どもたちが身近な環境の中で出会う情報や、文化的体験、地域とのかかわりはどんな意味をもつのか、子どもたちの姿と保育者の援助について事例を通して考える指導のポイントを学習する。

- 1)身近な情報や出来事に興味をもつ
 - ・情報や出来事に出会う場としての環境
 - ・ 伝え合う、共有する
- 2)遊びのなかで情報を使う
 - ・遊びと生活体験
 - ・ 遊びを通した異年齢の子どもたちとの交流
 - ・テレビからの情報
- 3)地域に親しむ
- 4)日本の文化や異なる文化に触れる
 - ・日本の文化的習慣・行事
 - ・国際理解の意識の芽生え
- 5)本章で学んだことのまとめ

8：幼児期の思考力の芽生え(事例考察)(テキスト 第8章参照)

ここでは、幼児期の思考力に焦点をあて、いろいろな物事に興味、関心をもち、気づいたり、考えたり、理解したりしようとする姿を事例から捉える指導のポイントを学習する。

- 1)関わる・出会う・気づく
 - ・対象物をよく見たり触れたりする
 - ・自分なりに扱ったり試したりする
- 2)発見する・考える
 - ・規則性・法則性を発見する
 - ・ 比較・分類して考える
 - ・ 因果関係を捉える
- 3)思考する・協同的に学ぶ
 - ・仮説を立てて考える
 - ・全体と部分の関連から考える
- 4)本章で学んだことのまとめ

9：現代の保育の課題と領域「環境」(テキスト 第9章参照)

ここでは、環境の変化の大きい現代における子どもたちの環境へのかかわりにおいて、都市化、情報化、核家族化、国際化における領域「環境」の意義を事例を通して考え、子どもの環境づくりの可能性を考える指導のポイントを学習する。

- 1)子どもが育つ環境としての現代社会
 - ・都市化の広がり
 - ・情報化における身近なICT
 - ・核家族化と少子化家族の暮らし
 - ・国際化とグローバル化
- 2)新しい時代の教育の課題
 - ・21世紀型学力を育む
 - ・持続可能な社会に向けた人づくり
 - ・幼児期の教育と小学校教育の接続
- 3)いろいろな実践に学ぶ
 - ・プレーパーク
 - ・森のようちえん
 - ・レッジョ・エミリアの幼児教育における環境
- 4)本章で学んだことのまとめ

10：「環境」指導のあり方と教材研究の留意点の再確認と総括(*テキスト第1～6章、各章の活動事例)

ここでは、「環境を通して行う教育」が領域(環境)の基本であり、幼児の心身の発達に応じて対象(環境)を構成し、幼児の主體的なかわりによりその発達を促す観点に立ち、保育者は幼児の活動の観察や問いかけを通し、多くの経験と情報を持つことが望まれます。そのため1～9で学んだ具体的実践事例をまとめ、幼児教育の教材として活用可能か、またその内容を適切な時と場でいかに提供すれば効果的かを、再確認して下さい。

11：模擬保育 (※スクーリングで実施予定です。)

※○2019(平成31)年度以降の入学生

講義内容を補うスクーリングの詳細については、『添削課題集』の「テキスト科目における指導案の作成及び模擬授業等のスクーリング実施について」をご確認ください。

保育指導法（言葉）

専門教育科目／2 単位／2 年後期開講／テキスト授業※

■ 担当教員	藤井 伊津子
■ 使用テキスト	テキスト：『幼稚園教育要領解説』（最新版） 著 者：文部科学省 出 版 社：フレーベル館 出 版 年：2018 I S B N：978-4-577-81447-5
	テキスト：保育・教育ネオシリーズ 20『保育内容・言葉』 著 者：太田光洋 他 出 版 社：同文書院 出 版 年：2018（第三版） I S B N：978-4-8103-1471-7
■ 参考テキスト	テキスト：〈平成 30 年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント 著 者：汐見稔幸・無藤 隆（監修），ミネルヴァ書房編集部 出 版 社：ミネルヴァ書房

○2019（平成 31）年度以降の入学生

この科目はテキスト科目ですが、対象者の方へは講義内容を補うスクーリングを実施します。

日 時	令和 3 年 12 月 19 日（日）15：30～16：30
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10 号館（岡山県高梁市伊賀町 8）
■ 事前提出物	課題内容については『添削課題集』に掲載しています。
■ 提出期限	令和 3 年 11 月 19 日（金）大学必着
■ 使用テキスト	「幼稚園教育要領解説（平成 30 年 3 月）」 文部科学省ホームページよりダウンロードができます。

講義概要・一般目標

1. 乳幼児期の言葉の発達と特性について、情報機器及び教材を活用しながら実践例や資料を基に、理解を深める。
 2. 幼稚園教育の基本を確認しつつ、領域（言葉）の「ねらい」や「内容」について学ぶ。
 3. 絵本や紙芝居等の児童文化財を学生自身が鑑賞し、保育に向けて指導法を考察する。
 4. 言葉を育む遊びについて指導計画を作成し、展開を想定する。
- なお、模擬保育は、別途実施する。

到達目標

幼児が自分なりの言葉で表現したり、相手の話を聞こうとしたりする意欲や態度、および豊かな言語感覚の基礎が育つための指導法を身に付ける。

そのために乳幼児期の言語発達の特性と幼稚園教育要領「領域（言葉）」について理解し、保育の実践に向けて具体的に想定し、保育を構想する方法を身に付ける。

評価方法

添削課題及び定期試験（100%）

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

保育現場での勤務経験をもつ教員が、その経験を活かし保育内容について保育者としての専門性を追求する。

学修の進め方

添削課題は学習のポイントにのっとなって作成しています。ポイントを押さえるつもりでテキストを読み取ったり、実際に保育教材を作成したりすることとおして、領域「言葉」の視点を踏まえた保育をイメージして下さい。また、フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

学修にあたってはテキストや『幼稚園教育要領解説』、『保育内容・言葉』を手がかりに、乳幼児がどのようにして言葉を身に付けていくのかを理解する。そして乳幼児の発達過程に添った保育実践を行うことができるようになるために、保育者は常に乳幼児のモデルであることを意識して、学生自身が豊かな人間性と美しい言葉を使用するよう努力をすると共に、豊かな文化との出会いを届けることができるようになるとうする思いで、テキストを読み、実践しながら進めていただきたい。また、自身が保育の指導計画を立案したり、実践したりして、苦勞と楽しさを感じながら取り組んでいただきたい。

テキストの章立ては以下のとおりです。学修のポイントを参考にしながら進めましょう。色々な児童文化財に実際に触れたり、試したりして体験的に学び、実践力を身に付けてください。

- 1：第1章 子どものことばと育ち（言葉の力とは）
- 2：第2章 領域「言葉」とはなにか（言葉を育む環境・領域「言葉」）
- 3：第3章 ことばはどのように育つのか（言葉の発達の基本的な道筋・保育における指導）
- 4：第4章 子どものことばと保育者 ―どう捉え、どうかかわるか―（実践事例から学ぶ）
- 5：第5章 特別な配慮が必要な子どもとの関わり
- 6：第6章 うたやふれあいを楽しむ遊び
- 7：第7章 絵とことばの豊かな世界を楽しむ ―児童文化と内容―
- 8：第8章 劇や物語を楽しむ ―児童文化と内容―
- 9：第9章 想像やことばのリズムを楽しむ ―児童文化と内容―
- 10：第10章 ごっこの世界から劇遊びへ
- 11：うた・ふれあいあそびを通して育つ言葉（指導計画の作成と展開）
- 12：絵本の分析と保育における読み聞かせの実際
- 13：紙芝居の特性と保育における実践（情報機器及び教材の活用）
- 14：ことば遊び（指導計画の作成と展開）
- 15：幼児教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」と領域「言葉」
- 16：模擬保育

※〇2019（平成31）年度以降の入学生

講義内容を補うスクーリングの詳細については、『添削課題集』の「テキスト科目における指導案の作成及び模擬授業等のスクーリング実施について」をご確認ください。

保育指導法（表現）

専門教育科目／2 単位／2 年前期開講／テキスト授業※

■ 担当教員	佐藤 尚宏／上田 豊
■ 使用テキスト	（佐藤 尚宏） テキスト：保育をひらく造形表現 著 者：槇 英子 出版社：萌文書林 出版年：2018 年 I S B N：978-4-89347-295-3
	（上田 豊）別途対象者の方へお知らせいたします。 テキスト： 著 者： 出版社： 出版年： I S B N：
■ 参考テキスト	テキスト：幼稚園教育要領解説—平成 30 年 3 月 著 者：文部科学省 著 出版社：フレーベル館 出版年：2018 I S B N：978-4577814475
	テキスト：保育所保育指針解説書—平成 30 年 3 月 著 者：厚生労働省 著 出版社：フレーベル館 出版年：2018 I S B N：978-4577814482

○2019（平成 31）年度以降の入学生

この科目はテキスト科目ですが、対象者の方へは講義内容を補うスクーリングを実施します。

日 時	令和 3 年 8 月 28 日（土）13：10～14：10
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス短大 3 号館（岡山県高梁市伊賀町 8）
■ 事前提出物	課題内容については『添削課題集』に掲載しています。
■ 提出期限	令和 3 年 7 月 23 日（金）大学必着
■ 使用テキスト	「幼稚園教育要領解説（平成 30 年 3 月）」 文部科学省ホームページよりダウンロードができます。

講義概要・一般目標

幼児の表現活動について、発達とともに変化する表現の特徴、個々で異なる多様な表現、幼児が十分に表現活動を楽しむことができる環境設定（音楽、活動の場）や援助（言葉かけ、動機付け）などについてテキストから学ぶ。また、造形表現教材の制作研究、身体を動かして表現する方法、子どもの表現の実際と援助方法についてテキストから学ぶ。また、「表現」について指導計画を作成する。

到達目標

「子どもの造形表現や身体表現の活動を援助する方法の理解」をテーマとして、子どもの豊かな表現を引き出し、育むことができる能力を身につける。

幼児の表現は発達段階や環境等によって大きく変化を見せるが、それを受け止めて的確な援助ができる力の獲得を目的とする。理論的前提の理解はもとより、教育現場（幼稚園）での指導の計画の策定、指

導案の作成、情報機器を活用した指導技術の習得を到達目標とする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

(上田 豊)

別途、対象者の方へお知らせいたします。

(佐藤 尚宏)：テキスト「保育をひらく造形表現」5章 造形表現指導の実際

1. 添削課題の意図及び課題の進め方

まずはテキストを一通り学修した上で、習得度を確認しながら添削課題に取り組んで下さい。テキストを一通り学修する方法は、内容の要約を強くお勧めします。漫然と読み流すのではなく、内容を読みくゞき骨子をまとめることでより深い理解につながるからです。

2. 添削課題をまとめるにあたっての留意点

論述問題では漠然とした感想や考えを書くのではなく「設問で問われていること」について、ひとつひとつ対応させて簡潔に答えるように気を付けてください。問われていることに対して答えていない解答では文章量が多くても点数につながりません。

3. フィードバックについて

フィードバックとして提出された課題レポートにコメントを返します。

★図画工作・造形表現活動の科目の全体像と各科目間の関係★

基礎技能(図画工作) S

主に幼児期から小学校低学年を想定。全ての科目の基盤となる内容。

保育者・教員として必要な子どもの造形表現活動への理解・共感する心や姿勢など、最も基本的な本質と子どもにとっての意味・意義を体感的に学修する。

基礎技能Ⅱ(図画工作) S

主に幼児期から小学校全般を想定。模擬保育・模擬授業に関する内容。

理解・共感する心や姿勢を基にし、保育者・教員としてどのように授業づくりをすればいいのかについて、教材研究の要点や、表現の基本技能について学修する。

子どもの図画工作 T

テキストは幼児教育だが、小学校全般に通用する。全ての科目の基盤となる内容。

造形表現活動の意義、表現を育む姿勢、造形を楽しむ題材、子どもの発達段階などについて、理論的側面や様々な事例から学修する。

保育指導法(表現) T

テキストは幼児教育だが、小学校全般に通用する。模擬保育・模擬授業の基盤となる内容。

実際の指導を考えるにあたっての役割や指導形態、援助について学修する。これらの内容は小学校においても図画工作科に関しては基盤となる内容であるにもかかわらず、小学校向けの学修では見落とされがちな重要な内容を取り扱っている。

保育内容指導(表現)／保育内容(表現) S、2日目

幼児期～小学校低学年を想定。グループ製作による授業づくりの演習。

子ども参加の空間デザインをテーマに壁面づくりの模擬保育(模擬授業)を行う。

初等教科教育法(図画工作)

学習指導要領と実際の授業づくりの要点について学修する。

また授業づくりでは基礎技能Ⅱ(図画工作)での教材研究の学修をベースに、各自に実際に取り組んでもらい授業のアイデアについて考察する。

子ども発達教育演習Ⅰ・Ⅱ

それまでの学修を総合し、造形表現活動をどのように実践するのかについて、自らの興味・関心からテーマをしばり、「文献調査」「実践報告」「教材製作」の3種類の研究方法で研究を進める予定。

学 修 指 導

〇〇表現分野（上田先生担当） 別途対象者の方へお知らせします。	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	

造形表現分野（テキスト第5章）	
8	1. 指導のねらい 幼児期の教育のねらいと内容を〈健康〉〈人間関係〉〈環境〉〈言葉〉〈表現〉の5つの側面から整理しそれらの関連性を考えた上で、造形表現指導のねらいについて考えます。
9	2. 保育者の役割 造形表現指導における2つの役割として、「間接的な援助」である物的・空間的環境構成と、「直接的援助」である子どもに応答的に行う人的援助について、概念の整理と実際の活動を学び、創造性を育む援助とは何かについて考えます。
10	3. 指導形態 多様な指導形態について「誰が主導するのか」という視点から3つに整理し、さらに造形表現活動における指導形態と自由度について考え、自発性を尊重した主体的な表現活動について学びます。
11	4. 間接的な援助 間接的な援助である物的・空間的環境構成について、(1)材料、(2)用具、(3)「場」と「装置」、(4)情報、(5)園全体の物的・空間的環境の5つの視点から学びます。
12	5. 直接的な援助 直接的な援助である人的援助として保育者として子どもたちとどう接するかについて、(1)まなざしと表情と身体、(2)活動の計画と提示と誘導、(3)評価の3つの視点から学びます。
13	6. 模擬保育 造形表現活動の指導を学ぶ方法として有効な模擬保育（大人同士で保育のロールプレイを行う）について、流れと準備、指導計画と記録、保育の省察と評価について学びます。
14	7. 表現の動機と意欲 子ども「やってみよう」という気持ちの芽生えをいかに促し支えるかという〈動機づけ〉の問題について、設定型の造形表現活動や描画活動の導入場面での動機付け、表現の意欲を支える援助について学びます。
15	8. 表現の個人差と読み取り 造形活動指導における適切な「受け止め」について、(1)個人差の理解と想定、(2)個人差への対応、(3)
16	模擬保育および情報機器の活用 ※対象者のみ 添削課題及び定期試験

※○2019（平成31）年度以降の入学生

講義内容を補うスクーリングの詳細については、『添削課題集』の「テキスト科目における指導案の作成及び模擬授業等のスクーリング実施について」をご確認ください。

保育指導法（保育内容総論）

専門教育科目／2単位／4年前期開講／テキスト授業※

■ 担当教員	秀 真一郎
■ 使用テキスト	テキスト：保育方法の実践的理解 著 者：久富陽子・梅田優子 出 版 社：萌文書林 出 版 年：2018年 I S B N：978-4-89347-296-0
■ 参考テキスト	テキスト：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉 著 者：文部科学省・厚生労働省・内閣府 出 版 社：チャイルド本社 出 版 年：2017年 I S B N：978-4-8054-0258-0

○2019（平成31）年度以降の入学生

この科目はテキスト科目ですが、対象者の方へは講義内容を補うスクリーニングを実施します。

日 時	令和3年8月28日（土）14：20～15：20
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス短大3号館（岡山県高梁市伊賀町8）
■ 事前提出物	課題内容については『添削課題集』に掲載しています。
■ 提出期限	令和3年7月23日（金）大学必着
■ 使用テキスト	「幼稚園教育要領解説（平成30年3月）」 文部科学省ホームページよりダウンロードができます。

講義概要・一般目標

「方法」に対する視点は無数に存在する。子ども、遊び、環境、生活、人間関係などそれぞれの視点にはそれぞれの特徴を持つ。そのため、教材研究を通じてそれぞれの視点を理解するだけでなく、それぞれの視点の持つ特徴をどのようにとらえるかという自らの理論を構築し、指導案を作成する必要がある。理論の伴う「方法」とは何か、保育現場において活用される情報機器及び教材の活用を含む「方法」における答えを探し出してほしい。なお、模擬保育は別途実施する。

到達目標

遊びを通じた総合的教育を目指す中で、子ども理解と環境構成はその方法を決定する上で最も大切な要因となる。しかし、子ども理解と環境構成に対する視点はいくつも存在し、それぞれの視点によっての捉え方もまた違う。「方法」の捉え方とその探り方について、自らの理論を構築し、柔軟な視野を見つけることを目的とする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー（学生の問い合わせ・相談に応じる時間）

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

・ポイントとしては、各章における「ねらい」とは何かを意識してテキストを読み込むことです。保

育とは5領域を総合的に捉えながら、その保育状況の一つ一つを丁寧に読み解くことです。そのためにも、テキストの内容を理解するだけでなく、心で感じるように学修を進めていってください。

- ・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

第1章 「方法」を考えるときに大切なこと

この章のポイント

保育にマニュアルはなく、保育方法は一つではありません。保育の方法がどのようなプロセスを経て形づくられるかということ、 「方法」ということばの意味から考えます。

第2章 子どもとの遊びの楽しさを共有する方法を探る

この章のポイント

子どもたちにとって、遊びはすべてであり、遊びを通して様々なことを学びます。保育者として、子どもたちにとってとても大切な遊びをいかに理解し、また楽しさや遊びの展開の共有を行う方法について考える。

第3章 子どもが育つ環境をつくる方法を探る

この章のポイント

環境を通した保育は子どもの育ちにおいてとても大切です。環境が子どもたちの育ちに与える影響について理解を深めると共に、子どもたちの育ちにふさわしい環境とはどういうものなのかについて考える。

第4章 子どもとの充実した遊びや活動を組み立てていく方法を探る

この章のポイント

心の充実と遊びの発展には、深いつながりがあります。子どもにとっての充実した遊びとは何か。子どもの自発的な活動としての遊びを、より豊かにするような環境構成や援助の在り方について考えます。

第5章 子どもとの充実した生活をつくるための方法を探る

この章のポイント

充実した生活は、子どもたちの健やかな成長発達に大きな影響を与えます。子どもたちの育ちの基礎を支えている生活のあり方を見つめ、保育者が子どもとともに豊かな生活をつくり上げていく上で重要となることについて考えます。

第6章 子どもへの育ちに即した援助の方法を探る ―関係の広がりを中心にして―

この章のポイント

子どもたちの成長の中で、人間関係の広がりや深まりは、個を確立する上で重要な要素となります。自我の確立と同時に他者に対する関係を始まります。人間関係の広がりや深まりの中で、必要とされる経験とそれに伴う援助について考えます。

第7章 栽培活動や行事を子どもとともに作り上げる方法を探る

この章のポイント

子どもの成長には、長期的見通しによるものと短期的見通しによるものがあります。その一つ一つにおける成長は、飛躍的なものからじっくり時間をかけるものまで様々です。しかし、大切なことは与えられたものではなく、自らが求めて関わったものでなくてはならないことです。栽培活動や行事が子どもたちにとって充実したものになるため、ともに作り上げていく方法を考えます。

第8章 かかわりの難しさを感じる子どもへの援助の方法を探る

この章のポイント

気になる子ども、障がいのある子ども、異文化を背景に持つ子どもなど、保育者がかかわりを持

つ子どもは一樣ではありません。このような子どもたちといかに関わり、信頼関係を築いていくかについて考えます。

第9章 記録から方法を探る

この章のポイント

記録とは、ただ単に出来事を書きとめたものではない。ここでは記録することの意義を理解し、記録の持つ有効性を考慮した上でいかに指導計画につなげていくかについて考える。

第10章 連携という方法を探る

この章のポイント

保育とは保育所・幼稚園のみで行うものではない。家庭、地域、小学校、そして何より保育者同士での連携なくしてはあり得ない。家庭との連携の重要性とその方法、地域との連携と子育て支援、小学校との連携の在り方、また保育者間の連携などについて考える。

第11章 「方法」を探究していくために

この章のポイント

保育における方法とは常に変化し、同じものは存在しない。言い換えれば、常に探究し続けなければならない。ここでは、実践や研修などを通して、目の前にいる子どもたちにとっての「最善の方法」とは何か、その探求について考える。

※○2019（平成31）年度以降の入学生

講義内容を補うスクーリングの詳細については、『添削課題集』の「テキスト科目における指導案の作成及び模擬授業等のスクーリング実施について」をご確認ください。

初等教科教育法（国語）

専門教育科目／2 単位／2 年後期開講／テキスト授業※

■ 担当教員	雲津 英子
■ 使用テキスト	テキスト：現場で役立つ小学校国語科教育法 著者：牛頭哲宏・森篤嗣 編 出版社：ココ出版 出版年：2012 ISBN：978-4-904595-26-8 *品切れの場合は、改訂版を購入してください。 (改訂版出版後、ココ出版のホームページに改訂内容が掲載予定) テキスト：小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 国語編 著者：文部科学省 出版社：東洋館出版社 出版年：2018 ISBN：978-4-491-03462-1
■ 参考テキスト	

○2019（平成 31）年度以降の入学生

この科目はテキスト科目ですが、対象者の方へは講義内容を補うスクーリングを実施します。

日 時	令和 3 年 12 月 18 日（土）10：10～11：10
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10 号館（岡山県高梁市伊賀町 8）
■ 事前提出物	課題内容については『添削課題集』に掲載しています。
■ 提出期限	令和 3 年 11 月 19 日（金）大学必着
■ 使用テキスト	「小学校こくご 2 年下」（出版社：学校図書 ISBN：978-4-7625-5582-4） 「【国語編】小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説」 文部科学省ホームページよりダウンロードができます。

講義概要・一般目標

小学校学習指導要領に示された国語科の目標や内容を理解するとともに、国語科授業の構成理論、指導方法、指導技術について学ぶ。さらに、ICT を活用した指導方法を追究して学習指導案を作成し、模擬授業（別途実施）を行うことを通じて、実践的指導力を身に付ける。書写においては、正しい姿勢や執筆法、基本的な指導過程、評価及び作品処理の方法、教材教具の創意工夫等、小学校における書写指導に必要な力を身に付ける。

到達目標

本講義は、小学校教員に必要な国語科授業における基礎的知識の修得及び実践的指導力の育成をテーマとし、到達目標は次の 4 点とする。

- ①国語科の目標や内容を理解し、学習指導案を作成することができる。
- ②作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施することができる。
- ③授業評価を適切に行い、課題を見つけ、授業内容や指導方法を改善していくことができる。
- ④デジタル教材の開発など、ICT を活用した指導方法を理解することができる。

評価方法

科目単位認定試験により評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施する。

担当する授業科目に関連した実務経験

この科目は、大学図書館職員および高等学校における進路指導助手(小論文指導)としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、小学校教員に必要な図書館の利用についての知識や表記法、文章表現等の指導に役立つ添削課題を出題する。

学修の進め方

- ・本講義は、『現場で役立つ小学校国語科教育法』をテキストとして使用する。学修内容に沿って、『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』を参照し、添削課題及び科目単位認定試験には、『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』の内容も理解して臨んでほしい。ICTを活用した指導については、文部科学省のホームページを参照し、学修する。
- ・提出された課題レポートにコメントし、フィードバックする。

学修指導

【テキストの概要と学修のポイント】

本講義は、『現場で役立つ小学校国語科教育法』をテキストとして使用する。学修内容に沿って、『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』を参照し、添削課題及び科目単位認定試験には、『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』の内容も理解して臨んでほしい。

1：国語を学ぶ意義 *テキスト『現場で役立つ小学校国語科教育法』第1章、第13章

第1章 国語って、何を教える教科？

本章では、まず国語を学ぶことの意義について学修する。

- ◆ 「言葉の力」を、どのように身に付けさせ、発達させるか
- ◆ 言葉の使い方だけでなく、認識力や思考力も伸ばす
- ◆ 教科書から何を学ぶか
- ◆ 国語科における基礎・基本とは
- ◆ 自分の言葉の使い方を自分で振り返ることの大切さ

第13章 先生の言葉遣い

本章では、「学校における教師自身の言葉遣いはどうあるべきか」ということを中心に、授業中や学校生活における教師の言葉遣いについて学修する。

- ◆ 教育話法について
- ◆ 子どもと教師をつなぐのは言葉
- ◆ 教室での話法の実際
 - ・不安を取り除く言葉
 - ・誤答への対応
- ◆ 日常生活の全てがお手本だと意識して
- ◆ ロールプレイを終えて

2：国語科の目標と内容(学習指導要領の理解)

*『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』11-152頁

新学習指導要領(平成29年3月告示)における「国語科の目標と内容」について理解してほしい。

今回の学習指導要領改訂では、他教科等と同様に、国語科において育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理し、それぞれに整理された目標を「知識及び技能」に関する目標、「思考力、判断力、表現力等」に関する目標、「学びに向かう力、人間性等」に関する目標として位置付けている。

これに対応して、国語科の内容の構成も改善された。旧学習指導要領(平成20年3月告示)において、国語科の内容は、「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」の3領域と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕で構成されていたが、新学習指導要領(平成29年3月告示)では、〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕で構成し直された。〔知識及び技能〕の内容は、「①言葉の特徴や使い方に関する事項」、「②情報の扱い方に関する事項」、「③我が国の言語文化に関する事項」から構成されている。〔思考力、判断力、表現力等〕の内容は、「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」からなる3領域の構成を維持しながら、(1)に指導事項を、(2)に言語活動例をそれぞれ示している。

3：指導計画の作成と内容の取扱い（学習指導要領の理解）

*『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』153-169頁

新学習指導要領(平成29年3月告示)における「指導計画の作成と内容の取扱い」について理解してほしい。

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に関する配慮事項
 - ・弾力的な指導に関する配慮事項
 - ・〔知識及び技能〕に関する配慮事項
 - ・「読書」及び「読むこと」に関する配慮事項
 - ・低学年における他教科等や幼児教育との関連についての配慮事項
 - ・外国語活動及び外国語科など、他教科等との関連についての配慮事項
 - ・障害のある児童への配慮事項
 - ・道徳科などとの関連についての配慮事項
 - ・調べる習慣を身に付ける際の内容の取扱い
 - ・ローマ字に関する事項の取扱い
 - ・他教科等と関連付けた漢字指導の取扱い
 - ・伝統的な言語文化に関する事項の取扱い
 - ・情報機器の活用に関する事項
 - ・学校図書館などの活用に関する事項
 - ・教材についての配慮事項
- など

4：学習指導案作成の方法 *テキスト『現場で役立つ小学校国語科教育法』第2章

第2章 授業時間の四十五分をどう生かすか

本章では、小学校の授業時間である45分間を有効に生かす授業の組み立て方について理解するとともに、国語科における学習指導案作成の方法について学修する。

- ◆ 指導書という便利な本があります
- ◆ 五・三十・十という授業の流れのパターン
- ◆ 十分間の振り返りタイム
- ◆ 「しつけ」「おしつけ」
- ◆ 指導案を書いてみよう
- ◆ 指導案はあくまでも「案」

5：発問・板書・机間指導・評価の方法

*テキスト『現場で役立つ小学校国語科教育法』第3章、第4章、第12章、第14章

第3章 子どもが食いつく発問のテクニックとトレーニング

本章では、多くの子どもから多様な答えを引き出し、それらの考えをつなげたり、討論させたり、新たな考えに導いたりするために重要な役割をもつ教師の発問の仕方について学修する。

- ◆ たしかめ発問のテクニック
- ◆ つっこみ発問のテクニック
- ◆ 発問のトレーニング
- ◆ 発問のトレーニング その1
- ◆ 発問のトレーニング その2
- ◆ 番外編（指示のトレーニング）

第4章 子どもの発言を目に見える形にする板書メモのテクニックとトレーニング

本章では、さまざまな考えを共有し、新たな考えをつくり出す場という意味において、教室における最大のメディアである黒板とチョークの使い方のポイントを知るとともに、板書メモのとり方を学修する。

- ◆ 黒板に書く文字は子どものお手本
- ◆ 太い線と細い線を使い分ける
- ◆ 話をするとき、板書をするとき
- ◆ 授業で使う文字は筆順チェック
- ◆ 窮屈な姿勢でも整った字が書けるように
- ◆ 行き当たりばったりの板書を防ぐ板書計画
- ◆ 日々の授業における発問と板書の計画
- ◆ 板書メモの実際
- ◆ 視覚ツールとしての黒板
- ◆ 色チョークは使い方を決めて
- ◆ 子どもの発言をどうメモするか

第12章 個人差への対応と机間巡視

本章では、個人差の把握と指導の仕方について理解するとともに、机間指導の方法を学修する。

- ◆ 個人差の把握と指導
- ◆ 三段構えの作戦
- ◆ 活動時間は日頃からパターン化する
- ◆ できる子には別メニューを用意しておく
- ◆ できない子への個別指導
- ◆ 授業についてこられない子どもへの対応
- ◆ 個別指導コーナー
- ◆ 机間指導の方法
- ◆ まず、一番早くできる子を観察する
- ◆ 机間指導を始めたら、一番心配な子を観察する
- ◆ 心配な子の様子
- ◆ 効率良く指導するための声と付せん紙の二刀流アドバイス
- ◆ 考え方や表現の違いを分類し、グループ分けをする
- ◆ 伝え合いの計画を立てる

第14章 学んだ実感を味わわせるポートフォリオ評価

本章では、ポートフォリオ評価学習活動について理解を深めるとともに、国語科における評価方法について学修する。

- ◆ 学力テストとポートフォリオ評価
- ◆ 点数だけでは表せない学力を知る手だて「ポートフォリオ評価学習活動」
- ◆ 学びの成果を複数の目によって評価する
- ◆ 指導と評価の一体化をめざして
- ◆ 場面や方法を工夫して

6：ICTを活用した指導方法

文部科学省のホームページを参照し、ICTを活用した指導について学修する。

主に、ICTの活用事例、ICT機器（電子黒板など）の活用、発達障害のある子どもたちのためのICT活用について学修する。

<検索手順>

文部科学省のホームページ

「教育の情報化の推進」 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/index.htm
(2020.12.9 最終アクセス)



サイトマップ「教科指導におけるICT活用」



「教員向けの指導資料等」



- ① 「活用事例」 → ・教育ICT活用実践事例（平成22～24年度）
- ② 「ICT機器」 → ・授業がもっとよくなる電子黒板活用（平成26年度）
・平成20年度「デジタルテレビ等を利用した番組活用・促進に関する調査研究（※Youtubeウェブサイトへリンク）」
- ③ 「特別支援」 → ・発達障害のある子供たちのためのICT活用ハンドブック（平成25年度）

7：教材研究の方法と授業の展開例「読むこと」（文学的文章）

*テキスト『現場で役立つ小学校国語科教育法』第5章

*『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』第3章「各学年の内容」の【思考力、判断力、表現力等】の「C読むこと」の内容や【知識及び技能】の内容もあわせて学修する。

第5章 場面の読み取りを大切にする物語の授業

本章では、物語文の指導に必要な音読のポイントを知るとともに、場面、主人公の心情の読み取らせ方を学修する。

- ◆ 音読上手な教員をめざせ
- ◆ 子どものお手本になる音読とは
- ◆ 物語の読解の基本は、場面の読み取り
- ◆ 場面分けのルール
- ◆ 物語を大きく分ける構造読み

- ◆ 中心人物の心情の変化を読む
- ◆ クライマックスを読む
- ◆ 行動や会話を通して心情の変化を読み取らせる
- ◆ 物語の読み方指導の結末はどう締めくくするか

8：教材研究の方法と授業の展開例「読むこと」（説明的文章）

*テキスト『現場で役立つ小学校国語科教育法』第6章

*『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』第3章「各学年の内容」の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の内容や〔知識及び技能〕の内容もあわせて学修する。

第6章 理科や社会科にならないための説明文の授業

本章では、説明文を学習することの意味を理解するとともに、説明文の指導方法について知る。

- ◆ 国語科で学習しなければ、説明文は理解できないの？
- ◆ 説明文教材は論理的な読み方や考え方を育てる基礎
- ◆ 説明文の指導の基本
- ◆ スラスラ読ませるためにはまず教師の範読から
- ◆ 形式段落を三つのまとまりに分ける
- ◆ 説明文全体の内容を大まかに把握させる
- ◆ キーワードの見つけ方と要点の整理
- ◆ 接続詞の使い方
- ◆ 説明上手な子を育てるために

9：教材研究の方法と授業の展開例「書くこと」（作文）

*テキスト『現場で役立つ小学校国語科教育法』第7章

*『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』第3章「各学年の内容」の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」の内容や〔知識及び技能〕の内容もあわせて学修する。

第7章 書けない子でも書けるようにする作文の授業

本章では、作文を書かせるための指導法と作文の評価について学修する。

- ◆ 生活作文や行事作文は日記で
- ◆ 書かれたものから「ワザ」を見つける
- ◆ 書く学習において重要な「PISA型読解力」
- ◆ 意見文を書き終わって
- ◆ 作文の評価について

10：教材研究の方法と授業の展開例「話すこと・聞くこと」

*テキスト『現場で役立つ小学校国語科教育法』第9章

*『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』第3章「各学年の内容」の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」の内容や〔知識及び技能〕の内容もあわせて学修する。

第9章 討論や発表を楽しむ授業

本章では、プレゼンテーションやディベートで身に付ける力を理解し、その指導過程を学修する。

- ◆ プレゼンテーションやディベートでどんな力が身に付くのか
- ◆ まずは自己紹介から
- ◆ 自己紹介スピーチを終えて
- ◆ プレゼンテーション学習活動
- ◆ プレゼンテーション学習活動の実際
- ◆ ディベート学習活動
- ◆ ディベート学習活動の実際
- ◆ ディベートマッチよりも、過程にこそ意味がある

11：教材研究の方法と授業の展開例「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」

*テキスト『現場で役立つ小学校国語科教育法』第8章、第10章

*『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』第3章「各学年の内容」の〔知識及び技能〕の「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の内容もあわせて学修する。

第8章 声に出して味わう古典の授業

本章では、小学校で古典を学ぶ目的を理解するとともに、古典の授業を工夫するポイントを学修する。

- ◆ 本格的に古典の指導が始まりました
- ◆ 声に出して読んでみよう
- ◆ どのように言葉の学びにつなげるか
- ◆ 見せる工夫
- ◆ 声の工夫
- ◆ 昔話が上手な教師を目指して
- ◆ 俳句や短歌の創作活動だけでなく鑑賞活動を大切に
- ◆ 鑑賞活動が言葉の学びを豊かにする

第10章 漢字指導は国語科指導のいろはのい

本章では、漢字の指導法（筆順・部首・とめ・はねなど）を理解するとともに、美しい字を書かせるための工夫について学修する。

- ◆ 繰り返し書かせることの苦痛
- ◆ 記号ではなく文字を書き、覚えるということ
- ◆ ドリルの活用から指導法を学ぶ
- ◆ 丁寧に書くこと
- ◆ 正しい筆順で書くこと
- ◆ 部首を確認すること
- ◆ とめ・はね・はらいに気を付けて書くこと
- ◆ 長い・短いを間違えないこと
- ◆ 文章で覚えさせる
- ◆ 美しい文字を書かせるために
- ◆ 漢字指導は国語科教育の「いろはのい」

12：書写指導の方法

*テキスト『現場で役立つ小学校国語科教育法』第11章

*『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』第3章「各学年の内容」の【知識及び技能】の「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の内容もあわせて学修する。

第11章 字の形と書く速さを意識する書写の授業

本章では、書写の目的を知るとともに、硬筆書写・毛筆書写の指導方法を学修する。

- ◆ 書写なんて必要ないって思いませんか？
- ◆ 硬筆書写 最初に何を教える？
- ◆ 「くつ」を書く
- ◆ 毛筆書写の指導
- ◆ 教師として身に付けておきたい技能
- ◆ 毛筆と硬筆とは連携している
- ◆ 正しいこと・整っていること・速く書けること

13：模擬授業と授業評価（第1グループ）※

14：模擬授業と授業評価（第2グループ）※

15：模擬授業と授業評価（第3グループ）※

第13～15回の授業内容「模擬授業と授業評価」については、スクーリングで実施予定である。

※○2019（平成31）年度以降の入学生

講義内容を補うスクーリングの詳細については、『添削課題集』の「テキスト科目における指導案の作成及び模擬授業等のスクーリング実施について」をご確認ください。

初等教科教育法（社会）

専門教育科目／2 単位／3 年後期開講／テキスト授業※

■ 担当教員	白神 幹夫
■ 使用テキスト	テキスト：小学校社会科教師の専門性育成 第三版 著 者：東京学芸大学社会課研究室 出 版 社：教育出版 出 版 年：2019 年 3 月 I S B N：978-4-316-80467-5 C3037
■ 参考テキスト	テキスト：小学校学習指導要領解説 社会編（最新版） 著 者：文部科学省 出 版 社：日本文教出版

○2019（平成 31）年度以降の入学生

この科目はテキスト科目ですが、対象者の方へは講義内容を補うスクーリングを実施します。

日 時	令和 3 年 12 月 18 日（土）9：00～10：00
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10 号館（岡山県高梁市伊賀町 8）
■ 事前提出物	課題内容については『添削課題集』に掲載しています。
■ 提出期限	令和 3 年 11 月 19 日（金）大学必着
■ 使用テキスト	「小学社会 6 年」（出版社：日本文教出版 ISBN：978-4-536-18140-2） 「【社会編】小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説」 文部科学省ホームページよりダウンロードができます。

講義概要・一般目標

小学校教師を目指す者を対象に児童に社会科指導ができる実践的力量的の養成をはかることを目的としており、受講生は高い専門性を備えた教員を目指してもらいたい。小学校教員が求められる専門性とは、児童の人格を育てることが職務の中心をなす。すなわち育てたい子ども像、人格像があり、その基本的な枠組みの中にある諸教科、道徳、特別活動などの指導にあたることとなる。小学校教育の理念と子ども観の一体化を図り、総合化を目指す児童の人格淘汰に、小学校教育の機能と教員の教育的営みの基本がある。教育的営みの中の一つに日々の学習指導（授業）がある。学習指導を展開しつつ、授業内容の考察や省察も求められる。本講義では、小学校社会科授業の指導を行うための専門性を育成したい。

到達目標

将来学校現場において、社会科の授業が実践できる教員の育成を目指し、小学校教員に必要な社会科の授業における基礎的知識及び実践的指導力を身につけ、小学校教員採用試験に対応できるレベルをその到達目標とする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー（学生の問い合わせ・相談に応じる時間）

Web 学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

- 添削課題に目を通し、正誤問題・選択問題、次いで空所補充問題にテキスト該当箇所を見つけ、解答しましょう。その際、用語に注意し正しく理解していくことが大切です。論述問題は自分の言葉で解答していくことが求められますが、解答の根拠はテキストから読み取って下さい。
- 全問にしっかり向き合ってください。添削課題は当科目のエッセンスです。自力でテキストを学習し身につけていく際の指標にしていただければと思います。
- 添削課題の提出、回答が返ったら必ず添削課題の解答解説を参考にして問題を見直し、添削課題の内容はしっかり理解して全問正答できる力を身につけて下さい。そうすれば科目単位認定試験に自信を持つてのぞむことができます。
- こつこつ学ぶ座学が多いですが、座学はやればやるほど成績は上がります。また、添削課題やテストをやりぬくことで、覚え間違い、勘違い等 独学で陥りやすい知識や考え方の訂正ができます。当通信教育を通じて将来の夢の実現につなげてください。
- フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔学修のポイント〕

- 1：社会科教育の新たな発展と教師の専門性
- 2：変化する社会と期待される社会科の学力および評価
- 3：学習指導要領の構成とその読み方
- 4：学習指導案の作成（単元計画と本時案）
- 5：授業づくりに生きる人文・社会科学の基礎技術　－地域調査の手法を学ぶ－
- 6：社会的事象の教材化―「水俣病の授業に見る」教材研究―
- 7：社会科授業の評価と省察
- 8：3年生の授業づくりと学習「市の様子の移り変わり」を扱う開発の学習
- 9：4年生の授業づくりと学習Ⅰ　学習活動から生まれる子どもの問いを大切にしたい水の学習
- 10：4年生の授業づくりと学習Ⅱ　相互関係に着目して県内の地域の特色を考える学習
- 11：5年生の授業づくりと学習　子どもが情報受信者としての「責任」を考える情報産業の学習
- 12：6年生の授業づくりと学習Ⅰ　（政治学習）　国民との関わりを重視した政治の仕組みの学習
- 13：6年生の授業づくりと学習Ⅱ　（歴史学習）　体験活動や表現活動を取り入れた室町文化の学習
- 14：小学校社会科教師に見る専門性の追究―学習指導の専門性―
- 15：添削課題の提出
- 16：模擬授業　（スクーリング時）※

※○2019（平成31）年度以降の入学生

講義内容を補うスクーリングの詳細については、『添削課題集』の「テキスト科目における指導案の作成及び模擬授業等のスクーリング実施について」をご確認ください。

初等教科教育法（算数）

専門教育科目／2 単位／3 年後期開講／テキスト授業※

■ 担当教員	鳥居 恭治
■ 使用テキスト	テキスト：小学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説 算数編 著 者：文部科学省 出 版 社：日本文教出版 出 版 年：平成 30 年 2 月
	テキスト：算数の基本問題 小学 6 年（日能研教務部） 出 版 社：みくに出版 I S B N：978-4-8403-0401-6
■ 参考テキスト	テキスト：問題解決にもとづく算数指導 著 者：島田和昭 編著 出 版 社：東洋館出版社 I S B N：978-4-491-02719-7

○2019（平成 31）年度以降の入学生

この科目はテキスト科目ですが、対象者の方へは講義内容を補うスクーリングを実施します。

日 時	令和 3 年 12 月 19 日（日）11：20～12：20
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10 号館（岡山県高梁市伊賀町 8）
■ 事前提出物	課題内容については『添削課題集』に掲載しています。
■ 提出期限	令和 3 年 11 月 19 日（金）大学必着
■ 使用テキスト	「新編 新しい算数 4 下」（出版社：東京書籍）
	「【算数編】小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説」 文部科学省ホームページよりダウンロードができます。

講義概要・一般目標

算数の指導においては、算数科の内容の分析とその指導の背景、教材教具の活用等についての研究が大切です。ここでは、算数科指導法の基礎的・基本的事項を習得し、実践的指導力養成の一助とします。そのために、本講義では、第 1 章では、今回の算数科の改訂で現行の学習指導要領の成果と課題、目標の改善、内容構成の改善、配慮事項について考察します。第 2 章では、算数科の目標及び内容について考察します。第 3 章では、各学年の算数の指導内容です。第 1 学年から第 6 学年のそれぞれについて「A 数と計算」、「B 図形」、「C 測定（下学年）」「C 変化と関係（上学年）」及び「D データの活用」の 5 領域と「数学的活動」について考察します。第 4 章では、指導計画の作成と内容の取扱いについて、指導計画作成上の配慮事項及び内容の取り扱いについての配慮事項、数学的な活動における配慮事項について考察します。

算数の授業の具体的な展開例も考察します。

到達目標

- ① 算数科の目標と「A 数と計算」、「B 図形」、「C 測定（下学年）」「C 変化と関係（上学年）」及び「D データの活用」の 5 領域の内容について概要を理解することができる。
- ② 算数科の指導において何が大切で、どのように指導したらよいか、算数科の基礎的・基本的事項を習得し、実践的指導力の基礎を身に付けることができる。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

1 算数科の注目すべき内容と授業づくり

学校現場では、算数の授業をするためには、第4章までに学修したことを生かし、学習指導案を作成して授業実践ができることが基礎・基本です。そのための基礎的・基本的事項を習得するために、第1学年から第6学年までのそれぞれの学年での主な教材の「授業づくり」について学修します。

特に、参考テキストでの「第3章 実践編」を参考にして、次のような様式で学習指導案を「用紙A3版」に作成しましょう。初めは参考テキストを基にして、様式に従い「学習指導案」を作成し、授業の展開の仕方がある程度理解できたら、この参考テキストを参考にして、学習指導の展開を工夫した学習指導案を作成しましょう。

なお、フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

<p>第〇学年 算数科学習指導案 平成〇〇年〇月〇日()曜日 指導者 〇〇〇〇</p> <p>1 単元 2 単元の目標</p> <p>3 単元について (1) 構成 (2) 位置づけ</p> <p>4 単元の指導計画</p> <p>5 どのような算数的活動を通じて指導するか</p>	6 本時の展開	
	本時の目標	
	学習活動 (主な発問など)	指導上の留意点 (評価及び資料)

この学習指導案はあくまでも一例に過ぎません。最も簡単なものです。ここでは、この書き方を習得してください。それが、他の形式の学習指導案を作成する際にも生かされます。

ここでの学修は参考テキストでは「第1章 問題解決と算数授業の構成、第2章 問題解決にもとづく授業の構成、第3章 実践編(5頁~169頁)」です。

2 数学的活動を充実した授業づくり

数学的活動とは、「事象を数理的に捉えて、算数の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行すること」です。そのためには、数学的な問題発見・解決の過程に位置付く、「日常の事象から見いだした問題を解決する活動」「算数の学習場面から見いだした問題を解決する活動」及び「数学的に表現し伝え合う活動」を中核とした活動が大切になってきます。このような数学的活動のねらいには、①数量や図形の意味を、実感をもってとらえることができるようにすること、②思考力、判断力、表現力等を高めることができるようにすること、③算数を学ぶことの楽しさやよさを実感できるようにすることを挙げるすることができます。また、数学的活動には様々な活動が含まれますが、とりわけ次の3つの数学的活動を重視し、充実させていくことが必要です。

① 作業的・体験的な活動など身体を使ったり、具体物を用いたりする活動

- ② 算数に関する課題について考えたり、算数の知識をもとに発展的・応用的に考えたりする活動
- ③ 考えたことなどを表現したり、説明したりする活動

これらを単元の指導計画の中で、領域の内容とともに上記の3つの活動を適切に重点化し、位置付けることが大切です。ここではこのような観点を基にして考察していきます。そのためにここでの学修は、(1) 充実させるべき数学的活動の特徴、(2) 具体物などを用いる活動を充実させる、(3) 課題について考えたり発展的・応用的に考えたりする活動を充実させる、(4) 表現したり説明したりする活動を充実させる、などです。

特に、(2)、(3)、(4)については、第5章と同じように具体的な展開例を示していますので、ここでも前章の学習指導案の形式を例にしてできるだけたくさん作成して、自分のものにして下さい。

3 「算数の基本問題 小学6年」の問題を解く活動

小学校の教員になるためには、この問題が完全に解けることが少なくとも必要です。ここでの学修は、テキスト・算数の基本問題小学6年を使用します。

学 修 指 導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

第1章 総説

今回の算数科の改訂では中央教育審議会の答申に示された算数科、数学科の改善の基本方針を受けて行われています。それには5項目により示されています。第1の項目は、今回の改訂の経緯や基本方針です。第2の項目は、現行の学習指導要領の成果と課題です。第3は、算数科の目標の改善についてです。新しく数学的な見方・考え方が出ています。第4は、内容構成の改善です。第5は、数学的活動の取り組みにおける配慮事項です。

ここではこのようなことを踏まえて、①改訂の経緯、②算数科改訂の基本方針、③算数科改訂の要点等について学修します。ここでの学修は、「第1章 総説(1頁～20頁)」です。

第2章 算数科の目標及び内容

小学校学習指導要領解説での第2章は、第1節 算数科の目標、第2節 算数科の内容によって構成されています。第1節では、算数科の目標と、学年ごとの目標について学修します。第2節では、「A数と計算」、「B図形」、「C測定」「C変化と関係」及び「Dデータの活用」の5領域ごとのねらいや主な内容について学修します。ここでの学修は、「第2章 算数科の目標及び内容(21頁～75頁)」です。

第1節 算数科の目標

算数科の目標では、算数教育の全体を通じて児童に育成しようとする数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を示しています。小学校教育が目指す人間形成において、算数科が担う役割を明らかにしています。

第2節 算数科の内容

各学年で指導する算数の内容は、「A数と計算」、「B図形」、「C測定」「C変化と関係」及び「Dデータの活用」の5領域に分けて示しています。これは、算数の内容の全体を見やすくし、内容の系統性や発展性をわかりやすくするためです。また、今回の改訂では、5領域の後に〔数学的活動〕の内容を示しています。A、B、Cの三つの領域はそれぞれ、算数の学修の対象である数、図形、量、に対応するものです。

また、Dの領域は、数量や図形を取り扱う際の共通の考え方や方法などによって構成されています。この領域では、変化や対応などの関数の考え、式による表現、表やグラフなどの内容を学びます。

第3章 各学年の内容

第1学年から第6学年のそれぞれについて、「A数と計算」、「B図形」、「C測定」「C変化と関係」及び「Dデータの活用」の5領域と〔数学的活動〕につて丁寧に解説されています。算数科の指導において何が大切で、どのように指導したらよいか、基本的な事柄を習得します。

ここでの学修は、第1学年の内容、〔A数と計算〕、A(1)数の構成と数の表し方、A(2)加法、減

法、〔B 図形〕、B (1) 図形についての理解の基礎、〔C 測定〕、C(1)量と測定についての理解の基礎、C (2) 時刻の読み方、〔D データの活用〕、D(1)絵や図を用いた数量の表現、〔数学的活動〕、と解説されています。以下、第2学年から第6学年についても同じような要領で解説されています。ここの学修は、「第3章 各学年の内容 (76頁～321頁)」です。

第4章 指導計画の作成と内容の取扱い

ここでは、1 指導計画作成上の配慮事項、(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、(2) 継続的な指導や学年間の円滑な接続、(3) 領域間の指導の関連、(4) 低学年における他教科等や幼児教育との連携、(5) 障害のある児童への指導、(6) 道徳科などとの関連

2 内容の取り扱いについての配慮事項 (1) 考えを表現し伝え合うなどの学習指導、(2) コンピュータなどの活用、(3) 具体的な体験を伴う学習、(4) 用語・記号の指導、(5) およその大きさや形を捉え、適切に判断すること、(6) 筆算による計算の技能や計算の結果の見積もり、

3 数学的な活動における配慮事項 (1) 数学的活動を通しての指導、(2) 数学的活動を楽しむこと、(3) 見通しをもって数学的活動に取り組み、振り返ること、(4) 数学的な表現の相互の関連を図ること、(5) 考えを学び合うことやよりよく問題解決できたことを実感することなどについて学修します。

ここの学修は、「第4章 指導計画の作成と内容の取扱い (322頁～338頁)」です。

※○2019 (平成 31) 年度以降の入学生

講義内容を補うスクーリングの詳細については、『添削課題集』の「テキスト科目における指導案の作成及び模擬授業等のスクーリング実施について」をご確認ください。

初等教科教育法（理科）

専門教育科目／2 単位／2 年後期開講／テキスト授業※

■ 担当教員	川上 はる江
■ 使用テキスト	テキスト：小学校学習指導要領解説 理科編 新版 著 者：文部科学省 出 版 社：東洋館出版社 出 版 年：2018 年 2 月 I S B N：9784491034638
■ 参考テキスト	テキスト：「自分事の問題解決」をめざす理科授業 著 者：村山哲哉 出 版 社：図書文化 I S B N：978-4-8100-3640-4
	テキスト：小学校教科書「新しい理科」3～6 年 出 版 社：東京書籍株式会社 出 版 年：2015 年 I S B N：978-4-487-10456-7（6 年）

○2019（平成 31）年度以降の入学生

この科目はテキスト科目ですが、対象者の方へは講義内容を補うスクーリングを実施します。

日 時	令和 3 年 12 月 18 日（土）14：20～15：20
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10 号館（岡山県高梁市伊賀町 8）
■ 事前提出物	課題内容については『添削課題集』に掲載しています。
■ 提出期限	令和 3 年 11 月 19 日（金）大学必着
■ 使用テキスト	「わくわく理科 5」（出版社：啓林館）
	「【理科編】小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説」 文部科学省ホームページよりダウンロードができます。

講義概要・一般目標

本講義は、理科の授業を構想し展開する力を付けることを目標にしている。理科の授業をするためには、学習内容の系統性や基礎的な実験技能、児童理解、単元や授業の構成法、授業評価が必要である。この授業では、学習指導要領解説理科編を通して（1）理科教育の目標と構造、（2）授業を通して身に付けさせたい科学的な見方や考え方、（3）理科授業の配慮事項、（4）理科の評価、（5）理科の現代的課題について学修する。

到達目標

理科教育の目標と構造を把握すると共に、小学校理科の目標と内容を学年ごとに理解し、理科の単元計画、授業構成指導案作成ができるようにする。

評価方法

科目単位認定試験による評価

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web 学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施する。

担当する授業科目に関連した実務経験

小学校教員の実務経験があり、スクーリング（教育実習指導）の模擬授業で授業構成の仕方、指導方法を講義する。

そして添削課題にその内容は反映させる。

学修の進め方

1. 添削課題出題の意図及び課題の進め方
添削課題は、主に「学習指導要領解説 理科編」から出している。添削課題には、理科教育の基礎となる知識や考え方を問う問題と記述式問題がある。知識を問う問題は、理科教育の基本的な考え方や各学年で身に付けさせたい科学的な見方や考え方とその内容、配慮事項等について出題する。記述問題の配点を多くしているので、必ず書くこと。
2. 添削課題をまとめるにあたっての留意点
学習指導要領の各学年の目標及び内容を熟読しておくことが大切である。最初の四角のなかに、単元で身に付けさせたい資質、能力について書いてあるので、よく理解した上で、内容を読み進めると添削課題がまとめやすい。
3. 効果的な学修の方法
参考テキストは「学習指導要領解説 理科編」と関連付けながら読み進めると効果的である。また、理科の教科書のどのページでも良いので開き、学習指導要領解説の内容を読むと要点を覚えやすい。特に記述式の問題対策は、計画的に章を決めて読み進めることを望む。
4. フィードバックについて
フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返す。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

第1章 理科の目標及び内容

理科の目標である「自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を持った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。」が原点であることを学修する。

第2章 第3学年「物質・エネルギー」の内容と指導方法

5つの項目（(1)物と重さ、(2)風やゴムの働き、(3)光の性質、(4)磁石の性質、(5)電気の通り道）について学修を深める。

物の重さ、風やゴムの力並びに光、磁石及び電気を働かせたときの現象を比較しながら調べ、見いだした問題を追究することによって、それらの性質や働きについての教え方を学修する。

第3章 第3学年「生命・地球」の内容と指導方法

3つの項目（(1)昆虫と植物、(2)身近な自然の観察、(3)太陽と地面の様子）について学修を深める

身近に見られる動物や植物、日なたと日陰の地面を比較しながら調べ、見いだした問題を興味・関心をもって追究する活動を通して、生物を愛護する態度を育てるとともに、生物の成長のきまりや体のつくり、生物と環境とのかかわり、太陽と地面の様子との関係についての教え方を学修する。

第4章 第4学年「物質・エネルギー」の内容と指導方法

3つの項目（(1)空気と水の性質、(2)金属、水、空気と温度、(3)電気の働き）について学修を深める。

空気や水、物の状態変化、電気による現象を力、熱、電気の働きと関係付けながら調べ、見いだした問題を興味・関心をもって追究することによって、それらの性質や働きについての教え方を学修する。

第5章 第4学年「生命・地球」の内容と指導方法

4つの項目（(1)人の体のつくりと運動、(2)季節と生物、(3)天気の様子、(4)月と星）について学修を深める。

人の体のつくり、動物の活動や植物の成長、天気の様子、月や星の位置の変化を運動、季節、気温、時間などと関係付けながら調べ、見いだした問題を興味・関心をもって追究することによって、人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境とのかかわり、気象現象、月や星の動きについての教え方を学修する。

第6章 第5学年「物質・エネルギー」の内容と指導方法

3つの項目（(1)物の溶け方, (2)振り子の運動, (3)電流の働き）について学修を深める。

物の溶け方, 振り子の運動, 電磁石の変化や働きをそれらにかかわる条件に目を向けながら調べ, 見いだした問題を計画的に追究することによって, 物の変化の規則性についての教え方を学修する。

第7章 第5学年「生命・地球」の内容と指導方法

4つの項目（(1)植物の発芽, 成長, 結実, (2)動物の誕生, (3)流水の働き, (4)天気の変化）について学修を深める。

植物の発芽から結実までの過程, 動物の発生や成長, 流水の様子, 天気の変化を条件, 時間, 水量, 自然災害などに目を向けながら調べ, 見いだした問題を計画的に追究することによって, 生命を尊重する態度を育てるとともに, 生命の連続性, 流水の働き, 気象現象の規則性についての教え方を学修する。

第8章 第6学年「物質・エネルギー」の内容と指導方法

4つの項目（(1)燃焼の仕組み, (2)水溶液の性質, (3)てこの規則性, (4)電気の利用）について学修を深める。燃焼, 水溶液, てこ及び電気による現象についての要因や規則性を推論しながら調べ, 見いだした問題を計画的に追究することによって, 物の性質や規則性についての教え方を学修する。

第9章 第6学年「生命・地球」の内容と指導方法

5つの項目（(1)人の体のつくりと働き, (2)植物の養分と水の通り道, (3)生物と環境, (4)土地のつくりと変化, (5)月と太陽）について学修を深める。

生物の体のつくりと働き, 生物と環境, 土地のつくりと変化の様子, 月と太陽の関係を推論しながら調べ, 見いだした問題を計画的に追究することによって, 生命を尊重する態度を育てるとともに, 生物の体の働き, 生物と環境とのかかわり, 土地のつくりと変化のきまり, 月の位置や特徴についての教え方を学修する。

第10章 指導計画の作成と内容の取扱い

以下に示す内容に留意した指導案づくりの仕方を学修する。

- (1) 各学年の内容を通じて観察, 実験や自然体験, 科学的な体験を充実させることによって, 科学的な知識や概念の定着を図り, 科学的な見方や考え方を育成する指導案づくりを学修する。
- (2) 観察, 実験の結果を整理し考察する学修活動や, 科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりするなどの学修活動が充実する指導案づくりを学修する。
- (3) 観察, 実験, 栽培, 飼育及びものづくりの指導については, 指導内容に応じてコンピュータ, 視聴覚機器などを適切に活用した教え方を学修する。また, 事故の防止を学修する。
- (4) 生物, 天気, 川, 土地などの指導については, 野外に出掛け地域の自然に親しむ活動や体験的な活動を取り入れ, 自然環境を大切に, その保全方法を学修する。
- (5) 児童が主体的に問題解決活動を進めて, 学修の成果と日常生活との関連を図る方法を学修する。

単元計画, 指導案の作成, 模擬授業については, スクーリングで実施予定である。※

※○2019（平成31）年度以降の入学生

講義内容を補うスクーリングの詳細については、『添削課題集』の「テキスト科目における指導案の作成及び模擬授業等のスクーリング実施について」をご確認ください。

初等教科教育法（生活）

専門教育科目／2 単位／3 年後期開講／テキスト授業※

■ 担当教員	栗田 喜勝
■ 使用テキスト	テキスト：小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 生活編 著 者：文部科学省 出 版 社：東洋館出版社(書店販売・注文可) 出 版 年：2018 年 I S B N：978-4-491-03464-5
■ 参考テキスト	小林芳郎編「子どもを育む心理学」保育出版社 中山正雄編「実践から学ぶ社会的養護」保育出版社 寺見陽子編「子育て・子育て支援学」保育出版社 高井由起子編「子どもと家族をアシストする相談援助」保育出版社 小川修一著「こうすればできる！授業の技術と実践 生活科 1・2 年」株式会社ルック ※保育出版社発行書については、教育情報出版直販のみ (TEL06-6658-8741)

○2019（平成 31）年度以降の入学生

この科目はテキスト科目ですが、対象者の方へは講義内容を補うスクーリングを実施します。

日 時	令和 3 年 12 月 19 日（日）9：00～10：00
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10 号館（岡山県高梁市伊賀町 8）
■ 事前提出物	課題内容については『添削課題集』に掲載しています。
■ 提出期限	令和 3 年 11 月 19 日（金）大学必着
■ 使用テキスト	「新しい生活 下」（出版社：東京書籍 ISBN：978-4-487-11561-7） 「【生活編】小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説」 文部科学省ホームページよりダウンロードができます。

講義概要・一般目標

本講では、子供の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解させるとともに、「生活科」の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法(教材研究)を理解させ、授業設計に活用することができる能力を涵養する。また、学習指導案の構成を理解させ、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成する力を育む。なお、模擬授業は別途実施する。

到達目標

本講義は小学校教諭一種免許状取得のための必修科目であるが、小学校学習指導要領に定められた「生活科」の目標及び主な内容並びに全体構造の理解をテーマとして、①「生活科」の学習内容について指導上の留意点を理解している、②「生活科」の学習評価の考え方を理解している、③「生活科」と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができることを到達目標とする。

評価方法

学習状況確認のための添削課題及び学期末の定期試験(100%)

なお、添削課題については学習の発展に資するために、確認後、所見(コメント)を付してフィードバックするので参考にすること。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

児童養護施設の主任児童指導員・副園長として小学生の園内学習指導(生活科)に従事した。このような経験を踏まえ、生活科の学習指導の実践例を交えた授業を行い、履修学生の理解を深めさせる。

学修の進め方

〔添削課題出題の意図及び課題の進め方(学び方)について〕

本科目の添削課題については、専門知識修得状況確認のための①正誤解答式課題、②用語補充式課題、ならびに思考力・考察力確認のための③論述式課題の三部からなっており、多面的に学修内容の理解度を確認できるように構成されています。したがって、課題に取り組むためには、使用テキストの各章を熟読して、学びのキーワードとその意味について理解するとともに、章のテーマ・主題について考察を深めることが求められます。

〔フィードバック〕

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを記載し返却します。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

第1章 総説

平成20年3月に学校教育法施行規則の一部改正と小学校学習指導要領の改訂が行われ、平成23年度から新小学校学習指導要領が全面的に実施されているが、この章では、小学校学習指導要領「生活科」の改訂における趣旨について、(1)改訂の経緯、(2)生活科改訂の趣旨として①生活科改訂の基本方針、②改善の具体的事項について、(3)生活科改訂の要点について①目標の改善、②内容及び内容の取り扱いの改善について理解する。

第2章 生活科の目標

第1節 教科目標

(1) 教科目標の構成

ここでは生活科の教科目標について、次の五つの構成要素を通じて理解する。①具体的な体験や活動を通すこと、②自分と身近な人々、社会及び自然との関わりに関心を持つこと、③自分自身や自分の生活について考えること、④生活上必要な習慣や技能を身に付けること、⑤自立への基礎を養うこと。

(2) 教科目標の趣旨

ここでは、上記(1)の五つの構成要素について、それらの趣旨について詳しく学ぶ。

第2節 学年の目標

学年の目標は、教科目標をより具体的・構造的に示したものであり、第2学年修了までに実現することを目指している。

(1) 学年の目標の設定

ここでは、①2学年に共通する目標の設定、②学年の目標を構成する四つの項目について学ぶ。

(2) 学年の目標の趣旨

学年の目標を構成する四つの項目の趣旨について学ぶ。

第3章 生活科の内容

第1節 内容構成の考え方

(1) 内容構成の基本的な視点と具体的視点

内容構成の基本的な視点である、①自分と人や社会とのかかわり、②自分と自然とのかかわり、③自分自身、の三項目について詳しく学ぶ。

(2) 内容を構成する具体的な学習活動や学習対象

ここでは、具体的な活動や体験を内容の一環とする生活科の特色について理解する。

(3) 内容の構成要素と階層性

生活科の複数の内容を組み合わせた単元構成について、各内容の構成要素と内容の階層性を通じて理解する。

第2節 生活科の内容

第1節で学んだ、①学校と生活、②家庭と生活、③地域と生活、④公共物や公共施設の利用、⑤季節の変化と生活、⑥自然や物を使った遊び、⑦動植物の飼育・栽培、⑧生活や出来事との交流、⑨自分の成長といった、生活科の内容について詳しく学ぶ。

第4章 指導計画の作成と内容の取り扱い

この章では、第3章で扱った生活科の内容に関する指導計画作成上の配慮事項と内容の取り扱いについての配慮事項について理解する。具体的には次のような事項について配慮することを学ぶ。(1) 自分と地域の人々、社会及び自然とのかかわりが具体的に把握できるような学習活動を行い、校外での活動を積極的に取り入れること、(2) 動植物の飼育・栽培については、かかわりが深まるよう2学年にわたって継続的に取り扱うこと、(3) 国語科、音楽科、図画工作科など他教科との関連を積極的に図り、指導効果を高めるように工夫すること、(4) 道徳教育との関連を考慮した指導を行うこと。

第5章 指導計画の作成と学習指導

第1節 生活科における指導計画と学習指導

指導計画の作成と特質について、〈1〉具体的な活動や体験が十分にできる時間的な視点、〈2〉主体的な活動の広がりや深まりを可能にする空間的な視点、〈3〉学習の対象にじっくりと安心してかかわることのできる心理的な視点の重要性を学ぶ。また、学習指導の特質についても学ぶ。

第2節 年間指導計画の作成

年間指導計画の作成において配慮すべき点として、〈1〉児童に実態に対応する、〈2〉地域の環境を生かす、〈3〉指導体制を整える、〈4〉授業時数を適切に割り振る、〈5〉2年間を見通し立案することの重要性を学ぶ。

第3節 単元計画の作成

単元計画として、〈1〉内容の組み合わせ、〈2〉学習活動の組織化、〈3〉発達・成長への配慮、〈4〉評価のあり方について学ぶ。

第4節 学習指導の進め方

学習指導の進め方として、〈1〉振り返り表現する機会を設ける、〈2〉伝え合い交流する場を工夫する、〈3〉試行錯誤や繰り返す活動を設定する、〈4〉児童の多様性を生かすことの意義について学ぶ。

模擬授業及び情報機器の活用

スクーリングで実施予定です。※

※○2019（平成31）年度以降の入学生

講義内容を補うスクーリングの詳細については、『添削課題集』の「テキスト科目における指導案の作成及び模擬授業等のスクーリング実施について」をご確認ください。

初等教科教育法（音楽）

専門教育科目／2 単位／3 年後期開講／テキスト授業※

■ 担当教員	上田 豊
■ 使用テキスト	テキスト：三訂版 小学校音楽科の学習指導—生成の原理による授業デザイン— 著 者：小島律子（監修） 出 版 社：廣済堂あかつき 出 版 年：2018 年 5 月 9 日 第 1 刷 I S B N：978-4-908255-74-8 （初版発行のため、書店での購入を推薦します）
■ 参考テキスト	テキスト：小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 音楽編 著 者：文部科学省 出 版 社：東洋館出版社 テキスト：歌う、弾く、表現する保育者になろう 著 者：全国大学音楽教育学会中四国地区学会編著 出 版 社：音楽之友社

○2019（平成 31）年度以降の入学生

この科目はテキスト科目ですが、対象者の方へは講義内容を補うスクーリングを実施します。

日 時	令和 3 年 12 月 18 日（土）13：10～14：10
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10 号館（岡山県高梁市伊賀町 8）
■ 事前提出物	課題内容については『添削課題集』に掲載しています。
■ 提出期限	令和 3 年 11 月 19 日（金）大学必着
■ 使用テキスト	「小学生のおんがく 1」（出版社：教育芸術社） 「【音楽編】小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説」 文部科学省ホームページよりダウンロードができます。

講義概要・一般目標

音楽科では、表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを目指しています。

- (1) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。【知識及び技能】
- (2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。【思考力・判断力・表現力等】
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を養う。【学びに向かう力、人間性等】

本講座は、この目標の達成を目指します。

そのためには、学習指導要領の精読、歌唱共通教材の歌唱と分析、リコーダー奏など、実践をイメージした授業を行う。また、音楽ソフトを活用して音楽のシュミレーションや資料作成の向上を図る。

到達目標

音楽科の目標を踏まえ、A 表現と B 鑑賞の関係を理解し、歌唱・合唱、器楽・合奏、音楽づくり、鑑賞の指導が、楽しい音楽活動を通して指導できるようになることを目標とする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

音楽関係科目は、次の通り配置されています。

- 1年次 前期 子どもの音楽
後期 基礎技能(音楽A)
- 2年次 前期 基礎技能(音楽B)
後期 基礎技能II
- 3年次 前期 子ども発達教育演習I
後期 初等科教育法(音楽)
子ども発達教育演習II

上記科目は、音楽そのものの理解と音楽教育にかかるものの二つに分類出来ます。前者は、音楽の知識技能の習得のためのもの、後者は音楽教育の実践に必要なものです。後者には、子どもの音楽、初等科教育法(音楽)、子ども発達教育演習I・IIが、残りの三科目が前者に該当します。

講義概要と到達目標を読むと分かりますが、音楽は、専門性の高い科目なので、学習に当たっては、まず専門用語の理解と音楽表現のための基礎技能の習得が前提となります。それらの最も基礎的な学びは基礎技能(音楽A)です。それが前提となって、基礎技能(音楽B)、基礎技能IIの学びが可能となります。それらを踏まえて、音楽教育系科目である、子どもの音楽、初等科教育法(音楽)へと進むことが望ましいと言えます。そして、最後に最も専門性の高い子ども発達教育演習へと進んでください。

- ・テキスト:本科のテキストは、学習指導要領の実践をより効果的に行うことを目標に書かれています。各章は、前章の理解を前提に次へ進むという構成になっています。従って、学習は初めから順を追って行ってください。
 - ・添削課題は、正誤判断(○×)、選択問題、記述問題、そして論述問題の四つの形式で作成しました。出題は、各形式とも大体テキストの順に出題していますので、テキストと問題を並行しながら行うと、理解が容易になると思います。
- 尚、フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

■『三訂版 小学校音楽科の学習指導—「生成の原理」による授業デザイン—』

本テキストは、未知の問題に対応する力として、2016年12月の中央教育審議会答申の「生きる力」の育成を目指して書かれています。生きる力の核となるのが「自ら学び自ら考える力」、つまり「思考力・判断力・表現力」です。そのためには、基礎的・基本的な知識・技能の習得が重要となります。

平成29年告示の小学校学習指導要領では、音楽科もこの「生きる力」の育成に貢献することが求められています。本テキストは、その方途を具体的に学ぶことを目的に書かれたものです。

本テキストは、序章と5つの章、そして資料で構成されています。各章の内容は次の通りです。

- 序章 これからの小学校音楽科教育
- 第1章 音楽科の目標
- 第2章 音楽科の指導内容と指導計画及び評価
- 第3章 音楽科授業の実践
- 第4章 歌唱共通教材の研究
- 第5章 音楽科における関連と連携

資料 楽典 音楽教育主要用語 小学校学習指導要領(音楽)

学習では、各章を構成する節を詳細に学ぶことになります。それらを順に追っていけば、小学校音楽

科について、「何故」するのか、「何を」するのか、そして、「どのように」するのが理解でき、実践できるようにします。

以下に、学習の流れを掴むために、各章の概要を記します。

序章 これからの小学校音楽科教育 p.8～

この章では、音楽科について、これまでの「音楽そのものを表現できる能力を育成する」という目標から、学校教育の目標である「生きる力」の育成への貢献という方向転換が説明されています。そして、学びについて、これまでは知識・技能が学力とされてきましたが、これからは、知識・技能を活用する思考力が学力と考えられるようになり、加えて、音楽科にも思考力育成を担うことが求められるようになりました。

序章とされていますが、これからの教育の根本になる考え方が記されているので、学習を進めるにあたって熟読してください。以下に学習の内容や方向性を把握するための道標として、キーワードを示しました。

キーワード：音楽的思考 人間形成 量的な見方 質的な見方 授業デザイン 生成の原理 知覚と感受 社会的構成主義

第1章 音楽科の目標 p.12～

この章は、小学校学習指導要領(平成29年3月告示)の音楽科教育の目標について理解する章です。音楽科の目標は、大きく「音楽的な見方・考え方」と「音楽科で育成する資質・能力」の2つがあります。

「音楽的な見方・考え方」とは、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連づけること」であるとされています。

「音楽科で育成する資質・能力」とは、「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力」です。そして、この目標を達成するために、①音楽の「知識及び技能」の習得、②「思考力・判断力・表現力等」の育成、③「学びに向かう力、人間性等」の涵養という3つの資質・能力が示され、発達を踏まえた学年の目標が、これらを柱に示されています。

キーワード：音楽的な見方・考え方 音楽科で育成する資質・能力 知識及び技能 思考力・判断力・表現力 学びに向かう力、人間性

第2章 音楽科の指導内容と指導計画及び評価 p.17～

この章は、Ⅰ. 音楽科の指導内容、Ⅱ. 音楽科の学力と評価、Ⅲ. 指導計画の作成と内容の取扱い、そして、Ⅳ. 音楽科の指導計画と学習評価の4つの節で構成されています。

Ⅰ. 音楽科の指導内容 p.18～

指導内容は、音楽活動を通して子どもが学ぶことが期待される内容のことで、「指導事項」と「共通事項」の二つの項目で示されています。さらに「指導事項」は「A表現」と「B鑑賞」に分けて示されています。〔共通事項〕は、「A表現」「B鑑賞」のすべての活動分野で共通に指導すべき内容で、「音楽を形づくっている要素」が学習の対象になっています。

キーワード：指導内容 指導事項 (A表現 B鑑賞 歌唱 器楽 音楽づくり 鑑賞) 共通事項 音楽を形づくっている要素 (構成要素 構成原理)

Ⅱ. 音楽科の学力と評価 p.31～

目標から評価まで一貫している計画を立てることが学習指導案の基本となります。教育の構造は、目標 ⇒ 実行 ⇒ 評価 ⇒ (再・新) 目標のサイクルで表されます。目標と評価は「表裏一体」の関係にあり、ある目標にもとづいて事業を実施し、目標の達成について評価を行います。この時の視点のことを「評価の観点」といいます。さらに観点には、そのもとになる内容があり、これを趣旨といいます。ここでは、評価の観点と趣旨の関係を把握することが大切です。また、評価は、学習指導案に沿って、時系列的に配置し、児童の習得の状況が把握できるようにしなくてはならない。

キーワード：評価の観点と主旨 評価規準 具体の評価規準 評価基準 評価方法

Ⅲ. 指導計画の作成と内容の取扱い p.34～

指導要領では、主体的・対話的な学習を通して、「音楽的な見方・考え方」を働かせながら音楽表現を生み出したり音楽のよさを見いだしたりするなど「思考、判断、表現する一連の過程」を大切にすることを求めています。これを実現するには、「自分たちが今何を学んでいるのか」を明確にし、

授業全体を通してその学びに向き合う時間を保障することが大切です。これを明確にするのが〔共通事項〕です。指導要領では、〔共通事項〕について、「表現及び鑑賞の学習と併せて、十分な指導が行われる」こと、また「〔共通事項〕を要として各領域や分野の関連を図る」こと求めています。
キーワード：音楽的な見方・考え方 共通事項 各学年の「指導事項」 いろいろな子どもへの配慮 コミュニケーション ICTの利用

IV. 音楽科の指導計画と学習評価 p.37～

ここは、1. 年間指導計画、2. 単元構成の枠組み、3. 学習指導案の作成、4. 学習評価の実際、そして資料で構成されています。ここでは、実際の授業と直結する「3. 学習指導案の作成」が身近な課題となると思われます。この項は、具体例を挙げて、懇切丁寧に記されているので、50～52頁の資料を参考にマスターしてください。

キーワード：年間指導計画 単元名 経験－分析－再経験－評価 学習指導案の作成 学習評価の実際

《資料》年間指導計画、学習指導案の書式例、指導要録参考書式

第3章 音楽科授業の実践 p.53～

単元一覧表

ここは、第2章「音楽科の指導内容と指導計画及び評価」の「IV. 音楽科の指導計画と学習評価」で詳述した内容を、低・中・高学年の「歌唱」、「器楽」、「音楽づくり」そして「鑑賞」の項目別に、学習指導案の8つの項目で構成した指導案を例示しています。学習指導案の8つの項目とは、1. 指導内容、2. 単元名、3. 対象学年、4. 教材、5. 教材と単元、6. 指導計画、7. 単元目標・評価基準、8. 展開です。

第4章 歌唱共通教材の研究 p.117～

ここは、歌唱共通教材各（学年4曲、合計24曲）すべてについて、歌の発表年、場所、作詞・作曲者について簡潔に解説し、加えて曲それぞれの特徴について解説しています。また、24曲すべてに簡単な鍵盤楽器による伴奏がつけられています。歌唱共通教材は、必ず指導することが義務付けられている教材なので、それらの特徴を把握し、指導の際に必要な鍵盤伴奏も練習してください。

第5章 音楽科における関連と連携 p.145～

この度の改定で、音楽科について、学校教育の目標である「生きる力」の育成への貢献ということが示されました。学びについて、これからは、知識・技能を活用する思考力が学力と考えられるようになり、加えて、音楽科にも思考力育成を担うことが求められるようになりました。この章は、この考えに基づいて設定されたものです。

総合的な学習、他教科との連携、地域との連携など、これらの多様な学び、正解が存在しないような課題への取り組みにおいては、学校は独自にカリキュラムを作成することが求められます。ここでは、この流れを受けて、音楽科と他の様々な連携について学びます。

キーワード：カリキュラム・マネジメント 「総合的な学習の時間」との連携 他教科との連携 地域との連携 小学校と幼稚園、及び中学とのつながり

資料 楽典 音楽教育主要用語 小学校学習指導要領（音楽） p.153～

内容は、楽典に係るもの、〔共通事項〕の学習指導要領に係る用語、平成29年小学校学習指導要領（音楽）です。ここは、学習を進めるうえで、大変ありがたい資料集です。

■『歌う、弾く、表現する保育者になろう』

第4章 楽典

小学校学習指導要領「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の2-(6)には、各学年の〔共通事項〕のイの「音符、休符、記号や音楽にかかわる用語」については、児童の学習状況を考慮して、次に示すものを取り扱うこととして、音楽にかかる記号が具体的に提示されています。この事項の理解として、基礎技能（音楽B）、基礎技能Ⅱのテキストに採用している本書の「第4章 楽典」を活用します。

特に「はじめに」の譜例『スティリアの女』（ブルグミュラー作曲 25の練習曲）から①～⑳の解説を読み、それらの項目の末尾に示されているページの説明もよく理解すること。

※○2019（平成 31）年度以降の入学生

講義内容を補うスクーリングの詳細については、『添削課題集』の「テキスト科目における指導案の作成及び模擬授業等のスクーリング実施について」をご確認ください。

初等教科教育法（図画工作）

専門教育科目／2 単位／3 年後期開講／テキスト授業※

■ 担当教員	佐藤 尚宏
■ 使用テキスト	テキスト：明日の小学校教諭を目指して 子どもの資質・能力を育む 図画工作科教育法 編著者：新野貴則・福岡知子 出版社：萌文書林 出版年：2019 年 ISBN：978-4-89347-287-8
■ 参考テキスト	テキスト：小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 図画工作編 著者：文部科学省 出版社：日本文教出版 出版年：2018 年 2 月 28 日 初版 ISBN：978-4536590112

○2019（平成 31）年度以降の入学生

この科目はテキスト科目ですが、対象者の方へは講義内容を補うスクーリングを実施します。

日 時	令和 3 年 12 月 19 日（日）10：10～11：10
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10 号館（岡山県高梁市伊賀町 8）
■ 事前提出物	課題内容については『添削課題集』に掲載しています。
■ 提出期限	令和 3 年 11 月 19 日（金）大学必着
■ 使用テキスト	「ずがこうさく 1・2 下みつけたよ」（出版社：開隆堂出版 ISBN：978-4-304-08088-3） 「【図画工作編】小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説」 文部科学省ホームページよりダウンロードができます。

講義概要・一般目標

初等教育における図画工作の意義や役割、目標と内容などの理論と指導案作成と評価、情報機器の活用について学ぶ。さらに学習指導の実践に向けて〈造形あそび〉〈絵（版）〉〈立体〉〈工作〉〈鑑賞〉において児童の発達に沿ったふさわしい教材研究を行った上で、なお、指導案の作成および模擬授業は別途実施する。

到達目標

「図画工作科教育に関する基礎的な知識及び授業運営の実際」をテーマとして、児童の発達段階と育成を目指す資質・能力や、図画工作の特質や意義について理解した上で、学習指導の計画方法を学び、より良い授業づくりのための教育技能を獲得することを到達目標とする。

評価方法

添削課題及び科目単位認定試験（定期試験 100%）により評価。

オフィスアワー（学生の問い合わせ・相談に応じる時間）

Web 学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

1. 添削課題の意図及び課題の進め方

- ①学習指導要領の内容を理解し、図画工作科の全学年を通じた変化や留意点を掴むこと。
添削課題Ⅰ・Ⅱ・Ⅲはこの部分から出題しています。学修の進め方は学習指導を参照の事。
 - ②実際の授業を計画するにあたり最も重要といえる教材研究と導入部の要点を掴むこと。
論述問題はこの部分を出題しています。事前に教材研究として自分で体験する必要があるため、時間に余裕を持って取り組みを進めること。
- ### 2. 添削課題をまとめるにあたっての留意点
- 具体的な指示は学習指導を参照の事。文章の内容を丁寧に確認しないと混乱するのでじっくり取り組む事。
- ### 3. フィードバックについて
- フィードバックとして提出された課題レポートにコメントを返します。

★図画工作・造形表現活動の科目の全体像と各科目間の関係★

基礎技能（図画工作）S

主に幼児期から小学校低学年を想定。全ての科目の基盤となる内容。
保育者・教員として必要な子どもの造形表現活動への理解・共感する心や姿勢など、最も基本的な本質と子どもにとっての意味・意義を体感的に学修する。

基礎技能Ⅱ（図画工作）S

主に幼児期から小学校全般を想定。模擬保育・模擬授業に関係する内容。
理解・共感する心や姿勢を基にし、保育者・教員としてどのように授業づくりをすればいいのかについて、教材研究の要点や、表現の基本技能について学修する。

子どもの図画工作T

テキストは幼児教育だが、小学校全般に通用する。全ての科目の基盤となる内容。
造形表現活動の意義、表現を育む姿勢、造形を楽しむ題材、子どもの発達段階などについて、理論的側面や様々な事例から学修する。

保育指導法（表現）T

テキストは幼児教育だが、小学校全般に通用する。模擬保育・模擬授業の基盤となる内容。
実際の指導を考えるにあたっての役割や指導形態、援助について学修する。これらの内容は小学校においても図画工作科に関しては基盤となる内容であるにもかかわらず、小学校向けの学修では見落とされがちな重要な内容を取り扱っている。

保育内容指導（表現）／保育内容（表現）S、2日目

幼児期～小学校低学年を想定。グループ製作による授業づくりの演習。
子ども参加の空間デザインをテーマに壁面づくりの模擬保育（模擬授業）を行う。

初等教科教育法（図画工作）

学習指導要領と実際の授業づくりの要点について学修する。
また授業づくりでは基礎技能Ⅱ（図画工作）での教材研究の学修をベースに、各自に実際に取り組んでもらい授業のアイデアについて考察する。

子ども発達教育演習Ⅰ・Ⅱ

それまでの学修を総合し、造形表現活動をどのように実践するのかについて、自らの興味・関心からテーマをしばり、「文献調査」「実践報告」「教材製作」の3種類の研究方法で研究を進める予定。

学修指導

全体の学修を15回の内容・手順にし、要点を示します。

1. テキスト 明日の小学校教諭を目指して 子どもの資質能力を育む図画工作科教育法 巻末資料, p250～253（小学校学習指導要領平成29年3月告示）を通読する。
学習指導要領の原文はこれだけです。まずは骨にあたる原文のみを通読して学修する骨子と全体像を掴むこと。

2. 小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 図画工作編 平成 29 年 7 月 を入手し、第 1 章 総説, p1～8 を通読する。

(参考テキストを購入するか、文部科学省のサイトからダウンロードしてください。)

時代の変化と今後に求められる教育の在り方が、自分たちの受けてきた教育からどこがどのように変わるのか? 変わらないのか? について想像し、理解する。

皆さんが教員になったとして、その時担当した子ども達が成人し社会を担って生きていく何十年も先を視野にとらえる事は重要です。

生きる力の 3 つの柱と授業改善の 6 つのポイントは必ず理解すること。

3. 小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 図画工作編 平成 29 年 7 月 第 2 章 図画工作科の目標及び内容, p9～34 を学修する。

一見似たような内容でも言葉遣いが変わることで伝えようとしている事が変わるので、丁寧に読み込むこと。

書いてある内容がどういう意味を持つのかを理解するために「何をするのか? (行為・行動)」「なぜするのか? (目標や根拠)」「どのようにするのか? (手法・実際の授業)」のどれについて書かれているのかを意識しながら読み込むこと。

4. 小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 図画工作編 平成 29 年 7 月 第 3 章 各学年の目標および内容, p35～103 を学修する。①

学年ごとに低学年 (第 1 学年及び第 2 学年) 中学年 (第 3 学年及び第 4 学年) 高学年 (第 5 学年及び第 6 学年) の 3 つの節に分かれています。まずは、一度通読して全体像を掴むこと。

次に、下表にて学年ごとの違いをまとめ、以下のポイントに留意しながら比較・理解します。

1 目標 目標が学年ごとにどう変わっていくのかについて理解する。(左右の比較)
どこがどう違うか? から「なぜなのか? (理由・根拠)」を考察する。

5. 小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 図画工作編 平成 29 年 7 月 第 3 章 各学年の目標および内容, p35～103 を学修する。②

同様に下表にて学年ごとの違いをまとめ、以下のポイントに留意しながら比較・理解します。

2 内容 内容「A 表現、B 鑑賞、[共通事項]」の違いと関係を理解する。(上下の比較)
→特に造形あそびについては違いを丁寧に理解すること。
目標の変化が内容の変化にどう関係しているか理解する。(縦+横の比較)
→内容の変化から「なぜなのか? (理由・根拠)」を考察する。

		第 1 学年及び第 2 学年	第 3 学年及び第 4 学年	第 5 学年及び第 6 学年
内容	目標			
	A 表現			
	B 鑑賞			
	[共通事項]			

※自分で表をつくることで丁寧な理解が進みます。

※この表はおおまかな説明用で、左の枠はより細分化されます。

(目標は 3 つに分れ、A 表現は大きく 2 つに分かれた上にさらに分れます)

6. 小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 図画工作編 平成 29 年 7 月 第 4 章 指導計画の作成と内容の取り扱い, p104～12 を学修する。

「～ようにすること。」として大まかな方向性が示されている所は、具体的にどのような題材の設定や指導の工夫をしたらよいのか? という問題意識を持って読み込むと自分がわからない事がはつきりし、後半の学修に役立ちます。

材料や用具については、どのような物がどの学年に設定されているか、それぞれの材料や用具の特色や指導上の注意点などを考えながら理解を進めること。

7. テキスト 明日の小学校教諭を目指して 子どもの資質能力を育む図画工作科教育法 第 1 章 図画工作科における学び, p9～30 を通読する。

学習指導要領解説のやや理念的・抽象的な内容をより具体的・事例的に示していますので、通読して理解する事。

8. テキスト 明日の小学校教諭を目指して 子どもの資質能力を育む図画工作科教育法
第2章 図画工作科の内容, p31～62 を通読する。

図画工作科の5つの内容「造形あそびをする活動」「絵に表す活動」「立体に表す活動」「工作に表す活動」「鑑賞の活動」の具体的な内容について、「子どもの姿」「指導のポイント」「題材例」の3つの側面から示してあります。

学習指導要領の内容が具体的にはどのような形になるのかがわかる重要な章です。

8. テキスト 明日の小学校教諭を目指して 子どもの資質能力を育む図画工作科教育法
第3章 図画工作科の指導法, p63～104 を通読する。

学習指導案を書くにあたって必要な教師の工夫について具体的に書かれた非常に重要な章です。図画工作科は特に主体性が重要な意味を持つ教科です。「やらせる活動」ではなく「夢中になる活動」を作れるかどうか？が授業の成否を分けます。

「2. 授業の実際② 導入のポイント」「5. 授業づくりのプロセス-学習指導案ができるまで」は添削課題・論述問題に関係する最重要ポイントとして丁寧に読み込むこと。

9～14. テキスト 明日の小学校教諭を目指して 子どもの資質能力を育む図画工作科教育法
第4章 図画工作科の実践事例, p105～208 を学修する

学習指導案を書くにあたって必要な教師の工夫について具体的に書かれた非常に重要な章です。添削課題の論述問題はここを参照しながら取り組んで下さい。

15. 模擬授業と情報機器の取り扱いなど

※スクーリングにて実施予定です。詳細は『添削課題集』を参照のこと。

※○2019（平成31）年度以降の入学生

講義内容を補うスクーリングの詳細については、『添削課題集』の「テキスト科目における指導案の作成及び模擬授業等のスクーリング実施について」をご確認ください。

初等教科教育法（家庭）

専門教育科目／2 単位／3 年後期開講／テキスト授業※

■ 担当教員	幸坂 寛子
■ 使用テキスト	テキスト：初等家庭科教育法 新しい家庭科の授業をつくる 著 者：加地芳子・大塚真理子 出 版 社：ミネルヴァ書房 I S B N：978-4-6230-5986-7 テキスト：小学校学習指導要領解説 家庭編 著 者：文部科学省 出 版 社：東洋館出版社 I S B N：978-4-491-03466-9
■ 参考テキスト	指定なし

○2019（平成 31）年度以降の入学生

この科目はテキスト科目ですが、対象者の方へは講義内容を補うスクーリングを実施します。

日 時	令和 3 年 12 月 18 日（土）11：20～12：20
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10 号館（岡山県高梁市伊賀町 8）
■ 事前提出物	課題内容については『添削課題集』に掲載しています。
■ 提出期限	令和 3 年 11 月 19 日（金）大学必着
■ 使用テキスト	「わたしたちの家庭科」（出版社：開隆堂） 「【家庭編】小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説」 文部科学省ホームページよりダウンロードができます。

講義概要・一般目標

小学校家庭科を指導する上で必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得することを目的とする。小学校家庭科の目標及び家庭科の特質を踏まえ、「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」の学修に関する具体的な授業の組み立てを、学習指導案の作成や、評価計画の作成を通して身につける。また、現代の子どもたちを取り巻く社会の現状と課題を踏まえた、子どもたちが主体的に学び活動できる家庭科の授業を創造する指導力を養う。

到達目標

- ・小学校家庭科の目標、内容を理解し、家庭科を指導する上での基礎的・基本的な知識と技術を習得することができる。
- ・学習指導案の作成や評価の作成を通して、小学校家庭科を指導するための具体的な授業の組み立てを考え、実践することができる。
- ・現代社会の現状と課題を踏まえ、子どもたちが主体的に学び、活動することのできる授業の在り方を考え、教育者としての指導観を持つことができる。
- ・小学校教師として必要なコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、情報機器や教材を効果的に活用する能力、教材研究能力を養い、また、家庭科の授業を創造する指導力を養う。

評価方法

添削課題及び科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

学修にあたって、テキストとともに「小学校学習指導要領第2章、第8節 家庭」を熟読し、「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 家庭編」を参考に学修を進めていただきたい。

まず、学習指導要領に示されている目標と内容について理解し、新しい学力観を受けての育てたい力や指導方法を確認し、要点をまとめることが大切である。そして、わかる授業の道しるべともいえる学習指導案の作成についてその留意点を整理し、実際の授業を想定した学習指導案の作成を行っていただきたい。テキストでは家庭科の授業づくりの着眼点を13のポイントにまとめられているので、それぞれのポイントごとに実際の授業を想定した授業計画を模索してほしい。また、学習指導案の作成に関しては、新学習指導要領に基づき、スクーリングでの指導の下で取り組んでいただきたい。

小学校家庭科の授業を行うために必要な専門性を深める学修を進めるとともに、指導者自身の日常生活をより豊かなものにする努力をしていただきたい。

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

1. 小学校家庭科教育とは何か

小学校家庭科とはどのような学習をすべきものであるか、①人と人との関わり②生活の中での物との関わりからの二つの視点からその意義と特徴を理解する。

また、小学校家庭科の内容は社会や家庭生活の変化に対応した7回の改訂により内容構成の改訂が図られてきた。新学習指導要領での小学校家庭科の内容設定の視点および概要を理解するために、その改訂の変遷を理解する。

2. 家庭科の教育課程①・・・家庭科の学習指導要領

小学校の学習指導要領は2017年（平成29年）3月31日に告示され2018年度から2年間の移行措置を経て2020年度から全面実施となる。小学校学習指導要領（平成29年告示）解説を参考に教科目標及び内容を確認してほしい。

3. 家庭科の教育課程②・・・家庭科における学習指導

家庭生活を総合的にとらえるための家庭科学習の題材構成を考える。子ども達が充実感や楽しさを味わうことができる実践的・体験的な学習を通して家庭科の目標を達成するために内容をどのように捉え、どのような内容を選択すべきか他教科との関連も踏まえながら検討することが大切である。また、家庭科の学習を通してどんな力を育てたいのかを明確にし、そのための指導のアプローチのし方を研究してほしい。

4. 家庭科の教育課程③・・・家庭科における学習評価

教育評価は教材の評価、指導方法の評価、目標・内容の評価などあらゆる面で行われるべきものであり、指導方法の見直しや教材の分析、指導計画や指導過程の見直しを行うことで学習者の育成を図ることができる。新学習指導要領で求められている、学力を育むための教育活動の評価について考える。指導と評価は常に表裏一体でなければならない。家庭科は実践的・体験的学修をする教科であることから、児童が習得した基礎的・基本的知識や技能に関して、妥当性、信頼性のある評価を行うことは極めて重要であるといえる。その評価が次の学習指導を考える上での有効な改善につながることも、評価の観点および方法について基本的事項をしっかりと押さえたい。

5. 家庭科の教育課程④・・・指導案の作成と評価の計画

学習指導計画とは教師の指導観・個性を実現させる授業の設計図・計画案であり、子どもひとり一人に学習が成立するための案内図である。わかる授業の道しるべともいえるべき重要なものである。家庭科の学習指導に当たっては、実践的・体験的な活動を通して行うことがその特質として上げられる。指導計画の作成における留意点および内容の取り扱いと指導上の留意点を理解し、児童が主体となって効果的に取り組むことのできる授業のあり方を工夫してほしい。

指導計画には年間指導計画、題材指導計画、単位時間の指導計画（学習指導案）がある。それぞれの基本的事項をしっかりと押さえ、テキストの指導計画案例を参考に独自の題材配列を考慮した指導計画案を考えることが大切である。また、指導課程において指導と評価を一体化させるために、指導計画を作成するとともに、評価規準を明確にした評価計画を作成することが大切である。学習指導案を作成する上で、基本的な項目と要点をしっかりと押さえてほしい。

6. 小学校家庭科の授業づくり①・・・家庭科授業づくりの工夫（情報機器及び教材の活用）

家庭科はその教科目標にも示されているように実験・実習、製作、調査など実践的体験的な学習活動を通して家庭生活に関心を持たせ、達成感や喜び、充実感を持たせることが重要である。そのための効果的な学習指導形態の種類や学習指導の方法についての理解を深める。なお、情報機器の活用についてはスクーリングで実施予定。詳細は後日連絡する予定。

新学習指導要領を踏まえた家庭科の授業づくりについて13の視点からまとめられており、それぞれ具体的な授業例へもリンクされているので、参考にして実践的な授業づくりを具体的に検討してほしい。

7. 小学校家庭科の授業づくり②・・・「家族・家庭生活」の学習

家庭科の学習では、家庭生活と家族の大切さに気付くことが重視されている。より豊かな生活を作り出す力を育てるためにも、子ども達自身が自分自身の生活に関心を持ち、課題を見つけ、解決の方法を考えることのできるような授業の在り方を模索することが大切である。指導計画の作成にあたっての配慮事項を踏まえ、テキストにある題材案、時案を検討するとともに、中学校での家庭科教育につながる6年生最後の授業についても検討してほしい。

8. 小学校家庭科の授業づくり③・・・「食生活」の学習

我が国の食生活は豊かになり、核家族や夫婦共働き家庭の増加などの家族形態の変化とともに、子どもたちを取り巻く食生活が大きく変化してきている。子どもの食生活の実態や食環境を理解し、子どもたち一人一人が自分の食生活を自己管理し、健康を保持し、さらには日本の食文化の継承の担い手となることの意義について考察してほしい。食事に含まれる栄養素が身体の成長や活動の源になることを理解し、栄養バランスのよい食事のための食品の組み合わせについて、食品の中に含まれる栄養素の体内での働きにより3つのグループに分けられることを理解し、食品を分類できることが大切である。

テキストではご飯と味噌汁を教材とする題材時案が示されている。調理に関しては学習指導要領に、「調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な取り扱い及び、加熱用調理器具の安全な取り扱いができること」が明記されており、身支度や手洗い、道具・器具の取り扱いについての注意事項について検討してほしい。また取り扱われている教材、米、味噌についての教材研究を行うことも大切である。

9. 小学校家庭科の授業づくり④・・・「衣生活」の学習

生活に欠かせない衣服が本来何のために着ているのかを考えることで「快適な衣服」とは何かを考えさせたい。保健衛生上の働きや生活活動上の働き、社会生活上の働きを理解することで主体的な衣服の選択と着装の工夫ができる力を育てたい。テキストでは「環境に配慮した生活の工夫」の指導として、手洗いの実践授業があげられている。家庭生活において快適衣服を整える実践力をより育てるためにも、ぜひ指導計画第3次の指導課程も検討してほしい。

10. 小学校家庭科の授業づくり⑤・・・「住生活」の学習

住まいは休養や食事の場であり、衣服や家財を管理する場、家族で団らんを過ごす場所であり、生活を営む上で欠かすことの出来ない空間であることを踏まえ、住生活領域では身の回りの整理・整頓、清掃、廃棄物処理などの生活行為や家族と住まいの関わり方に重点を置いた指導が大切である。そのためにも「住居の機能」「住まい方」「室内環境」といった基本的な内容を研究してほしい。

11. 小学校家庭科の授業づくり⑥・・・「生活に役立つ物の製作」の学習

大量消費・廃棄といった暮らしの中で、特に布製品の選び方や使い方を見直し環境に配慮した生活を実践する力を身に付ける事はとても重要である。生活に必要なものは何かを考え、家庭や学校で子ども達自身が、あるいは家族の生活を豊かにするため物の製作を取り上げたい。そして、製作の喜びを味わいながら基礎的・基本的な知識や技術が身につくよう配慮することが大切であり、手縫いや

ミシン縫いの技術をしっかりと身に付けさせる指導の工夫について検討してほしい。教材の選び方、実技指導の方法、学修形態、作品の評価の方法等についてもしっかりと研究してほしい。

1 2. 小学校家庭科の授業づくり⑦・・・「消費生活・環境」の学習

新学習指導要領において「消費生活・環境」は4つの内容の1つとしてあらたに設定され、重要視された内容である。子ども達が消費者としての自覚を持ち主体的に判断し行動できるようにする観点から消費者教育に関する内容の充実が図られた。また、子どもたちに日常の生活行動が、環境と深く関わっていることを自覚させることも大切である。消費者教育と環境教育を日常の生活場面を活用し、実感的に学ぶことができる学習の在り方を模索してほしい。

1 3. 教材研究と授業評価

家庭科の授業づくりについて、テキストP74～にある、13のポイントを取り上げた授業を具体的に作るための準備する教材、板書計画、評価計画について研究してほしい。

1 4. 模擬授業

スクーリングにて実施予定

※○2019（平成31）年度以降の入学生

講義内容を補うスクーリングの詳細については、『添削課題集』の「テキスト科目における指導案の作成及び模擬授業等のスクーリング実施について」をご確認ください。

初等教科教育法（体育）

専門教育科目／2 単位／3 年後期開講／テキスト授業※

■ 担当教員	中尾 道子
■ 使用テキスト	テキスト：改訂版 初等体育科教育の研究 著 者：木原成一郎 大後戸一樹 久保研二 村井潤 編著 出 版 社：学術図書出版・・・学術図書出版社 HP からしか購入できません 出 版 年：2019 年 3 月 I S B N：978-4-7806-0676-8
■ 参考テキスト	テキスト：小学校学習指導要領解説 体育編 著 者：文部科学省 出 版 社：東洋館出版社 I S B N：978-4-491-03467-6

○2019（平成 31）年度以降の入学生

この科目はテキスト科目ですが、対象者の方へは講義内容を補うスクーリングを実施します。

日 時	令和 3 年 12 月 18 日（土）16：40～17：40
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10 号館（岡山県高梁市伊賀町 8）
■ 事前提出物	課題内容については『添削課題集』に掲載しています。
■ 提出期限	令和 3 年 11 月 19 日（金）大学必着
■ 使用テキスト	「【体育編】小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説」 文部科学省ホームページよりダウンロードができます。

講義概要・一般目標

本講義では、体育科の目的・目標に始まりその指導計画や教材作りの視点及び指導法・評価について理解を深めると共に、体育科における各領域の内容及び指導方法について理解を深めることを目的とする。

到達目標

本講義を通じて、小学校教育現場で円滑に体育科の授業が実施できるように、体育科において扱われる内容を理解した上で、年間指導計画、単元指導計画の立案や、学習指導案の作成法について学習し、実際の指導の現場で活かすことの出来る知識及び実践力を育成することを到達目標とする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー（学生の問い合わせ・相談に応じる時間）

Web 学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

本講義は、小学校体育科に関わる理論や考え方及び実践方法を学習することを目的としており、基本的にはテキスト及び小学校学習指導要領解説体育編を中心に学習を進めればその内容を理解することができるよう添削課題を作成している。適宜質問等があれば web 学修支援システムにて質問を募集している。

また、フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

<第1部>

第1章 体育科の目的・目標

この章では、体育科の目的・目標、体育授業の基本的性格、体育科の学習指導要領の歴史的編変遷や性格に関する知識を中心としながら体育科の概論を学修する。

第2章 体育科の指導計画

この章では、体育科の指導計画に年間計画、単元計画、学習指導案についてその作成方法の手順や時考慮すべき点について学修する。

第3章 体育科の教材づくり

この章では、教材と教科内容の区別から始まりその系統性や精選の方法を学ぶと共に、素材から教材をつくりだすプロセスや考慮すべき内容について学修する。

第4章 体育科の指導法

この章では、体育科全般の指導方法に関わる内容を学ばなかで、ねらいに迫る効果的な指導方法の知識や具体的方策について学修する。

第5章 体育科の評価

この章では、体育科での教育活動における評価について、成績の通知にとどまらない役割を持っていることを前提とした上で、体育科の評価をどのように進めるべきかを学修する。

<第2部>

第1章 体づくり運動

体づくり運動の内容やねらいを学び、また教育現場で実践している運動例を学ぶ。

第2章 器械・器具を使ったの運動遊び／器械運動

器械・器具を使ったの運動遊び及び器械運動の特性から指導上の留意点、各学年の内容を学ぶ。

第3章 走・跳の運動（遊び）／陸上運動

陸上運動系（走・跳の運動遊び、走・跳の運動、陸上運動、陸上競技）の特性から授業の指導上の留意点、各学年の実践例を学ぶ。

第4章 水遊び／水泳運動

本章では、水遊び／水泳運動の特性から授業の指導上の留意点、各学年の実践例を学ぶ。

第5章 ゲーム／ボール運動

本章では、ゲーム／ボール運動の特性から指導上の留意点、各学年の内容を学ぶ。

第6章 表現リズム遊び／表現運動

本章では、表現リズム遊び／表現運動の特性から指導上の留意点、各学年の内容を学ぶ。

※〇2019（平成31）年度以降の入学生

講義内容を補うスクーリングの詳細については、『添削課題集』の「テキスト科目における指導案の作成及び模擬授業等のスクーリング実施について」をご確認ください。

初等教科教育法（英語）

専門教育科目／2 単位／2 年後期開講／テキスト授業※

■ 担当教員	池上 真由美
■ 使用テキスト	テキスト：小学校英語はじめる教科書 著者：吉田研作（監修）、小川隆夫、東仁美 出版社：mpi 出版年：2018年 ISBN：9784896437430（旧 ISBN：978-4-89643-584-9） テキスト：小学校学習指導要領解説 外国語活動編 外国語編 新版 著者：文部科学省 出版年：2018年 (文部科学省ホームページよりダウンロード可)
■ 参考テキスト	テキスト：「Let' s Try! 1、2 指導編」「We Can! 1、2 指導編」 著者：文部科学省 出版年：2018年

○2019（平成 31）年度以降の入学生

この科目はテキスト科目ですが、対象者の方へは講義内容を補うスクーリングを実施します。

日 時	令和 3 年 12 月 19 日（日）13：10～14：10
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10 号館（岡山県高梁市伊賀町 8）
■ 事前提出物	課題内容については『添削課題集』に掲載しています。
■ 提出期限	令和 3 年 11 月 19 日（金）大学必着
■ 使用テキスト	「Let' s Try 1」（出版社：東京書籍） 「【外国語活動・外国語編】小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説」 文部科学省ホームページよりダウンロードができます。

講義概要・一般目標

小学校外国語活動及び外国語科において、英語を教えるため必要な基礎理論（教育法・教材・指導案等）を学び、模擬授業（別途実施）を行って実践的な指導力を身に付ける。

到達目標

テーマ：小学校英語教授法と授業計画案の作成

到達目標：小学校英語教育に関する基礎理論を理解し、その指導法、教材作成、評価等に関する実施方法の習得を目標とする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー（学生の問い合わせ・相談に応じる時間）

Web 学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

第 14・15 回の模擬授業の指導は、公立小学校における指導経験のある元教員が行い、実践的な知識・技能を身に付けるようにする。

学修の進め方

・添削課題は、学修指導に沿って学んでいただく中で特に理解してほしい、重要なものを取り上げるようにしています。分からないときはテキストにもう一度戻って、課題のある章を確認するようにしてください。

・添削課題は、空所補充問題と論述問題に分かれています。論述問題は資料を丸写しするのではなく、どこが重要箇所かを確認しながら、自分でまとめてみてください。

・学修の手引には、テキストで特に学んでいただきたいポイントが書かれています。そちらをまず読みテキストを読み進めていただく方が、理解を深めやすいと思います。

・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

- 1 「小学校英語はじめる教科書」(テキスト①)は、実際に小学校で外国語教育に取り組むための基礎的な知識・技能がわかりやすく解説されています。巻末には、クラスルーム・イングリッシュや歌やチャンツの音声や動画を実際に視聴することができるアプリコードが掲載されており、自学できるようになっています。しっかり活用して、基礎的な実践力を身に付けてください。なお、テキスト①については、次のポイントに留意して読み進めてください。

第1部 外国語の指導法

- Unit 1 . . . 小学校外国語教育の歴史と目的を概観する。
- Unit 2・3 . . . 小中連携と多様性への対応を考える。
- Unit 4・5 . . . 主体的・対話的で深い学びと様々な指導法について学ぶ。
- Unit 6・7 . . . 音声から文字へつなぐ指導と言葉への気付きを考える。
- Unit 8・9 . . . クラスルーム・イングリッシュとスモールトークの指導について学ぶ。
- Unit 10・11 . . . 題材の選定と教材、学習到達目標と指導計画の作成について学ぶ。
- Unit 12・13 . . . 学習指導案の作り方、効果的なチーム・ティーチングを学ぶ。
- Unit 14・15 . . . ICTの活用と学習評価の方法を知る。

* 高学年の指導の実際をアプリコードを通して体験してください。

第2部 外国語に関する専門的事項

* この章の内容は、「子どもの英語」のスクーリングで扱います。

第3部 外国語活動の指導法

- Unit 1・2 . . . 外国語活動から外国語科への接続を考える。
- Unit 3・4 . . . 発達段階に応じた授業の工夫を考える。
- Unit 5・6 . . . 児童の認知・情緒発達に即した指導法について学ぶ。
- Unit 7・8 . . . ことばへの気付きをもたらず指導を考える。
- Unit 9・10・11 . . . 中学年に適した活動と教材、英語によるやり取りの仕方について学ぶ。

* 中学年の各種活動を、アプリを活用して体験してください。自分で指導してみたいユニット(単元)をテキスト③の中から一つ選び、実際に1時間の授業を組み立ててみましょう。

- 2 「学習指導要領解説(外国語)、(外国語活動編)」(テキスト②)は、「学習指導要領」について詳しく解説したものです。「第1章」には改訂の経緯など、「第2章」には目標及び内容などが書かれています。熟読して、理解を深めてください。
- 3 「Let's Try! 1、2 指導編」(テキスト③)は、実際に小学校の中学年で使用されている教材の指導編です。高学年において、令和2年度からは、「We Can! 1、2」に代わって各社の教科書が使用されますが、それらは、この「We Can! 1、2」の内容がベースとなって作成されています。各学年の指導内容と指導方法に目を通し、学習の概要をとらえておくことを勧めます。

※○2019（平成 31）年度以降の入学生

講義内容を補うスクーリングの詳細については、『添削課題集』の「テキスト科目における指導案の作成及び模擬授業等のスクーリング実施について」をご確認ください。

教育原論(初等教育) / 教育原論

専門教育科目 / 2 単位 / 2 年後期開講 / テキスト授業

■ 担当教員	藤井 和郎
■ 使用テキスト	テキスト：なぜからはじめる教育原理 [第2版] 著者：池田隆英、楠本恭之、中原朋生 編著 出版社：建帛社 出版年：2018年 ISBN：978-4-7679-5072-3
■ 参考テキスト	テキスト：教育原理 著者：矢藤誠慈郎、北野幸子 編集 出版社：中央法規 ----- テキスト：幼稚園教育要領解説(平成30年3月) 著者：文部科学省 出版社：フレーベル館 ----- テキスト：小学校学習指導要領(平成29年告示) 著者：文部科学省 出版社：東洋館出版社

講義概要・一般目標

教師には教科指導力、生徒指導力などの力量が求められる。しかしそれらの力量は教育の基本的概念や教育の理念などの理解に支えられてこそ発揮できるのである。授業では、これら教育の基本的概念や教育の理念に加え、教育の歴史や思想、そしてこれまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを学ぶ。

到達目標

- 1 教育の基本的概念
 - (1)教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解する。
 - (2)子ども・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解する。
- 2 教育に関する歴史
 - (1)家族と社会による教育の歴史を理解する。
 - (2)近代教育制度の成立と展開を理解する。
 - (3)現代社会における教育課程を歴史的な視点から理解する。
- 3 教育に関する思想
 - (1)家庭や子どもに関わる教育の思想を理解する。
 - (2)学校や学習に関わる教育の思想を理解する。
 - (3)代表的な教育家の思想を理解する。

評価方法

添削課題及び科目単位認定試験により評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施する。

学修の進め方

- ・下記の[教育原論テキスト解説と学修のポイント]を参考にして、使用テキストを読み進めていただきたい。添削課題は、テキストをしっかりと確認すれば解ける問題がほとんどである。
- ・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返す。

学修指導

〔教育原論テキスト解説と学修のポイント〕

1. 教育学の諸概念
2. 教育の本質及び目標並びに代表的な教育家の思想
3. 教育を成り立たせる諸要因と相互の関係

テキストの第1章「人間について思考する様式」、第2章「人間形成の根源と価値」、第3章「臨床的な理解の方法」

人間について考える際には、「分けずに考える」「相対的に考える」「『当たり前』を外して考える」「因果性にとらわれないで考える」という様式が必要であり、これは「広く、総合的に考える」ことにつながる。この思考様式をもとに、「教育とは何か」という命題を、自分のこととして深く考えることが求められる。あわせて、教育の大切な目標である「人間形成」について、「人間が人間になる」ということの意味を捉え直すことにより考察していただきたい。

また、教師は子ども一人一人を理解する必要があるが、独善的な理解をしていることに気付かないことがある。なぜ、子どもの姿が見えにくいのかを考え、臨床的な理解の方法を身に付けることが必要である。

4. 近代教育制度の成立と展開並びに代表的な教育家の思想
5. 学校教育制度の変遷
6. 現代社会における教育課題①（日本国憲法下の教育施策）

テキストの第4章「教育思想の背景と系譜」、第5章「学校教育制度の変遷」、第6章「日本国憲法下の教育施策」

なぜ、子どもは教育されるのかを考えるには、教育の成り立ちを探っていく必要がある。また、私たちが今の教育を論じる場合にも、これからの教育の在り方を探る場合にも、なぜ、それが望ましいのか、問題であるのかを根本から問うことが必要であり、教育の思想の背景と系譜を学ぶ意味はそこにある。これを踏まえて、「学校」のはじまりと、それが制度化された過程を理解していただきたい。

また、現在、わが国においては教育改革が進められているが、太平洋戦争後の日本国憲法の下で日本の教育制度がどのように変遷してきたかを理解していただきたい。

7. 現代社会における教育課題②（幼稚園教育）
8. 現代社会における教育課題③（小学校教育）
9. 現代社会における教育課題④（特別支援教育）

テキストの第7章「就学前のカリキュラム」、第8章「就学後のカリキュラム」、第9章「臨床的な教育の実践」、第10章「教師のキャリア形成」

カリキュラムは、単に教育目標と教育内容を示すものではなく、対象理解、教育目標、教育内容、教育方法、これらを踏まえた実践と評価のすべての側面をもつ。ここでは、就学前教育と就学後教育のカリキュラムについて、その違いとそれぞれの特徴を正確に理解することが望まれる。

次に、教育実践において欠かせない特別支援教育に関する知識を深め、しっかりと理解していただきたい。

さらに、教師の資格、職務と服務、研修や免許更新制などに関する知識を身に付けるとともに、教職の課題や喜びについて理解したい。教員という職業は、結果が見えにくいこと、際限がないこと、常に自らの完成と改善を求められることなど、その職務特有の難しさがあるが、だからこそやりがいのある職業であると言える。学習を通して自らを見つめ、教職に就きたい（あるいは教職を続けたい）という強い意志を再確認していただきたい。

10. 学習に関わる教育の思想
11. 学校と社会による教育の歴史
12. 家庭や子供に関わる教育の思想
13. 生涯学習社会と教育

テキストの第11章「社会のなかの学校組織」、第12章「多文化と教育統治」、第13章「生涯発達と教育機会」

日本国憲法において、教育を受ける権利がすべての子どもに等しく保障され、その保護者に教育を受けさせる義務が課せられている。小学校・中学校段階9年間の義務教育の充実や義務教育段階以上の教育機会の拡大が図られてきたが、地方分権、規制緩和が推進されるなかで、市場による統制を重視する新自由主義に基づく改革が公教育にも適用され、競争による教育の質の向上を目指す動きも見られるようになった。教育統治制度の一つである教育委員会も、平成27年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」により、大幅な改革がなされている。

また、学校においては、日本国籍を有しない子どもたちが在籍し、日本国籍の子どもたちと共に学んでいる。多文化社会における教育についてアメリカの例を参考にしながら学習を進めていただきたい。

さらに、日本の高等教育機関に関する理解のもとに、生涯学習社会への移行、高等教育機関の改革、キャリア教育への取組などを展望していただきたい。

14. 歴史的視点から見た教育課題

15. 学校に関わる教育の思想

テキストの第14章「学校教育の問題構成」、第15章「人間存在と近代社会」

生徒指導上の問題について、その実態と変遷を理解すること、そして生徒指導で求められる対応の原理を深く理解していただきたい。

そして、最後に、公教育がもたらしたメリットを知り、近代社会が抱える教育上の諸問題について、自分なりの考えをもてるようにしたい。

教職論（初等教育）／教職論

専門教育科目／2単位／1年後期開講／テキスト授業

■ 担当教員	藤井 和郎
■ 使用テキスト	テキスト：現代の教師論（アクティベート教育学02） 著者：佐久間亜紀・佐伯 胖 編著 出版社：ミネルヴァ書房 出版年：2019 I S B N：978-4-623-08536-1
■ 参考テキスト	テキスト：幼稚園教育要領解説（平成30年3月） 著者：文部科学省 出版社：フレーベル館
	テキスト：小学校学習指導要領（平成29年告示） 著者：文部科学省 出版社：東洋館出版社

講義概要・一般目標

教職は、人を教え育てるという重要な仕事である。教員としての身に付けている知識や技能だけでなく、その人間性も子どもたちの人生に大きな影響を与える。授業では、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について学ぶ。また、「チームとしての学校」を推進する上で、一人の教員として自らの専門性を発揮し組織の一員として課題解決に当たる資質・能力も求められる。この授業を通して、自らを振り返り、自分には求められる資質・能力があるか、自分は教職に向いているか、真剣に考えることが必要である。

到達目標

1 教職の意義

- (1) 公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解する。
- (2) 進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解する。

2 教員の役割

- (1) 教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解する。
- (2) 今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解する。

3 教員の職務内容

- (1) 幼児・児童への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を理解する。
- (2) 教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解する。
- (3) 教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解する。

4 チーム学校運営への対応

- (1) 校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解する。

評価方法

添削課題及び科目単位認定試験により評価する。

オフィスアワー（学生の問い合わせ・相談に応じる時間）

Web学修支援システムを使用して実施する。

学修の進め方

・下記の[教職論テキスト解説と学修のポイント]を参考にして、使用テキストを読み進めていただきました

- い。添削課題は、テキストをしっかりと確認すれば解ける問題がほとんどである。
・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返す。

学修指導

〔教職論テキスト解説と学修のポイント〕

共通事項

各章の表紙にある「学びのポイント」により、その章のめあてを確認する。次頁の「WORK」は省略してよい。次に、「導入」を読みこの章で学ぶ内容をつかむ。そして本文を学修した後、「まとめ」で学修内容を確認する。以上は、序章から終章までのすべての章に共通する事項である。なお、序章、終章には「WORK」が、序章、第11章、終章には「まとめ」が省略されている。

以下は、共通事項以外に必要事項がある章のみ、その内容を記す。

序章 教師を目指す

本文だけでなく、注釈の*4も必要事項である。

第1章 初等教育の教師 ―その仕事と魅力―

本文だけでなく、注釈の*2、*3も必要事項である。

第3章 日本の教職の特徴

テキストp62, 上から5行目の「公務分掌」は「校務分掌」の誤りである。

第4章 教師像の史的展開 ―岐路にたつ教職―

コラム①は省略してよい。

第6章 教員の権利と身分保障

テキストp113, 上から13行目の「限定4項目」は「超勤4項目」や「歯止め4項目」とも言う。

テキストp113, 上から17行目の「時間外勤務政令」は「時間外勤務命令」の誤りである。

第7章 学び続ける教師 ―教員研修の意義と課題―

本文だけでなく、注釈の*1、*5、*6、*7も必要事項である。

第8章 学校を構成する様々な専門職 ―チームとしての学校―

本文だけでなく、注釈の*1、*2、*3、*4、*5、*6、*7、*10、*13、*14、*16、*17、*20、*21、*22、*23、*25、*26、*27、*30、*32、*33、*34、*35、*36、*37、*38も必要事項である。

第9章 専門家としての教師

コラム②は省略してよいが、コラム③は必要事項である。

第11章 いじめに向き合う ―自尊感情を育むということ―

コラム④も必要事項である。

第12章 性の多様性をめぐる学校・教師の課題

本文だけでなく、注釈の*2、*6、*15、コラム⑤も必要事項である。

教育行政学（初等教育）／教育行政学

専門教育科目／2単位／2年後期開講／テキスト授業

■ 担当教員	藤井 和郎
■ 使用テキスト	テキスト：教育制度を支える教育行政（アクティバート教育学05） 著者：青木栄一 編著 出版社：ミネルヴァ書房 出版年：2019 ISBN：978-4-623-08539-2
■ 参考テキスト	テキスト：2020年版 ポケット教育小六法 著者：伊藤良高 編集代表 出版社：晃洋書房 出版年：（2020年4月出版予定）
	テキスト：幼稚園教育要領解説（平成30年3月） 著者：文部科学省 出版社：フレーベル館
	テキスト：小学校学習指導要領（平成29年告示） 著者：文部科学省 出版社：東洋館出版社

講義概要・一般目標

教育行政とは、国や地方公共団体が教育政策を実現するため、教育法規に基づいて教育制度を運用し教育条件の整備と教育活動の規制・助成を行うことをいう。また、教育行政を進める上で、学校と保護者、地域との連携は不可欠な時代となっている。学校評議員、学校評価、学校運営協議会などの制度を知ることも必要である。さらに、震災をはじめとした自然災害や学校管理下における事件・事故災害が繰り返し発生している現状から、災害発生時に対応できる素養や、災害の予防、あるいは被害を最小限に抑える方策等、学校安全に関する知識・技能等を身に付けておく必要がある。この授業では、テキストをもとに、これらの内容を学ぶ。

到達目標

1 教育に関する制度的事項

- (1)公教育の原理及び理念を理解する。
- (2)公教育制度を構成している教育関係法規を理解する。
- (3)教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解する。
- (4)教育制度をめぐる諸課題について理解する。

2 学校と地域との連携

- (1)地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解する。
- (2)地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解する。

3 学校安全への対応

- (1)学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解する。
- (2)生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取組を理解する。

評価方法

添削課題及び科目単位認定試験により評価する。

オフィスアワー（学生の問い合わせ・相談に応じる時間）

Web学修支援システムを使用して実施する。

学修の進め方

- ・以下、使用テキスト『教育制度を支える教育行政』を“教科書”、参考テキスト『2020年版 ポケット小六法』を“ポケット小六法”と示す。参考テキスト『幼稚園教育要領解説(平成30年3月)』及び『小学校学習指導要領(平成29年告示)』は、必要に応じて参照していただきたい。
- ・下記の[教育行政学テキスト解説と学修のポイント]を参考にして、教科書を読み進めていただきたい。その際、ポケット小六法は、関連の条文を確認するために用いる。条文を確認するたびに印を付けるなどすると、比較的よく出てくる条文を覚えることができる。添削課題は、教科書をしっかり確認すれば解ける問題がほとんどである。
- ・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返す。

学修指導

[教育行政学テキスト解説と学修のポイント]

共通事項

各章の表紙にある「学びのポイント」により、その章のめあてを確認する。次頁の「WORK」は省略してよい。次に、「導入」を読みこの章で学ぶ内容をつかむ。そして本文を学修した後、「まとめ」で学修内容を確認する。以上は、第1章から第16章までのすべての章に共通する事項である。

以下は、共通事項以外に必要事項がある章のみ、その内容を記す。

第1章 教育行政

本文だけでなく、注釈の*2、*6、*13も必要事項である。

p10, 上から5行目の「分限処分には…」で、「降任」「免職」「休職」があると書かれているが、分限処分には「降給」もある。これは、教員に適用する給料表上の変動によってなされる処分のことである。

第2章 就学前教育行政と幼稚園・保育所・認定こども園

本文だけでなく、注釈の*1、*2、*3、*17も必要事項である。

第5章 特別支援教育と学校・学校外教育

本文だけでなく、注釈の*11も必要事項である。

p72, 表5-3に、2016年以降の不登校児童生徒に関する通知がまとめているが、2019年10月25日付けで文部科学省から「不登校児童生徒への支援の在り方について(通知)」が出されている。これが最新の通知なので、文部科学省HPからダウンロードするなどして、確認しておいていただきたい。

第6章 教育課程行政

本文だけでなく、注釈の*2も必要事項である。

第7章 教育委員会と学校

本文だけでなく、注釈の*3、*4も必要事項である。

第9章 学校施設・学校統廃合

本文だけでなく、注釈の*1も必要事項である。

第10章 学校安全

本文だけでなく、注釈の*6、*7、*8も必要事項である。

第12章 地方教育行政

本文だけでなく、注釈の*4も必要事項である。

第13章 教育財政

本文だけでなく、注釈の*12、*15、*16、*17も必要事項である。

第16章 教育財政

本文だけでなく、注釈の*5、*18も必要事項である。

教育心理学（初等教育）／教育心理学

専門教育科目／2単位／2年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	土居 正人
■ 使用テキスト	テキスト：やさしい教育心理学 第5版 著者：鎌原雅彦・竹綱誠一郎（著） 出版社：有斐閣 出版年：2019 ISBN：978-4-641-22146-8
■ 参考テキスト	テキスト：よくわかる教育心理学 著者：中澤潤 著 出版社：ミネルヴァ書房 出版年：2008 ISBN：978-4623051045

講義概要・一般目標

1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、人間の発達、知的発達、人格の発達の解説を発達心理学と臨床心理学の観点から行う。
2. 授業場面をはじめとする学校生活において、生徒個人・生徒集団・生徒と教師との関係における教育心理学的課題、教師による生徒の学修指導および教育評価における教育心理学的課題を題材として教授する。
3. 生徒が学校で示す様々な心理学的問題の理解とその対応について、教育臨床心理学の視点を交え論じると共に、今日的課題である特別支援教育と教育心理学との関わりについても解説をおこなう。

到達目標

本授業では教育心理学の学問的知見に基づき、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。

到達目標としては、幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解していること。さらに乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、具体的な内容を理解していること。また、様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解していること。また、主体的学習を支える動機づけ・集団作り・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解していること。さらに、幼児、児童及び生徒の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解していることである。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

これまでに私は心理臨床現場における臨床経験（児童精神科、小中高校のスクールカウンセリング、大学学生相談、適応指導教室、児童相談所の夜間・休日相談）を積ませていただいたことから、臨床心理学全般の実務経験を有していると考えています。また、大学の授業では、少しでも学修意欲が湧くように、ただ授業を聞くだけでなく、要約しながら講義を聞くなどの工夫をすることで、聞きやすい授業になるよう日々努力しています。また、私のゼミでは、学習の動機づけの問題や行動の原理（強化の

原理) について、日々研究しています。

教育心理学においては、現在までどのようなことが明らかになっているのかについて、理解できるよう課題を作成しました。

学修の進め方

・添削課題出題の意図、及び課題の進め方

私はいつも、どのようにしたら子供が勉強をするのだろうか、ということを考えています。教科書には、人はなぜ無気力になるのか、どのようにしたら勉強の動機づけは上がるのだろうかということが書かれています。ただ読むだけでは、実際場面で活用することはできません。教科書に書かれていることを日常の中で実践してみることで、それが本当の学びだと思っています。

課題は教科書を見て解いていくこととなりますが、それだけでなく、実際にもやってみようという気持ち大切です。

・添削課題をまとめるにあたっての留意点

学校場面で起こる現象に焦点を当てています。必要な箇所は覚える必要がありますが、それ以外のところもとても役に立つ知識でありますので、ぜひ覚えていってほしいと思います。認定試験の際には、課題と同じ箇所が出てくるとは限りません（違う所も出します）。教科書内を幅広く覚えていくよう心がけましょう。

・効果的な学修の流れ

添削課題の部分しか、知らないということにならないように、まずは教科書を全て読んでから、問題を解くことが大切です。そうすることによって、どこにどのようなことが書いてあるかを理解して進めていくことで、全体像が理解しやすくなります。

・フィードバックについて

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

1. 教育心理学とは何か

教育心理学では、発達の問題（人間の心身発達、知的発達、人格発達）、認知心理学（記憶や知識、問題解決）、学習心理学（行動の原理、学習）、学校場面でのより実践的な問題について（学級内の人間関係、学習指導の方法、教育評価）

2. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する基礎理論

3. 人間の発達について：幼児期の心身の発達過程及び特徴－運動・感情・認知・言語・社会性の発達

4. 人間の発達について：児童期の心身の発達過程及び特徴－心身面・社会性・自己意識の発達

5. 人間の発達について：思春期の心身の発達過程及び特徴－心身面・社会性・自己意識の発達

第8章 人間の発達について考える

第9章 知的発達のメカニズム

第10章 人格発達の基礎

はじめに、発達とはどういうことかについて学び、それに基づき生涯発達の諸段階（乳児・幼児期、児童期、思春期・青年期）、発達における遺伝と環境の影響、双生児研究、学習における敏感期という考え方についても学ぶ。

6. 知的発達について：知能指数

7. 知的発達について：ピアジェの認知発達

第9章 知的発達のメカニズム

知能についてその定義と測定法を学ぶ。さらに、知能の発達をピアジェの認知発達の点から学ぶ。

8. 記憶について：短期記憶、長期記憶、忘却、意味の生成プロセス

第1章 記憶力がいいとはどういうことか

人間の知的活動の基礎的能力である記憶について、認知心理学で示されている短期記憶、長期記憶の機能を学び、さらに知識につながる意味の生成プロセスについても学ぶ。さらに記憶できないこと、すなわち、忘却についてもその心理学的原因について理解する。

9. 学習について：知識、問題解決

第2章 学ぶことと考えること

知識とはどのようなものであり、どのように形成されるのかについて学ぶ。また、問題を解決する際の心理学的プロセスについて学ぶ。

10. やる気について：望ましい行動が増加するプロセス

第3章 ほめることの大切さ

望ましい行動が増加するプロセスについて、行動と学習の理論を用いて理解する。

11. やる気について：外発的・内発的動機付け

第4章 「やる気」を考える

子どもの動機づけを高めることに関わる心理学的理論として、期待と価値との関係、統制感、原因帰属、内発的動機づけを学ぶ。

12. 教えることについて：発見学習、受容学習、グループ学習、個別学習

第6章 どのように教えるか

教師による生徒への教授の仕方として、発見学習、受容学習、グループ学習と個別学習、教授法と生徒の特性との相互作用、について具体的内容と特徴を学ぶ。

13. 教えることについて：生徒の特性と相互作用

第5章 学級という社会

子どもの集団を理解するため、学級集団を取り上げ、教師と生徒の関係、生徒同士の関係、学級の雰囲気、生徒関係を理解する心理学的手法について学ぶ。

14. 児童・生徒の評価について：評価の目的と評価法

第7章 児童・生徒をどう評価するか

児童・生徒への教育評価について、評価の目的と評価法、および個々の評価法の長所・短所を学ぶ。また、教育評価に関わる心理テストやテスト作成手法についても学ぶ。

15. 人格の発達について：フロイトの発達段階、エリクソンの発達段階

第10章 人格発達の基礎

人格的発達のありようについて、エリクソンの発達段階により理解を深める。

特別支援教育（初等教育）

専門教育科目／2単位／3年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	藤吉 晴美
■ 使用テキスト	テキスト：はじめての特別支援教育―教職を目指す大学生のために 著者：拓植雅義 出版社：有斐閣アルマ 出版年：2010 ISBN：9784641220386
■ 参考テキスト	テキスト：教員をめざすための特別支援教育入門 著者：大塚玲 出版社：萌文書林 出版年：2015 ISBN：978-4-89347-200-7

講義概要・一般目標

2007年（平成19年）4月、学校教育法の改正により「特殊教育」から「特別支援教育」へ名称が変更となった。文部科学省（2007）は、「特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒の一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの」とし、すべての学校において障害のある子ども達の支援を実現していく方向へと転換が図られた。

したがって、特別支援教育は限られた学校で行われるものではなく、あらゆる保育園・幼稚園、小学校等において、さまざまな障害のある子どもひとりひとりのニーズに応じた適切な指導と支援が求められている。本科目では、すべての教師が備えるべき特別支援に関する基本的な知識を身につけるため、以下の内容について学修する。

まず、「特別支援教育の理念とシステム」として、特別支援教育の理念、歴史的変遷、学習指導要領の理解をする。次に、「子どもの理解と指導・支援」として、障害のある子どもについて理解を深め、ひとりひとりに対応した指導・支援の充実を図る方法について学習する。

そして、「保護者や関係機関との連携」として、子どもに関わる多くの関係者の役割の明確化、分担などについて確認する。

到達目標

本科目の目標は、特別支援教育の目指す理念と、それを支える制度の仕組みに関する知識を身につけ、保育者・教育者として、ひとりひとりの子どものニーズに応じた適切な支援を行うための基礎力を獲得することである。特に、保育や教育場面で出会うことの多い発達障害・軽度知的障害の幼児・児童の心理的特性の理解、学習過程の理解、ニーズに応じた支援の方法を具体的に学修する。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー（学生の問い合わせ・相談に応じる時間）

Web 学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

精神科臨床と母子保健活動に20年以上携わってきた実務経験を活かし、発達障害、特に自閉スペクトラム症への発見・支援に関する、保護者や関係機関、特に保健師との連携における留意点を踏まえた上で、添削課題を作成した。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

本講義は、「はじめての特別支援教育」をテキストとして使用し、テキストの章立てにしたがって学修を進めます。

第Ⅰ部 特別支援教育の理念とシステム

第Ⅰ部では、特別支援教育の理念と基本的な考え、教育の歴史と現行制度、支援システムの構築と法的整備、特別支援教育コーディネーター、個別の指導計画と個別の教育支援計画がテキストに示されています。これらは、保育・教育の場で特別支援教育を行うための基本となる知識と言えます。

まず、第1章の理念と基本的な考えを読み、従来行われてきた特殊教育との比較を通して、現行教育の理解を深めていきましょう。次に、第2章の教育の歴史と現行制度では、障害のある子どもの教育の歴史と、現在の教育制度や各学校の制度について紹介されています。特に、学習指導要領の理解は重要です。第3章では、支援システムの構築と法的整備について学んでください。これを理解した上で、第4章の特別支援教育コーディネーターへと学修を進めていってください。特別支援教育コーディネーターは、校内における特別支援教育のキーパーソンです。役割と活動の実際を理解しましょう。第5章では、個別の指導計画と個別の教育支援計画を学びます。個に応じた特別支援教育が展開できるための計画立案を学修してください。

第Ⅱ部 子どもの理解と指導・支援

第Ⅱ部では、障害のある子どもについて理解を深め、個に応じた指導・支援の充実を図る方法について学びます。障害の正しい理解を図るため、障害によって生じる学習や生活上の困難性の理解、障害のある子どものもつ強みや弱みの理解、弱みにたいする適切な教育的配慮、子どもの強みを活かしていく支援のあり方について学修していきましょう。

まず、第6章では、LD・ADHD、第7章では、自閉スペクトラム症（テキストでは自閉症スペクトラム）、第8章では、情緒障害・言語障害、第9章では、知的障害、第10章では、肢体不自由・病弱・身体虚弱・重複障害、第11章では、視覚障害・聴覚障害、第12章では、多様な状態を併せもつ子どもについて理解し、それぞれに応じた指導・支援のあり方を学びましょう。

第Ⅲ部 保護者や関係機関との連携

第Ⅲ部では、「連携」をキーワードとして、教員、保護者、医療・福祉などの関係機関が互いに信頼し合い、役割を分担し、スムーズな引継ぎが行えるように、それぞれの立場の者が担っている役割について理解を深めることがねらいです。

まず、第13章では、保護者との連携、第14章では、専門機関や地域との連携を学びましょう。障害のある子どもとその家族にとって、医療機関や福祉機関とのつながりが重要になってきます。どのような社会資源があるのかも含めて学修を進めていってください。第14章では、障害の早期発見・早期支援が連携とどのように関連しているかについて理解しましょう。特に、乳幼児健康診査の果たしている役割について、理解を深めていってください。さらに、保育所・幼稚園への入所・入園前の指導・支援、保育所・幼稚園における指導・支援について理解し、小学校・特別支援学校へのスムーズな入学のために連携が果たす役割を理解しましょう。第15章では、高等教育機関への進学や就労支援、さらには成人・高齢者への支援について、社会保障制度も含め学修してください。

学修の進め方

テキストを熟読してください。読みながら、特に関心を持った内容について、書籍や専門雑誌なども読んで、最新の情報に触れていってください。

添削課題は、全てテキストの中から出題しています。テキストを読めば必ず回答できます。

記述問題も、テキストの内容から回答できますが、テキストの文章をそのまま書く必要はありません。自分で文章を組み立てて、わかりやすくまとめてください。

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントをつけて返却します。

教育課程論(初等教育) / 教育課程論

専門教育科目 / 1 単位 / 2 年後期開講 / テキスト授業

■ 担当教員	藤井 和郎
■ 使用テキスト	テキスト：はじめて学ぶ教育課程 著者：広岡義之 出版社：ミネルヴァ書房 出版年：2016年 ISBN：978-4-623-07559-1
	テキスト：幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について 著者：平成28年12月21日 中央教育審議会答申 (文部科学省ホームページよりダウンロード可)
	テキスト：幼稚園教育要領解説(平成30年3月) 著者：文部科学省 出版社：フレーベル館 出版年：2018年 ISBN：978-4-577-81447-5
	テキスト：小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編 著者：文部科学省 出版社：東洋館出版社 出版年：2018年 ISBN：978-4-491-03461-4
■ 参考テキスト	テキスト：就学前教育の計画を学ぶ 著者：松村和子・近藤幹生・椛島香代 出版社：ななみ書房

講義概要・一般目標

教育の目的や目標を達成するために適切な教育課程を編成し、児童生徒の教育に当たることが学校には課せられている。そのために授業では、教育課程とは何か、教育課程の変遷、教育課程の法体系と学習指導要領、新学習指導要領・新教育要領の改訂のポイントなどについて考察する。また、カリキュラム・マネジメントについての基礎知識を身に付ける。

到達目標

1 教育課程の意義

- (1)学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解する。
- (2)学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解する。
- (3)教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解する。

2 教育課程編成の方法

- (1)教育課程編成の基本原則を理解する。
- (2)教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を理解する。
- (3)単元・学期・学年をまたいだ長期的な視点から、また幼児、児童や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解する。

3 カリキュラム・マネジメント

- (1)学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解する。
- (2)カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解する。

評価方法

添削課題及び科目単位認定試験により評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施する。

学修の進め方

- ・以下、使用テキスト『はじめて学ぶ教育課程』を“テキスト①”、『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について』を“テキスト②”と示す。その他の使用テキスト及び参考テキストは、必要に応じて参照していただきたい。
- ・下記の[教育課程論テキスト解説と学修のポイント]を参考にして、テキストを読み進めていただきたい。添削課題は、テキスト①及びテキスト②をしっかりと確認すれば解ける問題がほとんどである。
- ・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返す。

学修指導

[教育課程論テキスト解説と学修のポイント]

1. 教育課程とは何か

テキスト①第1章参照。学校において編成する教育課程は、各教科等の目標やねらいを実現するよう教育の内容を学年に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した各学校の教育計画である。それは、関連法令や学習指導要領(教育要領)に従って、地域や学校の実態及び児童の心身の発達の段階や特性を考慮して編成される。本章では、「教育課程」や「カリキュラム」の語義、4つのカリキュラムレベル、カリキュラム・マネジメント、顕在的カリキュラム、潜在的カリキュラム、経験主義、系統主義、カリキュラム類型などに関する理解を深めていただきたい。

2. 教育の目的と教育課程の編成

テキスト①第2章参照。本章では、「教育目的」と「教育目標」の使い分けを確認した上で、教育基本法や学校教育法に規定される教育の目的と教育の目標を理解する必要がある。また、教育課程編成の基本原則として知られる「タイラーの原理」も理解していただきたい。なお、平成28年の学校教育法一部改正により、学校教育法に規定される学校種(いわゆる一条校)は、「幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学及び高等専門学校」となっていることに留意してほしい。

3. 現代日本の教育課程の変遷

テキスト①第3章参照。本章では、学習指導要領の歴史的変遷及び各時期の学習指導要領の特徴を理解する。その際、「経験主義」と「系統主義」、「経験カリキュラム」と「教科カリキュラム」をキーワードに、学習指導要領変遷の経過をつかむことが大切である。

4. 幼児教育・小学校教育における教育課程

テキスト①第4章参照。本章には、幼稚園・小学校における教育課程の編成・実施・評価について、具体的に記述されている。正確に理解しておくことが必要な内容なので、しっかりと読み込んでいただきたい。

5. 教育課程の法と行政

テキスト①第6章参照。教育課程は、関連する法規により細かく規制されている。したがって、これらの法規及びその規定を知らなければ教育課程の編成はできない。本章では、教育課程に関する法体系とその主な内容を理解することが必要である。また、学校における教育課程の管理、運営はPDCAサイクルによって行われるため、PDCAサイクルについて理解を深めていただきたい。

6. 諸外国における教育課程の現状

テキスト①第7章参照。本章では、明治初頭の近代学校教育の成り立ちから日本の教育界に影響を及ぼしてきた欧米の教育課程の現状と動向について概観していただきたい。

7. 近年の教育改革の動向および今後の課題

テキスト①第8章参照。本章では、1990年代以降のカリキュラム改革の変遷について理解していただきたい。本章の記述内容は、新学習指導要領（新幼稚園教育要領）改訂につながるものであり、第10章の後の学修と関連付けて読み進めていただきたい。また、平成29年4月1日に施行された地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、「教育委員会は学校運営協議会を置くように努めなければならない」ことになった。これまでは「置くことができる」と規定されていたものが努力義務に改定されたことから、コミュニティ・スクールは今後一層増えていくものと思われる（文部科学省によると、平成29年4月1日時点で3,600校、平成30年4月1日時点で5,432校）。

8. 教育課程が登場するまで

テキスト①第9章参照。本章の内容は「教育原論」の授業でも取り扱うものが多いが、教育課程が登場するまでを各時代の教育的な貢献者を中心に時系列に記述しているものである。

9. 教育課程上の諸課題と展望

テキスト①第10章参照。本章は、これまでの学修のまとめともいえる内容である。特に、教育課程の在り方について今後考えられる視点は、教職をめざす者に多くの示唆を与えてくれる。自分自身の課題ととらえて熟読していただきたい。

10. 新学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂のポイント

11. 「社会に開かれた教育課程」とカリキュラム・マネジメント

12. カリキュラム・マネジメントのポイントと組織体制

テキスト②を基に、次の手順で学修を進めていただきたい。

- (1) 「はじめに」及び「第1部 第1章・第2章」から今回の学習指導要領等の改訂の経緯と背景を理解する。
- (2) 「第1部 第3章」から「生きる力」と教育課程の課題を読み取る。
- (3) 「第1部 第4章」から「社会に開かれた教育課程」「学びの地図」「カリキュラム・マネジメント」「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」について理解する。
- (4) 「第1部 第5章」は「学びの地図」に示された「何ができるようになるか」についての記述である。この中でも特に「資質・能力の三つの柱」を理解するが必要である。
- (5) 「第1部 第6章」は「学びの地図」に示された「何を学ぶか」についての、「第1部 第7章」は「どのように学ぶか」についての記述である。この中でも特に「何を知っているか」にとどまらず「何ができるようになるか」にまで発展させることが大切であること、学びの質の向上に向けた「主体的・対話的で深い学び」とは何かを理解することが大切である。
- (6) 「第1部 第9章」は「学びの地図」に示された「何が身についたか」についての記述である。「カリキュラム・マネジメント」と関連づけながら読み進めていただきたい。
- (7) 最後に、「第2部 第1章」の「幼児教育」と「小学校」を読み進めていただきたい。

道徳教育の理論と方法（初等教育）

専門教育科目／2 単位／3 年前期開講／テキスト授業※

■ 担当教員	川上 はる江
■ 使用テキスト	テキスト：道徳教育を学ぶ人のために〔四訂版〕 著 者：小寺正一 藤永芳純 編集 出 版 社：世界思想社 出 版 年：2016 年 I S B N：9784790716884
	テキスト：小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 著 者：文部科学省 出 版 社：廣済堂あかつき 出 版 年：2017 年 7 月上旬
■ 参考テキスト	テキスト：楽しく豊かな「道徳の時間」をつくる 著 者：横山利弘 監修 牧崎幸夫 広岡義之 杉中康平 出 版 社：ミネルヴァ書房 出 版 年：2015 年 4 月

○2019（平成 31）年度以降の入学生

この科目はテキスト科目ですが、対象者の方へは講義内容を補うスクーリングを実施します。

日 時	令和 3 年 8 月 28 日（土）16：40～17：40
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10 号館（岡山県高梁市伊賀町 8）
■ 事前提出物	課題内容については『添削課題集』に掲載しています。
■ 提出期限	令和 3 年 7 月 23 日（金）大学必着
■ 使用テキスト	「小学どくとく 生きる力 2」（出版社：日本文教出版）
	「【特別の教科 道徳編】小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説」 文部科学省ホームページよりダウンロードができます。

講義概要・一般目標

この授業では、道徳教育の目標や意義を理解すること、必要な指導の原理と技法を習得することを目的にしている。学習指導要領を手がかりに、道徳教育の目標や内容項目、指導方法、評価の仕方について理解する。テキストでは、道徳教育の歴史と発達理論などを学習し、道徳教育の現在を定位する。さらに実践という意味では、学校における道徳教育の全体構造や、道徳教育の授業理論、指導法を学修し、実際に指導案を作成することができるようにする。

到達目標

1. 戦前と戦後における道徳教育の歴史を振り返り、その教育的特徴や変遷を理解する。
2. 学習指導要領に明記された道徳教育の考え方、あり方を理解する。
3. 道徳性の発達理論を踏まえて、道徳教育の指導法、指導原理を習得する。
4. 道徳教育の原理を踏まえて、「道徳の時間」の指導案が作成できる。
5. 作成した指導案を基に、模擬授業を行い、指導方法や板書の仕方、評価について実践的に学ぶ。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施する。

担当する授業科目に関連した実務経験

小学校教員として実務経験があり、スクーリング(教育実習指導)の模擬授業で授業構成の仕方、指導方法を講義する。そして添削課題にその内容は反映させる。

学修の進め方

1. 添削課題出題の意図及び課題の進め方

添削課題は、各章の要点となる箇所を問題にしている。また、学習指導要領解説道徳編からは、目標や内容を中心に出題している。テキストは道徳教育の歴史からはじまり、道徳性の発達理論、アメリカの道徳教育、学校における道徳の実践などがまとめてある。学修の方法としては、各章を丁寧に読みながら要点、重要語句を整理することを勧める。

2. 添削課題をまとめるにあたっての留意点

課題をもらって「問題を見ながら答えが書いてあるページを探す」という方法は、理解も深まらず記憶にも残らない。テキストの各章を熟読し概略を掴むこと。その後、要点は自分の言葉で簡潔にまとめることを勧める。

また、学習指導要領の第3章はP26, P27の表を熟読するとよい。学習指導要領の第2章、第5章は特に重要である。

3. 効果的な学修の方法

テキストでは、発達理論や歴史、道徳教育の理論の概略は覚えてほしい。大きな特徴と流れを自分の言葉でまとめると、整理されて覚えやすい。全体像を理解した上で詳細な点を学修するとよい。道徳性の内容については、発達段階ごと(低, 中, 高学年ごと)にまとめて記述してあるので、その内容は確実に覚えておくこと。

4. フィードバックについて

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返す。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

1. 現代社会と道徳教育

道徳とは、社会が個人に要求する「規則」という面と、人間の内面的な「規範」という2つの意味をもつ。したがって、道徳教育においては、道徳の二つの側面を視野におさめて実践を展開する必要がある。社会の規則や規範を強要してみても、それが必ずしも内的道徳性の形成を意味しないところに、道徳教育の難しさがある。テキストの第1章および「小学校学習指導要領解説 道徳編」(平成29年7月)を参照のこと。

2. 道徳教育の歴史

学校における道徳教育は、明治の「修身科教育」に始まる。ただし、昭和20年の敗戦に至るまでの歴史は必ずしも単純ではない。西欧の近代的学問の普及を重視する開明派と儒教道徳派との覇権争い、天皇制国家観のもとでの修身科、さらに台頭する軍国主義との関係など、道徳教育の展開はじつにめまぐるしい。まずは、この点を明らかにした後、戦後の教育改革と道徳教育について考察する。

3. 道徳性の発達理論、授業理論

テキストの第3章では、「道徳性」と「発達」の意味を踏まえて、有力な道徳性発達の理論、すなわち、超自我の形成を主張するフロイト、道徳性が他律から自律へと段階的に発達することを実証的に研究したピアジェ、ピアジェの理論を発展的・実証的に補完・検証したコールバーク、他律から自律への橋渡しとして社会律の段階を設定し有力な提言をしたブルの理論を取り上げ、功績と残された課題を考察する。

4. 道徳教育の理論と実践

現在の学校教育において道徳教育が目指している基本的方向を理解するには、テキストの第5章および「小学校学習指導要領解説 道徳編」が有益である。それらの資料をもとに、道徳教育の目標や指導内容、さらに、全体計画の作成方法と留意点などを理解する。その後、第6章と「小学校学習指導要領解説 道徳編」で「道徳の時間」の意義と特質、指導案作成の仕方について具体的に学修する。

5. 教材研究, 模擬授業, 評価

教材研究, 指導案の作成, 模擬授業, 評価についてはスクーリングで実施予定である。※

※○2019（平成31）年度以降の入学生

講義内容を補うスクーリングの詳細については、『添削課題集』の「テキスト科目における指導案の作成及び模擬授業等のスクーリング実施について」をご確認ください。

「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法（初等教育）」

専門教育科目／2 単位／2 年後期開講／テキスト授業※

■ 担当教員	川上 はる江
■ 使用テキスト	テキスト：小学校学習指導要領解説 特別活動編 著者：文部科学省 出版社：東洋館出版社 出版年：2017年7月 ISBN：978-4-491-03469-0
	テキスト：みんなでよりよい・学級・学校生活をつくる特別活動小学校編 著者：国立教育政策研究所教育課程研究センター 出版社：文溪堂 ISBN：978479903209
	テキスト：小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間 著者：文部科学省 出版社：東洋館出版社 出版年：2017年7月 ISBN：978-4-491-03468-3
■ 参考テキスト	テキスト：総合的な学習の時間 著者：森田真樹 篠原正典 出版社：ミネルヴァ書房 出版年：2018年3月 ISBN：978-4-623-08191-2

○2019（平成31）年度以降の入学生

この科目はテキスト科目ですが、対象者の方へは講義内容を補うスクーリングを実施します。

日 時	令和3年12月18日（土）15：30～16：30
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10号館（岡山県高梁市伊賀町8）
■ 事前提出物	課題内容については『添削課題集』に掲載しています。
■ 提出期限	令和3年11月19日（金）大学必着
■ 使用テキスト	「【特別活動編】小学校学習指導要領（平成29年告示）解説」 文部科学省ホームページよりダウンロードができます。

講義概要・一般目標

特別活動，総合的な学習の時間を考慮しながら次の6点について学修する。

1. 学習指導要領における特別活動の目標，主な内容，教育課程における位置づけ
2. 学級活動，児童会・生徒会活動，クラブ活動，学校行事の特質
3. 学級活動の指導案作成，模擬授業の実践と評価
4. 学習指導要領における総合的な学習の時間の目標，主な内容，教育課程の位置づけ
5. 総合的な学習の時間における年間指導計画作成の仕方，単元計画の作成の仕方
6. 総合的な学習の時間についての指導と評価の方法，その留意点

到達目標

特別活動は，「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点をもちながら自主的，実践的に活動することを通して，集団活動の意義や行動の仕方，合意形成の仕方などの資質，能力を育成する。また，総合的な学習の時間は，探求的な見方・考え方を働かせ，よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えて

いくための資質、能力を目指す。これらの教育方法上の特徴ゆえに、教科指導とは異なる役割を担っている。本授業では、下記の3点を目標に学修する。

1. 特別活動・総合的な学習の時間の意義、目標、内容を理解する。
2. 特別活動の指導方法を実践的に理解する。
3. 総合的な学習の時間の指導計画を作成し、指導と評価の考え方を理解する。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施する。

担当する授業科目に関連した実務経験

小学校教員の実務経験があり、スクーリング(教育実習指導)の模擬授業で授業構成の仕方、指導方法を講義する。そして添削課題にその内容は反映させる。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

「学習指導要領解説 特別活動編」は理論的なことと、配慮事項の基本がまとめている。「楽しく豊かな学級・学校を作る特別活動 小学校編」には、写真や図などで実際の授業の様子や環境構成に至るまでの具体が丁寧に示してある。学習指導要領で分かりにくい部分を補う上で効果的であるので、2冊を併用して学修することを勧める。

1. 特別活動の目標と主な内容(第1章, 第2章)

第1章では、特別活動の改定の主旨と要点が述べられている。どのような変遷を経て今に至るのかを知った上で学修すると、今後の進むべき方向性が明らかになる。特別活動の目標、意義は、学習指導要領解説の第2章に明示されており、特別活動が教育課程内の重要で不可欠な位置を占めていることが分かる。具体的には、望ましい集団活動や体験的な活動を通して、実際の社会で生きて働く社会性を身につけるなど、児童生徒の人間形成を図るとともに、社会で生きて働く際に必要な資質能力を育てることを意図している。特別活動の特徴を記してあるところなので重要である。

2. 各活動, 学校行事の目標及び内容(第3章)

教育課程では、小学校の場合、学級活動、児童会活動、学校行事、クラブ活動で構成される。中学校の特別活動は学級活動、生徒会活動、学校行事である。この授業では、小学校に照準を合わせ、前記4種の活動のそれぞれについて、その目標や活動内容、指導計画、内容の取り扱いなどの理解を深める。

「楽しく豊かな学級・学校を作る特別活動 小学校編」に、学級活動の進め方、環境構成の仕方、指導案の書き方などの具体が写真や図入りで記述してあるので、学習指導要領と並行して読み進めると授業のイメージが分かり実践的理解を深めることができる。2冊を併用して学修することを望む。

3. 指導計画の作成と内容の取り扱い(第4章)

指導計画の作成に当たっての配慮事項や内容の取り扱いについての配慮事項を中心に学修する。指導と評価についての関連や、異年齢集団、高齢者との関わり方の重視、地域連携のあり方等についても記述してある。特別活動を児童による主体的・対話的で深い学びにするためにどうするか、学級経営の充実と生徒指導との関連、道徳科との関連をどのように考えるかなどについて熟読し、要点をまとめながら学修を進めてほしい。

4. 学習指導案作成, 模擬授業と評価

学習指導案の作成や指導案に基づく模擬授業、授業の振り返り、評価についてはスクーリングで実施予定である。「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」は理論的なことと、内容、配慮事項の基本がまとめている。

1. 総合的な学習の時間と主な内容（第1章）

第1章では、総合的な学習の時間の改定の主旨と要点が述べられている。どのような変遷を経て今に至ったのかを知った上で学修すると、今後の進むべき方向性が明らかになる。総合的な学習の時間の目標、意義は、学習指導要領解説の第2章に明示されており、教育課程内の重要で不可欠な位置を占めていることが分かる。

2. 総合的な学習の時間の目標及び内容（第2章、第3章）

ここでは、総合的な学習の時間の目標、特質に応じた学習のあり方、各学校において定める目標と内容の考え方などを学修する。特に、探求的な見方、考え方や教科横断的・総合的な学習を行うことなど、詳細に説明があるので熟読を要する。各学校において定める目標及び内容については、今回の改訂で詳しく記述してあるので、要点をまとめておく必要がある。

3. 指導計画の作成と内容の取り扱い（第4章、第5章、第6章、第7章）

指導計画の作成に当たって配慮事項や内容の取り扱いについての配慮事項を中心に学修する。各学校が定める内容についての考え方、求められる知識、技能についての学修、全体計画・年間計画の作成の仕方などについての基本的な考え方、探求的な学習するためのポイントについて記述してある。児童による主体的・対話的で深い学びにするための単元の流れ、授業構成を考えながら学修を進めてほしい。

4. 総合的な学習の時間の評価と配慮事項（第7章、第8章）

総合的な学習の時間の評価の考え方、評価に基づいて活動を充実させるための体制作り、環境構成、地域との連携のあり方などの具体が説明してある。評価の仕方や学習指導案についてはスクーリングで実施予定である。

学修の進め方

1. 添削課題出題の意図及び課題の進め方

添削課題は、「学習指導要領解説 特別活動編」「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」から出している。添削課題には、特別活動、総合的な学習の時間を理解する上での基礎となる知識や考え方を問う問題と記述式問題を出題している。記述問題の配点を多くしているため、必ず記述すること。特に、学級活動、クラブ活動、児童会活動、学校行事についてそれぞれの目標と内容をまとめておくこと、また、総合的な学習の時間の目標と内容を整理しておくことを勧める。

2. 添削課題をまとめるにあたっての留意点

課題をもらって「問題を見ながら答えが書いてあるページを探す」という方法は、理解も深まらず記憶にも残らない。概略も掴めていないので、配点の多い記述問題の部分が解けない。過去の解答を見ると、長文が書いてあっても的はずれの箇所を基に記述してあったり、完全に自分の意見であったりする場合が多いので減点となっている。

記述問題の配点は大きいので必ず、自分の言葉で簡潔にまとめること。

3. 効果的な学修の方法

参考テキストは「学習指導要領解説 特別活動編」と関連付けながら読み進めると効果的である。まず、テキストを一読し概略を掴む。次に各章を丁寧に読みながら、学習指導要領で内容を確認する。そして、要点を整理しながらノートにまとめる。また、「学習指導要領解説 特別活動編」、「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」は熟読しておくこと。特に記述式の問題は、一読しておかないと解けない問題を出題している。計画的に章を決めて読み進めると良い。

4. フィードバックについて

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返す。

※○2019（平成31）年度以降の入学生

講義内容を補うスクーリングの詳細については、『添削課題集』の「テキスト科目における指導案の作成及び模擬授業等のスクーリング実施について」をご確認ください。

教育の方法と技術（初等教育）

専門教育科目／2単位／2年後期開講／テキスト授業

■ 担当教員	山本 泰弘
■ 使用テキスト	テキスト：教育の方法と技術〈第三版〉 著者：柴田義松 山崎準二 出版社：学文社 出版年：2019.3 ISBN：978-4-7620-2869-4
■ 参考テキスト	テキスト：教育の方法と技術〈三訂版〉 著者：平沢 茂 出版社：図書文化 出版年：2018.2 ISBN：978-4-8100-8701-7

講義概要・一般目標

「子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、技術を学ぶ」ことを目標に、基礎的・基本的事項を学修する。主な内容は下記に示す。

（１）教育方法史，（２）カリキュラム論，（３）授業論，（４）教育の技術，（５）教育評価について学修する。

到達目標

「子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、技術を学ぶ」をテーマとして、教授法の基礎理論とともに授業設計の仕方、学習指導の方法、学習形態、教育機器、教具の活用などについて基礎的・基本的な事項を学ぶ。到達目標は以下のとおりである。

1. 教授法の歴史，教育方法の基礎理論を理解する。
2. 授業，保育を構成する基礎的な要件（児童生徒，教員，教材，環境）を理解する。
3. 授業設計の仕方，指導法，学習形態，情報機器の活用等について理解し，必要な技能を身に付ける。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施する。

担当する授業科目に関連した実務経験

小学校教員の実務経験があり，その経験を添削課題に反映させる。

学修の進め方

1. 添削課題出題の意図及び課題の進め方

添削課題は，各章の要点となるところを問題にしている。テキストは教育方法史からはじまり，カリキュラム論，授業論，教育の技術，教育評価がまとめてある。やや難解な文章もあるが，構造的に分かりやすくまとめてあるので理解しやすい。各章を丁寧に読みながら要点，重要語句を整理することを勧める。

2. 添削課題をまとめるにあたっての留意点

課題をもらって「問題を見ながら答えが書いてあるページを探す」という方法は，理解も深まらず記憶にも残らない。概略も掴めていないので，配点の多い記述問題の部分を解くことができない。過去の

解答例を見ると、長文が書いてあっても的はずれの箇所を基に記述してあったり、完全に自分の意見であったりする場合が多いので減点となっている。記述問題の配点は大きいので必ずテキストの要旨を基に自分の言葉で簡潔にまとめること。

3. 効果的な学修の方法

一読し概略を掴み、その後計画的に1章ずつ要点をまとめ、整理すること。特に第2章「カリキュラム論」、第3章「授業論」、第4章「教育の技術」、第5章「教育評価」は、具体的であり学校現場に出るときには必要な知識となる。指導案を作成したりパワーポイントを作成したりすると具体的に理解が進む。余力がある人は挑戦してほしい。

4. フィードバックについて

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返す。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

1. 教育方法史

過去から現在に至るまでの主だった教育の方法について主張点を学ぶ。ソクラテス、コメニウスの教授法、ルソーの合自然性の教育、ペスタロッチの開発教授法、ヘルバルト派の5段階教授法、19世紀、20世紀の多様な教育改革、近代日本の学校と教育実践改革が簡潔に記述してある。要点と時代を整理しながら理解することが大切である。

2. カリキュラム論

教育課程の内容の変遷を学ぶ。まず、年代を追って、児童中心カリキュラム、学問中心カリキュラム、人間中心カリキュラムについての記述があり、次に、学習指導要領の歴史の変遷から様々なカリキュラムの基礎・基本や意義・課題などについて記述している。概略を頭に入れた後、熟読してほしい。

3. 授業論

実際の授業を行うことを前提に、具体的な方法について学ぶ。授業の構造と意義、学習指導案の意義と作成手順、授業の目標づくり、対話の役割と方法、教材研究、発問の種類と機能、新しい実践課題などについて記述してある。授業についての基本的な考え方であり、教職を目指す者は熟知しておく必要がある。

4. 教育の技術

教育における技能と技術を学ぶ。パーソナルコンピュータの進歩と教育への影響、ICT環境整備の推進状況、文部科学省が推進するICT機器の特長、活用方法と技術、ICT推進の留意点について記述している。今回の改訂では、プログラミングについても必須となるので考え方は知っておいてほしい。また、板書とノート指導のあり方や机間指導のあり方など授業を行う際の具体的な技術などについても記述してある。いずれも教員として必要な知識であり、熟知しておく必要がある。

5. 教育評価

教育の目標は人格形成にある。そのためには、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をいかに形成するかが大切である。学力をつけるために、全国学力学習状況調査が取り入れられているが、学力の概念、日本の子どもたちの学力の状況、教育評価の種類、評価の目的、評価の仕方など具体的に記述してある。教育活動において評価は指導と一体であり、熟読して理解しておくことを望む。

幼児理解

専門教育科目／2単位／1年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	小坂田 佐弓
■ 使用テキスト	テキスト：幼児理解と保育援助/新・保育講座③ 著者：森上史朗、浜口順子 編 出版社：ミネルヴァ書房 出版年：2003年3月 ISBN：978-4-623-03713-1
■ 参考テキスト	テキスト：最新保育講座③「子ども理解と援助」 著者：高嶋景子、砂上史朗 編 出版社：ミネルヴァ書房 出版年：2011年 ISBN：978-4-623-05962-1

講義概要・一般目標

幼児教育は、保育者の専門性の中核である。まず初めに、子どもを理解するために、絵本や実践記録から子どもの姿を知る。次いで、幼児教育においては、子どもというものはどういう存在であるかと考えている“子ども観”，子どもが発達するとはどういうことかと考えている“発達観”，子どもが発達するためにはどのような援助や働きかけをすればよいと考えているかという“保育観”が密接に関連していることを学ぶ。そして、観察や保育記録から保育の過程を知り、それを通して子どもの「内なる世界」を客観的に理解する方法を学修する。また、保育者が子どもを理解するための援助とカウンセリングマインド、子ども・家庭支援及び家庭連携について学ぶ。さらに、子ども理解の歴史についても学修する。これらにより、人間の長い歴史の中で絶えず変化を続けてきた“子ども観”の多様性を知るとともに、一人ひとりの子どもを援助し、その実像に迫ることができる方法を理解していく。

到達目標

保育者が、一人ひとりの子どもの内面を理解しながら信頼関係を築き、幼児の発達に必要な自発的な活動や経験を援助するための基礎的知識を学ぶ。そして、子ども観の多様性を理解し、客観的な視点に立っているいろいろな角度から子どもの実像を理解しようとする方法を身につけることを到達目標とする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

1. 添削課題提出の意図及び課題の進め方
「幼児理解」では子ども観の多様性を理解し、いろいろな角度から子どもの実像を理解する方法を学ぶことを目的としています。幼児の発達に必要な自発的な活動や経験を援助するための基礎知識を十分に把握しながら学修を進めてください。
2. 添削課題をまとめるにあたっての留意点
問題はテキストに非常に忠実に作成してありますので、テキストを丁寧に読むことを心掛けてください。
3. フィードバックについて
フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

序章 子どもを理解するために

子どもを理解するためには、直接その子を観察しかかわってみることが第一である。しかし、保育者の先入観や個人的な感情が子ども理解の妨げになることも無いとはいえない。客観的に子ども全般を知る視点も必要である。

その手掛かりの一つとして、ここでは、児童文学の中に描かれた子どもを通して子どもの内面を知る方法がある。人間観察に秀でた作家が豊かな感性で表現した子どもの内的な生活は、同じ場面でも全く違った多様な様相を見せてくれる。

もう一つの手掛かりは、他の保育者の実践記録にあらわされている子どもの姿である。子どもを見る視野が広がると同時に、保育方法についても示唆を与えられる。

この章では、子どもを理解するために客観的な視点を取り入れ、いろいろな角度から子どもの実像に迫ろうという態度を学ぶ。

第1章 幼児理解の基盤となるもの

幼児理解の基盤となるものは、その人が子どもというものはどういう存在であるかと考えている“子ども観”，子どもが発達するとはどういうことかと考えている“発達観”，子どもが発達するためにはどのような保育をするのがよいと考えているかという“保育観”である。

それらは、その人の育ってきた生育史や環境、どのような子育て、保育、教育を受けてきたかなどが大きく影響している。そのようにして、一度形成された子ども観や発達観、保育観などは終生変わらないものではなく、その後の子どもとのかかわりや、学修によって変化していく。

この章では、私たちが、これからの子どもとのかかわりや学修を通して、自分の子ども観や発達観、保育観をより適切なものにしていく努力が求められていることを理解する。

第2章 保育の過程と理解の方法

子ども理解のプロセスをたどることは、保育する自分自身を理解し、その意識の変化をたどることでもある。

この章では、保育を学んでいる実習生の記録を資料として、子どもを理解するとはどういうことなのか、そしてどのような方法やプロセスを経て理解がなされていくのかについて探っていく。

また、子ども理解、保育理解の方法として、保育実習のほかに、発達検査や発達相談、ビデオを用いた保育観察記録にもふれ、理解の方法について、多面的に考える。

第3章 子どもの内なる世界の理解

子どもには、「内」と「外」の世界がある。理解の対象は、子どもの「内なる世界」であり、それは漠然とした、外からは直接に見えにくいものである。

この章では、子どもの行動の意味を考える時の基本にある、子どもの内側と外側の問題について考える。また、おとなである保育者が子どもを理解するということについて、子どもとおとなの違いを踏まえて、「違うからわかる」という側面についても考察する。

第4章 理解と保育の援助

保育は、現実に子どもや同僚と一緒に作っている生活そのものである。保育者が子どもの育つ力を信頼するように、自分自身の中にある保育者としての育つ力を信頼する時、子どもと保育者は互いに影響を及ぼし合いながら成長している。

この章では、保育者が子どもとの間で、信頼し合い、理解し合い、援助し合う関係を作る基盤は、子どもに対して積極的な関心を持ち続けることにあることを学ぶ。

第5章 カウンセリングマインドと保育臨床

カウンセリングマインドと保育臨床という言葉は、保育現場において気になる子どもに対する特別な対応技法を想像させる。しかしこの章では、カウンセリングマインドも保育臨床も、すべての子ども一人ひとりの内面を理解し、信頼関係を築きつつ、発達に必要な経験を子ども自らが獲得していけるように援助する保育者の基本姿勢を問題にしていることを学ぶ。そして、子どもの中から

生まれてくるものをはぐくみ、子どもの危機の時を支える保育の配慮の本質に違いはないことを理解する。

第6章 子ども・家庭支援および家庭連携とカウンセリングマインド

子どもがより良く育つためには、単に園内における子どもの姿の理解と援助ばかりではなく、子どもが育つ環境、中でも家庭環境についての理解とその支援が必要である。

この章では、現代の子育て家庭の実態とその支援のありようについて考察する。

第7章 子ども理解と歴史

保育における歴史研究は、保育についての眺望を広げ、反省を促し、多くの示唆を与える機会をもたらす。しかし、保育における歴史研究の意味は、本質的にはもう一つ別のところにある。保育というものを、特定の施設内での方法に限定するのではなく、子どもとおとなが相互にかかわっていくところに成立する無定形な人間の営みであるにとらえるならば、保育における歴史的態度とは、意識されないままに動いていく保育そのものに目を向けて、その中で起こっていることを意識化する姿勢である、ということができる。

この章では、こうした人間の営みを理解し、そこに参与すること、それが保育研究における歴史研究の大きな目的であることを理解する。

生徒・進路指導論（初等教育）

専門教育科目／2単位／3年後期開講／テキスト授業

■ 担当教員	藤井 和郎
■ 使用テキスト	テキスト：生徒指導提要 著者：文部科学省 出版社：教育図書 ISBN：978-4-87730-274-0
	テキスト：小学校キャリア教育の手引き<改訂版> 著者：文部科学省 出版社：教育出版 出版年：平成23年5月 ISBN：978-4-316-30025-2 文部科学省ホームページからのダウンロードも可 (https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1293933.htm)
■ 参考テキスト	テキスト：小学校学習指導要領(平成29年告示) 著者：文部科学省 出版社：東洋館出版社

講義概要・一般目標

生徒指導は、一人一人の児童の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる重要な教育活動であり、キャリア教育は、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むための教育活動である。授業では、生徒指導の意義や生徒指導の機能を捉え直した上で、生徒指導の今日的課題を踏まえた実践について知識・理解を深める。また、キャリア教育及びそれに包含される進路指導について意義や原理などを学ぶ。

到達目標

- 1 生徒指導の意義や原理を理解する。
- 2 すべての児童を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。
- 3 児童の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。
- 4 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。
- 5 すべての児童を対象としたキャリア教育の考え方や指導の在り方を理解する。
- 6 児童が抱える個別のキャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方や在り方を理解する。

評価方法

添削課題及び科目単位認定試験により評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施する。

学修の進め方

- ・以下、使用テキスト『生徒指導提要』を“テキスト①”、使用テキスト『小学校キャリア教育の手引き<改訂版>』を“テキスト②”と示す。
- ・下記の[生徒・進路指導論テキスト解説と学修のポイント]を参考にして、テキスト①とテキスト②を読み進めていただきたい。添削課題は、テキストをしっかりと確認すれば解ける問題がほとんどである。
- ・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返す。

学修指導

〔生徒・進路指導論テキスト解説と学修のポイント〕

1. 生徒指導の意義と原理

テキスト①第1章を熟読し内容を理解する。

生徒指導とは、「一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動」である。生徒指導の目標は、「児童生徒自ら現在及び将来における豊かな自己実現を図っていくための自己指導能力の育成」である。そのために、「児童生徒に自己存在感を与えること、共感的な人間関係を育成すること、自己決定の場を与え、自己の可能性を援助することの3点に特に留意する」必要がある。

2. 教育課程と生徒指導

テキスト①第2章を熟読し内容を理解する。

生徒指導は教育課程に基づかない指導であるが、実践においては教育課程に基づく指導と密接不可分の関係にあり、教科、道徳教育、総合的な学習の時間、特別活動などにおける生徒指導について理解することが必要である。

3. 児童生徒の心理と児童生徒理解

テキスト①第3章を熟読し内容を理解する。

児童生徒理解を進める上で、児童生徒の様々な情報を収集する方法及びその留意事項を把握するとともに、児童期・青年期の発達の特徴を理解しておくことも必要である。あわせて発達障害に関する知識・理解も不可欠である。

4. 学校における生徒指導体制

テキスト①第4章を熟読し内容を理解する。

生徒指導を充実するには学校の生徒指導体制を強固なものにしなければならない。望ましい生徒指導体制とはどのようなものか、その体制を組織するためにどんなことが必要か、生徒指導主事が果たすべき役割とは、などといった課題意識をもつことが望まれる。

5. 教育相談

テキスト①第5章を熟読し内容を理解する。

生徒指導と教育相談の関係、教育相談の意義、教育相談の進め方を理解するとともに、育てる(発達促進的・開発的)教育相談の考え方を理解する。また、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、専門機関等との連携も不可欠な視点である。

6. 生徒指導の進め方（児童生徒全体への指導）

テキスト①第6章Ⅰを熟読し内容を理解する。

学校全体ですべての児童生徒を対象とした指導を行うに当たっての組織的対応の在り方や一人一人の教員の役割、具体的な指導の方法を理解することが必要である。

7. 生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導）

テキスト①第6章Ⅱを熟読し内容を理解する。

問題行動、いじめ、児童虐待、不登校など、児童生徒が抱える個別の課題ごとに、その課題に対する理解と対応の基本的な考え方を身に付けることが望まれる。

8. 生徒指導に関する法制度等

テキスト①第7章を熟読し内容を理解する。

学校現場で生徒指導を行う際に、懲戒と体罰、出席停止などの法制度に関する知識は不可欠である。

9. 学校と家庭・地域・関係機関との連携

テキスト①第8章を熟読し内容を理解する。

生徒指導は、学校だけの力ではできないものではない。家庭を含めた地域社会、関係機関との連携の下

に行われるものである。どのような連携が考えられるかといった視点をもって学修に臨んでいただきたい。

10. キャリア教育とは何か

テキスト②第1章を熟読し内容を理解する。

キャリア教育とは何か、基礎的・汎用的能力とは何か、小学校におけるキャリア教育の目標及びキャリア発達課題は何か、課題意識をもって学修していただきたい。

11. キャリア教育推進のために

テキスト②第2章を熟読し内容を理解する。

キャリア教育推進のために、校内組織はどうあるべきか、全体計画に基づく年間指導計画の作成はどうあるべきか、連携はどうあるべきかなどの視点をもって学修するとともに、キャリア教育の評価の方法について理解していただきたい。

12. 小学校におけるキャリア教育

テキスト②第3章を熟読し、実践事例を通して、小学校におけるキャリア教育の進め方を理解する。

13. 小学校低学年・中学年におけるキャリア教育

テキスト②第4章「低学年の発達課題と実践のポイント」「中学年の発達課題と実践のポイント」を熟読し、具体例を通して小学校低学年におけるキャリア教育の進め方を理解する。

14. 小学校高学年におけるキャリア教育

テキスト②第4章「高学年の発達課題と実践のポイント」を熟読し、具体例を通して小学校高学年におけるキャリア教育の進め方を理解する。

15. キャリア教育の理解を深める

テキスト②FAQを熟読し、小学校におけるキャリア教育についての理解を深める。

教育相談の基礎（初等教育）

専門教育科目／2単位／4年前期開講／テキスト授業

■ 担当教員	藤井 和郎
■ 使用テキスト	テキスト：新しい教職教育講座 教職教育編12 教育相談 著者：春日井敏之・渡邊照美 出版社：ミネルヴァ書房 出版年：2019年 ISBN：978-4-623-08195-0
■ 参考テキスト	テキスト：生徒指導提要 著者：文部科学省 出版社：教育図書 ISBN：978-4-87730-274-0

講義概要・一般目標

教育相談は、生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。授業では、予防・開発的教育相談について理解し、さらに不適応や問題行動等の課題への支援のための基礎的知識を学ぶ。

到達目標

- 1 教育相談の意義と理論
(1)学校における教育相談の意義と課題を理解する。
(2)教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解する。
- 2 教育相談の方法
(1)生徒の不適応や問題行動の意味並びに生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解する。
(2)学校におけるカウンセリングマインドの必要性を理解する。
(3)受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解する。
- 3 教育相談の展開
(1)職種の校務分掌に応じて、生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。
(2)いじめ、不登校、虐待、非行等の課題に対する、生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解する。
(3)教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組の必要性を理解する。
(4)地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解する。

評価方法

添削課題及び科目単位認定試験により評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施する。

学修の進め方

- ・下記の[教育相談の基礎テキスト解説と学修のポイント]を参考にして、テキストを読み進めていただきたい。添削課題は、テキストをしっかりと確認すれば解ける問題がほとんどである。
- ・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返す。

学修指導

〔教育相談の基礎テキスト解説と学修のポイント〕

1. 教育相談の歴史と変遷

テキスト第1章を熟読し内容を理解する。

『生徒指導提要』によると、教育相談は、児童生徒それぞれの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格の成長への援助を図るものであり、決して特定の教員だけが行う性質のものではなく、相談室だけで行われるものでもない。まず、テキスト p1 の「この章で学ぶこと」により概要をつかんだ上で読み進める。最後に、p18「学習の課題」の(2)を考える。

2. 子どもの生きづらさと教育相談

テキスト第2章を熟読し内容を理解する。

テキスト p19 の「この章で学ぶこと」により概要をつかんだ上で読み進める。P30～p32 の文部科学省の報告等については、文部科学省「不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）」（令和元年10月25日）も読んでいただきたい。この通知は、文部科学省HPを確認していただきたい。URLは https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1422155.htm である。最後に、p34「学習の課題」の(3)を考える。

3. 教育相談とカウンセリング

テキスト第3章を熟読し内容を理解する。

テキスト p35 の「この章で学ぶこと」により概要をつかんだ上で読み進める。特に、スクールカウンセラーの専門性とスクールソーシャルワーカーの専門性は必ず理解しておきたい。最後に、p49「学習の課題」の(1)を考える。

4. 教育相談と生徒指導

テキスト第4章を熟読し内容を理解する。

テキスト p51 の「この章で学ぶこと」により概要をつかんだ上で読み進める。特に、生徒指導と教育相談の本質を理解し、「指導と受容の融合」の意味を理解していただきたい。その際、p123の「3 生徒指導と教育相談」が参考になる。最後に、p67「学習の課題」の(1)を考える。

5. 教育相談とチーム支援

テキスト第5章を熟読し内容を理解する。

テキスト p68 の「この章で学ぶこと」により概要をつかんだ上で読み進める。特に、「チーム支援」は組織として動く学校現場では当然求められるものであるため、その内容を理解していただきたい。その際、「チーム支援」と「チームとしての学校」を混同しないことが必要である。また、コミュニケーション、カウンセリング、コンサルテーション、コーディネーション、コラボレーション、スーパービジョンなどの用語の意味も確認する。最後に、p85「学習の課題」の(2)を考える。

6. 教育相談とピア・サポートの可能性

テキスト第6章を熟読し内容を理解する。

テキスト p86 の「この章で学ぶこと」により概要をつかんだ上で読み進める。特に、ピア・サポートの意味と有効性を実践例を通して理解する。最後に、p103「学習の課題」の(1)を考える。

7. 教育相談における認知行動療法の可能性

テキスト第7章を熟読し内容を理解する。

テキスト p105 の「この章で学ぶこと」により概要をつかんだ上で読み進める。特に、認知行動療法の考え方をしっかり理解した上で、様々なアプローチを確認する。最後に、p121「学習の課題」の(1)を考える。

8. 教育相談と学級づくり

テキスト第8章を熟読し内容を理解する。

テキスト p122 の「この章で学ぶこと」により概要をつかんだ上で読み進める。特に、学級づくりを導く理論を踏まえ、発達の包括的支援を確認する。最後に、p137「学習の課題」の(3)を考える。

9. 教育相談と問題行動への指導・支援

テキスト第9章を熟読し内容を理解する。

テキスト p138 の「この章で学ぶこと」により概要をつかんだ上で読み進める。特に、テキストに書かれている事例をもとに、それぞれの問題行動の意味を考えていただきたい。最後に、p156「学習の課題」の(2)を考える。

10. 教育相談とインクルーシブ教育

テキスト第10章を熟読し内容を理解する。

テキスト p157 の「この章で学ぶこと」により概要をつかんだ上で読み進める。特に、発達障害について理解するとともに、その二次障害の意味をしっかりと理解することが大切である。なお、p160 の表 10-1 にある「知覚障害」は「知的障害」の誤りである。最後に、p171「学習の課題」の(1)を考える。

11. なぜ保護者との向き合い方に悩むのか、どう自信をつけていくか

テキスト第11章を熟読し内容を理解する。

テキスト p173 の「この章で学ぶこと」により概要をつかんだ上で読み進める。特に、保護者からのクレームの背景には保護者のどんな気持ちがあるのかを考えながら読んでいただきたい。なお、「モニター・ペアレント」という語があるが、教師としては使用しないことが大切である。最後に、p190「学習の課題」の(2)を考える。

12. 教育相談の担い手である教師が子どもを支える仕組み

テキスト第12章を熟読し内容を理解する。

テキスト p191 の「この章で学ぶこと」により概要をつかんだ上で読み進める。特に、第5章で学修した内容も参考にしながら、チーム支援の具体を理解する。最後に、p205「学習の課題」の(2)を考える。

13. 教育相談とリスクマネジメント

テキスト第13章を熟読し内容を理解する。

テキスト p206 の「この章で学ぶこと」により概要をつかんだ上で読み進める。特に、具体的な問題事象・状況へのリスクマネジメントはしっかりと理解していただきたい。最後に、p224「学習の課題」の(2)を考える。

教育実習指導(初等教育)／教育実習指導

専門教育科目／2単位／3年前期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年7月17日(土) 9:30～18:20	該 当 時間割	B
	2日目 令和3年7月18日(日) 9:30～18:20		
	3日目 令和3年8月8日(日) 9:30～18:20		
	〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年7月9日(金) 必着		
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10号館(岡山県高梁市伊賀町8)		

■ 担当教員	藤井 和郎／川上 はる江／鳥居 恭治／雲津 英子
■ 使用テキスト	幼稚園教育要領解説(平成30年3月)または小学校学習指導要領解説(平成29年告示)
■ 参考テキスト	テキスト：小学校教育実習ガイド 著 者：石橋裕子他編 出 版 社：萌文書林
	テキスト：幼稚園・保育園・養護教育実習ハンドブック 著 者：菊地明子 出 版 社：明治図書
	テキスト：実習日誌の書き方 著 者：相馬和子 他編 出 版 社：萌文書林

講義概要・一般目標

教育実習は、観察、参加、実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。学校教育の実際を体験的、総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることが求められる。

この授業は、教育実習を行うための事前指導にあたる。教職意識を高めるとともに、実習に向けた基本的な知識や技能の習得をめざす。授業は、教育実習の目的と心得などの講義だけでなく指導案を作成して模擬授業・模擬保育を行うなど教育実習に向けての実践的な内容を取り扱う。必要に応じて幼稚園実習組と小学校実習組に分かれて講義・演習を行う。なお、指導案作成や模擬授業・模擬保育の準備は、スクーリングの授業時間外(特にスクーリング第2日と第3日の間)にも多くの時間を要するので、あらかじめ予定しておいていただきたい。

この授業の目的は、受講生にとって幼稚園や小学校における教育実習が有意義なものとなるよう事前及び事後の学修をすることにある。したがって、教育実習終了後にも、教師としての実践力向上のための努力を継続することが望まれる。

到達目標

- 1 教育実習に対して、明確な目的意識や課題意識を持つ。
- 2 教材研究、幼児・児童の理解など、教育実習生として必要な知識、技術を習得する。
- 3 教育実習生として必要な授業・保育等の実践的な指導力を身に付ける。
- 4 教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで教育実習に参加する意欲を高める。

評価方法

教育実習指導の評価は、教育実習Ⅰ、教育実習Ⅱ、教職実践演習と合わせて後期に行う。
なお、模擬授業・模擬保育、スクーリングへの参画状況、科目単位認定試験により総合的に中間評価をする。この中間評価が「否」になった場合は教育実習を行うことができない。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施する。

担当する授業科目に関連した実務経験

この科目は、小学校教員、小学校校長、指導主事等の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

- (1) 教育実習をさせていただく校園の概要や地域の特色等について調べる。
- (2) 自分にとっての教育実習の意味を考える。
- (3) 教育実習生として必要な心構えを考える。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

- (1) 教育実習に対する自身の意欲や心構えを再確認する。
- (2) 子どもの理解、教材研究や指導案作成のために必要な知識や情報を補強する。

〔学修のポイント〕

(1) 実習までの準備

実習の意義や目的、実習の方法、実習生の心得およびマナー、「幼稚園」や「小学校」という教育機関についての理解、子どもとのかかわり、教職員との人間関係の構築、教材研究、実習に必要な実践技能、実習日誌の書き方などについて理解する。

(2) 教育実習の心得

- ・「何もかもすべて学ばせていただきます」という謙虚な気持ちで臨む。
- ・幼児や児童の立場からすれば、実習生も教師の一人だということを強く意識し、「教師である」という自覚を失わない。
- ・教師にふさわしい言葉遣い、服装、マナーに、日頃から注意しておく。
- ・幼児や児童に対し、彼らの大切な時間の一部を提供してもらっているのだという感謝の念をもつ。
- ・幼児や児童に楽しくかつ充実した授業・保育が展開できるように周到に準備をする。
- ・人前で落ち着いて話すための度胸と精神力を養っておく。
- ・教育実習にどのようなねらいをもって臨むか、自己課題を明確にする。

(3) 実習日誌

実習日誌は、実習における実践を記録し、かつ、実践のその記録が、批判的な検討にも耐えるデータベースとなることが求められる。そのためには、実習日誌を作成するためのノウ・ハウが必要となる。どのような視点を持ち、どのように書けばよいのかについてしっかり学ぶことが大切である。

(4) 模擬授業・模擬保育

教育実習において授業実習・保育実習は大きなウェイトを占める。スクーリングにおいても、時間をかけてしっかりと取り組む必要がある。

(5) 実習後の学修

実習期間中の貴重な体験を振り返り、そこからみえてくる諸課題を今後の学修に結びつけ、教師としての実践力向上のための努力を継続することが望まれる。

(6) スクーリング最終時限で講義(授業)全体に対する、フィードバックを行う。

学修指導

1 日 目	講義 1	教育実習の目的と心得・・・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津
	講義 2	実習に向けた準備と実習日誌の書き方・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津
	講義 3	模擬授業・模擬保育のための基礎知識・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津
	講義 4	指導案の作り方・考え方①・・・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津
	講義 5	指導案の作り方・考え方②・・・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津
2 日 目	講義 6	グループワーク：指導案の作成①・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津
	講義 7	グループワーク：指導案の作成②・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津
	講義 8	グループワーク：指導案の作成③・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津
	講義 9	グループワーク：指導案の作成④・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津
	講義 10	作成した指導案の診断・・・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津
3 日 目	講義 11	模擬授業および講評①・・・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津・外部講師
	講義 12	模擬授業および講評②・・・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津・外部講師
	講義 13	模擬授業および講評③・・・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津
	講義 14	模擬授業および講評④・・・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津
	講義 15	模擬授業および講評⑤・・・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津
	講義 16	科目単位認定試験・・・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

前ページの[スクーリングまでの事前学修事項]を参照する。

また、小学校実習を希望する人は、模擬授業の「学年・教科・単元」を決め、教材研究をしておく。

幼稚園実習を希望する人は、模擬保育の幼児の姿を想定し「年齢・その日の中心的活動内容」を決め、環境構成と生活の流れを考えておく。

〔準備するもの〕

小学校実習を希望する人は、あらかじめ決めた学年・教科の教科書およびその教科の学習指導要領解説（平成 29 年 7 月）を持参する。

幼稚園実習を希望する人は、幼稚園教育要領解説（平成 30 年 3 月）を持参する。

「学修の手引」に記載の「参考テキスト」は各自の必要に応じて購入する。スクーリングへの持参は不要である。

〔その他〕

教育実習終了後、事後指導としてレポート課題を課す。

レポートの提出は教育実習終了後、原則 2 週間以内（消印有効）に『教育実習ノート』と併せて通信教育事務課宛に送付する。（実習先からの『教育実習日誌』の返却が遅れる場合などは、返却後『教育実習日誌』と一緒に提出する。）

なお、レポートは「教職実践演習（必修）」で使用するので、必ず控えを取っておく。

（1）事後指導レポート課題

「実習を終えて、改めて考えたこと・学んだこと」

（2）様式設定

① 用紙のサイズは、A4、横書き、2 ページで作成し、両面印刷（1 枚）で提出する。

- ② 余白は、上下左右3cmで設定する。
 - ③ 文字数・行数は、40字×40行で設定する。
 - ④ フォントはMS明朝、フォントサイズは10.5ptで作成する。
- (3) 提出締切・提出先（『教育実習日誌』も併せて提出すること）
実習終了後、原則2週間以内に通信教育事務課に送付
※実習先からの『教育実習日誌』の返却が遅れる場合などは、返却後、『教育実習日誌』と一緒に提出する。

教職実践演習（幼・小）

専門教育科目／2単位／4年後期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和4年1月22日（土）9:30～18:20 2日目 令和4年1月23日（日）9:30～18:20 3日目 令和4年1月29日（土）9:30～18:20	該 当 時間割	B
	〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和4年1月14日（金）必着		
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10号館（岡山県高梁市伊賀町8）		

■ 担当教員	藤井 和郎／川上 はる江／鳥居 恭治／雲津 英子
■ 使用テキスト	適宜、資料を配付する
■ 参考テキスト	テキスト：幼稚園教育要領解説(平成30年3月) 著 者：文部科学省 出 版 社：フレーベル館
	テキスト：小学校学習指導要領(平成29年告示) 著 者：文部科学省 出 版 社：東洋館出版
	テキスト：小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編 著 者：文部科学省 出 版 社：東洋館出版

講義概要・一般目標

教職実践演習は、教職課程の他の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて、学生が身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて最終的に確認するものであり、いわば全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられるものである。学生はこの科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待される。このような科目の趣旨を踏まえ、①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科、保育内容等の指導力に関する事項を学修する。

到達目標

- 1 教育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、共に成長しようとする姿勢が身に付いている。
- 2 挨拶や服装、言葉遣い、他の教職員への対応、保護者に対する接し方など、社会人としての基本が身に付いている。
- 3 子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができる。
- 4 子どもの反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態等を工夫することができる。

評価方法

スクーリングへの参画状況、科目単位認定試験により総合的に評価する。なお教職実践演習の評価は、教育実習指導、教育実習Ⅰ、教育実習Ⅱと合わせて後期に行う。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施する。

担当する授業科目に関連した実務経験

この科目は、小学校教員、小学校校長、指導主事等の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教

育現場において実践的に役立つ授業を実施する。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

- (1) 「教職履修カルテ」を基に、教職課程でのこれまでの学びを振り返る。
- (2) 「教育実習を終えての報告と反省」をA4用紙1枚（両面）にまとめる。（教育実習終了後に提出済み）

〔スクーリング終了後の学修事項〕

- (1) 本授業の到達目標の4項目について、さらに身に付くよう実践を積み重ねる。

〔学修のポイント〕

- (1) グループ討議
ある特定のテーマについてグループ討議し、幼稚園現場で起こりうる様々な事例への対処方法を学ぶ。
- (2) 模擬授業
小学校教員として指導計画を立て、それに則って模擬授業を実施する。他の学生たちは児童としての役割演技をする。
- (3) 講義・演習
小学校・幼稚園教員として身に付けておきたい課題に関する知識・理解を深める。
- (4) スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行う。

学修指導

1 日 目	講義1 「教職履修カルテ」による学習の振り返り・・・・・・・・・・	担当	雲津
	講義2 教師として必要なコミュニケーション能力—話し方・・・・・・・・	担当	雲津
	講義3 教師として必要なコミュニケーション能力—聴き方・・・・・・・・	担当	雲津
	講義4 教師に必要な規範意識，倫理観・・・・・・・・・・・・・・・・	担当	藤井
	講義5 関係機関との連携・・・・・・・・・・・・・・・・	担当	藤井
2 日 目	講義6 教育実習を終えての報告と反省①・・・・・・・・	担当	藤井・川上・鳥居・雲津
	講義7 教育実習を終えての報告と反省②・・・・・・・・	担当	藤井・雲津
	講義8 教育実習を終えての報告と反省③・・・・・・・・	担当	藤井・雲津
	講義9 教育実習を終えての報告と反省④・・・・・・・・	担当	藤井・雲津
	講義10 教育実習を終えての報告と反省⑤・・・・・・・・	担当	藤井・雲津
3 日 目	講義11 特別支援教育・・・・・・・・	担当	藤井
	講義12 学級経営と保護者対応・・・・・・・・	担当	川上
	講義13 保・幼・小連携の現状と課題・・・・・・・・	担当	川上
	講義14 求められる資質，能力（教員育成指標から）・・・・・・・・	担当	川上
	講義15 対人関係力アップのためのワークショップ・・・・・・・・	担当	鳥居
	講義16 科目単位認定試験・・・・・・・・	担当	鳥居

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

前ページの〔スクーリングまでの事前学修事項〕を参照する。ただし、「教育実習を終えての報告と反省」は既に提出済みなので、手元にコピーがある人は当日持参する。

〔準備するもの〕

- ・「教職履修カルテ」
- ・「教育実習日誌」（手元にある人は、当日持参する）
- ・「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編」（小学校実習のみ）

〔その他〕

特になし。

教育実習Ⅰ(初等教育)／教育実習Ⅰ

専門教育科目／2単位／3年通年開講／実習

■ 担当教員	藤井 和郎／川上 はる江／秀 真一郎／雲津 英子／近江 望
■ 使用テキスト	教育実習日誌・指導案は大学専用の実習簿を使用 ※「教育実習日誌」は教育実習指導のスクーリング時に配付する
■ 参考テキスト	幼稚園教育要領 幼稚園教育要領解説 小学校学習指導要領 小学校学習指導要領解説

講義概要・一般目標

教育実習は、観察、参加、実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。学校教育の実際を体験的、総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることが求められる。

教育実習においては、幼児・児童や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校(園)の幼児、児童の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解するとともに、大学で学んだ教科・領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面・保育で実践するための基礎を身に付けることが必要である。

期間は限られているが、目的意識をしっかりと持ち、教育実習に取り組んでもらいたい。

到達目標

- 1 幼児、児童又は生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。
- 2 指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実に即して記録することができる。
- 3 教育実習校(園)の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解することができる。
- 4 学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。

評価方法

「幼稚園教育実習評価表」又は「教育実習成績報告票」、教育実習日誌の記述内容及び事後指導レポートにより総合的に評価する。なお教育実習Ⅰの評価は、教育実習指導、教育実習Ⅱ、教職実践演習と合わせて後期に行う。

担当する授業科目に関連した実務経験

この科目は、小学校教員、小学校校長、指導主事等の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。

学修指導

指導としては、教育実習期間中に行われる「実習巡回指導」と、実習終了後に行う「教育実習事後指導」が中心となる。

特に事後指導では、自らの実習体験を発表し合いながら、グループディスカッションを行うことを通して、自らの実習体験を客体化したり、相対化したりする。

また、グループディスカッションを通して検討すべき課題を設定し、それをテーマにグループ研究を行う場合もある。

学修の進め方

〔教育実習の事前学修事項〕

- (1) 教育実習に対する自身の意欲や心構えを再確認する。
- (2) 子どもの理解、教材研究や指導案作成のために必要な知識や情報を補強する。

〔教育実習中の学修事項〕

- (1) 幼児、児童との関わりを通して、その実態や課題を把握する。
- (2) 指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実に基づいて記録する。
- (3) 教育実習校（園）の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解する。
- (4) 学級担任や教科担任等の補助的な役割を担う。

〔教育実習終了後の学修事項〕

- (1) 実習期間中の貴重な体験を振り返り、そこから見えてくる諸課題を今後の学修に結び付け、教師としての実践力向上のための努力を継続する。
- (2) 事後指導レポートをA4用紙1枚（両面）にまとめる。

教育実習Ⅱ(初等教育)／教育実習Ⅱ

専門教育科目／2単位／3年通年開講／実習

■ 担当教員	藤井 和郎／川上 はる江／秀 真一郎／雲津 英子／近江 望
■ 使用テキスト	教育実習日誌・指導案は大学専用の実習簿を使用 ※「教育実習日誌」は教育実習指導のスクーリング時に配付する
■ 参考テキスト	幼稚園教育要領 幼稚園教育要領解説 小学校学習指導要領 小学校学習指導要領解説

講義概要・一般目標

教育実習Ⅱは、教育実習Ⅰの経験を踏まえた上で、教育者としての実践的力量的形成を図ることを企図している。すなわち幼稚園・小学校に身を置き、幼児・児童と向き合うことで発達の実際や接し方について理解を深める。

幼稚園実習では、指導教員の指導を受けながら、見学・観察・部分保育、全日保育、研究保育などを順次体験することになる。また小学校実習は、見学・模擬授業・研究授業などから構成される。

見学・観察実習においては、指導教員の授業・保育を観察の視点をもって見させていただかなければならない。ただ漠然と授業・保育を観察しているということがあってはならない。また、授業実習・保育実習に当たっては、幼児や児童に対し、彼らの大切な時間の一部を提供してもらっているのだという感謝の念をもち、幼児や児童に楽しくかつ充実した授業・保育が展開できるように周到に準備をする必要がある。

到達目標

- 1 学習指導要領・幼稚園教育要領及び児童・幼児の実態等を踏まえた適切な学習指導案・指導案を作成し、授業・保育を実践することができる。
- 2 学習指導・保育に必要な基礎的技術（話法、板書、学習・保育形態、授業・保育展開、環境構成等）を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。
- 3 学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解する。
- 4 教科指導以外の様々な活動の場面で適切に児童・幼児と関わることができる。

評価方法

「幼稚園教育実習評価表」又は「教育実習成績報告票」、教育実習日誌の記述内容及び事後指導レポートにより総合的に評価する。なお教育実習Ⅱの評価は、教育実習指導、教育実習Ⅰ、教職実践演習と合わせて後期に行う。

担当する授業科目に関連した実務経験

この科目は、小学校教員、小学校校長、指導主事等の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。

学修指導

指導としては、教育実習期間中に行われる「実習巡回指導」と、実習終了後に行う「教育実習事後指導」が中心となる。

特に事後指導では、自らの実習体験を発表し合いながら、グループディスカッションを行うことを通して、自らの実習体験を客体化したり、相対化したりする。

また、グループディスカッションを通して検討すべき課題を設定し、それをテーマにグループ研究を行う場合もある。

学修の進め方

〔教育実習の事前学修事項〕

- (1) 教育実習に対する自身の意欲や心構えを再確認する。
- (2) 子どもの理解、教材研究や指導案作成のために必要な知識や情報を補強する。

〔教育実習中の学修事項〕

- (1) 学習指導要領・幼稚園教育要領及び児童・幼児の実態等を踏まえた適切な学習指導案・指導案を作成し、授業・保育を実践する。
- (2) 学習指導・保育に必要な基礎的技術（話法、板書、学習・保育形態、授業・保育展開、環境構成等）を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用する。
- (3) 学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解する。
- (4) 教科指導以外の様々な活動の場面で適切に児童・幼児と関わる。

〔教育実習終了後の学修事項〕

- (1) 実習期間中の貴重な体験を振り返り、そこから見えてくる諸課題を今後の学修に結び付け、教師としての実践力向上のための努力を継続する。
- (2) 事後指導レポートをA4用紙1枚（両面）にまとめる。

介護等体験の研究

専門教育科目／1単位／2年後期開講／テキスト授業

■ 担当教員	森井 康幸
■ 使用テキスト	テキスト：教師をめざす人の介護等体験ハンドブック 五訂版 著者：現代教師養成研究会編 出版社：大修館書店 出版年：2020 ISBN：4469268763 (9784469268768)
■ 参考テキスト	テキスト：特別支援学校における介護等体験ガイドブック フィリア 新学習指導要領(平成29年公示)版 著者：全国特別支援学校長会 編 出版社：ジアース教育新社 出版年：2018 ISBN：4863714475

講義概要・一般目標

介護等体験の意義・目的の理解と、体験施設の概要や活動内容を把握すること、あわせて教職意識の明確化を図ることを目標とし、学校や施設の概要やそこでの介護等体験における注意事項等を学んでいく。

介護等体験を希望する者はテキスト授業とは別に介護等体験事前指導を受けなければならない。

【介護等体験事前指導の目的】

1. 介護等体験を行う特別支援学校および福祉施設についての理解と、その施設で実習することの意義と目的の再確認。
2. 介護等体験実施における社会的マナー等の確認。

到達目標

介護等体験の意義・目的の理解と、体験施設の概要や活動内容を把握すること、あわせて教職意識の明確化を図ることを到達目標とする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

- ・この科目は、最初に述べたように、来年度介護等体験を行うための事前指導であるため、知識を増やすことが特に重要というではありません。体験の意義・目的をしっかりと理解するようにしてください。添削課題も、上記趣旨に従って、社会人としての基本的マナーと皆さん自身の介護等体験への取り組み姿勢等を問うものが中心になります。
- ・テキストの体験学生の感想文や体験記を参考に、自分自身、特にどういう観点から体験に取り組むかについて考えるようにしてください。
- 体験の実施に向けて、常日頃から、様々な人とコミュニケーションがとれるように心がけておいてください。
- ・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。
- ・介護等体験を希望する者はテキスト授業とは別に、介護等体験の事前指導に必ず参加し、介護等体験を行う際の基本事項の確認を行う必要があります。

学修指導

介護等体験そのものは大学の授業ではなく、したがって単位の認定もないが、小学校・中学校といった義務教育の普通教員免許状を取得しようとする者は、介護等の体験を行わなくてはならない。この講義は、次年度以降に介護等体験を行うための事前指導にあたり、この単位が認定されないと介護等体験を行うことはできないので注意しておこう。実際には、一部の者は介護等体験が免除されることがあるが、その場合でも、本学においては、この単位は必要である。

実際の介護等の体験は、基本的には特別支援学校で2日間（連続）と、福祉施設で5日間（連続）の計7日間の体験が求められており、この講義ではその体験を有意義で実りあるものにするために、体験の意義・目的の理解とともに、施設の概要・活動内容等について把握することを目標としている。

介護等体験を希望する者はテキスト授業とは別に介護等体験事前指導を受けなければならない。なお、介護等体験が終了した場合、体験を行った特別支援学校と福祉施設のそれぞれから介護等体験の証明書を受け取ることになるが、その証明書は教員免許状の申請まで各自が責任を持って大切に保管しておく必要がある。

注) 介護等体験の実施については、下記の者は適用除外となる。

詳細については「学修のしおり」P51 ⑨介護等体験の免除 の内容を参照のこと。

- 1) 既に、中学校教諭や小学校教諭、特別支援学校の教員の免許状を取得済みの場合。
 - 2) 既に、看護師、保健師、社会福祉士、介護福祉士等の免許や資格を有する場合。
 - 3) 学生自身が、1級から6級の身体障害者として認定されている場合。
- 従って、事前指導も不要である。

〔テキストの概要と学修のポイント〕

第1部

1章 現代社会の教育の課題

プロローグとあわせて読み、自分が教職をめざす目的意識の明確化をはかってほしい。そして、これからの教育に求められていること、どのような社会づくりに貢献する人材を育成しようとしているのかについても、考えてほしい。

2章 今、教師に求められる資質・力量

これからの教師に求められる力量・資質について考えるとともに、その基礎となる命の尊さ、人権尊重への感覚、共感的で受容的な人間関係の重要性を、知的な理解や信念にとどまるのではなく、行為を引き起こす力となるように理解を深化させてほしい。

3章 介護等体験の目的と課題

ここでは、介護等体験が義務化に至った経緯、そのための条件整備の問題などについて振り返りながら、介護等体験の意義について考えてみよう。

4章 介護等体験の事前準備はどうするか

教師志望者になぜ介護等体験が必要なのかについて振り返りながら、体験に臨む際の心の準備について考える。具体的な準備や実施中の注意点、体験から何を学ぶかなどについて、体験報告なども参考にしながら理解する。

第2部

1章 介護等体験の手順と方法

一般的な介護等体験の手順と方法についての理解を深めるとともに、本学における手続き・方法についての情報を補足提示するので、具体的に把握してほしい。

2章 特別支援学校等での介護等体験

かつての養護学校や盲学校、聾学校は現在特別支援学校と呼ばれるようになっている。そうした改正の経緯を理解することで、障害のある子どもたちとの関わり方の何が変わってきたのかを理解する。

また、特別支援学校等の活動の概要を理解し、それぞれの支援学校における介護等体験において注

意すべき事項などを考える。

3章 社会福祉施設での介護等体験

高齢者福祉施設，児童養護施設，知的障害者施設など介護等体験が行われる社会福祉施設の概要について学ぶとともに，介護等体験の体験活動や介護等体験に臨む際の心構えについて把握する。

第3部

1章 事後の心得

介護等体験終了後のマナーについて学ぶとともに，体験によって自分がどう変わったのか，どのように変わらなくてはならないと思ったかなど自己変革への気づきを明確にする。

2章 介護等体験を教育実践へ

介護等体験を教育実習、さらにその後の教育実践にどのように結びつけるのか考える。

エピローグ

改めて、介護等体験の意義を見つめ直し、自己の教職意識について考える。

〔介護等体験事前指導スクーリング〕 ※「介護等体験の研究」の履修年度には参加できません。

参加要件：「介護等体験の研究」の単位を修得した者

実施日：介護等体験に参加する年度の5月頃

実施方法：メディア授業（予定）

「介護等体験の研究」を履修された年度の11月頃に介護等体験の希望調査票をお送りします。希望された方へ、介護等体験事前指導スクーリングの案内を実施1か月前を目安に発送します。

（例）令和4年度に介護等体験に参加する場合、前年度に参加要件を満たしていれば令和4年5月頃に介護等体験事前指導スクーリングを受講することができます。

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

テキスト「介護等体験ハンドブック」の『プロローグ』、第1部、『エピローグ』、に再度目を通してきてください。

その上で、介護等体験を行う各自の目的を明確にしておいてください。

〔準備するもの〕

テキスト

〔その他〕

特になし。

外国語活動

専門教育科目／2単位／3年前期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年6月19日(土) 9:30～18:20 2日目 令和3年6月20日(日) 9:30～18:20 3日目 令和3年6月26日(土) 9:30～18:20	該 当 時間割	B
	〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年6月11日(金) 必着		
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス(岡山県岡山市北区岩田町2-5)		

■ 担当教員	山本 泰弘		
■ 使用テキスト	テキスト:「Let's Try! 1」(市販版指導編) 著 者:文部科学省 出 版 社:東京書籍 出 版 年:2018年 I S B N:978-4-487-25970-0		
	テキスト:「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編」 著 者:文部科学省 出 版 社:開隆堂 出 版 年:2018年 I S B N:978-4-304-05168-5		
■ 参考テキスト	テキスト:「Let's Try! 2」(市販版指導編) 著 者:文部科学省 出 版 社:東京書籍 出 版 年:2018年 I S B N:978-4-487-25971-7		

講義概要・一般目標

「小学校学習指導要領解説(外国語活動編)」を理解し、小学校の外国語活動の授業で子どもたちが実際に使用している教材を使って、外国語活動の授業の中身を実際に体験しながら、自信を持って小学校の子どもたちに外国語活動の授業ができるようにしていきます。

到達目標

- ・小学校外国語活動の目標や内容を確実に理解し、外国語活動の授業を行う基礎的・基本的な知識や技能を習得することができる。
- ・外国語活動の学習計画や指導案の作成方法を理解し、授業づくりに生かすことができる。
- ・子どもたちが主体的・対話的に深く学び、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成することのできる外国語活動の授業の在り方を考え、教育者としての指導観を持つことができる。

評価方法

授業態度及び科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

外国語活動は、平成23年度から小学校5・6年生で全面実施されましたが、私は、小学校で教諭・教頭として、移行期を含め授業実践に長期にわたり取り組んできました。また、校長として授業方法等に関して研修等で教員に指導も行ってきました。さらに退職後は、令和2年度からの小学校3・4年生での全面実施を視野に、小学校非常勤講師として授業実践に取り組んできました。こうした実務経験を生かし、学校現場で使用している教材による授業体験、教案作成や模擬授業などを通して、より実践的な講義（授業）を行います。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

文部科学省のホームページには、学習指導要領や学習指導要領解説、補助教材などの資料が数多く掲載されています。また、書店の教育コーナーにも、小学校外国語活動に関する本や資料がたくさん並んでいます。目を通していただければ、講義の理解が進むと思います。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

授業の最後にみなさんにしていただく模擬授業を参考にして、自分なりにいろいろな授業を組み立ててみてください。また、文部科学省のホームページや小学校外国語活動に関する本や資料などを参考にしたり、地域の小学校のオープンスクールなどで実際の外国語活動の授業を参観したりして、学修を深めることをお勧めします。

〔フィードバック〕

スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行います。

学修指導

1 日 目	講義1 オリエンテーション
	講義2 「外国語活動」の基本理念
	講義3 小学校学習指導要領（外国語活動）解説
	講義4 教材の構成と内容①
	講義5 教材の構成と内容②
2 日 目	講義6 第二言語習得と指導の留意点
	講義7 指導者の役割・指導法・指導技術
	講義8 指導者の英語表現
	講義9 授業研究（授業映像の視聴）
	講義10 指導目標や学習計画の立て方・評価方法・学習指導案の作成方法
3 日 目	講義11 学習計画・指導案作成
	講義12 模擬授業の準備
	講義13 模擬授業と授業の振り返り①
	講義14 模擬授業と授業の振り返り②
	講義15 講義のまとめ・振り返り
	講義16 科目単位認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

本スクーリングの使用テキストは必ず目を通しておいてください。文部科学省のホームページには、学習指導要領や学習指導要領解説、補助教材などの資料が数多く掲載されています。また、書店の教育コーナーにも、小学校外国語活動に関する本や資料がたくさん並んでいます。これらについても目を通していただければ、スクーリングでの学修内容の理解が進むと思います。

〔準備するもの〕

使用テキスト・参考テキスト・ファイル・ノート・筆記用具・はさみ・スティクのり・マジックペン（黒）など

※当日、スクーリングで使用する資料を配布するので、ファイルなどがが必要です。

※模擬授業の教材作成で、はさみ、スティクのり、マジックペン（黒）などがが必要です。

〔その他〕

最終日（3日目）には、グループ分かれて模擬授業をしていただき、学修を深めていきます。

文部科学省や教育委員会などのホームページで小学校外国語活動の授業について把握しておいてください。また、お知り合いに小学校の先生や小学校外国語活動に携わっている人がおられれば、どのような授業が行われているのかを聞いておいてください。模擬授業の参考になると思います。さらに、自分は模擬授業をどの単元でするのがいくつか候補を考えて、スクーリングに臨んでいただければ、模擬授業の指導案作成や準備がよりスムーズに進むと考えます。

子ども発達教育演習Ⅰ／子ども発達教育演習Ⅱ

演習Ⅰ：専門教育科目／1単位／3年前期開講／スクーリング授業

演習Ⅱ：専門教育科目／1単位／3年後期開講／テキスト授業

日 時	1日目 令和3年7月3日(土) 9:30～16:40 2日目 令和3年7月4日(日) 9:30～16:40 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年6月25日(金) 必着	該 当 時間割	A
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10号館(岡山県高梁市伊賀町8)		

■ 担当教員	川上 はる江
■ 使用テキスト	テキスト：自分事の問題解決をめざす理科授業 著 者：村山哲哉 出 版 社：図書文化 出 版 年：2013年 I S B N：978-4-8100-3640-4
	テキスト：子ども・こころ・育ち 機微を生きる 著 者：山田真理子 出 版 社：エイデル研究所 I S B N：4-87168-380-X
■ 参考テキスト	テキスト：新しい理科 3～6年 出 版 社：東京書籍 出 版 年：2014年8月 I S B N：978-4-477-01949-9
	テキスト：幼稚園教育要領解説 著 者：文部科学省 出 版 社：東洋館出版社 出 版 年：2018年3月 I S B N：978-4-577-81447-5

講義概要・一般目標

今、環境問題は世界中で注目されている。幼児、児童にとって自然環境がいかに大切か、自然が幼児、児童に及ぼす教育効果について学修する。また、幼稚園や小学校現場の実践を具体的に学ぶ。その際、海外における幼稚園、小学校教育の実態(デンマーク、中国など)と日本の教育の比較を基にしながら、自然教育の在り方について考察する。教育現場では、自然科学分野に対する教育への関心が薄くなり、課題解決型の教育ができていく実態がある。自ら自然に働きかけ、課題をつくり、追究する活動のできる幼児、児童を育てたい。

なお、子ども発達教育演習Ⅰ、Ⅱにの履修方法については、同一教員が担当する演習を履修する必要があるので注意する。

【各領域の講義概要】

理科教育の理論と実践方法、幼児教育における自然の役割、環境構成
 専門分野：理科教育、道徳教育、地方教育経営

<講義概要>

「子ども発達教育演習Ⅰ」では、子供たちが自然に親しみ、自然から学び、「科学的な見方・考え方」をいかに身につけるか、について学修する。

幼児教育：自然の大切さ、自然の不思議、美しさに気づくことのできる環境構成の仕方について学ぶ。
 小学校教育：小学校児童の実態、理科教育の目標、問題解決の過程について実験、観察を通して学ぶ。

「子ども発達演習Ⅱ」では演習Ⅰを基に、各自テーマを決めて単元構想、環境構成、活動案などを作成する。自分なりに考えたこと、工夫したことをレポートとしてまとめる。

到達目標

- ・ 幼児の自然への興味を引き出す環境構成の仕方を研究し、望ましい環境構成を提案できる。
- ・ 小学校の理科授業の構成の仕方を学び、問題解決学習の過程を理解できる。
- ・ 単元計画、指導案（活動案）の書き方、問題解決の能力について理解し、教材開発を進める。

評価方法

子ども発達教育演習Ⅰではレポート試験、指導案によって評価する。
子ども発達教育演習Ⅱでは、期日までに提出された添削課題の内容による中間評価および課題論文の内容によって総合的に評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリングの際は、終了後の時間に実施する。

担当する授業科目に関連した実務経験

小学校教員、幼稚園園長としての実務経験をもっており、具体的な実験、観察、環境構成の仕方を演習に含む。

学修の進め方

・子ども発達教育演習Ⅱ

〔学修のポイント〕

1. テーマを設定する

幼児・児童にとって自然から学ぶことは多い。科学的な好奇心を引き出し、子どもたちのもつ自然体験を基にした素朴な概念をどのようにして科学的な概念へ深めていくかを考えたい。保育園、幼稚園では自然環境の構成、小学校では理科の授業が重要となる。「子ども発達教育演習Ⅰ」での学びをもとに、最も関心のあるテーマを設定する。

2. 図書館やインターネット上のデータベースを利用し、論文作成に必要な資料を探す。資料の探し方を学修した上で、図書館などを利用し、テーマに関する先行研究（本、雑誌論文など）を探す。資料の探し方については、「子ども発達教育演習Ⅰ」で説明する予定である。

3. 論文を作成する

自分の主張点を明らかにしながら論文を書き進めてほしい。先行研究を受けて課題を決めた場合は、その研究との関連、相違点を明らかにして書くことが大切である。また、理論実践的な研究になることを目標にしているので、学校現場の課題を日頃から意識しておいてほしい。

なお、フィードバックとして提出された課題レポートにコメントを返す。

学修指導

・子ども発達教育演習Ⅰ

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

小学校学習指導要領解説理科編（小学校）、幼稚園教育要領（保・幼）を熟読しておくとう理解しやすい。なお、スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対する、フィードバックを行なう。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

スクーリングの学習内容を基に、受講中疑問に思ったことを追究したり、発展させたりする学習が大切である。また、日頃見聞きする幼児教育、理科教育に関する問題や自然環境に関心を持ち、調べたり、考えを深めたりする姿勢を大切にほしい。

「子ども発達教育演習Ⅰ」（スクーリング）において学修した内容をもとに、教育に関する問題（幼児教育、理科教育などを含む）から、興味、関心のあるテーマを見つけ、関連のある先行研究（本、雑誌論文）や根拠となる資料（文部科学書ホームページ資料、新聞記事、統計資料など）を探し、論文作成に取り組んでいく。

子ども発達教育演習Ⅰ：スクーリング学修の主なポイントは次の通りである。

1 日 目	講義1	教育現場（幼稚園，小学校）に求められるもの
	演習2	幼児教育，理科教育の目標と意義
	講義3	観察，実験（演習 「粒子，エネルギー」分野）
	演習4	資料分析（幼稚園の事例，小学校の事例紹介）
2 日 目	講義5	理科授業と単元計画，指導案の書き方（小） 環境構成の仕方，活動計画案の書き方（幼）
	演習6	観察，実験（演習 「粒子，エネルギー」分野）
	講義7	観察，実験（演習 「生命，地球」分野）
	演習8	子ども発達演習Ⅱに向けて 科目認定試験，レポート

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

特にありません。

〔準備するもの〕

- ・幼稚園教育要領（新版）
 - ・幼稚園雑草 倉橋惣三 フレーベル館
 - ・小学校学習指導要領 解説理科編（新版）
 - ・「理科の教科書」3学年～6学年，東京書籍
- ※ 教科書は演習Ⅱでも必要です。必ず用意してください。

〔その他〕

特にありません。

子ども発達教育演習Ⅰ／子ども発達教育演習Ⅱ

演習Ⅰ：専門教育科目／1単位／3年前期開講／スクーリング授業

演習Ⅱ：専門教育科目／1単位／3年後期開講／テキスト授業

日 時	1日目 令和3年7月3日(土) 9:30~16:40	該 当 時間割	A
	2日目 令和3年7月4日(日) 9:30~16:40 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年6月25日(金) 必着		
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10号館(岡山県高梁市伊賀町8)		

■ 担当教員	雲津 英子
■ 使用テキスト	受講生それぞれが課題論文に取り上げるテーマによって、関連する参考文献が異なるため、特にテキストは指定しない。
■ 参考テキスト	<p><論文作成にあたって> テキスト：大学生 学びのハンドブック 4訂版 著 者：世界思想社編集部 編 出 版 社：世界思想社 出 版 年：2018年</p>
	<p>テキスト：新版 大学生のためのレポート・論文術(講談社現代新書) 著 者：小笠原 喜康 出 版 社：講談社 出 版 年：2009年</p>
	<p><教育(国語教育)分野 参考文献> テキスト：教育と子どもの社会史 著 者：小針 誠 出 版 社：梓出版社 出 版 年：2007年</p>

講義概要・一般目標

子ども発達教育演習Ⅰは、子どもの保育・教育に関する理論的考察や実践の方法論について学ぶが、各専任教員の専門領域における様々な演習内容によって構成されている。演習内容については、保育の理論と実践方法論、幼児教育の理論と実践方法論、小児体育の理論と実践方法論、幼児の図画工作指導論と実践方法論、幼児音楽指導論と実践方法論、児童家庭福祉論と実践方法論、家族福祉論と実践方法論、障害児福祉論と実践方法論、社会的養護の理論と実践方法論等があり、原則として受講者は任意に特定の演習授業を選択受講して学ぶ。

子ども発達教育演習Ⅱの内容は、子ども発達教育演習Ⅰと同様に、保育の理論と実践方法論、幼児教育の理論と実践方法論、小児体育の理論と実践方法論、幼児の図画工作指導論と実践方法論、幼児音楽指導論と実践方法論、児童家庭福祉論と実践方法論、家族福祉論と実践方法論、障害児福祉論と実践方法論、社会的養護の理論と実践方法論等で構成され、子ども発達教育演習Ⅰにおいて選択受講により学んだ子どもの保育・教育に関する理論的考察や実践方法論について、さらに理解を深め実践力を涵養するために各領域における保育・教育の研究課題や実践課題等を通じて考察を深めるとともに、各種の保育・教育実践モデルや実践例について学ぶ。

なお、子ども発達教育演習Ⅰ、Ⅱの履修方法については、同一教員が担当する演習を履修する必要があるので注意すること。

【各領域の講義概要】

教育の理論と実践方法論

専門分野：教育学・国語科教育学・日本文学

<講義概要>

1. 「子ども発達教育演習Ⅰ」(スクーリング科目)

①文学作品を鑑賞することの意義について理解する。

小学校国語科教育において、先人がはぐくんできた古典などの言語文化に親しむ態度の育成が求められている。文学作品について、それぞれの作者や作品を生み出した歴史的背景、あるいは文化的背景を捉え、文学の発達のあらましやそれぞれの時代における文学の特質を学ぶことは、保育士、幼稚園・小学校教員をめざす上で重要である。また、文学作品を読み、印象に残った作家や作品について調べ発表し、討論を行う。このような活動を通して、作者が描いた人間の生き方を間接的に経験し、自分自身の生き方を豊かなものにするとともに、文学作品を読み、鑑賞することの意義を理解してほしい。

②文学作品・絵本・修身教科書・教育雑誌などから教育と子どもの歴史について理解する。

「教育」とはなにか、「子ども」とはどのような存在か。文学・絵本・修身教科書・教育雑誌などから子どもの世界と多様な子ども観、さらにはその歴史を近世から近代・現代と、時代背景とともに考察する。過去の日本社会のあり方や昔の教育・子どもの実態を学ぶことで、現代の教育問題や子ども問題の反省的な見方や捉え方を習得し、よりよい未来社会を創造するための手がかりとしてほしい。

2. 「子ども発達教育演習Ⅱ」(課題論文)

「子ども発達教育演習Ⅰ」での学びをもとに、各自関心のあるテーマを設定し、原稿用紙10枚～15枚の論文を作成する。

到達目標

本演習は、以下を到達目標とする。

「子ども発達教育演習Ⅰ」

- (1) 日本の文学作品について、それぞれの作者や作品を生み出した歴史的背景、あるいは文化的背景を捉え、文学の発達のあらましやそれぞれの時代における文学の特質を学ぶことを通して、文学作品を読み、鑑賞することの意義を理解する。
- (2) 文学作品・絵本・修身教科書・教育雑誌などから教育と子どもの歴史について理解するとともに、現代の教育問題や子ども問題の反省的な見方や捉え方を習得する。

「子ども発達教育演習Ⅱ」

- (1) 教育(国語教育を含む)に関する問題において、各自が興味・関心のあるテーマを決め、資料の探し方を理解した上で、図書館などを利用して、テーマに関連のある先行研究(本・雑誌論文など)や根拠となる資料(新聞記事・統計資料など)を探することができる。
- (2) 先行研究をふまえた論文・レポートを作成することができる。

評価方法

子ども発達教育演習Ⅰでは、スクーリングでの科目単位認定試験によって評価する。

子ども発達教育演習Ⅱでは、期日までに提出された添削課題の内容による中間評価および課題論文の内容によって総合的に評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリングの際は、終了後の時間に実施する。

担当する授業科目に関連した実務経験

この科目は、大学図書館職員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、図書館の利用方法など、論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。

学修の進め方

・子ども発達教育演習Ⅱ

〔学修のポイント〕

1. テーマを設定する
教育(国語教育を含む)に関する課題は、子どもの学力(読解力などの低下)、読書活動、いじめ問題、不登校、家庭の教育力、地域の教育力、教員をめぐる課題など多岐にわたる。「子ども発達教育演習Ⅰ」での学びをもとに、最も関心のあるテーマを設定する。
2. 図書館やインターネット上のデータベースを利用し、論文作成に必要な資料を探す
資料の探し方を理解した上で、図書館などを利用して、テーマに関連のある先行研究(本・雑誌論文など)や根拠となる資料(新聞記事・統計資料など)を探す。資料の探し方については、「子ども発達教育演習Ⅰ」においても説明する予定である。
3. 論文を作成する
参考テキスト『大学生 学びのハンドブック 4 訂版』など、論文の書き方に関する本を参考にしながら、論文を書きすすめてほしい。論文の書き方については、「子ども発達教育演習Ⅰ」においても説明する予定である。
4. 提出された課題レポートにコメントし、フィードバックする。

学修指導

・子ども発達教育演習Ⅰ

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

- (1) 文学作品や絵本を読み、印象に残った作家や作品について調べ、発表のレジュメとしてまとめ、スクーリング当日に持参する。レジュメには、以下の点について記述する。
 - ①学生番号・氏名
 - ②選んだ作品の作品名・作者名・出版年・出版社名等
 - ③作品の内容
 - ④作品のおもしろさ(選んだ理由)
 - ⑤作者の説明
 - ⑥その他
・作者の他の作品の紹介など
- (2) 「教育」とはなにか、「子ども」とはどのような存在か、など、教育の本質的な問題について、考えてみてほしい。参考テキスト『教育と子どもの社会史』を読んでおくことが望ましい。
- (3) スクーリング最終時限で講義(授業)全体に対する、フィードバックを行なう。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

スクーリングの学修内容を確実なものにするためには、受講後の補完学修・発展学修が必要となる。また、日頃より現代の教育問題や子ども問題に関心を持ち、調べたり、考えを深めたりする姿勢を大切にしてほしい。今後は、「子ども発達教育演習Ⅰ」(スクーリング)において学修した内容をもとに、教育(国語教育を含む)に関する問題から、興味・関心のあるテーマを見つけ、関連のある先行研究(本・雑誌論文など)や根拠となる資料(新聞記事・統計資料など)を探し、「子ども発達教育演習Ⅱ」での論文作成に取り組んでいく。

子ども発達教育演習Ⅰ：スクーリング学修の主なポイントは次の通りである。

1 日 目	講義 1	受講生が事前に作成したレジュメに基づき、印象に残った作家や作品について発表する
	講義 2	文学作品を読み、鑑賞することの意義と国語教育における今日的課題について考察する
	講義 3	日本文学作品を生み出した歴史的背景、あるいは文化的背景を捉え、日本文学の発達のあらましやそれぞれの時代における文学の特質を学ぶ(1)
	講義 4	日本文学作品を生み出した歴史的背景、あるいは文化的背景を捉え、日本文学の発達のあらましやそれぞれの時代における文学の特質を学ぶ(2)

2 日 目	講義5 文学作品・絵本・修身教科書・教育雑誌などから教育と子どもの歴史について考察する(1)
	講義6 文学作品・絵本・修身教科書・教育雑誌などから教育と子どもの歴史について考察する(2)
	講義7 現代の教育問題や子ども問題について考察する
	講義8 「子ども発達教育演習Ⅱ」に向けて 科目単位認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

文学作品や絵本を読み、印象に残った作家や作品について調べ、発表のレジュメとしてまとめ、スクーリング当日に持参する。レジュメには、以下の点について記述する。

- ①学生番号・氏名
- ②選んだ作品の作品名・作者名・出版年・出版社名等
- ③作品の内容
- ④作品のおもしろさ(選んだ理由)
- ⑤作者の説明
- ⑥その他
 - ・作者の他の作品の紹介など

〔準備するもの〕

前課題に示した発表用レジュメを準備し、持参すること。

〔その他〕

子ども発達教育演習Ⅰ／子ども発達教育演習Ⅱ

演習Ⅰ：専門教育科目／1単位／3年前期開講／スクーリング授業

演習Ⅱ：専門教育科目／1単位／3年後期開講／テキスト授業

日 時	1日目 令和3年7月3日(土) 9:30~16:40	該 当 時間割	A
	2日目 令和3年7月4日(日) 9:30~16:40 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年6月25日(金) 必着		
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10号館(岡山県高梁市伊賀町8)		

■ 担当教員	栗田 喜勝
■ 使用テキスト	指定なし(スクーリング時に資料配布)
■ 参考テキスト	テキスト：実例から学ぶ子ども福祉学 著 者：山根正夫他編著 出 版 社：保育出版社 販 売 所：教育情報出版直販のみ (Tel06-6658-8741)
	テキスト：子育て・子育て支援学(2014年増刷版) 著 者：寺見陽子 編著 出 版 社：保育出版社 販 売 所：教育情報出版直販のみ (Tel06-6658-8741)

講義概要・一般目標

子ども発達教育演習Ⅰは、子どもの保育・教育に関する理論的考察や実践の方法論について学ぶが、各専任教員の専門領域における様々な演習内容によって構成されている。演習内容については、保育の理論と実践方法論、幼児教育の理論と実践方法論、小児体育の理論と実践方法論、幼児の図画工作指導論と実践方法論、幼児音楽指導論と実践方法論、児童家庭福祉論と実践方法論、家族福祉論と実践方法論、障害児福祉論と実践方法論、社会的養護の理論と実践方法論等があり、原則として受講者は任意に特定の演習授業を選択受講して学ぶ。

子ども発達教育演習Ⅱの内容は、子ども発達教育演習Ⅰと同様に、保育の理論と実践方法論、幼児教育の理論と実践方法論、小児体育の理論と実践方法論、幼児の図画工作指導論と実践方法論、幼児音楽指導論と実践方法論、児童家庭福祉論と実践方法論、家族福祉論と実践方法論、障害児福祉論と実践方法論、社会的養護の理論と実践方法論等で構成され、子ども発達教育演習Ⅰにおいて選択受講により学んだ子どもの保育・教育に関する理論的考察や実践方法論について、さらに理解を深め実践力を涵養するために各領域における保育・教育の研究課題や実践課題等を通じて考察を深めるとともに、各種の保育・教育実践モデルや実践例について学ぶ。

なお、子ども発達教育演習Ⅰ、Ⅱの履修方法については、同一教員が担当する演習を履修する必要があるので注意すること。

【各領域の講義概要】

社会的養護の理論と実践方法論
分野：社会的養護・社会心理学

<講義概要>

子ども発達教育演習Ⅰでは、各種児童福祉施設における子ども達の日常生活の理解と施設児童の心身の成長発達援助をテーマとして、児童ケアワーカーに必要な児童養護の専門知識、技能、倫理等について演習を通じて学ぶ。

子ども発達教育演習Ⅱでは、演習Ⅰで学んだ専門知識、技能、倫理等を基に、より具体的な援助の方法と課題について学ぶ。具体的には、各種児童福祉施設の生活内容や各種専門職の役割について学び、アドミッションケア、インケア、リービングケア、アフターケアの各段階における養護内容に実態について事例を通じて学ぶ。

到達目標

「子ども発達教育演習Ⅰ」については、演習テーマに沿って学修することにより、児童ケアワーカーの役割と求められる資質等に関する理解や、今日の社会的養護の現状や問題点等について把握することができる。

「子ども発達教育演習Ⅱ」の到達目標については、演習Ⅰで学んだ学修内容に基づき、社会的養護に関する課題の分析と考察を行い、論文としてまとめることができる。

評価方法

子ども発達教育演習Ⅰでは、スクーリングでの科目単位認定試験によって評価する。

子ども発達教育演習Ⅱでは、期日までに提出された添削課題の内容による中間評価および課題論文の内容によって総合的に評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリングの際は、終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

障がい児施設・児童養護施設の主任児童指導員・副園長として子どもの発達支援の実践に従事した。

学修の進め方

・子ども発達教育演習Ⅱ

〔テキストの概要と学修のポイント〕

「子ども発達教育演習Ⅱ」については、指定テキストを用いて、児童福祉や児童養護の理念や体系の理解、事例考察による児童福祉や児童養護の実践的理解を行う。テキスト学修の主なポイントについては次の通りである。

また、フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを記載し返却します。

第1章 子ども福祉の基本的な考え方

ここでは、子ども福祉の基礎知識を身につけるために、わが国における子ども福祉の成り立ちと今日的意味について理解するとともに、諸外国の動向についても学ぶ。また、現代社会における子どもを中心とする福祉の枠組みについても理解する。具体的には、(1) 福祉概念の誕生と展開、(2) 新しい福祉の枠組み、ソーシャルインクルージョンの成立、(3) わが国の福祉の今日的意味、(4) 子どもの福祉、子ども観と子ども、子どもの福祉とあゆみ、(5) 英米の子どもの福祉、(6) 諸外国の子どもの問題、(7) 子どものウェルビーイングの現状と課題、(8) 子どもの保護から福祉へのパラダイムシフト、(9) 現代社会における子どもの様相、子ども中心の福祉等について学ぶ。

第2章 子どもと家庭の福祉

現代の子どもを取り巻く養育環境について概観し、少子高齢社会における子どもと家庭の問題、いわゆる「子どもの貧困」について学ぶ。さらに、子どもと家庭の支援を担う各種の公的・社会的サービス、援助の専門家の役割等についても学ぶ。内容としては、(1) 少子高齢社会の理解、(2) 現代の子どもと家庭の問題、(3) 子どもの貧困の諸相、(4) 子どもと家庭の支援にかかわる法体系、(5) 行政サービス、(6) 各種の児童福祉施設、(7) 子ども福祉の専門家、(8) 専門職に求められる資質と能力、(9) 専門家の養成等について理解を深める。

第3章 子どもと家庭の福祉に関する制度と政策

子どもと家庭の福祉に関わる各種の支援制度や福祉行政の機能について学ぶが、具体的に取り組む課題については次のとおりである。母子保健の現状と課題、障がいやリスクのある子どもの福祉の現状と課題、子どもの健全育成に関わる現状と課題、保育の現状と課題、子育て支援の現状と課題、ひとり親家庭の福祉の現状と課題、子ども非行に関わる現状と課題、子ども虐待の現状と課題、子どもの社会的養護に関わる現状と課題等について学ぶ。

第4章 乳児期までの子どもの福祉

本章から第7章にかけて、子どもの成長発達の各段階における子どもの発達支援、福祉について考察するが、ここでは胎児期の子どもの福祉、乳児期の子どもの福祉、リスクのある乳児と家庭支援等について学ぶ。具体的な内容としては、(1)胎児の理解、(2)胎児と医療、(3)妊婦健診の必要性と保健指導、(4)乳児の理解、(5)乳児の保健と保育、(6)乳幼児健康診査、(7)リスクのある乳児の理解、(8)リスクのある乳児の医療、(9)リスクのある乳児の家庭支援等について学ぶ。

第5章 幼児期の子どもの福祉

この章では、保育所や幼稚園に通うこどもたちの現状と課題、虐待や病気、障がいなどの様々な困難を抱える子どもへの支援の現状と課題、小学校との連携の現状と課題等について学ぶ。内容としては、(1)保育所・幼稚園の現状の理解、(2)保育所・幼稚園において提供されるサービス、(3)保育所・幼稚園のカリキュラムの特徴、(4)保育所・幼稚園が抱える課題、(5)子どものマルチリポートメントの理解、(6)障がいのリスクのある子どもの理解と支援、(7)病気の子どもの理解と支援、(8)子どもの個別支援計画、(9)小学校とのスムーズな連携の構築等について学ぶ。

第6章 少年期の子どもの福祉

児童期の子どもの福祉の現状と課題、児童期の子どもが抱える諸問題、児童期の子どもを育てる家庭のケア等について学ぶ。具体的内容としては、(1)小・中・高等学校の現状の理解、(2)放課後児童健全育成の現状と課題、(3)発達障害の理解、(4)次世代育成支援の枠組みと実際、(5)不登校の現状と支援の理解、(6)いじめの現状と対応策、(7)非行問題の理解、(8)社会的養護の現状と課題、(9)子どもの貧困の理解等について理解を深める。

第7章 青年期以降の福祉

ここでは、青年期(中・高校生)における福祉の現状と課題、青年期以降の福祉について、社会的自立と支援の観点から現状と課題について学ぶ。具体的には、(1)わが国の青年期の福祉の現状、(2)青年期の居場所の理解、(3)青年期のひきこもり問題の理解と支援、(4)青年期の発達障害の理解と支援、(5)自立支援と就労支援、(6)青年の社会参加等について学ぶ。

学修指導

・子ども発達教育演習Ⅰ

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

「子ども発達教育演習Ⅰ」については、スクーリングを受講するまでに、子育て支援や社会的養護に関する参考書に十分目を通してほしい。また、スクーリングでは実践的な養護や子育て支援について学ぶために、各種の資料を配付するとともに、視聴覚教材を使用し、受講者同士のディスカッションや個別発表を行うので、日頃から子育て支援や社会的養護問題に関わる新聞記事やTVニュース等を見聞してほしい。なお、スクーリング最終時限で講義(授業)全体に対する、フィードバックを行いません。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

スクーリングの学修成果をより確かなものにするためには、受講後の補完学修・発展学修が必要となる。したがって、スクーリング時に配布する資料や紹介文献・図書等にもよく目を通すなど、主体的な学修が大切である。また、そのような事後学修は、秋学期に受講する「子ども発達教育演習Ⅱ」に向けた導入・準備学修としても重要であるので、積極的に取り組んでほしい。

子ども発達教育演習Ⅰ：スクーリング学修の主なポイントは次の通りである。

1 日 目	講義1 家庭の機能と家庭養護について
	講義2 社会的養護の意義について
	講義3 施設養護の意義について
	講義4 施設養護の展開：児童の発達段階とのかかわり
2 日 目	講義5 施設養護の展開：援助者の養育態度とのかかわり
	講義6 施設養護の展開：被虐待時への援助について
	講義7 里親養護の実際と課題
	講義8 科目単位認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

昨今の児童養護の問題状況（児童虐待等）について、新聞記事等により下調べしておいてください。

〔準備するもの〕

特にありません（資料等は用意します）。

〔その他〕

本演習は、配布資料、DVD等を用いてディスカッション方式で行います。積極的な参加を望みます。

子ども発達教育演習Ⅰ／子ども発達教育演習Ⅱ

演習Ⅰ：専門教育科目／1単位／3年前期開講／スクーリング授業

演習Ⅱ：専門教育科目／1単位／3年後期開講／テキスト授業

日 時	1日目 令和3年7月3日(土) 9:30～16:40 2日目 令和3年7月4日(日) 9:30～16:40 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年6月25日(金) 必着	該 当 時 間 割	A
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス短大12号館 (岡山県高梁市伊賀町8)		

■ 担当教員	佐藤 尚宏
■ 使用テキスト	テキスト：最新版 大学生のためのレポート・論文術 著 者：小笠原 喜康 出 版 社：講談社現代新書 出 版 年：2018年 I S B N：978-4-06-513502-0
■ 参考テキスト	※各自が課題論文に取り上げるテーマによって関連する参考文献を使用する。

講義概要・一般目標

【全領域に共通の講義概要と一般目標】

子ども発達教育演習Ⅰ、Ⅱ共に、内容は各専任教員の専門領域における様々な演習内容によって構成されている。

具体的には、保育の理論と実践方法論、幼児教育の理論と実践方法論、小児体育の理論と実践方法論、幼児の図画工作指導論と実践方法論、幼児音楽指導論と実践方法論、児童家庭福祉論と実践方法論、家族福祉論と実践方法論、障害児福祉論と実践方法論、社会的養護の理論と実践方法論等があり、原則として受講者は任意に特定の演習授業を選択受講して学ぶ。

なお、子ども発達教育演習Ⅰ、Ⅱの履修方法については、同一教員が担当する演習を履修する必要があるので注意すること。

子ども発達教育演習Ⅰでは子どもの保育・教育に関する理論的考察や実践の方法論についてグループ討議、ロールプレイング等を活用して、専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等の習得・形成状況を自己確認する。

子ども発達教育演習Ⅱでは演習Ⅰの学習内容を踏まえてさらに理解を深め実践力を涵養するために、各領域における保育・教育の研究課題や実践課題等を通じて考察を深めるとともに、各種の保育・教育実践モデルや実践例について学ぶ。自身の習得した知識や技術等と保育・教育に関する現代的課題等から、目指す保育士像や教員像、今後に向けた取り組み課題を考察し、課題解決に向けた具体的手段や方法等を明確化し、レポート(論文)として取り纏めができるよう指導する。

【各領域の講義概要と一般目標】

専門領域のテーマ「子どもの発達と造形表現活動ーその理論と実践」 担当：佐藤 尚宏

内容は次の3つを参考に各自決定し専門的に学修します。

- 1) 授業計画づくりと実践報告レポートの作成
- 2) オリジナルの題材・教材の製作と報告レポートの作成
- 3) テーマ設定による文献調査報告レポート

<講義概要>

演習Ⅰ・Ⅱを通して子どもの発達と造形表現活動の領域の中から、自分の興味・関心により研究テーマを探り、考えを整理し、仮説を立て、授業実践やレポート作成、教材製作などの研究を行います。

到達目標

演習Ⅰでは、

- 1) 自分の興味・関心や問題意識から研究テーマを探り、考えを整理し、仮説を立てたり製作案を作成することができる
- 2) 研究手法の種類（文献調査型、実践報告型、教材製作型）がわかり、方針を決めることができる。
- 3) 研究レポートの基本的な書き方や進め方がわかり、演習Ⅱの実施計画をつくる事ができる。

演習Ⅱでは、

- ・研究テーマに沿って、文献調査、授業実践、教材製作などを実践し、課題論文を作成できる。
- 演習Ⅰ・Ⅱを通し子どもの発達と造形表現活動について、より深い理解と実践力を目指す。

評価方法

演習Ⅰでは、事前課題の内容30%、授業での課題の内容60%、取組姿勢10%によって評価する。
演習Ⅱでは、期日までに提出された添削課題の内容による中間評価、および課題論文の内容によって総合的に評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリングの際は、終了後の時間に実施します。
メールにて随時対応します。sato-t@kiui.ac.jp

学修の進め方

子ども発達教育演習Ⅰ

4月	履修が確定したらまず使用テキストを1回以上通読し、研究の進め方の概要を理解すること。
5月	まず自分の研究テーマの方向性を探ります。 これまで学んだテキスト「保育をひろく造形表現」や造形表現に関するスクーリング内容などから、自分が特に興味・関心がある論点を見つけ出しタイトルにし、興味・関心の理由を200字程度のレポートにまとめます。 レポートは論点事に3つ以上とし、スクーリングにて発表提出してもらいます。 ※研究方法は文献調査型、実践報告型、教材製作型などがあります。
6月	つぎに参考文献の予備調査をします。 5月にまとめたレポートの論点に関連する論文や書籍を、テキスト p63~104 を参照しながら調査・収集すること。 ※ひとつの論点につき3点以上を見つけ、スクーリングに持参すること。 ※見つけられない場合は連絡してください。sato-t@kiui.ac.jp
6月末	スクーリングにおいて発表・相互に意見交換し、学修を進め研究の方向性を決定。

子ども発達教育演習Ⅱ

演習Ⅰで立案したスケジュールに沿って研究を進めること。

【添削課題提出（中間評価）までの流れの概要】

	文献調査型	実践報告型	教材製作型
	資料の収集と研究テーマの確定	教材研究と指導案の作成	材料調達と製作のプランづくり
	研究テーマの確定と論旨の組み立て	授業の実践と記録	製作と記録
	課題論文のアウトライン（目次と概要）を作成する。 アウトラインに沿って初稿を一通り書き通す。		
中間評価	添削課題として提出		

【課題論文提出までの流れの概要】

- 初稿の添削内容をふまえて修正し、修正稿の作成・提出。
- 修正稿の添削内容をふまえて修正し、最終稿の提出と採点。
- ※修正稿は何度提出してもかまいません。

★図画工作・造形表現活動の科目の全体像と各科目間の関係★

基礎技能（図画工作）S

主に幼児期から小学校低学年を想定。全ての科目の基盤となる内容。

保育者・教員として必要な子どもの造形表現活動への理解・共感する心や姿勢など、最も基本的な本質と子どもにとっての意味・意義を体感的に学修する。

基礎技能Ⅱ（図画工作）S

主に幼児期から小学校全般を想定。模擬保育・模擬授業に関係する内容。

理解・共感する心や姿勢を基にし、保育者・教員としてどのように授業づくりをすればいいのかについて、教材研究の要点や、表現の基本技能について学修する。

子どもの図画工作Ⅰ

テキストは幼児教育だが、小学校全般に通用する。全ての科目の基盤となる内容。

造形表現活動の意義、表現を育む姿勢、造形を楽しむ題材、子どもの発達段階などについて、理論的側面や様々な事例から学修する。

保育指導法（表現）Ⅰ

テキストは幼児教育だが、小学校全般に通用する。模擬保育・模擬授業の基盤となる内容。

実際の指導を考えるにあたっての役割や指導形態、援助について学修する。これらの内容は小学校においても図画工作科に関しては基盤となる内容であるにもかかわらず、小学校向けの学修では見落とされがち重要な内容を取り扱っている。

保育内容指導（表現）／保育内容（表現）S、2日目

幼児期～小学校低学年を想定。グループ製作による授業づくりの演習。

子ども参加の空間デザインをテーマに壁面づくりの模擬保育（模擬授業）を行う。

初等教科教育法（図画工作）

学習指導要領と実際の授業づくりの要点について学修する。

また授業づくりでは基礎技能Ⅱ（図画工作）での教材研究の学修をベースに、各自に実際に取り組んでもらい授業のアイデアについて考察する。

子ども発達教育演習Ⅰ・Ⅱ

それまでの学修を総合し、造形表現活動をどのように実践するのかについて、自らの興味・関心からテーマをしばり、「文献調査」「実践報告」「教材製作」の3種類の研究方法で研究を進める予定。

学修指導

子ども発達教育演習Ⅰ

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

これまでのテキスト科目やスクーリングとは違い、文献調査や考察、計画や実践、製作など時間がかかる事が多く、1年間を通して進めていく長丁場の学修のため早め早めに動く必要があります。まずは学修の進め方に描いてある内容を、自分のスケジュールに書き入れて年間の流れを掴んでください。

次に、自分から積極的に学修に取り組まないと学修が進まないのに注意が必要です。特にスクーリング前の4月～6月の事前学修が大変重要です。事前課題が出来ていないとスクーリングでの学修が進められません。また評価割合は30%と非常に高いので、必ず取り組んだ上でスクーリングを迎えてください。

わからないことは気軽にWEB学習支援システムかメール sato-t@kiui.ac.jp にて問い合わせてください。

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

1) 最寄りの図書館（市町村立および県立などできれば大きな図書館）の利用者登録を行い、WEB上で図書の検索と予約ができるように準備しておく事が望ましい。

2) スクーリングには課題論文に使うパソコンを持参する事が望ましい。

（執筆環境の確認とソフトの設定、助言のため）

子ども発達教育演習Ⅰ：スクーリング学修の主なポイントは次の通りである。

	文献調査型	実践報告型	教材製作型
1	レポート・論文とは－タイプと研究の方法、進め方について		
2	研究テーマの方向性を探る－興味・関心の整理と考える技術		
3	仮説を立てよう－研究テーマを仮決めする		
4	研究テーマを掘り下げる－文献・資料の集め方		
5	文献調査	教材研究	アイデアスケッチ
6	文献調査	教材研究	製作プランづくり
7	アウトライン検討	指導のアイデア検討	試作・技法と素材検討
8	研究計画・スケジュールを立てる		

子ども発達教育演習Ⅱ

課題論文（研究レポート）の作成は、二人三脚で進めていくイメージで捉えてください。

1人で完成したレポートを書いてから提出するのではなく「書こうとしたけれどできていない」状態で提出してもらえると、どこで困っているのか？躓いているのか？がわかり具体的な指導ができるようになります。

提出物には添削コメントを記入の上返却し、内容についての相談・指導は個別にフィードバックを行います。

【レポートの様式】

A4縦の用紙に横書きとし10～15枚（4000～6000文字）程度をワードなどで作成すること。

レポートは表紙を付け学生番号、氏名、所属、授業科目名（担当教員名）を記入すること。

原稿は、添削課題の提出期日までに、郵送もしくは電子メール等により提出すること。

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

- 1) テキストの通読、
- 2) レポート3つ、
- 3) 文献9点以上

※詳細は学修の進め方 子ども発達教育演習Ⅰ参照

※迷った時は問い合わせして下さい。sato-t@kiui.ac.jp

〔準備するもの〕

- 1) 筆記用具、ノートもしくはレポート用紙
- 2) 課題論文作成に使用するコンピューターかタブレットがあれば望ましい。

〔その他〕

*湯沸かしポット、電子レンジ使用可能です。

子ども発達教育演習Ⅰ／子ども発達教育演習Ⅱ

演習Ⅰ：専門教育科目／1単位／3年前期開講／スクーリング授業

演習Ⅱ：専門教育科目／1単位／3年後期開講／テキスト授業

日 時	1日目 令和3年7月3日(土) 9:30~16:40 2日目 令和3年7月4日(日) 9:30~16:40	該 当 時 間 割	A
	[スクーリング受講中止届の提出について] 令和3年6月25日(金) 必着		
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10号館(岡山県高梁市伊賀町8)		

■ 担当教員	鳥居 恭治
■ 使用テキスト	テキスト：小学校学習指導要領(平成29年度告示)解説 生活編 著 者：文部科学省 出 版 社：東洋館出版社 出 版 年：2018年2月
	テキスト：小学校教科書 あたらしいせいかつ 上・下 出 版 社：東京書籍株式会社 出 版 年：上 2020年4月 下 2015年 I S B N：上 978-4-487-10561-8 I S B N：下 978-4-487-10461-2
■ 参考テキスト	テキスト：生活科で子どもは何を学ぶか 著 者：須本良夫 出 版 社：東洋館出版社 出 版 年：平成30年3月 I S B N：978-4-491-03503-1

講義概要・一般目標

子ども発達教育演習Ⅰは、子どもの保育・教育に関する理論的考察や実践の方法論について学ぶが、各専任教員の専門領域における様々な演習内容によって構成されている。演習内容については、保育の理論と実践方法論、幼児教育の理論と実践方法論、小児体育の理論と実践方法論、幼児の図画工作指導論と実践方法論、幼児音楽指導論と実践方法論、児童家庭福祉論と実践方法論、家族福祉論と実践方法論、障害児福祉論と実践方法論、社会的養護の理論と実践方法論等があり、原則として受講者は任意に特定の演習授業を選択受講して学ぶ。

子ども発達教育演習Ⅱの内容は、子ども発達教育演習Ⅰと同様に、保育の理論と実践方法論、幼児教育の理論と実践方法論、小児体育の理論と実践方法論、幼児の図画工作指導論と実践方法論、幼児音楽指導論と実践方法論、児童家庭福祉論と実践方法論、家族福祉論と実践方法論、障害児福祉論と実践方法論、社会的養護の理論と実践方法論等で構成され、子ども発達教育演習Ⅰにおいて選択受講により学んだ子どもの保育・教育に関する理論的考察や実践方法論について、さらに理解を深め、実践力を涵養するために、各領域における保育・教育の研究課題や実践課題等を通じて理論や見解を確認するとともに、各種の保育・教育実践モデルや実践例について学ぶ。

なお、子ども発達教育演習Ⅰ、Ⅱの履修方法については、同一教員が担当する演習を履修する必要があるので注意すること。

【各領域の講義概要】

生活科の授業作り

<講義概要>

「子ども発達教育演習Ⅰ」では、小学校低学年の児童の実際、生活科の目標、内容構成、スタート・カリキュラム、年間指導計画、単元の指導計画作り、学習指導案作り、模擬授業などについて学ぶ。

「子ども発達教育演習Ⅱ」では、スクーリング学修を通して学んだことや、テキストを熟読し、教科書の中から自分のしたい単元を選び、単元構想と本時案を作成する。その時、自分なりに考えたこと(工夫点)を、レポートとして提出する。

到達目標

本演習は、以下を到達目標とする。

- 1 生活科の目標や内容を理解する。
- 2 具体的な活動や体験を通して学ぶことの意味を理解する。
- 3 自立の基礎を培うことの意義を理解する。
- 4 児童が願いをもって活動し、気付きの質を高めるための教師のかかわり方や児童が願いを高めることを支援する教師の関わりを理解する。

評価方法

子ども発達教育演習Ⅰでは、スクーリングでの科目単位認定試験によって評価する。
子ども発達教育演習Ⅱでは、期日までに提出された添削課題の内容による中間評価および課題論文の内容によって総合的に評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システム及びスクーリング時の演習終了後に実施する。

担当する授業科目に関連した実務経験

小学校での生活科指導(1, 2年の担任)経験8年。生活科の具体的な内容や模擬授業を行うことに活かす。

学修の進め方

・子ども発達教育演習Ⅱ

「子ども発達教育演習Ⅰ」での学んだことやテキストを使用しながら、単元を定め、教科書の中から自分のしたい単元を選び(スクーリングで作成した単元以外で)、単元構想と本時案を作成する。その際、自分なりに考えたこと(工夫点)を明らかにして、どのような工夫をしたかをレポートにまとめる。単元構想・本時案・レポートの3点を提出する。

なお、フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

〔使用テキストの概要と学修のポイント〕

第1章 総説

この章では、生活科新設の経緯や第2回目の改訂までの経緯、今回の改訂の趣旨や要点について学ぶ。

戦後、初めて小学校教育に新設された教科としての生活科、その背景やねらいについて学び、理解する。

第2章 生活科の目標と特質

この章では、生活科の教科目標と学年目標、直接体験を重視した学習活動の意義、合科的・関連的な指導の意義と方法について学ぶ。

第3章 生活科の内容

この章では、生活科の9項目の内容構成の3つの階層と「思考力、判断力、表現力等の基礎」「知識及び技能の基礎」「学びに向かう力、人間性」との関連について学ぶ。

第4章 年間指導計画の作成と内容の取扱い

この章では、児童の発達段階や特性を踏まえ、2年間を見通した年間指導計画の作成、他教科との合科的・関連的な指導や中学年以降の教育への接続、スタート・カリキュラムの作成について学ぶ。

第5章 指導計画の作成と学習指導

この章では、単元構成の基本的な考え方や単元構想のポイント、具体的な活動の分類、学習環境の構成、そして、指導案の作成について学ぶ。

学修指導

・子ども発達教育演習Ⅰ

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

小学校学習指導要領(平成 29 年度告示)解説 生活編を熟読し、9つの内容についての整理をしておく
と講義が具体的になり、理解しやすい。また、上・下の教科書についてもどのような活動をするのかを
見ておくとよい。

なお、スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対する、フィードバックを行ないます。

〔スクーリング後の事後学修事項〕

テキストを使用しながら、単元を定め、教科書の中から自分のしたい単元を選び、単元構想と本時
案を作成する。その際、自分なりに考えたこと（工夫点）を明らかにすること。

子ども発達教育演習Ⅰ：スクーリング学修の主なポイントは次の通りである。

1 日 目	1 生活科の新設までの経緯と改訂
	2 生活科の目標と内容
	3 低学年の児童とは
	4 直接体験を重視した学習活動とは
2 日 目	5 年間計画の作成について
	6 願いを高める、気付きを高めるとは
	7 指導案の作成
	8 作成した教案での模擬授業及び科目単位認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

小学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説・生活編を読み、教科目標と9つの内容にについて整理
しておく、講義が分かりやすくなる。また、教科書を一読して、どのような授業をしているのかを見
ておくと良い。

〔準備するもの〕

小学校教科書、あたらしいせいかつ 上（2020年）・下（2015年）（東京書籍発行のもの）
小学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説 生活編

〔その他〕

特になし。

子ども発達教育演習Ⅰ／子ども発達教育演習Ⅱ

演習Ⅰ：専門教育科目／1単位／3年前期開講／スクーリング授業

演習Ⅱ：専門教育科目／1単位／3年後期開講／テキスト授業

日 時	1日目 令和3年7月3日(土) 9:30~16:40	該 当 時間割	A
	2日目 令和3年7月4日(日) 9:30~16:40 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年6月25日(金) 必着		
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10号館(岡山県高梁市伊賀町8)		

■ 担当教員	中野 明子
■ 使用テキスト	受講生が選ぶ論文のテーマによって、関連する文献が多様であるため、特にテキストを指定しない。
■ 参考テキスト	<p><論文作成にあたって></p> <ul style="list-style-type: none"> ・戸田山 和久『新版 論文の教室』NHK出版 2016年 ・石井 一成『大学生のためのレポート・論文の書き方』ナツメ社 2014年など。 <p><論文テーマ設定にあたって></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「月刊福祉」全国社会福祉協議会 ・「福祉新聞」福祉新聞社 ・「クリップ・ライブラリー 月刊社会福祉」株式会社 NCL など。 <p><障害児・者分野 参考文献></p> <ul style="list-style-type: none"> ・『障害者への支援と障害者自立支援制度』(株)みらい 2013年 (障害児・者福祉の体系を理解するためのテキスト) ・佐藤 暁・小西淳子『発達障害のある子の保育の手だて』岩崎学術出版社 2007年 など。

講義概要・一般目標

子ども発達教育演習Ⅰは、子どもの保育・教育に関する理論的考察や実践の方法論について学ぶが、各専任教員の専門領域における様々な演習内容によって構成されている。演習内容については、保育の理論と実践方法論、幼児教育の理論と実践方法論、小児体育の理論と実践方法論、幼児の図画工作指導論と実践方法論、幼児音楽指導論と実践方法論、児童家庭福祉論と実践方法論、家族福祉論と実践方法論、障害児福祉論と実践方法論、社会的養護の理論と実践方法論等があり、原則として受講者は任意に特定の演習授業を選択受講して学ぶ。

子ども発達教育演習Ⅱの内容は、子ども発達教育演習Ⅰと同様に、保育の理論と実践方法論、幼児教育の理論と実践方法論、小児体育の理論と実践方法論、幼児の図画工作指導論と実践方法論、幼児音楽指導論と実践方法論、児童家庭福祉論と実践方法論、家族福祉論と実践方法論、障害児福祉論と実践方法論、社会的養護の理論と実践方法論等で構成され、子ども発達教育演習Ⅰにおいて選択受講により学んだ子どもの保育・教育に関する理論的考察や実践方法論について、さらに理解を深め実践力を涵養するために各領域における保育・教育の研究課題や実践課題等を通じて考察を深めるとともに、各種の保育・教育実践モデルや実践例について学ぶ。

なお、子ども発達教育演習Ⅰ、Ⅱの履修方法については、同一教員が担当する演習を履修する必要があるので注意すること。

【各領域の講義概要】

障害児福祉論と実践方法論

専門分野：障害児・者福祉実践における人物・思想研究

<講義概要>

1. 「子ども発達教育演習Ⅰ」(スクーリング科目) について

障害理解の土台となるノーマライゼーションの思想や障害の概念について学び、さまざまな障害の特

徴や関わりにおいて配慮すべきことについても考察する。また、障害児・者を取り巻く社会的な問題についてもふれる。グループワークや疑似体験などを交えておこないたい。

2. 「子ども発達教育演習Ⅱ」(課題論文)について

「子ども発達教育演習Ⅰ」でふれた障害児・者問題の中から最も関心のあるテーマを設定し、原稿用紙10枚から15枚の論文を作成することで掘り下げていく。

到達目標

「子ども発達教育演習Ⅰ」では、ノーマライゼーションの思想や障害の概念について学び、様々な障害や障害児・者問題について理解する。「子ども発達教育演習Ⅱ」においては、「子ども発達教育演習Ⅰ」でふれた障害児・者の問題から、学生が最も関心のあるテーマを取り上げ、関連の先行研究や参考文献をもとに論文を仕上げることが到達目標とする。

評価方法

子ども発達教育演習Ⅰでは、スクーリングでの科目単位認定試験によって評価する。

子ども発達教育演習Ⅱでは、期日までに提出された添削課題の内容による中間評価および課題論文の内容によって総合的に評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリングの際は、終了後の時間を実施します。

学修の進め方

・子ども発達教育演習Ⅱ

〔学修のポイント〕論文執筆にあたって留意すること。

1. テーマの設定について

障害児・者をめぐる問題は、人権、差別、障害理解、特別支援教育、療育、就労、リハビリテーション、援助方法、制度・政策など様々な領域にわたって存在している。「子ども発達教育演習Ⅰ」での学びをもとに、障害のある当事者や家族の話や、新聞記事、講演会や関連雑誌、書物にふれることで最も関心のあるテーマを設定しよう。

2. 論文の書き方に関する本を1冊用意しよう。

論文形式での提出のため、各自、論文作成の基本について身につけてほしい。「子ども発達教育演習Ⅰ」でも説明するが、できれば論文の書き方に関する本を手元に置かれることをお勧めする。

3. 論文仕上げのポイント

(1) テーマを取り上げた理由や目的、自己の「主張」と「根拠」が示されているか。

論文は感想文ではない。自分で調べて分かったことを根拠として自分の意見を主張しなければならない。そのために統計や先行研究にあたって、その根拠を示す必要がある。

(2) 引用はルールに従って示す。

短い文章は「」でくくり、長い文章は、前後を1行ずつ空け、引用文全体を2字下げて自分の文章と明確に区別する。引用の個所に1) 2) 3) などの通し番号をつけて、論文の最後に<注>を設けて1) 著者名、書名、発行所、発行年、ページ数の順に明記する。(他の方法でも構わない)

(4) 決まった形式を守る。

「ですます調」ではなく、「である調」で書く。課題の指定(分量、書式、表紙など)は守ったか。内容に適したタイトルをつけているか。

(5) 参考文献について

執筆にあたって参考にした文献すべてを最後にのせる。書き方に注意する。本の場合、著者名、書名、発行所、発行年の順に書く。雑誌やインターネットなどの書き方のルールも守る。

(6) 提出のマナーは守られているか。

①論文を書くためには、ある程度の時間と計画が必要。テーマの設定、章立て、草稿、清書の過程で担当教員とやり取りをしながら進めていくことが大切である。(WEB学修支援システムの活用)。

②論文の提出期限(添削課題と単位認定試験に代わる締め切り)、提出方法は守られているか。

③氏名、学籍番号、所属、授業科目名などは書かれているか。

④誤字・脱字はないか。

⑤バックアップをとっているか。

※(1)～(6)は、世界思想社編集部編(2015)『大学生のための学ぶのハンドブック』世界思想社の「レポート仕上げ学びのチェックポイント」をもとに作成した。

(7) フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返す。

学修指導

・子ども発達教育演習Ⅰ

[スクーリングまでの事前学修事項]

障害理解について情報を集め、自らの障害観についてレポートを書いて、スクーリング当日に持参してもらいたい。その発表をもとに討議したい。スクーリングでは以下の内容について学んでいきたい。

(1) 障害児・者福祉の土台となるノーマライゼーションの思想や障害の概念について学ぶ。

(2) 視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、発達障害など様々な障害の特徴について学び、障害のある人との関わりにおいて配慮すべきことについて理解する。

(3) 障害児・者を取り巻く問題について、障害のある子どもが登場する絵本、新聞記事やビデオなどを通して学ぶ。

(4) スクーリング最終時限で講義(授業)全体に対する、フィードバックを行なう。

[スクーリング終了後の学修事項]

子ども発達教育演習Ⅰにおける学びから、関心のある事項について調べて理解を深めてほしい。次の子ども発達教育演習Ⅱのレポート作成に向けて計画を立てること。

子ども発達教育演習Ⅰ：スクーリング学修の主なポイントは次の通りである。

1 日 目	講義1	受講生が事前にまとめたレポートにもとづき、自らの障害観について発表し、議論する。
	講義2	WHOの障害の概念、ノーマライゼーションの理念、リハビリテーションの理念、障害の受容(体験としての障害)について学ぶ。
	講義3	障害児・者福祉の歴史について学ぶ。古事記にみられるヒルコ神話など、日本における障害観の変遷も含めて概観する。
	講義4	障害者の権利条約について学ぶ。策定過程における当事者参加の様子、日本の署名から批准に至るまでの法整備などについてふれる。
2 日 目	講義5	知的障害・視覚障害・聴覚障害・肢体不自由などの障害理解とその対応について学ぶ。
	講義6	障害児・者疑似体験(車いす体験、アイマスク)。
	講義7	発達障害(自閉症、ADHD、LD、アスペルガー等)の理解と支援について。
	講義8	まとめ 課題論文作成に向けて。 科目単位認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

[事前課題]

「障害についてのあなたの考えを原稿用紙2枚くらいにまとめてご持参下さい。」

※名前を忘れずに。

[準備するもの]

筆記用具。

[その他]

特になし。

子ども発達教育演習Ⅰ／子ども発達教育演習Ⅱ

演習Ⅰ：専門教育科目／1単位／3年前期開講／スクーリング授業

演習Ⅱ：専門教育科目／1単位／3年後期開講／テキスト授業

日 時	1日目 令和3年7月3日(土) 9:30~16:40 2日目 令和3年7月4日(日) 9:30~16:40 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年6月25日(金) 必着	該 当 時 間 割	A
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10号館 (岡山県高梁市伊賀町 8)		

■ 担当教員	西田 啓子
■ 使用テキスト	テキスト：論文・レポートの基本 著 者：石黒 圭 出 版 社：日本実業出版社 I S B N：978-4-534-04927-8
■ 参考テキスト	小児保健[新版]：高野 陽・加藤則子・加藤忠明・松橋有子 編著 出版社：北大路書房

講義概要・一般目標

子ども発達教育演習Ⅰは、子どもの保育・教育に関する理論的考察や実践の方法論について学ぶが、各専任教員の専門領域における様々な演習内容によって構成されている。演習内容については、保育の理論と実践方法論、幼児教育の理論と実践方法論、小児体育の理論と実践方法論、幼児の図画工作指導論と実践方法論、幼児音楽指導論と実践方法論、児童家庭福祉論と実践方法論、家族福祉論と実践方法論、障害児福祉論と実践方法論、社会的養護の理論と実践方法論等があり、原則として受講者は任意に特定の演習授業を選択受講して学ぶ。

子ども発達教育演習Ⅱの内容は、子ども発達教育演習Ⅰと同様に、保育の理論と実践方法論、幼児教育の理論と実践方法論、小児体育の理論と実践方法論、幼児の図画工作指導論と実践方法論、幼児音楽指導論と実践方法論、児童家庭福祉論と実践方法論、家族福祉論と実践方法論、障害児福祉論と実践方法論、社会的養護の理論と実践方法論等で構成され、子ども発達教育演習Ⅰにおいて選択受講により学んだ子どもの保育・教育に関する理論的考察や実践方法論について、さらに理解を深め実践力を涵養するために各領域における保育・教育の研究課題や実践課題等を通じて考察を深めるとともに、各種の保育・教育実践モデルや実践例について学ぶ。

なお、子ども発達教育演習Ⅰ、Ⅱの履修方法については、同一教員が担当する演習を履修する必要があるので注意すること。

【各領域の講義概要】

子どもの保健

専門分野：小児保健

<講義概要>

- ・演習Ⅰにおいては、講師が用意した資料を基に、子どもの健やかな育ちを「成長とは」「発達とは」といった視点から考え、専門的知識を深めていく。
- ・演習Ⅱにおいては、演習Ⅰで学んだ知識の中から受講生が関心を持ち、より深めていきたい内容について研究活動を行う。さらにそれらの内容を論文、レポートの書き方やまとめ方を身につけながら学修を進めていく。

到達目標

子育ての原点は、子どもの心身の健康が保たれることである。特に乳幼児期における健康の保持増進は、人として生きていくうえで基礎をなすものであり、極めて重要である。子どもを養育する立場の大人は大きな責任が課せられていることを認識しなければならない。到達目標として、

- ①子どもの健康、環境及び衛生管理、食育の推進、健康管理および安全の実施体制、を養護と教育の中での取り組みについて考える。
- ②集団生活を考慮した体調不良時（感染症）の対応、慢性疾患児、心の問題等個別の配慮を必要とする子ども一人一人の対応について学修する。
- ③の取り組みに関する職員間の連携、家族、関係諸機関、地域との連携を全体的にとらえることができる。
- ④研究方法を理解し、レポートや論文を作成し、まとめることができる。

評価方法

子ども発達教育演習Ⅰでは、スクーリングでの科目単位認定試験によって評価する。
子ども発達教育演習Ⅱでは、期日までに提出された添削課題の内容による中間評価および課題論文の内容によって総合的に評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリングの際は、終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

病院施設内での看護経験、および、産前産後の妊産婦指導、保育所や子育て支援スペースにおける実施指導の実務経験があり実際の、子育て状況や子どもの健康などの現状について詳しく講義を進めていきます。

学修の進め方

・子ども発達教育演習Ⅱ

①子ども発達教育演習Ⅱの添削課題は研究レポートの作成とする。

子ども発達教育演習Ⅱについては、資料に基づいた学修内容の中からより関心を深めたいテーマを自ら選び設定したテーマについて課題論文（研究レポート）を作成する。

●テーマの例として

- ・子どもの生活リズムと健康
- ・子どもの睡眠リズムについて
- ・睡眠リズムと食生活
- ・乳幼児の癖についての考察（指しゃぶり・爪噛みなど）
- ・小児慢性疲労性症候群と不登校の関係性
- ・小児慢性疲労性症候群と発達障がい

②フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返す。

学修指導

・子ども発達教育演習Ⅰ

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

テキスト「大学生のためのレポート論文術」は、必ず購入し、持参すること。

また、スクーリングを受講するまでに、小児保健に関する参考書に十分目を通しておいてほしい。さらに、スクーリングでは実践的な小児保健の内容について学ぶために、各種の資料を配付するとともに、受講者同士のディスカッションを行い、スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対する、フィードバックを行ないます。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

保育所保育指針では、「保育の原点は保健である」との視点が示されている。このことについて、「子どもの発達演習Ⅰ」スクーリングで学修したことを踏まえ、保育指針を引用して自分の考えをレポートする。

子ども発達教育演習Ⅰ：スクーリング学修の主なポイントは次の通りである。

1 日 目	講義1 家庭・地域社会・保育所等における小児の健康	(資料学修)
	講義2 小児の発育発達と生活 ・生物としてのヒトのなりたち ・成長と発達	(資料学修)
	講義3 小児の食生活	(資料学修)
	講義4 小児の健康づくり ・健康とは	(資料学修・討議)
2 日 目	講義5 小児の疾病とその予防 ・日常の病気 ・心と環境と疾病について	(資料学修)
	講義6 事故と安全教育 ・小児の事故の特徴 ・災害と精神保健	(資料学修・討議)
	講義7 児童福祉施設における保健 ・児童福祉施設の保健活動の意義と目的 ・施設ごとにみた保健活動 ・留意すべき保健上の問題点とその対応	(視聴覚教材・討議)
	講義8 地域母子保健と保育 ・論文作成に向けて ・講義全体のフィードバック	(資料学修・討議)

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

近年における子どもの健康上の問題や課題の中から、ご自身が関心のある問題をいくつか考えておくこと。

〔準備するもの〕

配布資料が多くなると思いますので、各自ファイリングができるよう準備をしておいてください。

〔その他〕

教科書を持参すること。

「この一冊できちんと書ける！論文レポートの基本」 日本実業出版社 石黒 圭 著
(昨年の教科書をお持ちの方はそれでかまいません)

子ども発達教育演習Ⅰ／子ども発達教育演習Ⅱ

演習Ⅰ：専門教育科目／1単位／3年前期開講／スクーリング授業

演習Ⅱ：専門教育科目／1単位／3年後期開講／テキスト授業

日 時	1日目 令和3年7月3日(土) 9:30~16:40	該 当 時間割	A
	2日目 令和3年7月4日(日) 9:30~16:40 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年6月25日(金) 必着		
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10号館(岡山県高梁市伊賀町8)		

■ 担当教員	秀 真一郎
■ 使用テキスト	テキスト：児童文化と保育 ころろ豊かな文化を育むために 著 者：高橋司 編 出 版 社：宮帯出版社 出 版 年：2008年 I S B N：978-4-900833-54-8
■ 参考テキスト	テキスト：明日の保育・教育に活かす 子ども文化 編 者：田中卓也・藤井伊津子・橋爪けい子・小島千恵子 出 版 社：溪水社 出 版 年：平成27年 I S B N：978-4-86327-284-2

講義概要・一般目標

子ども発達教育演習Ⅰは、子どもの保育・教育に関する理論的考察や実践の方法論について学ぶが、各専任教員の専門領域における様々な演習内容によって構成されている。演習内容については、保育の理論と実践方法論、幼児教育の理論と実践方法論、小児体育の理論と実践方法論、幼児の図画工作指導論と実践方法論、幼児音楽指導論と実践方法論、児童家庭福祉論と実践方法論、家族福祉論と実践方法論、障害児福祉論と実践方法論、社会的養護の理論と実践方法論等があり、原則として受講者は任意に特定の演習授業を選択受講して学ぶ。

子ども発達教育演習Ⅱの内容は、子ども発達教育演習Ⅰと同様に、保育の理論と実践方法論、幼児教育の理論と実践方法論、小児体育の理論と実践方法論、幼児の図画工作指導論と実践方法論、幼児音楽指導論と実践方法論、児童家庭福祉論と実践方法論、家族福祉論と実践方法論、障害児福祉論と実践方法論、社会的養護の理論と実践方法論等で構成され、子ども発達教育演習Ⅰにおいて選択受講により学んだ子どもの保育・教育に関する理論的考察や実践方法論について、さらに理解を深め実践力を涵養するために各領域における保育・教育の研究課題や実践課題等を通じて考察を深めるとともに、各種の保育・教育実践モデルや実践例について学ぶ。

なお、子ども発達教育演習Ⅰ、Ⅱの履修方法については、同一教員が担当する演習を履修する必要があるので注意すること。

【各領域の講義概要】

保育の理論と実践方法論

専門分野：幼児教育，保育内容，多文化教育

<講義概要>

保育を展開する上で、たくさんの絵本を知っていることや多くの手遊びを知っているというような、知識や技術はとても大切なことです。しかし、多くの知識や技術を持っていても、それをどのように活用し、子どもたちにとって有益なものとするかという理論が備わっていなければ、まったく無意味もしくは場合によっては有害なものとなってしまいます。自らの保育観，保育者観，子ども観を確立し，自身の個性を活かす知識・技術・理論について考えていきます。

到達目標

現在の子どもが持つ生活環境や抱える問題は多様化し、複雑化してきている。ひとりひとりのニーズに対応するためには、個別の状況を把握することが求められる。そのためにも、現在の保育の場における諸問題を認識し、理解することを求める。さらには、子どもの成長を援助する視聴覚文化財を理解し、それぞれの文化財のもつ特徴・有効性を知ってほしい。

評価方法

子ども発達教育演習Ⅰでは、スクーリングでの科目単位認定試験によって評価する。
子ども発達教育演習Ⅱでは、期日までに提出された添削課題の内容による中間評価および課題論文の内容によって総合的に評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリングの際は、終了後の時間に実施します。

学修の進め方

・子ども発達教育演習Ⅱ

ポイントとしては、子ども達にとっての視聴覚文化財の意味にしっかり寄り添うことです。何気なく手にしている絵本、たまたま選択した紙芝居、興味を引いたパネルシアターなど、偶然目の前にある視聴覚文化財が実は子供達の成長にとって大きな意味をもたらしていることに気づくことです。その意味を論理的に理解することこそ、実際の保育に不可欠な要素となります。なお、フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

〔テキストの概要と学修のポイント〕

第1章 児童文化とは何か

この章のポイントは

「児童文化」ということばの持つ意味を先人の定義に基づき考える。また、「児童文化」の本質を捉え、「児童文化」のあるべき姿を認識する。

第2章 子どもの生活と児童観の変遷

この章のポイントは

子どもの捉え方(子ども観もしくは児童観)は時代とともに移り変わっている。しかし、その背景には必ず子どもの生活が深い関わりを持っている。時代の移り変わりに伴う子どもの捉え方と子どもの生活のかかわりについて知り、考える。

第3章 おもちゃ

この章のポイントは

おもちゃということばから連想するものとは何でしょう。そもそもおもちゃとは何なのか。この疑問に対する答えを考え、子どもとおもちゃとのあるべき姿や関係性について知識を深める。

第4章 折り紙

この章のポイントは

折り紙は日本の持つ伝承文化として広く活用されている。それは幼児の教育においても大きなかかわりを持ってきた。長く伝承文化として捉えられてきた折り紙のこれまでの歩みとその教育的効果について理解を深める。

第5章 絵本

この章のポイントは

保育・幼児教育において、絵本は確固たる存在感を示している。絵本の歴史は古く、それに伴い絵本と子どもとの関わりにおいても長い歴史がある。絵本の歴史とともに、子どもとの関係を理解し、絵本の特性とその活用法について考える。

第6章 口演童話・おはなし

この章のポイントは

口演童話・おはなしは子どもとのかかわりが最も密で、またその歴史も長きにわたっている。口演童話・お話について深い認識を持つことを望んでいます。そして、子どもとの関わりにおける活用法について、理論を踏まえた知識を学ぶ。

第7章 人形劇

この章のポイントは

人形劇と一言で言っても、その内容は実に幅広い。さらに、人形劇の持つ世界は子どもにとってとても大きな力を持ち、さらには影響も強い。ここでは、人形劇の歴史的背景やそれぞれの人形劇の持つ特徴、そしてそれを活かす方法などについて考えます。

第8章 紙芝居

この章のポイントは

紙芝居は保育・幼児教育の場において大変強い繋がりを持っている。紙芝居の歴史とは、まさに子どもとのかかわりなくしてはありえないものである。紙芝居が現在も広く活用されていることから、保育者として紙芝居の特徴、選び方、そして演じ方などをしっかりと理解し、その活用法について考える。

第9章 ペープサート

この章のポイントは

ペープサートの語源をひも解くと、その歴史と子どもたちとの繋がりが理解できる。ペープサートの特徴を理解し、活用法を考える。

第10章 パネルシアター

この章のポイントは

パネルシアターは歴史が浅いが、保育・幼児教育現場では広く知られているものである。その特徴はこれまでのものとは一線を置き、独自性を持ったものである。そのため、特徴を深く理解することにより、その活用法は限りなく広がっていくといえる。基本的な特徴をしっかりと捉え、活用法に対する自らの道筋を考える。

第11章 あそび文化の復興～チャレンジランキングの可能性～

この章のポイントは

あそびを通して様々なことを学ぶ。これは現在の保育・幼児教育においては大前提といっても過言ではない。しかし、子どもにとってのあそびという点に関して、確かな答えを持っているだろうか。あそびのもつ意味をしっかりと捉え、あそびについて自身の確かな理論を考える。そして、あそびの一つの提案となる「チャレンジランキング」について知識を広げ、子どもたちとのかかわりについて考える。

終章 あなたへの手紙

この章のポイントは

この章における様々な投げかけに対して、自身の答えや考えを見つける。保育・幼児教育に関して自身と向き合うことで、自らの保育観・保育者観・子ども観を確固たるものとし、さらには保育に対する広い視野を育てる。

学修指導

・子ども発達教育演習Ⅰ

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

本講義では、現在保育現場で活用されている視聴覚文化財について理解を深めることを目的としています。中でも、比較的新しいとされるパネルシアターに注目し、作成から実演に焦点を当てた内容を進めていきます。限られた時間内での作成・実演となりますので、スクーリングまでに ①パネルシアターとはどういうものか ②パネルシアターを作成するポイントと注意点・留意点 の2点を調べ、理解

しておいてください。また、スクーリング内で自らがパネルシアターとして作成したいストーリーや歌・クイズなどの題材を見つけておいてください。なお、スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対する、フィードバックを行いません。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

パネルシアターとは演者を含めての演技構成となっています。そのため、練習をし経験を重ねることでその習熟度が増していきます。よって、完成したパネルシアターの理解度を高め、練習を重ねる中で「自分のもの」にしていく必要があります。完成して終わりではなく、練習を重ねて実際に子供達に披露する機会を自ら作って行ってください。そのような経験を積み重ねることで、第2第3のパネルシアターを作成する重要性が増していきます。

子ども発達教育演習Ⅰ：スクーリング学修の主なポイントは次の通りである。

1 日 目	講義 1 パネルシアターとは
	講義 2 不織布（Pペーパー）の特徴
	講義 3 パネルシアターの種類
	講義 4 絵人形の作り方
2 日 目	講義 5 絵人形における様々なトリック
	講義 6 パネルシアターの演じ方
	講義 7 留意事項
	講義 8 科目単位認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

パネルシアターがどういう物であるか、パネルシアターの作成については、事前に調べ勉強しておいて下さい。

〔準備するもの〕

パネルシアターを作成し発表したいと思います。そこで、好きなお話・絵本・歌を一つ見つけておき、持参してきて下さい。また、パネルシアター作成に必要なPペーパー、ポスターカラー、ネル地、その他の基本的な道具は準備してあります。特別な物を使いたいというのであれば持参して下さい。

〔その他〕

作成だけでなく、実演もしていただきます。みんなで楽しみたいと思います。

子ども発達教育演習Ⅰ／子ども発達教育演習Ⅱ

演習Ⅰ：専門教育科目／1単位／3年前期開講／スクーリング授業

演習Ⅱ：専門教育科目／1単位／3年後期開講／テキスト授業

日 時	1日目 令和3年7月3日(土) 9:30~16:40	該 当 時間割	A
	2日目 令和3年7月4日(日) 9:30~16:40 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年6月25日(金) 必着		
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10号館(岡山県高梁市伊賀町8)		

■ 担当教員	藤井 伊津子
■ 使用テキスト	テキスト：明日の保育・教育にいかす 子ども文化 著 者：田中卓也 他 出 版 社：溪水社 出 版 年：2015年 I S B N：978-4-86327-284-2
■ 参考テキスト	テキスト：センス・オブ・ワンダー 著 者：レイチェル・カーソン 出 版 社：新潮社 出 版 年：1996
	テキスト：保育者への扉 著 者：澤津まり子 他 出 版 社：建帛社 出 版 年：2012

講義概要・一般目標

子ども発達教育演習Ⅰは、子どもの保育・教育に関する理論的考察や実践の方法論について学ぶが、各専任教員の専門領域における様々な演習内容によって構成されている。演習内容については、保育の理論と実践方法論、幼児教育の理論と実践方法論、小児体育の理論と実践方法論、幼児の図画工作指導論と実践方法論、幼児音楽指導論と実践方法論、児童家庭福祉論と実践方法論、家族福祉論と実践方法論、障害児福祉論と実践方法論、社会的養護の理論と実践方法論等があり、原則として受講者は任意に特定の演習授業を選択受講して学ぶ。

子ども発達教育演習Ⅱの内容は、子ども発達教育演習Ⅰと同様に、保育の理論と実践方法論、幼児教育の理論と実践方法論、小児体育の理論と実践方法論、幼児の図画工作指導論と実践方法論、幼児音楽指導論と実践方法論、児童家庭福祉論と実践方法論、家族福祉論と実践方法論、障害児福祉論と実践方法論、社会的養護の理論と実践方法論等で構成され、子ども発達教育演習Ⅰにおいて選択受講により学んだ子どもの保育・教育に関する理論的考察や実践方法論について、さらに理解を深め実践力を涵養するために各領域における保育・教育の研究課題や実践課題等を通じて考察を深めるとともに、各種の保育・教育実践モデルや実践例について学ぶ。

なお、子ども発達教育演習Ⅰ、Ⅱの履修方法については、同一教員が担当する演習を履修する必要があるので注意すること。

【各領域の講義概要】

保育方法の理論と展開

専門分野：保育内容(人間関係・言葉)、子ども文化、子育て支援

<講義概要>

子ども発達教育演習Ⅰでは、『明日の保育・教育にいかす子ども文化』『保育者への扉』を基に、保育とは何か、保育者に求められることとは何かを考察し、保育方法の理論と展開について自分が深めたいテーマを探る。

子ども発達教育演習Ⅱでは、演習Ⅰを基礎として、学生自身がそれぞれのテーマを持ち、関連の文献・資料の収集を行い、レポート（または保育教材）を作成し、保育の視点をさらに深めることを学ぶ。レポート（または保育教材）については、最低3回の経過報告をし、レポートを提出する。

到達目標

- ・子ども発達教育演習Ⅰ
 1. テキストを読み合いながら意見を発表したり、他者の発表を聞いたりして私見を述べることができた。
 2. 保育方法の基本について理解を深め、保育計画に取り入れることができた。
- ・子ども発達教育演習Ⅱ
 1. 子どもの現状について課題を持ち、関心のある分野の状況を把握することができた。
 2. 各自の研究テーマについて調査したり、保育教材を制作したりして考察することができた。

評価方法

子ども発達教育演習Ⅰでは、スクーリングでの科目単位認定試験によって評価する。
子ども発達教育演習Ⅱでは、期日までに提出された添削課題の内容による中間評価および課題論文の内容によって総合的に評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリングの際は、終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

保育現場に勤務していた経験を活かして、現在の保育課題を共に考察し、保育の深化を図る。

学修の進め方

- ・子ども発達教育演習Ⅱ
各自のテーマについてレポートを作成する。以下のような内容や予定で取り組んでいただきたい。また、フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。
 1. 自分自身を通して保育と幼児期の特性を考える
 2. 保育者になるために明らかにしたいことー各自の研究テーマの設定とレポート作成計画
 3. 各自のテーマに添っての文献及び資料収集について（第1回提出）
 4. レポート作成ー保育所における保育内容の構造と乳幼児の発達
 5. //
 6. レポート作成ー幼稚園における保育内容の構造と幼児の発達
 7. //
 8. レポート作成ー乳幼児を取り巻く環境ー保育現場
 9. レポート作成ー乳幼児を取り巻く環境ー家庭
 10. レポート作成ー乳幼児を取り巻く環境ー地域社会
 11. レポート作成ー乳幼児を取り巻く環境ー幼児のための文化財
 12. //
 13. レポート作成ー保育の実践記録を読む。（第2回提出）
 14. 各自のレポート作成（第3回提出）
 15. 各自のレポート作成（他者のレポートを読みコメントする）※ 課題レポートの内容を中心に総合的な評価に基づき、単位認定を行います。

学修指導

- ・子ども発達教育演習Ⅰ
テキスト『明日の保育・教育にいかす子ども文化』『保育者への扉』を基に学んでいくことから、演習Ⅱに向けての各自のレポートするテーマをみつける手がかりをつかんでいただきたい。なお、スクーリ

ング最終時限で講義（授業）全体に対する、フィードバックを行いません。

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

子どもウォッチング：日常生活の中で、子どもや親子を観察し、発達の過程や観察内容の背景などを観察し記録しましょう。

（事例1件につき、A4、1枚程度 いつ、どこで、どのようなことがあったか。そのことについての考察）

〔スクーリング終了後の学修事項〕

スクーリングで学んだことを確実に自分のものにするためには、受講後の補完学修・発展学修を行うことが必要です。テキスト以外の文献や情報にも自ら求める姿勢が必要です。

ご自分の研究テーマにこだわりながら、こつこつと取り組んでいきましょう。

また、孤独になり、進め方に迷うこともあることでしょう。スクーリングでの友や教員と連絡を取り合しましょう。

子ども発達教育演習Ⅰ：スクーリング学修の主なポイントは次の通りである

1 日 目	講義1：はじめまして・「子ども発達教育演習」とは
	講義2：保育者に求められるものとは
	講義3：子どもの発達と自然とのかかわり（大学周辺の自然にふれる）
	講義4：『センス・オブ・ワンダー』から学ぶ
2 日 目	講義5：現在の子どもたちと子どもを取り巻く環境（課題：子どもウォッチングから）
	講義6： //
	講義7：子どもたちの心の栄養となる文化を届けるとは
	講義8：「子ども発達教育演習Ⅱにむけて」 科目単位認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

（1）日頃の生活の中で子どもや親子をウォッチングしてみましょう！

できれば2～3件（①年齢はどれくらいかな ②何をしようとしているのかな ③感じられたこと ④考えさせられたこと など、（いつ、どこで、誰が、どんなことをしていて、何を感じたり考えたりしたか）報告し合しましょう。

（2）自分が研究してみたいと思うことについて、①目的、②どんな方法で調べようと思うか、③どんな結果がまた、課題が予想されるか、A4用紙1・2枚に書いてみて下さい。

〔準備するもの〕

・戸外に出ますので、帽子、タオル、飲み物、メモ用具

〔その他〕

・学校の周りを散歩したり、自然物を使って遊んだりしたいと思います。
汚れてもいい軽装で、参加して下さい。

子ども発達教育演習Ⅰ／子ども発達教育演習Ⅱ

演習Ⅰ：専門教育科目／1単位／3年前期開講／スクーリング授業

演習Ⅱ：専門教育科目／1単位／3年後期開講／テキスト授業

日 時	1日目 令和3年7月3日(土) 9:30~16:40	該 当 時間割	A
	2日目 令和3年7月4日(日) 9:30~16:40		
〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年6月25日(金) 必着			
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10号館(岡山県高梁市伊賀町8)		

■ 担当教員	藤井 和郎
■ 使用テキスト	テキスト：新しい教職教育講座 教職教育編 12 教育相談 著 者：春日井敏之・渡邊照美 編著 出 版 社：ミネルヴァ書房 出 版 年：2019年 I S B N：978-4-623-08195-0
■ 参考テキスト	テキスト：生徒指導提要 著 者：文部科学省 出 版 社：教育図書

講義概要・一般目標

子どもをとりまく社会情勢の急激な変化により、学校教育現場でも様々な課題が生じている。特に、いじめ、暴力行為などの問題行動や不登校への取組は、日本全国的に喫緊の課題と言われて久しい。各学校はもちろん、それぞれの教育行政においても根気強い取組がなされているが、十分な成果が上がっていないのが現状であろう。

また、一言で問題行動と言っても、その背景や要因は多様化しており、教員の経験知では対応しきれない事象も発生しており、このことが教員の多忙感や徒労感につながっているのではなかろうか。そこには、いわゆる「後追いの生徒指導」をせざるを得ない学校現場の状況、教員が時間的・精神的ゆとりのない状態に追い込まれている実態があり、それが元で悪循環を起こしているように思われる。そのような状況において、今後「チームとしての学校」が機能し、スクール・カウンセラー、スクール・ソーシャルワーカー、その他専門スタッフと連携・分担が進んでいくことになる。

そこで、この授業では、現在の学校現場において、生徒指導・学校教育相談が果たすべき役割や具体的な問題行動等への対応方法を学び、さらに積極的生徒指導、開発的教育相談について最新の理論と実践力を身に付けていただきたいと考えている。

なお、子ども発達教育演習Ⅰ、Ⅱの履修方法については、同一教員が担当する演習を履修する必要があるので注意すること。

【各領域の講義概要】

包括的生徒指導の理論と実践方法

専門分野：生徒指導・教育相談

<講義概要>

子ども発達教育演習Ⅰでは、学校教育相談に関する基本的な知識を取得したうえで、いくつかの課題について協議を重ねることにより理解を深めたい。

また、岡山県総社市で、不登校、非行などの減少に大きな成果を上げている「だれもが行きたくなる学校づくり」の実践から、その内容と理論を学び、今後の我が国の生徒指導・教育相談の方向性を探っていく。

子ども発達教育演習Ⅱでは、使用テキストや参考テキストをもとに子どもたちの問題行動等の理解を深め、具体的な問題行動等への対応を学ぶ。また、問題行動等への対応には、校内指導体制の確立や専門家・関係機関との連携が不可欠であることから、その手段についても具体的に学んでいきたい。

到達目標

- 1 包括的生徒指導の概念と具体的な実践について理解する。
- 2 様々な問題行動等への対応を理解し、具体的な事象への対応方法を考えることができる。
- 3 校内の生徒指導・教育相談体制を確立するとともに、専門家や関係機関との連携について具体的に考えることができる。

評価方法

子ども発達教育演習Ⅰでは、スクーリングでの科目単位認定試験によって評価する。
子ども発達教育演習Ⅱでは、期日までに提出された課題の内容による中間評価および課題論文の内容によって総合的に評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリングの際は終了後の時間に実施する。

担当する授業科目に関連した実務経験

この科目は、中学校教員・校長及び教育行政の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。

学修の進め方

・子ども発達教育演習Ⅱ

〔学修のポイント〕

スクーリング学修の内容を参考にして、具体的な問題行動等の理解と対応を考える。その際、校内指導体制はどうあるべきか、専門家・関係機関等との連携はどう進めるかという視点が不可欠である。また、フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返す。

なお、使用テキスト『教育相談』は、次に示すすべての章を精読することが必要である。

第5章「教育相談とチーム支援」、第9章「教育相談と問題行動への指導・支援」、第10章「教育相談とインクルーシブ教育」、第11章「なぜ保護者との向き合い方に悩むのか、どう自信をつけていくか」、第12章「教育相談の担い手である教師が子どもを支える仕組み」、第13章「教育相談とリスクマネジメント」

また、参考テキスト『生徒指導提要』の第6章「Ⅱ 個別の課題を抱える児童生徒への指導」、第4章「学校における生徒指導体制」、第8章「学校と家庭・地域・関係機関との連携」も参考にしていきたい。

学修指導

・子ども発達教育演習Ⅰ

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

使用テキスト『教育相談』の第1章「教育相談の歴史と変遷」、第2章「子どもの生きづらさと教育相談」、第3章「教育相談とカウンセリング」、第4章「教育相談と生徒指導」、第8章「教育相談と学級づくり」を精読し、スクーリング事前課題に示す各章の「学習の課題」について、自分の考えを発表できるよう準備しておく。

これらの予習を前提として、スクーリングでは補足説明をするとともに、各自の発表内容を基に協議することを通して、内容を深く理解していく。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

- (1) 各章の学修内容について、授業中の協議内容をもとに再度考えることにより自分の考えを深化・修正する。
- (2) 「だれもが行きたくなる学校づくり」の実践をもとに、今後の我が国の生徒指導・教育相談の方向性について自分の考えをもつ。
- (3) スクーリング最終時限で講義(授業)全体に対するフィードバックを行う。

子ども発達教育演習Ⅰ：スクーリング学修の主なポイントは次の通りである。

1 日 目	講義1	第1章「教育相談の歴史と変遷」の補足説明をし、学習の課題（2）について協議する。
	講義2	第2章「子どもの生きづらさと教育相談」の補足説明をし、学習の課題（3）について協議する。
	講義3	第3章「教育相談とカウンセリング」の補足説明をし、学習の課題（1）について協議する。
	講義4	第4章「教育相談と生徒指導」の補足説明をし、学習の課題（1）について協議する。
2 日 目	講義5	第8章「教育相談と学級づくり」の補足説明をし、学習の課題（3）について協議する。
	講義6	「だれもが行きたくなる学校づくり」の理論について学修する。
	講義7	「だれもが行きたくなる学校づくり」の内容について学修する。
	講義8	今後の我が国の生徒指導・教育相談の方向性について学修する。 科目単位認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

使用テキスト『教育相談』及び参考テキスト『生徒指導提要』を各自購入し、上の「学修指導」の記載により予習する。

また、『教育相談』の次に示す各章の「学習の課題」について、自分の考えを発表できるよう準備しておく。

- 第1章 p18「学習の課題」の（2）
- 第2章 p34「学習の課題」の（3）
- 第3章 p49「学習の課題」の（1）
- 第4章 p67「学習の課題」の（1）
- 第8章 p137「学習の課題」の（3）

〔準備するもの〕

使用テキスト『教育相談』及び参考テキスト『生徒指導提要』

〔その他〕

特になし

家庭支援論

専門教育科目／2単位／3年後期開講／テキスト授業

■ 担当教員	中野 明子
■ 使用テキスト	テキスト： 保育・教育ネオシリーズ 子ども家庭福祉の新展開 第2版 著 者： 才村純・加藤博仁編著 出 版 社： 同文書院 出 版 年： 2019年 I S B N： 978-4-8103-1486-1
■ 参考テキスト	テキスト：「学び、考え、実践力をつける家庭支援論」 著 者： 木村志保・津田尚子編著 出 版 社： 保育出版社 出 版 年： 2016年 I S B N： 978-4-905493-10-5

講義概要・一般目標

家族の主要な役割は子育てであるが、今日ではその子育ち、子育てを難しくする状況が出現している。多様な家族形態ばかり、コミュニケーションを低下させる環境、家族の孤立傾向、子どもの集団不適応、いじめ、虐待、貧困、外国籍の家族などである。子どもとその家族、家庭への支援のためには、家族福祉の構造や家族支援の体制、事業、サービスなどを把握することからはじめ、具体的にどのような支援方法があるのかを理解し、保育士としての具体的な相談援助活動の展開を知ることが大切である。ここではソーシャルワークやカウンセリングの援助技術が用いられる。子どもに関わる問題の解決にはその家族、家庭に対する支援が必要である。その支援は内面のみならず関係性や環境をも支援対象としたものになる。

到達目標

この科目の学修によって、今日の我が国における子どもとその家族、家庭に関わる問題状況を把握し、家庭福祉に関わる法制度や家庭支援事業、サービスを理解することができる。その上で、子どもと家族、家庭に対する相談援助や保育相談支援のあり方を、ソーシャルワークやカウンセリングの方法論を活用した具体的な方法として身につけることができる。子どもや子育てに関わる問題を広く、深くアセスメントでき、面接を通して具体的な支援活動を展開できる保育士になることが目標である。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

・この教科では、子どもとその家族、家庭に対する家族福祉の構造を学んだ上で、家族、家庭への支援の方法を学んでいきます。今日の我が国では様々な子育て支援に関わる法制度や事業、サービスが展開されていますので、まずはそこから理解してもらい、その上で具体的な援助技術である子育て家庭への相談援助、保育相談支援を理解していきます。後半は具体的な家庭支援の方法や保護者面接について学んでいきます。子どもや子育てに関わる問題を解消・解決するためには、家族や家庭の問題を解消すること、保護者への支援を通して解決することになります。保育士や教員にとって、子ども本人への援助や教育と同時に、その保護者への支援が重要とされるのはそのためです。

添削課題には、どこを調べれば良いかが明示されています。迷うことなく課題の解答を得ることができると思います。ぜひ該当箇所だけでなく、その他の領域についても読み進めてほしいと思います。単位認定試験は、この添削課題から 8 割が出される予定です。添削課題をしっかりと学べば、単位取得は容易です。

・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

第1章 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的展望

- (1) 子ども家庭福祉とは何か
- (2) 子ども家庭福祉の歴史的展開
- (3) これからの保育士に求められるもの

第2章 子ども家庭福祉制度とその運用

- (1) 子ども家庭福祉に関する法律
- (2) 子ども家庭福祉制度の体系
- (3) 子ども家庭福祉の財源
- (4) 子ども家庭福祉の計画と進展

第3章 子ども家庭福祉の現状と課題

- (1) 子ども家庭福祉の現状と課題
- (2) 健全育成
- (3) 母子保健
- (4) 保育
- (5) 子ども・子育て支援
- (6) 子どもの育ち・子育てへの経済的支援
- (7) 社会的養護
- (8) 障害とハンディキャップ
- (9) 非行・情緒障害
- (10) 一人親家庭
- (11) 子どもの貧困と家族への支援

第4章 子どもの権利擁護

- (1) 子どもの最善の利益の保障
- (2) 子ども虐待への対応

第5章 子ども家庭福祉の動向と展望

- (1) 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進
- (2) 地域における連携・協働とネットワーク
- (3) 諸外国の動向

第6章 子育て家庭に対する支援と連携

- (1) 子育て家庭に対する支援の体制
- (2) 保育と子育て支援の実際
- (3) 地域の子育て家庭への支援
- (4) 多様な支援の展開と関係機関との連携

第7章 子ども家庭支援の方法

- (1) 子ども家庭支援の意義と必要性
- (2) 子ども家庭支援の目的と機能
- (3) 保育士の子育て支援
- (4) ソーシャルワークとカウンセリングの方法
- (5) 保育士に求められる基本姿勢
- (6) 保育士の資質向上
- (7) 家庭の状況に応じた支援
- (8) 地域との連携・協力

保育の心理学 I

専門教育科目 / 2 単位 / 2 年前期開講 / テキスト授業

■ 担当教員	森井 康幸
■ 使用テキスト	テキスト：新 保育ライブラリ 子どもを知る 保育の心理学 I 著 者：無藤 隆 他著 出 版 社：北大路書房 出 版 年：2011 I S B N：476282738X (9784762827389)
■ 参考テキスト	テキスト：新 基本保育シリーズ8 保育の心理学 編 集：杉村 伸一郎・山名 裕子 出 版 社：中央法規 出 版 年：2019 I S B N：978-4-8058-5788-5

講義概要・一般目標

保育実践においては、対象となる子どもの心身の発達過程についての理解は必須である。乳幼児期の心理発達理論を中心に、発達と環境の関係、子どもの心身諸機能の発達の相互関連性、学びの特性等について概説する。

到達目標

子どもの生得的な素晴らしい能力とその発達過程を理解し、子供に対する興味・関心を高め、より多面的に理解しようとする心構えと基礎的知識を得ることを到達目標とする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

学修の進め方

- ・学修指導には、教科書で学んでいただきたいポイント・キーワードを記載しています。そちらを確認しながら教科書を読み進めていってください。
- ・添削課題は、学修指導にそって学んでいただく中で特に理解してほしい、重要なものを取り上げるようにしています。分からないときは教科書にもう一度戻って、課題のある章を確認するようにしてください。添削後に送付されてくる課題解説も参考にしてください。
- ・保育士養成のための他の教科の内容とも関連づけながら、学習するようにしてください。フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

第1章 人としての発達を考える

この章のポイント

ここでは人間発達の考え方の基本を理解することが求められる。ヒトとして生まれた赤ちゃんが親(養育者)との相互作用の中で関係をはぐくみ、その安定した関係の中で同世代の子どもとのつきあい・遊びがはじまり、しだいに仲間関係に重点が移り、親と距離をとりはじめ、自立していく。同時に、このような人間関係のありかたは社会・文化的な影響・制限の中で進

展していくことになる。このような関係と子どもの発達を理解することの意義を、節ごとに次のようなキー・ワード（括弧内の用語）を参考にしながら学んでほしい。

ただし、第1章はこのテキストの内容全体を概括した内容となっているので、最も理解が困難な章でもある。細かいことは、2章以降に触れられているので、該当する章、あるいは全体を学んだ後に、再度熟読し、内容の確認をすることが重要である。

- ・人との関係の中で育つ（養育者、愛着、仲間、疎外、反抗期）
- ・社会・文化の中で育つ（社会文化的活動、文化的人工物、制度の制約）
- ・子どもの発達を理解することの意義（方向性）

第2章 家族生活の中で育つ

この章のポイント

誕生後の生活は家族との関係の中でスタートする。乳児は初めて目にする世界とどのように関わり、また認識を広げていくのか、自己意識を発達させていくのかについて理解する。

- ・人とモノからなる世界との出会い（胎児期、乳児の知覚能力、社会的存在）
- ・コミュニケーションの広がり－情動から言葉へ（情動表出、情動調律、共同注意、愛着）
- ・自分に気づきこだわりをもつ（自他の分化、自分意識）
- ・育児・乳児保育をめぐる問題（出生率、子育て支援）

第3章 近隣社会への広がりの中で育つ

この章のポイント

子どもは生活の場を家庭から近隣社会へと広げ、自分自身の興味・関心も同年代の子どもへと向かい、集団の中に身を置くようになっていく。ここでは、日々の生活や遊びを通して得られる認知発達・言語発達の側面と、集団の中で生じるつまずきや発達について理解してほしい。

- ・遊びから知的好奇心へ（認知発達、素朴物理学・素朴心理学・素朴生物学、言語発達）
- ・大人から仲間へのまなざし（他者への共感、思いやり、いざこざ）
- ・集団の中で自分を知る（性役割、自己主張、自己抑制）
- ・集団保育をめぐるつまずき（気になる子、気になる親）

第4章 学校生活の中で育つ －知的学び

この章のポイント

小学校に入る前から子どもは遊びや日々の生活の中で非常に多くのことを学んでいる。幼児期の学びは自発的で自分のペースで進んでいたといえるかもしれない。しかし、小学校に入ってから学び、学校生活が始まってから求められる学びは大きく変化する。この変化を念頭に置いて、学校生活の中での学びの問題について理解を深めてほしい。

- ・日常的概念から科学的概念へ（知識の構築、素朴理論、既有知識）
- ・リテラシーの世界の広がり（読み書きの発達、モニタリング、一次的事物、二次的事物）
- ・学びと評価－教師の関わり（評価と意欲、有能感、自律性、評価の観点の多様性）
- ・学びをめぐるつまずき（小学校生活への適応、9歳の壁）

第5章 学校生活のなかで育つ －自分と出会う

この章のポイント

学校生活は知的な学びに大きな変化をもたらすだけでなく、人間関係の面でも大きな変化をもたらす。友だちづきあいのあり方の変化や思いやりの気持ちの発達などとともに、いじめなど人間関係を巡るトラブルやつまずきも現れてくる。このような問題に、どのような支援なり手だてが有効なのか考えてみよう。

- ・友だち関係から親友関係へ（大事な人、ギャング・グループ、チャム・グループ、ピア・グループ）
- ・人として教師から学ぶ（リーダーシップのスタイル、教師期待効果）
- ・関わりのなかで自分をのばす（共感性、視点取得能力）
- ・人間関係をめぐるつまずき（いじめ、不登校、発達障害）

第8章 発達を明らかにする

この章のポイント

人の発達や変化をとらえるにはどのような方法があるのか、発達を支援するための基礎となる発達理解の方法にはどのようなものがあるのか、さらには発達の理論と保育実践の関係はどうなっているのか、発達支援の実際はどのようなものかなどについての理解を深める。

- ・発達研究の方法（横断的研究法，縦断的研究法，時代差研究法）
- ・発達理論と保育実践研究（成熟主義，行動主義，モンテッソーリ，構成主義，社会的構成主義）
- ・発達支援の実際（アセスメント，支援計画）

保育の心理学Ⅱ

専門教育科目／1単位／2年後期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年10月16日(土) 9:30~16:40 2日目 令和3年10月17日(日) 9:30~16:40	該 当 時 間 割	A
	[スクーリング受講中止届の提出について] 令和3年10月8日(金) 必着		
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス(岡山県岡山市北区岩田町2-5)		

■ 担当教員	森井 康幸
■ 使用テキスト	テキスト：新 保育ライブラリ 子どもを知る 保育の心理学Ⅱ 著 者：清水 益治 他著 出 版 社：北大路書房 出 版 年：2011年 I S B N：4762827436 (9784762827433)
■ 参考テキスト	テキスト：新 基本保育シリーズ10 子どもの理解と援助 編 集：清水 益治・森 俊之 出 版 社：中央法規 出 版 年：2019年 I S B N：4805857900

講義概要・一般目標

子どもの実態に応じた心身の発達と子どもへの関わりについての理解を深めるとともに、日常生活や遊び中での子ども理解の視点や具体的方法、さらには子どもの発達援助の基本について、事例の検討を行いながら学習する。

到達目標

子どもを理解するための多様な視点と実際の関わり方の基本を理解するとともに、学んだ知識をもとに様々な現実的な問題への対応について自分で考えることができるようになることが到達目標である。

評価方法

スクーリング中に行う数回のミニ・レポートと参加態度(積極性)により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

学修の進め方

[スクーリングまでの事前学修事項]

『保育の心理学Ⅰ』の特に第1章から第3章を中心に、子どもの心身の発達についての復習をしてください。『保育の心理学Ⅱ』の第1章～第5章については精読、6章～8章は少なくとも目を通しておいてください。また、理想の保育環境についても考えておいてください。

[スクーリング中の学修活動]

一部テキストの概説も交えますが、基本的には小グループでの意見交換を中心に行います。自分の考えを発表すること、他のメンバーの発言を聞くことをとおして、多様な視点に気づくことと自分なりの保育士像を考えることを目指します。DVD映像等の視聴もあります。

準備物は、テキストの他、保育指針等があれば十分です。

[スクーリング終了後の学修事項]

スクーリングで学んだことを、他の学科目、例えば『乳児保育』や『障害児保育』、『保育内容』などの学修内容と関連づけるよう試みてください。また、日ごろから、多様なものの見方ができるように意識してください。

[フィードバック]

スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行いません。

学 修 指 導

1 日 目	講義1	オリエンテーション, および、保育実践現場の概要を把握する。 (映像で学ぶ保育指針)
	講義2	発達をとらえる枠組みと、個人差の把握方法について理解する。 (1章・2章を中心に)
	講義3	共感的理解と子どもと関わりについて考える。 (3章を中心に)
	講義4	保育者と子どもの関係 (3章に関連して)
2 日 目	講義5	遊びの変化に見る子どもの発達, 発達に伴ういざこざの意味・対処法を考える。 (3章・4章・5章・6章・9章を中心に)
	講義6	子ども理解の方法と自主性を伸ばす保育について考える。 (3章・4章・5章・6章・12章に関連して)
	講義7	子ども理解と発達援助について考える。 (8章・11章を中心に)
	講義8	まとめ・多様な視点の重要性 科目認定試験 最終レポート

スクーリング事前課題・準備物等

[事前課題]

テキストの1, 2, 3, 4, 5, 8, 11章を精読しておくこと。

[準備するもの]

テキスト、保育所保育指針（または保育所保育指針解説）

[その他]

基本的に演習なので、質疑、発表等には積極的に参加すること。

子どもの保健 I A

専門教育科目 / 2 単位 / 1 年前期開講 / テキスト授業

■ 担当教員	西田 啓子
■ 使用テキスト	テキスト：「子どもの保健」 改訂第3版 著 者：渡辺 博 編著 出 版 社：中山書店 出 版 年：2017 年
■ 参考テキスト	こどもの保健 第5版 巷野悟郎 編 診断と治療社

講義概要・一般目標

子どもの保健とは、子どもたちの日常生活の中から生まれ、実践されるものであり、心と身体の健康を維持し、増進することを目的とした積極的な実践活動である。この科目では、保育現場という、養護と教育を同時に行う場での健康と保健の意義を踏まえた上で、子どもの身体発育、生理、運動・精神機能の発達、さらには心身の問題だけではなく、栄養・生活リズム・母子関係・環境・社会制度についても学修する。また、子どもの病気の特徴や罹りやすい疾患、子どもの事故予防や遺伝についても学修し、理解を深める。成長発達が著しい乳幼児期における、病気の意味や家族の関わり方について学び、保育現場と家庭との連携について考察する。

到達目標

- ①子どもの各発達段階における身体的発達と生理的な身体機能について理解する。
- ②子どもの病気や症状の特徴と予防について理解する。
- ③子どもの精神発達について理解する。
- ④事故防止と安全対策、生活環境について理解する。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

病院勤務経験および助産所における母子保健指導や母子看護の経験があり、実務経験に基づいた具体的な学びを目指します。

学修の進め方

第1章 子どもの保健を学ぶ

1. 子どもの保健とは
2. 子どもの保健を学ぶ意義と目的
3. 日本の子どもの保健水準
4. 子どもの保健に関する法律と制度・施策

*この章では、健康とは何か、健康を保つ保健とは何かを考える。日本における子どもの保健水準を知り、整備された法的環境との関連を学ぶ。

第2章 身体の成長

1. 子供の成長と発達、2. 体重、3. 身長、4. 頭囲、5. 胸囲、6. 肥満と痩せの評価

7. スキャモンの発達曲線

*この章では、子どもの身体発育や生理機能、運動機能、精神機能の発達と保健を理解する。その発育、発達過程は個人差があるとともに、それぞれの子どもの生活背景を知る手がかりともなる。

第3章 子どもの発達

1. 子どもの発達とは何かを学ぶ。
2. 乳幼児期各期の運動、精神発達を学ぶ。
3. 運動発達・精神発達の評価方法について理解する。
4. 子どもの生理機能の発達について理解する。

*この章では、子どもの正常な運動・精神発達と生理機能の発達を理解する。

第4章 子どもの栄養

1. 子どもの栄養の特徴を理解する。
2. 乳児にとっての母乳栄養の意味や、長所、短所を理解する。
3. 粉乳による栄養の長所、短所を理解する。
4. 混合栄養とは何か。混合栄養についての注意点を理解する。
5. 離乳食の開始から進め方、作り方などを理解する。
6. 幼児木の食事の特徴や注意点を理解する。
7. 間食の必要性和与え方

*この章では、成長期の乳幼児にとっての食事の重要性和、発達過程における食事内容の変化や対応を学修する。

第5章 生活と健康

1. 体温、2. 冷暖房、3. 水分補給、4. 便・おむつ、5. 睡眠・夜泣き、6. 日光浴・外気浴
7. 入浴、8. 歯磨き、9. 遊び、10. 外出

*この章では、子どもの生理的機能と、生活環境との関連性を理解する。日常生活すべてが子どもの健康状態に関係することを学び、保育現場における日常生活リズムの重要性を確認する。

第6章 子どもの事故とその予防

1. 子どもの事故の特徴、2. 窒息、3. 誤飲、4. 転倒・転落、5. 溺水、6. 熱傷（やけど）
7. 事故と予防、8. 救急処置

*この章では、それぞれの年齢に特徴的な事故原因を知り、発達段階に応じた事故予防を考える。また、様々な事故発生時の迅速かつ適切な救急処置を学修する。

第7章 遺伝と健康

1. 遺伝、2. タンパク質、3. 遺伝子、4. 染色体、5. 優性遺伝と劣性遺伝、6. 遺伝病
7. 遺伝子病、8. 染色体異常、9. 出生前診断、10. 遺伝子診断と遺伝カウンセリング

*この章では、遺伝について理解し、遺伝に関する病気を知り、出生前診断の意義について理解を深め、考察する。

第8章 子どもの症候

1. 発熱、2. 食欲、3. きげん、4. 嘔吐、5. 下痢、6. 脱水、7. 咳、8. 鼻汁とくしゃみ
9. けいれん

*この章では、病気として発病する前に現れる様々な症状を理解する。子どもが発病する前に呈するあらゆる症状について理解し、症状に対する注意、観察、対処法を学修する。

〔フィードバック〕

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキスト解説と学修のポイント〕

この科目「子どもの保健ⅠA」のテキストは、科目「子どもの保健ⅠB」と共通です。この科目では

テキストの第1章～第8章を使用します。

この科目では乳幼児の発育や生理など基本的な内容について学修します。子どもとかかわっていくうえで、健康保持や事故予防につながる基礎的な知識になると思います。テキストをしっかりと読み込んで学修していきましょう。

子どもの保健 I B

専門教育科目 / 2 単位 / 1 年後期開講 / テキスト授業

■ 担当教員	西田 啓子
■ 使用テキスト	テキスト：「子どもの保健」 改訂第3版 著 者：渡辺 博 編著 出 版 社：中山書店 出 版 年：2017 年
■ 参考テキスト	テキスト：「子どもの保健」 第5版 著 者：巷野悟郎 編 テキスト：診断と治療社 最新 保育保険の基礎知識 第8版改訂 著 者：巷野悟郎

講義概要・一般目標

生活環境や現代社会の養育環境の特徴を理解したうえで、子どもによくある感染症や疾患・アレルギーについて学修する。また、発達障がいについて理解を深めるとともに保育現場での専門家としてのかわりの重要性を認識する。さらに、子どもの心の問題を考えるうえで、家庭との連携や信頼関係の必要性を学修し、多様化した生活環境の中で、保育現場、家庭、地域、行政との連携が子どもの心と体の健康を守り、育てる事となるという点について理解を深めていく。そして、保育現場における事故予防、衛生管理、保護者とのコミュニケーションについて学修する。

到達目標

- ①子どもの疾患と予防について理解する
- ②事故防止と、安全対策、衛生管理、について理解する。
- ③子どもの精神保健について理解する。
- ④地域や家庭との連携の重要性について理解する。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

病院勤務経験および助産所における母子保健指導や母子看護の経験があり、実務経験に基づいた具体的な学びを目指します。

学修の進め方

第9章 感染症

1. 病原体と感染症、2. 子どもと感染症、3. 集団生活と感染症、4. 感染経路、5. 学校感染症、6. 溶連菌感染症、7. 黄色ブドウ球菌感染症、8. 百日咳、9. インフルエンザ菌 (Hib) 感染症、10. 麻疹 (はしか)、11. 風疹、12. 水痘、13. おたふくかぜ、14. かぜ症候群、15. インフルエンザ、16. RS ウィルス感染症、17. 感染性胃腸炎、18. 食中毒

*この章では、集団生活において特に注意しなければならない感染症と症状について学修する。

感染症と病原体の種類、感染経路について学び、保育現場で子どもが発症した場合の対応など、必要な衛

生管理について学修する。

第10章 予防接種

1. ワクチンとは、2. 勧奨接種のワクチンについて、3. 勧奨接種以外の（接種がのぞましい）ワクチン、4. 勧奨接種以外のワクチン（状況により接種がのぞましいもの）

*この章では、予防接種の種類と意義を理解し、集団生活における感染予防に最も有効であるとされる予防接種について学修を深める。また、予防接種における副反応について理解する。

第11章 免疫・アレルギーと健康

1. 免疫、2. アレルギー、3. アトピー性皮膚炎、4. 気管支喘息、5. 花粉症
6. 食物アレルギー、7. アナフィラキシー

*この章では、アレルギーの発生について学び、アレルギー疾患の知識と理解、緊急時の対応について学修する。特に食物アレルギーは全国で約3割の保育所において誤飲事故が報告されている。このような実態を改善するためにも、すべての保育者が共通理解を深めていくことが課題とされている。

第12章 子どもの重要な病気

1. 急性の病気
2. 慢性の病気

*この章では、主な感染症以外の乳幼児期に起こりやすい疾患について学修する。急性疾患と、慢性疾患に分けて学ぶ。集団保育中の急性疾患発症時における適切な対応と、慢性疾患をかかえつつ集団保育の中で生活を行う子どもへの配慮や対応について理解する。

第13章 子どもの心と健康

1. 発達とは、2. 発達障がい、3. 発達障がいのいろいろ、4. 虐待、5. 子どもの心を育てる、6. 子育ての中で（乳幼児）

*この章では、発達障がいとその種類を学び、保育者として十分な理解と対応を学修する。また、様々な生活環境の中で起こり得る児童虐待の現状と背景を理解し、保育者として集団保の中で可能な対応と連携について学修する。

第14章 地域との関わり

1. 母子保健対策、2. 健診、3. 保育所、幼稚園、こども園、4. 保育所・保健センター、児童相談所、5. 医療上の支援、6. 児童福祉施設

*この章では、母子保健に関する制度や母子保健サービスの目的と実践方法について理解する。また、子どもの心と身体の健康をまもるための地域保健活動について学修する。

[フィードバック]

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

[テキスト解説と学修のポイント]

この科目「子どもの保健ⅡB」のテキストは、科目「子どもの保健ⅡA」と共通です。この科目ではテキストの第9章～第14章を使用します。

「子どもの保健ⅡA」では、乳幼児の発育や生理など基本的な内容について学修してきました。それらの内容をふまえて「子ども保健ⅡB」では子どもの疾患や感染症について具体的に学び、保育者に必要な対応などを学修いたします。たくさんの疾患などが出てきますので、覚えていくことは大変かと思いますが、自分自身の経験などを振り返りつつ学修を深めていってください。

子どもの保健Ⅱ

専門教育科目／1単位／2年前期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年6月19日(土) 9:30~16:40 2日目 令和3年6月20日(日) 9:30~16:40	該 当 時間割	A
	[スクーリング受講中止届の提出について] 令和3年6月11日(金) 必着		
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス(岡山県岡山市北区岩田町2-5)		

■ 担当教員	西田 啓子
■ 使用テキスト	テキスト：これだけはおさえたい！ 保育者のための「子どもの保健」 著 者：鈴木美枝子[編著] 内山有子・田中和香菜・両角理恵[著] 出 版 社：創成社 出 版 年：2019年10月 I S B N：978-4-7944-8092-7
■ 参考テキスト	子どもの保健演習ノート 診断と治療社

講義概要・一般目標

「子どもの保健Ⅱ」では、演習形式を用いて学修する。「子どもの保健Ⅰ」では子どもの健康の保持増進、心身の発育・発達、子ども達の安全で健やかな生活についての理論を学んだ。それらの知識を実際の保育現場で実践できることを目標とし、演習を重ね習得する。具体的には、子どもに関わる際の“抱っこ”“おむつ替え”“沐浴”などの一般的な養護技術や、子どもの発育・発達の評価、子どもの健康状態の観察方法、病気やけがの救急時の看護、保育現場における保健活動および事故予防、危機管理の方法について学修する。さらに、広く子どもの保健を考えるうえで、心の健康と問題の対応法についても深く学び、「心と体」という広い視点を持って「子どもの保健」を捉えていく。また、保護者に向けて子どもの保健的な知識と技術を伝えていくことや、保護者の精神的サポートの役割も求められている。これらの事も演習を通し習得していく。そして、地域における保健活動と保育現場の関連性を学び、関係諸機関との連携方法を学修する。

到達目標

「子どもの保健Ⅱ」では、子ども理解をより深め、保育現場で実践できる保健に関する実際的な知識及び基礎的技能の習得を目標とする。

- ①子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を理解する。
- ②子どもの健康及び日常生活と安全に係る実際的な技能を習得する。
- ③子どもの疾病とその予防及び適切な対応を習得する。
- ④救急時の対応や事故防止、安全管理の方法を習得する。
- ⑤現代社会における心の健康問題や地域保健活動等を理解する。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

病院勤務経験および助産所における母子看護、保健指導の経験があり、実際に経験に基づいた、具体

的な知識やスキルの学修を目指します。

学 修 の 進 め 方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

「保育所保育指針」の「第1章 総則」、「第2章 子どもの発達」、「第3章 保育の内容」、「第5章 健康及び安全」を熟読し、「子どもの保健Ⅰ」で学修した内容を復習しておくこと。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

「子どもの保健Ⅰ」（講義）と「子どもの保健Ⅱ」（演習）を統合させ、保育現場における生命の保持、健康、安全等の保健活動についての保育所実習の課題目標をあげ、それをレポートできる。

〔フィードバック〕

スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行ないます。

【テキスト内容と学修のポイント】

子どもの保健の演習について

保育者に必要な子どもの保健に関する演習

「子どもの保健Ⅱ」は「子どもの保健Ⅰ」で学修した知識を実践できるように演習をする。

子どもの発育・発達の観察と評価、子どもの健康観察と評価、子どもの養護と教育、体調不良の子どもへの適切な対応、保育における応急手当、望ましい保育環境と安全対策、関係諸機関との連携方法などについて習得する。

演習を行う際の心構え

*この章では、演習を行う際にもそのまま園での子どもに接することができる状態で臨むこと、人形を用いて演習する際にも、実際に子どもと接することを想像しながら行うといった心構えを持つこと。自分の感染症の罹患歴および予防接種歴の確認をしておくこと。

子どもの発育・発達の観察と評価

計測方法 1) 体重 2) 身長 3) 胸囲 4) 頭囲 5) 座高

発育の評価 1) 乳幼児身体発育値 2) 肥満度と身体体重曲線 3) カウプ指数

発達の評価 1) 知能検査 2) 発達検査

*この章では、定期的に行われる子どもの測定方法について、体重、身長、胸囲、頭囲の計測がスムーズに行われるよう乳児・幼児の計測法を修得する。計測を嫌がる子供たちもいるため、様々なケースを想定して実習を行う。また、その測定値を基に評価する方法や、それを、保護者に伝える方法等についても修得する。

子どもの健康観察と健康管理

1. 子ども日常の保育における健康観察

1) 子どもの健康状態を把握するポイント

2) バイタルサインの測定方法…体温、脈拍、呼吸の測定方法

2. 健康診断

1) 健康診断の準備 2) 健康診断の方法

3) 健康診断票の書き方 4) 健康診断終了後の業務

3. 子どもの保健情報の管理と利用

*健康診断結果を日頃の保育に活用していく方法を学ぶ。それぞれの子どもの健康状態をどのように職員が共有していくのかを習得する。個人情報としての適切な管理方法を学修する。

子どもの養護と教育

1. 子どもの具体的な養護の方法

1) だっこ 2) おんぶ 3) おむつ 4) 衣類 5) 沐浴・シャワー浴・清拭

6) 調乳と授乳、離乳食の与え方 7) 手洗い・うがい 8) 歯磨き 9) 爪切り

10) 耳・鼻のケア 11) スキンケア（日焼け止め、紫外線対策）

2. 子どもの生活習慣への援助と教育

1) 子どもの睡眠 2) 子どもの排泄 3) 子どもの食習慣と食育 4) 外気浴・外遊び・散歩

5) 日常保育でのこころがけ

*この章では、生命保持と情緒安定を図る日常的な養護こそ、大変重要であることを学ぶ。発育に応じた適切なだっこや、おむつなどの養護技術を的確に行うことが子どもたちに安心感を与え、信頼関係を築くために重要である学修する。養護と教育を一体化させた質の高い保育をするための方法を学ぶ。

子どもの体調不良などへの対応

子どもの主な症状への対応

- 1) 発熱
- 2) 下痢
- 3) 嘔吐
- 4) 咳
- 5) 発疹
- 6) 腹痛
- 7) けいれん
- 8) 脱水
- 9) 頭痛
- 10) 鼻汁・鼻閉

感染症の予防と対策

1) 感染経路 2) 保育者が知っておきたい感染症 (①第一種感染症—急性灰白髄炎(ポリオ)、ジフテリア ②第二種感染症—インフルエンザ、百日咳、麻疹(はしか)、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)、風疹(三日ばしか)、水痘(みずぼうそう)、咽頭結膜炎(プール熱)、結核 ③第三種感染症—腸管出血性大腸菌感染症 3) 予防接種

子どもと薬

- 1) 保育所での薬の扱い方
- 2) 薬の与え方

個別の配慮を必要とする子どもへの対応

1) アレルギー疾患児への対応—食物アレルギー、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、 2) 慢性疾患児への対応—腎臓疾患(ネフローゼ症候群)、心疾患(心室中隔欠損症)、免疫系疾患(川崎病)、脳神経系疾患(てんかん)、 3) 先天異常をもつ子どもへの対応—ダウン症候群、口唇裂・口蓋裂、先天性内反足、先天性股関節脱臼、 4) 発達障害児への対応—広汎性発達障害、注意欠陥/多動性障害、学習障害、 5) その他の障害のある子どもへの対応—視覚障害児、肢体不自由児、 6) 障害がある子どもへの支援、 7) 虐待が疑われる子どもへの対応

*この章では、子どもは、免疫機能が未熟なため、感染症にかかりやすく急変しやすい。集団生活を考慮した体調不良時(感染症)の対応や、予防接種について学ぶ。子ども一人一人の状態を的確に把握し、心の問題をふくめ個別の配慮を必要とする子どもへの対応について学ぶ。

保育における応急手当

応急手当(①切った、擦った、刺した ②ぶつけた・打った ③かまれた・ひっかかれた ④骨折した、捻挫した ⑤口の中のケガ ⑥鼻出血 ⑦目のケガ ⑧虫刺され ⑨やけど ⑩誤飲・誤嚥)

包帯法

一次救命処置 1) 心肺蘇生法の手順 2) 気道異物の除去 3) AED(自動体外式除細動器)の使い方

*この章では、園生活の中で起こりやすいケガ等に対処できるように、応急手当、一次救命処置法について技術を修得する。

望ましい保育環境と安全対策

屋内の保育環境

- 1) 室内環境
- 2) 衛生管理
- 3) 安全管理

屋外の保育環境

- 1) 園庭
- 2) 外出時に気を付けること
- 3) プールの衛生・安全管理

災害への対策と危機管理

- 1) 避難訓練
- 2) 不審者訓練

*この章では、保育環境を整える、避難訓練、不審者訓練とともに子どもたちの安全を守るための対策を学ぶ。

子どものからだの健康づくりのために

1. 子どもの保健活動の年間スケジュール
 - 1) 保健計画とは
 - 2) 保健計画の作成
 - 3) 保健計画の活用と活動の記録
2. 保護者への健康教育と支援
 - 1) 「保健だより」の作成
 - 2) 保護者懇談会
 - 3) 外国籍の保護者への配慮

3. 保育における連携の必要性
- 1) 職員間の連携
 - 2) 各関係機関や地域との連携
 - 3) 子どもたちのためにできること

*この章では、保育現場での保健活動の年間計画、保護者に対して健康教育や支援について学ぶ。また、各関係機関との連携について学修する。子どもたちの健康と安全を守るために保育者として何ができるのか、ということを中心に念頭におき実践できるようにする。

学修指導

1 日 目	講義1	モデル人形を用いた演習で、実際に子どもと接する心構えを認識できる。子どもの発育発達の観察と評価（身体計測方法、発育評価、発達の評価）を行う。
	講義2	子どもの健康観察と健康管理（日常の保育における健康観察、健康診断、子どもの健康情報の管理と利用方法）
	講義3	子どもの体調不良などへの対応、保育における応急手当、一次救命処置法。
	講義4	「子どもの保健」演習用DVD
2 日 目	講義5（技術演習）	子どもの養育と教育 ①観察 ②沐浴、衣服の着脱とオムツの当て方。
	講義6（技術演習）	③身体計測と評価 ④バイタルサイン測定 ⑤乳幼児の抱き方と哺乳
	講義7	望ましい保育環境と安全対策、健康づくり（年間計画、関係機関等との連携）
	講義8	学修のふり返し。 科目単位認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

- 1) 学修の手引「子どもの保健（2019以降入学生科目）」または、「子どもの保健ⅠA（2012～2018入学生科目）」、「子どもの保健ⅠB（2012～2018入学生科目）」の講義概要や学習指導内容を参考に、テキスト「これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健」等で小児の保健について予習しておいてください。
- 2) 可能であれば自分の母子健康手帳等により、予防接種歴や感染症の既往歴を記入し当日持参してください。

〔準備するもの〕

- 1) 指定のテキスト「これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健」を持参して下さい。
- 2) 2日目の乳児沐浴の実習時には、「エプロン」を持参してください。
- 3) 髪の毛が長い方は、髪を束ねるゴムを二本ご持参ください。

〔その他〕

- 1) 1日目と2日目の午後は講義および演習を行います。2日目の午前中は実習をしますので、動きやすい服装・靴を着用してください。
- 2) 講義用の資料は、当日配付します。

乳児保育 I

専門教育科目 / 1 単位 / 2 年前期開講 / テキスト授業

■ 担当教員	加藤 寿美子
■ 使用テキスト	テキスト：乳児保育[新版] 新保育ライブラリ 著 者：増田まゆみ編著 出 版 社：北大路書房 出 版 年：2017 年 2 月 20 日 I S B N：978-4-7628-2843-0
■ 参考テキスト	「保育所保育指針解説書」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

講義概要・一般目標

今ほど、保育・幼児教育を囲む制度や社会・政治の情勢が激変しつつある時期はなく、まさに確かな方向性を持った提言と指針が求められているからです。保育の重要性の認識は広がってきており、養成を通して力量のある保育者を送り出すことが必要であり、また現職の方々の研修に力を注ぐようになりました。

何より、保育・幼児教育の公共的使命が明確になってきました。もはや保育所は子どもを預かってくれさえすればよいなどと誰も言わないでしょう。また幼稚園は子どもが楽しく過ごしていればよいので、教育は小学校から始まるとも言わなくなりました。

そこにおいて特に大きく寄与したのは、保育士の国家資格化と保育所保育指針の告示化です。保育士・保育所の仕事についての社会的な認知が進んだことの表れです。またそれを通して、幼稚園教諭と幼稚園に対して保育士と保育園が対等に位置づけられたことも見逃せません。

保育所保育指針において保育所の保育は養護と教育を一体的に進めるものとして定義されています。今後、幼児教育の施設は幼稚園と保育所の双方が該当することになりました。

児童福祉法も保育所保育を支える方向で改正され、さらに次世代育成支援計画の策定が地域に義務づけられる中で保育所の児童福祉に占める位置が大きなものとなりました。

保育士の業務として子どもを保育することと共に、家庭への支援が含められたことも大きな意味があり、それが保育所保育指針での保護者視点の詳細化につながり、並行して、幼稚園教育要領でも保護者との連携や子育て支援が明確に記されました。子育て支援が幼保双方に大きな課題となっているのです。

以上のことから、保育士の仕事は広がりつつ、さらなる質の高さを求められるようになっていきます。

到達目標

子どもの発達理解・子どもや保護者への援助のあり方、子どもの生命の尊さ、命を育むことの意義を学び温かな人間性と諸科学の理論に裏づけられた保育実践力を身につけることを到達目標とする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

岡山市立鹿田保育所・社会福祉法人双葉会ひかり保育園に25年間勤務し、その内2年間園長を経験。その後、順正短期大学へ常勤として15年間勤務。岡山県知事より岡山県保育所巡回指導員として任命され5年間指導を行い、現在吉備国際大学非常勤として勤務。乳幼児保育に関わってきた実務経験を活かし、実践的な内容を反映する添削課題を作成し対応する。

学修の進め方

- まず教科書の熟読をしてください。
- 新聞テレビ等常に新しい情報を得てください。
- フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

学修指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

序章 子どもが心身ともに豊かに育つとは—保育者(大人)との相互作用のなかで

- 1節 生命の重み
- 2節 心身ともに健やかに育つ

第1章 乳児保育の意義と基本

- 1節 乳児保育の意義
- 2節 乳児保育の基本

第2章 子どもの育ち—子ども理解に基づいた保育をするために

- 1節 発達とは
- 2節 乳幼児の発達
- 3節 乳幼児の生活
- 4節 配慮を要する子ども

第3章 子どもの生活と遊び—保育所での1日の生活を心地よく

- 1節 0歳児クラス・デイリープログラム
- 2節 1歳児クラス・デイリープログラム
- 3節 2歳児クラス・デイリープログラム

第4章 乳児保育と保健衛生および安全

- 1節 集団保育と保健
- 2節 生活と健康
- 3節 集団保育と安全
- 4節 地域の関係機関との連携

第5章 子どもの食事

- 1節 子どもの育ちと食事
- 2節 0～3歳ごろまでの食の悩みと考え方
- 3節 職員とも協力体制・家庭との連携

第6章 保育の計画と記録

- 1節 乳児保育を支える保育の計画
- 2節 保育課程の編成と指導計画の作成の基本
- 3節 次の保育に生かす記録

第7章 家庭・地域との連携

- 1節 保護者・家庭とのパートナーシップによる保育
- 2節 地域との連携—子育て支援

第8章 乳児保育の今後の課題

- 1節 子育て環境の変化と乳児保育
- 2節 多様な保育ニーズに応え得る保育所職員の人間性・専門性
- 3節 子どもにやさしい家庭・保育所・地域になるために

乳児保育Ⅱ

専門教育科目／1単位／2年後期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年12月18日(土) 9:30~16:40 2日目 令和3年12月19日(日) 9:30~16:40	該 当 時間割	A
	〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年12月10日(金) 必着		
会 場	吉備国際大学 高梁キャンパス 10号館(岡山県高梁市伊賀町8)		

■ 担当教員	加藤 寿美子
■ 使用テキスト	テキスト：保育とカリキュラム(12月号) 出 版 社：ひかりのくに出版
■ 参考テキスト	「保育所保育指針解説書」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

講義概要・一般目標

人間は、一生涯、発達し続ける。そのなかで、とくに乳幼児期は、一生のうちで最も発達が著しい時期だといわれている。子どもは、個人差はあるものの、みずから成長していく力を持ち、さまざまな可能性を秘めているのである。子どもの発達理解をする。

到達目標

指導計画の作成・・・保育課程に基づいて、保育方針や保育目標を具体化する実践計画である。具体的なねらいと内容、環境構成・予想される乳幼児の活動・保育士の援助等見通しをもって作成できることを到達目標とする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

担当する授業科目に関連した実務経験

岡山市立鹿田保育所・社会福祉法人双葉会ひかり保育園に25年間勤務し、その内2年間園長を経験。その後、順正短期大学へ常勤として15年間勤務。岡山県知事より岡山県保育所巡回指導員として任命され5年間指導を行い、現在吉備国際大学非常勤として勤務。乳幼児保育に関わってきた実務経験を活かし、実践的な内容を反映する講義を行う。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

保育実習(乳児保育)に向けて指導案を立案するに当たり、保育指針を良く理解する。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

子どもの姿(発達)をよく見、何に興味・関心を持っているか又発達に合った遊びを考える

〔フィードバック〕

スクーリング最終時限で講義(授業)全体に対するフィードバックを行ないます。

学 修 指 導

1 日 目	講義 1. 保育指針・デイリープログラム
	講義 2. 0歳児のこどもの姿・養護的ねらい・教育的ねらい
	講義 3. 0歳児の指導案の立案
	講義 4. 1歳児のこどもの姿・養護的ねらい・教育的ねらい
2 日 目	講義 5. 1歳児の指導案をグループで話し合い立案・ふれあい遊び
	講義 6. 2歳児のこどもの姿・養護的ねらい・教育的ねらい
	講義 7. 2歳児の指導案を立案
	講義 8. 乳児保育の部分指導案を立案 科目単位認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

0・1・2歳児の12月のあそびについて

〔準備するもの〕

・『月刊 保育とカリキュラム 2021年12月号』 ひかりのくに出版 (12月2日発売)
※スクーリング初日にスクーリング会場にて、紀伊國屋書店が販売します。

・保育指針

〔その他〕

特になし

特別活動の理論と方法（初等教育）

専門教育科目／2単位／2年後期開講／テキスト授業

■ 担当教員	川上 はる江
■ 使用テキスト	テキスト：よりよい人間関係を築く特別活動 著者：杉田 洋 出版社：図書文化 出版年：2015年4月 ISBN：978-4-8100-9546-3
	テキスト：小学校学習指導要領解説 特別活動編 新版 著者：文部科学省 出版社：東洋館出版社 出版年：2018年
■ 参考テキスト	テキスト：楽しく豊かな学級・学校を作る特別活動 小学校編 著者：国立教育政策研究所教育課程研究センター 出版社：文溪堂 出版年：2016年2月 ISBN：978-4-7999-0098-7

講義概要・一般目標

この授業では、（1）なぜ今特別活動なのか、特別活動の歴史、改善点、目標、意義（2）学校が抱える問題（3）特別活動で人間関係をどう築くか（4）特別活動を構成する学級活動、児童会活動、学校行事、クラブ活動（5）特別活動今後の課題について学修する。

到達目標

到達目標

1. 目標および教育の方法原理の面から、特別活動に固有の特徴（人間関係形成、社会参画、自己実現）を把握する。
2. 学級活動、児童会活動、学校行事、クラブ活動のそれぞれについて、特徴や意義を認識する。
3. 学級活動の学習指導案を作成し、指導法を理解する。

評価方法

科目単位認定試験により評価する。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムを使用して実施する。

担当する授業科目に関連した実務経験

小学校教員の実務経験があり、スクーリング（教育実習指導）の模擬授業で授業構成の仕方、指導方法を講義する。そして添削課題にその内容は反映させる。

学修の進め方

1. 添削課題出題の意図及び課題の進め方

添削課題は、テキストと「学習指導要領解説 特別活動編」から出している。添削課題には、特別活動を理解する上で基礎となる知識や考え方を問う問題と記述式問題を出題している。教科書を丸写しにするのではなく、自分の言葉に咀嚼して書く。読みやすいテキストなのでまず通して読むことを進める。

2. 添削課題をまとめるにあたっての留意点

課題をもらって「問題を見ながら答えが書いてあるページを探す」方法は、理解も深まらず記憶にも残らない。概略も掴めていないので、配点の多い記述問題（レポート）の部分が解けない。過去の解答を見ると、長文が書いてあってもはずれの箇所を基に記述してあったり、完全に自分の意見であったりする場合が多いので減点となっている。テキストの要旨を基に自分の言葉で簡潔にまとめること。

3. 効果的な学修の方法

テキストは「学習指導要領解説 特別活動編」と関連付けながら読み進めると効果的である。まず、テキストを一読し概略を掴む。次に各章を丁寧に読みながら、学習指導要領で確認する。そして、要点を整理しながらノートにまとめる。学習指導要領解説、特別活動編は熟読しておくこと。

4. フィードバックについて

フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返す。

学 修 指 導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

1. 特別活動の特質と教育的意義

特別活動の目標、意義は、学習指導要領解説の第1章、第2章に明示されている。具体的には、望ましい集団活動や体験的な活動を通して、実際の社会で生きて働く社会性を身につけるなど、児童生徒の人間形成を図るとともに、社会で生きて働く際に必要な資質能力を育てることを意図している。テキストの第1章(なぜ、今特別活動なのか)、および「小学校学習指導要領解説・特別活動編」を熟読のこと。

2. 学校が抱える問題

日本の学校や教師のレベルは高いが、社会の信頼を得られにくいという現状がある。集団力の低下は学校の一つの課題である。社会の変化によって集団性が低くなったこと、児童を取り巻く環境の変化もあり自己中心的な児童が増えたことなどが原因として考えられる。集団力の低くなっている現状と現状を打破するための特別活動の果たす役割、「集団力を育て、個を育てる」方法について学修する。テキストの第3章、及び小学校学習指導要領解説・特別活動編を熟読のこと。

3. 特別活動で人間関係をどう築くか

特別活動で人間関係形成能力を育てるためには、学級集団が、いまどの段階にあるのかを見極め、その段階に応じた指導を行うことが重要である。さらに人間関係を形成する過程でのグループの作り方、意図的に人間関係形成能力を鍛える方法などを発達段階に応じて実施することである。人間関係形成能力は適切な集団活動の中でしか形成されない。テキストの第4章、及び小学校学習指導要領解説・特別活動編 第2節」を熟読のこと。

4. 特別活動の内容：学級活動、児童会活動、学校行事、クラブ活動

特別活動の教育課程における位置付けや名称及び内容については、学習指導要領が改訂されるたびに、変遷を経ている。現教育課程では、小学校の場合、学級活動、児童会活動、学校行事、クラブ活動で構成される。中学校の特別活動は学級活動、生徒会活動、学校行事である。この授業では小学校に照準を合わせ、前記4種の活動のそれぞれについて、その目標や活動内容、指導計画などの理解を深める。「小学校学習指導要領解説・特別活動編」とテキストの第5章、第6章、第7章(特別活動の内容)とを参照。

5. 学校が抱える課題と特別活動の役割

現代の子どもたちは、豊かで便利な社会に生まれ育ち、恵まれた幸せな生活を享受しているかに見える。しかし、氾濫する多様な情報に流され、人間としての大切な生きる力を身につけず大人になろうとしている。指導に当たっては、特段の配慮が教師に求められる。自己指導能力の育成という観点から、①人間関係形成能力を身につけること、②社会参画意識を育成すること、③自己実現の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること、などが強調される所以である。テキストの第8章、第9章「小学校学習指導要領解説・特別活動編」を参照。(なお、テキストの内容の一部は平成20年改訂のものである)

相談援助

専門教育科目／1単位／3年前期開講／スクーリング授業

日 時	1日目 令和3年7月31日(土) 9:30~16:40 2日目 令和3年8月1日(日) 9:30~16:40	該 当 時 間 割	A
	[スクーリング受講中止届の提出について] 令和3年7月23日(金) 必着		
会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス(岡山県岡山市北区岩田町2-5)		

■ 担当教員	中野 明子
■ 使用テキスト	毎回の授業ごとに、講義やワークに必要なレジュメを配布する。
■ 参考テキスト	テキスト:「相談援助・保育相談支援」 著 者:笠師千恵・小橋明子 出 版 社:中山書店 出 版 年:2014年 I S B N:978-4-521-73956-4
	テキスト:「対人援助のためのグループワーク」 著 者:福山清蔵 出 版 社:誠信書房 出 版 年:2011年 I S B N:978-4-414-61008-6

講義概要・一般目標

この授業は援助者としての資質を養成し、援助能力を向上させることを目的としている。クライアントとの信頼関係を形成し、援助的なコミュニケーションを通して共感的かつ正確に問題を理解し、望ましい問題解決の方向へクライアントを導ける技術を身につけることが肝要である。援助者として望ましい倫理観や価値観を学び、傾聴や受容・共感的なスタンスを身につけ、社会資源の知識を学び、アセスメントやエンパワーメント、グループの活用、記録作成などの技術を学修する必要がある。

到達目標

この科目では、保育士や教師に求められる援助者としての基本的な考え方や態度、言動を身につけることができる。講義のみならずグループワークやエクササイズ、ロールプレイ、事例研究などの様々な体験学習を通して、子どもや子育て家庭における状況や状態のアセスメント、プランニングを学び、実践的な援助のあり方を身につける練習をする。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

学修の進め方

[スクーリングまでの事前学修事項]

参考テキストなどのような保育分野における「相談援助」に関わる文献を読んでおいてください。

それによってスクーリングでの学習が一層理解できます。また、自分の援助姿勢や事例なども少し整理しておいてください。

[スクーリング終了後の学修事項]

スクーリングは体験学習が多く入りますので、体験した内容は復習することによって、自分の知識にしていくことができます。また、復習することが、自分の援助者としての課題を明確にし、援助能力を高め、援助スキルを身につけることにつながります。

[学修のポイント]

スクーリングでは以下のようなテーマについて学修する予定です。

1. 「相談援助」では何を学ぶのか
2. ソーシャルワークという援助方法
3. 自分の価値観やコミュニケーションの傾向を知る
4. グループワークの方法
5. 他者理解の方法
6. アセスメントとそのツールの使い方
7. 援助者としての態度やスキル
8. 施設や機関における援助
9. 事例のエクササイズ（クライアント理解）
10. 事例のエクササイズ（援助者のスタンスとスキル）
11. 児童虐待の理解と被虐待時への支援
12. 逐語記録によるクライアント理解
13. 援助者としての表現の分析
14. 子どもの不適応行動の理解と支援
15. 相談援助についてのふりかえり
16. 科目単位認定試験

[フィードバック]

スクーリング最終時間で講義（授業）全体に対するフィードバックを行いません。

学 修 指 導

1 日 目	講義1：援助者になるためにはどうしたらいいのか？
	講義2：グループワークによる援助者としての自己理解
	講義3：ソーシャルワークの基礎知識
	講義4：ソーシャルワークのツールを知る
2 日 目	講義5：児童虐待の理解と被虐待児への支援
	講義6：面接記録の分析
	講義7：援助者としての表現を探る
	講義8：子どもの不適応行動の理解と支援 科目単位認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

[事前課題]

「相談援助」とはどのような教科なのか、少し考えてきてください。

[準備するもの]

動きやすい服装で参加してください。

[その他] 特になし

保育相談支援

専門教育科目／1単位／3年後期開講／スクーリング授業

岡山	日 時	1日目 令和3年11月13日(土) 9:30~16:40 2日目 令和3年11月14日(日) 9:30~16:40 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年11月5日(金) 必着	該 当 時間割	A
	会 場	吉備国際大学 岡山駅前キャンパス(岡山県岡山市北区岩田町2-5)		
広島	日 時	1日目 令和3年11月27日(土) 9:00~16:10 2日目 令和3年11月28日(日) 9:00~16:10 〔スクーリング受講中止届の提出について〕 令和3年11月19日(金) 必着	該 当 時間割	C
	会 場	広島アニマルケア専門学校／並木学院高等学校(広島県広島市中区小町)		

■ 担当教員	中野 明子
■ 使用テキスト	毎回の授業ごとに、講義やワークに必要なレジュメを配布する。
■ 参考テキスト	テキスト：「保育相談支援」 著 者：柏女霊峰・橋本真紀編著 出 版 社：ミネルヴァ書房 出 版 年：2011年 I S B N：978-4-623-05975-1
	テキスト：「相談援助、保育相談支援」 著 者：笠師千恵・小橋明子 出 版 社：中山書店 出 版 年：2014年 I S B N：978-4-521-73956-4

講義概要・一般目標

この授業では、保護者支援の方法について学ぶ。保育現場での保護者の抱える問題について理解し、対人援助技術であるカウンセリングやソーシャルワークの方法を学ぶ。援助者としてのコミュニケーション能力を身につけることが肝要である。面接を通して共感的かつ客観的に理解すること、信頼関係を通してクライアントを支持しながら問題解決に導いていくプロセスを知ることが大切である。事例解釈やグループワーク、エクササイズ、ロールプレイなどを用いて、対人援助技術を身につけていく。

到達目標

この科目では、子育て、子育て支援としてのカウンセリングとソーシャルワークの基礎知識を理解し、援助のための基本姿勢や実践方法を養うことができる。到達目標は、保護者面接に必要な価値観や知識、技術を身につけることである。スクーリングでは、講義の他に事例研究やエクササイズ、ロールプレイなどを用意している。体験を通して学ぶこと、身につけることを重視している。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

オフィスアワー(学生の問い合わせ・相談に応じる時間)

Web学修支援システムおよびスクーリング終了後の時間に実施します。

学修の進め方

〔スクーリングまでの事前学修事項〕

参考テキストのような保育相談支援に関わる文献を読んでおくと、スクーリングでの体験がより一層自分のものになります。ぜひ何か読んでください。この授業では特に親面接について学ぶことが多くなりますので、親の抱える問題やどのような相談援助が望ましいのか考えてみてください。

〔スクーリング終了後の学修事項〕

スクーリングでは体験学習が多くなりますので、もう一度体験した内容や気づいたこと、指摘されたことをふりかえり、再検討してみてください。このことが自分の援助能力を高めることに貢献します。

〔学修のポイント〕

スクーリングでは以下のようなテーマについて学修する予定です。

1. 「保育相談支援」とは
2. 子どもと家庭の課題と問題
3. ソーシャルワークの援助
4. カウンセリングの援助
5. 保護者相談の方法
6. 施設における保護者への支援
7. 子どもの不適応行動
8. 育児不安の心理
9. 良好な面接と不適切な面接
10. 親面接の事例（情報の収集と問題の理解）
11. 親面接の事例（援助者の姿勢とスキル）
12. 親面接の事例（難しい保護者への対応）
13. 相談のロールプレイ（自分の傾向や課題を理解する）
14. 相談のロールプレイ（クライアントを理解する）
15. 相談のロールプレイ（援助者としてのスキルを練習する）
16. 科目単位認定試験

〔フィードバック〕

スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行ないます。

学修指導

1 日 目	講義 1 保育相談支援とは
	講義 2 保育相談支援の事例研究
	講義 3 育児不安の心理
	講義 4 子どもの不適応行動の理解
2 日 目	講義 5 援助者による対応の比較研究
	講義 6 親面接の方法
	講義 7 親面接の事例研究
	講義 8 相談ロールプレイ 科目単位認定試験

スクーリング事前課題・準備物等

〔事前課題〕

保育相談支援とはどのようなことなのか、事前学修をしてきてください。

〔準備するもの〕

動きやすい服装で参加してください。

〔その他〕 特になし。